

椎田バイパス関係 埋蔵文化財調査報告

— 7 —

上 卷

山崎遺跡 (I)

付 石町遺跡

福岡県築上郡椎田町所在縄文遺跡の調査

1 9 9 2

福岡県教育委員会

椎田バイパス関係 埋蔵文化財調査報告

— 7 —

上 卷

山崎遺跡 (I)

付 石町遺跡

福岡県築上郡椎田町所在縄文遺跡の調査



山崎遺跡と岩丸川沿いの平野



1 山崎遺跡 2号住居跡



2 山崎遺跡 7号住居跡



1 山崎遺跡出土縄文土器

(7号住居跡)



2 山崎・石町遺跡の土偶



(1号住居跡)



石町遺跡出土縄文土器

(2号住居跡)

序

福岡県教育委員会は、日本道路公団の委託を受けて、一般国道10号線椎田バイパス建設予定地内に所在する埋蔵文化財の発掘調査を昭和61年度以降実施してまいりました。

本書は、昭和61年度に発掘調査を行った築上郡椎田町に所在する山崎遺跡、尾久保屋敷遺跡、寺尾遺跡についての調査結果を「椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告」の第7集として取りまとめたものであります。

発掘調査の報告としては、満足のいくものではありませんが、本書が埋蔵文化財に対する認識と理解、文化財愛護思想の普及、さらには学術研究における活用の一助になれば幸いです。

なお、発掘調査にあたり数々のご協力を頂いた日本道路公団、椎田町教育委員会をはじめ関係各位に、心から感謝申し上げます。

平成4年3月31日

福岡県教育委員会

教育長 御手洗 康

例 言

1. 本書は、福岡県教育委員会が日本道路公団から委託を受けて、昭和61年度に発掘調査を行った築上郡椎田町に所在する山崎遺跡、尾久保屋敷遺跡、日奈古・寺尾遺跡についての調査結果を「椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告」の第7集として取りまとめたものである。
2. 山崎遺跡と関連する石町遺跡の資料を併せて収録したが、椎田町教育委員会および調査担当の県文化課の高橋章氏より提供を受けた。
3. 遺物整理作業は、九州歴史資料館及び県文化課太宰府事務所において実施したが、土器の接合・復原作業は岩瀬正信氏の指導のもとに行い、鉄器の保存処理は同館参事補佐横田義章氏にお願いした。
4. 出土灰の灰像法分析は東京大学総合資料館の松谷暁子研究員に、出土植物種子は名古屋大学文学部の渡辺誠教授に、それぞれ分析を依頼し、分析結果の玉稿を頂いた。
5. 遺構の写真撮影は調査担当者がこれを行い、遺物の写真撮影には九州歴史資料館技術主査の石丸洋氏の協力を得た。
6. 出土遺物の実測のうち、須恵器・土師器について福島育子氏・原富子氏の助力を得た。
7. 挿図製図には豊福弥生氏の助力を得た。
8. 挿図に使用した方位のうち、地図は真北、Ⅴを除いた遺構図はすべて座標北である。
9. 本書の執筆は、Ⅲ-3-1を松谷暁子、Ⅲ-3-2を渡辺誠、Ⅴを柳田康雄が執筆し、他は小池史哲が執筆した。
10. 本書の編集には小池があたった。

本文目次

〈上巻〉

I	調査組織と調査経過	1
II	遺跡の位置と環境	7
III	山崎遺跡	13
1	はじめに	13
2	縄文時代遺構と遺物	18
1	住居跡	18
2	甕棺墓	112
3	その他の遺構と遺物	115
4	石町遺跡の遺構と遺物	152
3	自然科学系の分析	213
1	山崎遺跡出土試料の灰像分析および炭化材の樹種について	213
2	大型植物遺体	219
4	小結	223

〈下巻〉

III	山崎遺跡(II)	1
5	古墳時代以降の遺構と遺物	1
1	住居跡	1
2	竪穴	25
3	掘立柱建物	26
4	土壙	38
5	溝状遺構	49
6	その他の遺構と遺物	52

7	石町遺跡の遺構と遺物	57
6	おわりに	65
IV	尾久保屋敷遺跡	67
1	はじめに	67
2	遺構と遺物	68
(1)	住居跡	68
(2)	溝状遺構	70
(3)	柱穴状ピット	71
(4)	その他の遺物	71
3	おわりに	72
V	日奈古・寺尾遺跡	73
1	調査の経過	73
2	遺跡の位置と環境	73
3	北区の遺構と遺物	75
(1)	住居跡	76
(2)	不整形土壌	81
(3)	その他の遺構と遺物	83
4	南区の遺構と遺物	84
(1)	不整形土壌と長方形土壌	84
(2)	溝状遺構	91
5	小結	93

図 版 目 次

〈上巻〉

巻頭図版 1	山崎遺跡と岩丸川沿いの平野	
巻頭図版 2	(1) 山崎遺跡 2号住居跡	
	(2) 山崎遺跡 7号住居跡	
巻頭図版 3	(1) 山崎遺跡出土縄文土器	
	(2) 山崎・石町遺跡の土偶	
巻頭図版 4	石町遺跡出土縄文土器	
図 版 1	山崎遺跡周辺航空写真	本文対照頁
図 版 2	(1) 山崎遺跡と岩丸川扇状地	13
	(2) 山崎遺跡空中写真	13
図 版 3	(1) 山崎遺跡北端調査区	18
	(2) 北端調査区柱穴状ピット	18
	(3) 調査区北部の遺構検出	18
図 版 4	(1) 1号住居跡	19
	(2) 1号住居跡石囲炉	19
図 版 5	1号住居跡出土土器・石器	19
図 版 6	1号住居跡出土石器・土製品	22
図 版 7	(1) 2～5号住居跡	24
	(2) 2号住居跡	24
図 版 8	(1) 2号住居跡土器炉	24
	(2) 2号住居跡炉埋設土器	24
	(3) 2号住居跡遺物出土状況 1	24
図 版 9	(1) 2号住居跡遺物出土状況 2	24
	(2) 2号住居跡遺物出土状況 3	24
	(3) 2号住居跡遺物出土状況 4	24
	(4) 2号住居跡遺物出土状況 5	24
図 版 10	2号住居跡出土土器 1	25
図 版 11	2号住居跡出土土器 2	25
図 版 12	2号住居跡出土土器 3	25
図 版 13	2号住居跡出土土器 4	25
図 版 14	2号住居跡出土土器 5	25

図版 15	2号住居跡出土土器 6	25
図版 16	2号住居跡出土土器 1	46
図版 17	2号住居跡出土土器 2	46
図版 18	2号住居跡出土土器・土製品	46
図版 19 (1)	3号住居跡	52
	(2) 3号住居跡石囲炉	52
	(3) 3号住居跡遺物出土状況	52
図版 20	3号住居跡炉跡の切り取り保存	52
図版 21	3号住居跡出土土器 1	53
図版 22	3号住居跡出土土器 2	53
図版 23	3号住居跡出土土器・土製品	55
図版 24 (1)	4号住居跡	61
	(2) 4号住居跡炉抜き跡	61
	(3) 4号住居跡遺物出土状況	61
図版 25	4号住居跡出土土器 1	61
図版 26	4号住居跡出土土器 2・石器	61
図版 27 (1)	4号住居跡出土土器・土製品	62
	(2) 5号住居跡出土土器・石器	69
図版 28 (1)	6号住居跡	71
	(2) 6号住居跡土偶出土状況	71
図版 29	6号住居跡出土土器 1	71
図版 30	6号住居跡出土土器 2	71
図版 31	6号住居跡出土土器 3・石器	79
図版 32	6号住居跡出土土器・土製品	79
図版 33 (1)	7号住居跡	86
	(2) 7号住居跡石囲炉	86
図版 34	7号住居跡出土土器 1	86
図版 35	7号住居跡出土土器 2	86
図版 36	7号住居跡出土土器 3	86
図版 37	7号住居跡出土土器 4	86
図版 38	7号住居跡出土土器 5	86
図版 39	7号住居跡出土土器 6	86
図版 40	7号住居跡出土土器 7	86
図版 41	7号住居跡出土土器・石器・土製品	86

図	版	42	(1)	1号甕棺墓	112
			(2)	2号甕棺墓	113
図	版	43	(1)	3号甕棺墓	114
			(2)	1～3号甕棺使用土器	112
図	版	44		包含層出土土器1	115
図	版	45		包含層出土土器2	115
図	版	46		包含層出土土器3	115
図	版	47		包含層出土土器4	115
図	版	48	(1)	包含層出土石器	115
			(2)	縄文時代包含層の調査風景	115
			(3)	指導委員の視察	115
図	版	49	(1)	石町遺跡調査区全景	152
			(2)	石町1・2号住居跡	152
図	版	50	(1)	石町1号住居跡土器炉	152
			(2)	石町3号住居跡	194
図	版	51	(1)	石町4号住居跡	196
			(2)	石町石囲炉	200
			(3)	石町土偶出土状況	202
図	版	52		石町1号住居跡出土土器1	152
図	版	53		石町1号住居跡出土土器2	152
図	版	54		石町2号住居跡出土土器1	161
図	版	55		石町2号住居跡出土土器2	161
図	版	56		石町2号住居跡出土土器3	161
図	版	57		石町2号住居跡出土土器4	161
図	版	58		石町2号住居跡出土土器5	161
図	版	59		石町2号住居跡出土土器6	161
図	版	60		石町2号住居跡出土土器7	161
図	版	61		石町2号住居跡出土土器8	161
図	版	62		石町2号住居跡出土土器9	161
図	版	63		石町2号住居跡出土土器10・上層出土土器1	178
図	版	64		石町2号住居跡上層出土土器2	178
図	版	65		石町4号住居跡出土土器	196
図	版	66		石町2・3号住居跡他出土土器, 土製円板	196
図	版	67		石町1・2号住居跡出土石器	160

図 版 68	石町2・4号住居跡出土石器, 土偶	194
--------	-------------------	-----

<下巻>

図 版 69	山崎遺跡全景空中写真	1
図 版 70	(1) 8号住居跡	1
	(2) 8号住居跡カマド	2
	(3) 8号住居跡出土土器	2
図 版 71	(1) 9号住居跡	2
	(2) 9号住居跡カマド	4
図 版 72	9号住居跡出土土器・鉄器	4
図 版 73	(1) 10号住居跡	6
	(2) 10号住居跡カマド	6
図 版 74	(1) 12号住居跡	8
	(2) 13号住居跡カマド	9
図 版 75	(1) 14号住居跡	10
	(2) 14号住居跡カマド	10
図 版 76	(1) 14号住居跡遺物出土状況	10
	(2) 10~14号住居跡出土土器・鉄器	7
図 版 77	(1) 15号住居跡	12
	(2) 16号住居跡	14
図 版 78	(1) 15・16号住居跡出土土器・土製円板	12
	(2) 17・18号住居跡	17
図 版 79	(1) 17号住居跡	17
	(2) 17号住居跡カマド	18
	(3) 17号住居跡出土土器・鉄器	19
図 版 80	(1) 19号住居跡	20
	(2) 19号住居跡カマド	21
図 版 81	(1) 19号住居跡遺物出土状況	21
	(2) 19号住居跡出土土器・石製品・鉄器	21
図 版 82	(1) 20号住居跡	24
	(2) 1号竪穴	25
	(3) 20号住居跡・1号竪穴出土土器	24
図 版 83	(1) 1号建物跡	26
	(2) 2号建物跡	27

図版 84	(1)	3号建物跡	27
	(2)	5・9号建物跡	28
図版 85	(1)	6・7・10~12号建物跡	30
	(2)	13・14号建物跡	36
図版 86	(1)	1号土壙	38
	(2)	2号土壙	39
図版 87	(1)	1・2号土壙出土土器・鉄器	38
	(2)	調査風景	—
図版 88	(1)	3号土壙	40
	(2)	4号土壙	42
	(3)	6号土壙	43
図版 89		3・4号土壙出土土器	40
図版 90	(1)	7号土壙	45
	(2)	7号土壙	45
図版 91		5~7号土壙出土土器	45
図版 92	(1)	8号土壙	47
	(2)	9号土壙	48
	(3)	F10区遺物出土状況	55
	(4)	E12区遺物出土状況	53
図版 93		ピット・溝1~6出土土器	31
図版 94		包含層等出土土器・石器・土製品・石製品	53
図版 95	(1)	石町遺跡建物跡と土壙	58
	(2)	石町1・2号土壙	58
図版 96	(1)	石町4号土壙集石状況	62
	(2)	石町4号土壙	62
図版 97		石町1~3号土壙出土土器	58
図版 98		石町4号土壙・ピット等出土土器	63

尾久保屋敷遺跡

図版 1	(1)	尾久保屋敷遺跡調査区全景	67
	(2)	住居跡と柱穴状ピット群	68
図版 2	(1)	溝状遺構堆積状況	70
	(2)	出土土器	69

日奈古・寺尾遺跡

図版 1	(1) 日奈古・寺尾遺跡北区全景	75
	(2) 北区全景	75
	(3) 1・2号住居跡・2号不整形土壙	76
図版 2	(1) 北区1号住居跡	76
	(2) 1号住居跡カマド	76
	(3) カマド下部敷石	76
図版 3	(1) 北区2号住居跡	80
	(2) 1号住居跡カマドと柱穴	76
	(3) 1号不整形土壙	81
図版 4	(1) 2号不整形土壙	82
	(2) 日奈古・寺尾遺跡北区出土土器	77
図版 5	(1) 日奈古・寺尾遺跡南区全景	84
	(2) 南区北土壙群	84
	(3) 南区北土壙群	84
図版 6	(1) 南区北1号不整形土壙	84
	(2) 2号不整形土壙	89
図版 7	(1) 南区北1号長方形土壙	89
	(2) 2号長方形土壙	91
図版 8	(1) 日奈古・寺尾遺跡南区北出土土器	84
	(2) 南区南溝群	91

挿 図 目 次

〈上巻〉

第 1 図	国道10号線椎田バイパス路線図	2
第 2 図	遺跡の位置 (1/10000)	3
第 3 図	周辺の遺跡分布図 (1/50000)	折込み
第 4 図	山崎遺跡地形図 (1/2000)	14
第 5 図	山崎遺跡地区割図 (1/1500)	15
第 6 図	基本土層図 (1/30)	15
第 7 図	縄文時代の遺構配置図 (1/400)	17
第 8 図	1号住居跡実測図 (1/60)	18
第 9 図	1号住居跡炉跡実測図 (1/30)	19
第 10 図	1号住居跡出土土器拓影 1 (1/3)	20
第 11 図	1号住居跡出土土器拓影 2 (1/3)	21
第 12 図	1号住居跡出土土器拓影 3 (1/3)	22
第 13 図	1号住居跡出土石器実測図 (1/2・1/3・1/4)	23
第 14 図	1号住居跡出土土製品実測図 (1/3)	24
第 15 図	2号住居跡炉跡実測図 (1/30)	24
第 16 図	2・4号住居跡実測図 (1/60)	折込み
第 17 図	2号住居跡出土土器拓影 1 (1/3)	26
第 18 図	2号住居跡出土土器拓影 2 (1/3)	27
第 19 図	2号住居跡出土土器拓影 3 (1/4)	28
第 20 図	2号住居跡出土土器拓影 4 (1/3)	29
第 21 図	2号住居跡出土土器拓影 5 (1/3)	30
第 22 図	2号住居跡出土土器拓影 6 (1/3)	31
第 23 図	2号住居跡出土土器拓影 7 (1/3)	33
第 24 図	2号住居跡出土土器拓影 8 (1/3)	34
第 25 図	2号住居跡出土土器拓影 9 (1/3)	35
第 26 図	2号住居跡出土土器拓影 10 (1/3)	36
第 27 図	2号住居跡出土土器拓影 11 (1/3)	37
第 28 図	2号住居跡出土土器拓影 12 (1/3)	38
第 29 図	2号住居跡出土土器実測図 13 (1/3)	39
第 30 図	2号住居跡出土土器拓影 14 (1/3)	40

第 31 图	2号住居跡出土土器拓影15 (1/3)	41
第 32 图	2号住居跡出土土器拓影16 (1/3)	42
第 33 图	2号住居跡出土土器拓影17 (1/3)	43
第 34 图	2号住居跡出土土器拓影18 (1/3)	44
第 35 图	2号住居跡出土土器拓影19 (1/3)	45
第 36 图	2号住居跡出土石器实测图 1 (1/3)	47
第 37 图	2号住居跡出土石器实测图 2 (1/3)	48
第 38 图	2号住居跡出土石器实测图 3 (1/4)	49
第 39 图	2号住居跡出土石器实测图 4 (1/2 · 1/3)	50
第 40 图	2号住居跡出土石器实测图 5 (1/3)	51
第 41 图	2号住居跡出土土製品实测图 (1/3)	51
第 42 图	3号住居跡实测图 (1/60)	52
第 43 图	3号住居跡炉跡实测图 (1/30)	52
第 44 图	3号住居跡出土土器拓影 1 (1/3)	53
第 45 图	3号住居跡出土土器拓影 2 (1/3)	54
第 46 图	3号住居跡出土土器拓影 3 (1/3)	56
第 47 图	3号住居跡出土土器拓影 4 (1/3)	57
第 48 图	3号住居跡出土土器拓影 5 (1/3)	58
第 49 图	3号住居跡出土土器拓影 6 (1/3)	59
第 50 图	3号住居跡出土土器拓影 7 (1/3)	60
第 51 图	3号住居跡出土石器实测图 (1/2 · 1/3 · 1/4)	60
第 52 图	3号住居跡出土土製品实测图 (1/3)	60
第 53 图	4号住居跡炉跡实测图 (1/30)	61
第 54 图	4号住居跡出土土器拓影 1 (1/3)	63
第 55 图	4号住居跡出土土器拓影 2 (1/3)	64
第 56 图	4号住居跡出土土器拓影 3 (1/3)	65
第 57 图	4号住居跡出土土器拓影 4 (1/3)	66
第 58 图	4号住居跡出土土器拓影 5 (1/3)	67
第 59 图	4号住居跡出土土製品实测图 (1/3)	67
第 60 图	4号住居跡出土石器实测图 (1/2 · 1/3 · 1/4)	68
第 61 图	5号住居跡实测图 (1/60)	69
第 62 图	5号住居跡出土土器实测图 1 (1/3)	69
第 63 图	5号住居跡出土土器拓影 2 (1/3)	70
第 64 图	5号住居跡出土石器实测图 (1/2)	71

第 65 図	6号住居跡実測図 (1/60)	折込み
第 66 図	6号住居跡土偶出土状況実測図 (1/15)	折込み
第 67 図	6号住居跡出土土器拓影 1 (1/3)	73
第 68 図	6号住居跡出土土器拓影 2 (1/3)	74
第 69 図	6号住居跡出土土器拓影 3 (1/3)	75
第 70 図	6号住居跡出土土器拓影 4 (1/3)	76
第 71 図	6号住居跡出土土器拓影 5 (1/3)	77
第 72 図	6号住居跡出土土器拓影 6 (1/3)	78
第 73 図	6号住居跡出土土器拓影 7 (1/3)	80
第 74 図	6号住居跡出土土器拓影 8 (1/3)	81
第 75 図	6号住居跡出土土器拓影 9 (1/3)	82
第 76 図	6号住居跡出土石器実測図 1 (1/2・1/3)	83
第 77 図	6号住居跡出土石器実測図 2 (1/3・1/4)	84
第 78 図	6号住居跡出土土製品実測図 1 (1/3)	85
第 79 図	6号住居跡出土土製品実測図 2 (1/3)	86
第 80 図	7号住居跡炉跡実測図 (1/30)	86
第 81 図	7号住居跡実測図 (1/60)	87
第 82 図	7号住居跡出土土器拓影 1 (1/3)	88
第 83 図	7号住居跡出土土器拓影 2 (1/3)	89
第 84 図	7号住居跡出土土器実測図 3 (1/3)	90
第 85 図	7号住居跡出土土器実測図 4 (1/3)	91
第 86 図	7号住居跡出土土器拓影 5 (1/3)	92
第 87 図	7号住居跡出土土器拓影 6 (1/3)	93
第 88 図	7号住居跡出土土器拓影 7 (1/3)	94
第 89 図	7号住居跡出土土器拓影 8 (1/3)	95
第 90 図	7号住居跡出土土器拓影 9 (1/3)	96
第 91 図	7号住居跡出土土器拓影 10 (1/3)	97
第 92 図	7号住居跡出土土器拓影 11 (1/3)	98
第 93 図	7号住居跡出土土器拓影 12 (1/3)	99
第 94 図	7号住居跡出土土器拓影 13 (1/3)	100
第 95 図	7号住居跡出土土器拓影 14 (1/3)	101
第 96 図	7号住居跡出土土器拓影 15 (1/3)	102
第 97 図	7号住居跡出土土器拓影 16 (1/3)	104
第 98 図	7号住居跡出土土器拓影 17 (1/3)	105

第 99 図	7号住居跡出土土器拓影18 (1/3)	106
第 100 図	7号住居跡出土土器拓影19 (1/3)	107
第 101 図	7号住居跡出土土器拓影20 (1/3)	108
第 102 図	7号住居跡出土土器拓影21 (1/3)	109
第 103 図	7号住居跡出土土器拓影22 (1/3)	110
第 104 図	7号住居跡出土土器実測図 (1/2・1/3)	111
第 105 図	7号住居跡出土土製品実測図 (1/3)	112
第 106 図	1～3号甕棺墓実測図 (1/30)	113
第 107 図	1号甕棺実測図 (1/4)	113
第 108 図	2号甕棺実測図 (1/4)	114
第 109 図	3号甕棺実測図 (1/3)	115
第 110 図	包含層出土土器拓影 1 (1/3)	117
第 111 図	包含層出土土器拓影 2 (1/3)	118
第 112 図	包含層出土土器拓影 3 (1/3)	119
第 113 図	包含層出土土器拓影 4 (1/3)	120
第 114 図	包含層出土土器拓影 5 (1/3)	122
第 115 図	包含層出土土器拓影 6 (1/3)	123
第 116 図	包含層出土土器拓影 7 (1/3)	124
第 117 図	包含層出土土器拓影 8 (1/3)	125
第 118 図	包含層出土土器拓影 9 (1/3)	126
第 119 図	包含層出土土器拓影10 (1/3)	127
第 120 図	包含層出土土器拓影11 (1/3)	128
第 121 図	包含層出土石器の層別分布	129
第 122 図	包含層出土石器実測図 (1/3)	130
第 123 図	石町1号住居跡炉跡実測図 (1/20)	152
第 124 図	石町1・2号住居跡実測図 (1/60)	折込み
第 125 図	石町1号住居跡出土土器拓影 1 (1/3)	153
第 126 図	石町1号住居跡出土土器拓影 2 (1/3)	154
第 127 図	石町1号住居跡出土土器拓影 3 (1/3)	156
第 128 図	石町1号住居跡出土土器拓影 4 (1/3)	157
第 129 図	石町1号住居跡出土土器拓影 5 (1/3)	158
第 130 図	石町1号住居跡出土土器拓影 6 (1/3)	159
第 131 図	石町1号住居跡出土石器実測図 (1/2・1/3)	160
第 132 図	石町2号住居跡出土土器拓影 1 (1/3)	162

第 133 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 2 (1/3)	164
第 134 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 3 (1/3)	165
第 135 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 4 (1/3)	166
第 136 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 5 (1/3)	167
第 137 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 6 (1/3)	168
第 138 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 7 (1/3)	169
第 139 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 8 (1/3)	170
第 140 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 9 (1/3)	172
第 141 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 10 (1/3)	173
第 142 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 11 (1/3)	174
第 143 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 12 (1/3)	175
第 144 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 13 (1/3)	176
第 145 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 14 (1/3)	177
第 146 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 15 (1/3)	178
第 147 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 16 (1/3)	179
第 148 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 17 (1/3)	180
第 149 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 18 (1/3)	181
第 150 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 19 (1/3)	182
第 151 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 20 (1/3)	183
第 152 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 21 (1/3)	184
第 153 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 22 (1/3)	185
第 154 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 23 (1/3)	186
第 155 图	石町 2 号住居跡出土土器拓影 24 (1/3)	187
第 156 图	石町 2 号住居跡上層出土土器拓影 1 (1/3)	188
第 157 图	石町 2 号住居跡上層出土土器拓影 2 (1/3)	189
第 158 图	石町 2 号住居跡上層出土土器拓影 3 (1/3)	190
第 159 图	石町 2 号住居跡上層出土土器拓影 4 (1/3)	191
第 160 图	石町 2 号住居跡出土石器实测图 1 (1/3)	192
第 161 图	石町 2 号住居跡出土石器实测图 2 (1/2 · 1/3)	193
第 162 图	石町 2 号住居跡出土石器实测图 3 (1/2)	194
第 163 图	石町 3 · 4 号住居跡实测图 (1/60)	195
第 164 图	石町 3 号住居跡出土土器拓影 (1/3)	196
第 165 图	石町 4 号住居跡出土土器拓影 1 (1/3)	197
第 166 图	石町 4 号住居跡出土土器拓影 2 (1/3)	198

第 167 図	石町 4 号住居跡出土石器実測図 (1/2・1/3・1/4)	199
第 168 図	石町石囲炉実測図 (1/20)	201
第 169 図	石町その他の土器拓影 (1/3)	201
第 170 図	石町その他の石器実測図 (1/2)	202
第 171 図	石町出土土偶実測図 (1/2)	202

<下巻>

第 172 図	8 号住居跡実測図 (1/60)	1
第 173 図	8 号住居跡カマド実測図 (1/30)	2
第 174 図	8 号住居跡出土土器実測図 (1/3)	2
第 175 図	9 号住居跡実測図 (1/60)	3
第 176 図	9 号住居跡カマド実測図 (1/30)	3
第 177 図	9 号住居跡出土土器実測図 1 (1/3)	4
第 178 図	9 号住居跡出土土器実測図 2 (1/3)	5
第 179 図	9 号住居跡出土鉄器実測図 (1/2)	6
第 180 図	10号住居跡実測図 (1/60)	7
第 181 図	10号住居跡カマド実測図 (1/30)	7
第 182 図	10号住居跡出土土器実測図 (1/3)	8
第 183 図	10号住居跡出土鉄器実測図 (1/2)	8
第 184 図	11号住居跡出土土器実測図 (1/3)	8
第 185 図	11・12号住居跡実測図 (1/60)	9
第 186 図	12号住居跡出土土器実測図 (1/3)	9
第 187 図	13号住居跡実測図 (1/60)	10
第 188 図	13号住居跡出土土器実測図 (1/3)	10
第 189 図	14号住居跡実測図 (1/60)	11
第 190 図	14号住居跡カマド実測図 (1/30)	11
第 191 図	14号住居跡出土土器実測図 (1/3・1/4)	12
第 192 図	15号住居跡実測図 (1/60)	13
第 193 図	15号住居跡出土土器実測図 (1/3)	13
第 194 図	16号住居跡実測図 (1/60)	15
第 195 図	16号住居跡カマド実測図 (1/30)	15
第 196 図	16号住居跡出土土器実測図 (1/3)	16
第 197 図	16号住居跡出土土製品実測図 (1/2)	16
第 198 図	17・18号住居跡実測図 (1/60)	17

第 199 図	17号住居跡カマド実測図 (1/30)	17
第 200 図	17号住居跡出土土器実測図 (1/3)	18
第 201 図	17号住居跡出土鉄器実測図 (1/2)	18
第 202 図	19号住居跡実測図 (1/60)	20
第 203 図	19号住居跡カマド実測図 (1/30)	21
第 204 図	19号住居跡出土土器実測図 (1/3)	22
第 205 図	19号住居跡出土土製品実測図 (1/2)	23
第 206 図	19号住居跡出土鉄器実測図 (1/2)	23
第 207 図	20号住居跡実測図 (1/60)	24
第 208 図	20号住居跡出土土器実測図 (1/3)	24
第 209 図	1・2号竪穴実測図 (1/60)	25
第 210 図	1号竪穴出土土器実測図 (1/3)	25
第 211 図	2号竪穴出土土器実測図 (1/3)	26
第 212 図	1・2号建物跡実測図 (1/80)	27
第 213 図	3号建物跡実測図 (1/80)	28
第 214 図	4号建物跡実測図 (1/80)	28
第 215 図	5・6号建物跡実測図 (1/80)	29
第 216 図	5号建物跡出土土器実測図 (1/3)	30
第 217 図	7号建物跡出土土器実測図 (1/3)	30
第 218 図	7号建物跡実測図 (1/80)	31
第 219 図	8・9号建物跡実測図 (1/80)	32
第 220 図	9号建物跡出土土器実測図 (1/3)	33
第 221 図	10号建物跡実測図 (1/80)	33
第 222 図	11号建物跡実測図 (1/80)	34
第 223 図	11号建物跡出土土器実測図 (1/3)	34
第 224 図	12~14号建物跡実測図 (1/80)	35
第 225 図	1・2号土壙実測図 (1/30)	38
第 226 図	1号土壙出土土器実測図 (1/3)	38
第 227 図	2号土壙出土土器実測図 (1/3)	39
第 228 図	2号土壙出土鉄器実測図 (1/2)	39
第 229 図	3~5号土壙実測図 (1/30)	40
第 230 図	3・4号土壙出土土器実測図 (1/3)	41
第 231 図	5号土壙出土土器実測図 (1/3)	43
第 232 図	6号土壙実測図 (1/30)	44

第 233 図	6号土壙出土土器実測図 (1/3)	44
第 234 図	7号土壙実測図 (1/60)	44
第 235 図	7号土壙出土土器実測図1 (1/3)	45
第 236 図	7号土壙出土土器実測図2 (1/3)	46
第 237 図	8・9号土壙実測図 (1/30)	48
第 238 図	1・3～6号溝断面土層図 (1/30)	48
第 239 図	1・2号溝出土土器実測図 (1/3)	49
第 240 図	3～6号溝出土土器実測図 (1/3)	51
第 241 図	柱穴状ピット出土土器実測図 (1/3)	53
第 242 図	包含層出土土器実測図 (1/3)	54
第 243 図	包含層出土土器実測図 (1/3・1/5)	55
第 244 図	包含層出土土器実測図 (1/3)	56
第 245 図	包含層出土土器実測図 (1/3)	57
第 246 図	包含層出土石器実測図 (1/3)	57
第 247 図	表採土器実測図 (1/3)	57
第 248 図	石町1～4号土壙実測図 (1/60)	59
第 249 図	石町1・2号土壙出土土器実測図 (1/3)	60
第 250 図	石町3号土壙出土土器実測図 (1/3)	61
第 251 図	石町4号土壙出土土器実測図 (1/3)	62
第 252 図	石町遺跡その他の土器実測図 (1/3)	64

尾久保屋敷遺跡

第 1 図	尾久保屋敷遺跡周辺地形図 (1/2000)	67
第 2 図	尾久保屋敷遺跡遺構配置図 (1/150)	68
第 3 図	住居跡出土土器実測図 (1/3)	69
第 4 図	溝状遺構断面土層図 (1/50)	70
第 5 図	溝状遺構出土土器実測図 (1/3)	71
第 6 図	その他の土器実測図 (1/3)	72

日奈古・寺尾遺跡

第 1 図	日奈古・寺尾遺跡周辺地形図 (1/2000)	74
第 2 図	日奈古・寺尾遺跡北区遺構配置図 (1/200)	75
第 3 図	1号住居跡実測図 (1/60)	76
第 4 図	1号住居跡カマド実測図 (1/20)	77

第 5 図	1号住居跡出土土器実測図 (1/3)	78
第 6 図	土錘実測図 (1/2)	79
第 7 図	2号住居跡実測図 (1/60)	80
第 8 図	2号住居跡カマド実測図 (1/20)	80
第 9 図	北区出土土器実測図 (1/3)	81
第 10 図	1号不整形土壙実測図 (1/60)	82
第 11 図	2号不整形土壙実測図 (1/60)	83
第 12 図	日奈古・寺尾遺跡南区北遺構配置図 (1/200)	85
第 13 図	1・2号不整形土壙実測図 (1/40)	86
第 14 図	1号不整形土壙出土土器実測図 (1/3)	87
第 15 図	南区北出土土器実測図 (1/3)	88
第 16 図	3号不整形土壙実測図 (1/40)	89
第 17 図	1・2号長方形土壙実測図 (1/40)	90
第 18 図	日奈古・寺尾遺跡南区南遺構配置図 (1/200)	92
第 19 図	南区南出土土器実測図 (1/3)	93

表 目 次

〈上巻〉

表 1	10号線椎田バイパス関係遺跡一覧表	4
表 2	山崎遺跡出土土器観察表 1	131
表 3	山崎遺跡出土土器観察表 2	132
表 4	山崎遺跡出土土器観察表 3	133
表 5	山崎遺跡出土土器観察表 4	134
表 6	山崎遺跡出土土器観察表 5	135
表 7	山崎遺跡出土土器観察表 6	136
表 8	山崎遺跡出土土器観察表 7	137
表 9	山崎遺跡出土土器観察表 8	138
表 10	山崎遺跡出土土器観察表 9	139
表 11	山崎遺跡出土土器観察表 10	140
表 12	山崎遺跡出土土器観察表 11	141
表 13	山崎遺跡出土土器観察表 12	142
表 14	山崎遺跡住居跡出土石器一覧表 1	143
表 15	山崎遺跡住居跡出土石器一覧表 2	144

表16	山崎遺跡住居跡出土石器一覽表 3	145
表17	山崎遺跡住居跡出土石器一覽表 4	146
表18	山崎遺跡住居跡出土石器一覽表 5	147
表19	山崎遺跡住居跡出土土製円板一覽表 1	148
表20	山崎遺跡住居跡出土土製円板一覽表 2	149
表21	山崎遺跡住居跡出土土製円板一覽表 3	150
表22	山崎遺跡住居跡出土土製円板一覽表 4	151
表23	石町遺跡出土土器觀察表 1	203
表24	石町遺跡出土土器觀察表 2	204
表25	石町遺跡出土土器觀察表 3	205
表26	石町遺跡出土土器觀察表 4	206
表27	石町遺跡出土土器觀察表 5	207
表28	石町遺跡出土石器觀察表 1	208
表29	石町遺跡出土石器一覽表 2	209
表30	石町遺跡出土石器一覽表 3	210
表31	石町遺跡出土石器一覽表 4	211
表32	石町遺跡出土土製円板一覽表 1	211
表33	石町遺跡出土土製円板一覽表 2	212

<下巻>

山崎遺跡

表34	掘立柱建物計測表 1	36
表35	掘立柱建物計測表 2	37

日奈古・寺尾遺跡

表 1	1号住居跡柱穴關係計測表	77
-----	--------------	----

付 図 目 次

付図 1 山崎遺跡遺構配置図 (1/300)

付図 2 山崎・石町遺跡出土縄文土器変遷図

I 調査組織と調査経過

調査の経過

福岡県教育委員会は、日本道路公団の委託を受けて、一般国道10号線椎田バイパス（豊津町～椎田町、10.3km）建設地内の埋蔵文化財調査を、昭和61年度から平成元年度に実施した。

本格的な発掘調査は、昭和61年5月からの椎田町石堂中後ヶ谷古墳群の調査にはじまるが、それに先立つ昭和61年3月3日から3月25日まで、日本道路公団に関わる椎田バイパス路線内の、分布・発掘調査が実施されて、その調査予定面積が確定されている。その結果は、本書に報告する各遺跡について次のように扱われている。

第10地点＝山崎遺跡 石町遺跡の西側端を通るようだ。試掘調査の結果、表土下25cmに古墳時代以後の遺構・遺物が出土し、さらに50～60cm下層に縄文時代の遺構・遺物がある。要発掘調査面積7200㎡。

第11地点＝尾久保屋敷遺跡 路線内の大半は造成工事で削平されているが、一部に未造成部分が残し、古墳時代以後の土器が散布する。要発掘調査面積160㎡。

第13地点＝日奈古・寺尾遺跡 試掘調査の結果、古墳時代以後の遺構・遺物が確認されたが、既に削平された所が多い。要発掘調査面積は5800㎡。

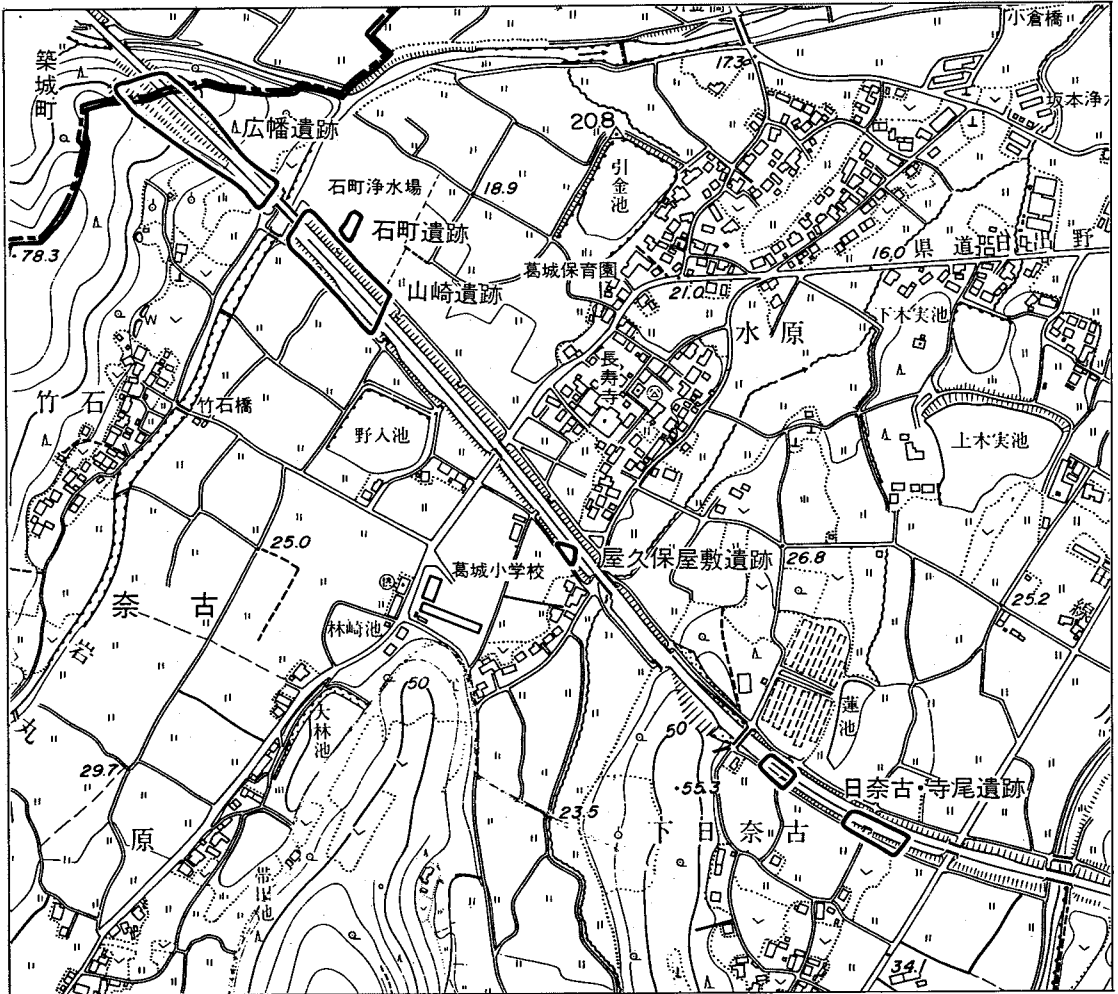
昭和61年度の調査は、用地の片付きの進んでいる椎田町内から実施することとなり、61年5月から9月に第21地点＝石堂中後ヶ谷古墳群、9月から11月に日奈古・寺尾遺跡、10月から11月に尾久保屋敷遺跡、10月から翌62年3月に山崎遺跡、11月から翌62年3月に第22地点菜切古墳群と第23地点頭無古墳群を発掘調査した。

日奈古・寺尾遺跡の調査日誌抄

- 9月16日 ユンボを用いて表土を剥ぎ、発掘機材を搬入する。
- 9月30日 南区の掘り下げが終了し、北区では住居跡の外に不整形遺構などを掘り下げる。
- 10月14日 南区北の平面実測作業を始める。
- 10月16日 北区の平面実測作業を始め、1号不整形遺構を写真撮影する。
- 10月17日 北区の2号不整形土壌・1号住居跡カマドを写真撮影し、焼土を除去する。
- 10月22日 水準点からレベル移動する。
- 10月23日 エレベーション作業を始める。
- 11月6日 実測作業が全て終了する。



第 1 図 国道10号線椎田バイパス (椎田道路)路線図 (道路施設協会原図)



第 2 図 遺跡の位置 (1/10000) (椎田町都市計画総括図を改変)

尾久保屋敷遺跡の調査日誌抄

- 10月22日 人力で表土を剥ぎ始めるが、床土が厚く難航する。
- 10月24日 山崎遺跡の表土剥ぎに使用しているユンボを投入して表土を剥ぐ。濠状の遺構と住居跡らしい遺構を検出する。
- 10月27日 濠状遺構掘り上がる。
- 10月28日 濠状遺構土層実測。住居跡も掘り上がり、全景写真を撮影。
- 11月12日 遺構平面実測・エレベーション作業を終える。

山崎遺跡の調査日誌抄

- 10月22日 ユンボによる表土剥ぎ開始。
- 10月27日 住居跡や掘立柱建物など姿を表す。

表1 10号線椎田バイパス関係遺跡一覽表

地点	遺跡名	所在地	内容	分布面積 (㎡)	調査地区と面積				備考	報告書
					61年度(㎡)	62	63	平1		
1	神手遺跡	豊津町徳永	弥生・古墳集落, 墓地	1,200	試掘(1,200)	1,000				6集
2-A	皆見遺跡	" 皆見	弥生・古墳・奈良集落	9,600	試掘	9,600				6集
2-B	八ッ重遺跡	" "	"	11,000	"	11,000			豊津町委託	1集
2-C	弓田遺跡	" 下原	"	3,300	"	3,300			"	1集
2-D	下原遺跡	" "	"	2,000	"	2,000				3集
2-E		" "	"		"	2,000				3集
2-F	カワケ田遺跡	" 皆見	"	3,000	"	2,900				3集
3		築上町船迫	土墳	4,683			4,683			4集
4		" "			試掘(3,600)				遺構なし	
5		" 安武	弥生散布地	4,547	試掘		4,547			4集
6-A	安武・土井の内遺跡	" "	縄文・弥生・古墳集落	5,300	"	800	4,500			4集
6-B	安武・深田遺跡	" "	弥生・古墳集落, 墓地	22,000	"	11,000	11,000			4集
7-A	塞ノ神遺跡	" 赤幡	中世石積	450	"		450			8集
7-B	赤幡・森ヶ坪遺跡	" "	古墳~平安集落	20,800	"		2,000	18,800		8集
7-C	赤幡・十双遺跡	" 赤幡・広末	弥生・古墳集落	9,500	"		7,500	2,000		8集
8	広末・安永遺跡	" 広末	"	5,900	"		4,900	1,000		5集
9	広幡城遺跡	" 水原	弥生・中・近世城跡	13,800	"		13,800			9集
10	山崎遺跡	椎田町越路	縄文・奈良集落	7,200	7,200					7集
11	尾久保屋敷遺跡	" 水原	古墳集落	160	160					7集
13	寺尾遺跡	" 日奈古	"	5,800	5,800					7集
16		" 山本			試掘				遺構なし	
18		" 上り松			"				遺構なし	
21	石堂中後ヶ谷古墳群	" 石堂	古墳墓地	19,500	19,500					2集
22	菜切古墳群	" 福間	"	11,000	11,000					2集
23	頭無古墳群	" 山添	"	15,000	15,000					2集
24		" 石堂				442			遺構なし	
			計	175,740	(4,800) 58,660	32,242	44,547	42,433		

- 11月6日 調査予定地外であった北端部の低い水田部分の表土剥ぎを実施し、ピットなどを検出する。遺構・遺物の範囲は広がる可能性が高くなった。
- 11月17日 北端部の遺構実測作業を済ませて、排土置き場にする。
- 11月28日 古墳時代から奈良時代の住居跡は8軒まで確認したが、河原石が多く色調の識別の困難な堆積土のため遺構検出に難航するが、縄文後期の住居跡を検出する。
- 12月1日 縄文後期の住居跡は2軒目を検出して、掘り下げを開始する。
- 12月6日 中世のものと思われる石の集積した土壌を確認する。
- 12月11日 縄文後期の住居跡は3軒目を検出して、掘り下げを開始する。
- 12月17日 縄文住居の2号住居跡に土器炉が検出される。また北側で、4号住居跡と重複していることが判明する。
- 12月22日 調査指導委員の賀川光夫先生来訪。気球による空中写真撮影。縄文住居跡と土器炉発見の新聞発表をし、遺跡名は小字名から山崎遺跡とする。
- 12月23・24日 県立築上西高校生徒の応援がある。
- 1月9日 南部調査区の表土剥ぎを始める。
- 1月22日 12日から始めていた北西部の排土移動が済み表土剥ぎを実施。
- 1月23・25日 降雪あり、10cm程積雪する。
- 1月26日 横田義章氏の応援を得て、3号住居跡の石囲炉を切りとる。
- 2月6日 宮本工氏来訪。昨日検出した6号住居跡からグラマーな土偶が出土する。
- 2月19日 葛城小学校生徒現地見学。
- 2月22日 7号住居跡検出。
- 2月25日～3月2日 冷え込み吹雪が続くが、7号住居跡を掘り上げる。
- 3月4日 3日と4日で7号住居跡の写真撮影・実測を済ませ、全ての作業を終了する。

昭和63年度の調査関係者は下記の通りである。

日本道路公団福岡建設局

局 長	今村 浩三(前任)	杉田美昭
次 長	菱刈 庄二	
総務部長	安元 富次	
管理課長	森 宏之	
管理課長代理	佐伯 豊	

日本道路公団福岡建設局椎田バイパス工事事務所

所 長	山田 勝正(前任)	山田 将博
副所長(事務担当)	溝口 萩男(前任)	淵脇 志水

副所長(技術担当)	西村 剌(前任)	坂牧 嵩三
庶務課長	塩川 正基	
用地課長	工藤 有道(前任)	二神 鉄男
工務課長	佐々木俊治	
築城工事区工事長	坂牧 嵩三(前任)	山口 宗雄
椎田工事区工事長	鯨坂 佳晃(前任)	黒田 義樹

福岡県教育委員会

総括教育長	友野 隆
教育次長	竹井 宏
指導第二部長	淵上 雄幸
文化課長	窪田 康徳
同 課長補佐	平 聖峰
同 課長技術補佐	宮小路賀宏
同 参事補佐	栗原 和彦
同 参事補佐	柳田 康雄
庶務文化課庶務係長	平 聖峰(兼任)
同 事務主査	竹内 洋征
調査文化課調査班総括	柳田 康雄(兼任)
同 主任技師	馬田 弘稔
同 主任技師	小池 史哲
同 技師	緒方 泉
同 臨時職員	日高 正幸

調査補助 朴 廣春(熊本大学大学院, 現韓国東亜大學校)

西田 大輔(奈良大学, 現新宮町教育委員会)

なお、山崎遺跡・尾久保屋敷遺跡・寺尾遺跡の発掘調査には次の方々のご協力を得た。

井上 荒雄 井上九三郎 上田 虎彦 加藤 弘義 河上倉之助 椎野鬼怒丸 杉野 政一
 高見 勳太 田原 春義 田原 基助 横田 信夫 横田 寿 荒巻 朋子 犬塚カオル
 井上 洋子 今川 和子 今川 晴子 上田 栄子 上田由美子 海津 恵子 亀田 秀子
 城戸ふさえ 城戸 礼子 古賀タキ子 正野 幸子 正野 鈴子 田島ヨシ子 田原フジ子
 津本キヨ子 仲 律子 中村さつき 中村 美咲 中山 節子 長尾 洋子 西森ヒサ子
 橋本 富代 馬場 清子 舟川 清子 増田 哲美 宮原 操 横井美智子 横田シズ子
 横山 康子 座小田勉教諭ほか築上西高校生徒有志。

また調査期間中には、横田義章（九州歴史資料館）、宮小路賀宏・栗原和彦・中矢真人（文化課）、木下修（京築教育事務所）、一川淳江・川本義継・宮本工・濱島三司（県文化財保護指導委員）、森淵豊海（椎田町教育委員会）、賀川光夫（大分県文化財保護審議会）、森貞次郎・渡辺正気・小田富士雄・西谷正（福岡県文化財保護審議会）、渡辺誠（名古屋大学）、泉柘良（奈良大学）、新東晃一（鹿児島県文化課）、山崎純男・小畑克己（福岡市文化課）、木村幾多郎（佐賀大学）、西健一郎（九州大学）、島津義昭・高木正文・江本直（熊本県文化課）、西脇対名夫（京都大学）、武末純一（北九州市考古博物館）、藤丸詔八郎・前田義人・柴尾俊介・山手誠治（北九州市埋文調査室）、坂本嘉弘・栗田勝弘・永松みゆき（大分県文化課）、平島文博（多久市教育委員会）、栗焼憲児（中津市教育委員会）、水ノ江和同（同志社大学）などの方々の来訪があり、現地での有益な指導・助言を得ることができた。

報告書作成の経過

山崎遺跡などの出土遺物は、パンコンテナ350箱以上と多量であり、昭和63年度から水洗い・接合復原作業を九州歴史資料館において実施したが、諸般の事情で遺物実測作業・報告書作成作業は平成3年度に実施する事となった。

平成3年度は、日本道路公団の椎田バイパス関係の報告書作成期間としては最終年度であり、第6集神手遺跡、第7集山崎・尾久保屋敷・寺尾遺跡、第8集赤幡塞ノ神・森ヶ坪・十双遺跡、第9集広幡城・広幡遺跡の4冊を作成した。

本書作成に係わる、平成3年度の関係者は次の通りである。

日本道路公団福岡建設局

局 長	加藤 興史	中野 英治(前任)
次 長	渡辺 国几	高野 武(前任)
総務部長	岡本 房徳	
管理課長	江良 信弘	
管理課長代理	塚本 文康	

日本道路公団福岡建設局椎田工事事務所

所 長	大島 勲
副 所 長	国本 忠敬
庶務課長	樫川 敏博
工務課長	飯田 文夫

なお、椎田工事事務所は、平成3年6月30日をもって、組織廃止となっている。

福岡県教育委員会

総括	教育長	御手洗 康
	教育次長	光安 常喜
	指導第二部長	月森清三郎
	文化課長	森山 良一
	同 文化財保護室長	石松 好雄
	同 調査班総括	柳田 康雄(執筆担当)
	同 総括補佐	井上 裕弘
	同 参事補佐	副島 邦弘
庶務	文化課管理係長	岸本 実
	同 主任主事	安丸 重喜
整理	調査班技術主査	小池 史哲(執筆担当)
	整理指導員	岩瀬 正信
整理補助	豊福 弥生, 福島 育子, 原 富子, 原 カヨ子, 森山シズ子, 有馬 信子, 植山 洋子, 鬼木美智子, 若松 和子, 砥上トシ子, 武藤 睦子, 古賀 陽子, 高島美智子, 平田 春美, 若松美枝子, 関 久江, 水野 美奈, 土山真弓美, 水ノ江明美, 岡 由美子, 黒木 美幸	

なお、土器炉・カマド内土壌の灰像分析を東京大学総合資料館の松谷暁子先生、出土炭化種子の分析を名古屋大学文学部の渡辺誠教授に依頼し、分析結果の報告を執筆していただいた。

II 遺跡の位置と環境

地理的環境

山崎遺跡・尾久保屋敷遺跡・日奈古・寺尾遺跡の所在する築上郡椎田町は、福岡県の東部にあり、周防灘に面した町で、南東に豊前市・北西に築城町・北で行橋市と接し、面積は51.96km²である。

英彦山（標高1200m）山塊北東部の、犬ヶ岳（標高1130.8m）・求菩提山（標高782m）・国見山（標高637.8m）などの山々は、地質学的には（註1）第三紀末から第四紀はじめに噴出した火山活動によって形成された角閃石輝石安山岩や両輝石安山岩の熔岩から成る。またその基盤をなす耶馬溪層（輝石安山岩系質の凝灰角礫岩）と呼ばれる安山岩質成層集塊岩の台地斜面は、幾つかの谷によって侵食され、山塊から7~10kmの細長い斜面を延ばし、椎田町上り松付近や豊前市松江で海拔0m地点へ崖状に没するような地形をなしている。杉の植林が多く、谷あいの傾斜地には田畑があり、林業を兼ねる農家も多い。

町内北部から築城町北東部・行橋市南部・豊津町に広がる、築城原・新田原の洪積層の丘陵があり、下層は花崗閃緑岩などの瀬戸内海の海底に広がる花崗岩質の岩盤だとされている。米・麦栽培のほか果樹・野菜栽培の適地となっている。

周防灘に面した海岸は、干潮時には50m以上も干潟と化すような遠浅で、潮干狩りのメッカとなっている。海岸線に沿っては、長井浜・稲堂海岸・宇留津から浜宮にかけての海岸などに、松林をもつ砂丘が形成されていて、湊から上ノ河内にかけては広さ156haの干拓地がある。海苔養殖のほかクルマエビ・シャコ・キヌガイなどの海産物で知られるが、漁港、海水浴場も見逃せない。

豊前地域に特徴的な、細長い斜面を延ばす山地からは、谷底平野を形成する河川が流下し、椎田町内には国見山塊に源を発する岩丸川・極楽寺川・真如寺川・上の河内川などがある。また、これと直交して海岸線に沿うように国道10号線・JR日豊本線が走るが、北九州市と中津・大分方面を結ぶ交通の要衝でもあり、交通渋滞の難所でもある。バイパス建設は交通円滑化への課題でもあったと言えよう。

このような地形にあって、山崎遺跡は岩丸川扇状地の右岸、尾久保遺跡は尻無川左岸の洪積丘陵端部、寺尾遺跡は極楽寺川扇状地の左岸で、平野部に開けるような位置に立地し、いずれもJR椎田駅から2km余りの位置にある。

歴史的環境

椎田町・築城町域における遺跡の分布調査は、1979年度に福岡県教育委員会の指導により実施されているが、その後も地元にある県立築上西高校社会部活動の一環として実施され、その成果の一部が発表されている(註2)。椎田バイパス建設に先立つ発掘調査は、地表での遺物採集・踏査から、地下の文化財を一举に露呈させることになった。バイパス周辺でも広域な農地基盤整備事業やリゾート開発と道路網整備で、拍車をかけつつあり、遺跡の性格も明らかになってきている。しかし破壊という高価な代償を伴っていることも忘れるわけにはいかない。

椎田町と周辺の遺跡を、時代別に主なものを拾ってみよう。

旧石器時代 椎田町の後谷池東畔でナイフ形石器、椎田町の前池南畔で黒曜石製の舟底形細石刃核が採集されている(註3)。また行橋市石並で姫島産黒曜石製のナイフ形石器やタンパク石の石核・縦長剥片が(註4)、豊津町長養池畔で黒曜石製ナイフ形石器が採集され、川の上遺跡や大平村下唐原での発掘調査で若干旧石器が出土している。下唐原では麩松池や新池でも旧石器は採集されているが、いずれも散発的で、石並以外は標高30～40mの洪積台地で発見されている。

縄文時代 早期の遺跡としては、京築教育事務所建設に先立つ発掘で押型文土器がまとまって出土した豊前市吉木遺跡(註5)がある。新吉富村垂水遺跡(註6)、大平村土佐井遺跡(註7)、椎田町菜切古墳群、築城町松丸遺跡・安武深田遺跡、豊津町川の上遺跡など(註8)でも押型文土器などが出土している。

前期の遺物は椎田町小原岩陰遺跡・大平村土佐井遺跡で、中期の遺物は小原岩陰遺跡で出土している。1991年度に一部発掘調査された小原岩陰遺跡は、真如寺川の浸食によって形成された岩陰で、間口約50m、奥行き約10mの広さがある。轟式土器を含む文化層と、轟式期の人骨が検出され、さらに下層の堆積が想定される(註9)。

後期遺跡の発見は急増している。バイパス関係調査以前は、椎田町石町遺跡・小原岩陰遺跡で後期土器・石器の存在が知られている程度であった。今回報告する山崎遺跡は、その意味ではこの地域で縄文遺跡の本格的な初めての調査であったと言える。

山崎遺跡で後期の住居跡群が発見され、隣接する石町遺跡でも住居跡群が現れた(註10)。祇川左岸の豊津町節丸西遺跡で住居跡群(註11)、城井川左岸の松丸遺跡で住居跡、角田川左岸の中村石丸遺跡でも住居跡群、佐井川左岸の小石原泉遺跡、そして土佐井遺跡・上唐原遺跡・原井三ツ江遺跡など(註12)でも住居跡が次々と発見されている。これらの住居跡などは、谷底平野から扇状地に開くあたりで河川に接する位置や、自然堤防上に集落の営まれていたことを示すものである。

晩期の遺物は、松丸遺跡・安武深田遺跡・十双遺跡、小原岩陰遺跡、小石原泉遺跡、吉富町矢頭田遺跡、土佐井遺跡・川下遺跡など(註13)で出土している。

このほか、細かな時期が不明ながら遺物の採集されている遺跡に、築城町伝法寺・男池畔・

双子池畔遺跡、椎田町出口遺跡・頭無遺跡、豊前市岩屋、新吉富村白山岩陰遺跡、大平村梶屋・弘法窟遺跡などがある。

弥生時代 築城町下清水遺跡では前期から中期の箱式石棺墓(註14)が、安武深田遺跡では後期の住居跡・土壙墓・甕棺墓、赤幡森ヶ坪遺跡では多量の後期土器、十双遺跡では後期の住居跡、広末安永遺跡では中期の住居跡・貯蔵穴群、広幡城遺跡では前期の住居跡・貯蔵穴が発見されている。

豊津町川の上遺跡では、終末期の墳丘墓や箱式石棺墓・土壙墓群が発見され、鏡・玉類や鉄製品類も豊富に出土している。

行橋市稲堂の浜南遺跡などでも、後期と思われる甕棺墓・箱式石棺墓群が発見されており、洪積台地の先端部や砂丘などに占地する。

椎田町では弥生時代の遺跡はさほど詳らかでない。低い洪積台地があまり発達しないことにも起因するのかもしれない。

古墳時代 山崎遺跡、安武深田遺跡、赤幡森ヶ坪遺跡では住居跡群が発見されていて、後期から奈良時代にかけてが多い。生産遺跡では、初期須恵器窯が豊津町居屋敷遺跡で発見され、築城町松丸遺跡では後期の製鉄遺構が発見された。墓地では、前期・中期の古墳が稲堂古墳群・川の上遺跡の方墳など、後期の古墳は、隼人塚・寺屋敷横穴・鬼塚古墳、川の上遺跡の円墳群・三ツ塚古墳、火箱古墳群・堂がへり古墳群・裏ヶ迫古墳群・横井塚古墳群・安永古墳群・十三塚古墳、合木横穴・中後谷古墳群・菜切古墳群・頭無古墳群などがある。地質的な要因も有るだろうが、横穴式石室を持つ古墳と、横穴墓が存在することは注意しなければなるまい。

奈良・平安時代 安武深田遺跡では木簡・墨書土器や緑釉陶器などが出土し、赤幡森ヶ坪遺跡では製塩土器・石帯・銅製椀などが出土している。官衙などの存在を思わせる。豊前国府跡・国分寺跡は豊津町惣社・国分にあり、国分尼寺跡や上坂廃寺も豊津町内にある。これらの施設に使用された瓦の供給地としての瓦・須恵器窯は、築城町船迫に堂がへり窯跡・茶白山窯跡・宇土窯跡などある。

中世 安武深田遺跡、山崎遺跡・石町遺跡・小原遺跡で土壙などの遺構が発見され、広幡城跡も発掘された。広幡城は宮原中將の築城で、後に宇都宮家臣瓜田讃岐守春永が城代として居城したとされている。宇留津(潤津)城は、宇都宮系譜によれば初め潤津日向守で加来孫兵衛元邦が居城する200人、3800石の城で、天正14年11月に落城した。

このほか野仲城・塩田城・築城城・別府城のような平城、赤幡城・馬場城のような山城が多数築かれたようである。

註1 福岡県1971 土地分類基本調査「中津」周防灘周辺開発区域

2 築上西高等学校社会部 1976・1980 紡錘車 第3・7号

- 3 栗焼憲児 1983 京築地方の旧石器について とよ7号
- 4 小池史哲 1991 豊前地域の旧石器 豊前市史 上巻
- 5 福岡県教育委員会 1989 吉木遺跡 福岡県文化財調査報告書 第84集
- 6 渡辺正気 1983 福岡県築上郡新吉富村垂水遺跡調査報告 古文化談叢 第11集
- 7 大平村教育委員会 1990 土佐井遺跡群 大平村文化財調査報告書 第6集
- 8 松丸遺跡は1990～91年度に築城町教育委員会が、川の上遺跡は1988～90年度に福岡県教育委員会が発掘調査を実施し、現在整理中。
福岡県教育委員会 1990・1991 椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告 2・4
- 9 小原岩陰遺跡は1991年末に椎田町教育委員会が発掘調査を実施し、現在整理中。
- 10 椎田町教育委員会 1988 石町遺跡 椎田町文化財調査報告書 第2集
- 11 豊津町教育委員会 1990 豊前国府および節丸西遺跡 豊津町文化財調査報告書 第9集
- 12 中村石丸遺跡は1988年度・上唐原遺跡は1987年度に福岡県教育委員会が発掘調査を実施した。小石原泉遺跡は1990年度に豊前市教育委員会が発掘調査した。いずれも現在整理中。
大平村教育委員会 1989 原井三ツ江遺跡 大平村文化財調査報告書第5集
- 13 十双遺跡は福岡県教育委員会が1990年度に発掘調査を実施し、椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告8で報告。
宮本工ほか 1984 山国川下流域における縄文時代後・晩期の遺跡 九州考古学 第59号
- 14 築城町教育委員会 1984 安永遺跡 築城町文化財調査報告書 第1集



1. 神手遺跡 2. 哲見遺跡 3. カワラケ田遺跡 4. ハツ重遺跡 5. 弓田遺跡
6. 下原遺跡 7. 安武・土井の内遺跡 8. 安武・深田遺跡 9. 塞ノ神遺跡 10. 赤幡・森ヶ坪遺跡
11. 十双遺跡 12. 広末・安水遺跡 13. 広幡城 14. 広幡遺跡 15. 山崎遺跡
16. 尾久保屋敷遺跡 17. 日奈古・寺尾遺跡 18. 石室中後ヶ谷古墳群 19. 菜切古墳群
20. 頭無古墳群 21. 西一丁田遺跡 22. 中村石丸遺跡 23. 中村団後遺跡 24. 炭山遺跡
25. 黒峰尾古墳群 26. 居屋敷遺跡 27. 鋤先遺跡 28. 徳永川の上遺跡 29. 矢留遺跡
30. 竹北遺跡 31. ヒメコ塚古墳 32. 鬼熊遺跡 33. 鬼塚古墳 34. 準人家 35. 稲堂古墳群
36. 浜南遺跡 37. 上迫横穴群 38. 豊後塚古墳群 39. 渡架紫遺跡 40. 尾曲古墳
41. 市屋敷遺跡 42. 大丸遺跡 43. ゴウヤベラ・上明神古墳群 44. 北垣古墳群 45. 節丸西遺跡
46. 平遺跡 47. 上坂麻寺 48. 甲塚古墳 49. 甲塚古墳群 50. 長養池遺跡
51. 惣社古墳 52. 幸木遺跡 53. 豊前国府推定地 54. 古代官道 55. 北原遺跡
56. 正道遺跡 57. 豊前国分寺跡 58. 国分尼寺跡 59. 徳政齋跡 60. 源左エ門屋敷遺跡
61. 別府城跡 62. 狐塚遺跡 63. 築城跡 64. 双子池遺跡 65. 火箱遺跡
66. 堂かへり窯跡 67. 裏ヶ迫古墳群 68. 宇土窯跡 69. 松丸遺跡群 70. 高畑城跡
71. 堂山城跡 72. 釜藏城跡 73. 男池遺跡 74. 赤幡城跡 75. 下清水遺跡
76. 安永遺跡 77. 安永古墳群 78. 横井塚古墳群 79. 十三塚古墳 80. 野中城跡
81. 宇留津城跡 82. 越路遺跡 83. 後谷池遺跡 84. 水原有古遺跡 85. 石町遺跡
86. 合木横穴 87. 山本横穴 88. 小原岩陰遺跡 89. 小原遺跡 90. 出口遺跡
91. 池ノ本遺跡 92. 原池遺跡 93. 石室古墳群 94. 石室中原古墳群 95. 福岡古墳群
96. 古代官道 97. 馬場城跡 98. 鶴迫古墳群 99. 黒部古墳群 100. 四郎丸窯跡

1~20は推田道路関係遺跡、21~29は一般国道10号線関係遺跡。
 城跡以外の遺跡で、実線で囲まれる遺跡は発掘調査された遺跡。

第3図 周辺の遺跡分布図 (1/50000)

III 山崎遺跡

III やま さき 山 崎 遺 跡

1 はじめに

遺跡の位置 (図版1・2, 第4図)

山崎遺跡は、福岡県築上郡椎田町大字越路字山崎1339~1343-1・1345~1349・1350-1~1355番地と、大字水原字有吉638番地の一部に所在し、東経131°2'13", 北緯33°38'45"付近に相当する。椎田バイパス建設に先立ち発掘調査を実施した範囲は、STANo.55+70~STANo.57+30の間で、路線幅のうち用地境に約1mの余裕を残して発掘調査した、約9000㎡である。

当初に設定されていた対象面積は7200㎡であった。STANo.56+10~STANo.57+30の範囲を対象としていた。しかし発掘調査の進行に伴い、当初河川の氾濫原と判断されて対象外となっていたSTANo.55+70~STANo.56+10の範囲に、縄文時代を中心とした遺構・遺物が密に検出されることとなり、結果的には約9000㎡を発掘したのである。

岩丸川は、英彦山塊の一つ国見山の北西斜面の椎田町大字日出野に源を発し、凝灰角礫岩からなる成層集塊岩の熔岩台地を侵食し、谷底平野の岩丸・奈古を経て、水原のあたりで扇状地地形に変貌する。源から約10km北流するが、西から小山田川を合流させて、東に流路を変える。下流では、尻無川・極楽寺川なども合流させて、城井川と合流して新開と湊の間で周防灘に注ぐ。流域には小川ダム、椎田町簡易水道施設があり、町の貴重な水資源を確保している。

山崎遺跡は、岩丸川が小山田川と交わるあたりのやや上流側の右岸で、標高21m前後にある。露岩を現せている岩丸川河床と遺跡との、比高は約2mである。

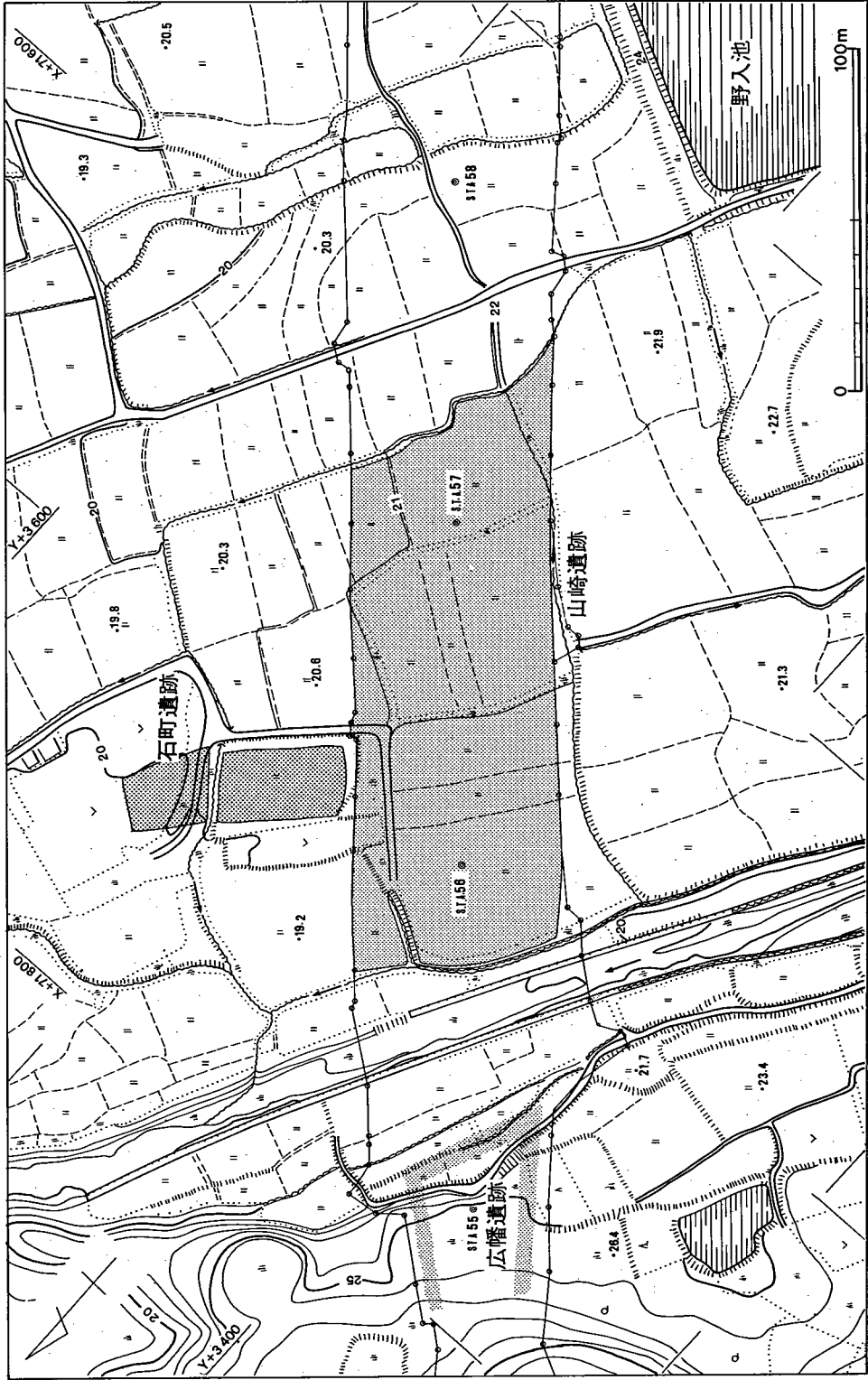
遺跡と県道日出野・椎田線の間は、試掘の結果ではなんら遺構・遺物が検出されていない。帯田池・大林池・林崎池・野入池・引金池を経て引金橋付近で岩丸川に通ずる水路のあることから、旧河道があった可能性も高い。

地区割 (第5図)

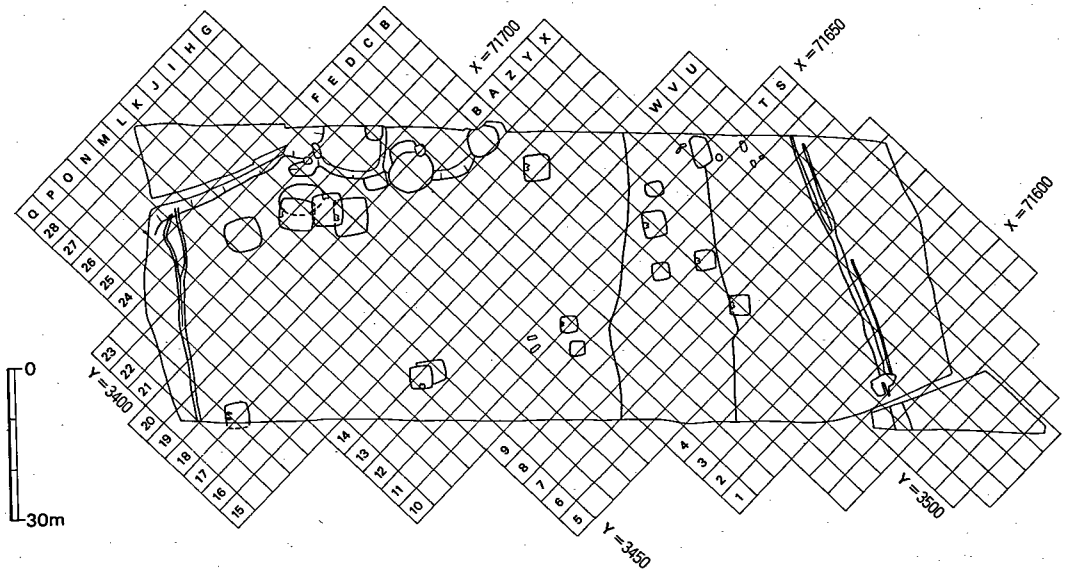
山崎遺跡では、縄文時代の遺物包含層が確認され、奈良時代の遺構もあるので、表土剥ぎ実施後に、公共座標に合わせた実測基準点の設置と地区割りをすることにした。

地区割りは、遺跡南部のX=71600, Y=3500点を基点として、5m刻みに、北へ1・2・3~28と数で、西へA・B・C~Q, 東へはZ・Y・X~Sとアルファベットで区分して、A1区・B2区のように呼ぶことにした。たとえばX=71700, Y=3450点の北西側の5m四方の区画はK22区になる。

プランで確認した場合は、1号住居跡や2号土壌などの名称を付すが、遺構プランの不明瞭なものは地区名で扱い、遺物収納にもこれを用いている。



第 4 図 山崎遺跡地形図 (1/2000)



第 5 図 山崎遺跡地区割図 (1/1500)

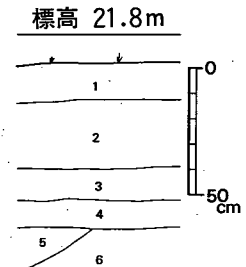
層 序 (第 6 図)

山崎遺跡の基本的な土層堆積を、調査区南端の小溝 3・4 の北側部分で説明する。

第 1 層は、厚さ 15~20cm の水田耕作土。第 2 層は、黄色粘土で厚さ 25~30cm の水田床土。第 3 層は、厚さ 10~15cm の砂礫を含む灰黄色粘性土。第 4 層は、古墳時代から中世の遺物の包含層で、厚さ約 10cm の暗灰褐色砂質粘性土。第 5 層は、灰褐色の砂礫質土の構内埋土。第 6 層は、地山の黄褐色・淡茶褐色砂質粘土。古墳時代以降の住居跡や、柱穴状ピットは灰褐色土や暗灰茶褐色の堆積土のものが多く、北側ほど色調は黒味を帯びる傾向がある。

小溝 2 のあたりでは、地山の黄褐色・淡茶褐色砂質粘土が無くなり、それより北側の土層堆積は、第 4 層相当層がやや灰茶色を帯びる黒色土になり、古墳時代と縄文時代の遺物包含層になっている。黒色土の下層は色調が淡くなり、縄文時代の遺物包含層だが、河原石がかなり混じる。さらに下層は茶褐色の砂質粘性土で、河原石がかなり混じるも、下位は色調が淡い。縄文時代の遺物を含み、住居跡はこの層の下位を切り込んでいる。地山は、河原石の礫層の部分および淡茶褐色の礫を含む砂質粘土である。

なお、隣接する簡易水道施設建設時の深層掘削では、地表下約 4 m あたりから青灰色の風化凝灰質角礫岩が厚く見られた。



第 6 図 基本土層図 (1/30)

遺構の概要

山崎遺跡で検出された遺構・遺物は、縄文時代から中世の時期にまたがる。

縄文時代の遺構としては、竪穴住居跡7軒(1～7号住居跡)、甕棺墓3基、そして遺物包含層である。

弥生時代の遺構は無いが、遺物が若干出土した。

古墳時代から奈良時代の遺構は、竪穴住居跡13軒(8～20号住居跡)、竪穴2基、小溝5条と、掘立柱建物を構成する柱穴と思われる柱穴状ピット群がある。

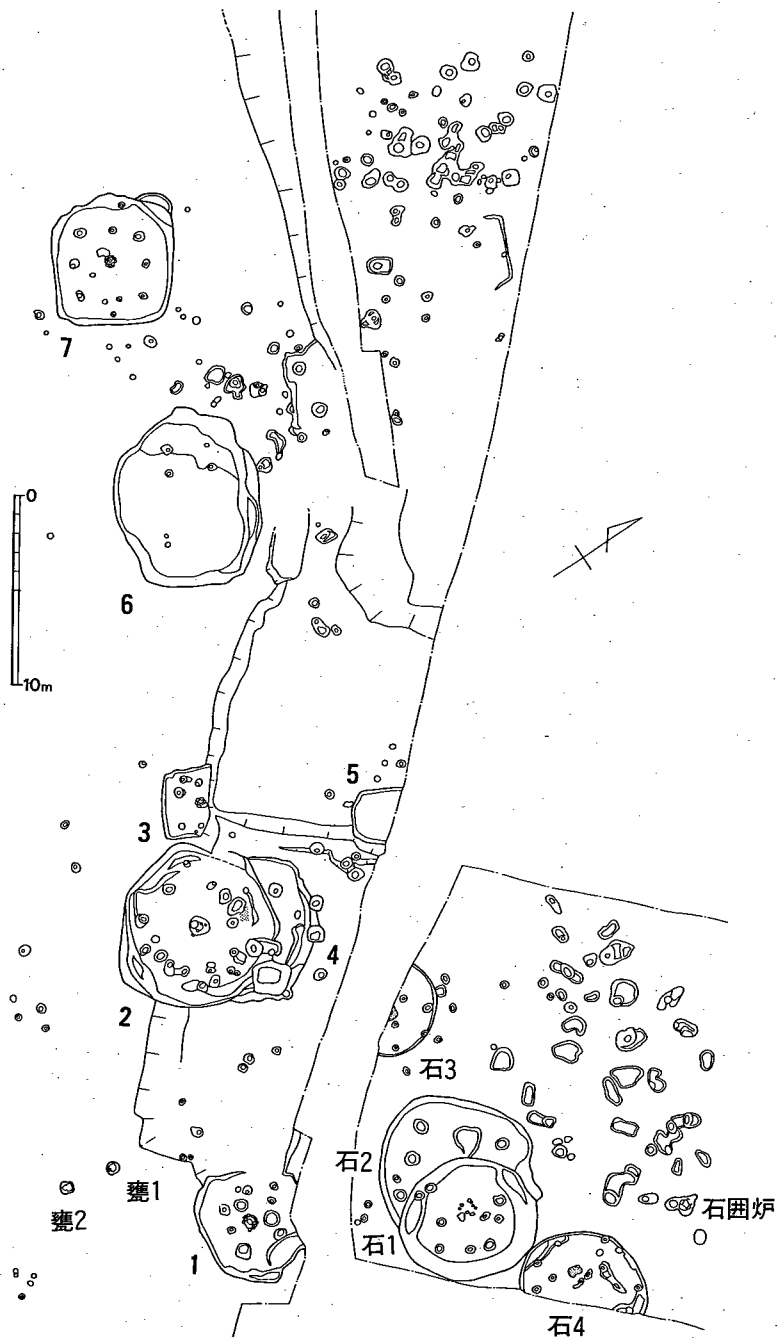
中世を中心とする時期の遺構は、掘立柱建物跡13軒と多数の柱穴状ピット、土壇9基、小溝1条などである。

いしまち石町遺跡の遺構概要

山崎遺跡に隣接して位置する石町遺跡は、1975年に築上西高校社会部の部活動で分布調査中に発見された。採集された遺物は築上西高校に保管され、一部実測図が発表されている。

また1987年に椎田町上水道浄水場施設建設に先立ち、椎田町教育委員会による発掘調査が実施された。諸々の制約から調査範囲は、大字越路字石町1275・1278・1279と字山崎1343にわたる、約1500㎡に留まっている。縄文時代の竪穴住居跡4軒・土壇・ピット、古墳時代の竪穴住居跡6軒・中世の土壇4基・掘立柱建物2軒などが発見された。調査報告書はあるが、十分な遺物整理のなされない段階のものであった。整理を補足して、本書のⅢ-2-4・下巻Ⅲ-5-7に併せて報告することにする。

註 築上西高等学校社会部 1976・1980 紡錘車 第3号・第7号
椎田町教育委員会 1988 石町遺跡 椎田町文化財調査報告書 第2集

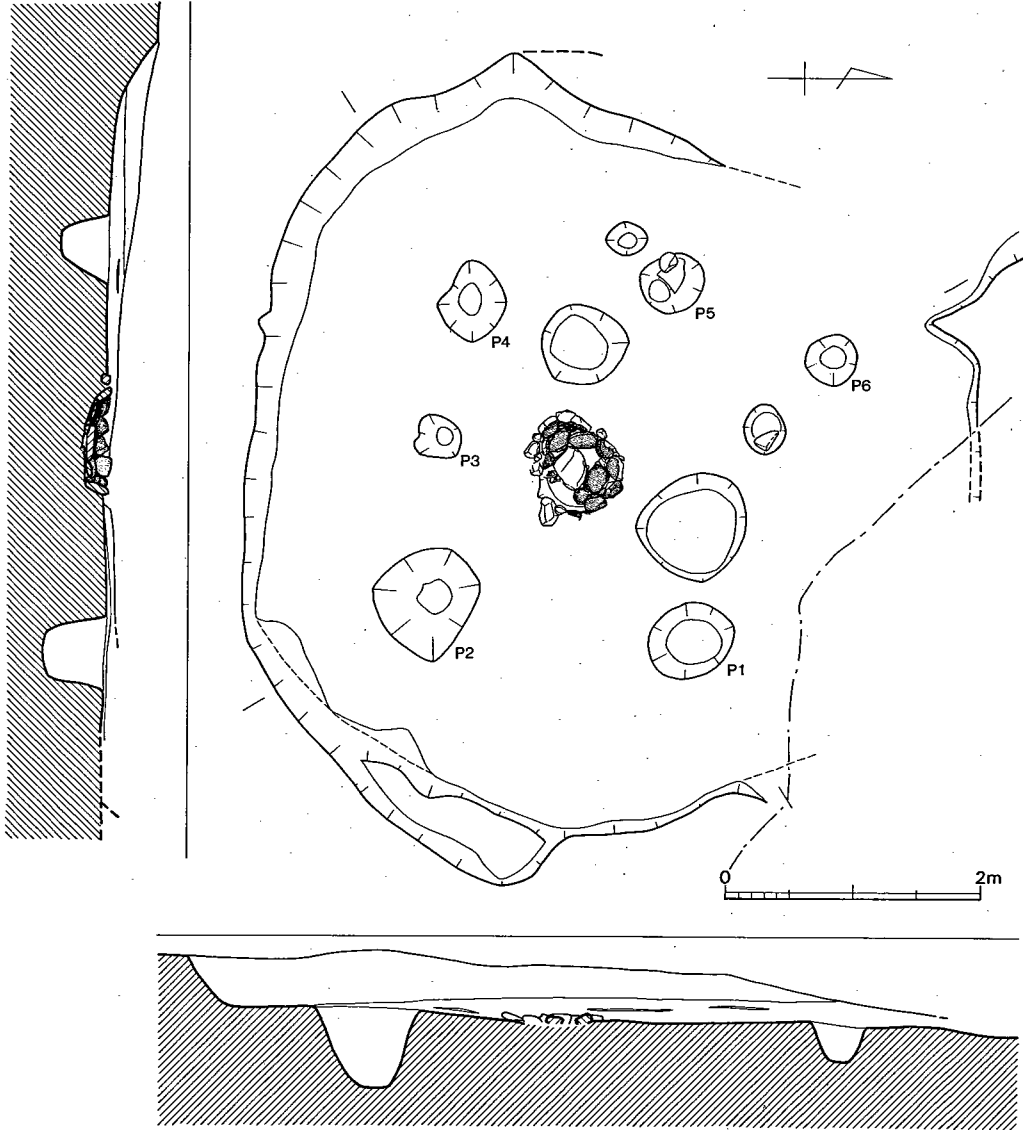


第 7 図 縄文時代の遺構配置図 (1/400)

2 縄文時代の遺構と遺物

1 住居跡

7軒の竪穴住居跡は、いずれもX=71685より北側の調査区北部で検出された。調査区北端の



第 8 図 1号住居跡実測図 (1/60)

一段低い水田部分では、柱穴状ピットが検出され、縄文土器のみ出土するピットもある。あるいは住居跡群がここまで広がっていて、削平によって失われた可能性も捨てきれない。

7軒のうち、重複関係にあるものは、2号住居跡と4号住居跡で、2号が新出する。

1号住居跡 (図版4-1, 第8図)

調査区北部の、B18区・C18区を中心に検出された。東西5.3m、南北5.3mの、隅丸方形とも円形ともとれるような、不整形なプランを呈している。北から北西側は、水田開削によって削平され、壁面は不明瞭であり、東側の壁は一部崩れている。南側で、検出面から床面までの深さ0.35m前後を有し、周壁はやや斜面をなしている。床面は堅緻で、床面積23㎡を測るが、本来25㎡程であろう。床面に掘り込まれている柱穴は10あり、P1～6が支柱穴と推定され、未掘部分に1つあるものと考えたい。柱穴は直径30～80cm、深さ35～60cm前後である。柱穴内に柱を固定するために石を詰めたものもある。なお、床面中央に石囲炉がある。

石囲炉 (図版4-2, 第9図) 長径85cm弱の土壌内周壁に、扁平な河原石を貼り付けるかのように並べ、中央の底にやや広目の扁平石を敷いている。石の隙間に小さな円礫を詰め込んだ部分もあるが、南東側で石の抜けた部分が見られてよく火熱を受け、赤変している。南側にも、火熱を受けてひび割れを生じている石がある。

出土遺物

遺物は、縄文土器が破片でパンコンテナ2箱分、石鏃・打製石斧・すり石・石皿などの石器類、土製円板などが出土した。

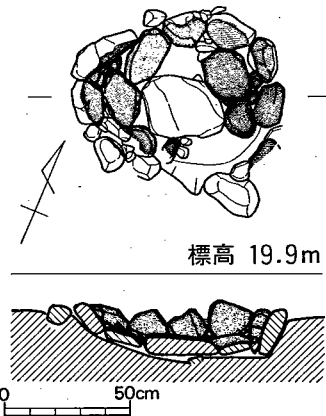
縄文土器 (図版5-6, 第9～12図, 表2)

1類 (1～3) 沈線文で区画される文様をもつ土器。くびれた頸部以下に文様の施文が無く、1では文様は口縁部に限定されているが、小池原上層式の範疇に入る。

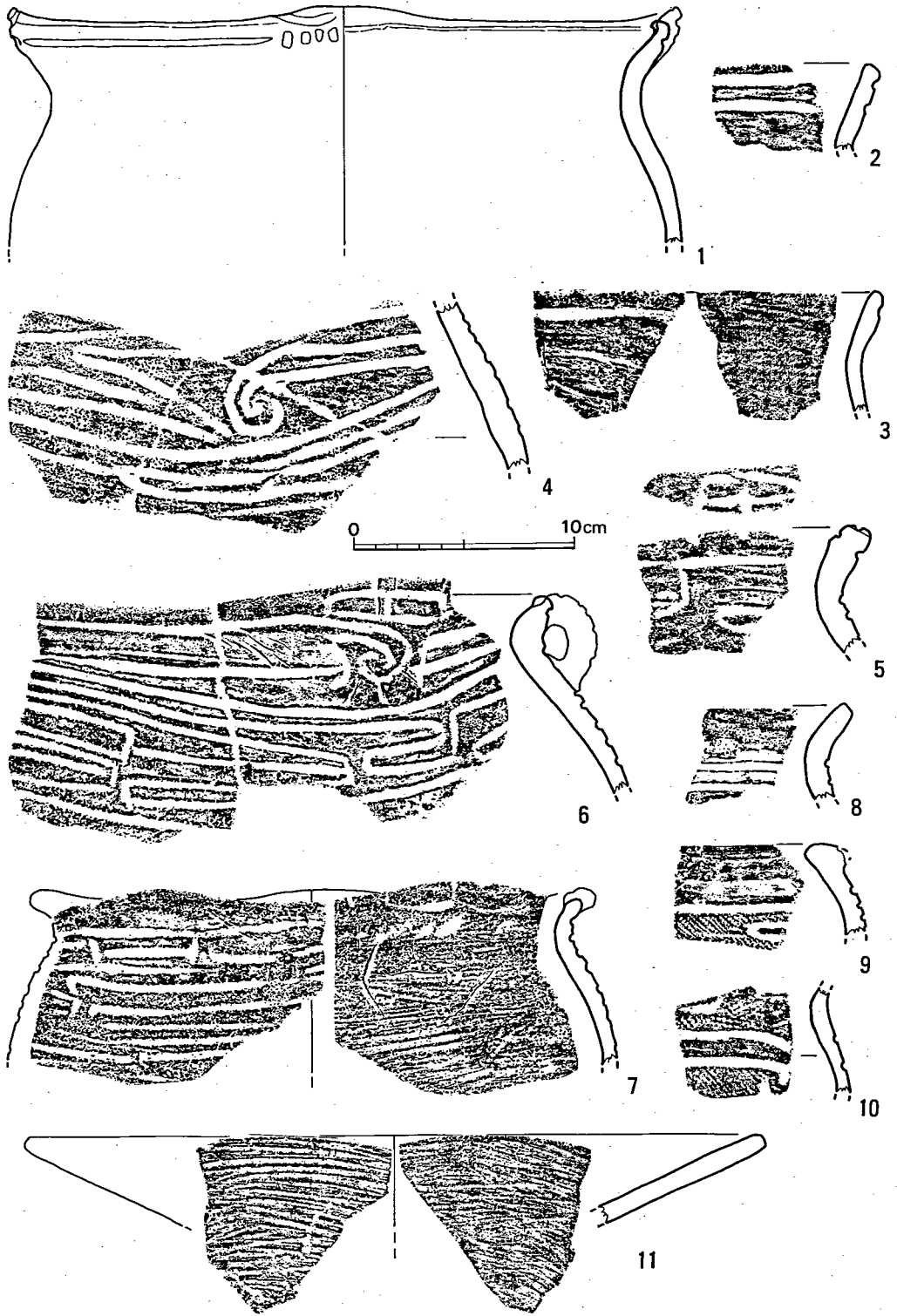
2類 (4～8) 沈線文で区画される文様をもち、口縁部は短く外反する。4・6・7では胴部にかけて蕨手状文様やJ字文様が描かれている。鐘崎式に類似する。

3類 (9・10) 沈線文で区画される文様をもち、区画内に縄文が施文されるもの。文様の幅は広めである。小池原上層式であろう。

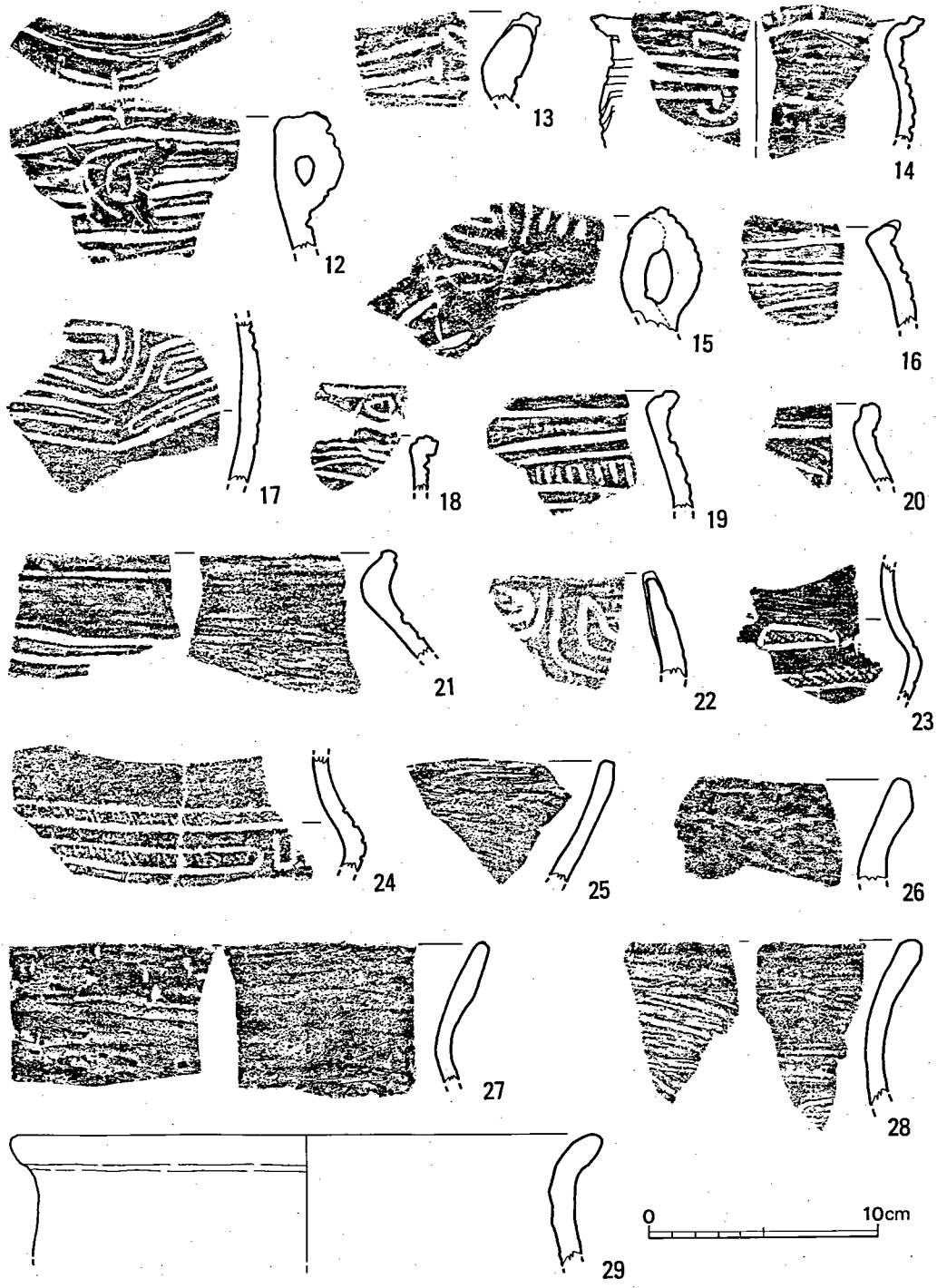
4類 (12～22) 沈線文で区画される文様をもつが、沈線の細めのもの。蕨手状文様やJ字文様の描かれるものもある。鐘崎式でも新しい要素であろう。



第9図 1号住居跡炉跡実測図 (1/30)



第 10 图 1号住居跡出土土器拓影 1 (1/3)



第 11 图 1 号住居迹出土土器拓影 2 (1/3)

5類 (23・24) 沈線文で区画される文様で、区画内に縄文・アナグラ疑似縄文が施文され、沈線・文様の幅は細めである。鐘崎式の範疇に入るが、その中では新しい段階のもので有ろう。

6類 (25~27・29) 無文のもの。

7類 (11・28) アナグラ条痕・ヘナタリ条痕で調整される土器。

8類 (30~32) 底部で、30・31は無文、32はヘナタリ条痕が外面に施文されている。30の外底面はケズりに近いナデ調整だが、31の外底面には平行した縄圧痕がみられる。簾状の編み物圧痕であろうか。

石器 (図版5, 第13図, 表14)

打製石斧 (1・2) 扁平打製石斧で、刃部の一部を欠く。1は短冊形で、2はやや撥形を呈し、刃部に擦過痕がみられる。

すり石 (3~6) 3・4は円礫の平坦面をすり面にしたもの、5・6は円礫の平坦面がすり面と敲打面になるもの。

磨製石斧 (7) 乳棒状の体部をもつが、刃部を欠く。

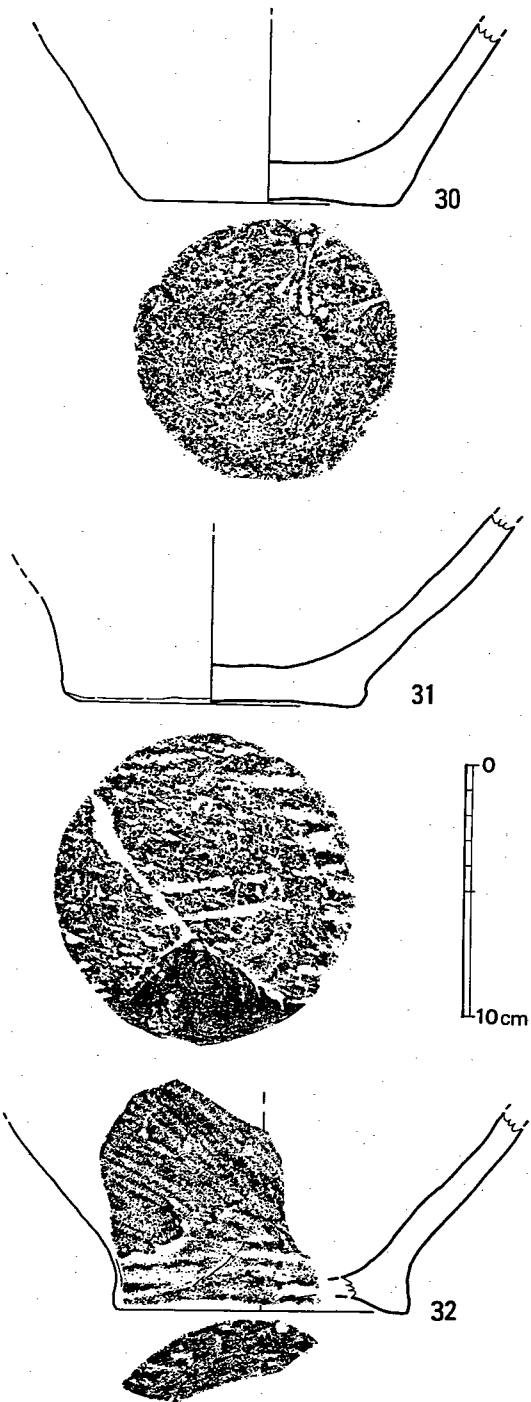
石皿 (8・9) 破片資料だが、2点ともに上下両面とも使用面になっている。

石鏃 (10) 安山岩の剝片を素材にして、先端と抉りの部分に調整剝離を加えている。

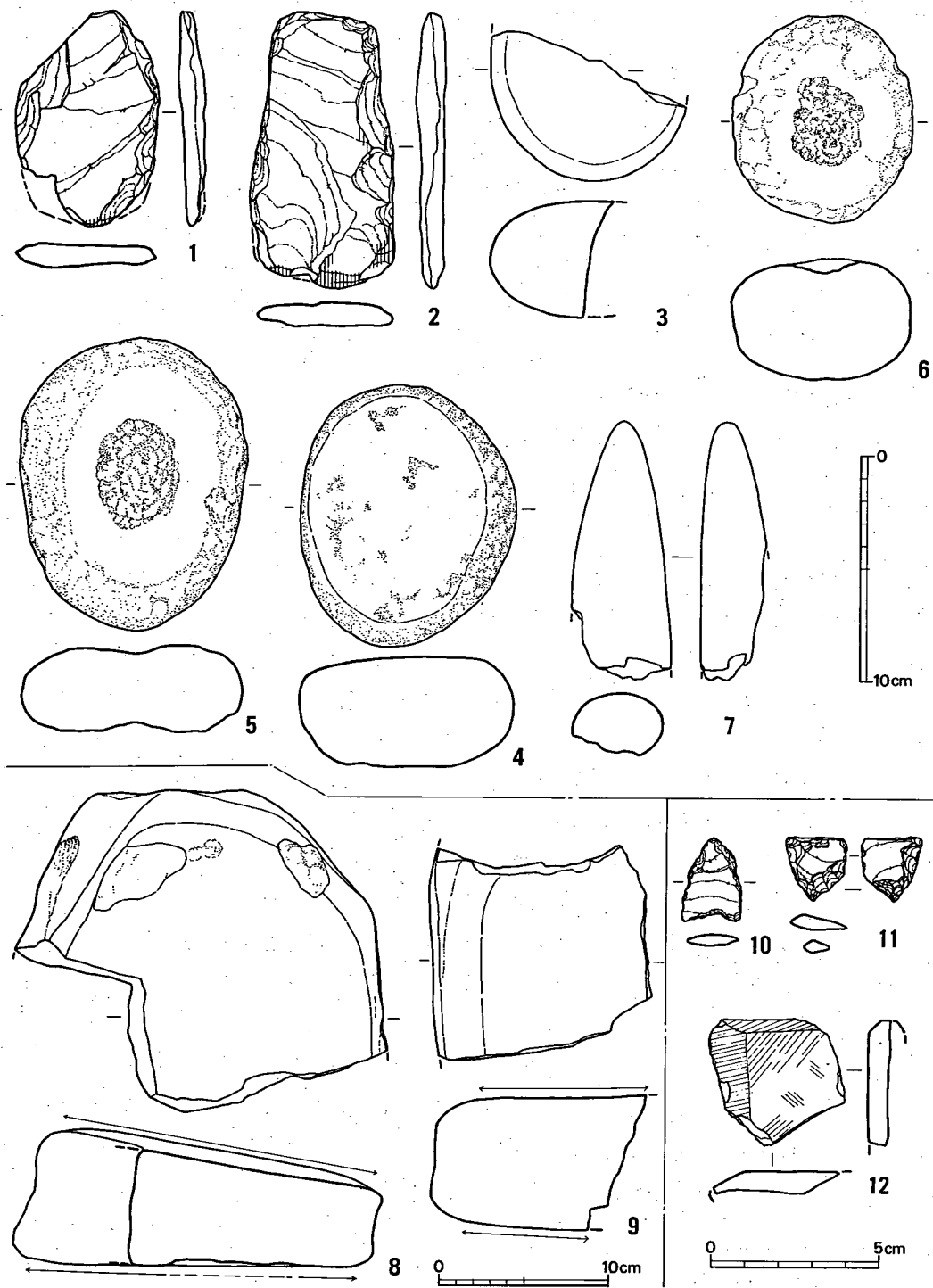
石錐 (11) 姫島産黒曜石の剝片基部を調整して刃部にしている。

用途不明石器 (12) 粘板岩質の石材で、破片のため本来の形状は不明。厚みの現存値7mmだが、10mm以上の厚みがあろう。研磨調整され、縁部は面取りされている。

土製品 (図版6, 第14図, 表19)

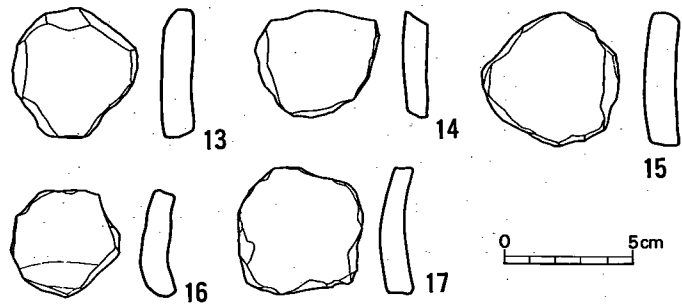


第12図 1号住居跡出土土器拓影3 (1/3)



第 13 图 1 号住居跡出土石器実測図 (1/2 · 1/3 · 1/4)

土製円板 (13~17) 土器片を打ち欠き、円形 (A)、方形ないしは三角形に近い形 (B) に調整するが、周縁を研磨するもの (1類)、打ち欠きのみもの (2類) に分けうる。1号住居跡の5点の土製円板は、いずれもB2類に分類される。

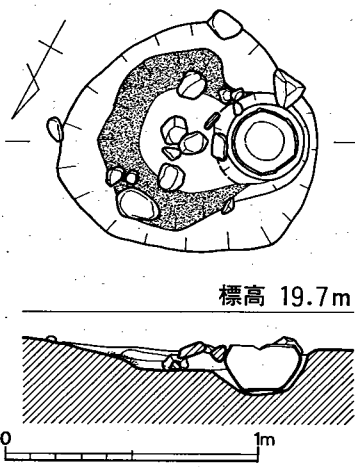


第14図 1号住居跡出土土製品実測図 (1/3)

2号住居跡 (図版7, 第16図)

調査区北部で、2号住居跡の約10m西北西に検出された。長径8.5m, 短径8.0mの、不整円形プランを呈すが、北側から東側は、水田開削によって削平を受けており、北東部は肥料溜めの穴によって周壁の一部を失う。北側で4号住居跡と重複し、4号住居跡を切っている。周壁は、南側で0.7mの深さを有している。河原石を含む地山を掘り込んでいて、壁面は下部で緩やかになり気味な傾斜をもっている。床面は約42.5㎡の広さだが、礫が無数に露出する状況である。床面を掘り込む柱穴状のピットは25穴あるが、重複する4号住居跡の主柱穴も含まれているものと思われる。柱穴状のピットは、直径30~80cm, 深さ30~50cmの規模のもので、主柱穴はP1~14であろうか。周壁に沿って並んでいるようでもある。

炉跡は、中央に埋置土器を伴う地床炉と、北側に2m程離れた所にも焼土部分がみられる。位置からみて、中央の炉は2号住居跡に伴い、北側の焼土は4号住居跡の炉の痕跡であろう。

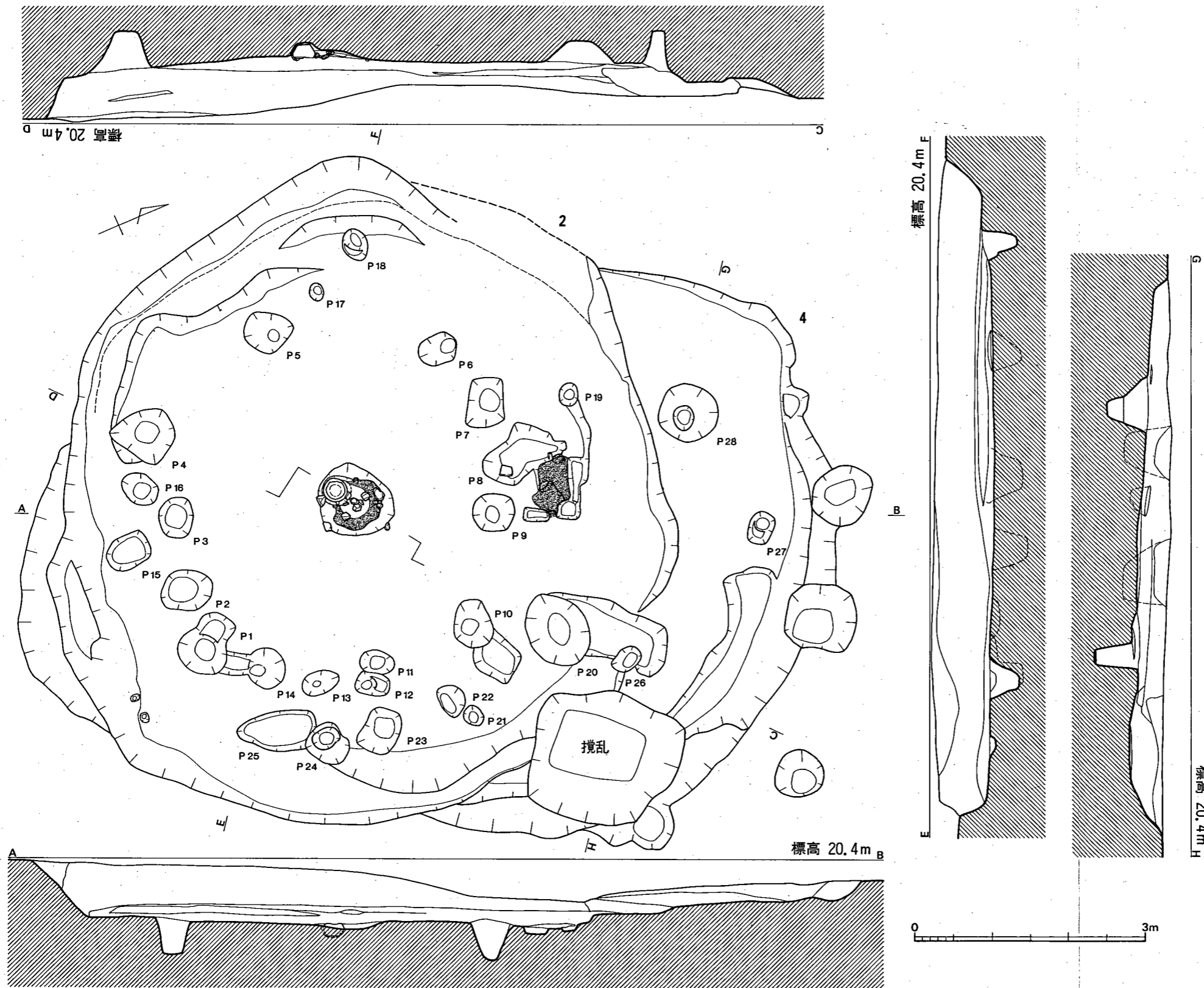


第15図 2号住居跡炉跡実測図 (1/30)

土器炉 (図版8-1, 第15図) 長径105cm, 短径90cm, 深さ10cm程の皿状の凹みの中に、径70cm程の馬蹄形の焼土のある地床炉で、口縁部を打ち欠いた鉢形土器を南西側に埋置させた、複式炉である。馬蹄形の焼土はよく焼けているが、その周囲の焼け方は弱い。

出土遺物 (図版8-3・9)

住居跡内では、南部の残り方がよかったが、土器塚の如く土器片が厚く堆積した状況であった。北側は前述したように、削平を受けていたこともあり、遺物の出土量が少なめであった。土器片はパンコンテナ満杯で20箱出土し、打製石斧・石鏃・磨製石斧・石皿・すり石などの石器類、土製円板なども出土した。



第 16 图 2·4 号住居跡実測图 (1/60)

縄文土器（図版10～15，第17～35図，表2～5）

土器炉使用土器（図版8－2）現在紛失中で，見づかり次第改めて報告することにした。

口頸部を欠く，有文の鉢形土器。胴部には，対称的な斜方向に描かれた，沈線文様がみられる。発掘時の計測では，残存高18cm，胴部最大径約30cm，底径約15cmの大きさ。

床面・柱穴出土土器（33～38）33はP1，34はP2，35はP9から出土した，無文の鉢口縁部破片。内外面ともナデ調整されている。

36～38は床面出土の，脚台と底部で，底部は有文の鉢形土器であろう。

1類（39・40）太めの沈線と縄文が施文されている。小池原上層式の範疇に入る。

2類（41～43）沈線文で区画される文様をもち，口縁部は短く外反する。沈線はやや太めで，蕨手状文や渦巻状文様が描かれている。鐘崎式に類似する。

3類（44～60）沈線文で区画される文様をもち，口縁部は短く外反する。沈線は細めで，蕨手状文や渦巻状文・同心円弧文・S字文様が描かれている。なかには45～49・55・60・126などのように，口縁部の屈曲が緩く口縁部外面に沈線を巡らせるものもある。鐘崎式に類似するがやや後出するものであろう。

60は復原口径43.5cm，残存器高37cm，胴最大径45cmの大きさの鉢。4つの頂部をもつ波状口縁の頂部口唇に放射状の刻みと内面に押し引きの刺突が施され1条の沈線が巡る。波頂部下の肩部に二段の同心円弧文があり，これを繋ように斜線・横線が描かれ，斜線と横線の接点に刺突が施されている。

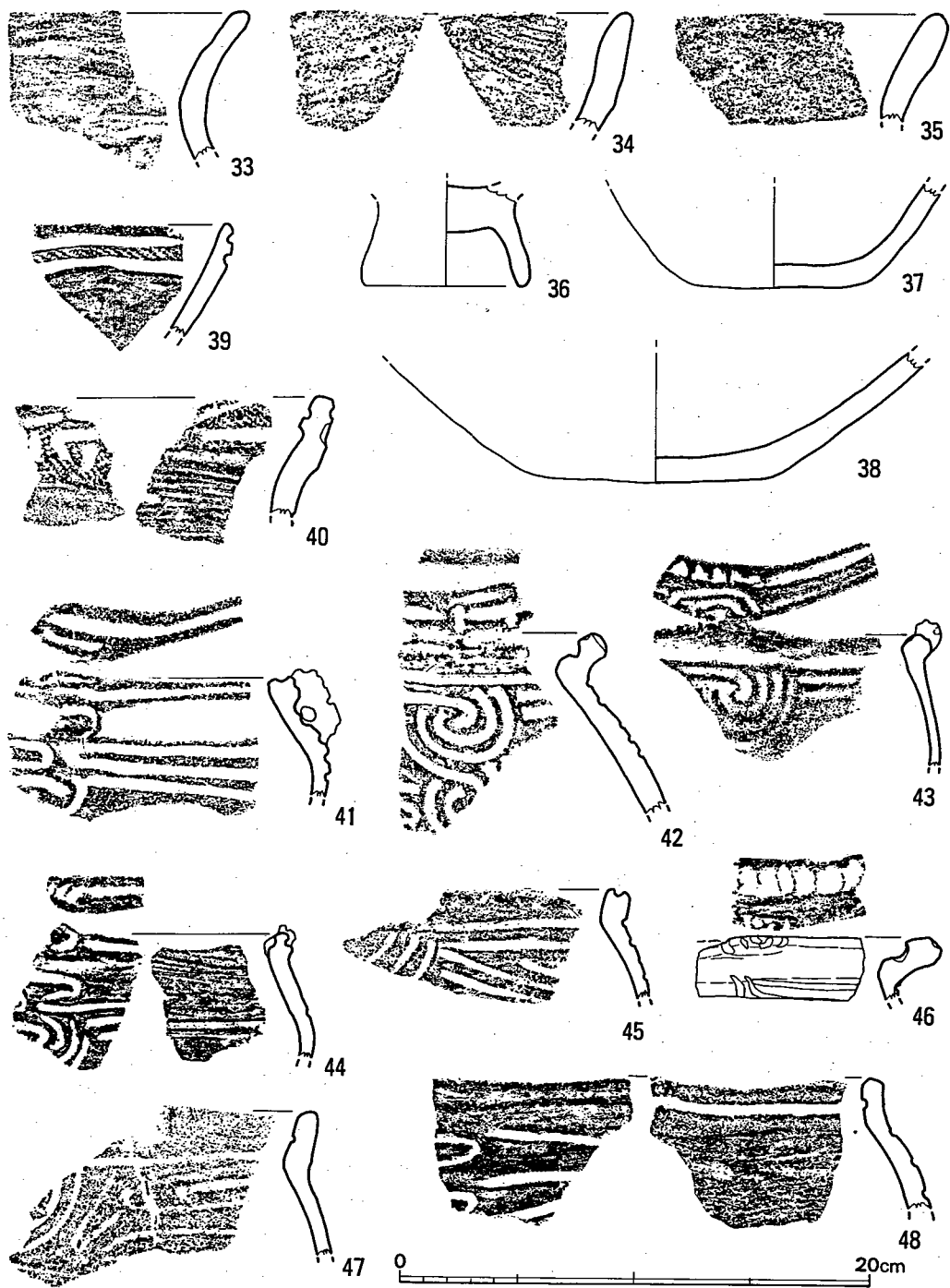
4類（61・125～129・134）沈線文で区画される文様をもつが，沈線は細め。口縁部は，頸部から緩やかに外反するが，なかには，く字形に屈曲して内傾するものもある。渦巻状文・同心円弧文・斜線文様の描かれるものもある。

61は復原口径47cm，残存器高24cm，胴最大径45cmの大きさ。口縁部は波状口縁かも知れない。胴部文様帯を区画する横線を巡らせた後に，退化した同心円弧文と斜線を描き，文様帯の上の平行沈線間に列点的な短い斜線を並べている。

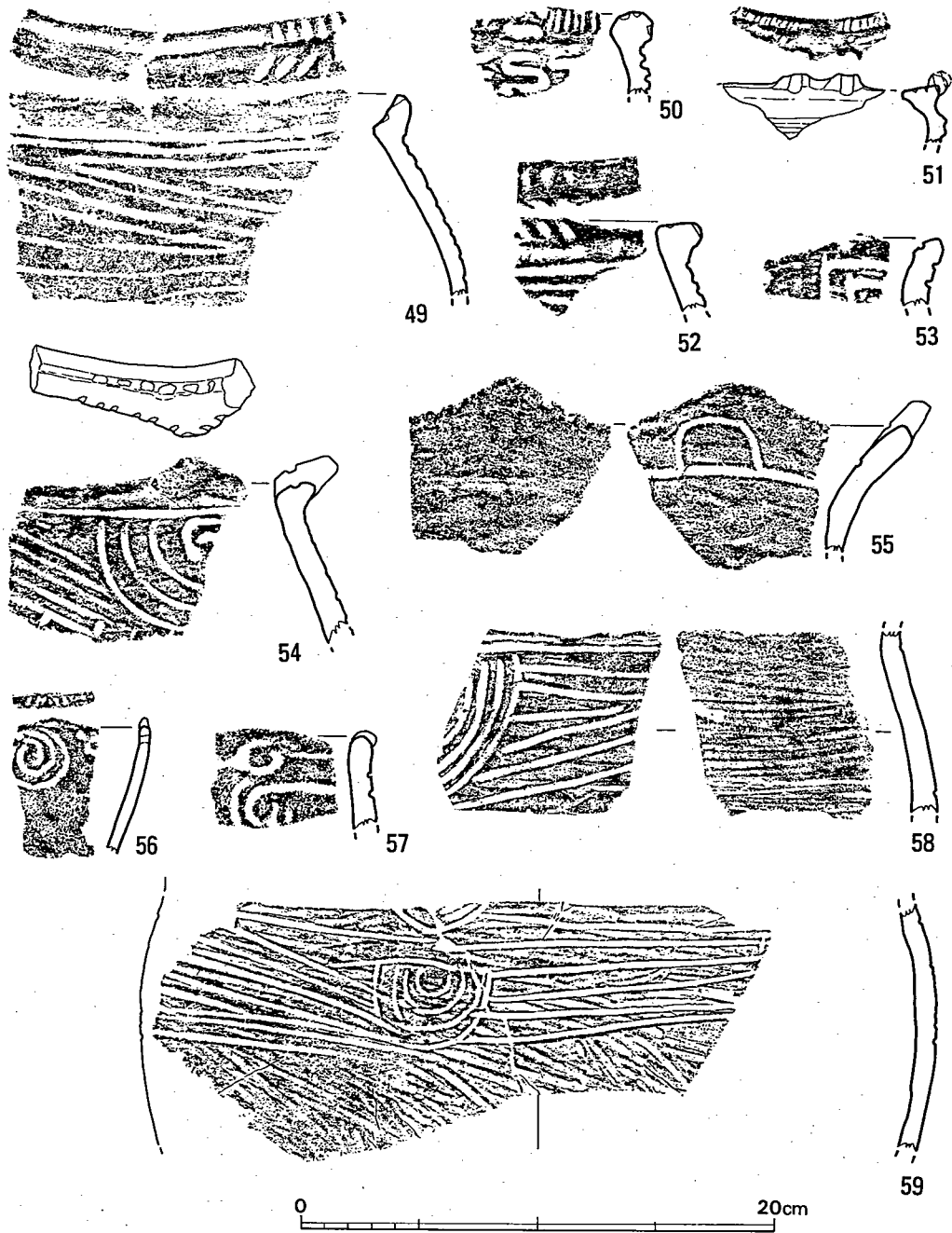
5類（62～81・123）沈線文で区画される文様をもち，沈線は細め。口縁部は，頸部から緩やかに外反するが，なかには，く字形に屈曲して内傾するものもある。文様は直線的なものが多く，沈線区画内や口縁部文様帯に縄文が施文される。縄文はRLが大半を占め，LRが若干ある。磨削縄文手法をとるが，67などはあまり消されていない。胴部文様帯の上に，刺突列点や，押し引きの沈線を巡らせるものもある。いわゆる縁帯文土器の範疇に含まれる。なお，123は椀形若しくは注口土器であろう。

63は，復原口径28.5cm，残存器高19cm，胴最大径29cmの大きさの鉢。口縁部はわずかに肥厚し，1cm強の幅で，縄文RLが施文されている。胴部にはやや曲線的な文様が描かれている。

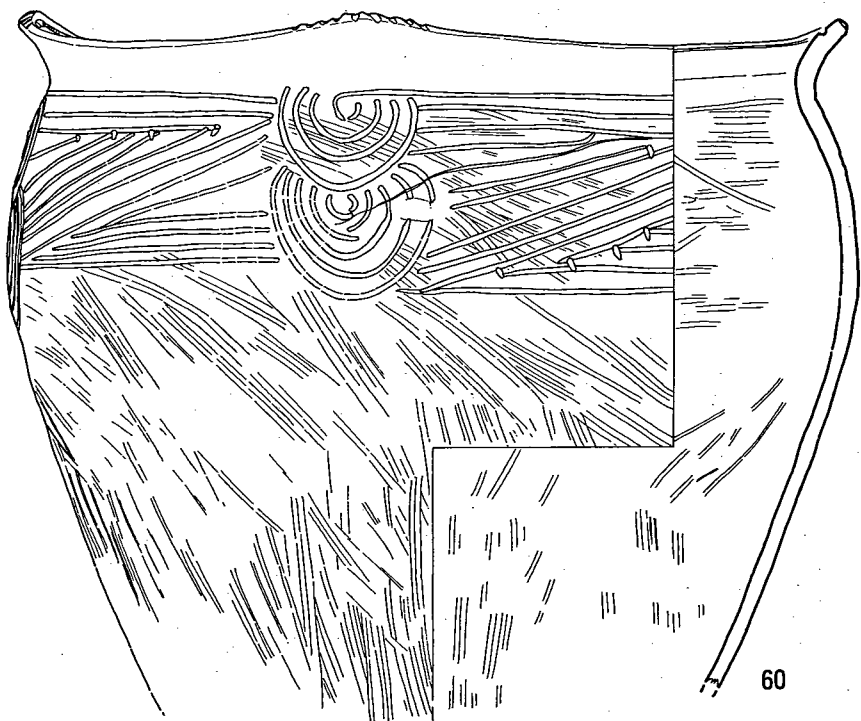
69は，波状口縁口唇部に縄文RLが施文され，頂部は肥厚して，刻みないし豚鼻にも似たS字



第 17 图 2号住居跡出土土器拓影1 (1/3)



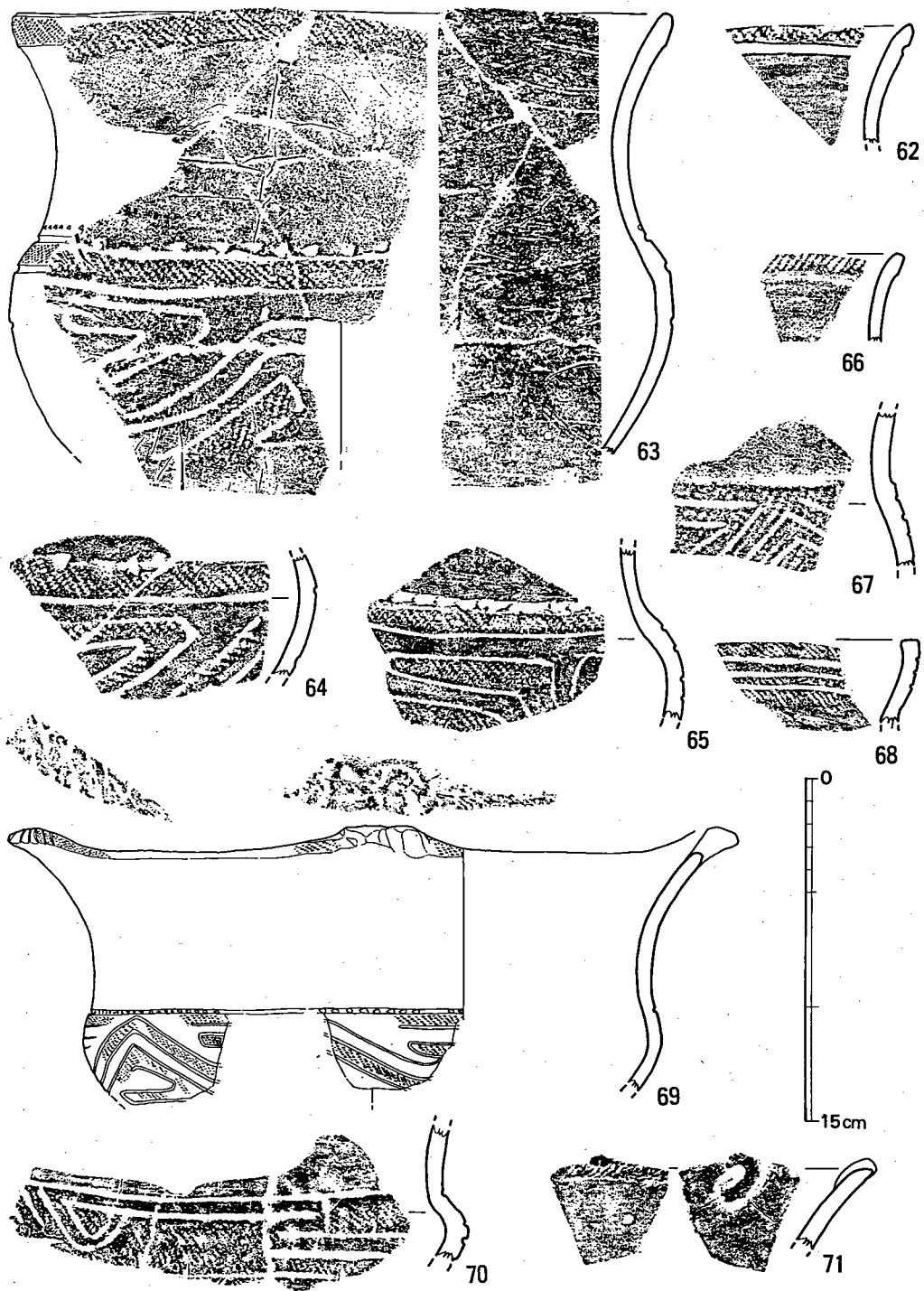
第 18 图 2号住居跡出土土器拓影 2 (1/3)



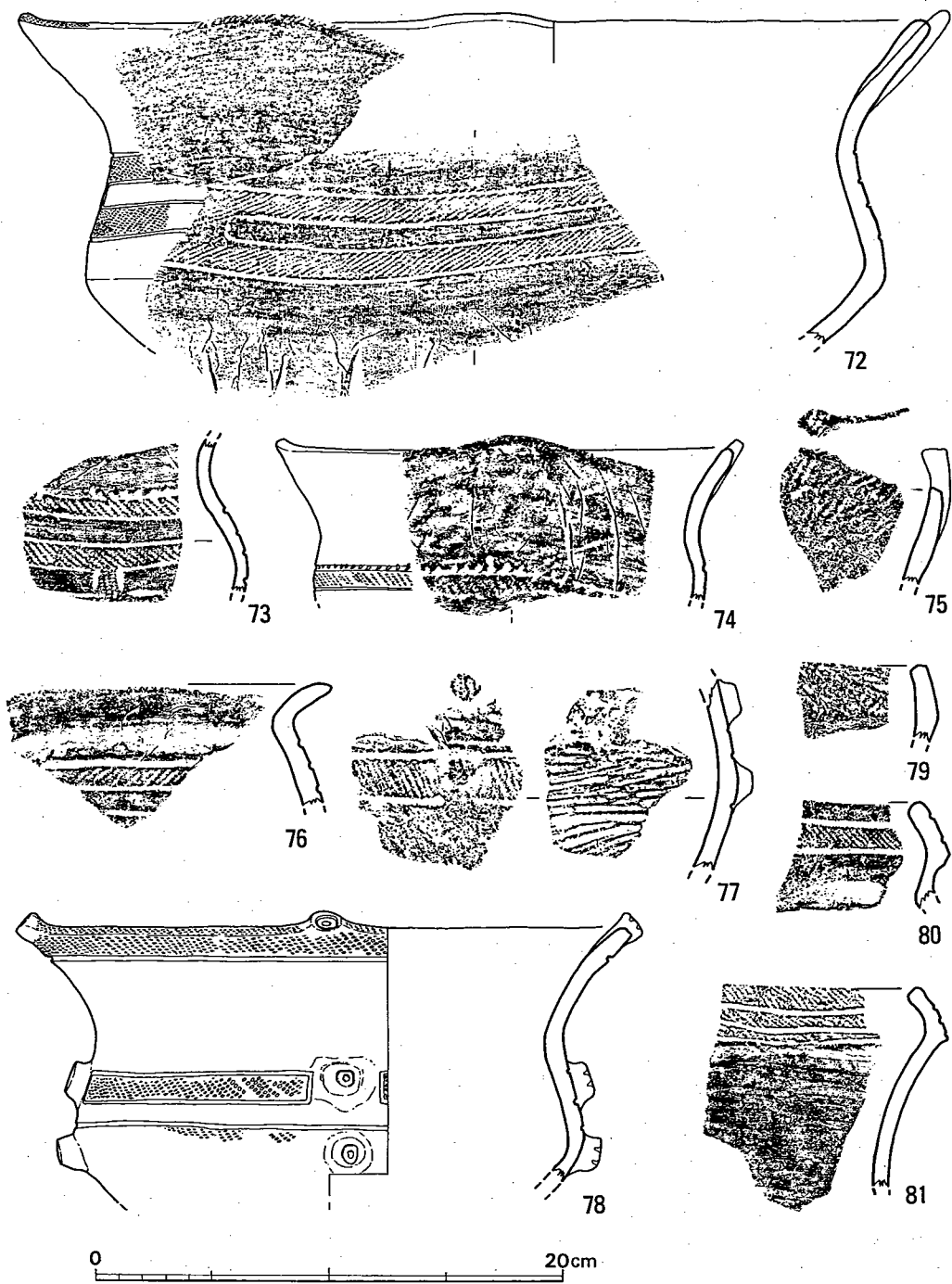
0 20cm



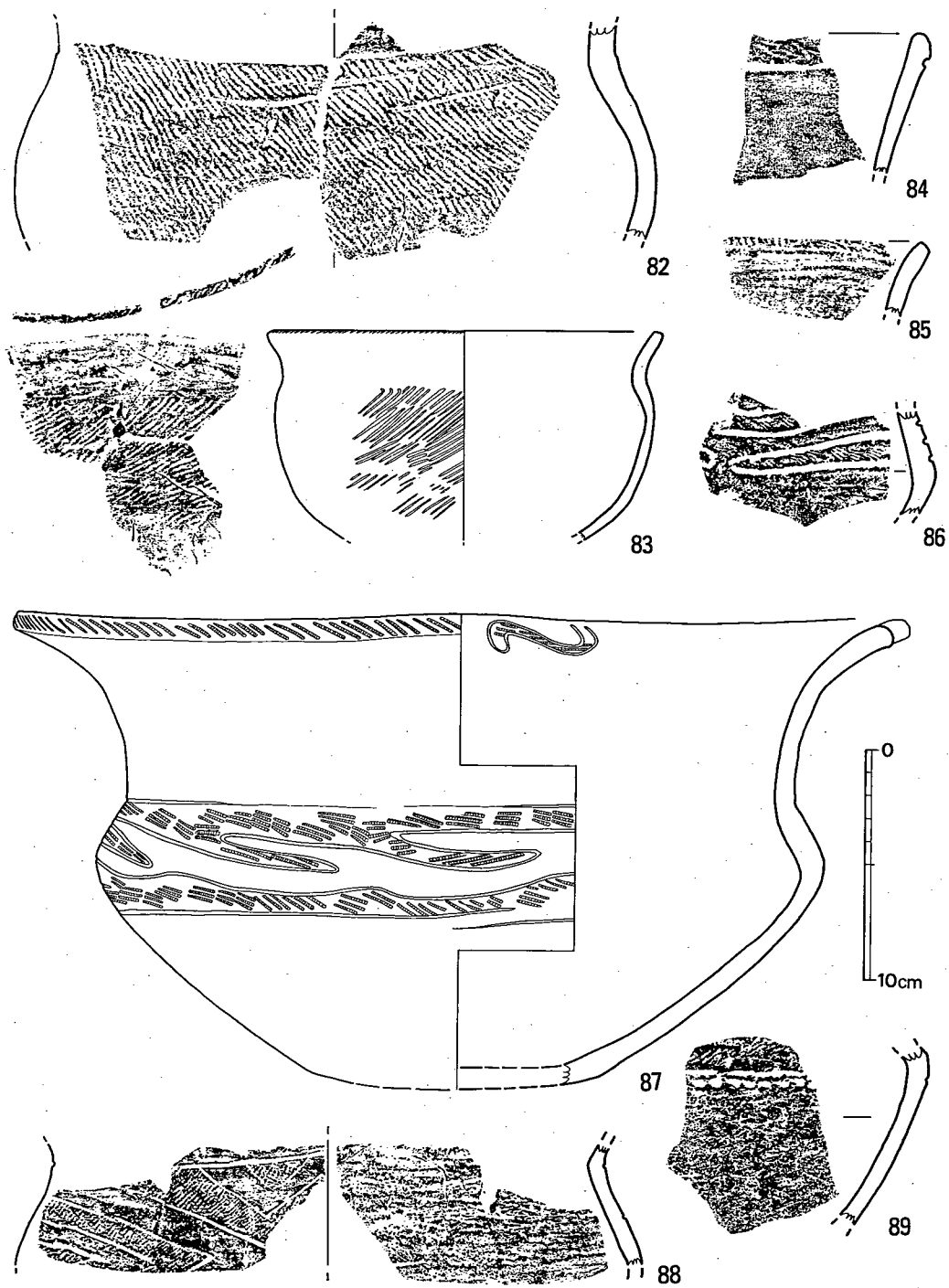
第 19 图 2号住居跡出土土器拓影 3 (1/4)



第 20 图 2号住居跡出土土器拓影 4 (1/3)



第 21 图 2 号住居跡出土土器拓影 5 (1/3)



第 22 图 2号住居跡出土土器拓影 6 (1/3)

状の装飾を施している。胴部の文様では沈線が区画幅で細めで、S字文がみられる。

77・78は、円形の貼り付け装飾をもつ。口縁部では4つの突起となり、その下の胴部では縦に2つの突起が並ぶ。突起列を繋ぐ縄文施文の区画は1cm強とやや広い。

79～81は、口縁部が内傾するもので、80は磨消縄文手法をとるが、81は縄文施文後に沈線を巡らせたまま放置されている。

6類 (82・83) 口縁部と胴部に、縄文のみ施文されるもの。

7類 (84～98) アナグラ疑似縄文が施文されるもの。87のように、緩やかに外反する口縁部をもち、沈線で区画された文様が施されるもの(a)、93のように、沈線で区画された文様のないもの(b)、95～98のように、口唇部下が低い突帯状に肥厚して綾杉状の列点や短沈線列が描かれ、豚鼻状の貼り付けなどで飾られるもの(c)に細分しうる。

7a類の、87は復原口径38cm、器高20cm、胴最大径31cmの大きさ。低い波状の口縁部外面と胴部に沈線で区画した文様帯を作り、胴部文様帯内には雲状の曲線文様を描いている。波頂部内面にもS字文様が描かれている。88・91・92は胴部の文様が直線的で、89・90は列点を伴う。

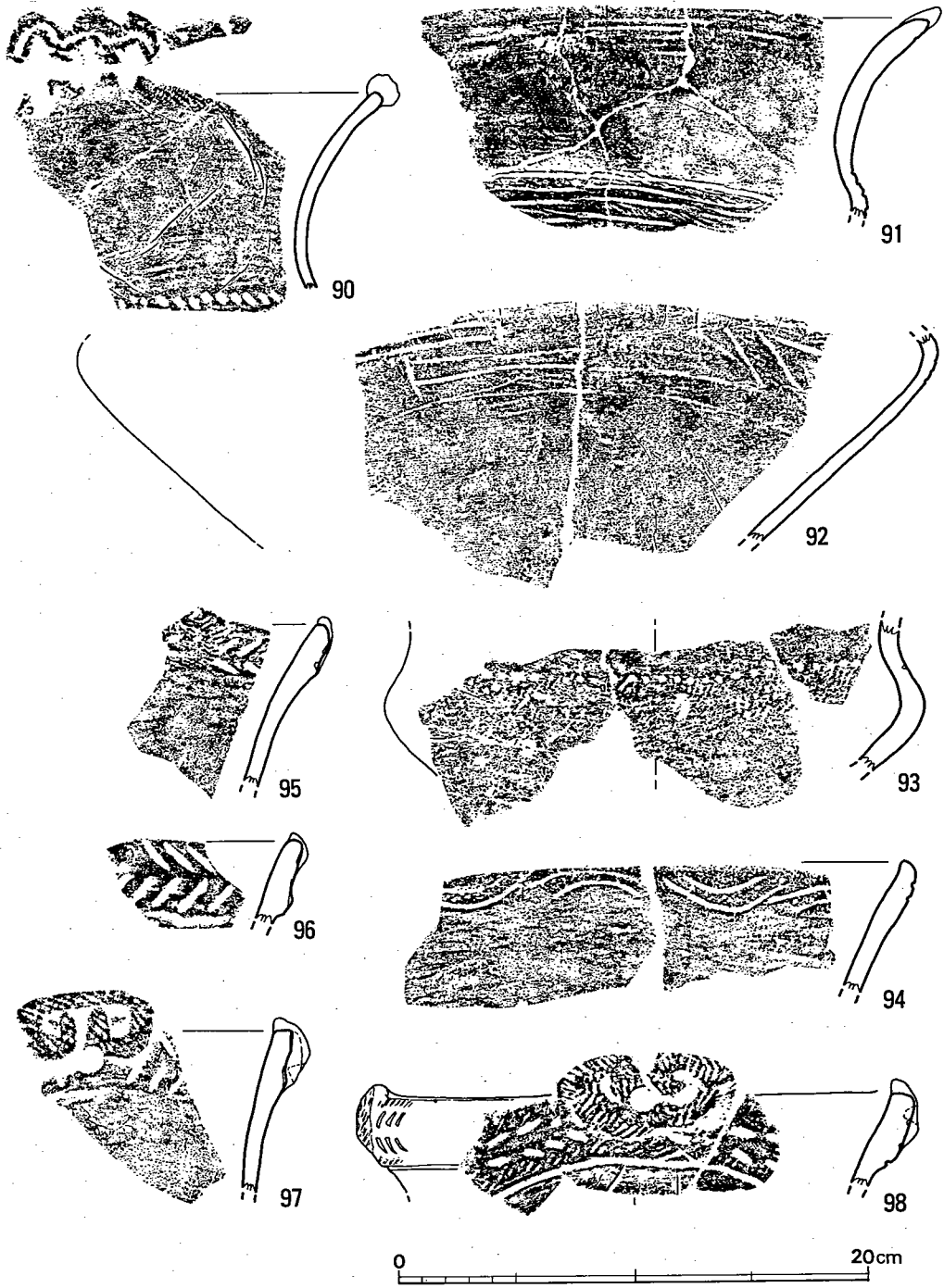
7b類の、93は胴部のみの破片で口縁部の形状は分からない。6類に対応するのであろうが、肩部に刺突列点が巡り、同じく列点を肩部にもつ口縁部破片90では、口縁部にM字またはW字形の貼り付けがみられる。

8類 (99～122) ヘナタリ疑似縄文が施文されるもの。沈線で区画された文様が施されたものは、99～103・106・109～114・120・121などにみられるが、7a類に対応するような、緩やかに外反する口縁部をもつ良好な資料はない。106・107・111・112が相当するものであろうか。一応これを8a類としておく。99～103・110～114は、口縁部が短めで直線的ないし内彎する。文様も直線的な要素が強い。8d類と区別するべきであろう。104・116は沈線で区画されないもので、8b類にするが、116の口縁部は内彎している。また沈線で文様帯の上下が区画されているが99・105・108などは8b類に近い要素を備えていることになろう。115・117～119は、4類61や5類81の土器に対応するものであろう。8b類としておく。120・121は椀ないし注口土器であろう。また、122は脚台付きの皿であろう。内面に蕨状文・S状文が描かれるが、磨消縄文手法を用いていない。

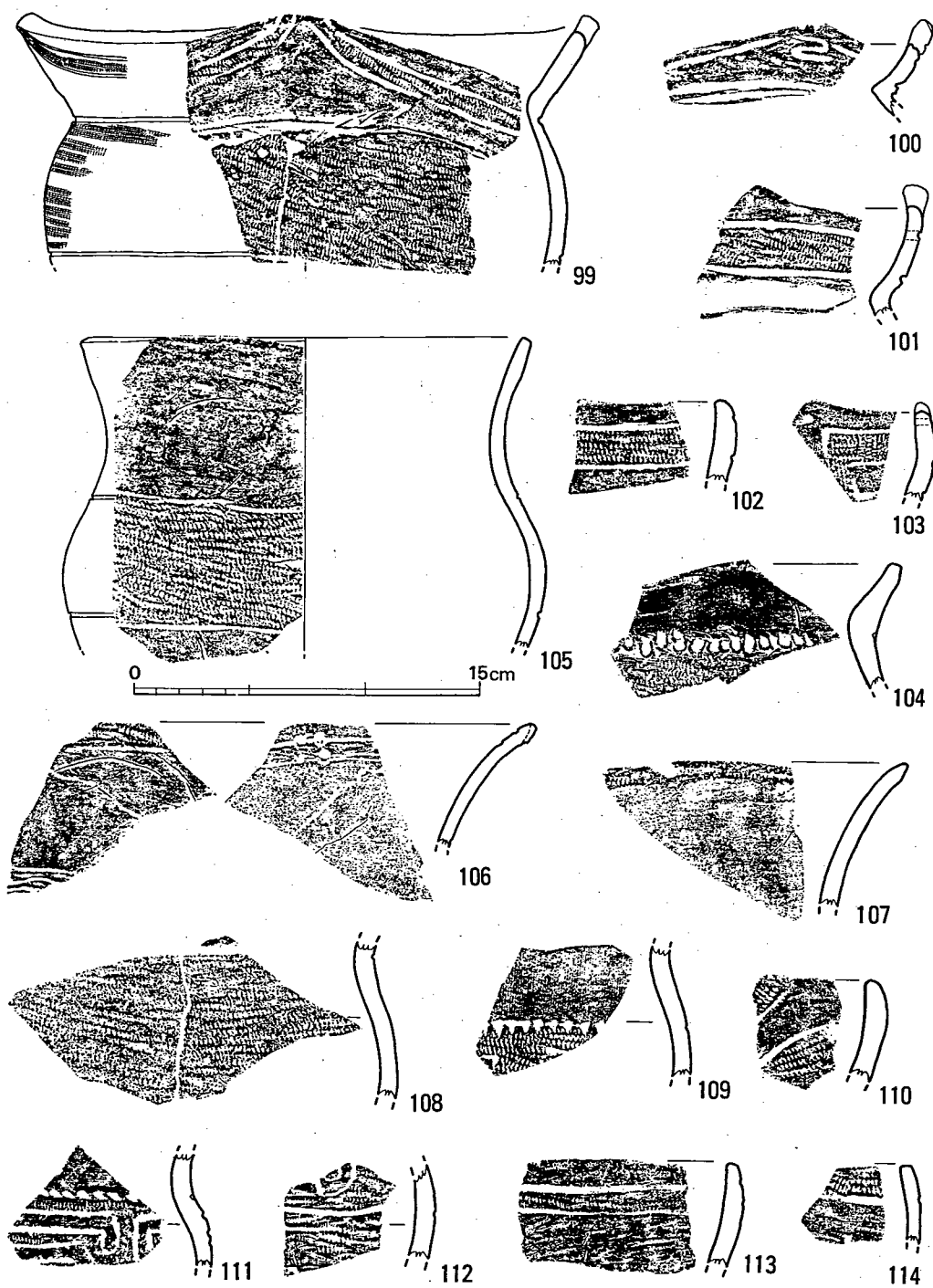
9類 (130～133・135～151) 基本的には無文土器・条痕土器の範疇に入るものであろうが、口縁部に若干刻みなどの文様を施す土器。130は7c類に対応する。131は口縁部に刺突列点と口唇部に刻みがある。135は皿形土器で、口縁部内面の文様は7a類87の鉢形土器に対応する。

136～139・148は、いわゆる縁帯文土器の範疇に入り、136の橋状把手上面の貼り付けとM字ないしW字文様は北久根山式土器に特徴的である。

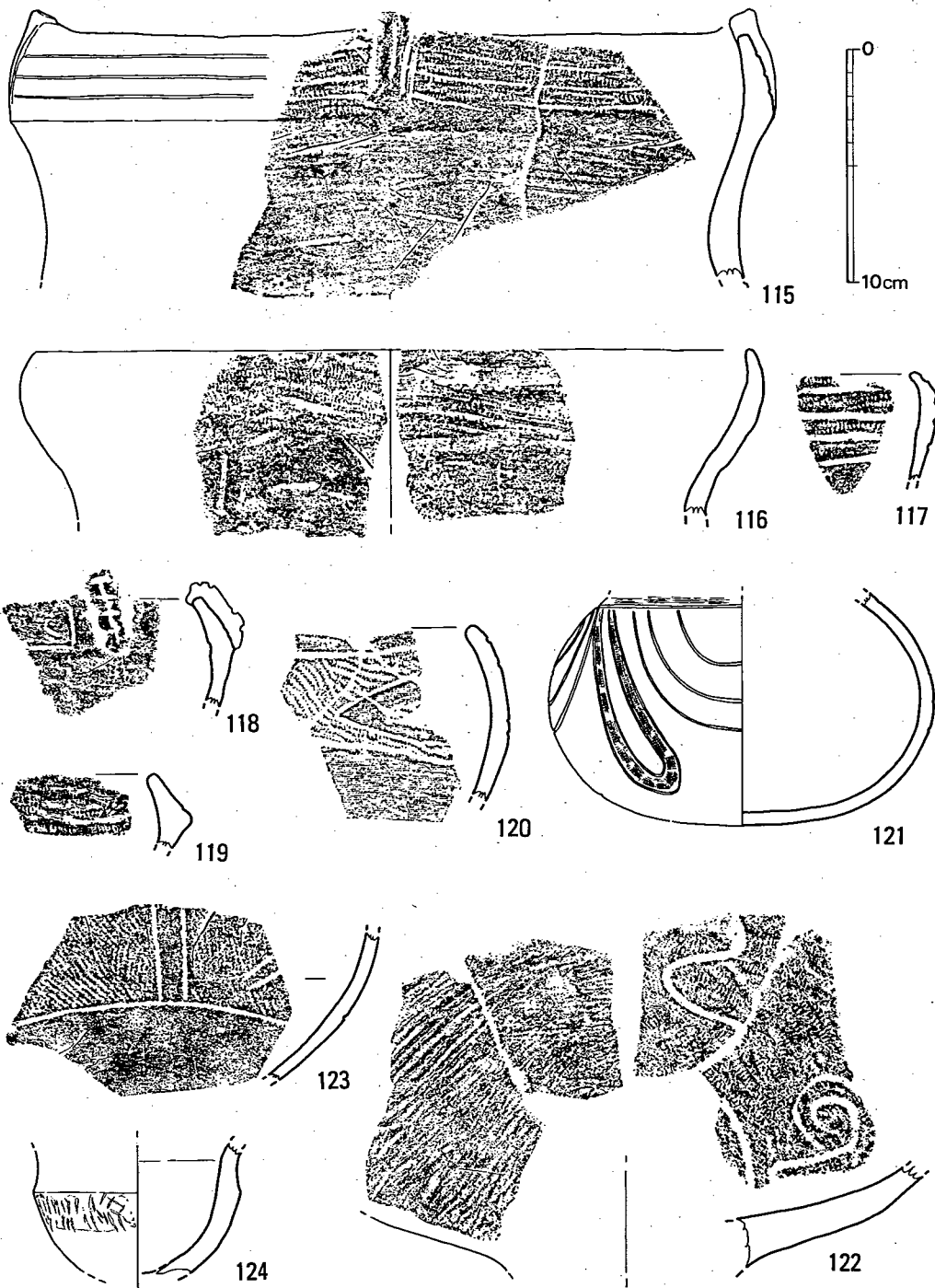
141～145・147・149・150などの、口唇部に斜め方向の刻みをつける手法は、疑似縄文の代用で、北久根山式土器に伴う土器の特徴の一つであろう。



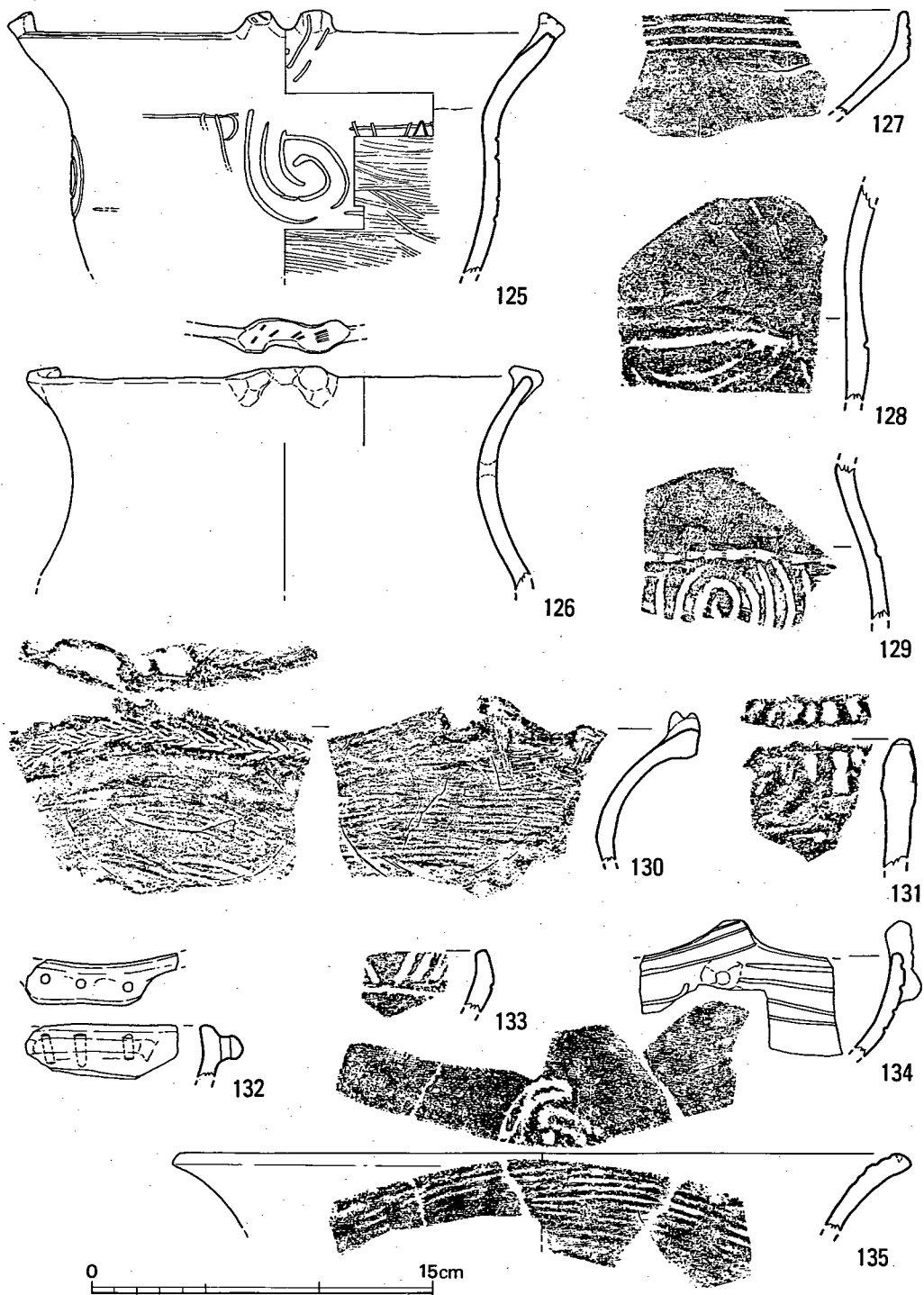
第 23 图 2号住居迹出土土器拓影7 (1/3)



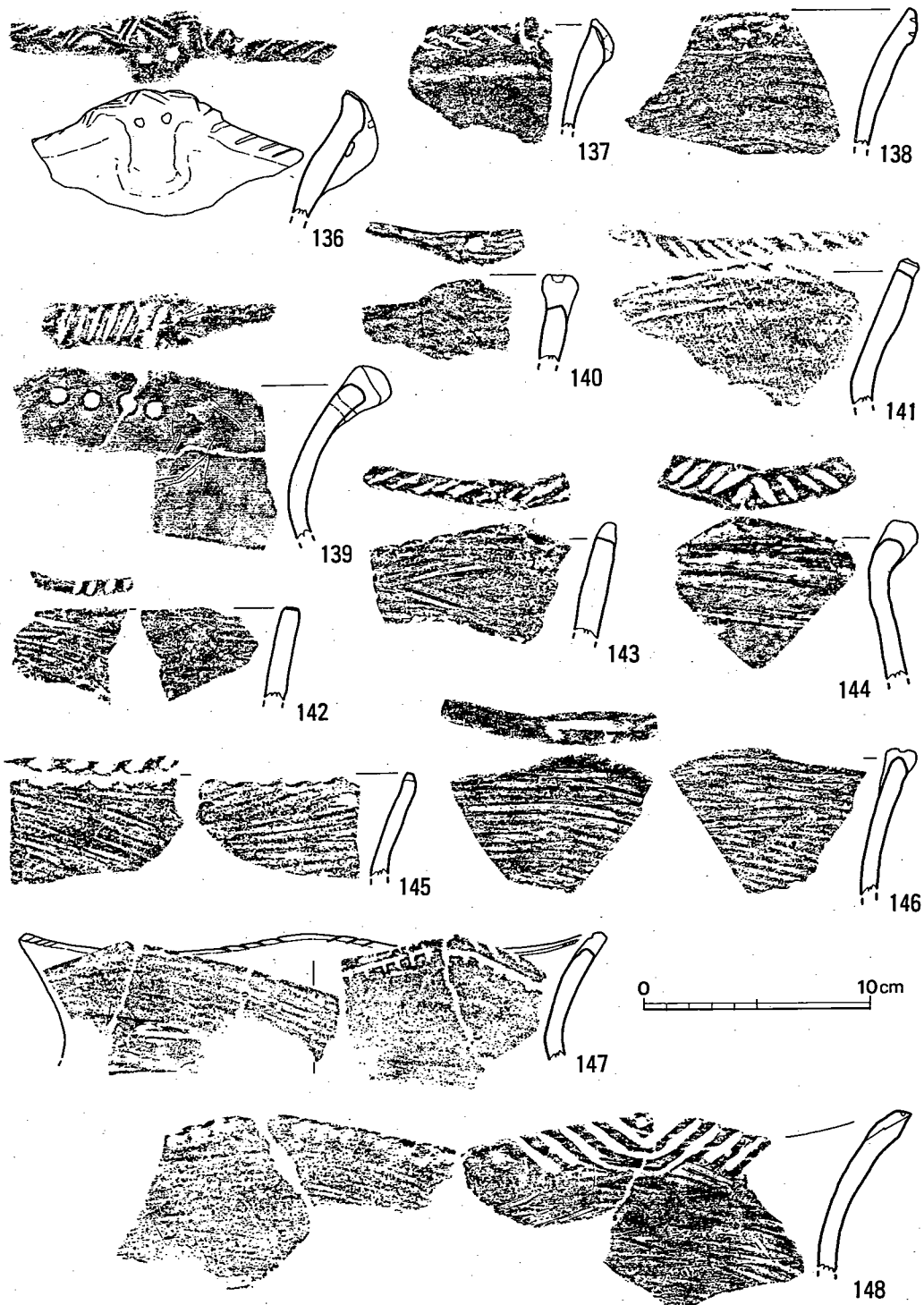
第 24 图 2 号住居跡出土土器拓影 8 (1/3)



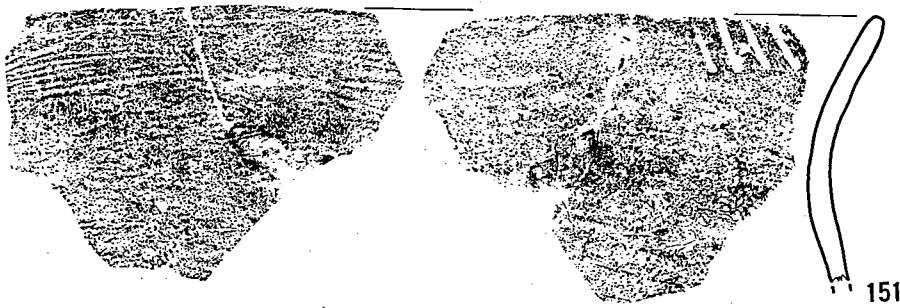
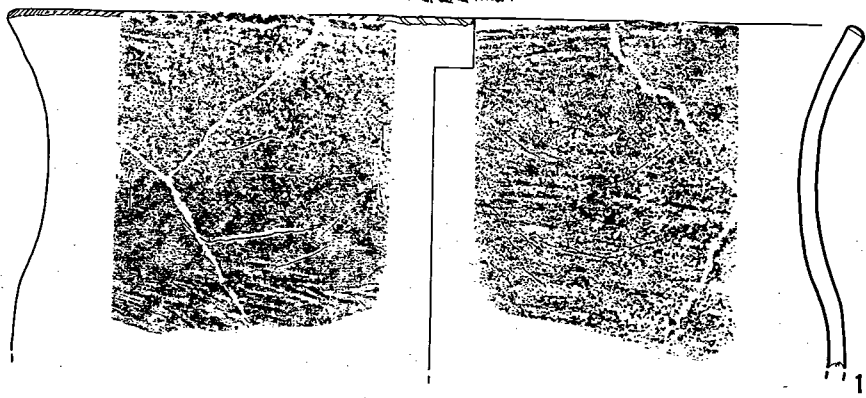
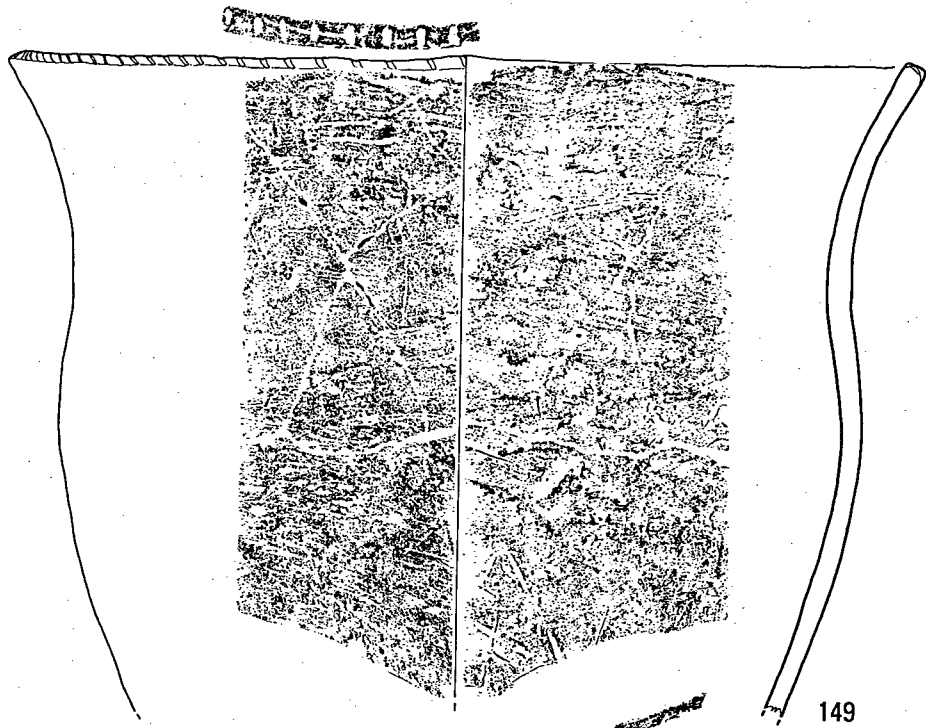
第 25 图 2号住居跡出土土器拓影 9 (1/3)



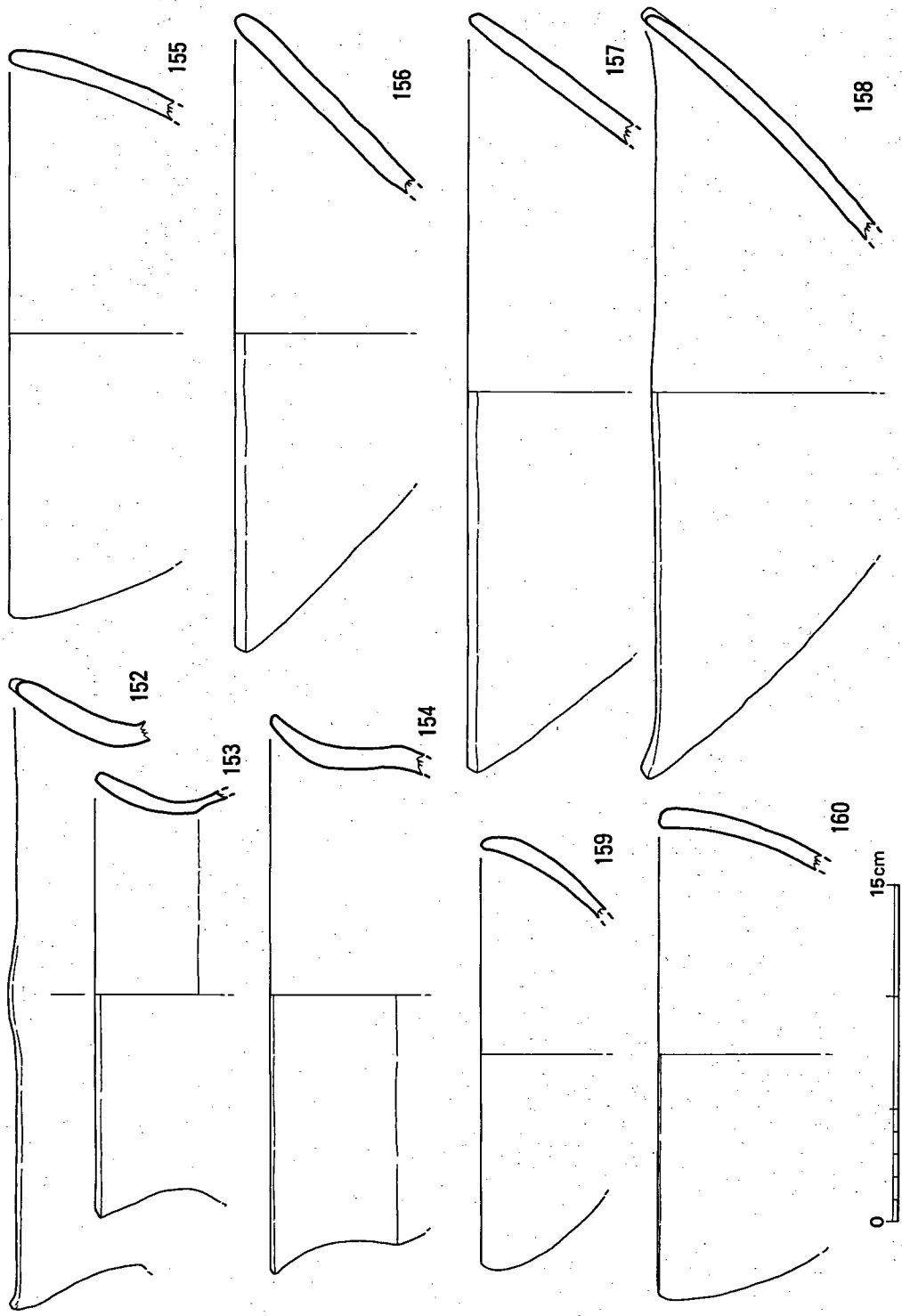
第 26 图 2号住居跡出土土器拓影10 (1/3)



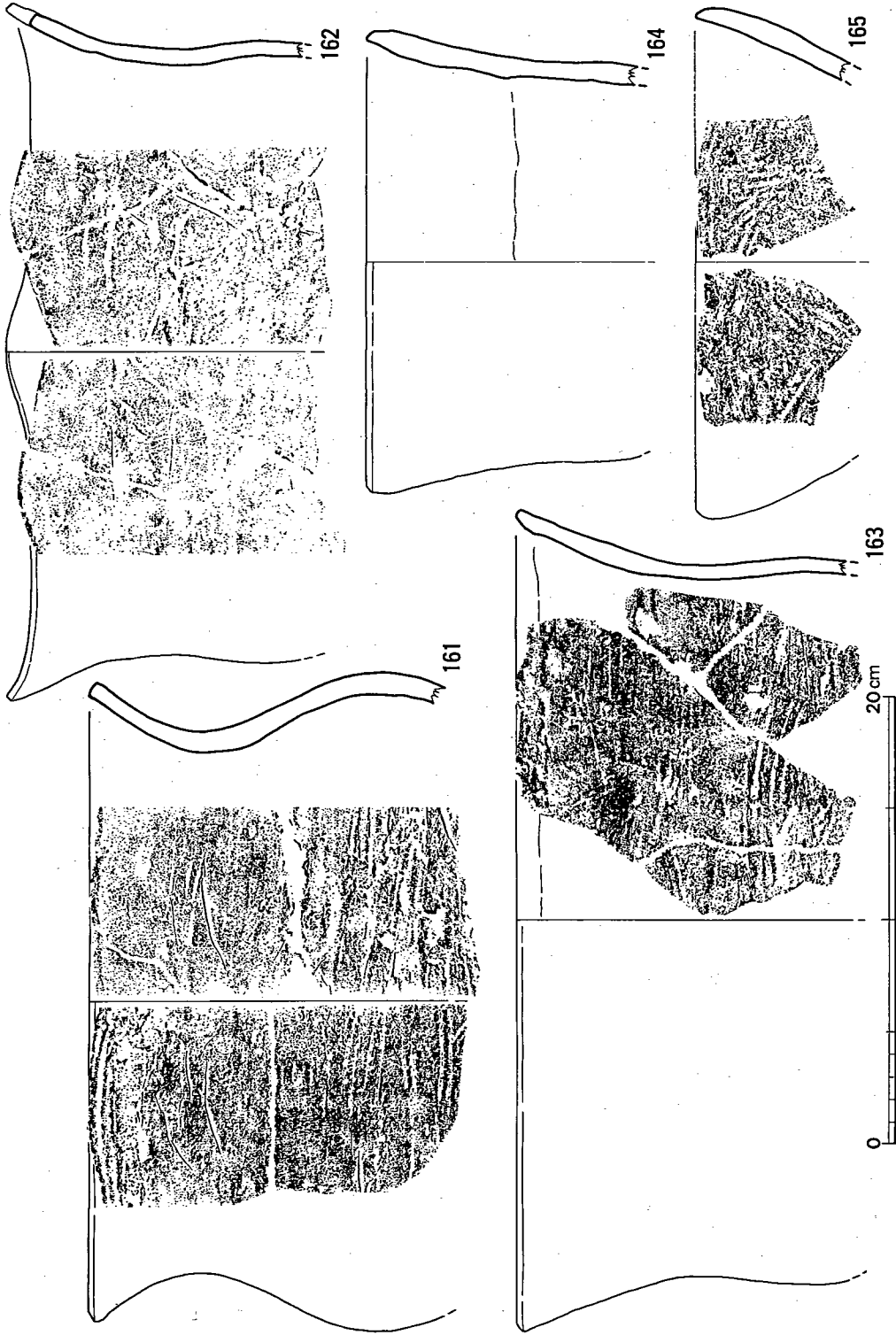
第 27 图 2 号住居跡出土土器拓影11 (1/3)



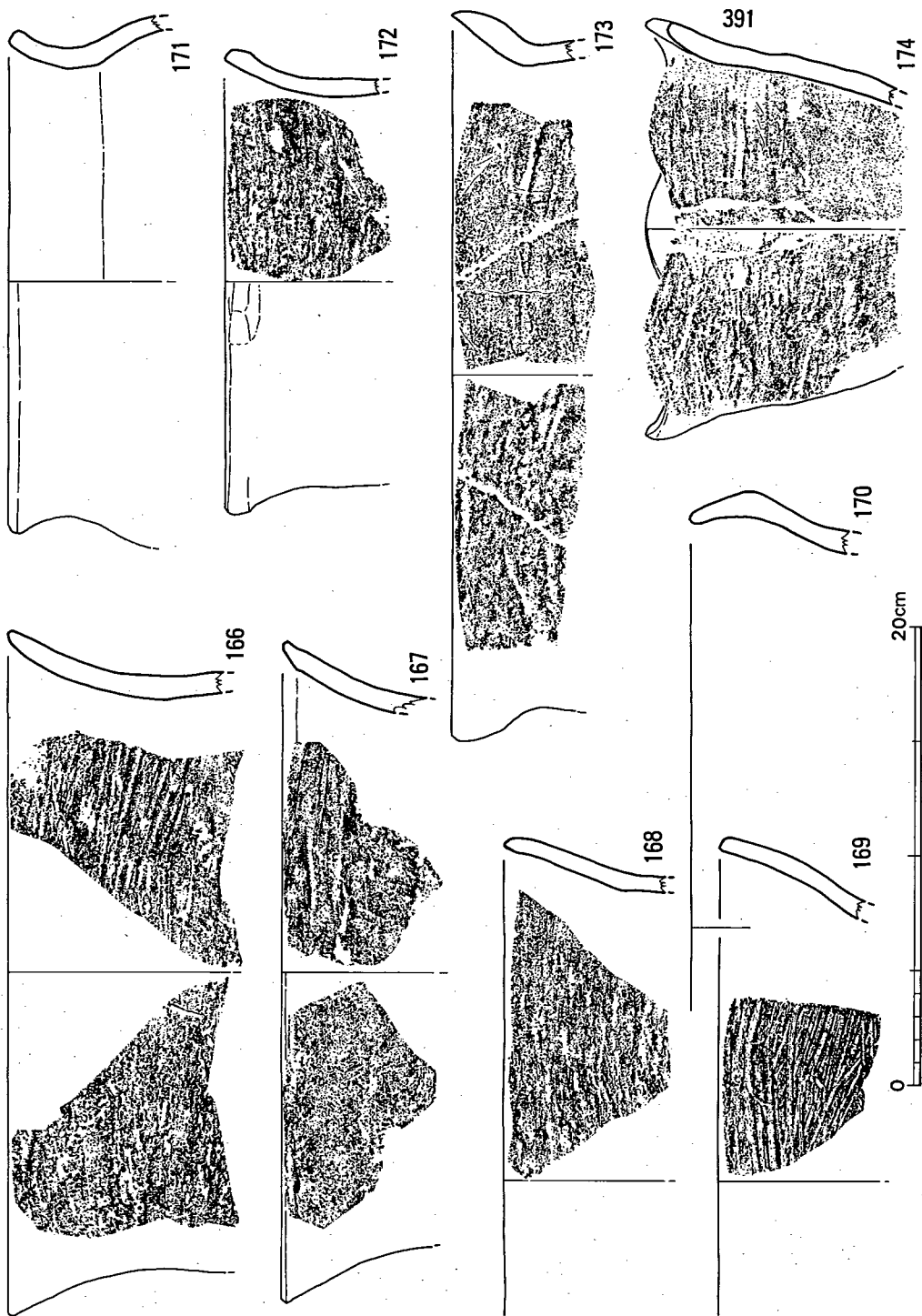
第 28 图 2 号住居跡出土土器拓影 12 (1/3)



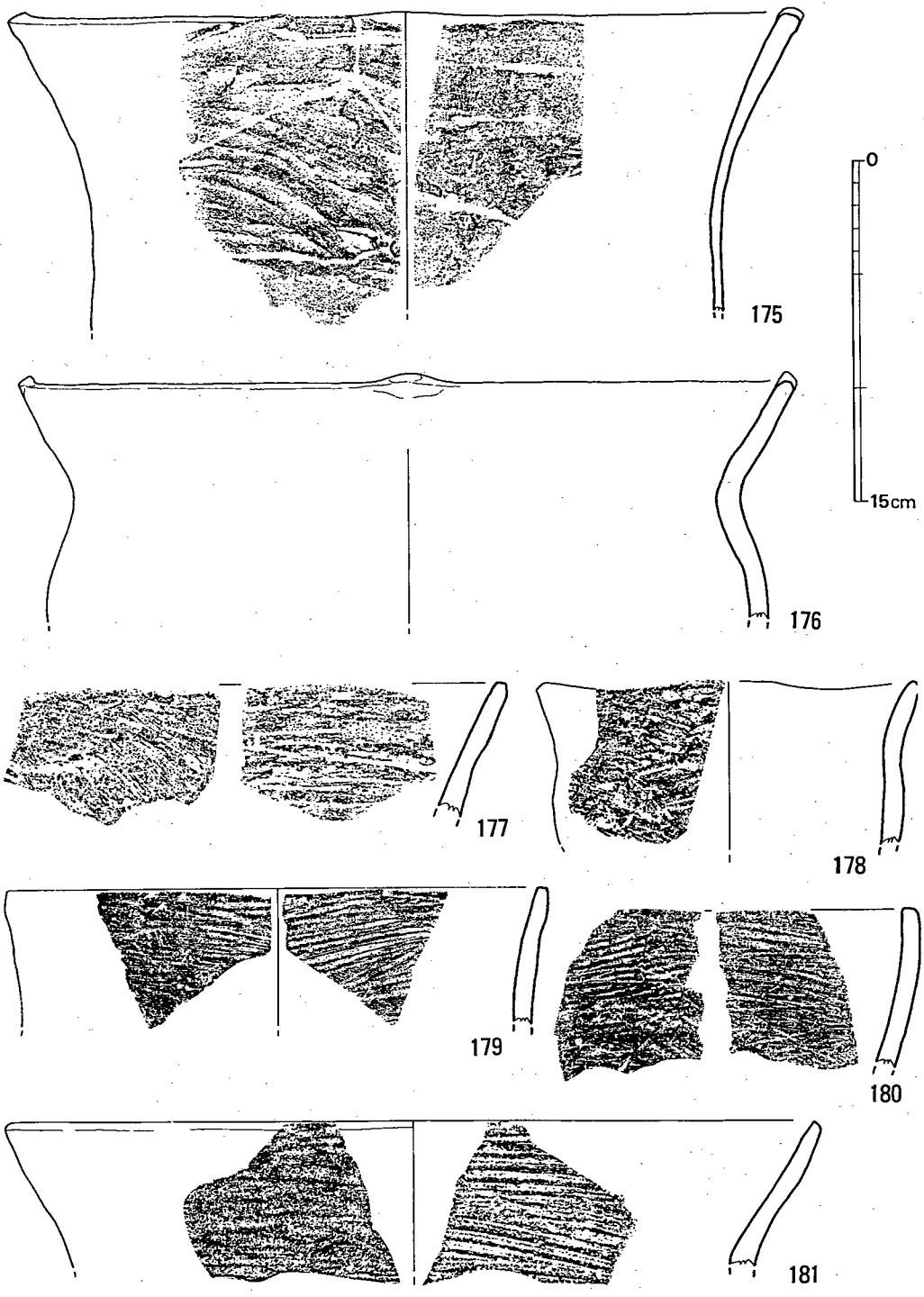
第 29 图 2 号住居跡出土土器実測图13 (1/3)



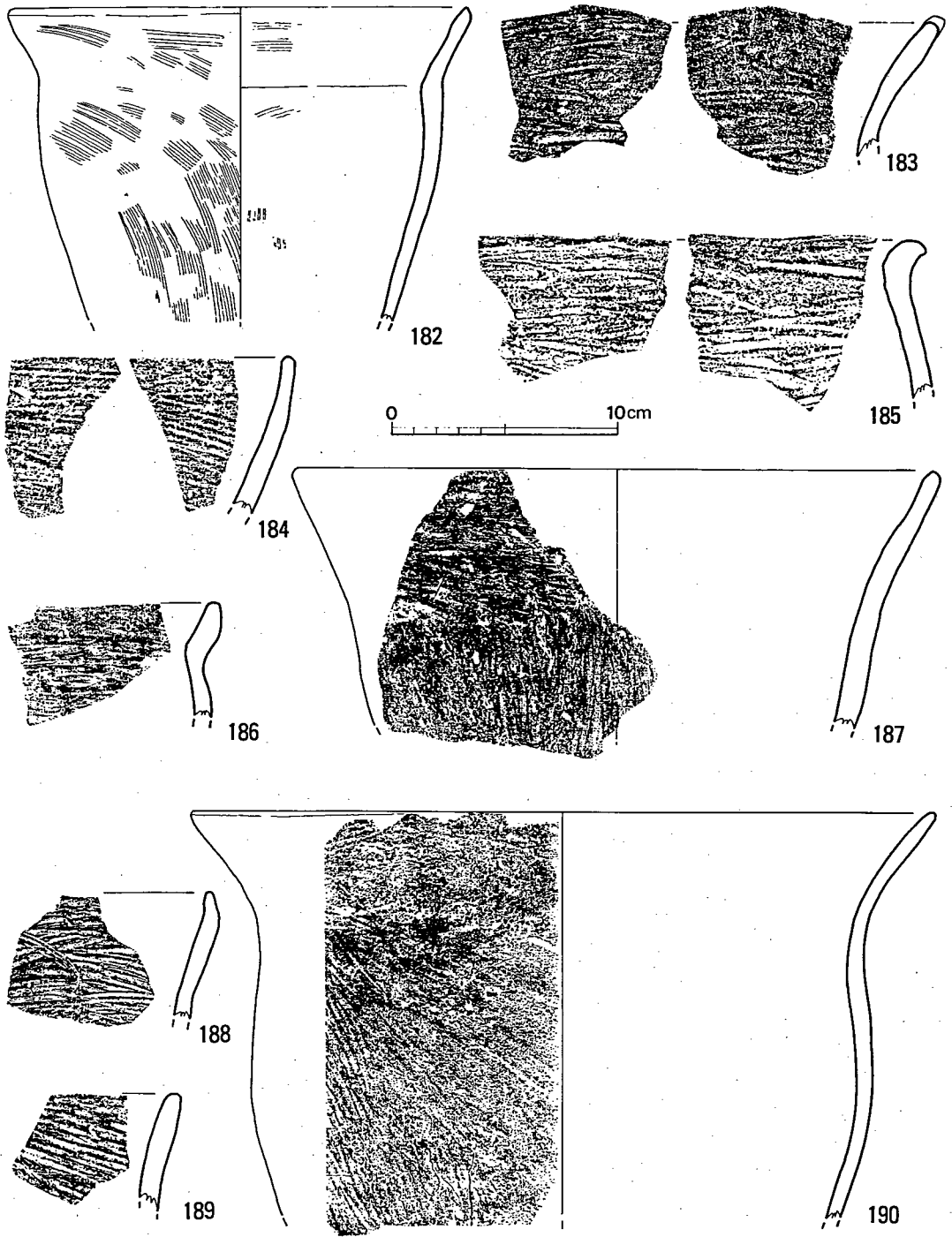
第 30 图 2 号住居跡出土土器拓影 14 (1/3)



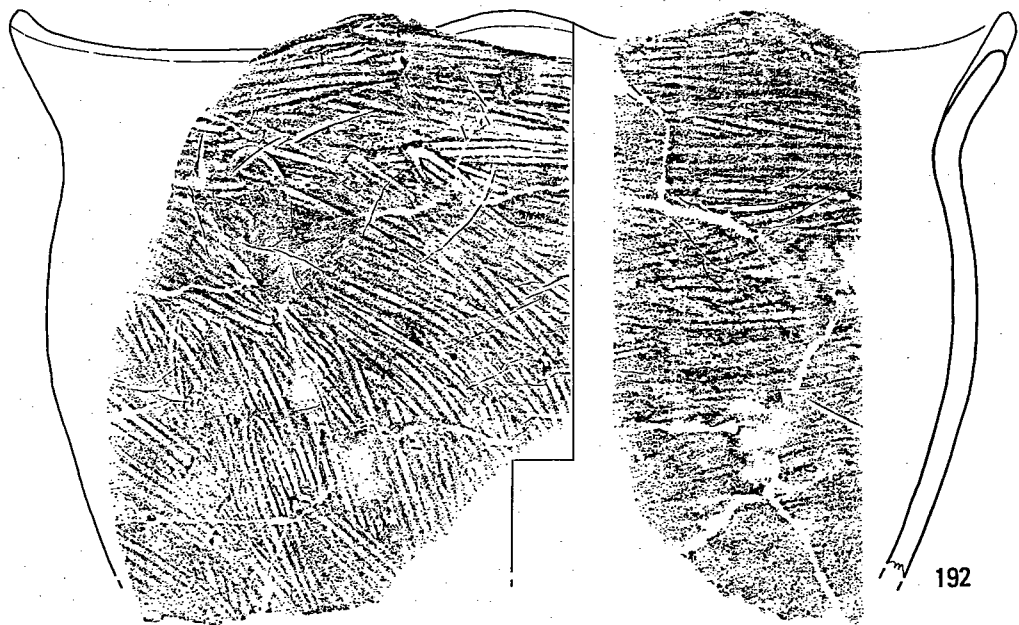
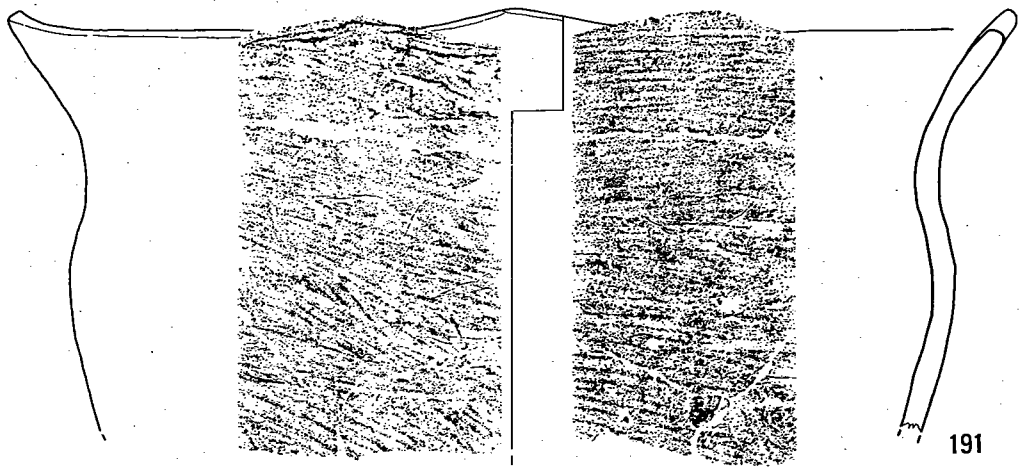
第 31 图 2 号住居跡出土土器拓影 15 (1/3)



第 32 图 2 号住居跡出土土器拓影16 (1/3)



第 33 图 2 号住居跡出土土器拓影 17 (1/3)



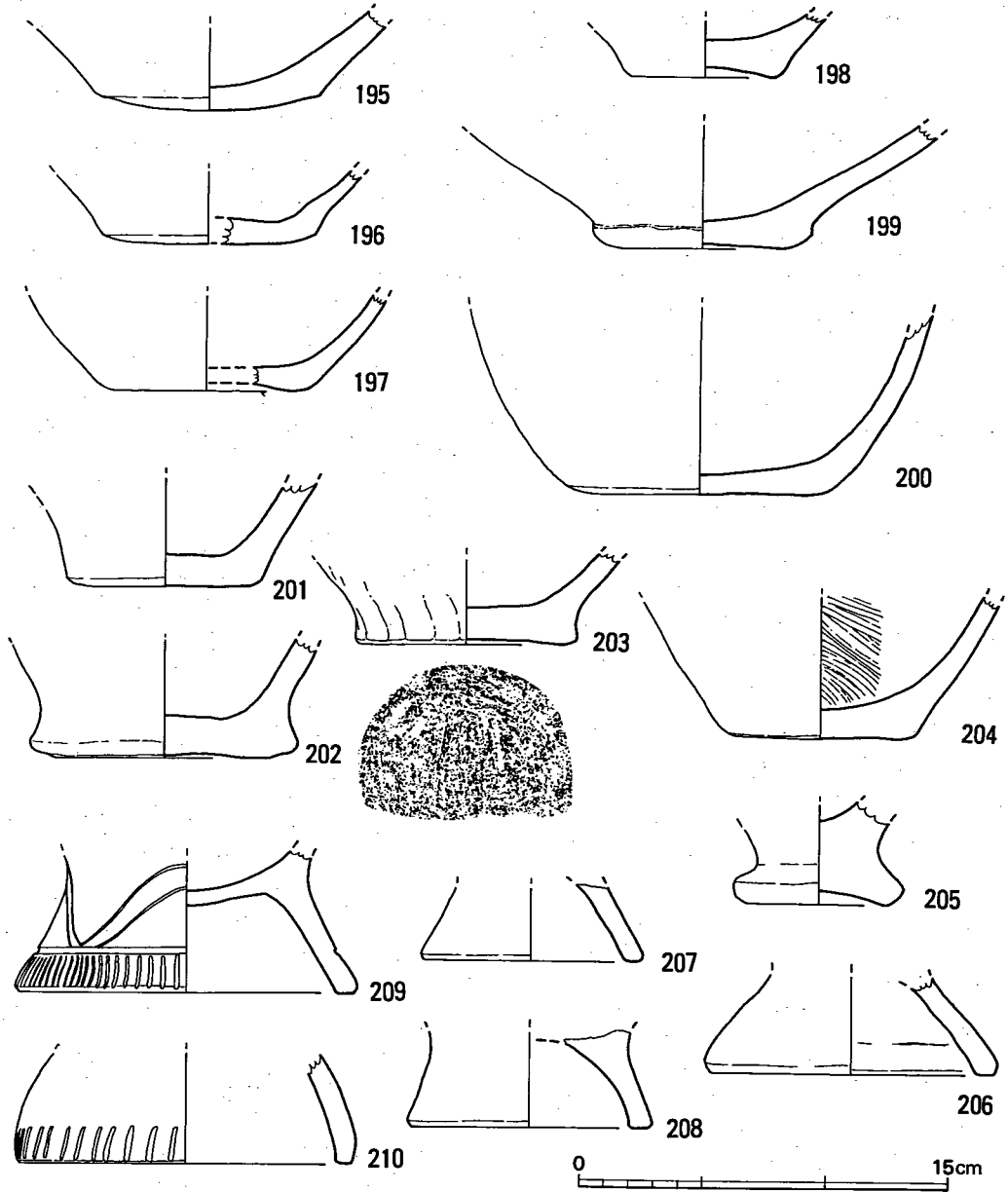
0 15cm



第 34 图 2号住居跡出土土器拓影18 (1/3)

10類 (152~194) 無文土器・条痕土器を一括した。破片資料で、波状口縁か平口縁かの区別のしえないものも多い。

このうち152~159は研磨調整される土器。鉢形土器、浅鉢形土器、椀形土器などの器種があ



第 35 図 2号住居跡出土土器拓影19 (1/3)

る。161～178はナデ調整される土器。深鉢形土器、鉢形土器などの器種がある。179～184はア
ナダラ条痕のみられるもの、185～194はヘナタリ条痕のみられるものである。なかには一部ナ
デ調整や研磨の加わるものもある。鉢形土器、深鉢形土器の器種がある。

11類 (195～210) 底部・脚台を一括した。

195～200は、研磨もしくは丁寧にナデ調整されるもので、精製有文の土器であろう。底部の
形状では、凸レンズ状に膨らむもの (195)、ほぼ平らで反りながら胴部を開くもの (196)、中
凹みでそのまま胴部に移るもの (197)、中凹みで反りながら開くもの (198)、円板を貼り付
けたようなもの (199)、ほぼ平らでそのまま胴部に移るもの (200) などがある。

200～204は無文土器・条痕土器の底部。201・204は、ほぼ平らな底面からそのまま胴部を開
く。202・203は、円板を貼り付けたものであろう。底面はほぼ平らもしくはやや上げ底気味で、
一旦くびれてから胴部を開く。203の外底面には、ケズリ調整のような痕跡がみられる。

205は無文の小さな鉢の底部であろうか。脚台にも似たくびれをもつ。

206～208は文様のない脚台で、206はやや踏んばるような形状を呈している。

209は、脚裾に沿って1条の沈線が巡り、体部側に波状の平行沈線、裾側に刻みのように縦方
向の短沈線が並ぶ文様が描かれる。210は、踏んばるような形状の脚台で、裾部に短沈線が刻み
のように並ぶ文様がある。

フク土から出土した土器では、小池原上層式、鐘崎式の土器も含まれるが、主体をなすもの
は、鐘崎式の新しい段階の土器、および北久根山式段階のものである。床面出土の土器も、脚
台の存在などからみても、北久根山式段階に近いと言えよう。炉跡使用の土器が、2号住居跡
の使用期を確実に示す資料であるが、行方不明の今は、後日を期したい。

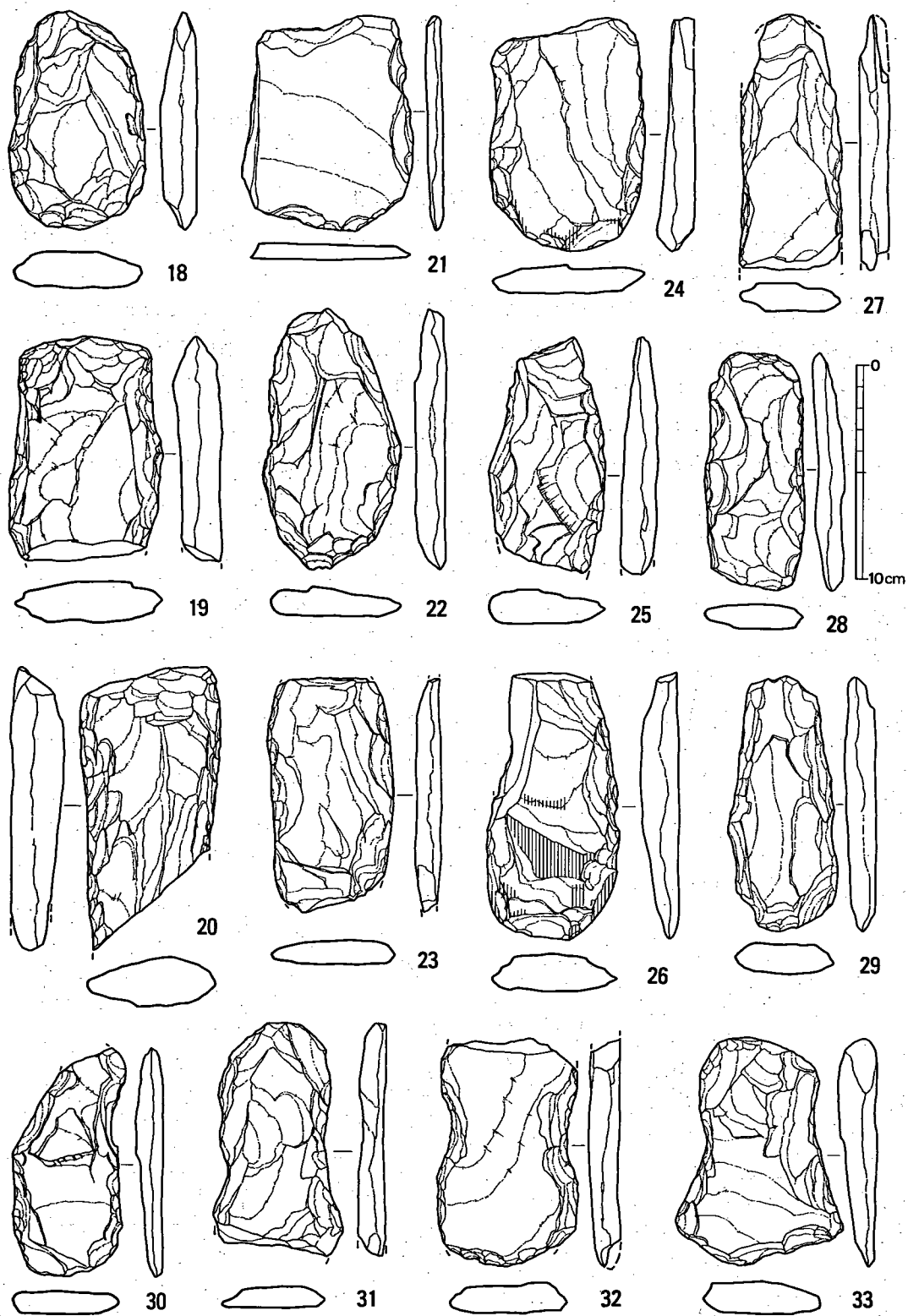
石 器 (図版16～18 , 第36～40図, 表14～16)

打製石斧 (18～35) 破片資料を含めて33点出土したが、折損資料が多く、18点図示する。緑
簾片岩・緑泥片岩などの石材を用いた、扁平打製石斧である。18～20・26は、幅6～7cm、厚
み2.0cm～2.5cmのやや厚みがある短冊形のもの。35も厚みをもつが、幅は9cmと広い。21・24・
34は、幅が7～10cm、厚み1～1.5cmと扁平度の高いもの。27～30は、幅5cm前後、厚み1.5cm
と細いもの。31～33は、両側縁に抉りがみられるもの。33では撥形に近い形を呈している。34
の刃部には擦過痕が顕著である。

すり石 (36～41) 破片資料を含めて9点出土したが、うち6点を図示する。

36・37は、掌の中に収まる程の、やや硬盾で扁平な円礫を用いたすり石。37は平坦面には、
痘痕状敲打痕がみられる。

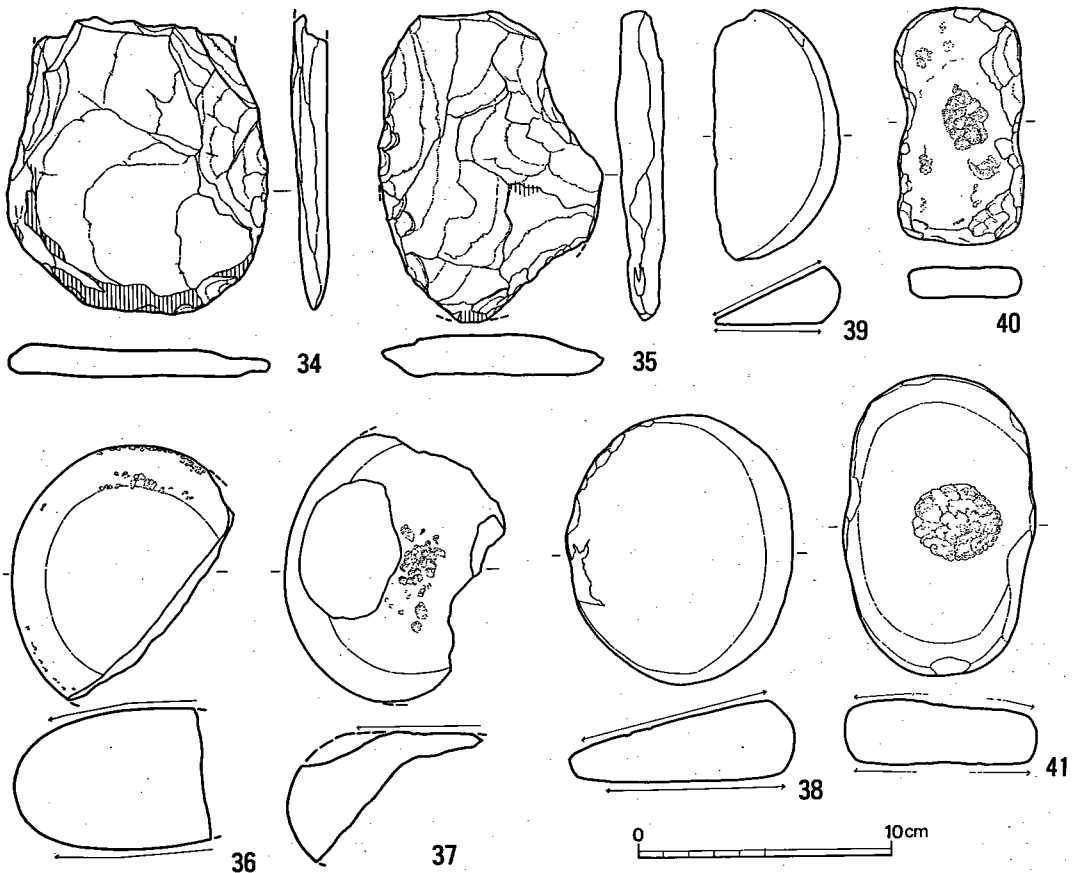
38・39は、扁平な円礫を用いたすり石。使用頻度からすり減って薄くなったものであろう。
上下の平坦面が近接しており、片減りになるが、38の薄くなった側縁には敲打痕がみられる。
39では半月形の擦り切り石器のような形状を呈している。



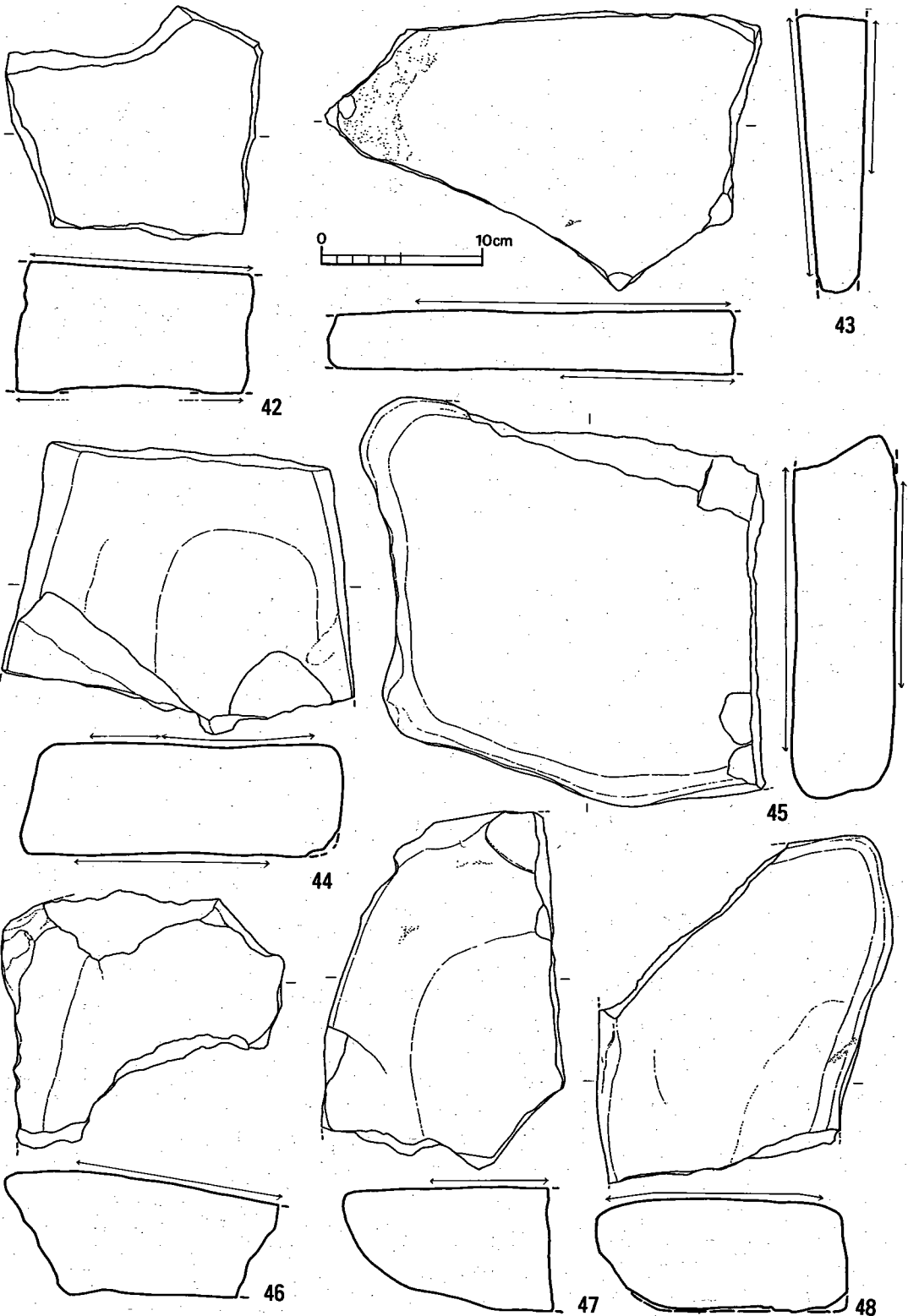
第 36 图 2号住居跡出土石器実測図1 (1/3)

40・41は、すり石というよりも、むしろ敲石と称すべきもので、楕円形ないしは長方形の扁平な石を素材にしている。40は、両側縁に打ち欠き調整で抉りが設けられ、端部は敲打痕がみられるものの、いずれも摩耗が進んでいる。平坦面は両面とも、中央に敲打による痘痕状の凹みがある。41も、手で握り易いように両側縁に抉りがつき、平坦面は両面ともに、中央に敲打による痘痕状の凹みがある。

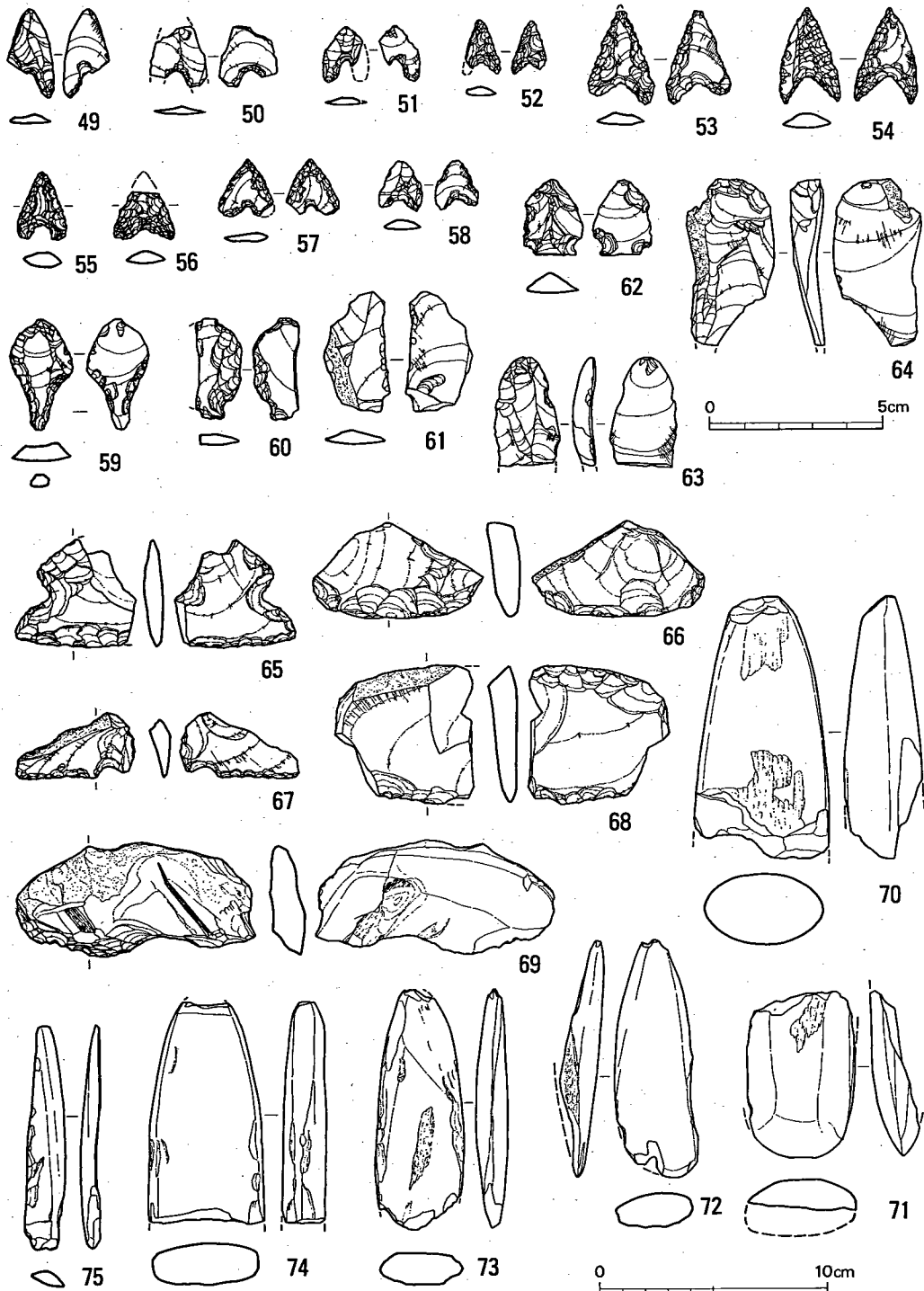
石 皿 (42~48) すべて破片資料で、25点出土した。このうち7点は焼けて赤変して、同一固体と思われるが、うまく接合しない。また平坦面を打点として割れた破片が多い。42は、上下両面ともによくすれているが、上面がわずかに凹み気味な面をなし、下面は火熱を受けて赤変し、剥落を生じている。43は、扁平な板状のもので、上下両面ともによくすれているが、面はほとんど平坦である。44・45は、端部側面の状態から幅20cm前後、厚さ6cm程の細長い石皿であったと考えられる。上面の中央部が若干凹む。48は、これよりやや幅の狭いもので、下面は火熱を受けて剥落を生じているが、わずかに残る面はよくすれていて、上下両面ともに使



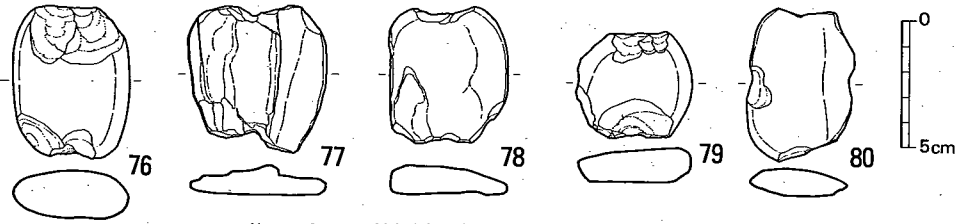
第 37 図 2号住居跡出土石器実測図2 (1/3)



第 38 图 2号住居跡出土石器实测图 3 (1/4)



第 39 图 2 号住居跡出土石器实测图 4 (1/2 · 1/3)



第40図 2号住居跡出土石器実測図5 (1/3)

用されたものであろう。46・47は、下面が自然面のままのもの。47のすれた面は平坦だが、あるいは46の使用面は中くぼみになる可能性があるか。

石 鏃 (49~58) 石鏃は13点出土し、うち10点を図示する。13点のうち2点の姫島産黒曜石を除いたほかは黒色を呈するもので、伊万里湾周辺産の黒曜石であろう。49・50・58は剥片鏃で、51・54も広義の剥片鏃に含まれる。52・55・56は全面に調整剥離の及ぶもので、53は剥片の主要剥離面が残る。出土した石鏃は全て凹基式のものだが、56~58はわたぐりが浅い。

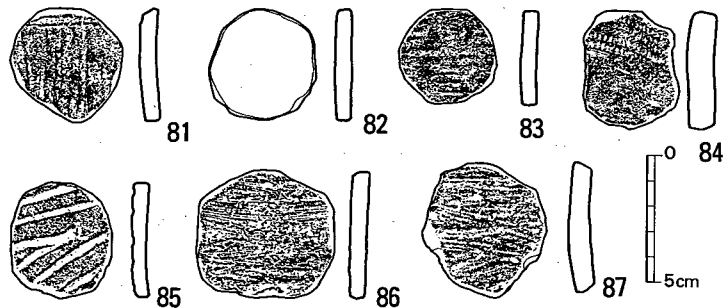
石 錐 (59) 1点出土した。黒色の黒曜石縦長剥片を素材にし、剥片の先端側を錐の刃部にしている。使用による先端の欠損が見られる。

削 器 (60・61・65~69) 削器類は13点出土した。姫島産黒曜石と安山岩製が多く、椎田町内の山間部産のオパール化した珪化木状の材を素材にしたものがある。

60は剥片の側縁に調整剥離を加えたもの、61は使用痕のある剥片である。65~68は横剥ぎの剥片を用いたもので、65は石匙状をなす。66・68・69は掌中に取り易い形状をしていて、一方の側縁に刃部が設けられている。

磨製石斧 (70~75) 7点出土しているが6点を図示する。70は刃部を欠くが肉厚で楕円形の断面形をもち、長さ15cm程の石斧であろう。71~73はやや小振りの石斧で、扁平な石斧。72・73・75などは破損後の再調整が施され、72は両側縁に敲打調整痕、75は細い体部全体に研磨の痕跡がみられる。74はやや長めだが扁平な体部で、両側縁が平坦気味の、定角式石斧の部類に入るものであろう。

石 錘 (76~80) 6点出土しているが、5点を図示する。いずれも円礫の長軸側両端に打ち欠きを加えて紐掛けにするもので、76の重量が60gある外は40g以下を測る。



第41図 2号住居跡出土土製品実測図 (1/3)

土製円板 (81~87) 55

点出土したが、7点図示する。A1類18点、A2類5点、B1類21点、B2類11点が内訳である。

3号住居跡 (図版19-1, 第42図)

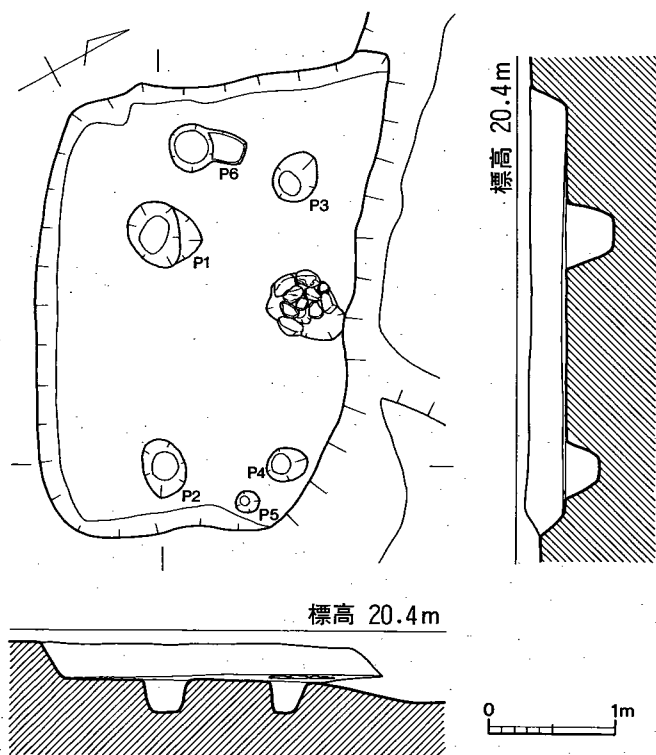
調査区の北部で、2号住居跡の北西側に隣接して検出された住居跡である。北東側半分は、水田開削によって失う。残された部分からみて、一辺4m前後の隅丸方形プランの住居跡であろう。南側で0.3mの深さを有している。ほとんど河原石を含まない淡茶褐色砂質粘性土の地山を掘り込んでいて、壁面はやや傾斜をもっている。残された床面は約7.5m²の広さだが、床面を掘り込む柱穴状のピットは6穴ある。柱穴状のピットは、直径20~50cm、深さ20~40cmの規模のもので、支柱穴はP1~4であろうか。

炉跡は、石囲炉で、水田開削の崖際に有るが、本来住居跡のほぼ中央に相当するのであろう。

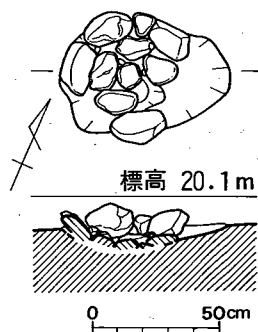
石囲炉 (図版19-2, 第43図) 長径65cm、短径50cm、深さ10cm程の皿状の凹みの中に、やや扁平な10個の河原石を並べて敷いた石囲炉で、東側に空いた部分がある。住居跡内の堆積土に河原石が多数混じっていたために、発掘時に炉を構成する石を、誤って外した可能性も否めない。焼

けてひび割れを生じた石もあるが、周囲の焼け方は弱い。この炉は、発泡ウレタンを用いて、切り取り保存した (図版20)。

出土遺物 住居跡内からは、土器片がパンコンテナ満杯で3箱、石鏃・磨製石斧・石皿・削器などの石器類、土製円板などが出土した。



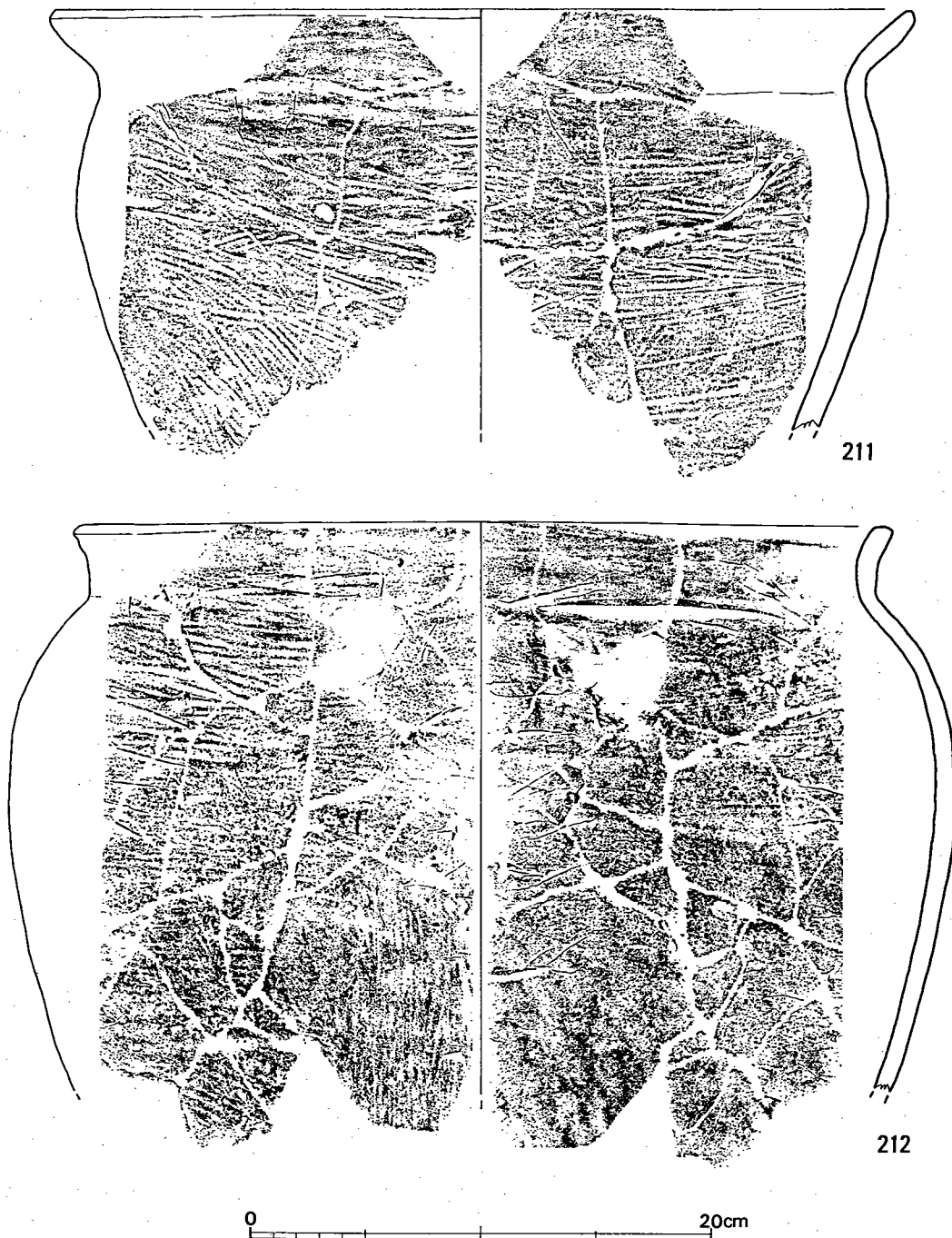
第42図 3号住居跡実測図 (1/60)



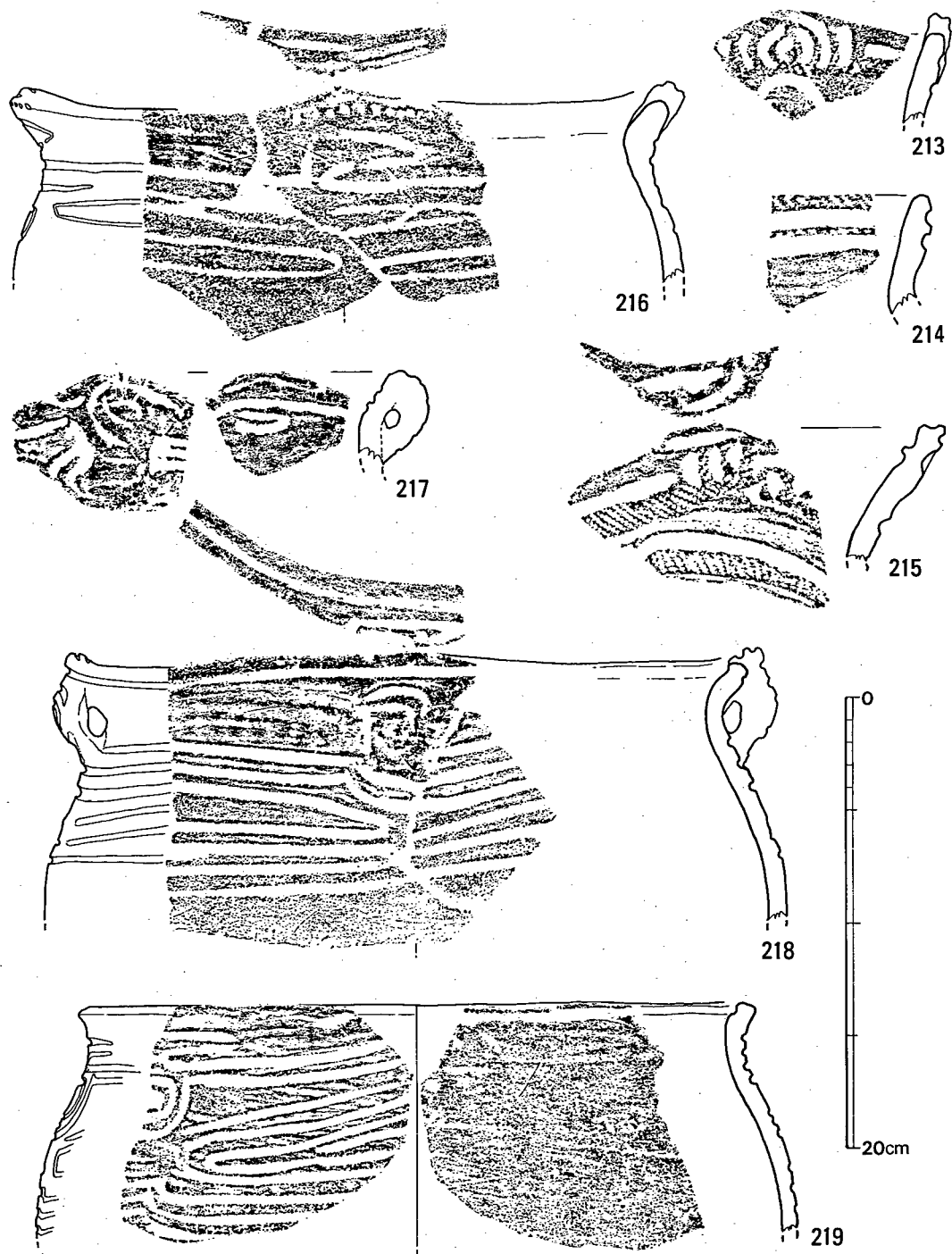
第43図 3号住居跡炉跡実測図 (1/30)

縄文土器 (図版21・22, 第44~50図, 表5・6)

炉跡直上出土土器 (211・212) 石囲炉に被さって出土した。口縁部が短く外反する鉢ないし



第 44 図 3号住居跡出土土器拓影1 (1/3)



第 45 图 3 号住居迹出土土器拓影 2 (1/3)

深鉢形土器で、211は内外面ともアナグラ条痕で調整されている。212は口縁部が胴部よりも内側に短く反る器形で、内外面とも条痕の後にナデ調整を加えている。

1類 (213~215) 太めの沈線と縄文が施文されている。小池原上層式の範疇に入る。

2類 (216~219・234~237) 沈線文で区画される文様をもち、口縁部は短く外反する。沈線はやや太めで、蕨手状文や渦巻状文様が描かれている。なお、247はこの類に含まれる直線的に開く精製鉢である。鐘崎式に類似する。

3類 (223~233・238~245) 沈線文で区画される文様をもち、口縁部は短く外反する。沈線は細めで、蕨手状文や渦巻状文・同心円弧文・S字文様が描かれている。なかには225・230~232などのように、口縁部の屈曲が緩く口縁部外面に沈線を巡らせるものもある。鐘崎式に類似するがやや後出するものであろう。

4類 (220) 沈線文で区画される文様をもち、沈線はやや細い。区画内に縄文が施文されている。同心円弧文様であろうか。口縁部は短く外反する。

246は、この類に含まれる直線的に開く精製鉢である。J字文と同心円文様が2段に配されて磨消縄文の手法をとる。波頂部口唇にも沈線の文様がある。

5類 (248~251) 基本的には無文土器・条痕土器の範疇に入るものであろうが、口縁部に若干刻みなどの文様を施す土器。250・251は3類に対応するであろう。

248・249の土器は床面を掘り込むが主柱穴でないP5から出土した土器で、248は口縁部に刺突列点がある。249は波頂部口唇に放射状に刻みがつけられる。

6類 (252~269) 無文土器・条痕土器を一括した。破片資料で、波状口縁か平口縁かの区別のしえないものも多い。

252~256は条痕土器、258~269はナデ調整される土器。条痕の後にナデ調整の加わるものもある。口縁部が外反するもの(252など)、内彎気味に直立するもの(260)、直線的なもの(262)、短く外反するもの(263)などがあり、266~268はやや小形の鉢形土器。269は碗形であろうか。

257は、外底面が高台状に凹む鉢底部破片。胴部外面にアナグラ条痕がみられる。

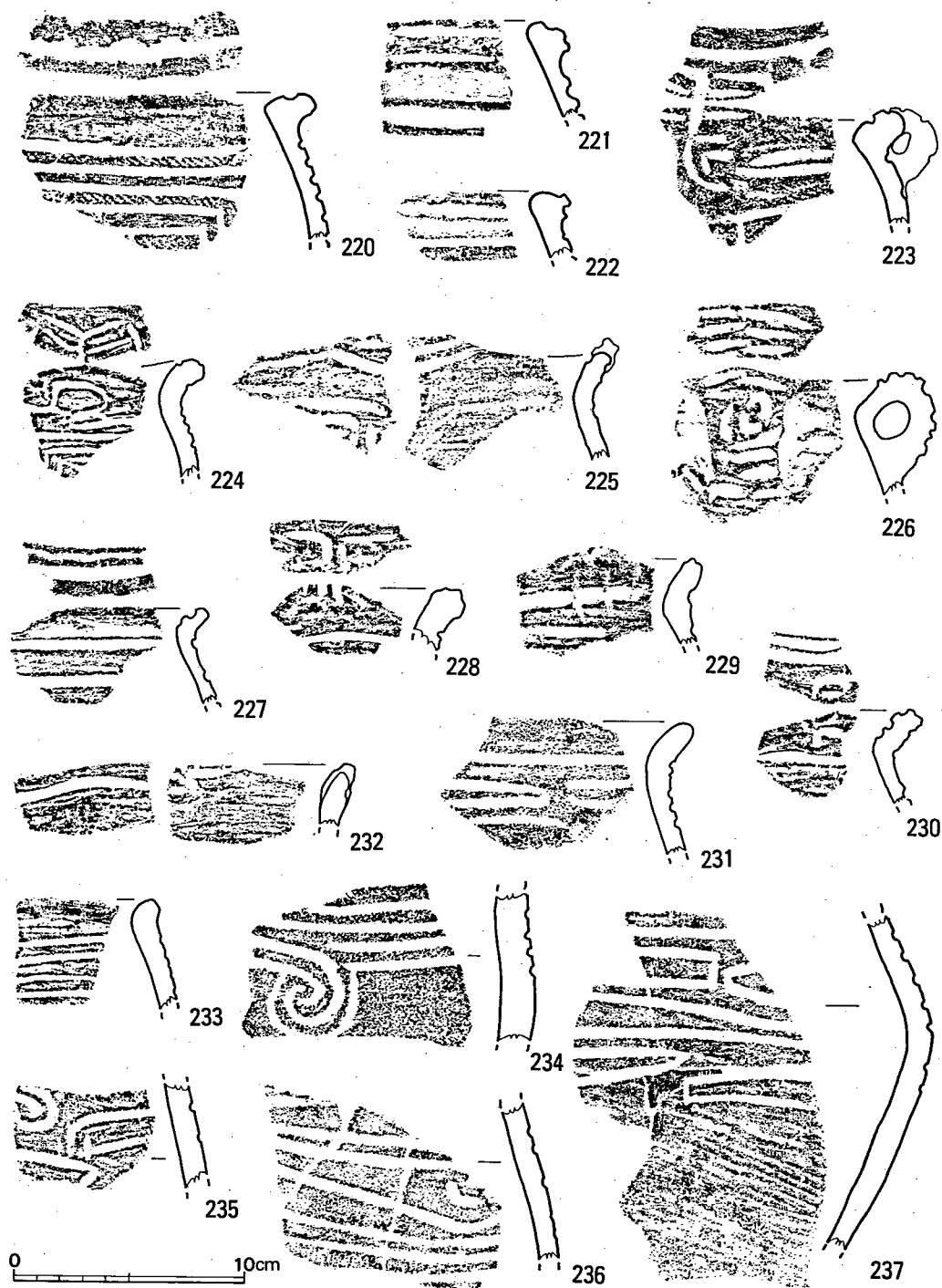
これらの土器は、一部小池原上層式を含んでいるが、概ね鐘崎式のもので、その中では比較的新しい段階に相当する。248・249の土器はさらに時期が下降する可能性が高い。

石器 (図版23, 第51図, 表16)

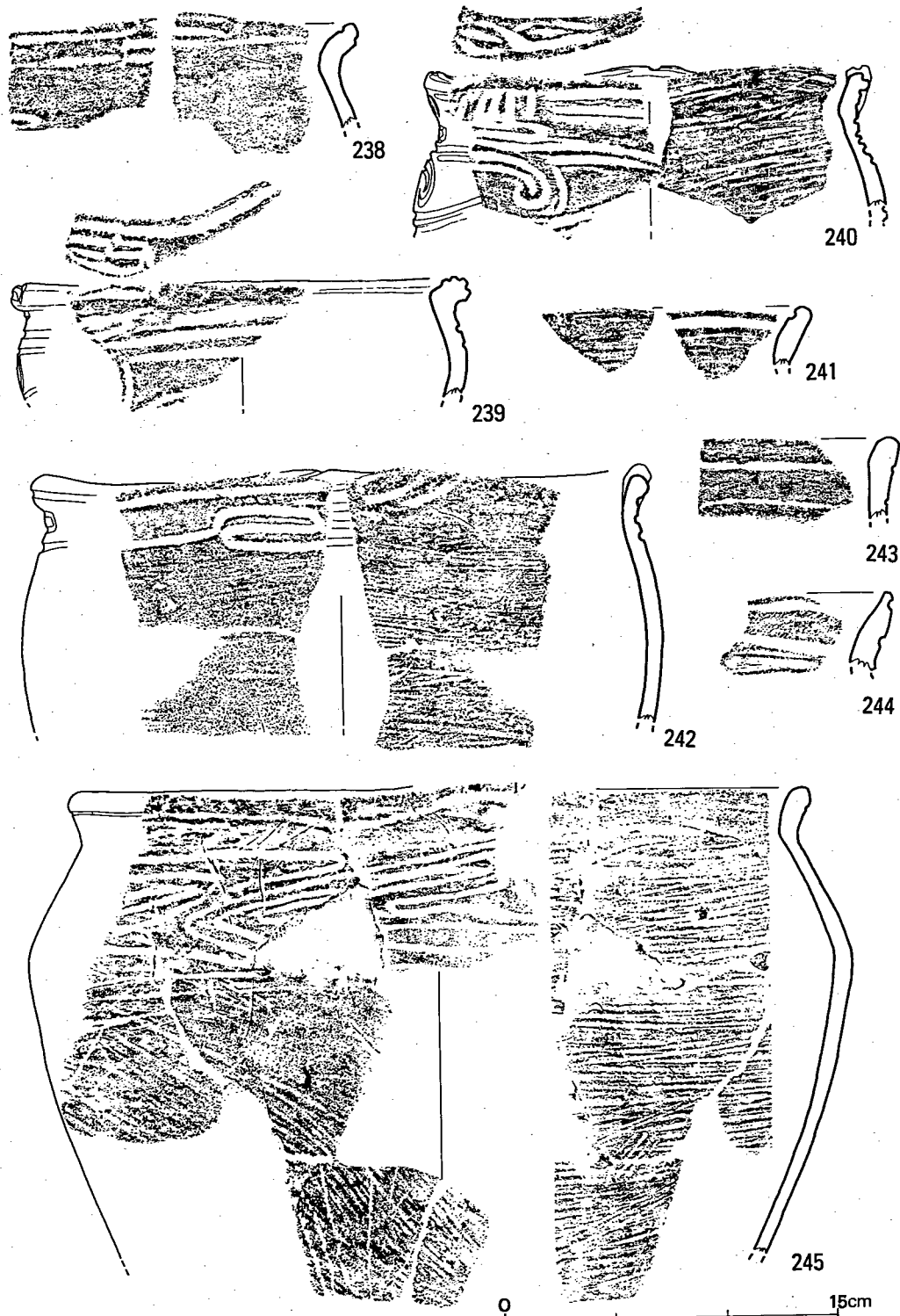
石 鏃 (88~90) 88・89は凹基式の石鏃で、長さより幅が優り、わたぐりは浅めである。90は平基式の石鏃で、やや調整が雑でいびつな形を呈している。

磨製石斧 (91) 破損品を再調整したもので、扁平な体部をもつが、先端部を欠く。側縁に敲打調整痕がみられる。

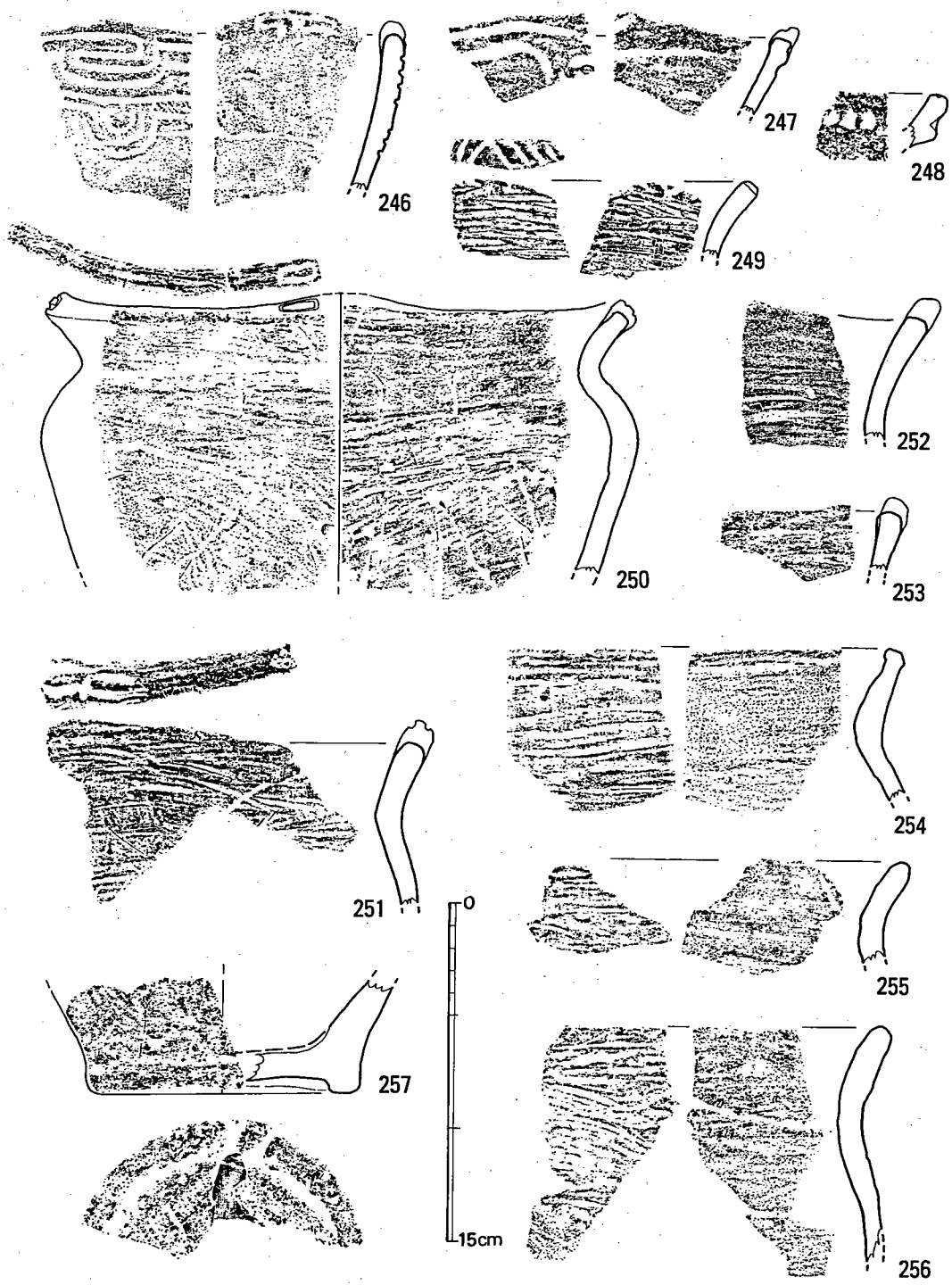
削器類 (92~95) 92は姫島産黒曜石を用いた石匙の完形品。片面に原面が残る。93・94は使



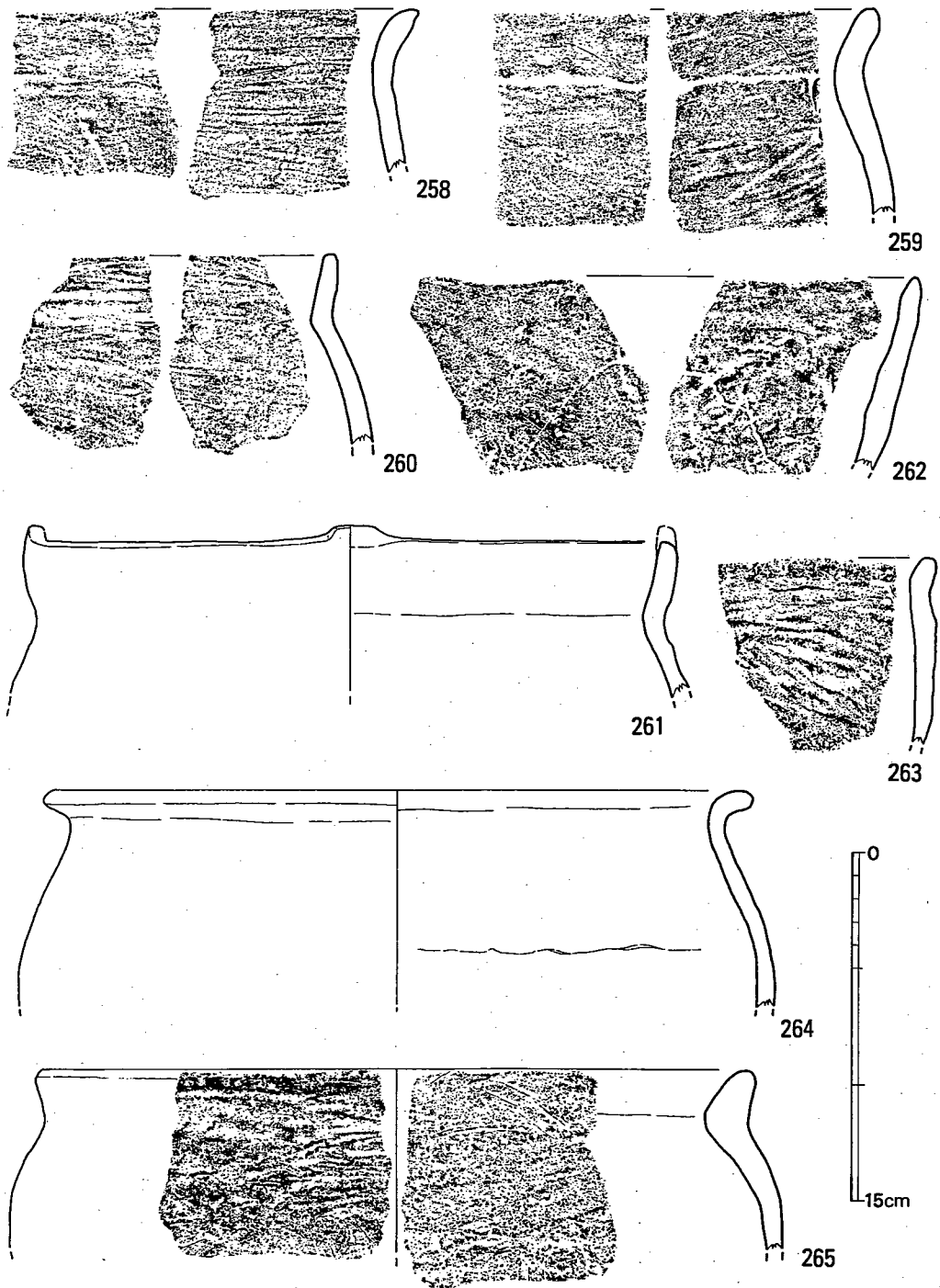
第 46 图 3 号住居跡出土土器拓影 3. (1/3)



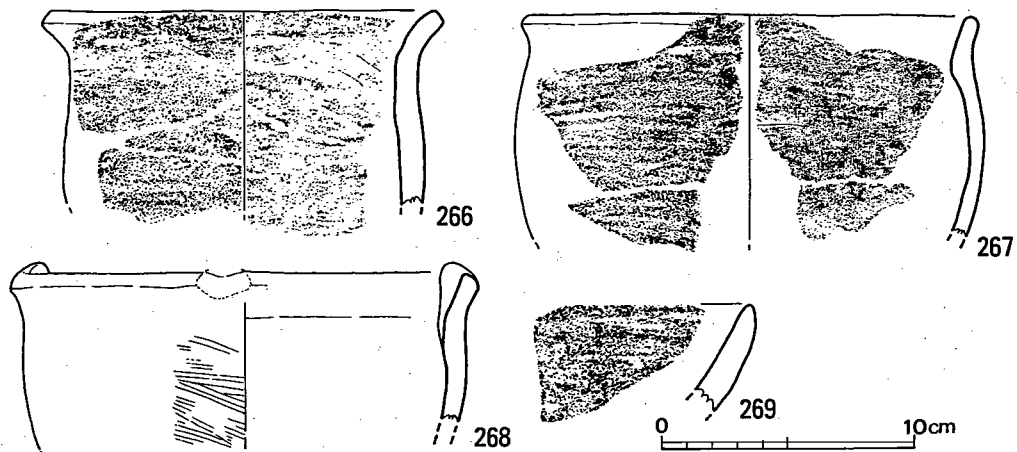
第 47 图 3 号住居跡出土土器拓影 4 (1/3)



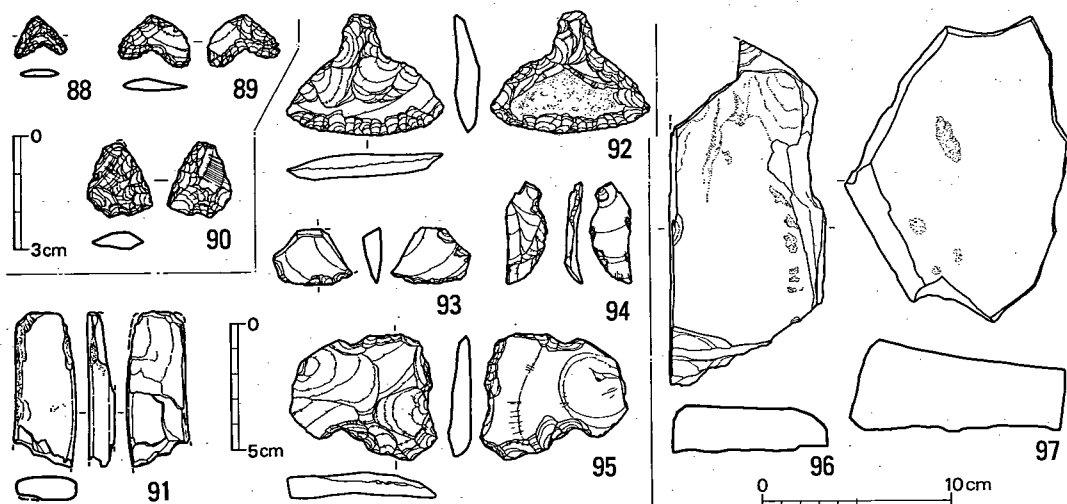
第 48 图 3号住居跡出土土器拓影 5 (1/3)



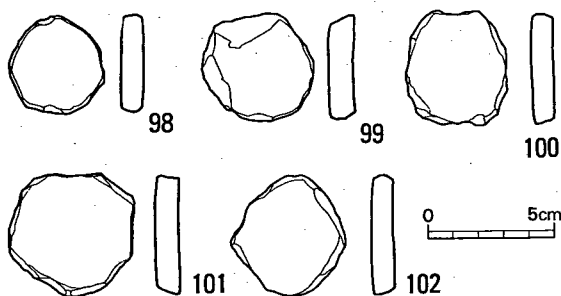
第 49 图 3号住居跡出土土器拓影 6 (1/3)



第 50 図 3号住居跡出土土器拓影7 (1/3)



第 51 図 3号住居跡出土石器実測図 (1/2・1/3・1/4)



第 52 図 3号住居跡出土土製品実測図 (1/3)

用痕のある剥片である。95は安山岩の剥片の側縁を調整剥離するが、刃潰れが一部ある。

石 皿 (97) 破片資料で全体の形は不明だが、すれている使用面はやや中凹みである。

砥 石 (96) 片面は石皿と同じような使われ方か、砥石として使用された

のか、すれている。石材は打製石斧に用いられるもので、あるいは石斧の素材であろうか。

土製品 (図版23, 第52図, 表20)

土製円板 (98~102) 5点図示する。98はほぼ円形で周縁は研磨され、99は角張った形で一部研磨されるが、100~102は角張った形で打ち欠き調整のまま放置されている。

4号住居跡 (図版24-1, 第16図)

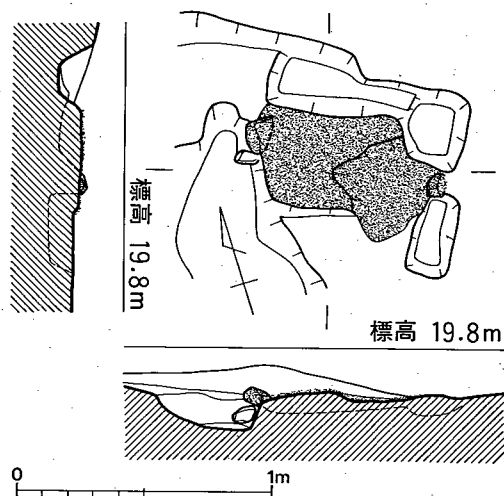
調査区の北部で、2号住居跡の北側にあり、2号住居跡に大半を切り取られる住居跡である。一辺3.6~3.8mの隅丸方形プランを呈するが、東側に肥料溜めの野壺が施設された穴があったこともあり、約3/4を失う。北側で0.2m程の深さをもつが、周壁はやや傾斜している。遺された上縁では淡茶褐色砂質粘性土の地山だが、下部の河原石が露呈する地山まで掘り込まれている。床面は約10㎡残り、床面を掘り込む柱穴は3つある。このうちP26・28は主柱穴であろう。深さ50cmないしそれ以上で、約1.8mの柱穴間距離をもつ。P19・20はこれに対応する可能性もあるが、2号住居跡と4号住居跡の床面の高さは約30cm違うこともあり、南側に対応する柱穴を検出し難い。また、住居跡北側壁面にある柱穴状ピットは、縄文土器片のみ出土しているが、住居跡よりも後出するものである。床面東端には幅20~30cm、深さ5~10cmの溝が壁に沿って検出されたが、野壺攪乱の南側では検出できなかった。

2号住居跡でも述べたが、2号住居跡の床面に検出された焼土部分が、その位置関係や深さから4号住居跡の炉跡と考えられる。

炉跡 (図版24-2, 第53図) 硬く赤変した焼土が東西65cm, 南北35cmの広さに検出され、その周囲を15cm程の幅でコ字形に囲む黒色土が検出された。この黒色土を除去すると、7~15cm深さの掘り込みが現れて、それぞれに個別の穴になることから、焼土を囲んでいた石が抜き取られたものであろう。焼土北側にある小さな石も隙間を埋める機能を果たしていた石と考えられる。石を立てて並べたとすれば、長軸100cm, 短軸75cm程の大きさであったと推定される。焼土は東側でやや凹むが、3~5cmの厚みがあり、焼土の下に敷石は存在しなかった。

出土遺物

縄文土器片がパンコンテナに2箱分と、石鏃・磨製石斧・打製石斧・削器・石皿・すり石、土製円板などが出土した。



第53図 4号住居跡炉跡実測図 (1/30)

縄文土器 (図版25・26, 第54~58図, 表6・7)

270~273は床面, 274はP28; 275はP26から, 276~309はフク土から出土したが, 上部では2号住居跡のフク土との境目が不明瞭であったため, 2号住居跡と一部混在している。

1類 (270~275) やや幅のある沈線で区画される文様をもつ土器。外面を研磨調整したものが多く、鉢では, 270のように口縁部が緩やかに外反するが、蕨手状の文様などで口縁部から胴部に文様がおおらかに描かれている。278はそれに比べると文様施文範囲が縮小した感がある。272でみる限り橋状把手は幅広で大きい。276・277はやや肥厚した口縁部に大きめの列点が並ぶ。また273のような椀に近い形の鉢もあり、波頂部のみ文様が配され、口唇上にも長方形の区画が描かれている。

2類 (279~282・289) やや幅のある沈線と縄文が施文されている。器形は1類と似るが, 289はやや頸部のくびれが強く後出する可能性もあろう。小池原上層式の範疇に入る。

3類 (283~287) 沈線文で区画される文様をもち、鉢の口縁部は1類に比して短めで、外反は顕著になるが, 285のような緩やかめに外反して外面に沈線を巡らせるものもある。沈線は1類に比して細いが、蕨手状文様などが描かれる。短めに外反する口縁部の286・287の口唇部に同心円弧文と内側に刺突列点がみられる。鐘崎式にも含まれるが、やや新しい要素が含まれている。

4類 (289~292) 沈線文で区画される文様をもち、沈線もやや細いが、縄文が施文される。290は口縁部が内彎する椀形の土器で、沈線は細いが縄文施文範囲は幅広である。291は直線的に開く胴下半部破片で、縄文施文範囲はやや幅が広い。292はくびれた頸部から反るものの内彎する口縁部で3条の平行沈線が巡る。やや後出するものであろう。

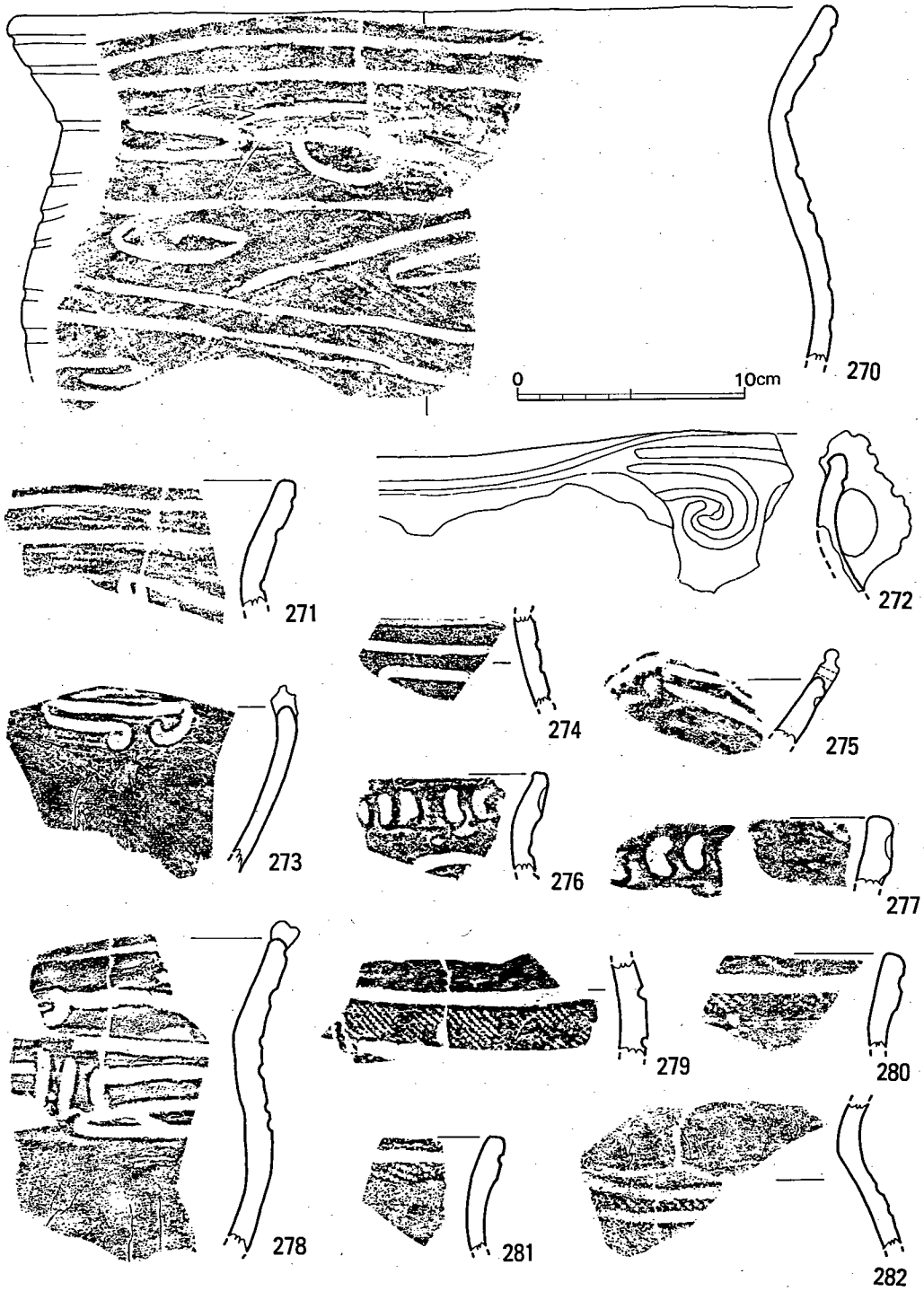
5類 (288) 疑似縄文を施文するもの。口縁部が内彎する椀形の土器で、平行沈線に区画されたヘナタリ疑似縄文施文部分は、口縁部下に巡るとともに胴部を垂下する。

6類 (293~308) 無文土器・条痕土器を一括した。

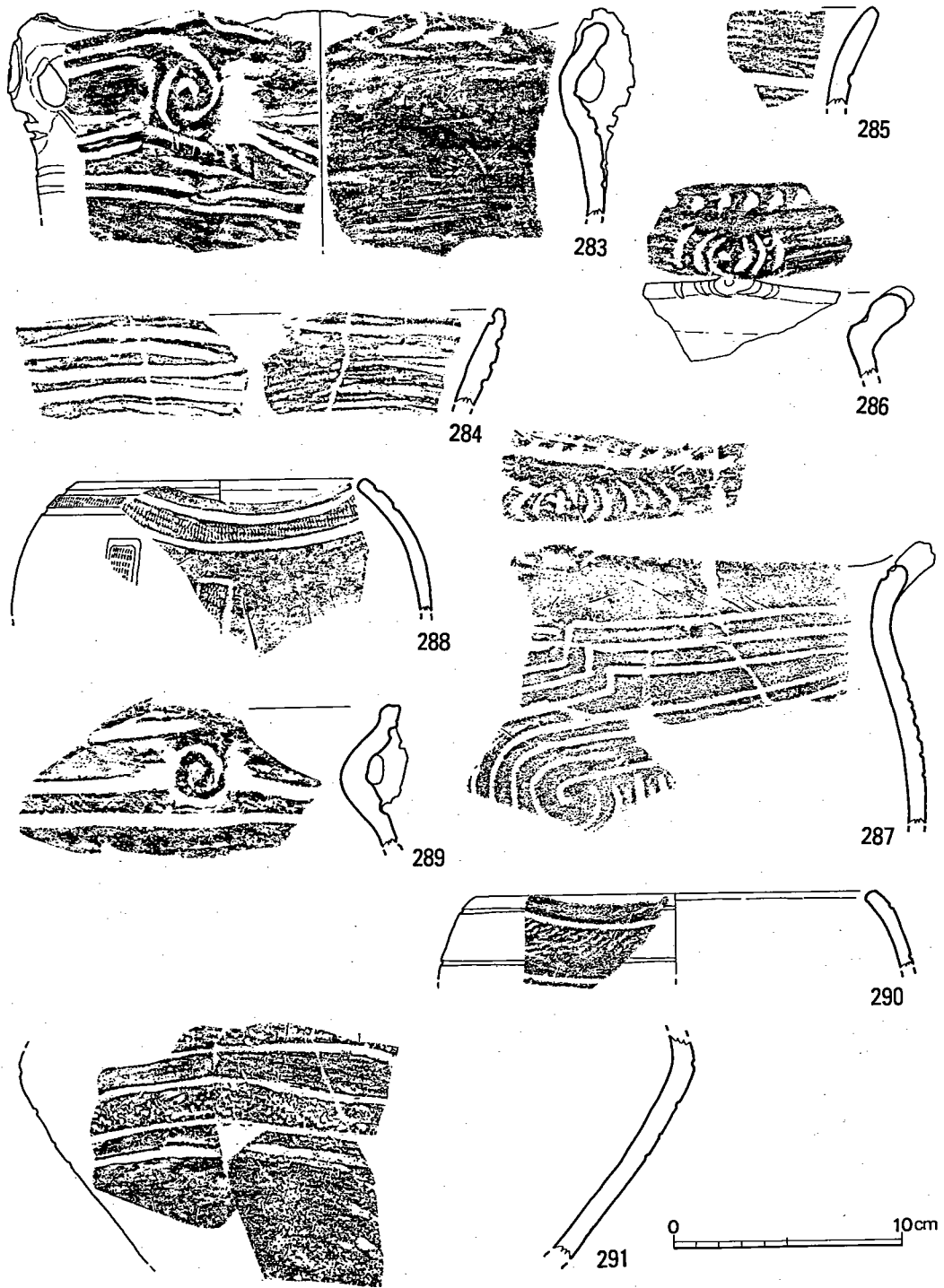
295・297・300は条痕土器, 295の口唇部には斜方向の刻みがある。293・294は条痕の後にナデが加わる土器。294の口縁部は緩く外反する。299・301~305はナデ調整されるが、口縁部が外反するものと、ほとんど反らずに立ち上がるものがある。

308~309は研磨調整される土器。306・307は椀状の鉢で、308・309は鉢形土器の底部。308の底面は高台状に凹む。296~298は底面が平らな、鉢ないし深鉢の底部で、296の外底面にはヘナタリ条痕がみられる。

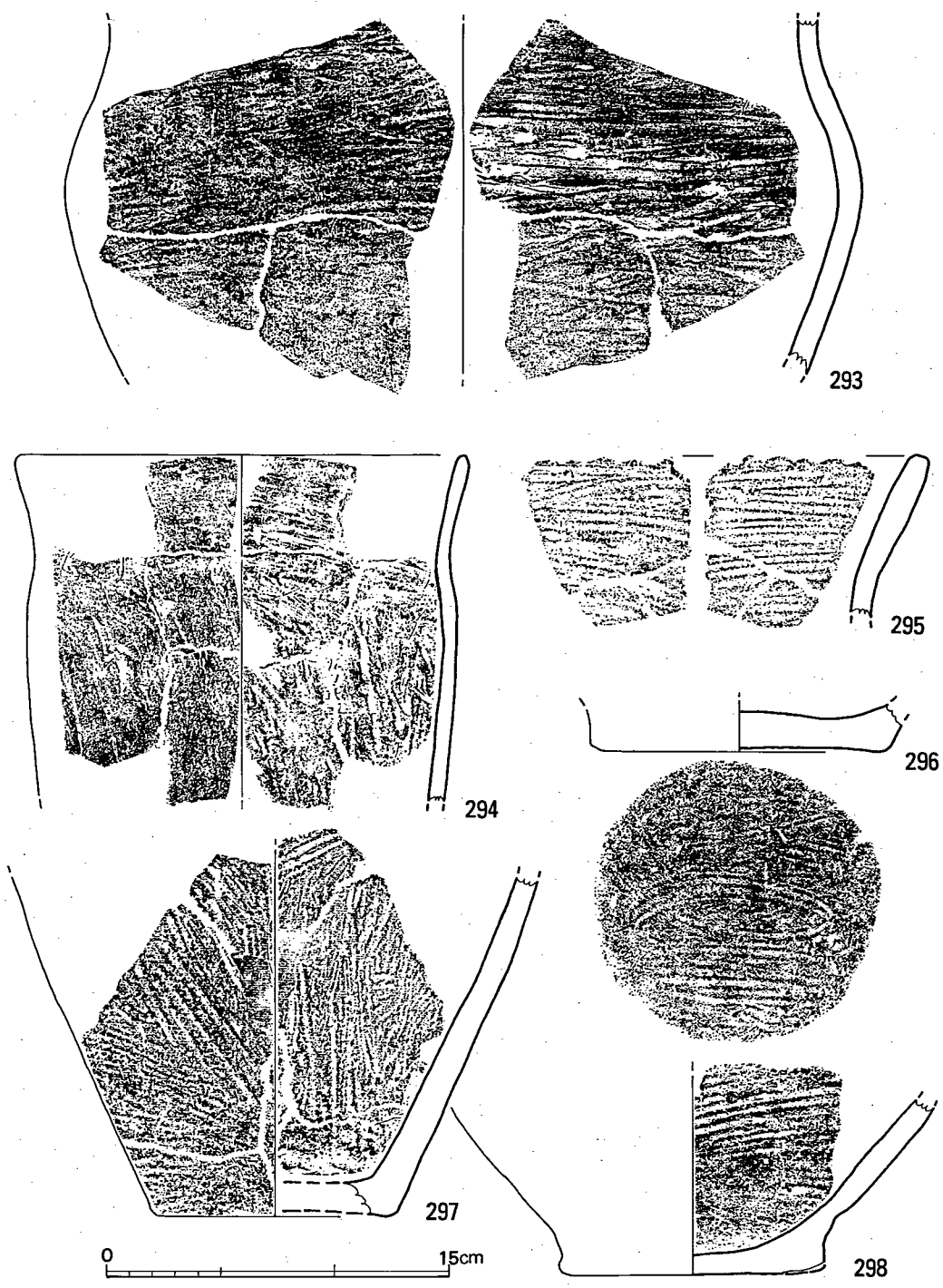
これらの土器では、3類~5類土器に新しい要素をみる以外、小池原上層式・鐘崎式に相当する。新しい要素の土器は、重複している2号住居跡の混入と考えられることが可能であろう。従って4号住居跡の土器としては、これを差し引いた、概ね小池原上層式のものとして良いだろう。



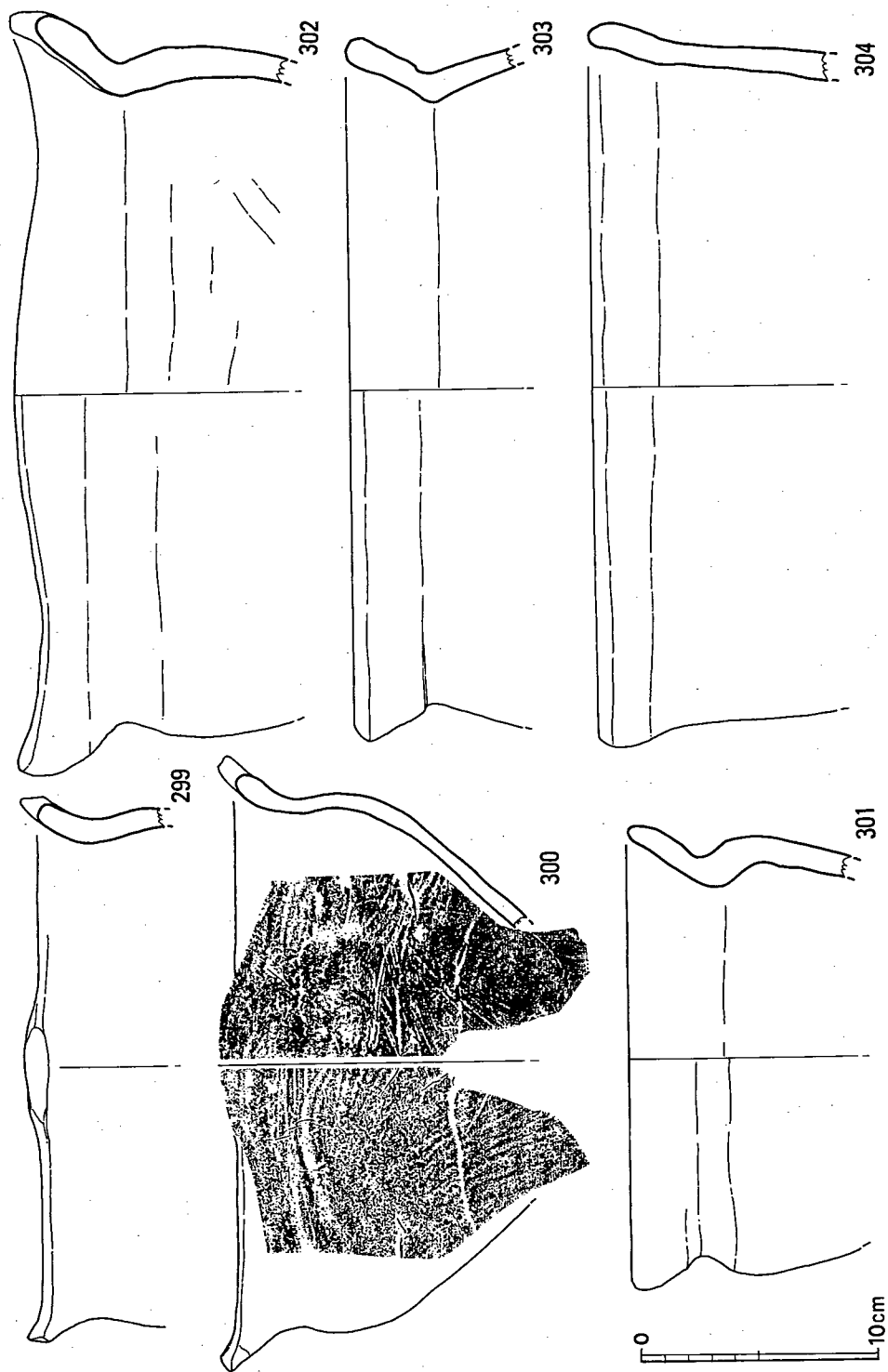
第 54 图 4 号住居跡出土土器拓影 1 (1/3)



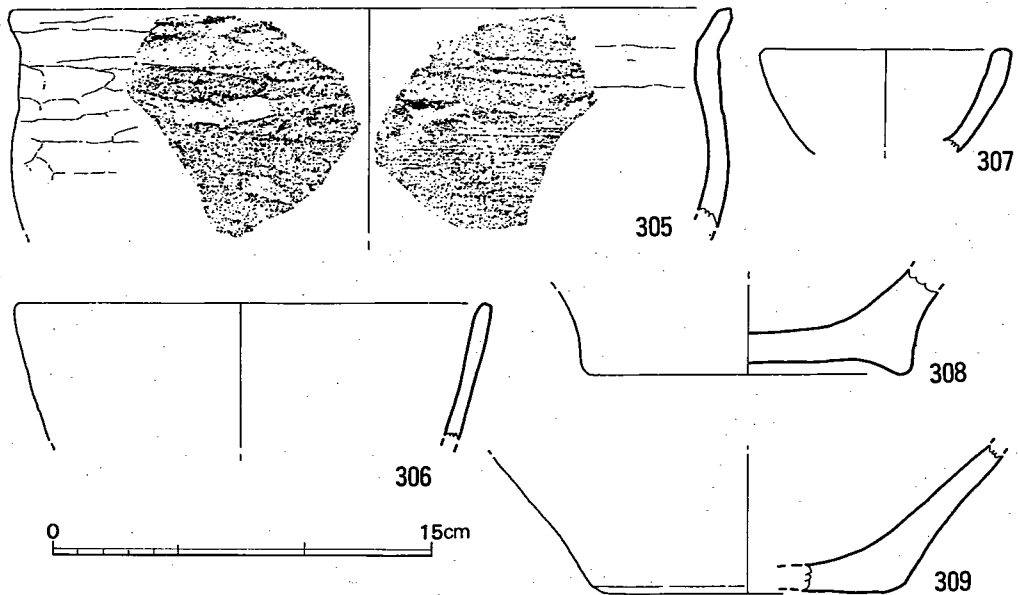
第 55 图 4 号住居跡出土土器拓影 2 (1/3)



第 56 图 4 号住居跡出土土器拓影 3 (1/3)



第 57 图 4 号住居跡出土土器拓影 4 (1/3)



第 58 図 4号住居跡出土土器拓影 5 (1/3)

石 器 (図版26・27, 第60図, 表16・17)

石 鏃 (103~105) 103・104は凹基式で, 姫島産黒曜石製。104は薄めの剥片を調整して鋸歯状の側縁をつくっている。105は平基式のチャート製の石鏃。

打製石斧 (106・107) 扁平打製石斧で, 106は幅5cm弱だが, 107は4cm弱と細めである。

すり石 (108・109) 掌の中に取まり易いやや扁平な円礫で, 平坦な面はよくすれているが, 周縁には敲打痕がみられる。108の平坦面に痘痕状の凹みがある。

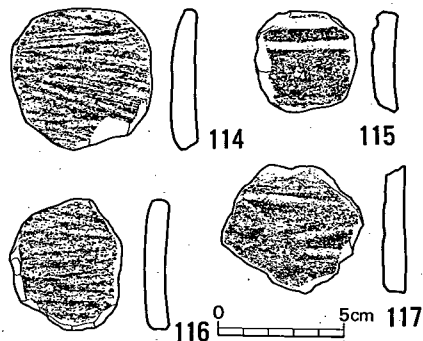
石 皿 (110) 半欠資料で反対側の形状は詳らかでないが, 使用面はよくすれてやや凹みになっているものの, 傾斜がある。

削器類 (111・112) 111は扁平な安山岩剥片の側縁に調整剥離が加えられている。112は大理石のような厚みのある石材の周囲を調整剥離している。

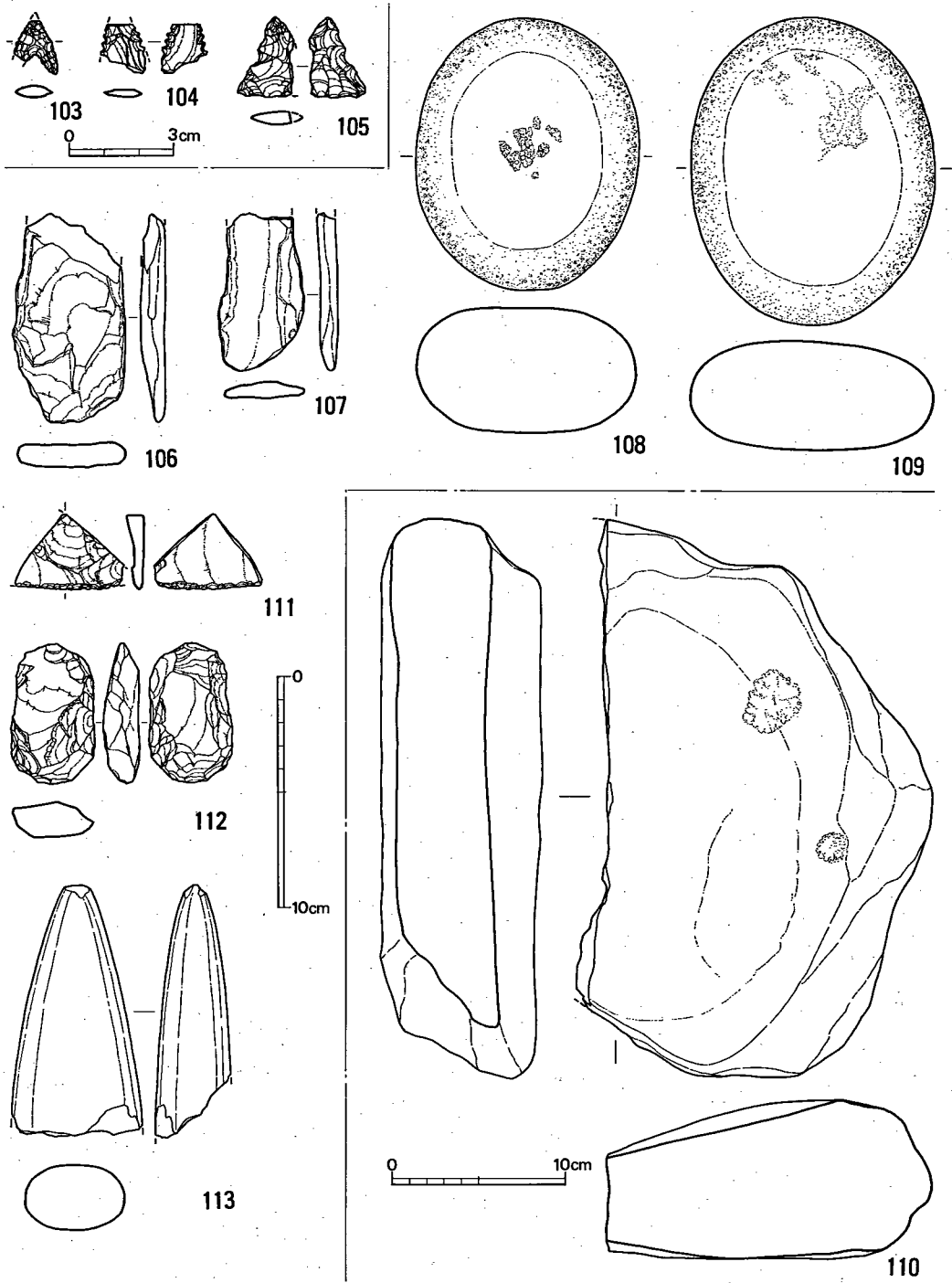
磨製石斧 (113) 刃部を欠くが, 幅6cm程のやや厚みのある磨製石斧である。

土製品 (図版27, 第59図, 表20)

土製円板 (114~117) 4点ある。114はほぼ円形で周縁は研磨されている。115はほぼ円形, 116・117は角張った形で, 打ち欠き調整のまま放置されている。



第 59 図 4号住居跡出土土製品実測図 (1/3)

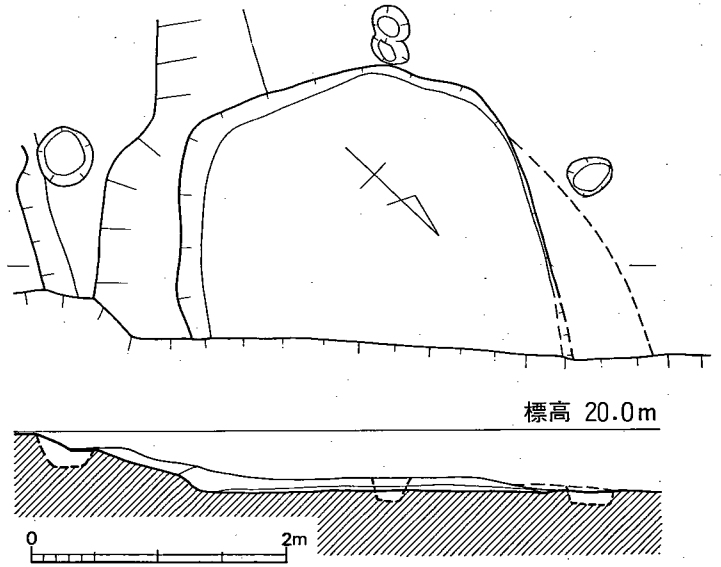


第 60 图 4 号住居跡出土石器実測図 (1/2 · 1/3 · 1/4)

115の素材である土器片の沈線はやや細く、2号住居跡の混入の可能性もあろう。

5号住居跡 (第61図)

調査区の北部で、4号住居跡の約4m北側に位置し、北東部は調査区域外に潜る。水田開削によって上部を大きく削られているが、遺構検出面では、直径4m強の不整円形プランで濃い暗茶褐色の範囲が検出された。図で北西側に記した破線の範囲がそれである。掘り下げによって、一辺3m程の隅丸方形の



第61図 5号住居跡実測図 (1/60)

プランになったが、南東側の様子からこれより広い円形の可能性もある。壁は僅かしか残らずに深さ0.05m前後、東南側では0.3m程の高低差がある。床面は砂礫の露出する地山にまで掘り込まれているが、柱穴・炉跡は検出できなかった。

出土遺物

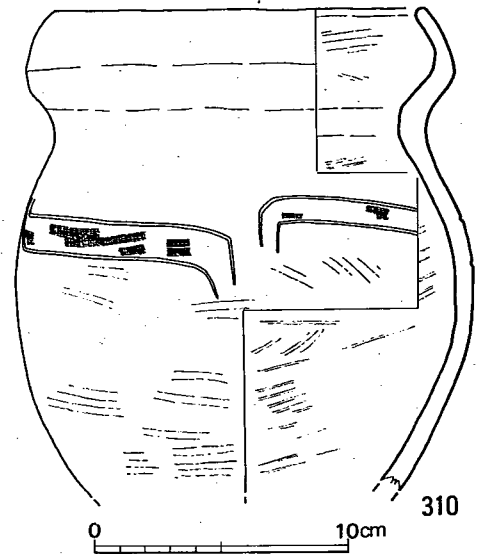
縄文土器片パンコンテナ1箱と、石鏃2点が出土した。

縄文土器 (図版27, 第62・63図, 表7)

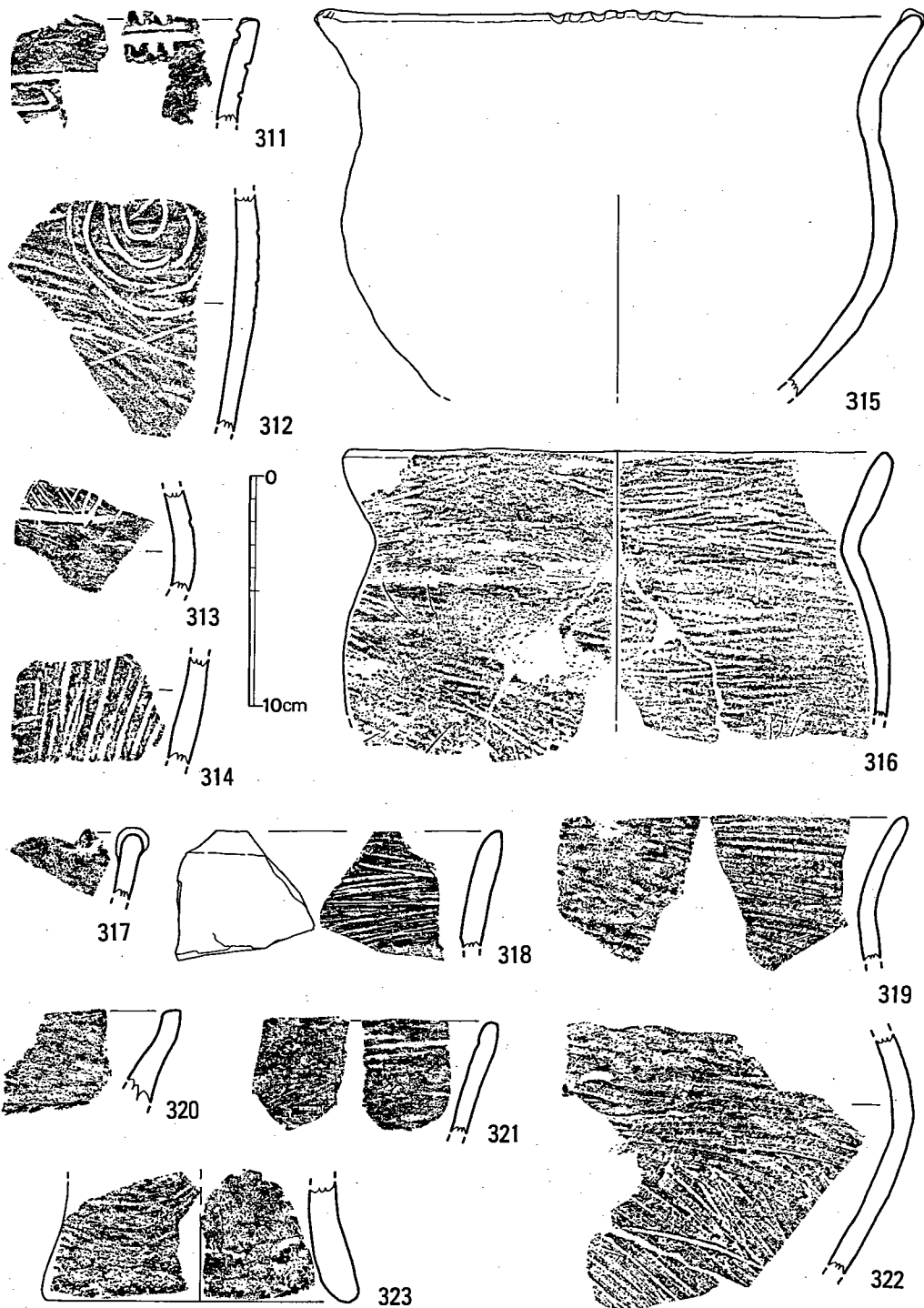
1類 (311~314) 条痕の後にナデ調整の加わった器面に、細い沈線による文様が描かれる土器。口縁部の311は緩やかに外反し、口唇内部に沈線と列点がある。312では同心円弧文, 313では斜線文が描かれている。

2類 (310) 疑似縄文を施文する土器。キャリパー形に内彎する口縁部をもつ深鉢で、胴部に4箇所釣形平行沈線が描かれ、区画内にヘナタリ疑似縄文が充填される。

3類 (315~323) 無文土器および条痕土器を一括した。



第62図 5号住居跡出土土器実測図1 (1/3)



第 63 图 5号住居跡出土土器拓影 2 (1/3)

315・317・320は内外面ともナデ調整される土器。315は口縁部が外反し、口唇部4箇所刻みがある。317は口唇部に瘤状の貼り付けがあり、320は口縁部がやや内彎する。

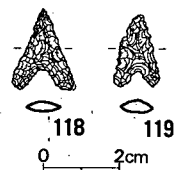
316・319は条痕の後にナデが加わる土器。口縁部は外反する。

323は台付き鉢の脚台部破片で、内外面ともにナデ調整されている。

これらの土器では、1類の一部に鐘崎式の新しい段階が見られるものの、2類土器や3類土器の特徴から、北久根山式の段階とみるべきであろう。

石器(図版27, 第64図, 表17)

石鏃(118・119) 黒色の黒曜石を素材にし、全面に調整剝離を施す、凹基の石鏃である。



第64図
5号住居跡出土石器
実測図(1/2)

6号住居跡(図版28-1, 第65図)

調査区の北部で、3号住居跡の北西方向に約10mの距離を置いて検出された住居跡。古墳時代の16号・19号住居跡と重複している。

長径9m, 短径8m前後の楕円形状プランを呈する住居跡で、古墳時代住居跡と重複しない部分では0.6~0.7mの深さを有している。上面では淡茶褐色の砂質粘性土で、あまり河原石を含まないものの、下位でかなり河原石を含む地山に掘り込んでいて、壁面はやや傾斜をもっている。床面は約41㎡の広さだが、床面を掘り込む柱穴状のピットは3穴しか検出し得なかった。柱穴状のピットは、直径40~70cm, 深さ40~70cmの規模のもので、主柱穴だろう。

木炭や焼土は散発的にフク土に混じっていたが、床面では、炉跡と言えるような焼土部分は検出し得なかった。

土偶出土状況(図版28-2, 第66図) 住居跡上部から土偶が出土した。河原石の多く含まれる堆積土の中で、背中を上、うつ伏せの状態で見出されたが、周囲に石囲いなどの施設は確認できなかった。

出土遺物

縄文土器片がパンコンテナ満杯で3箱と、打製石斧・石鏃・磨製石斧・すり石・石皿・土偶・土製円板などが出土した。

下層出土縄文土器(図版29・30, 第67~72図, 表7~9)

1類(324~327) やや幅のある沈線で区画される文様をもつ土器。口縁部は緩かに外反するが、波頂部に凹点が並ぶ。

2類(339~343) やや幅のある沈線と縄文が施文されている。342では胴部の膨らみに稜をもつようだ。小池原上層式の範疇に入る。

3類(328~338) 沈線文で区画される文様をもち、蕨手状文・同心円弧文・S字状文様が描かれる。口縁部は短く外反するが、331のように直立して内傾する器形もある。沈線は1類に比し

て細いが、なかでも334～336などの細い沈線は時期が下降するであろう。鐘崎式に含まれるが、やや新しい要素も含まれている。

4類 (344～352) 沈線で区画される文様をもち、沈線は2類に比して細いが、縄文が施文される。口縁部は短く外反する。349～352のような沈線が細く、文様帯全体に縄文が施文されたまま放置される例、押し引きの刺突列点のある例は、時期の下降するものであろう。

5類 (353～369・391・392) 疑似縄文を施文するもの。353～357はアナグラ疑似縄文、358～368・391・392はヘナタリ疑似縄文が施文されている。369は刺突列点のある土器である。

アナグラ疑似縄文施文のなかには、355のような沈線のやや太いものがあり、354の肩には稜がみられる。また356は文様帯全体に疑似縄文を施文したまま放置される例である。

ヘナタリ疑似縄文施文のなかには、狭い平行沈線の間を消すものが多いものの、361のように平行沈線間が放置されている例があり、文様帯全体に疑似縄文を施文したまま放置される例が364～368にみられる。

391・392は内面にも文様を施す、皿形土器の破片であろう。

6類 (371～390・394～400) 薄手の精製研磨の土器を一括した。このなかには、羽状文ないし、連続する短く細い斜行沈線を施文する土器も含まれている。

371～374は幅広の文様帯をもつが、371・374は羽状文で磨消縄文的な文様をつくり、372・373は丁寧にナデ調整されて綾杉文を口縁部に巡らす手法である。

375～377は3・4条の細い平行沈線の巡るやや幅広の文様帯をもち、378は狭く肥厚した波状口縁に2条、388は口縁部内側に1条の沈線が巡り、く字形にくびれた肩に沈線と羽状文的な文様がある。380・381は内傾する幅の広い口縁部に4条程の沈線が巡るもの。なお、380・388には扇状圧痕もみられる。

382～385・400は口縁端部がわずかに内傾し、382などは細い沈線が巡る。

389・390は浅鉢で口縁内部に1条沈線が巡る。395・396は注口土器の注口部で、395には円形の貼り付けがみられる。

7類 (401～410) 有文の精製土器類の底部、およびその他の土器。

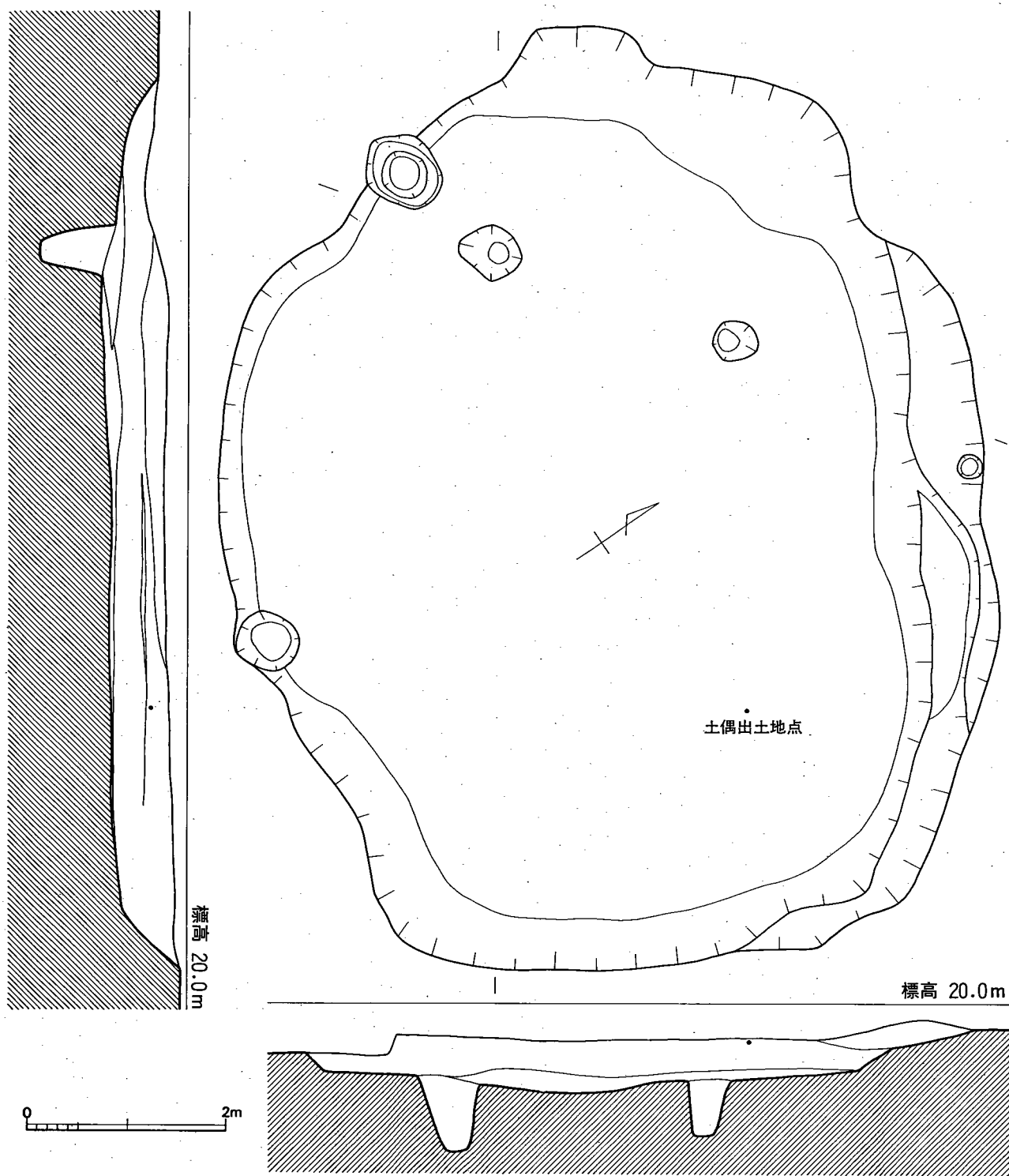
401は橋状把手で紐状の貼り付けが上下にある。402は脚裾を欠くが、高さ4cm余りの脚台付角鉢で、波頂に小さな凹点がある。403・404は脚台で、404には円形の穿孔がある。

8類 (411～439) 無文土器・条痕土器を一括した。

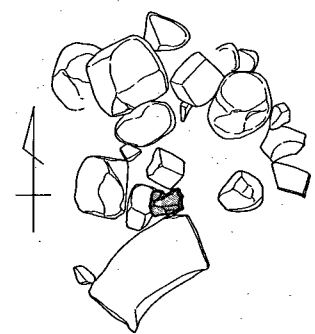
411～423が無文土器。411～413は緩く外反する波状口縁の土器。414は短く外反し肥厚する。419・421の口唇部には斜方向の刻みがある。424・425は内彎する口縁部をもつ深鉢形土器。

424～435は条痕土器だが、条痕はアナグラ条痕・ヘナタリ条痕が用いられ、ナデ調整の加わるものも多い。

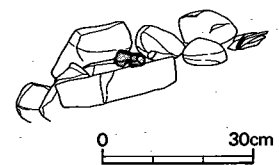
436～438の底部は体部側がナデ調整で、外底面に網代圧痕がある。437の圧痕はやや粗い。



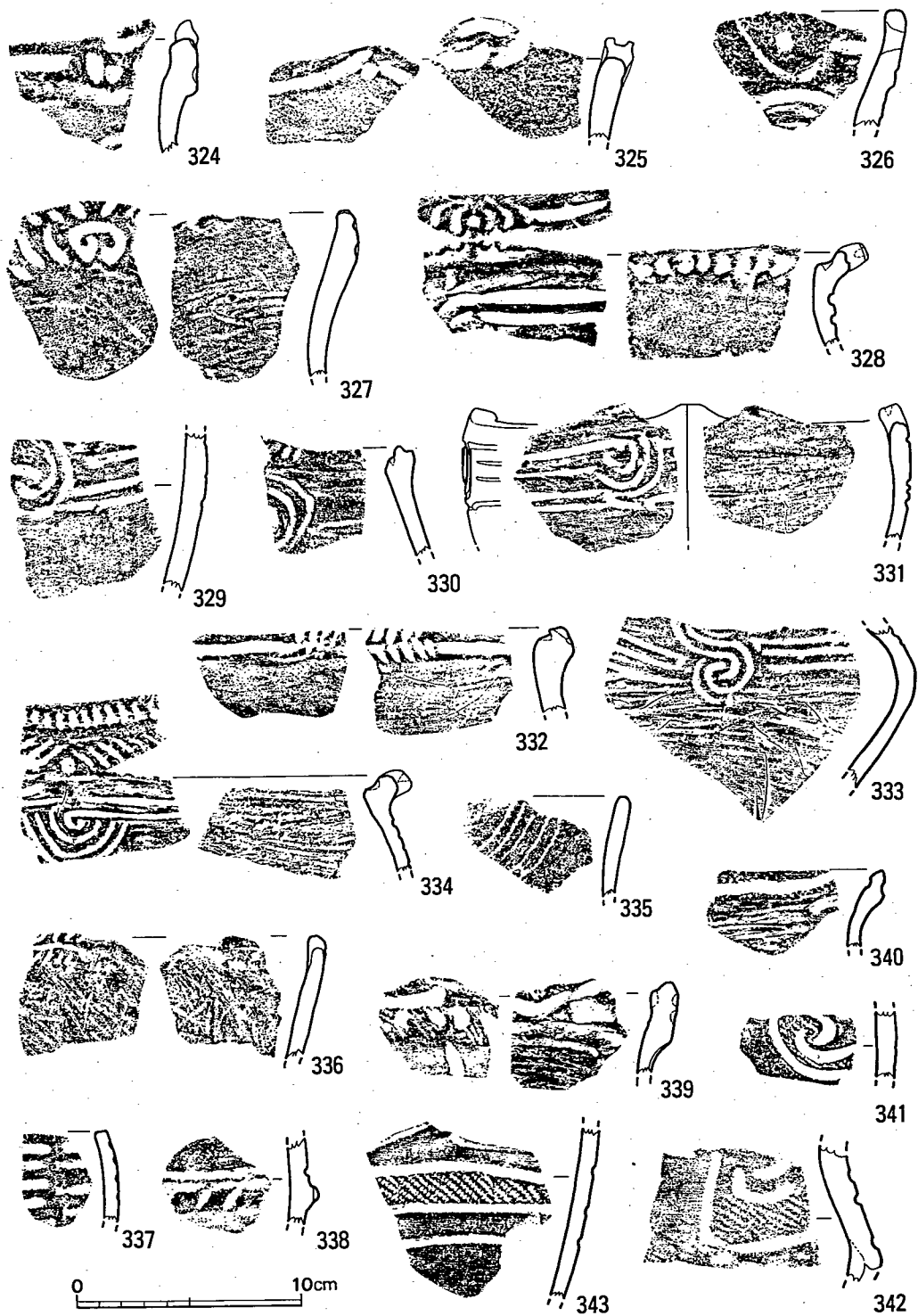
第 65 图 6 号住居跡実測図 (1/60)



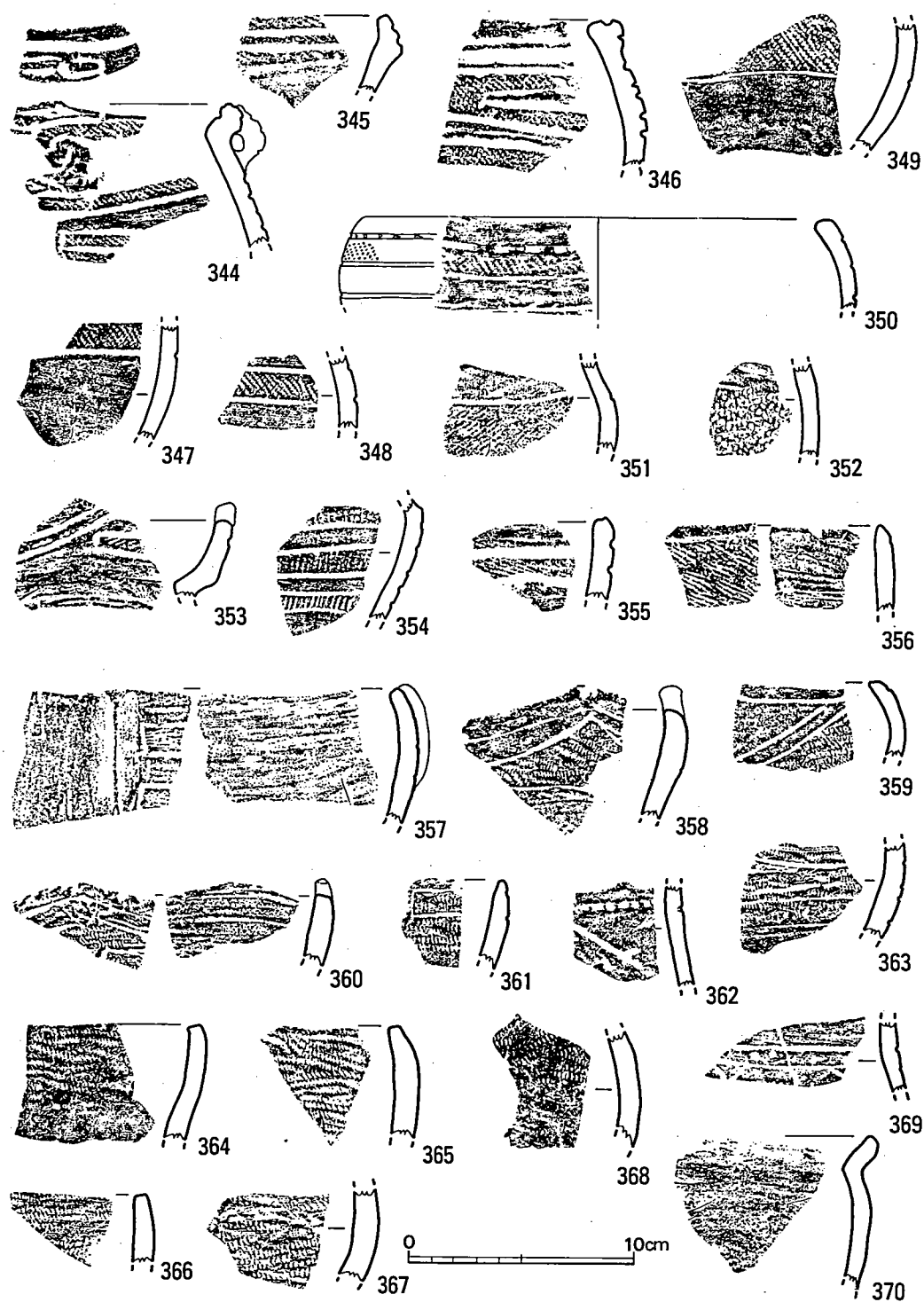
標高 19.8m



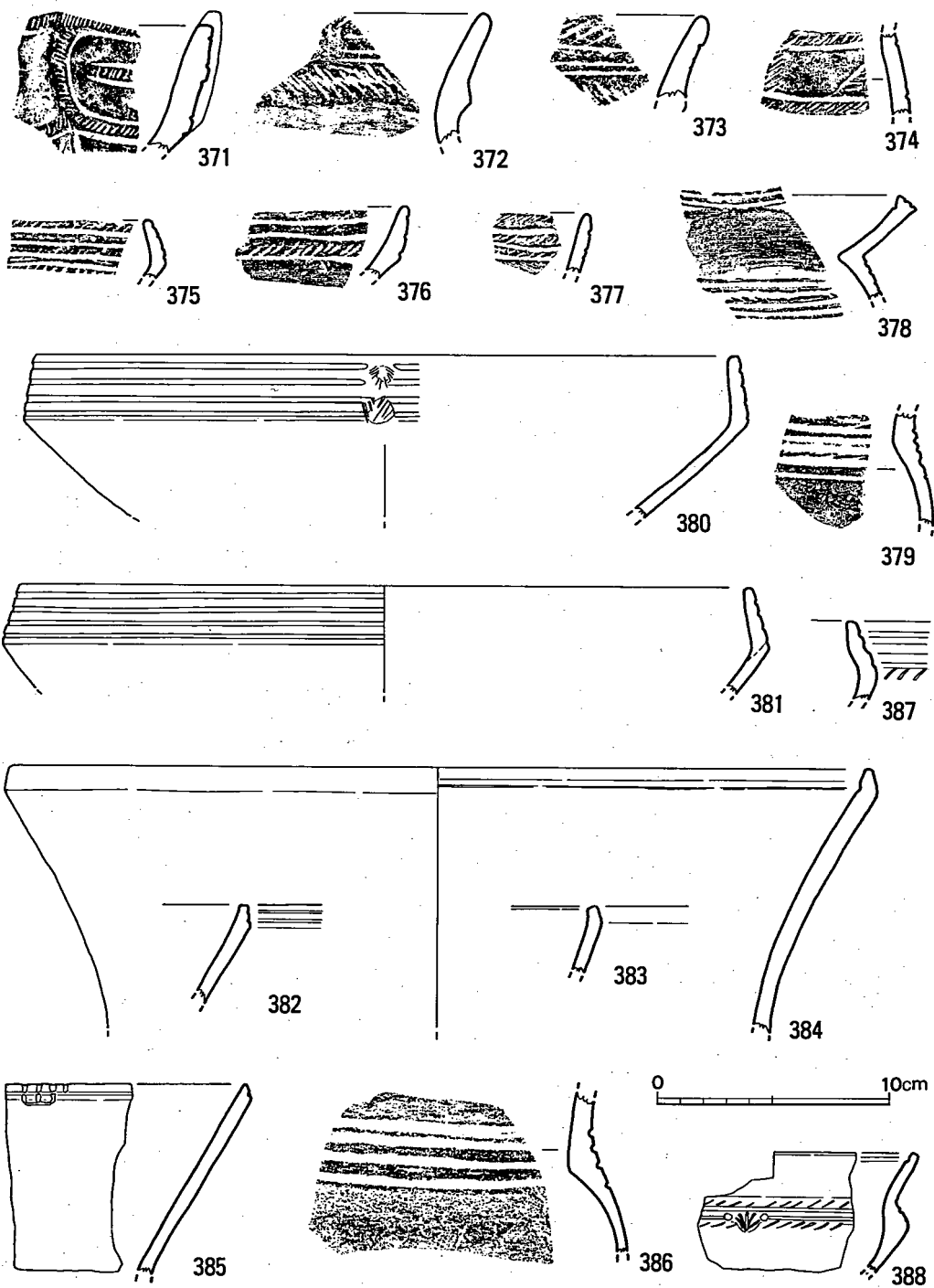
第 66 图 6 号住居跡土偶出土
狀況実測図 (1/15)



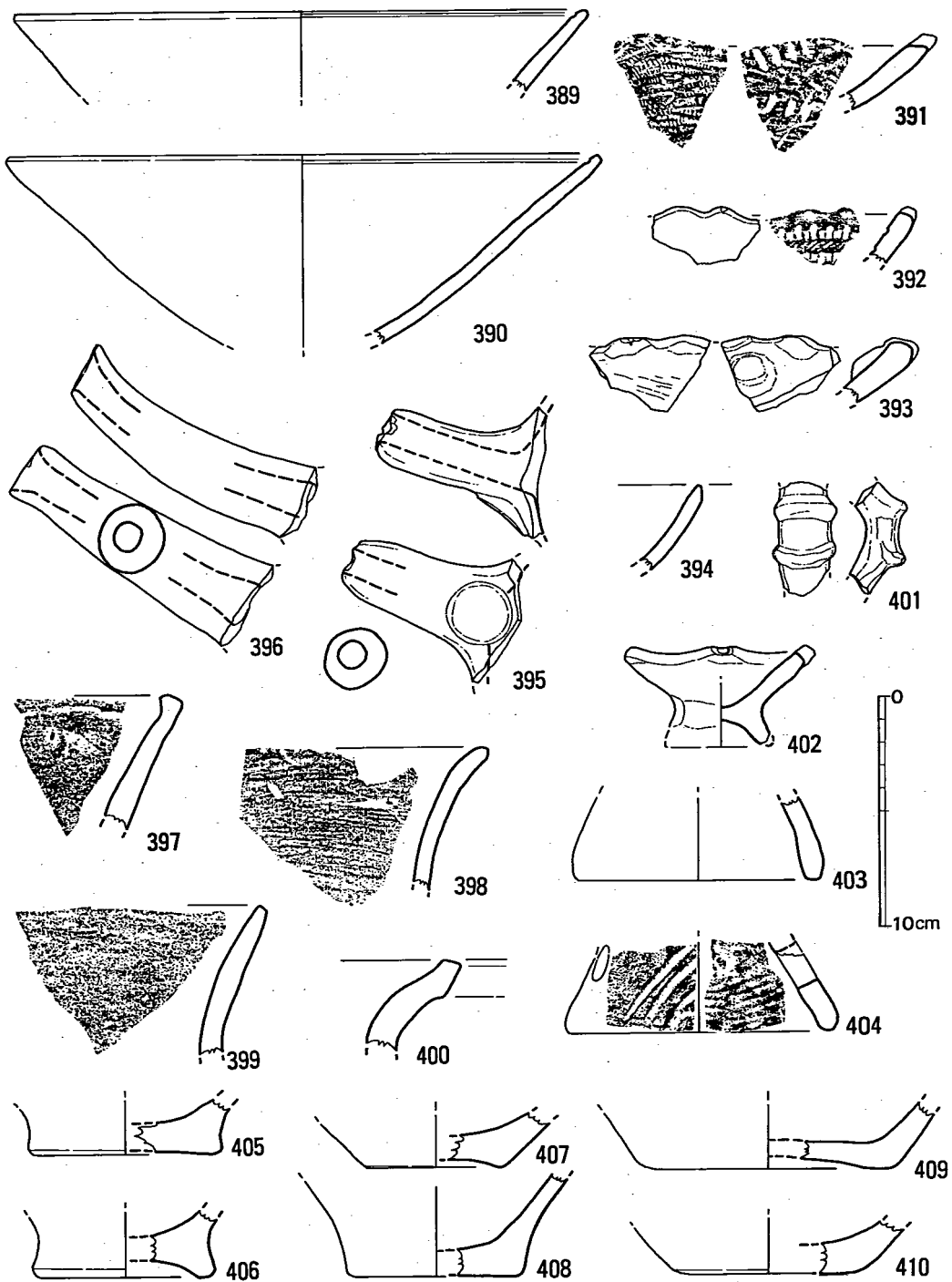
第 67 图 6 号住居跡出土土器拓影 1 (1/3)



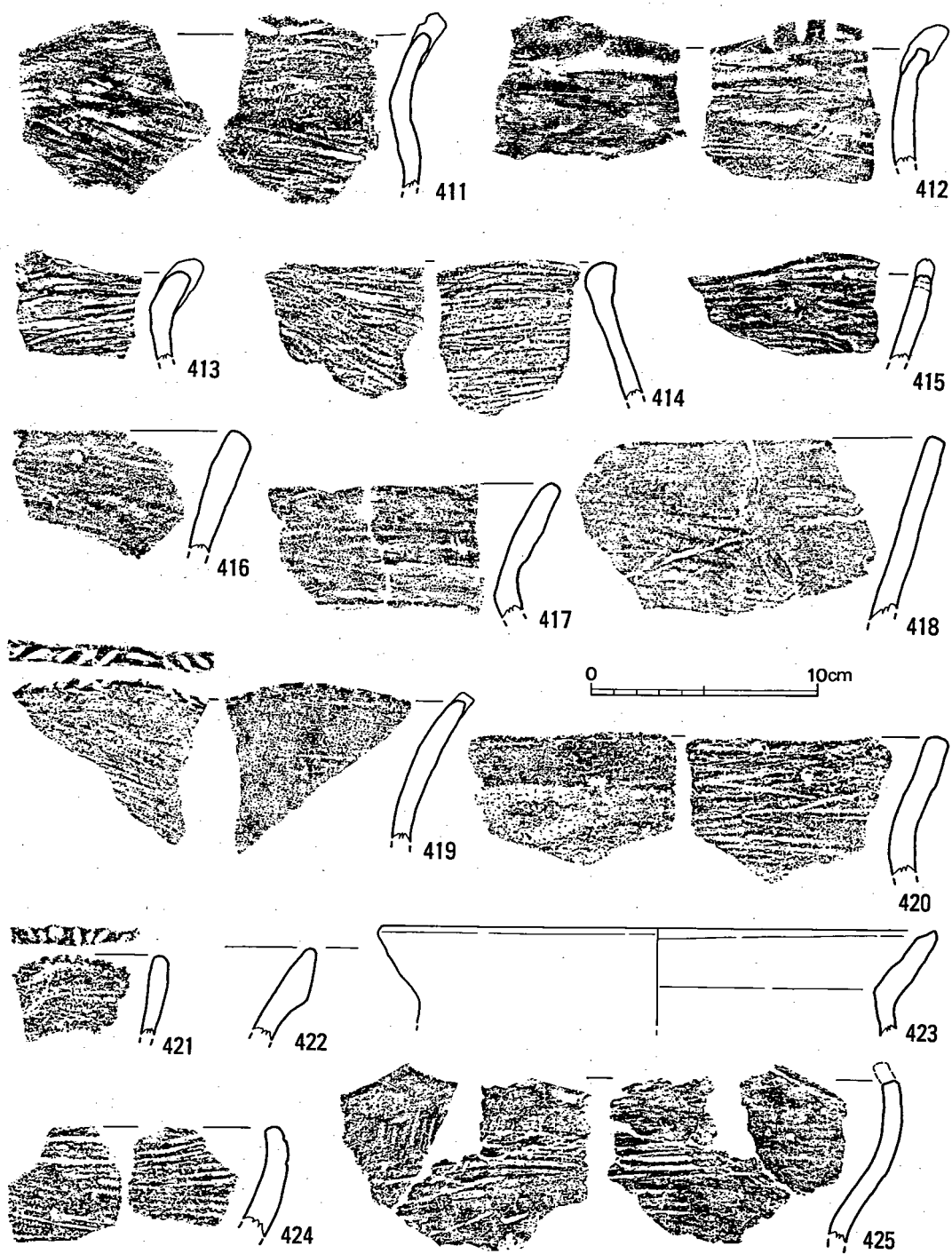
第 68 图 6 号住居跡出土土器拓影 2 (1/3)



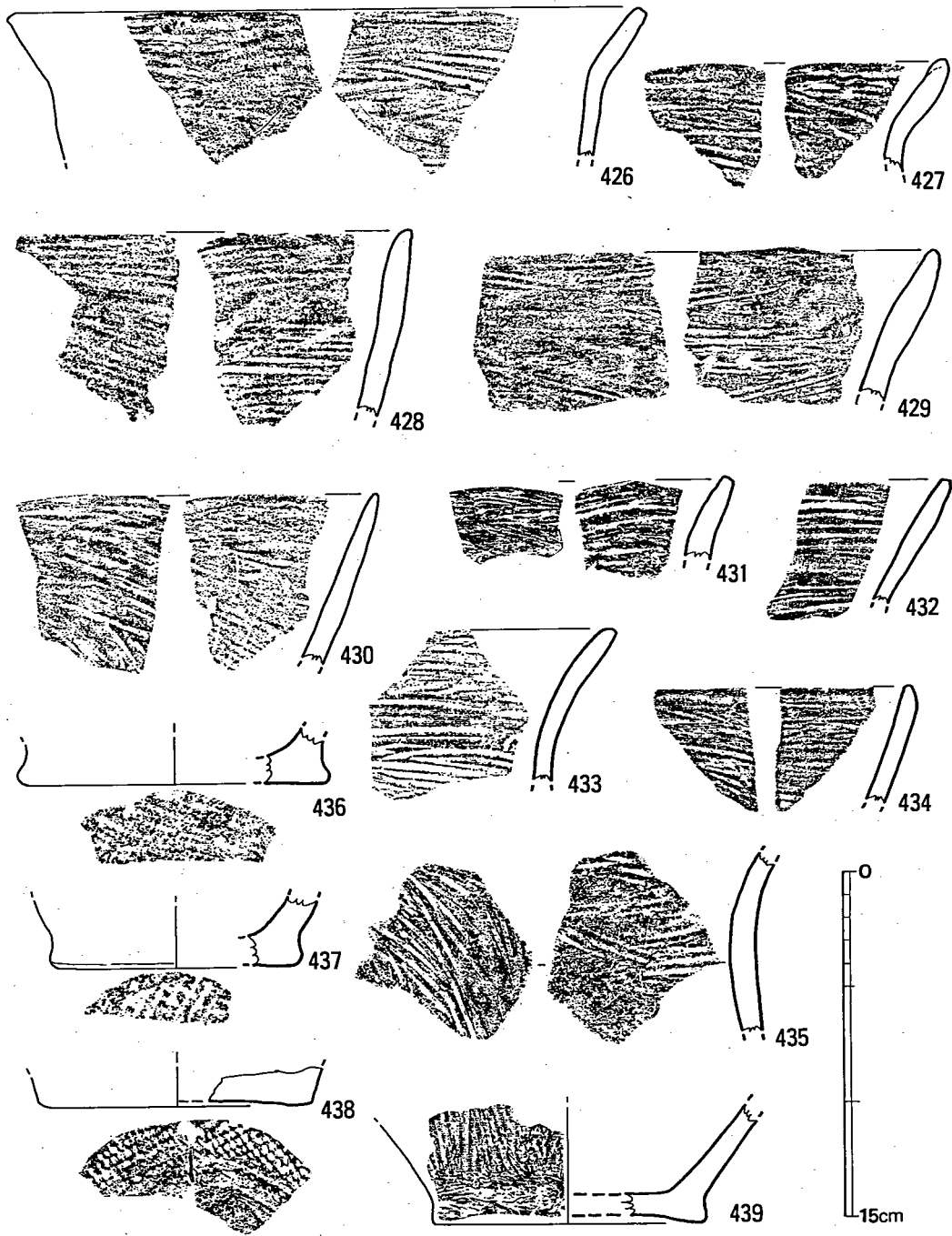
第 69 图 6 号住居迹出土土器拓影 3 (1/3)



第 70 图 6 号住居跡出土土器拓影 4 (1/3)



第 71 图 6 号住居迹出土土器拓影 5 (1/3)



第 72 图 6号住居跡出土土器拓影 6 (1/3)

上層出土縄文土器 (図版30・31, 第73~75図, 表9)

1類 (440~442) やや幅のある沈線文様をもつ土器。口縁部は緩やかに外反するが、波頂部に凹点が並ぶ。

2類 (445) やや幅のある沈線と縄文が施文されている。342では胴部の膨らみに稜をもつようだ。小池原上層式の範疇に入る。

3類 (451・452) 沈線文で区画される文様をもち、沈線は細い。451は口縁部が内傾して、3条の沈線が巡る。452は脚台で、踏ん張るような裾に沿って沈線の施文がみられる。

4類 (443・444・446・447) 沈線文で区画される文様をもち、沈線は2類に比して細いが、縄文が施文される。443は直線的に立ち上がった口縁端部外面に瘤状の貼り付けがあり、小さく穿孔されている。444は口縁部に瘤状の貼り付けをし、上から3本の刻み目を入れている。口縁部下に浮き上がった縄文帯があり、器壁は薄い。446・447は同一個体の可能性がある。縄文帯に斜行する平行沈線で三角形の区画がつくられて、中にS字状の蛇行文様と縦の列点文が描かれるが、磨消縄文手法はとらない。

5類 (448・449) 疑似縄文を施文するもの。448は口縁端部に、449は胴部にへナタリ疑似縄文が施文されているが、施文したままで区画はみられない。449の肩には沈線で描かれる文様があるようだ。

6類 (450・453・459~466) 黒色磨研の土器で、膨らんだ胴部をもち、く字形にくびれて口縁部が長めに開く器形の土器。口縁部が内傾して文様帯をつくるものと、わずかに文様帯をもつか口縁部が屈曲しないものがある。

453は肩部に巡る平行沈線間にC字形の刺突列点をつける。

450は内傾する口縁部に、沈線と細線羽状文が施文される。459~460は口縁端部で面をなすものの内傾せず、肩部に細線羽状文が施文される。460と461はうまく接合しないが同一個体であろう。これらは三万田式土器に含まれる。462~466は文様をもたないが、器形から同様の時期のものであろう。

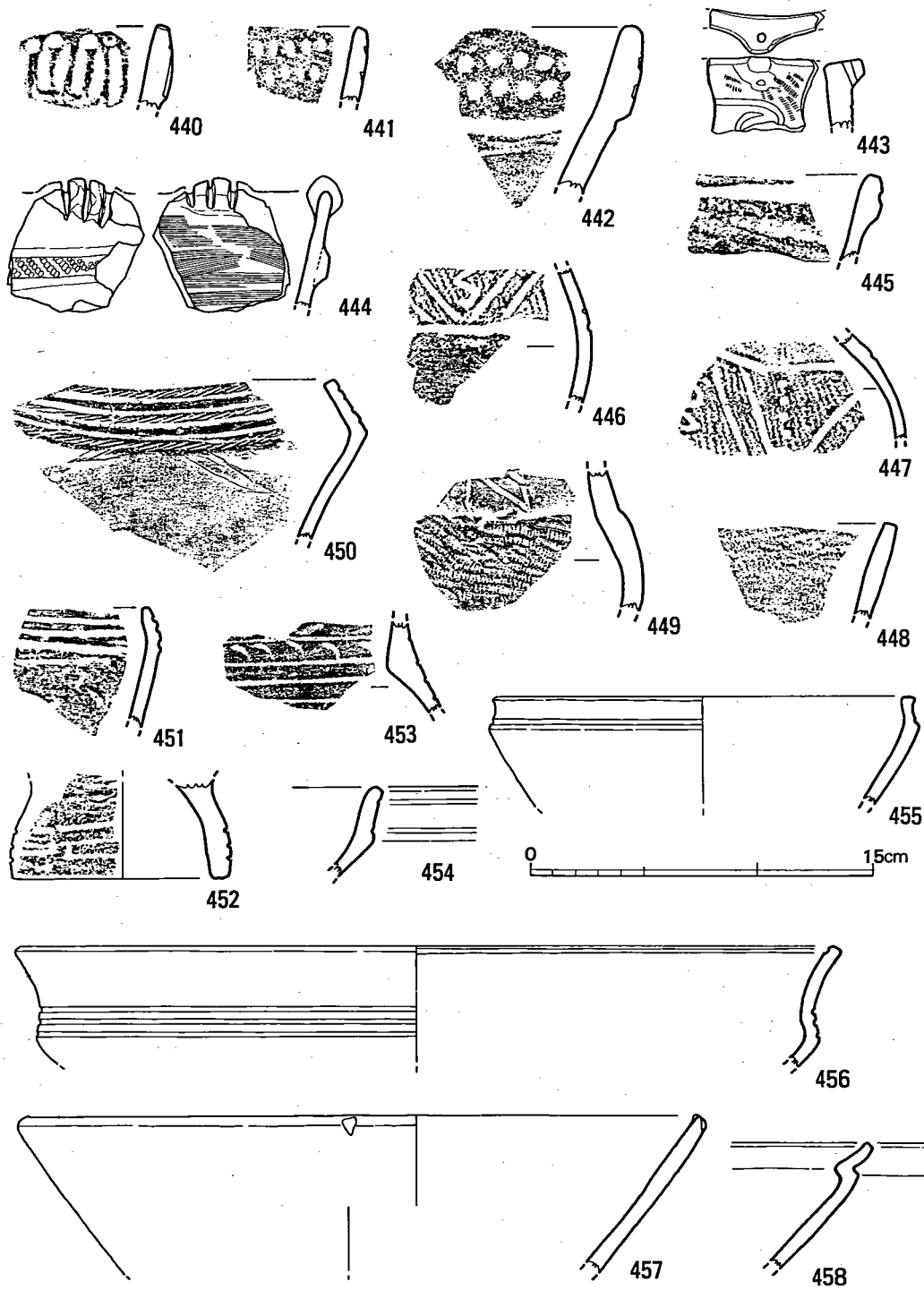
7類 (454~458) 黒色磨研の浅鉢で、晩期の土器。455・456は口縁部が緩く外反し、胴部界線に2・3条の沈線を巡らせる。457はくびれない浅鉢で、口縁端部に小さな凹点がある。458は短く外反する浅鉢である。

8類 (467~469) 無文土器・条痕土器を一括した。条痕の後ナデられる器面調整で、直線的にのびるが、469はやや内彎する。

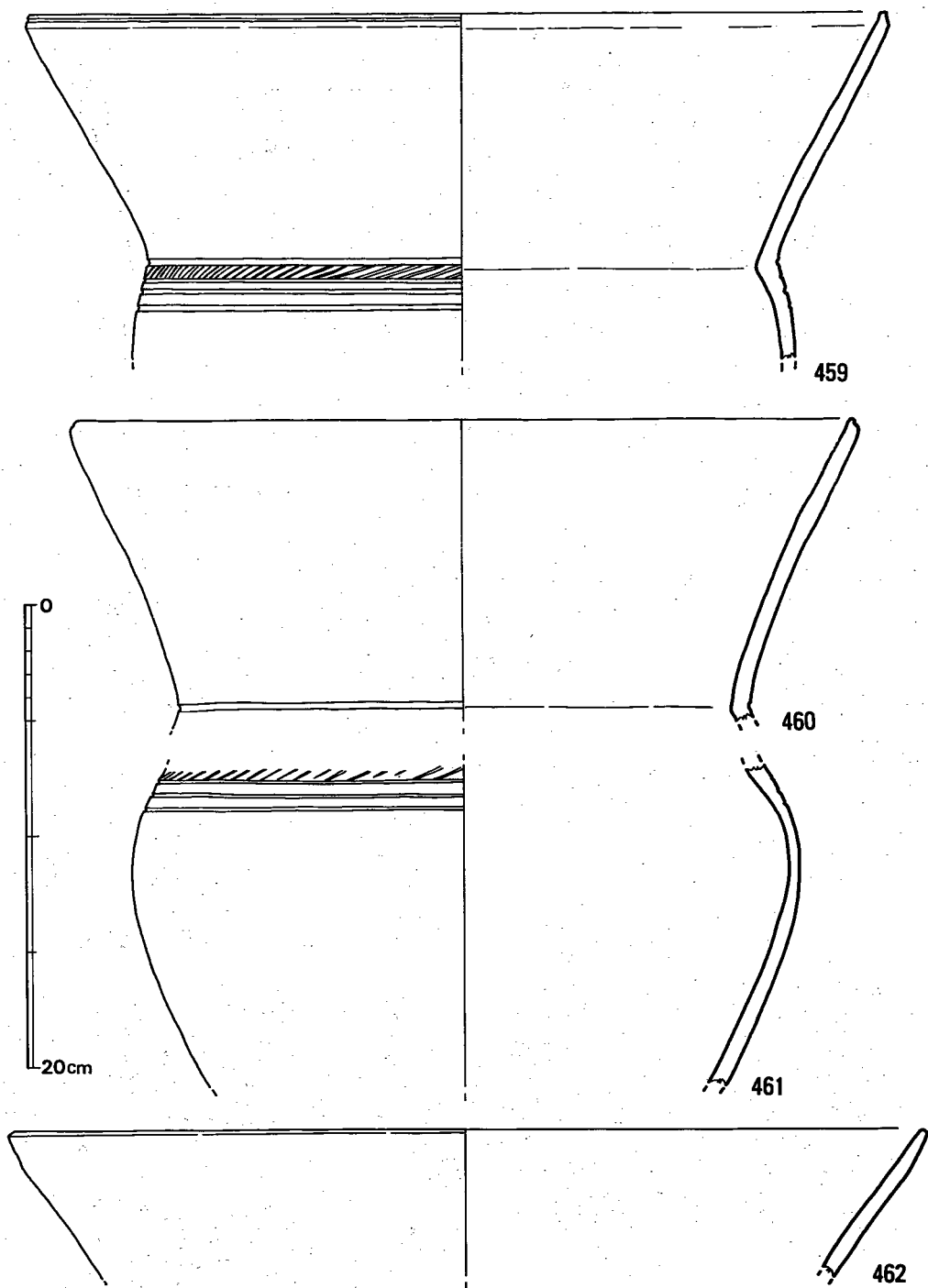
これらの土器では時期幅があるものの、下層の三万田式土器、上層の晩期土器が、それぞれ新しい時期のもので、住居跡の時期は下層の土器をもって考えておきたい。

石器 (図版31・32, 第76・77図, 表17・18)

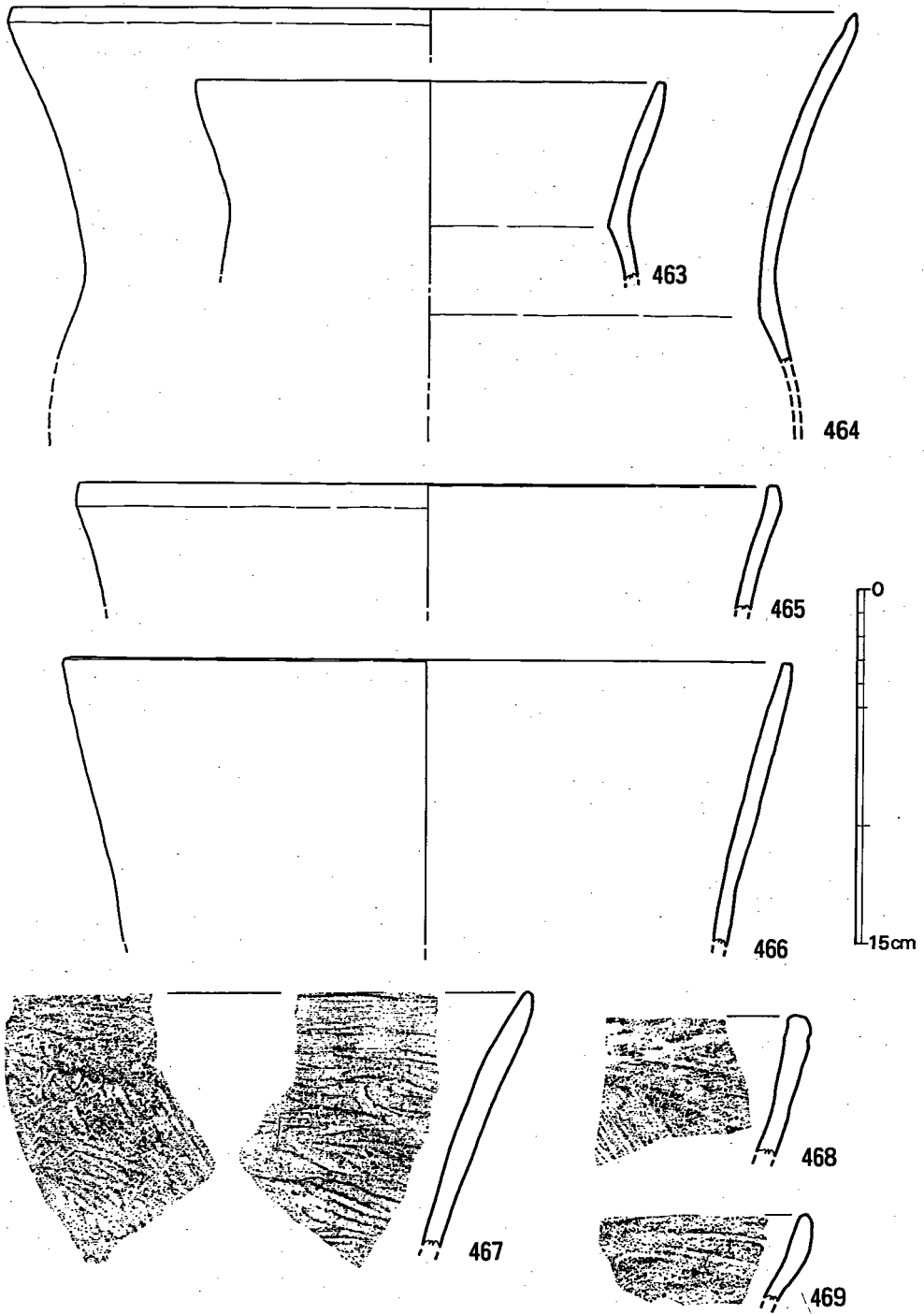
石鏃 (120~127) 13点出土し、8点図示する。120~122は黒色の黒曜石を用いた広義の剝



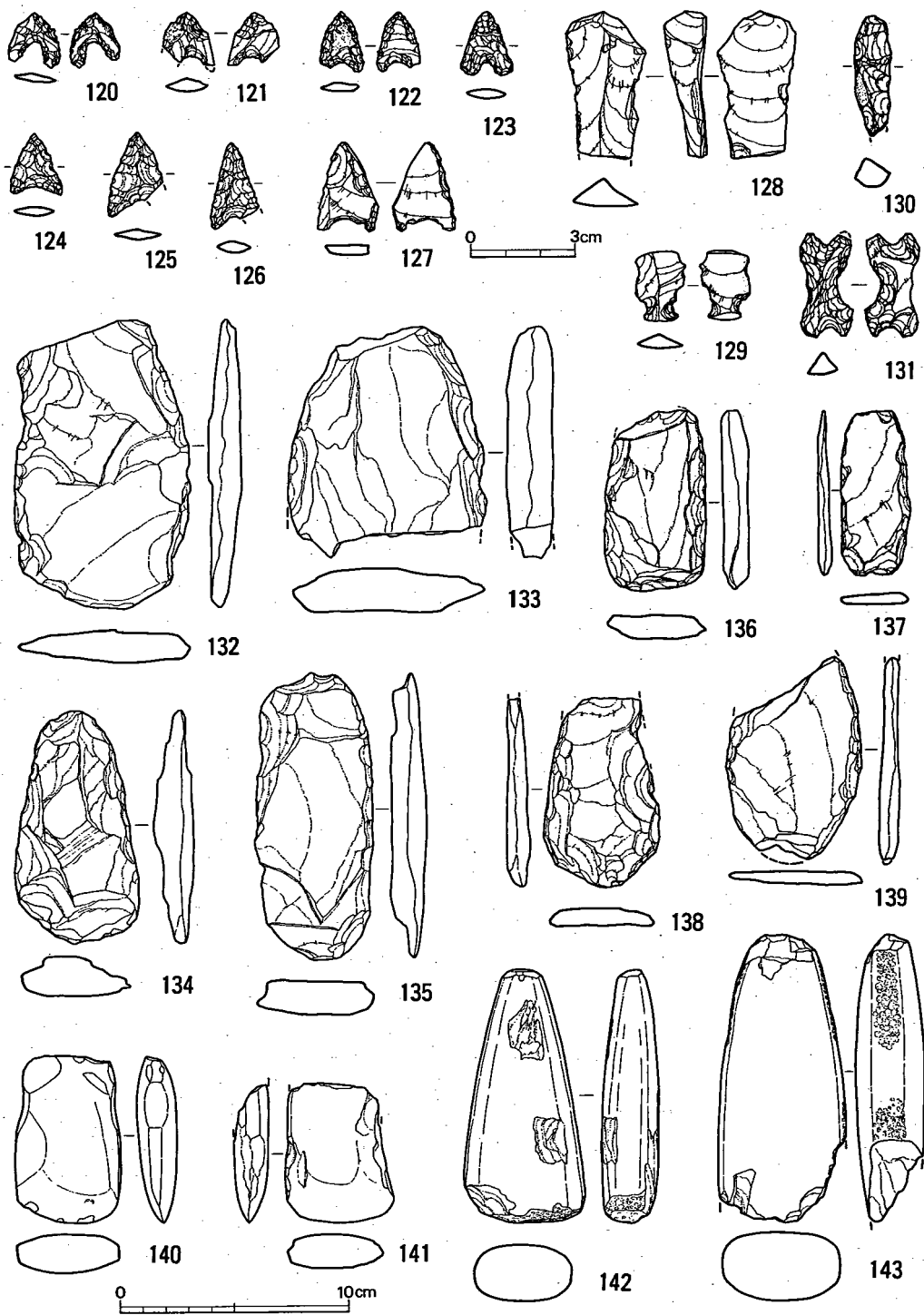
第 73 图 6 号住居跡出土土器拓影 7 (1/3)



第 74 图 6号住居跡出土土器拓影 8 (1/3)



第 75 图 6 号住居跡出土土器拓影 9 (1/3)



第 76 图 6 号住居跡出土石器实测图 1 (1/2 · 1/3)

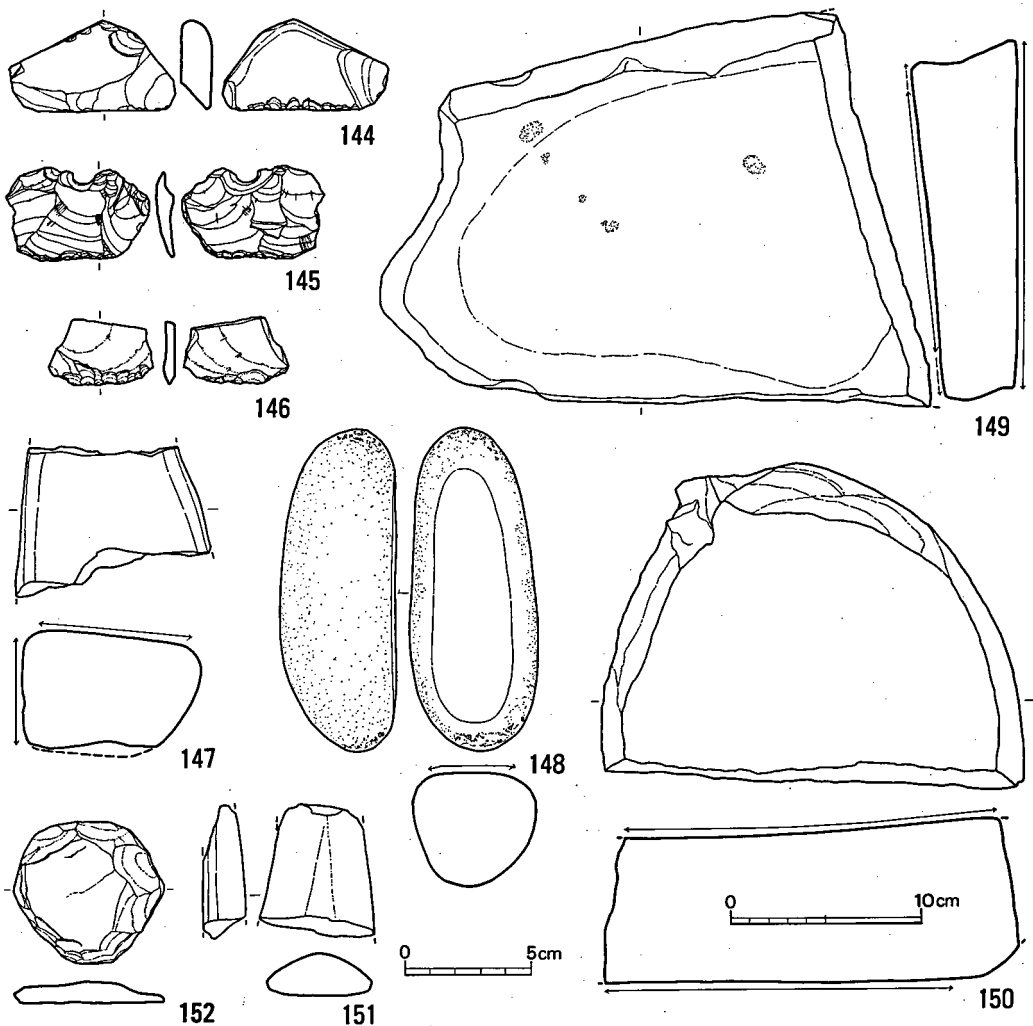
片鉄，123～126は全面に調整剥離の及ぶもので，127は姫島産黒曜石を用いた剥片鉄である。

縦長剥片（128）1点出土した。瑪瑙質で，先端部を欠くが同一方向から剥離されている。

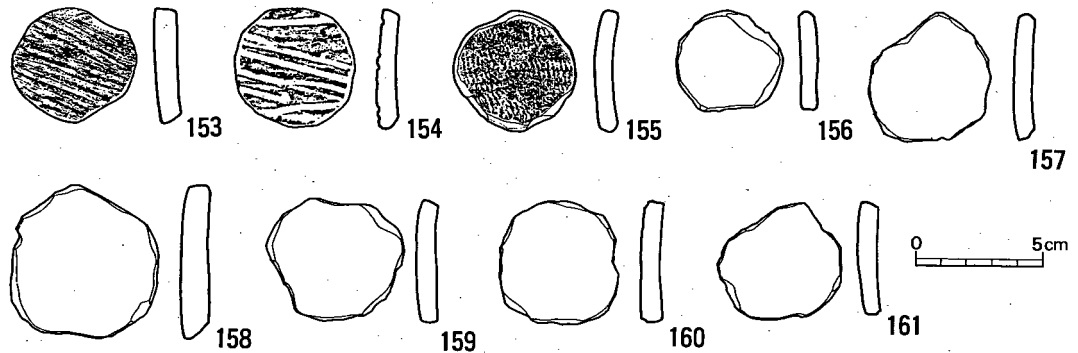
つまみ形石器（129）1点のみ出土した。基部の打瘤部分も折られているが，いずれも主要剥離面と反対側に，折断時の打点がある。

石錐（130）姫島産黒曜石製で棒状に調整している。

打製石斧（132～139）扁平打製石斧で，破片資料も併せて18点出土し，8点図示する。短冊形を呈するものが多い。132・133は8cm程の幅があり，厚みは132が約1.5cm，133が約2.0cmある。134～138は幅の狭いもので，特に137は幅3cm，厚み0.6cmと極めて小さい。134・138は刃



第77図 6号住居跡出土石器実測図2 (1/3・1/4)



第 78 図 6号住居跡出土土製品実測図 1 (1/3)

部の幅が広めで撥形を呈する。

磨製石斧 (140~143) 5点出土し、4点図示する。140は定角式の磨製石斧で両側縁上部に挟りが入る。151の刃部破片も扁平で側縁に面がある。142・143は長さのある磨製石斧で、欠損後に142は刃部を再調整し、143は頭部両側縁を転用して敲石に再利用している。

削器類 (144~146) 7点出土し3点図示する。144は粘板岩剥片の縁を、145は姫島産黒曜石の剥片を、146は安山岩剥片の縁を調整したものである。

すり石 (147・148) 3点出土し、小破片を除いた2点を図示する。147は角棒状のすり石の破片で、4面の内剥落している1面を除いた3面ともにすれている。148も三角柱状を呈しているが、1面のみよくすれている。

石皿 (149・150) 破片資料を含めて7点出土し、うち2点を図示する。149は扁平な板状の石皿で両面ともにすれているが、ほとんど凹まない。150は厚みをもつが、両面ともすれていてわずかに凹む。

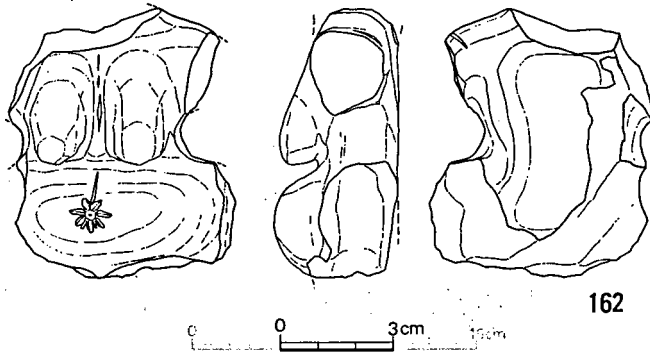
円盤状石器 (152) 片岩の周縁を調整剥離して円盤状に成形している。

用途不明石器 (131・151) 131は姫島産黒曜石剥片をX字状に調整加工したもので、主要剥離面が少し残る。端部はさほど尖らない。

土製品 (図版32, 第78・79図, 表20・21)

土製円板 (153~161) 64点出土し、うち9点を図示する。A1類19点, A2類6点, B1類17点, B2類22点が内訳である。153・154・156がほぼ円形で周縁は研磨されるA1類, 153・158・159が角張った形で一部研磨されるB1類, 160がほぼ円形で打ち欠き調整のままのA2類, 161が角張った形で打ち欠き調整のまま放置されるB2類である。

土偶 (162) 頭部・両腕・両足を失い、胴体部分のみだが、現在値で高さ7.1cm, 幅5.9cm, 厚み3.2cmの大きさ。垂れた乳房と膨らんだ腹は写実的で、腹部には*状の文様で臍も現されている。グラマーな感じを与える土偶である。背中の中凹みになっている。左乳房と肩の間に赤



第 79 図

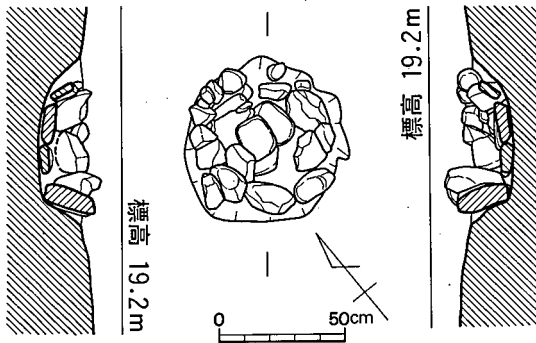
6号住居跡出土土製品実測図2 (1/3)

色顔料が付着している。

7号住居跡 (図版33-1, 第81図)

調査区北部のL23・L24区を中心に検出された。6号住居跡の約6m北西側にある。一辺6.4mの隅丸方形プランを呈する住居跡で、北側の壁はやや乱れるが、0.5mの深さを有している。床面は堅緻で、床面積31.6㎡を測る。床面および壁面に掘り込まれている柱穴は12あり、P1~9が支柱穴であろう。南東辺側は4穴並ぶが、その他の3辺では3穴ずつ並ぶことになる。またほぼ主軸線に沿ってP10・11がある。PP1~7は直径約30~50cm、P4を除いて深さ約50~70cmで、P4の深さは25cmと浅い。またP8~12は直径約20~30cm、深さ約20cmである。床面中央に石囲炉があり、炉跡の西側に長径60cm、短径30cm、深さ5cm程の凹みがある。

石囲炉 (図版33-2, 第80図) 直径60cm余りの不整円形土坑周壁に、扁平な河原石を貼り付けるかのように並べ、中央の底にも扁平石を敷いている。隙間に小さな石を詰めた部分もある。よく火熱を受けて石は赤変する。



第 80 図 7号住居跡炉跡実測図 (1/30)

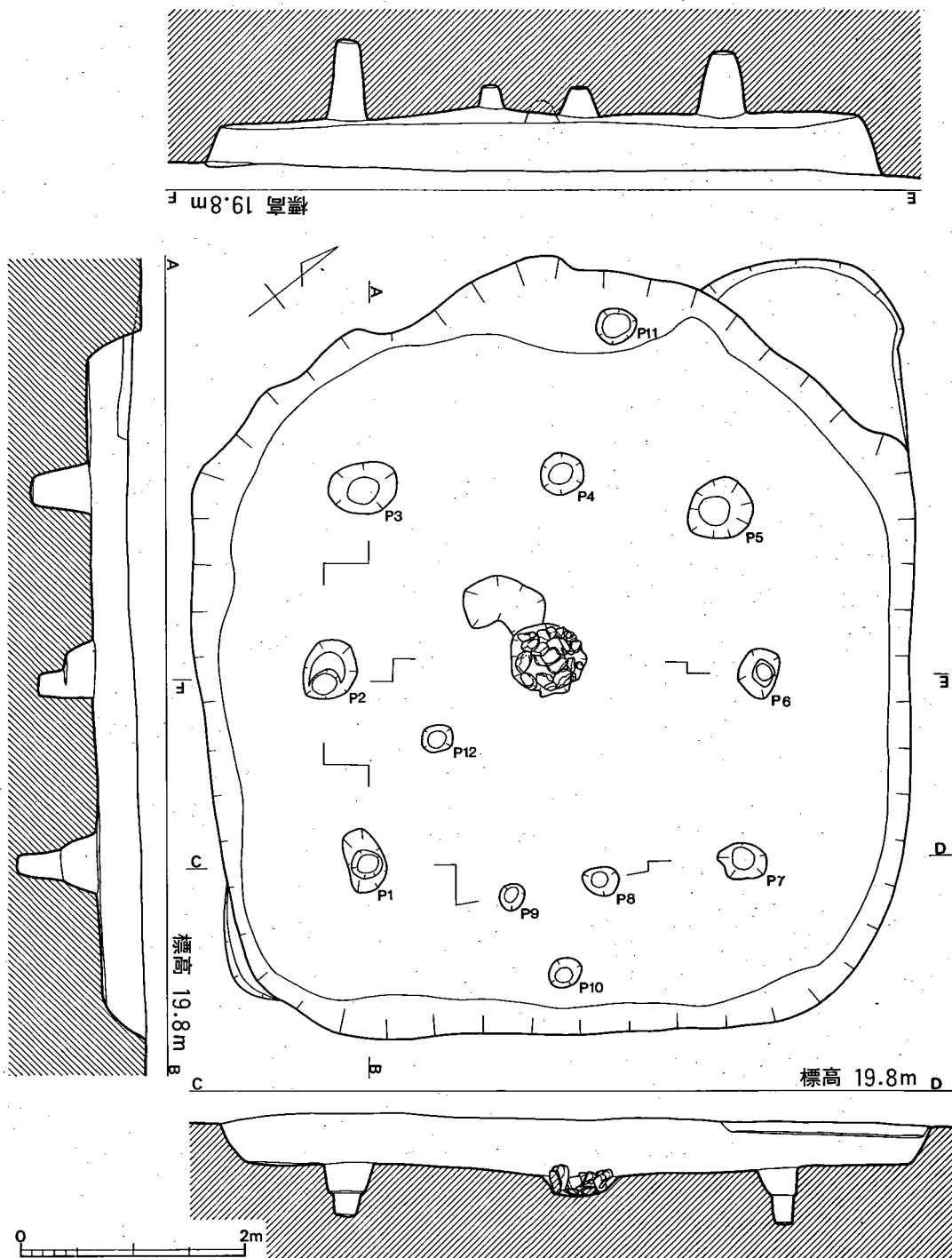
出土遺物

遺物は、縄文土器片がパンコンテナ満杯で5箱、石鏃・打製石斧・磨製石斧・すり石・土製円板などが出土した。

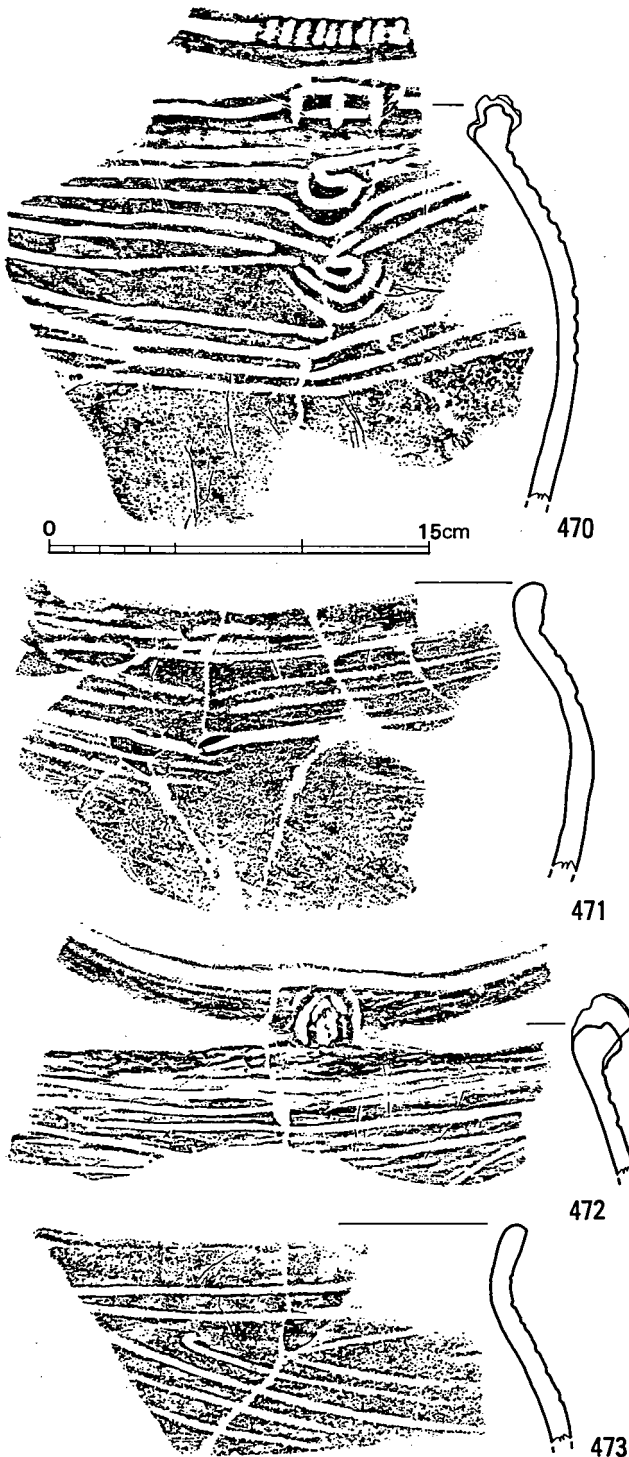
縄文土器 (図版34~41, 第82~103図, 表9~12)

470は炉跡内部の敷石の上から、471は炉跡西側の凹み、472・473はP7, 474はP5から出土し、475~618はフク土から出土した。

1類 (475~477) やや幅のある沈線で区



第 81 图 7号住居跡実測図 (1/60)



第 82 図 7号住居跡出土土器拓影 1 (1/3)

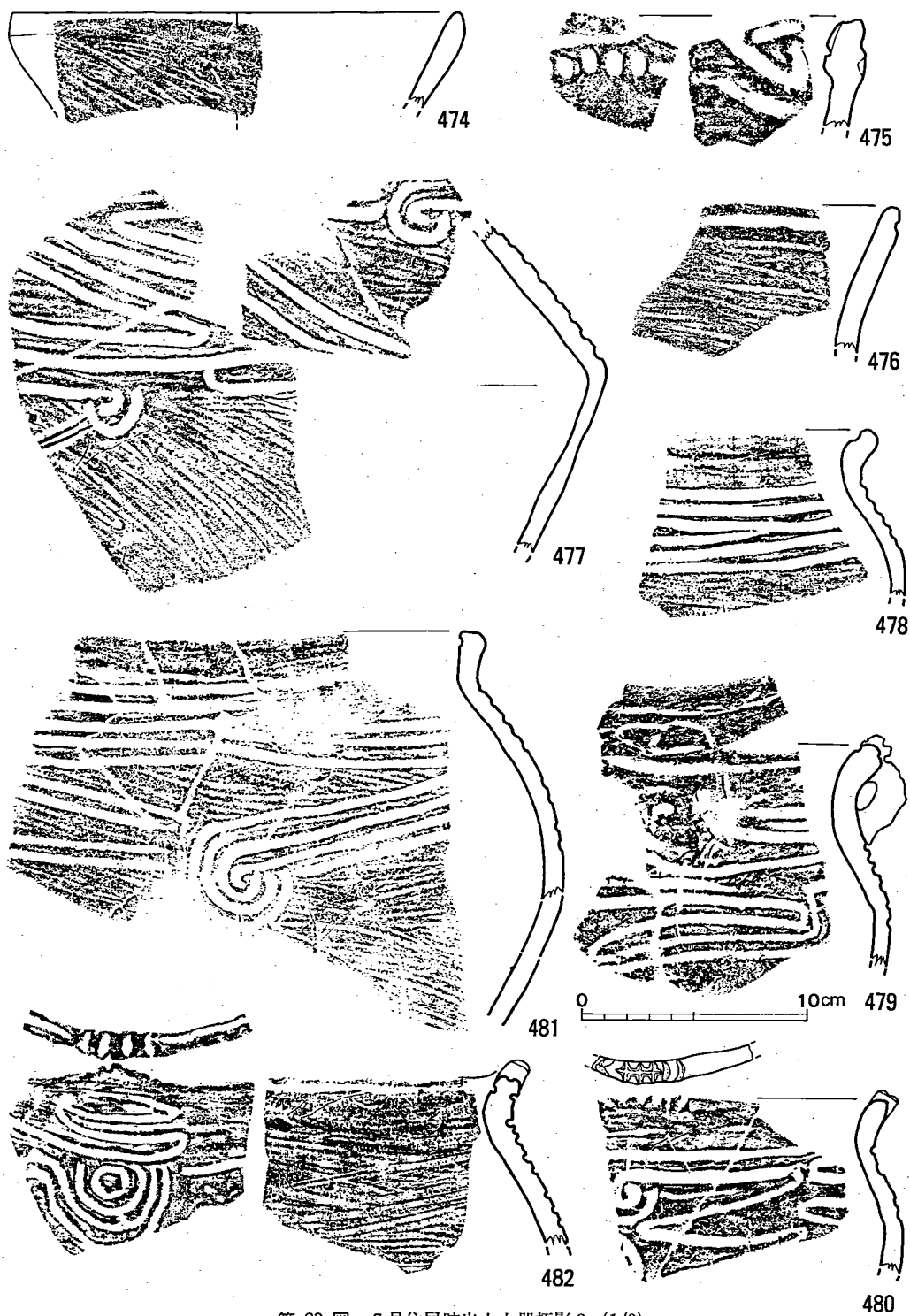
画される文様をもつ土器。口縁部は緩やかに外反するが、波頂部に凹点が並ぶ。また477の胴部はやや稜をなして膨らみ、蕨手文様が描かれる。

2類 (545・548・551) やや幅のある沈線と縄文が施文されている。545は直線的に開く浅鉢の口縁部であろう。

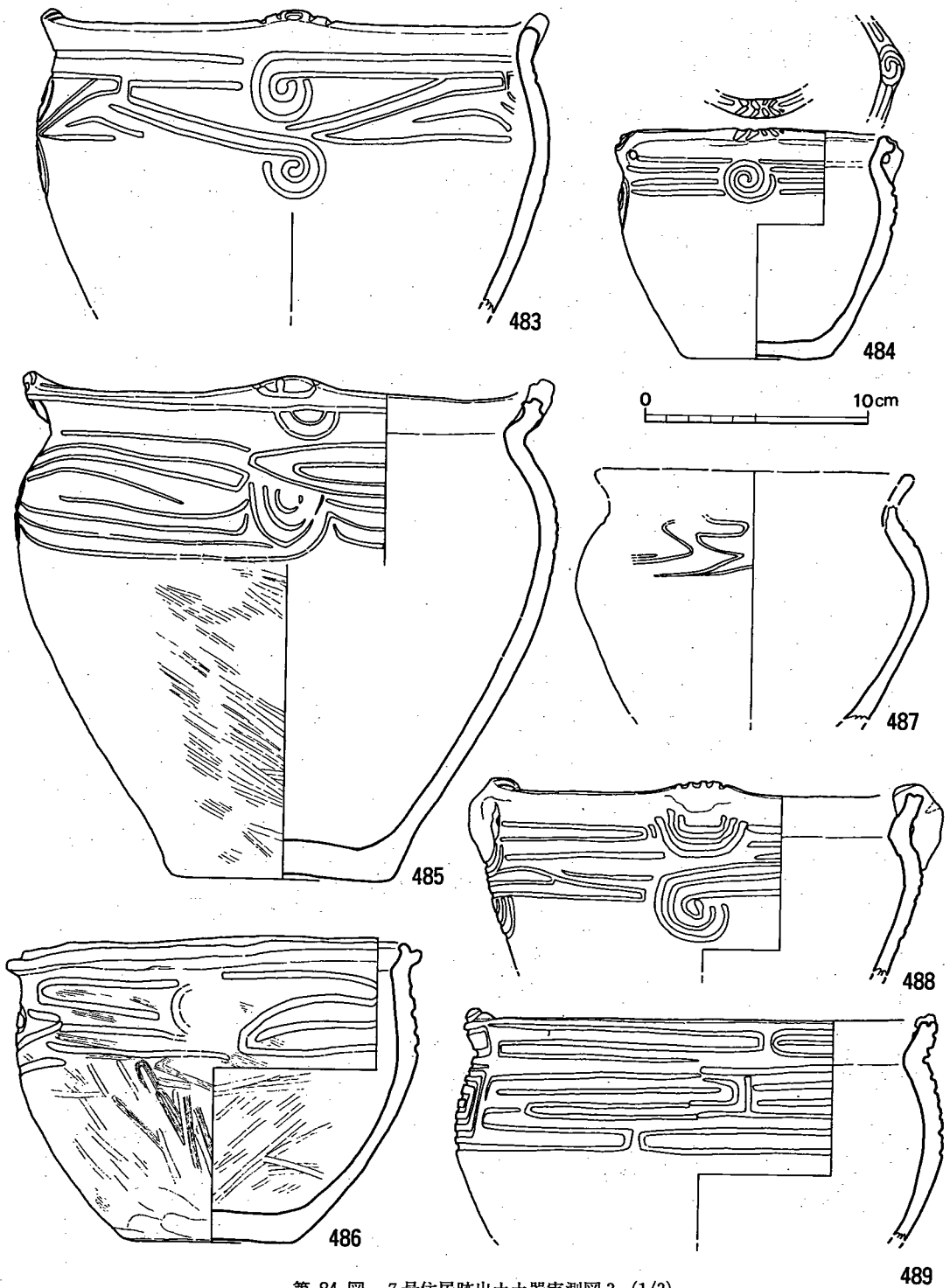
3類 (470~473・478~543・555・557~559・562) 沈線文で区画される文様をもち、蕨手状文・渦文・同心円弧文・S字状文などの渦状の文様が描かれる。7号住居跡では3類土器が大半を占める。1~6号住居跡からもこの類の土器が出土していて、細分も可能である。

(a) 口縁部は緩く外反するがあまり長くもなく、僅かに肥厚する。(473・478~483・494~499)。478などのように口唇部内面に段状の沈線をもつ例、482などのように口唇上面と内面に沈線をもつ例、490などのように口唇上面に沈線をもつ例、473などのように口唇部に沈線をもたない例などがある。口唇部に沈線をもたない例の頸部から胴部にかけての文様は細めの沈線で描かれ、集線化している。

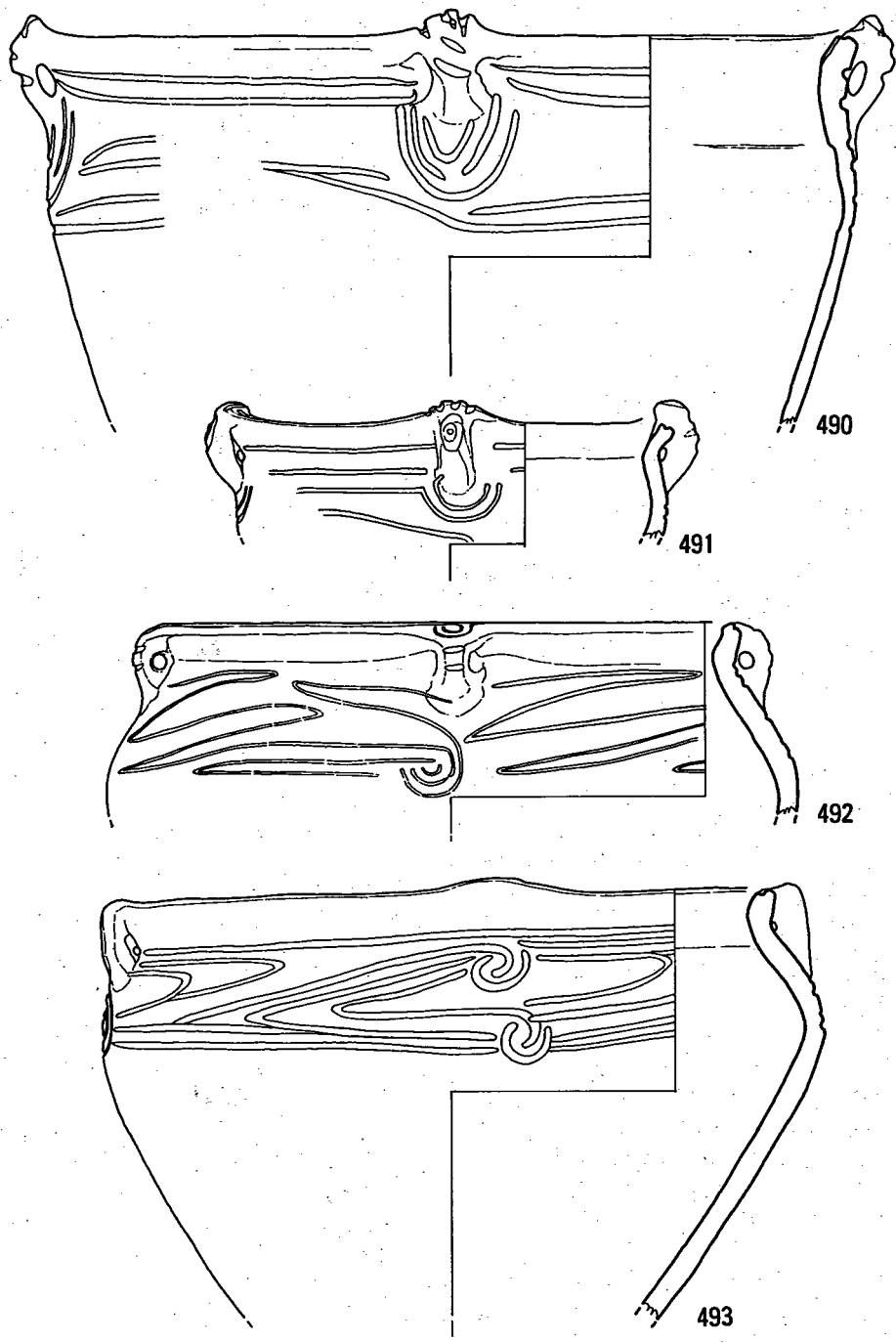
(b) 口縁部は短く外反し、肥厚する。口縁部内面に段状の沈



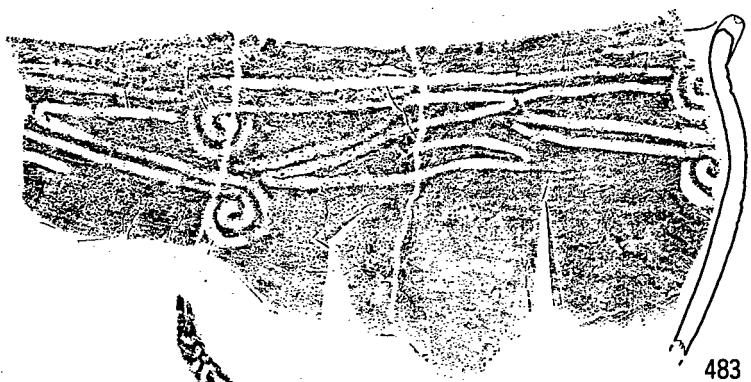
第 83 图 7号居迹出土土器拓影 2 (1/3)



第 84 图 7 号住居迹出土土器实测图 3 (1/3)



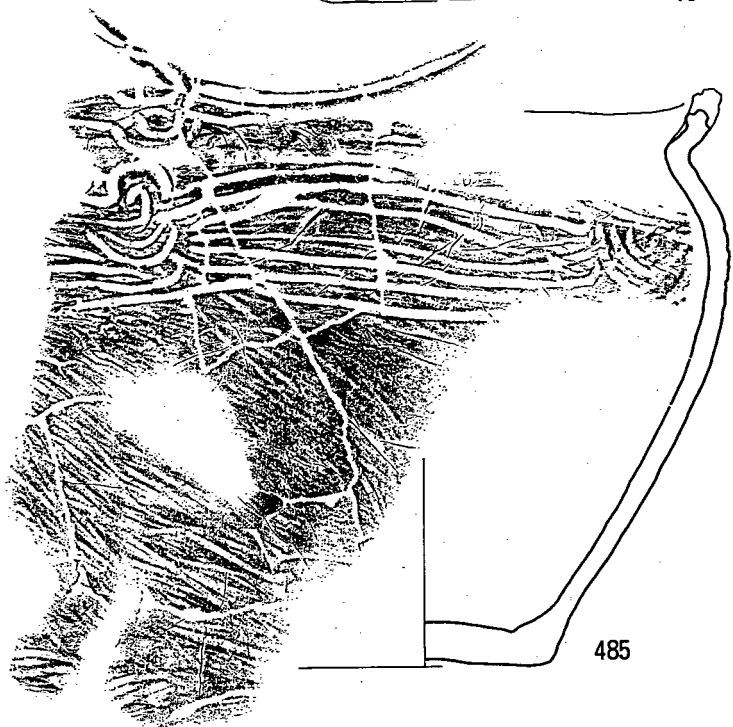
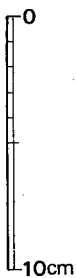
第 85 图 7 号住居跡出土土器実測図 4 (1/3)



483

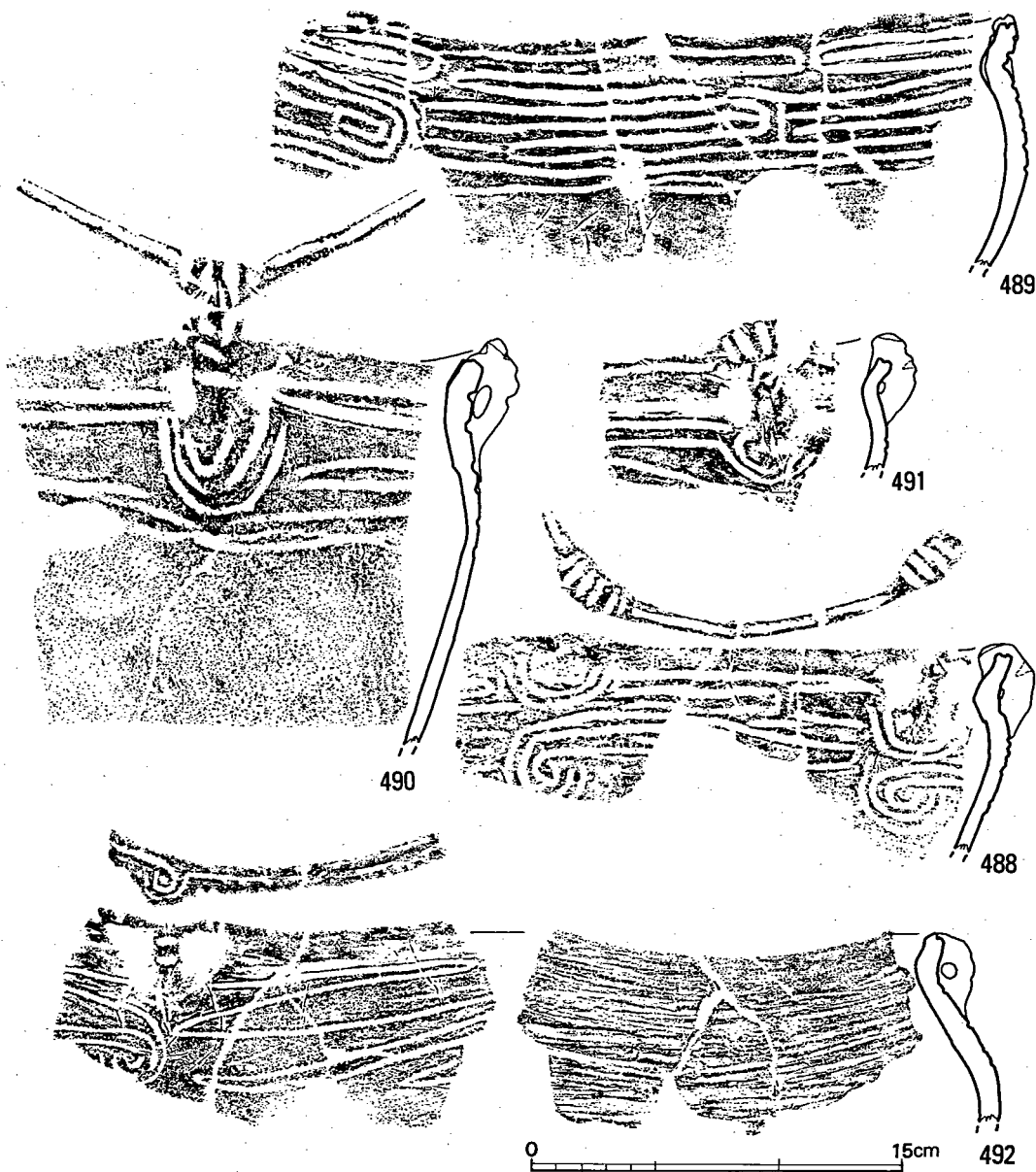


484



485

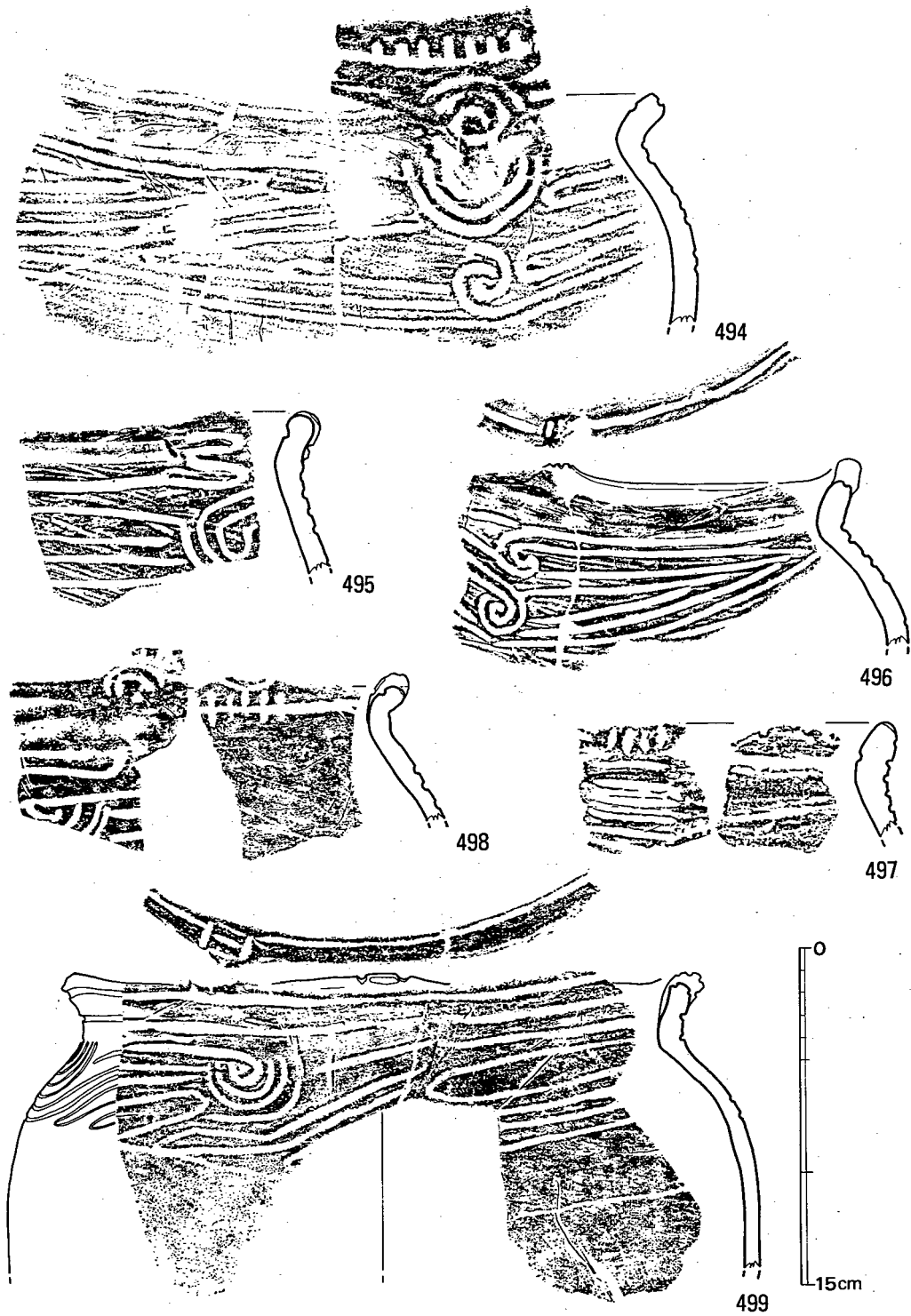
第 86 图 7 号住居跡出土土器拓影 5 (1/3)



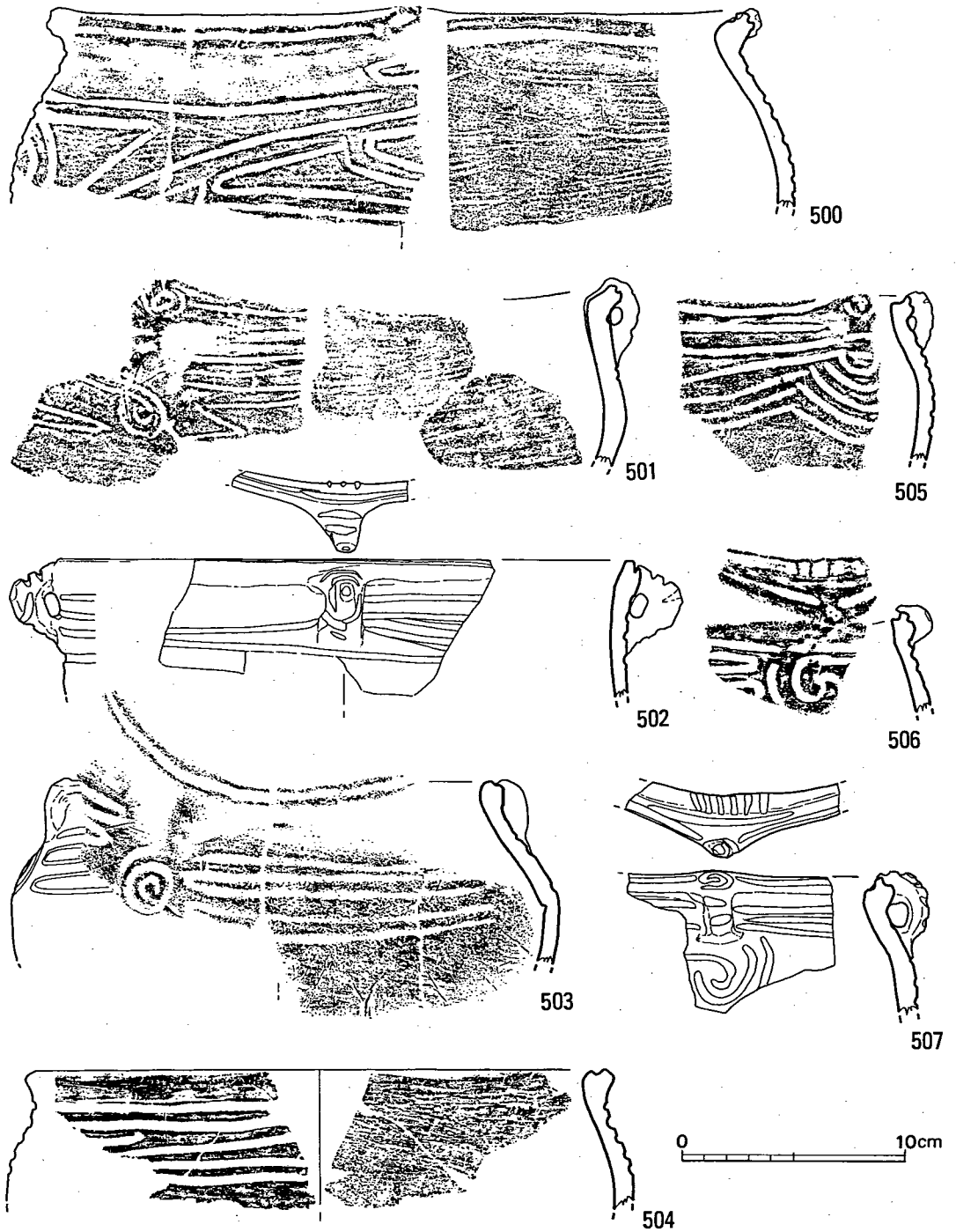
第 87 図 7号住居跡出土土器拓影 6 (1/3)

線が巡り、口唇上面にも沈線が巡る。3類のなかでは太い沈線が用いられる。470や505~508・514~520などのように、頸部から胴部にかけて、蕨手状と同心円の入組文などを中心に文様が描かれ、2段に渦状文様が見られる。

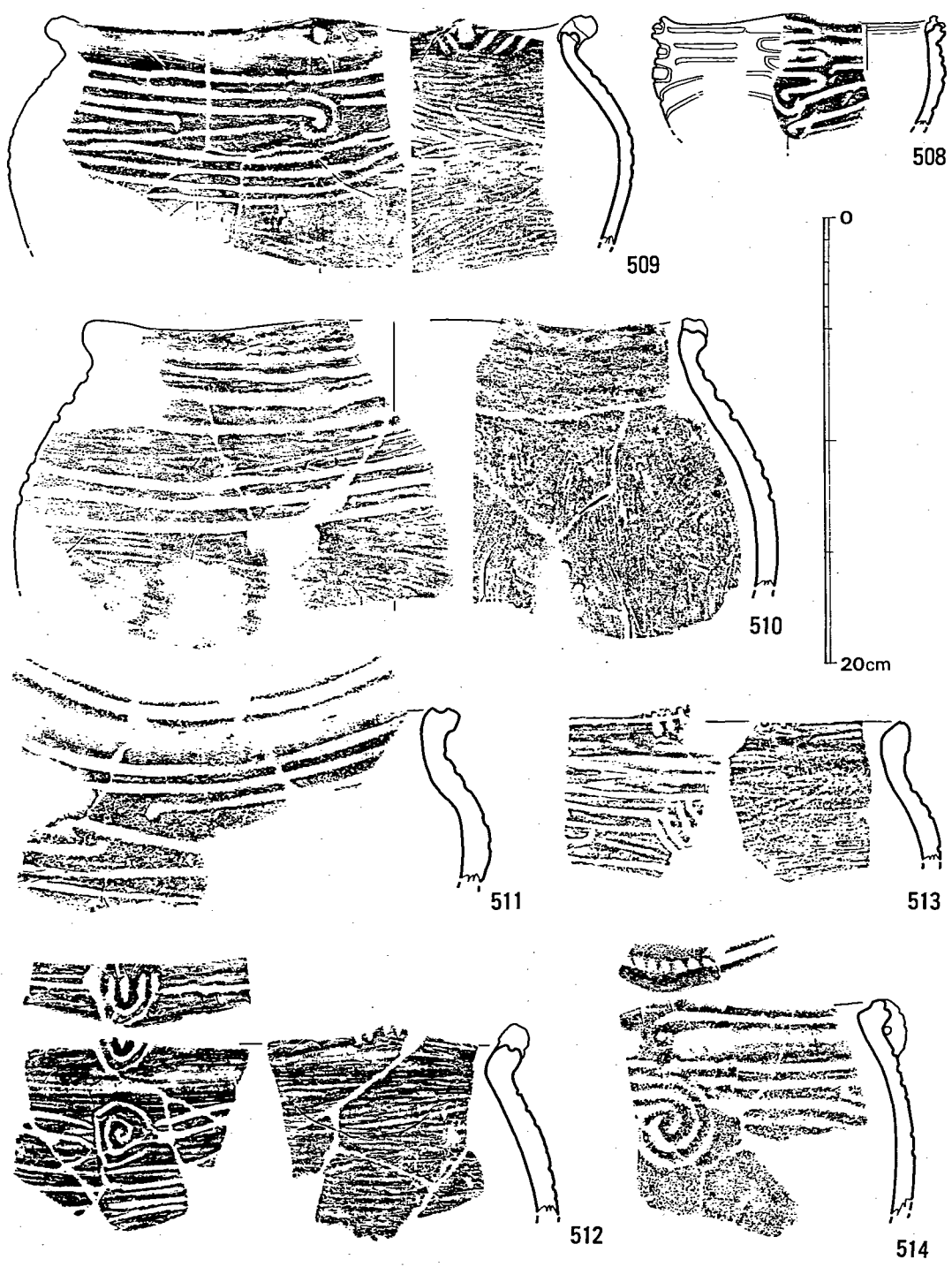
(c) 口縁部は短く外反し、肥厚するが、沈線は (b) に比して細く、文様の集線化が進み文



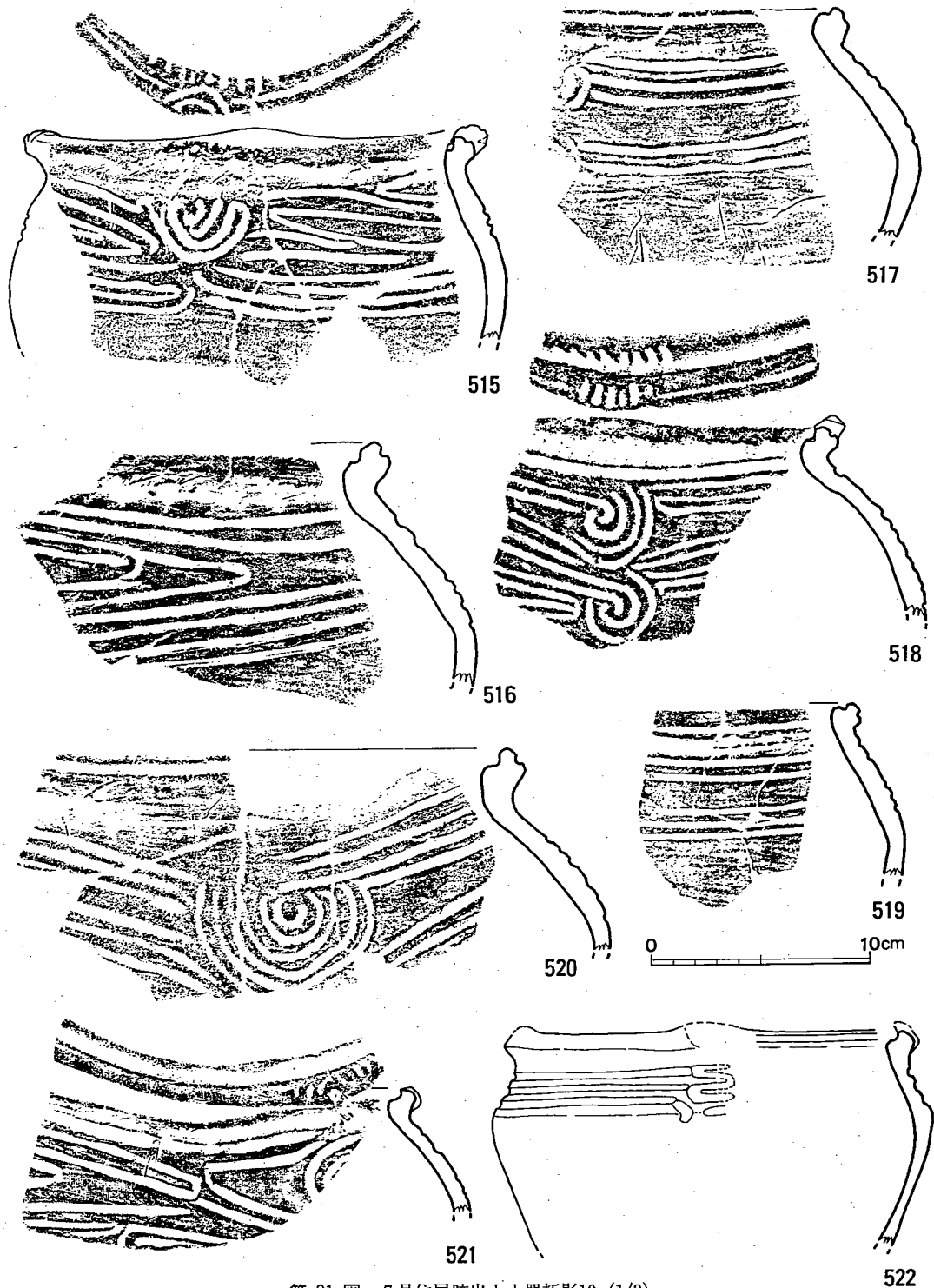
第 88 图 7 号住居跡出土土器拓影 7 (1/3)



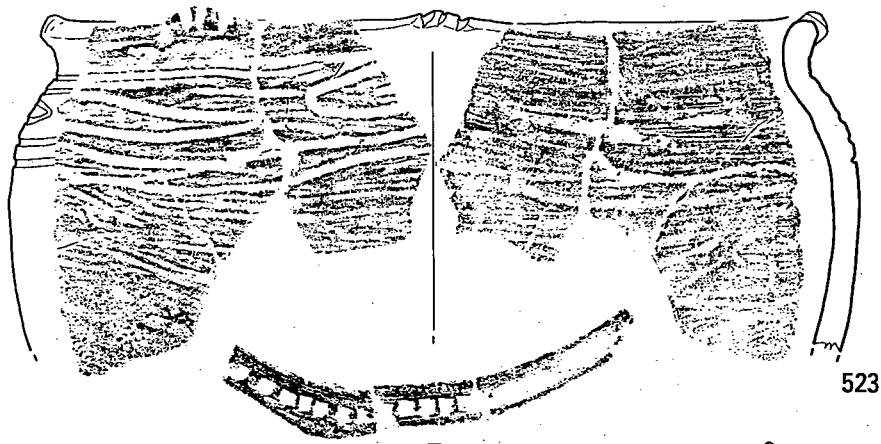
第 89 图 7 号住居跡出土土器拓影 8 (1/3)



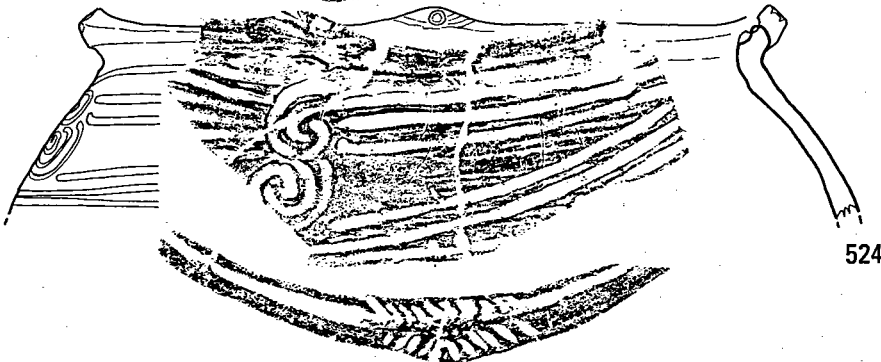
第 90 图 7号住居跡出土土器拓影 9 (1/3)



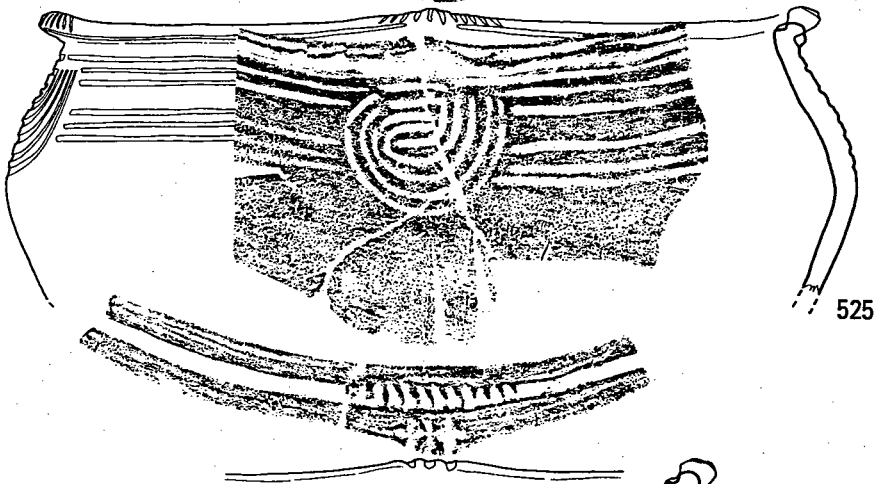
第 91 图 7 号住居迹出土土器拓影10 (1/3)



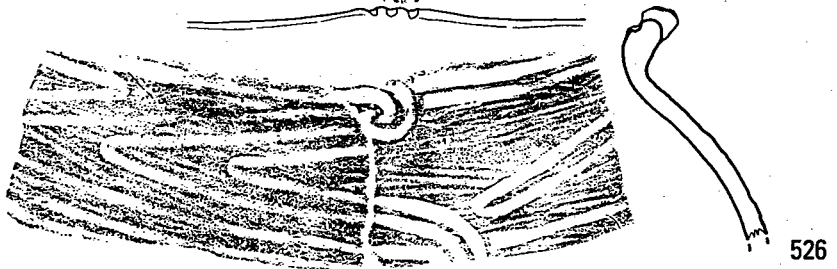
523



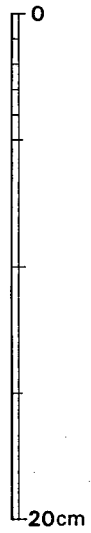
524



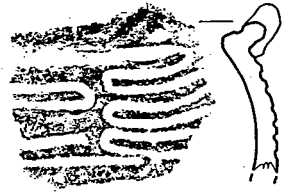
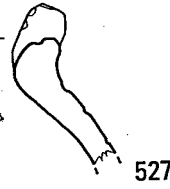
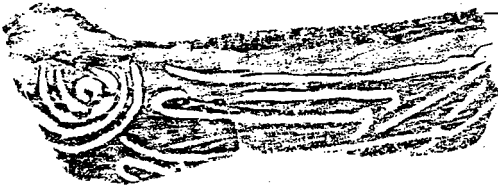
525



526



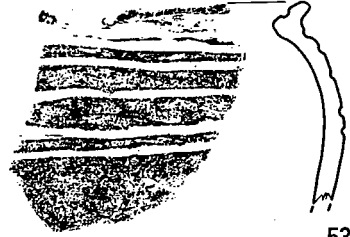
第 92 图 7 号住居跡出土土器拓影 11 (1/3)



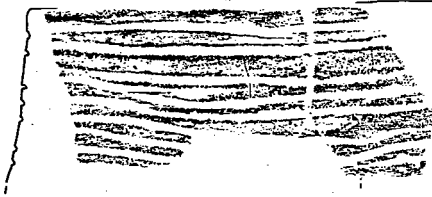
529



528



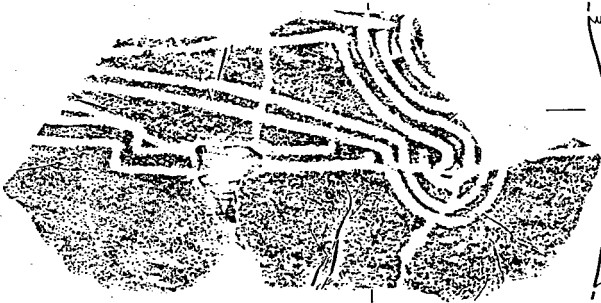
530



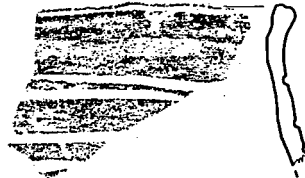
531



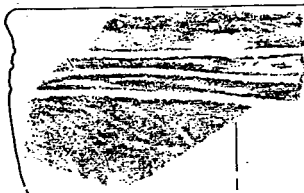
532



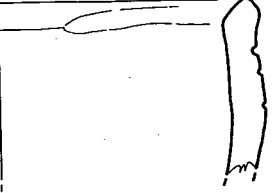
536



533

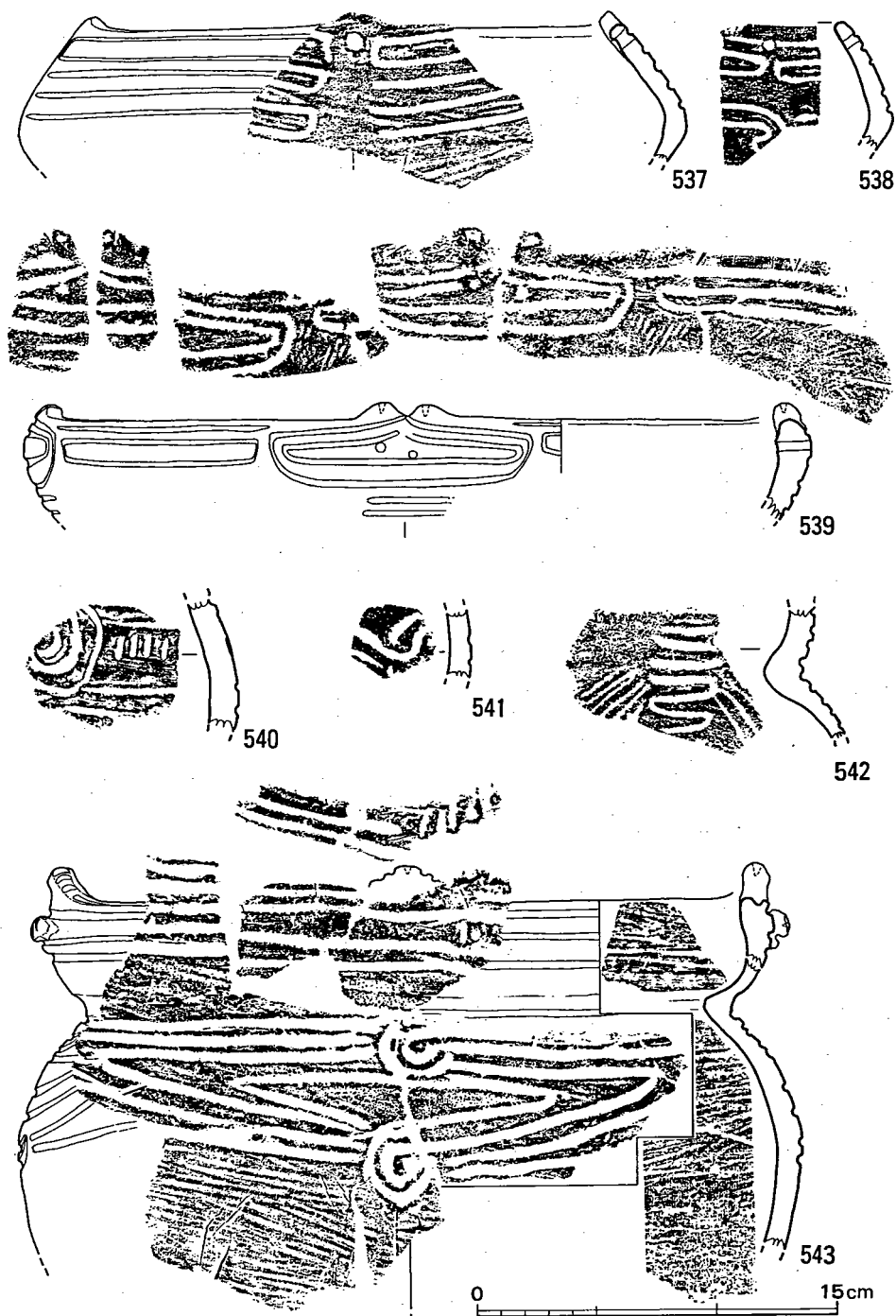


535

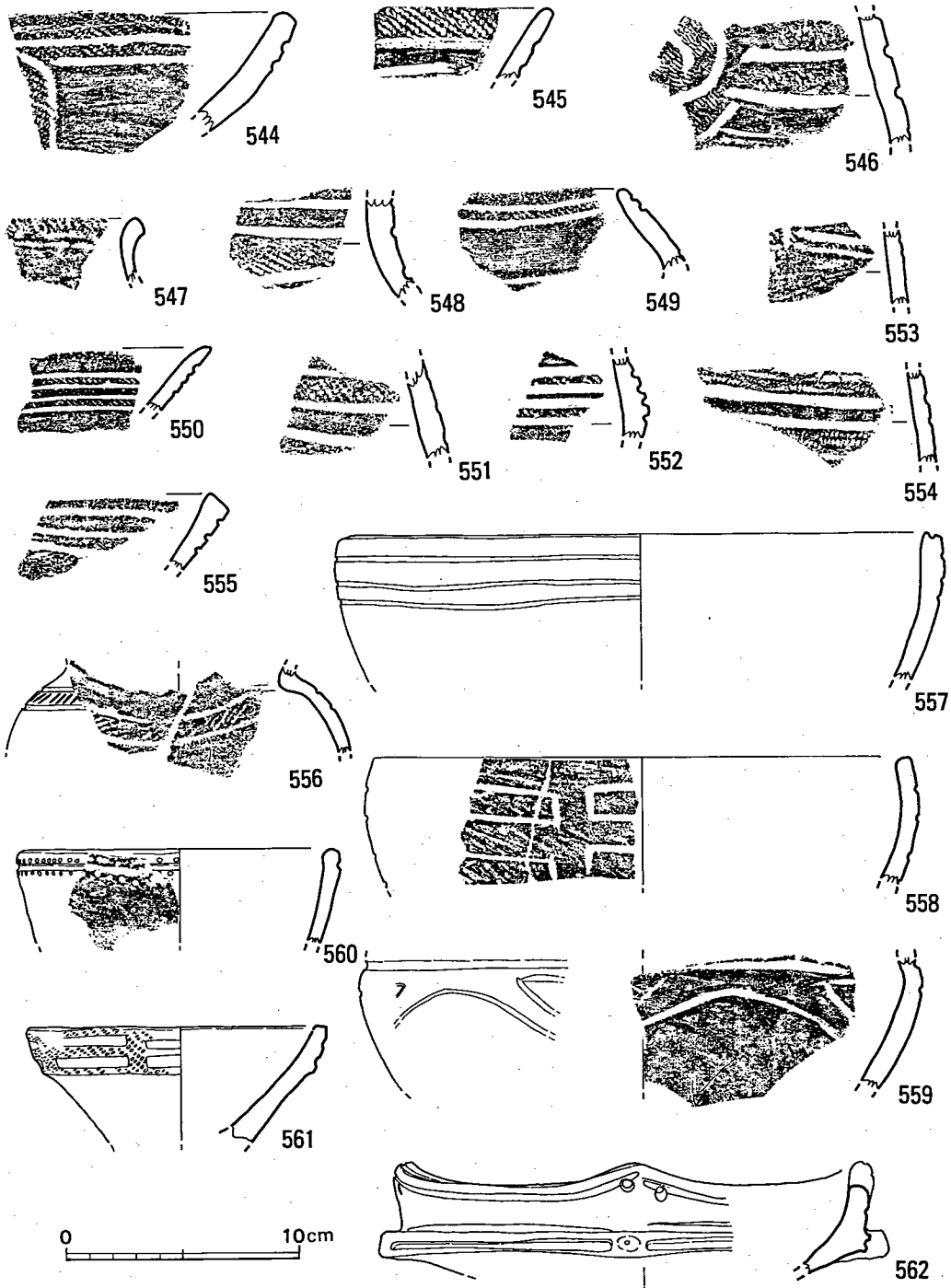


534

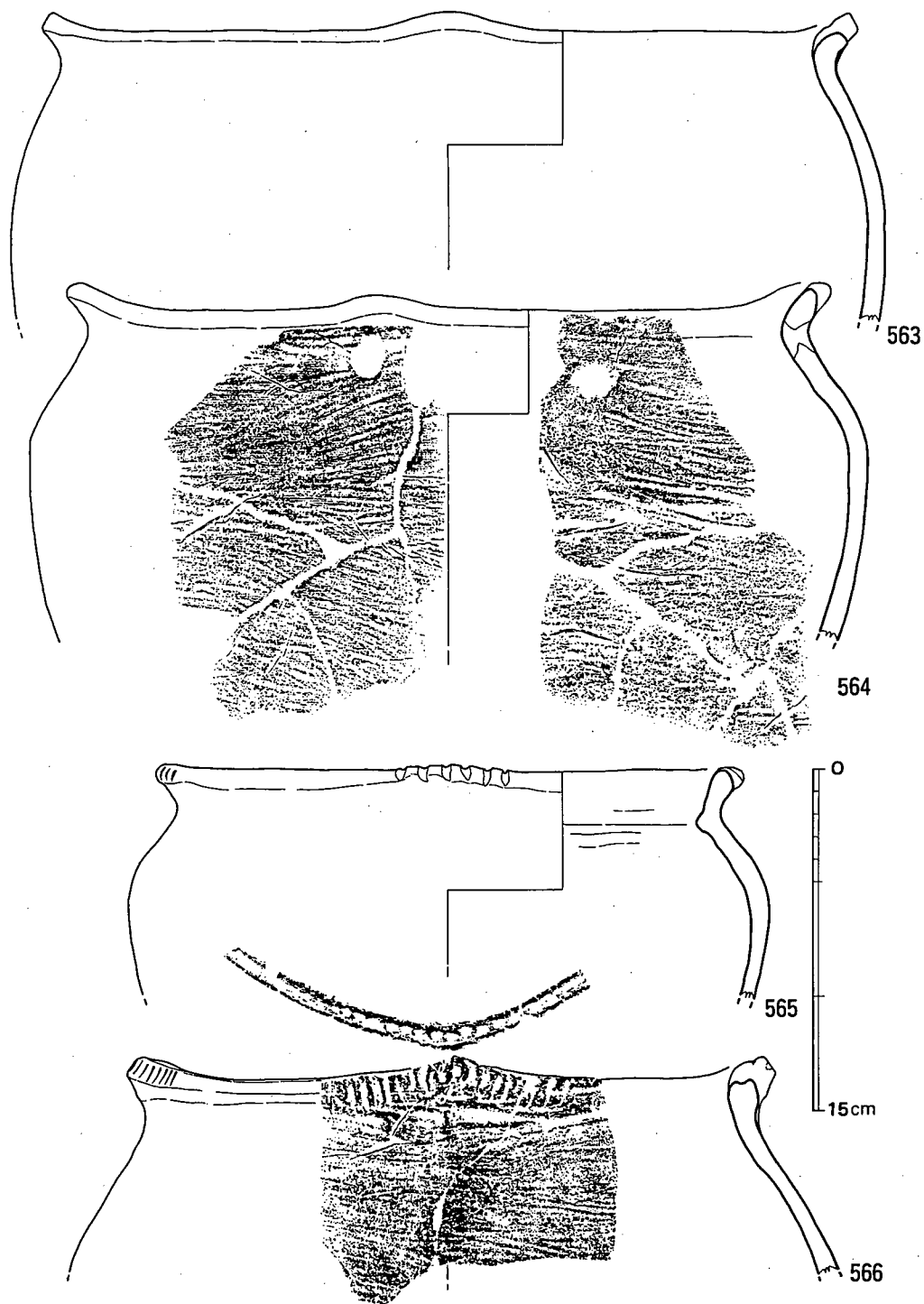
第 93 图 7号住居跡出土土器拓影12 (1/3)



第 94 图 7 号住居迹出土土器拓影 13 (1/3)



第 95 图 7 号住居跡出土土器拓影 14 (1/3)



第 96 图 7 号住居跡出土土器拓影 15 (1/3)

様帯の幅も狭い。472・501・509～513・525などのように、頸部から胴部にかけて、同心円や簡略化した入組文が描かれ、2段の渦状文様例は少ない。

(d) 口縁部は短く外反するが(b)・(c)より間延びする。端部はやや肥厚し、上面に沈線をもつものが多い。471・484～486・488～492などで、沈線は細めで文様は集線化している。

(e) 口縁部はあまり外反せずに、直立気味になり、端部で少し肥厚する。531～535などで、文様は集線化している。

(f) 537～539・542・543のように口縁部がキャリパー状に内彎ないしは内傾する器形もある。

(g) 555～558は平行沈線の施文される鉢で、562は突帯をもつ角鉢である。鉢は浅く口縁端部は内彎気味に立ち上がるが、屈曲部外面は凸帯をなす。波頂部には双孔が穿たれ、凸帯でも小孔が刺突されている。この類の土器の沈線は1類に比して細いが、なかでも523や519など細い沈線は時期が下降するであろう。鐘崎式に含まれるがやや新しい要素も含まれている。

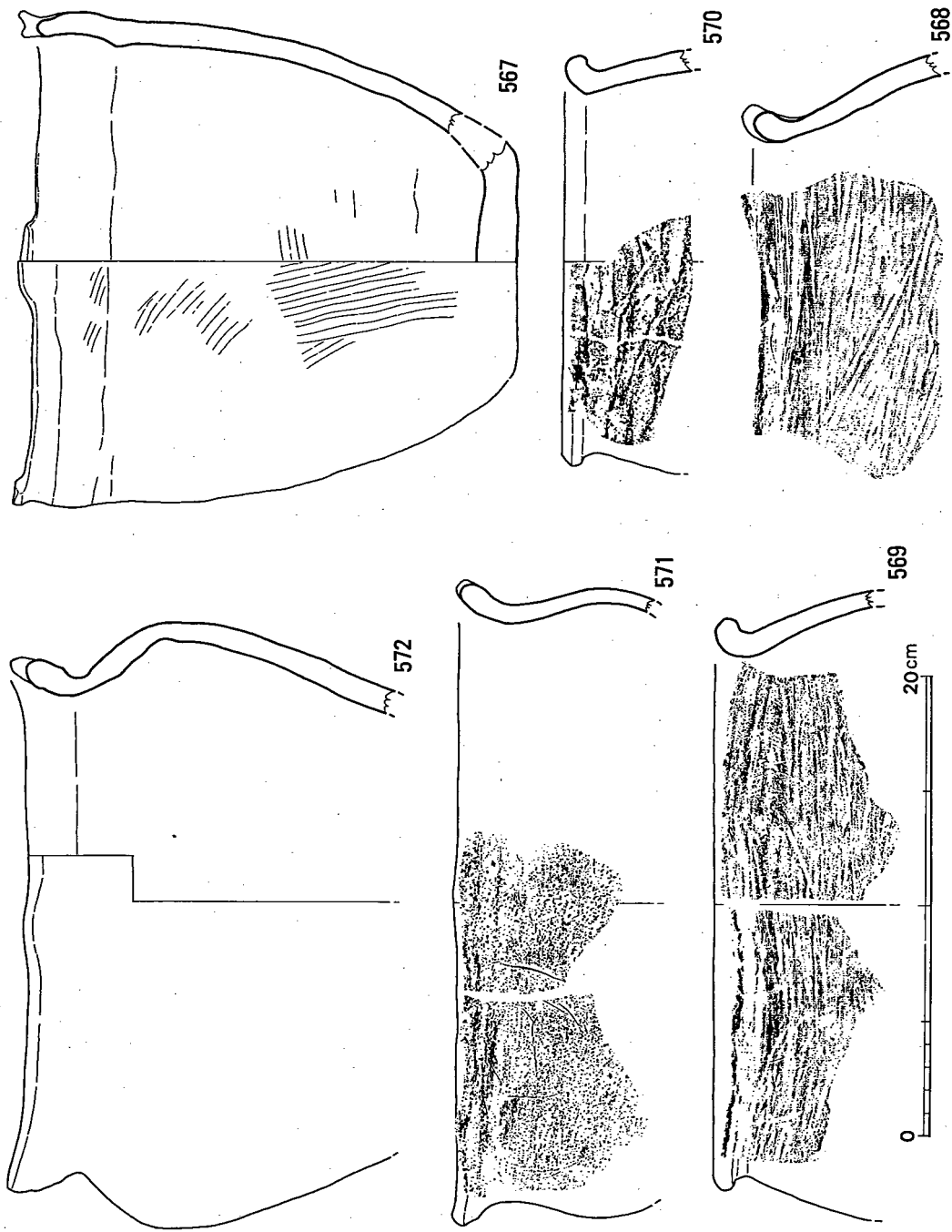
4類(544・552・561) 沈線文で区画される文様をもち、沈線は2類に比して細いが、縄文が施文される。561は小形の鉢で、直線的に広がる口縁部の縄文施文帯に2本単位の短沈線が入る。赤色顔料が付着している。なお、547・549・550などの細い平行沈線や口唇部のみに縄文が施文されるものは時期が下降するであろう。

5類(546・553～556・560) 疑似縄文を施文するもの。546・553・556はアナガラ疑似縄文、546の沈線はやや太く、区画の幅もやや広い。2類土器と通ずるものがあり、細い沈線の例より先行するものであろう。554はヘナタリ疑似縄文が施文されている。560は口唇部下に沈線を挟んで刺突列点がある。

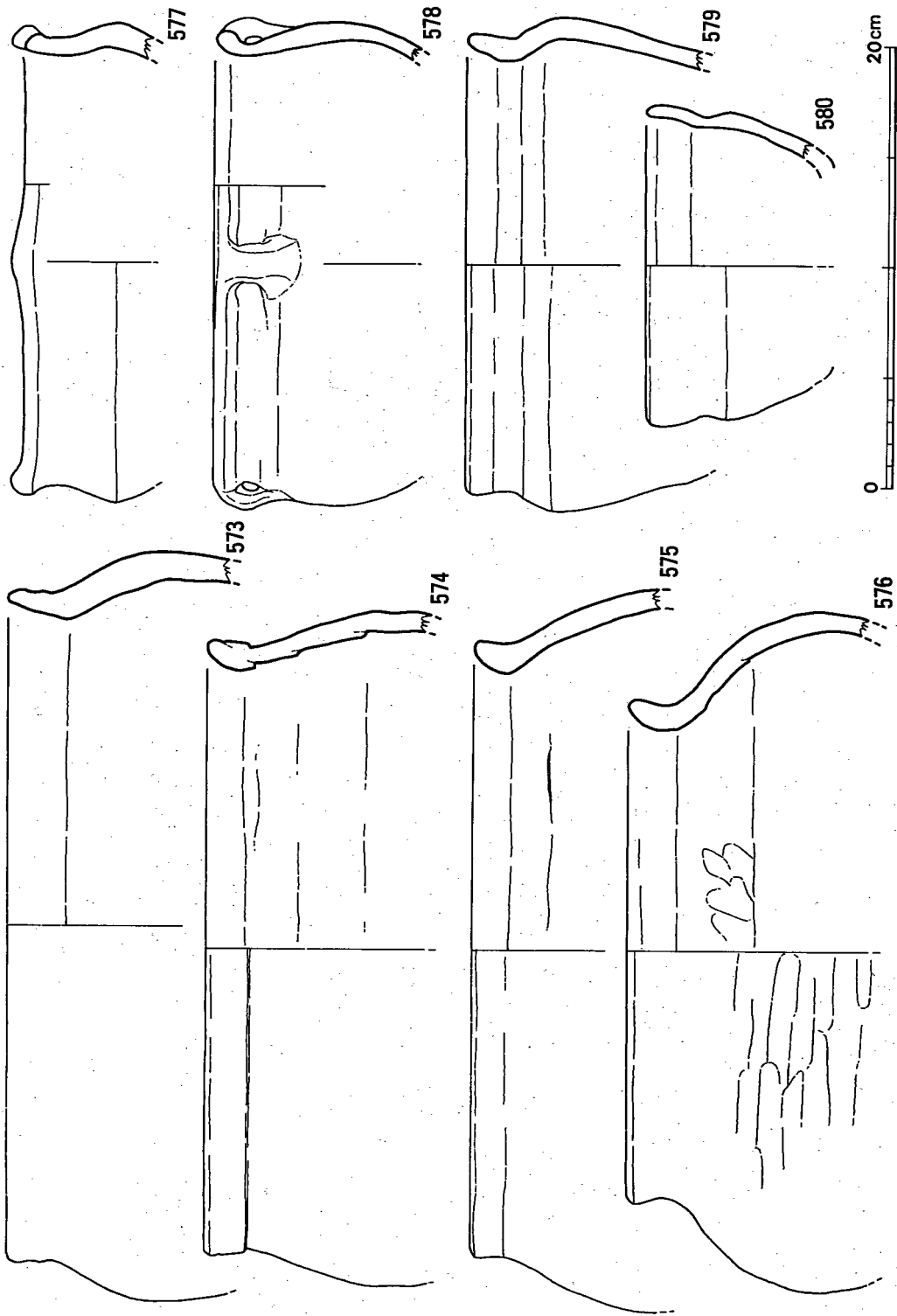
6類(563～599) 無文土器・条痕土器を一括した。563～566・568～572は口縁部が短く外反して、端部が肥厚する鉢で、568～570の口縁部は外反が強めの例になる。波状口縁の例も多く、565や566では波頂部に刻み目が付されている。573～579は短めで外反の弱めの例で、567・580～582・594は外反が弱く、567・580は端部が内彎気味である。584～587は口縁部が内彎ないし内傾する例、589～592は緩やかに外反して開く例、595～599は端部が内彎気味のものもあるがバケツ状に開く例を示した。

6類土器の調整手法では、564・566・567～569・589・594・599はヘナタリ条痕、590～592はアナガラ条痕で調整される土器である。577・578・586は研磨される土器で、578の浅めの鉢は橋状把手が付き、586は内彎する鉢であろう。563・565・570～576・579～581・583～585・587・588・593・596～598はナデ調整される無文土器で、条痕の後にナデが加わる例も多い。

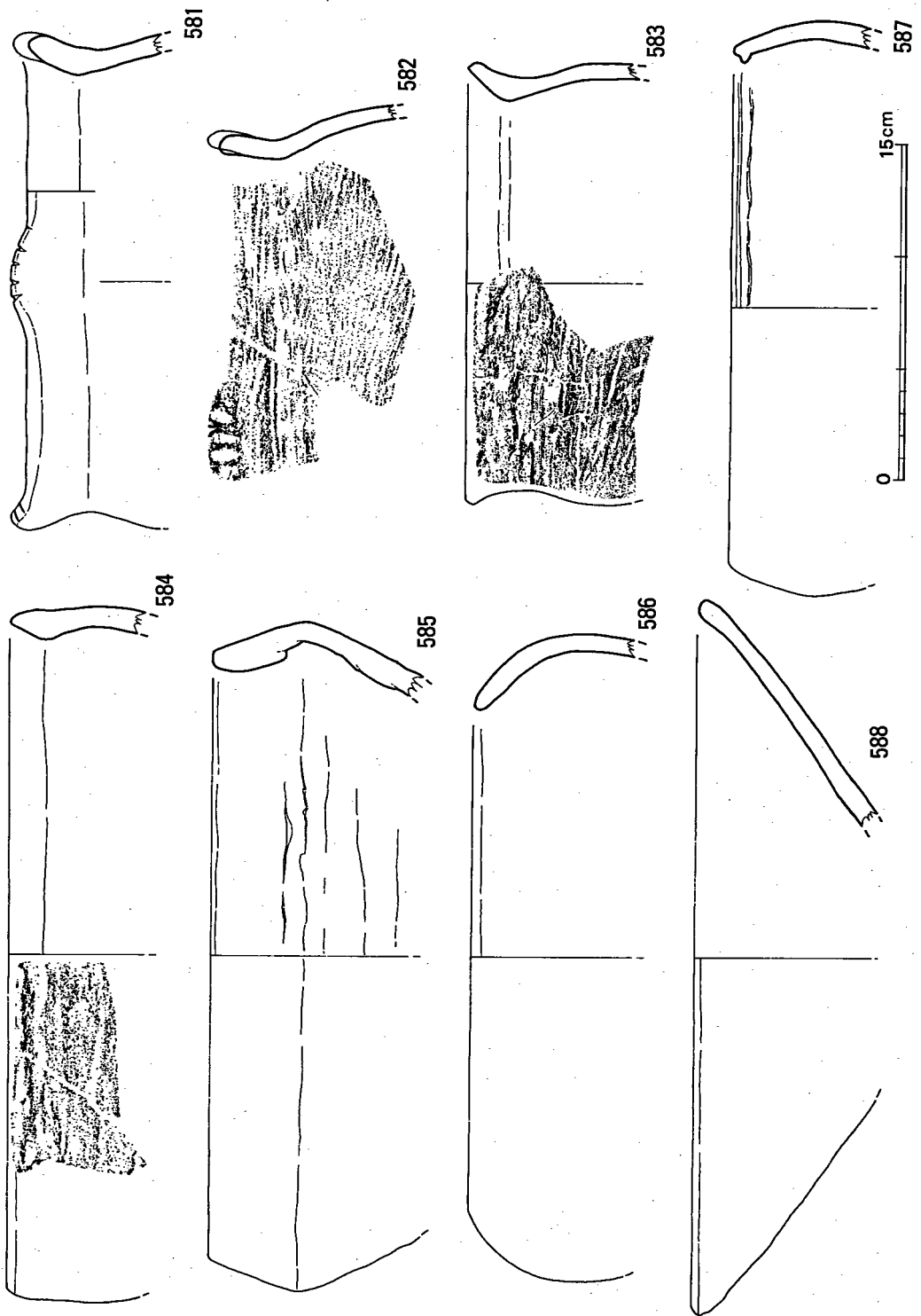
7類(600～618) 底部・脚台などを一括した。600～605は条痕およびナデ調整される底部で、底面が平坦なものと同様に凹むものがある。606～613は研磨調整・丁寧なナデ調整される底部破片で、底面が僅かに凹むものや、僅かに膨れるものなどがある。614～618は台付鉢で、614・



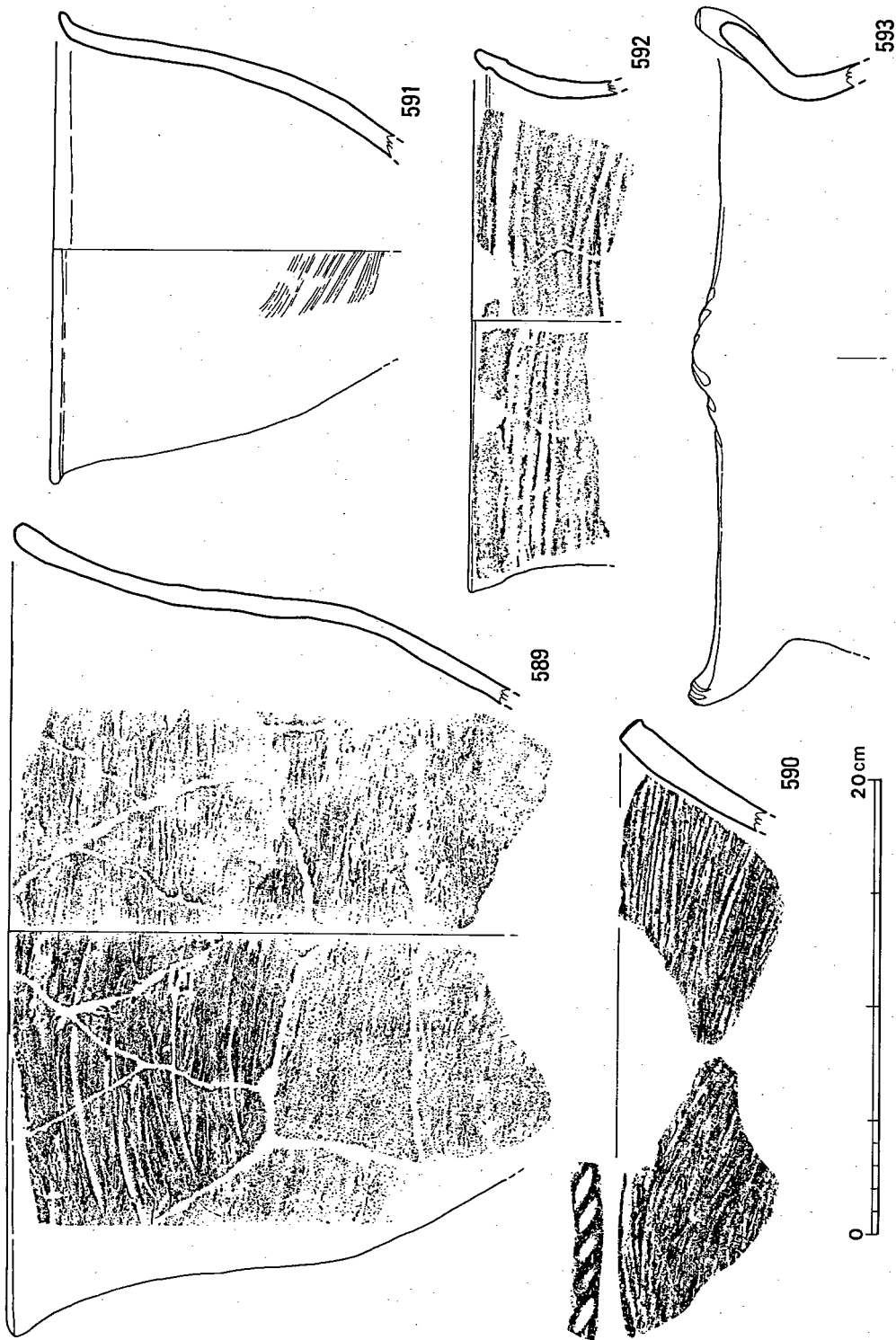
第 97 图 7 号住居迹出土土器拓影 16 (1/3)



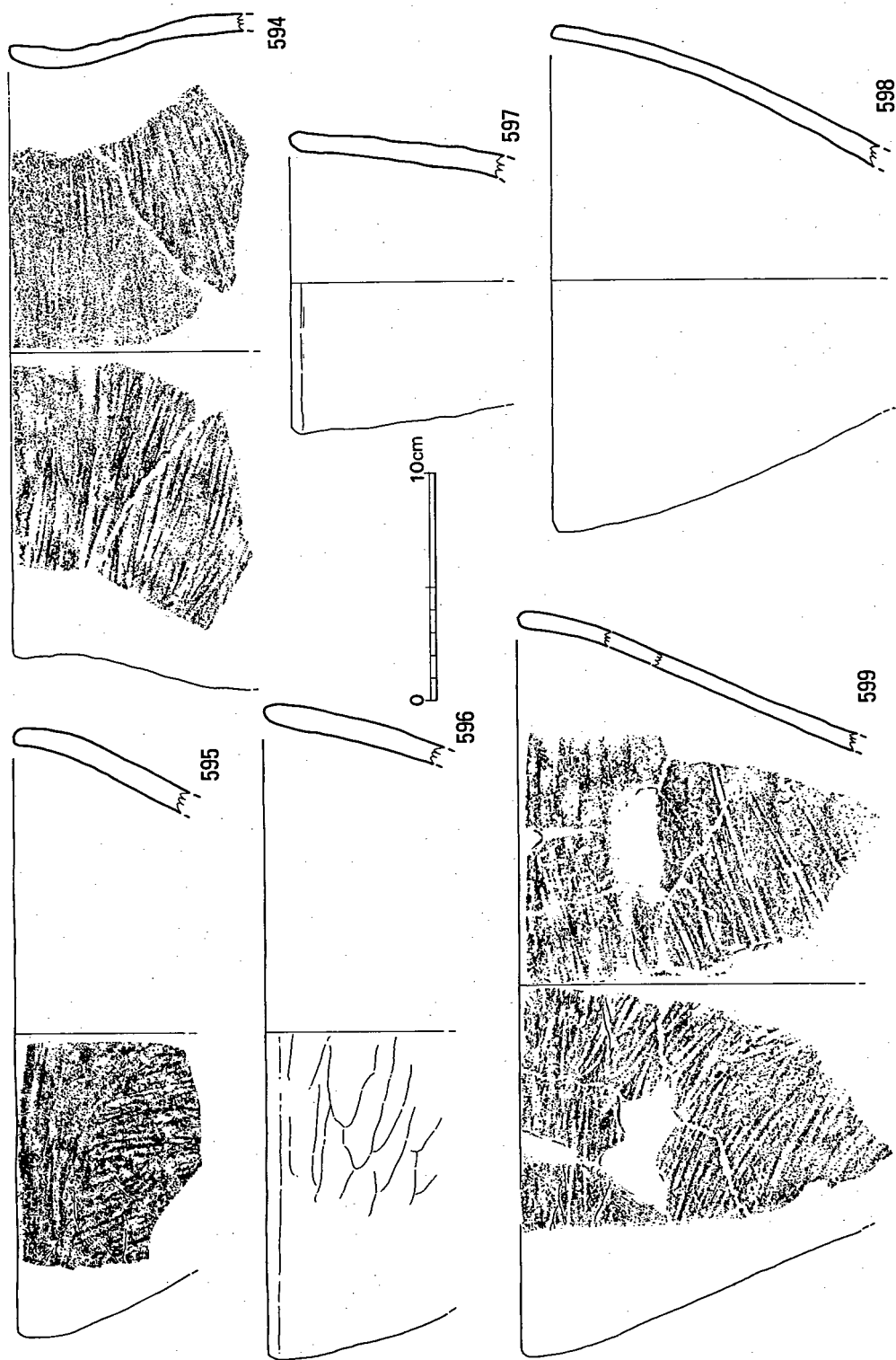
第 98 图 7 号住居跡出土土器拓影 17 (1/3)



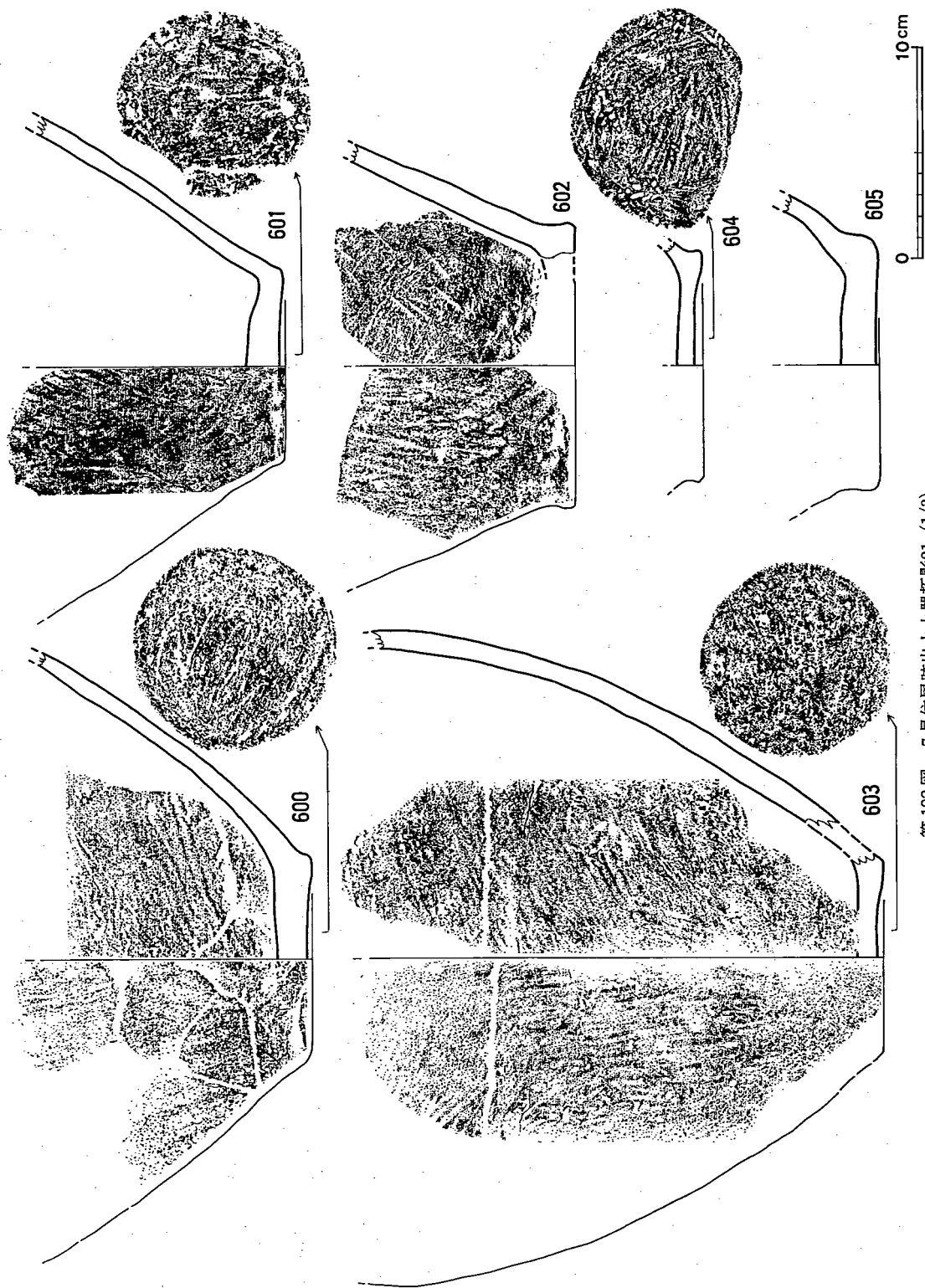
第 99 图 7 号住居跡出土土器拓影 18 (1/3)



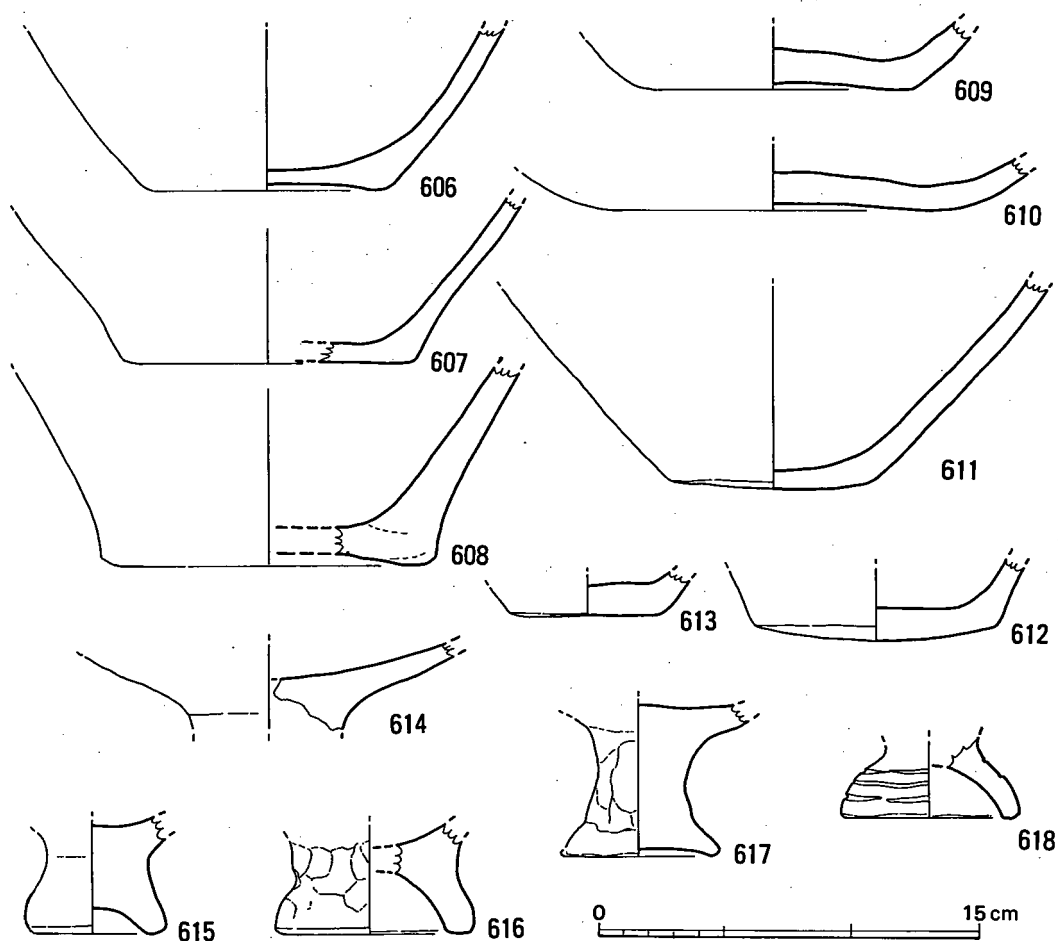
第100图 7号住居跡出土土器拓影19 (1/3)



第101图 7号住居跡出土土器拓影20 (1/3)



第 102 图 7 号住居跡出土土器拓影 21 (1/3)



第103図 7号住居跡出土土器拓影22 (1/3)

617は浅鉢が乗るであろう。618は踏張るように内彎している脚台で外面に横走る沈線がみられる。

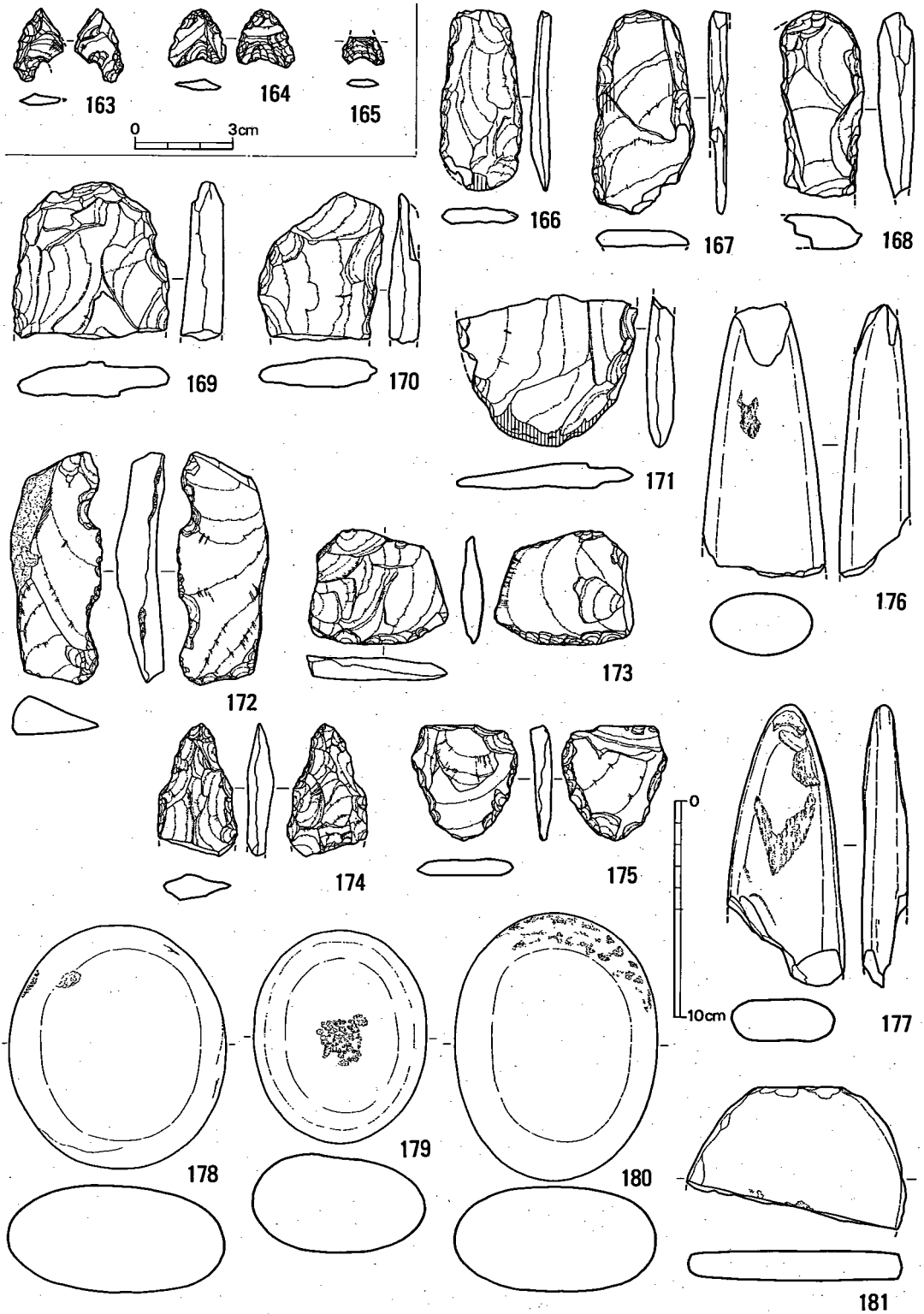
石器 (図版41, 第104図, 表18)

石 鏃 (163~165) 3点出土した。いずれも凹基式だが、姫島産黒曜石を用いた164・165はわたぐりが浅い。163は伊万里湾産らしい黒曜石を用いた広義の剥片鏃だが、縦長剥片を利用したものではない。

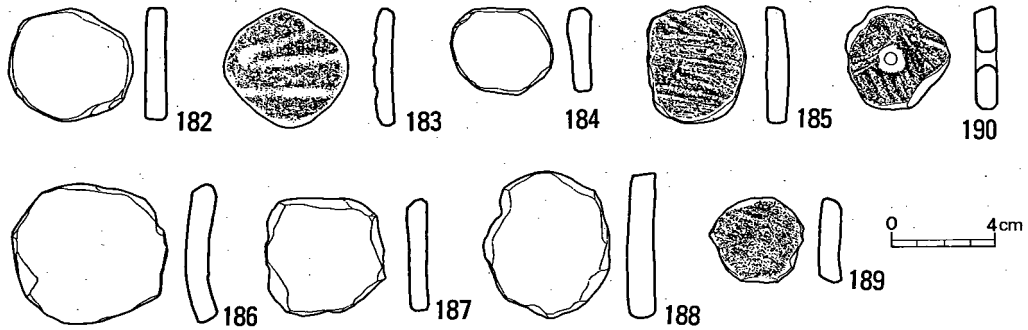
打製石斧 (166~171) 7点出土したが、うち6点を図示する。扁平打製石斧である。166・167は幅が狭く、厚みも1cm以下と薄い。165~171は幅が5cm以上、厚み1.5cm前後の大きさで、171の刃部は過擦痕が顕著にみとめられる。

削器類 (172~175) 4点出土した。172は安山岩剥片の側縁を利用し、2箇所には抉りがある。

磨製石斧 (176・177) 3点出土したが、小破片を除いた2点を図示する。ともに刃部を欠い



第104图 7号住居迹出土石器实测图 (1/2·1/3)



第105図 7号住居跡出土土製品実測図 (1/3)

ているが、177は扁平な体部をもつ。

すり石 (178~181) 4点出土した。うち3点は掌中におさまり易い扁平な河原石の、両面がよくすれているもので、179は片面の中央に痘痕状の凹みになる敲打痕がある。181は扁平な円板状をなすもので、両面ともよくすれている。

土製品 (図版41, 第105図, 表21・22)

土製円板 (182~189) 20点出土し、うち9点を図示する。A1類11点, A2類3点, B1類4点, B2類2点が内訳で、A1類に穿孔のあるものが2点含まれる。182・184~186がほぼ円形で周縁は研磨されるA1類, 190が穿孔のあるA1類, 183が角張った形で一部研磨されるB1類, 188がほぼ円形で打ち欠き調整のままのA2類, 187が角張った形で打ち欠き調整のまま放置されるB2類である。

2 甕棺墓

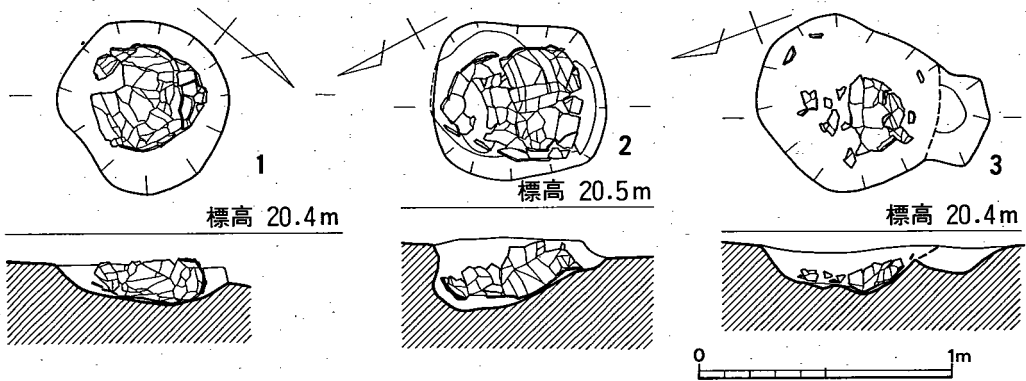
甕棺墓は3基検出された。人骨などの遺存体を確認していないし、燐分析なども未実施だが、形態から一応甕棺墓としておきたい。

1号甕棺墓 (図版42-1, 第106図)

調査区北部のD17区の北寄りで見出された。1号住居跡の約5m南西方に位置する。直径0.70m程、深さ約0.15mの不整形円形プランの土壌内に、主軸方位N46°Wにとり、南東側に口縁部、北西側に底部が向き、甕が埋められていた。甕の埋置角度は30°前後の傾斜であったと推定される。土圧で押し潰され、甕内に土砂が堆積していたが、骨などの遺存体は見出されていない。

甕棺 (図版43-2, 第107図)

復原口径30.7cm, 器高41.2cm, 胴最大径35.4cmの大きさの深鉢 (甕) で、上げ底の底部から緩やかに膨らんだ胴部がく字形に屈折し、口縁部は内傾して端部で外反する。胴部は内外面と



第106図 1～3号甕棺墓実測図 (1/30)

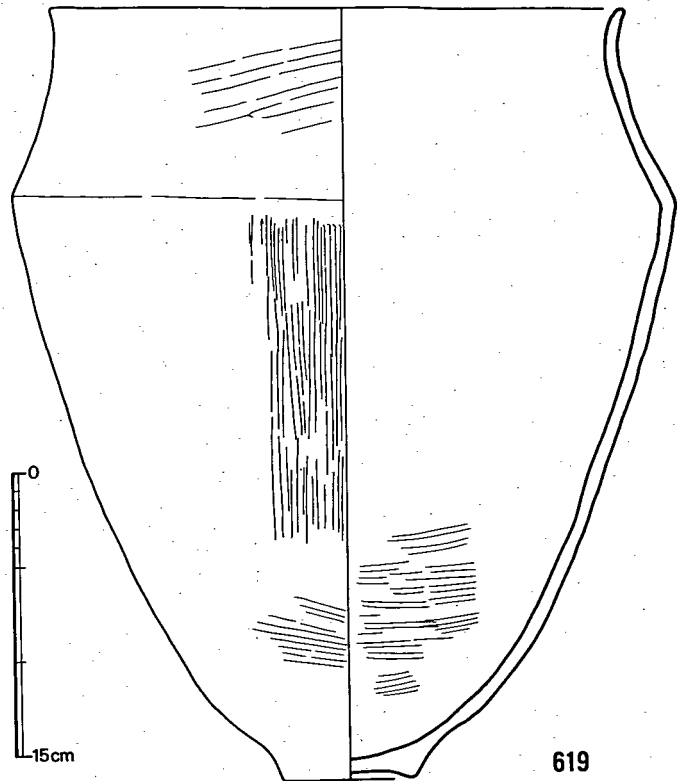
もに条痕の後ナデ消されるが、外面の消し方は雑なミガキに似たナデで、底部付近ではへナタリ条痕が残る。口縁部はナデ調整されているが、外面に横方向の指頭幅の痕跡がみられる。胎土に砂礫・角閃石を含み、褐色ないし茶褐色に焼成されている。

2号甕棺墓

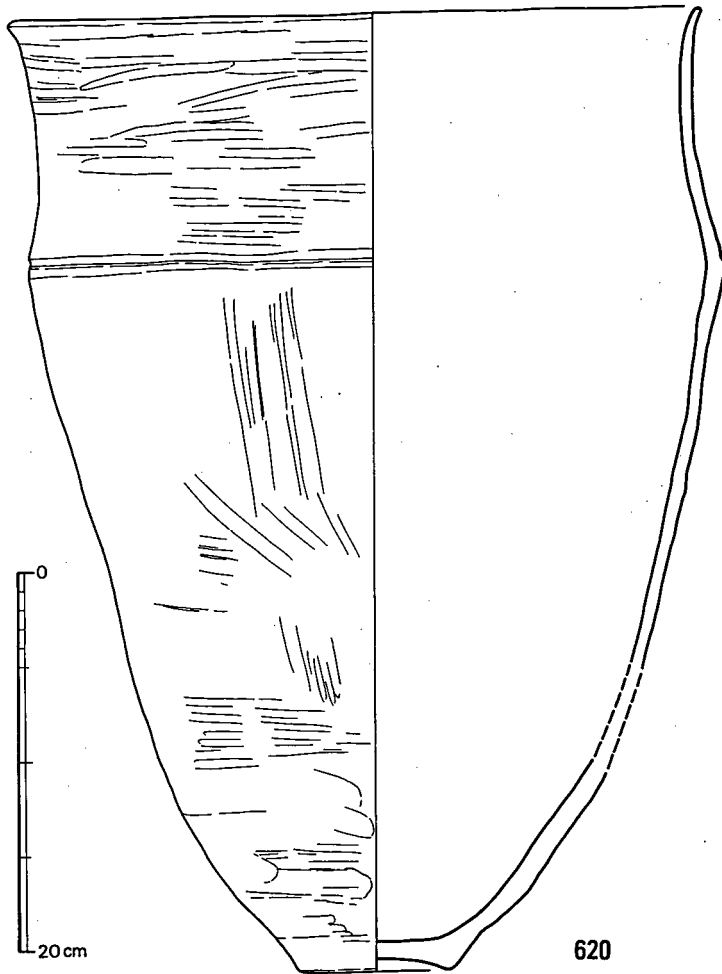
(図版42-2, 第106図)

調査区北部のD17区の南寄りで見出された。1号甕棺墓の約2m南方にある。長径0.68m, 短径0.60m, 深さ約0.25mの不整形プランの土壇内に、主軸方位をN22°Eにとり、北東側に口縁部、南西側に底部が向き、

甕が埋められていた。甕の埋置角度は35°前後の傾斜であったと推定される。土圧で押し潰され、甕内に土砂が堆積していたが、骨などの遺存体は検出されていない。



第107図 1号甕棺実測図 (1/4)



第108図 2号甕棺実測図 (1/4)

甕 棺 (図版43-2, 第108図)

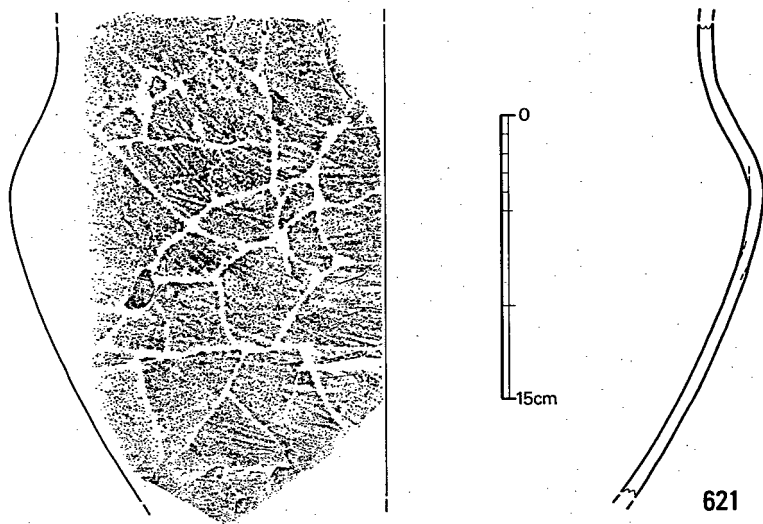
復原口径37.0cm, 器高51.1cm, 胴最大径37.2cmの大きさの深鉢(甕)で、上げ底の底部から緩やかに膨らんだ胴部が緩く屈折し、口縁部は内傾して端部で外反する。胴屈折部の肩に1条の浅くやや幅広な沈線が巡る。胴部外面は条痕の後ナデ消されるが、消し方が雑なミガキに似たナデで、一部へナタリ条痕が残る。口縁部は雑な横方向のナデで凹凸が残る。内面は器面が風化して調整手法が観察し難いがナデ調整であろうか。胎土に砂礫・角閃石を含み、茶褐色ないし暗茶褐色に焼成されている。

3号甕棺墓 (図版43-1, 第106図)

調査区中央部のH15区で検出された。2号甕棺墓の約23m西南西方向に相当する。長径0.73m, 短径0.65m, 深さ約0.15mの不整円形プランの土壌内に、主軸方位をN14°50'Eにとり、北東側に口縁部、南西側に底部が向き、甕が埋められていた。甕の埋置角度は水平に近い可能性があり甕棺とするには疑問も残る。土圧で押し潰され、甕内に土砂が堆積していたが、骨などの遺存体は検出されていない。

甕 棺 (図版43-2, 第109図)

口縁部と底部を欠く破片。残存器高25.0cm, 復原胴最大径40.0cmの大きさの深鉢(甕)で、上げ底の底部から緩やかに膨らんだ胴部が緩く屈曲し、口縁部は反る。胴部外面は条痕の後ナ



第109図 3号甕棺実測図(1/3)

テ消されるが、一部へナタリ条痕が残る。口縁部は横方向のナデ。内面はやや丁寧なナデ調整である。胎土に砂礫・角閃石・褐色粒・金雲母を含み、茶褐色ないし暗茶褐色に焼成されている。

3 その他の遺構と遺物

縄文時代の遺物包含層は、調査区中央部から北側全体に広がる。古墳時代の遺物も一緒に含む黒色土、縄文時代の遺物のみを含む茶褐色土の間は漸次的に色調が変化して境はあまり明確ではない。6・7号住居跡の南側に相当する辺りはそれ以外の部分よりも包含層がやや厚めである。遺物の特に集中する部分は、住居跡などの遺構の上部に相当することが多い。

包含層からはパンコンテナに約100箱の縄文土器片などが出土した。これらについては十分に整理・検討を成し得ていないが、その主な例をこの項で扱う。

包含層出土土器(図版44~47, 第110~120図, 表12・13)

1類(622) 押型文土器。外面に縦方向の小粒楕円, 内面に横方向の小粒楕円が回転押捺されて, 口縁部内面に原体刻文がある。古墳時代の17号住居跡から出土した。

2類a(623~629) 口縁部が緩く外反し, 端部は僅かに肥厚してやや幅のある文様帯を設ける。太い沈線で文様が描かれるが, 口縁部に2条ないし3条の沈線が横走して, 胴部文様帯との間に空間をもつ。623では波頂部下に4本の垂下する沈線がみられ, 625では口縁部の沈線間に刺突列点が並ぶ。628は同心円弧文的な列点をもつ。629は口縁部に横走する沈線がみられな

いものの同じ形態の口縁部をもち縦方向の短沈線が刻み目のように並ぶ。

2類b (630~632・634~638・641) 口縁部が緩く外反し、端部は僅かに肥厚してやや幅のある口縁部文様帯を設ける。口縁部に1条の沈線が横走して、胴部文様帯との間に空間をもつ。637では口縁部内面に文様をもたないが、波頂部の634~636では外面の列点より口唇側に短沈線があって、内面側にも短沈線文がみられる。632でみる限り胴部の文様はやや幅広で列点がみられる。630は口縁部に625と同様の原体による刺突列点がみられるものの口縁部の形態からこの類に含めた。631の胴部には縄文らしい痕跡がみとめられ後述する6類に含めた方が妥当かも知れない。637・638・641の波頂部は同心円弧文的な列点や短沈線がみられるが、2類aのものに比して退化した形態であろう。

3類a (633・643) 口縁部は外反するが、2類に比して短い。頸部にも沈線が横走して、口縁部文様帯と胴部分様帯の間の空間が詰まり気味である。633の破片下端に縄文らしい痕跡がみられる。

3類b (640・642) 口縁部は外反するが、2類に比して短く、口縁部文様帯が無い。頸部に沈線が横走して、642では渦文が挟まり、波頂部には楕円形状に沈線が巡る。沈線はやや太い。640では斜方向に刺突した列点があり口唇部には刻み目が付けられる。

4類a (644) 口縁部は外反するが、3類より短めである。口縁部文様帯に1条の沈線が横走して、波頂部に短沈線の退化した区画がつくられる。口縁部内面に段状の凹がみられる。頸部から胴部にかけて横走する沈線は集線化する。波頂部下の胴部に蕨手状の入組文で渦文を描いている。

4類b (645~647) 口縁部は短く外反して肥厚する。口縁部外面には沈線が横走しないが、内面に段状の凹みが見られる。波頂部上面には列点や刻み目が付されている。

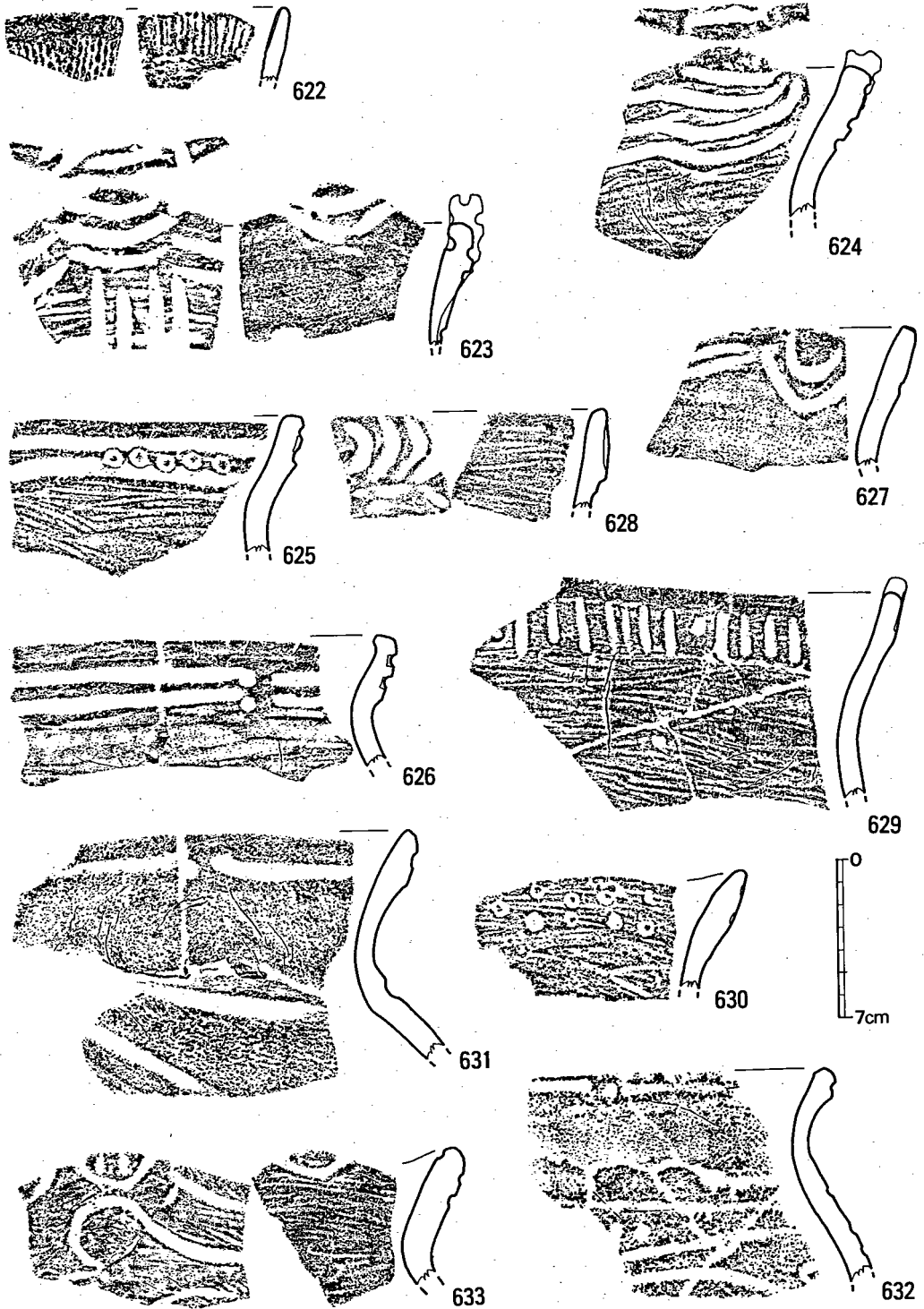
4類c (648~650・654・655) 口縁部は短く外反して肥厚する。口縁部外面に沈線が横走し、内面には僅かな段状の凹みが見られる。650の胴部文様に縦方向の刻み目状の短沈線列が見られる。655は胴部の沈線間に条痕状の痕跡があり疑似縄文的であり、むしろ6類cに含まれるものであろうか。

4類d (651・653) 口縁部は短く外反して肥厚する。口縁部外面の沈線は口唇部に横走し、内面には段状の凹みではなく沈線が見られる。653では波頂部に橋状把手を表現したものらしい梯子状文様が、胴部には同心円弧文が描かれ、沈線は細めである。

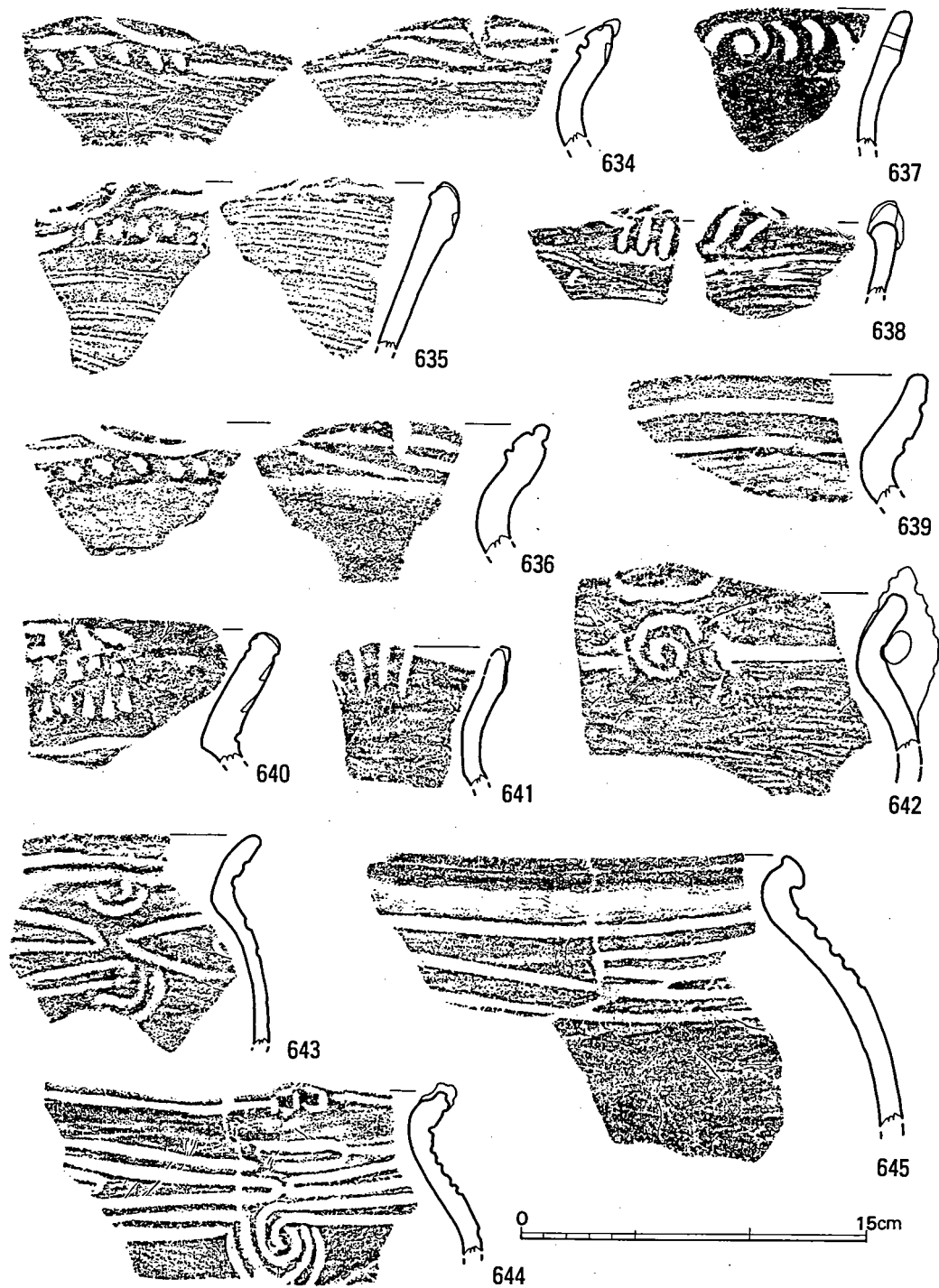
4類e (652・656) 口縁部は短く外反して肥厚するが、間延びした形をなす。沈線は口縁部内外面ともにみられず、頸部から胴部にかけて沈線が横走する。

5類 (658~661) 直線的に外反する口縁部で、端部外面に刻み目や列点をもつもの。3類に含まれる可能性があるものの破片資料のため確認できない。

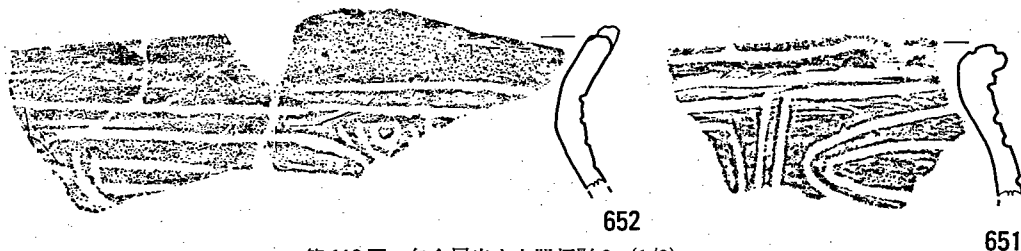
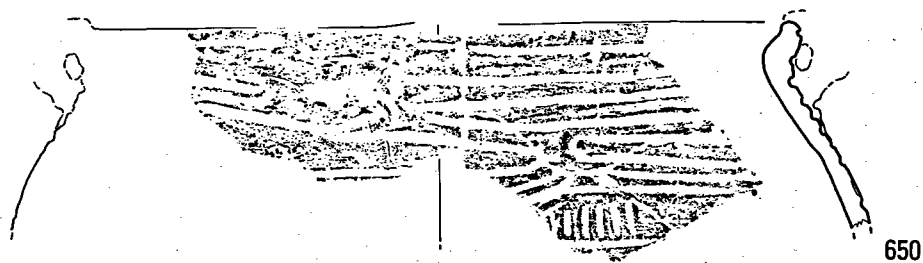
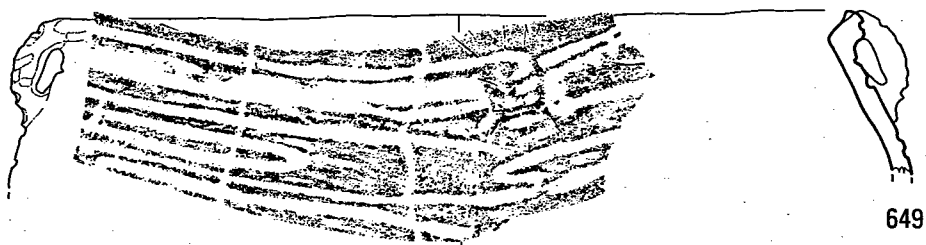
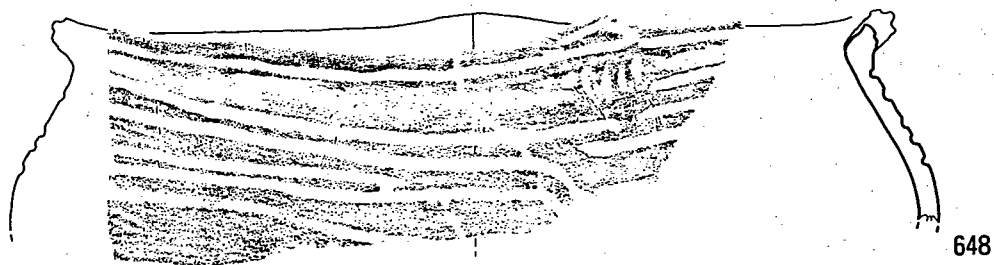
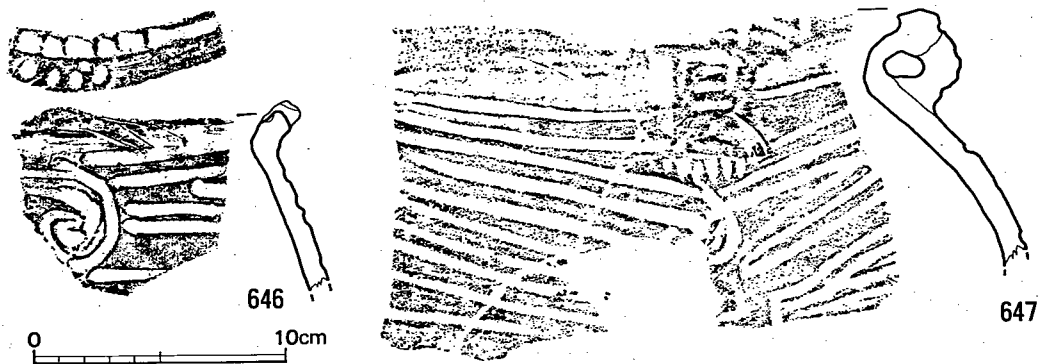
6類a (662~667) 磨消縄文のみられる土器。縄文はRLが多い。口縁部は緩く外反し、端部



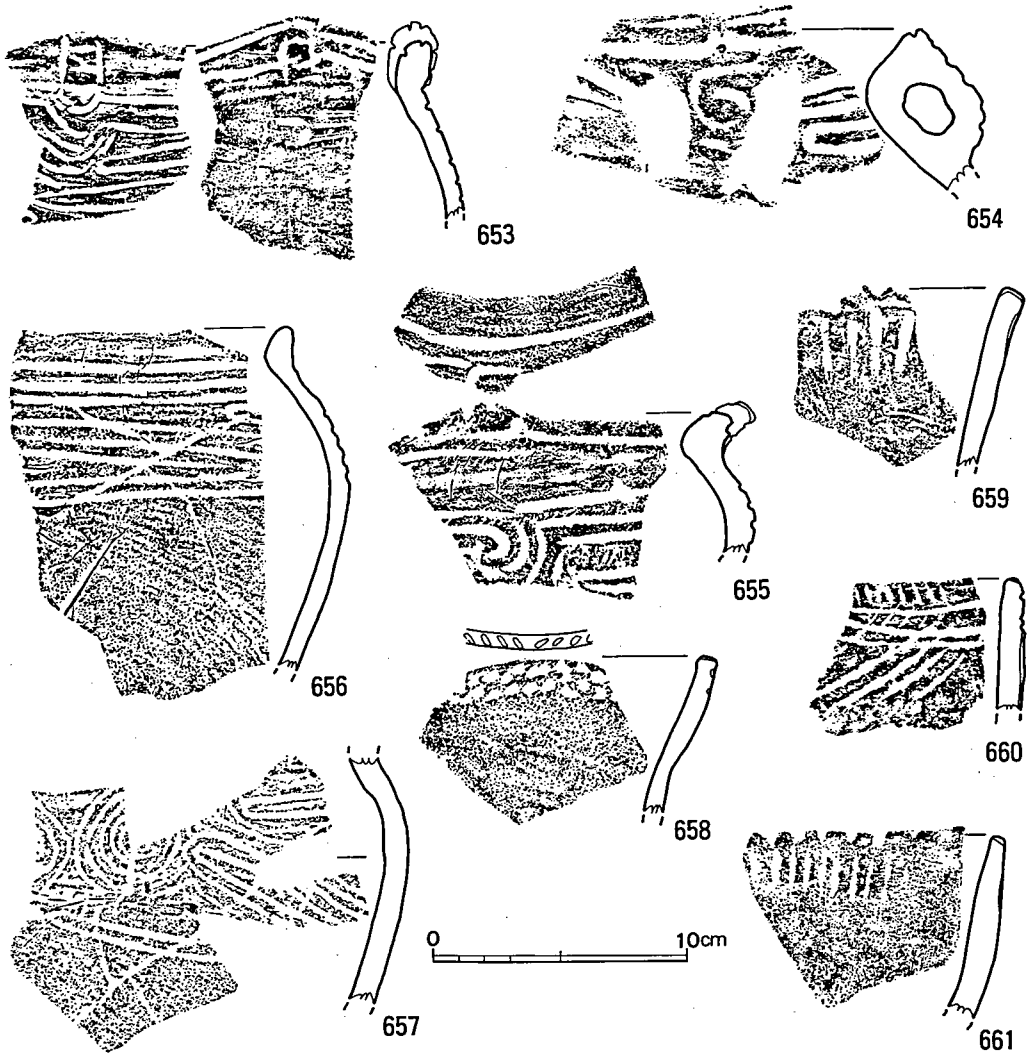
第110图 包含层出土土器拓影1 (1/3)



第111图 包含层出土土器拓影2 (1/3)



第112图 包含层出土土器拓影3 (1/3)



第113図 包含層出土土器拓影4 (1/3)

は僅かに肥厚してやや幅のある文様帯を設ける。太い沈線で文様が描かれるが、口縁部に1条の沈線が横走して、胴部文様帯との間に空間をもつ。662は口縁部が直線的に立ち上がり、663~667とは器形が異なる。沈線が2条で、使用される縄文も粗い。663は波頂部に同心円弧文的な列点があり、664は波頂部に放射状の列点がある。胴部の文様は幅広に逆三角形などの区画を描き、渦文がある。

6類b (668~670・672~674) 口縁部は外反するが、6類aに比して短い。頸部にも沈線が横走して、口縁部文様帯と胴部文様帯の間の空間が詰まる。口縁端部内面に段状の凹みがみられる。胴部の文様はやや幅が狭い。670では胴部文様帯の上端に逆J字形がみられる。668の橋状把

手にS字状文とC字形弧線の入組文が、波頂部内面に列点がある。672・673は口縁部が直線的に立ち上がる器形の鉢ないし椀である。674は頸部に逆J字形文がみられる。

6類c (675) 口縁部は短く外反して肥厚する。口縁部外面に沈線が横走り、内面には段状の凹みがみられる。頸部から胴部かけて横走る沈線は集線化している。

6類d (671) 口縁部は強めに外反し、6類aに比して短い。頸部にも沈線が横走して、口縁部文様帯と胴部文様帯の間の空間が詰まる。胴部は縄文が施文されたまま放置されている。口縁部を横走る沈線には刺突列点が付随する。橋状把手上には渦文が上下にみられる。

6類e (676) 口縁部は緩く外反し、端部は僅かに肥厚して2条の平行沈線が横走して、胴部文様帯との間に空間をもつ。胴部の文様は平行沈線で同心円弧文などを描くが沈線は細い。

6類f (682) 磨消縄文にならないが、縄文が施文されているので6類に含めた。外面全体に縄文RLが施文されている。

7類a (677・683) アナガラ疑似縄文が施文されている。677は胴部文様帯の上側は列点、下側は沈線が横走り、反転する細長いU字形区画に疑似縄文が充填される。683は口縁部が内彎する鉢ないし椀で波頂は小さく刻まれ、口縁部の平行沈線間に疑似縄文が充填される。

7類b (678) ヘナタリ疑似縄文が施文されている。口縁部は短く外反して肥厚する。口縁部外面に沈線が横走り、内面には段状の凹みが残る。沈線間に疑似縄文がみられるものの磨消手法はみられない。橋状把手上には同心円文が描かれている。

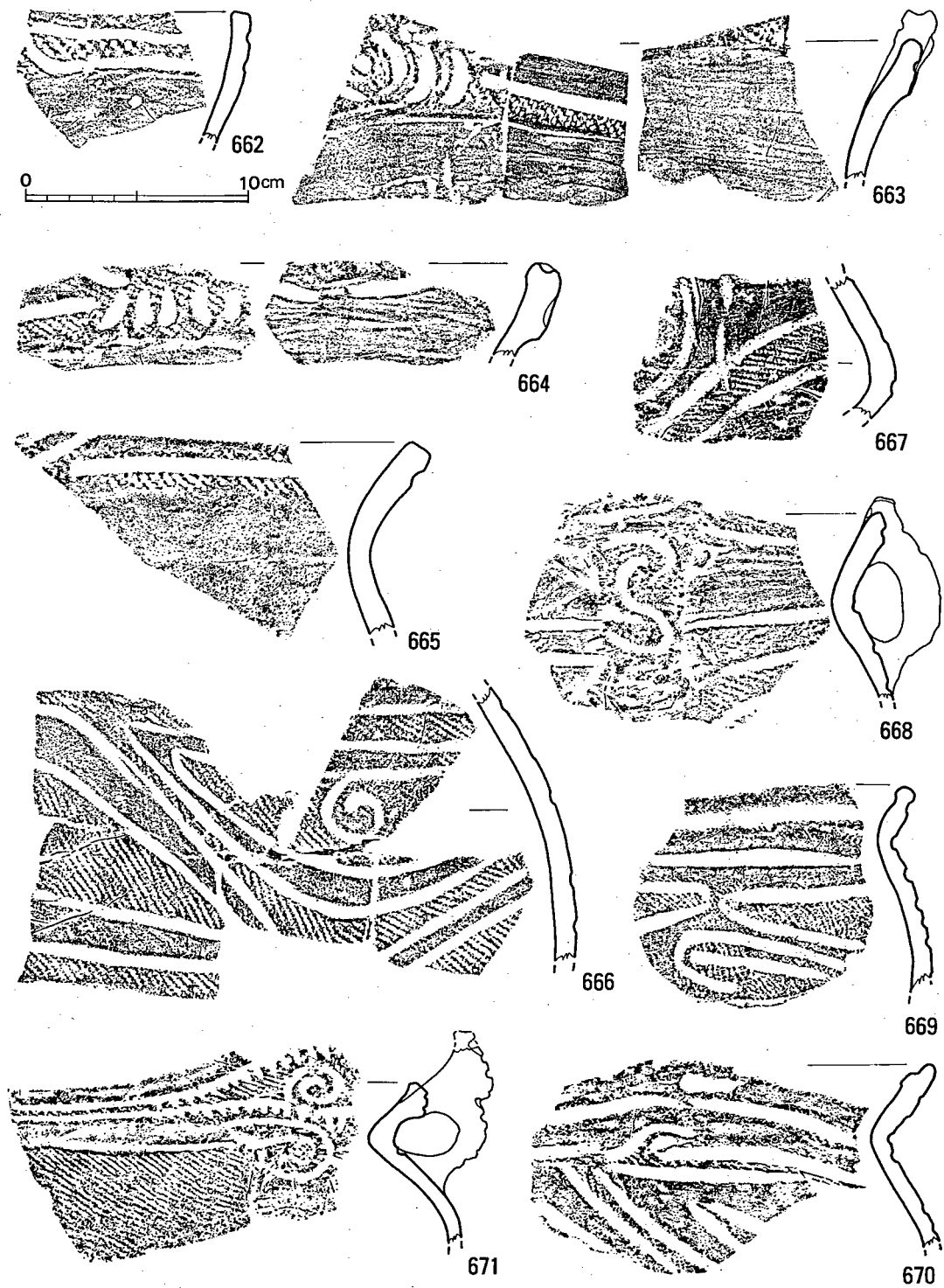
7類c (679) ヘナタリ疑似縄文が施文されている。口縁部は緩く外反して端部で内彎する。口縁部文様帯に疑似縄文が施文されて、上下に平行沈線が横走するが、磨消手法はみられない。なお681は胴部に疑似縄文が施文されたままのもので、この類の胴部であろう。

8類 (680・684) 680は破片端部が疑口縁になっていて、口縁部側の形状は不明。平行沈線で同心円弧文と、円弧文を繋いで横走る直線文などで文様が構成されている。684は浅い椀形の鉢で、口縁部外面に5条の沈線が平行して横走る。口縁端部に双孔がみられる。

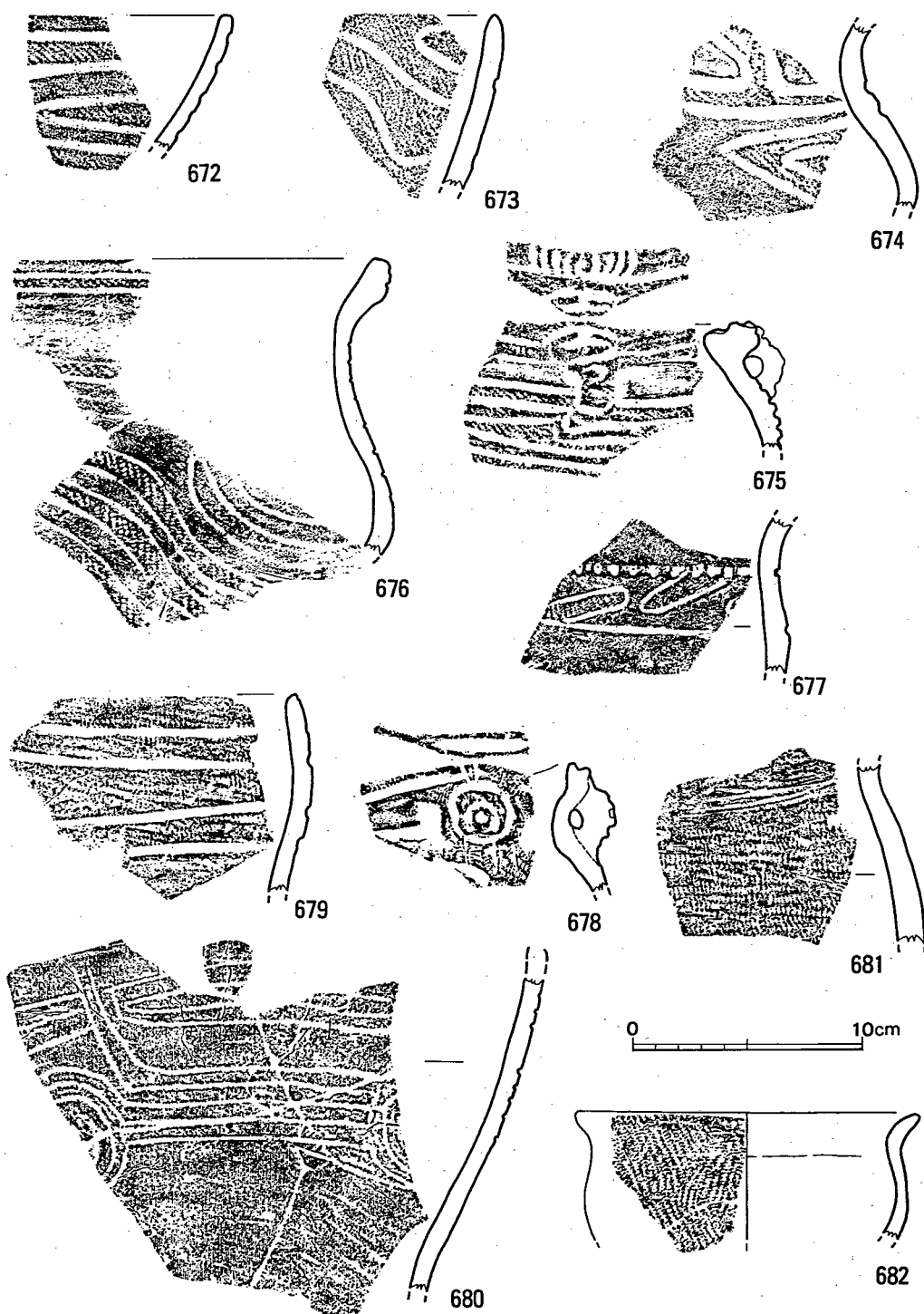
9類 (688・689) 直線的に直立ないし外反する口縁部に刻み目突帯をもつ土器で、688には口唇部にも刻み目が付されている。

10類 (685・687・711) 内外面ともに研磨ないし丁寧にナデ調整される土器。685は直線的に開く浅鉢で、口縁端部が僅かに内彎する。687は窄まる頸部から口縁部が直に立ち上がる器形で、口縁上面にリボン状の突起が付く。突起の下には両面から穿孔された3孔が並ぶ。711は黒色磨研の鉢で、胴部がく字形に屈曲し、頸部は僅かに外反して口縁部もく字形に折れる器形。口縁部に1条、胴部に2条の沈線が巡るものの、胴部沈線は同じ所を2回重ねた1条のやや幅広の沈線になり、縦方向の刻み目状の短沈線が交差する。

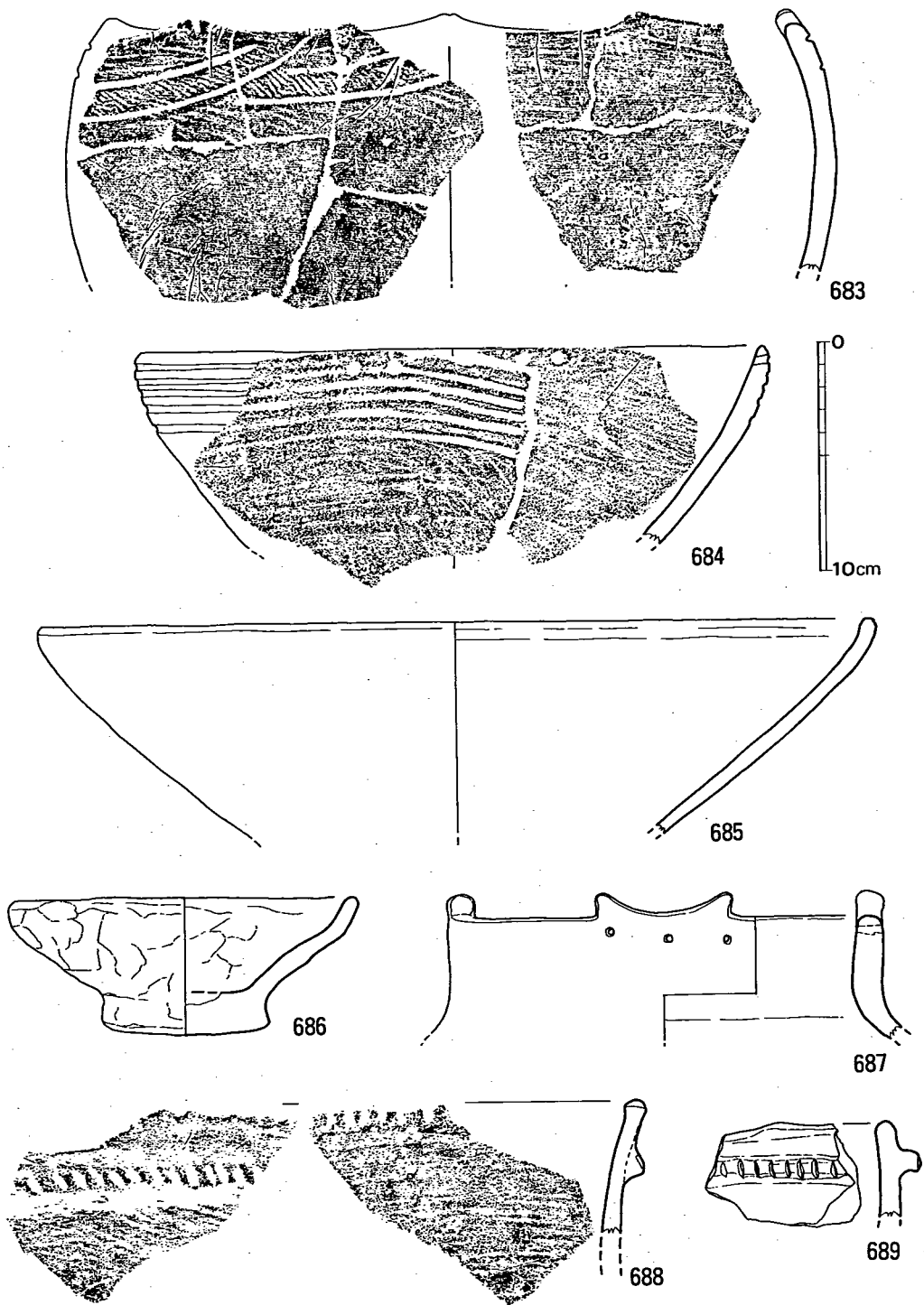
11類 (686・690・693・697～705) ナデ調整される無文土器。686は直線的に開く浅鉢で、口縁部が内彎する。底部は厚く高めである。690は口縁部が短く屈折して肥厚する鉢。693は直線



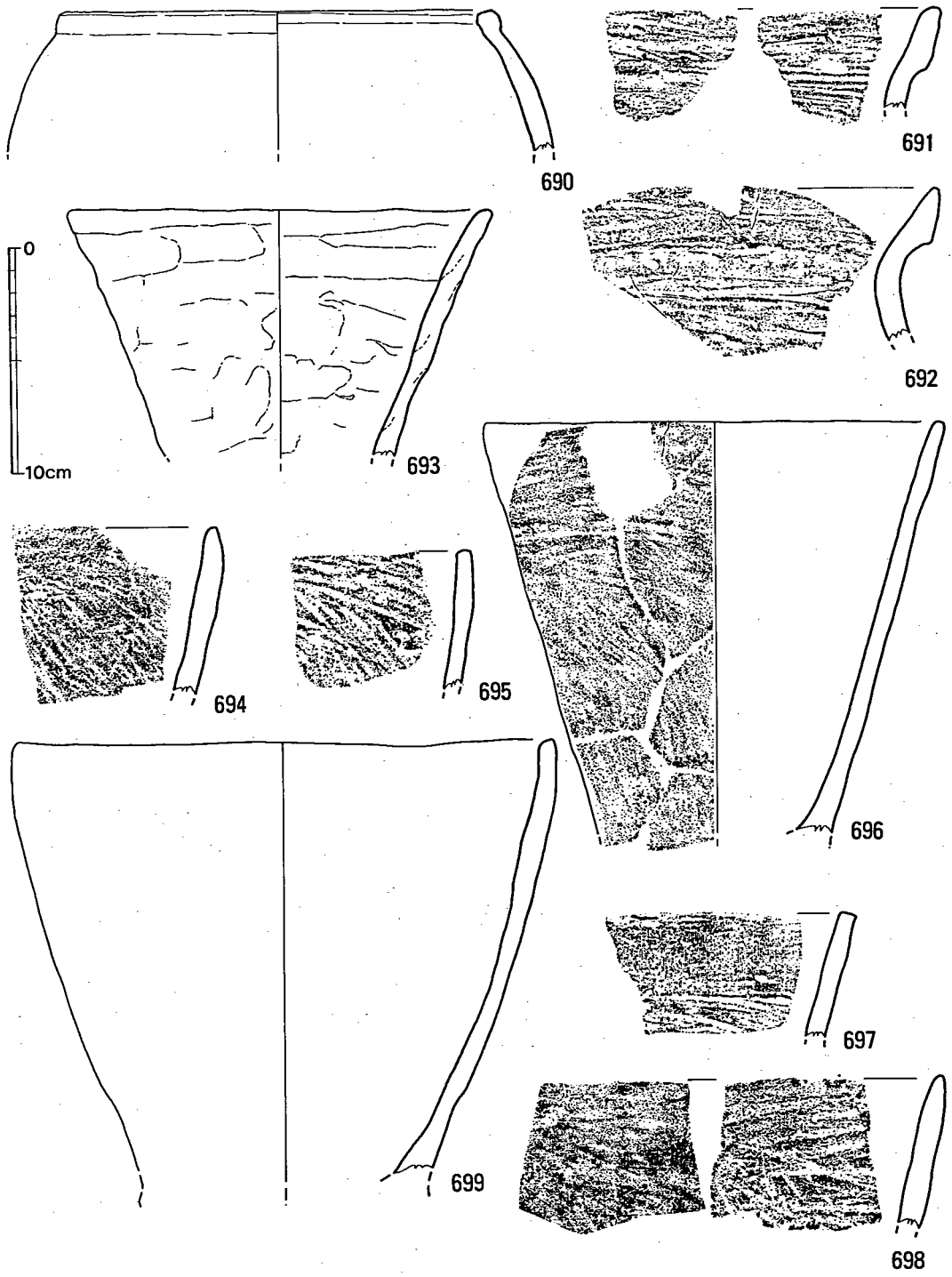
第114图 包含層出土土器拓影5 (1/3)



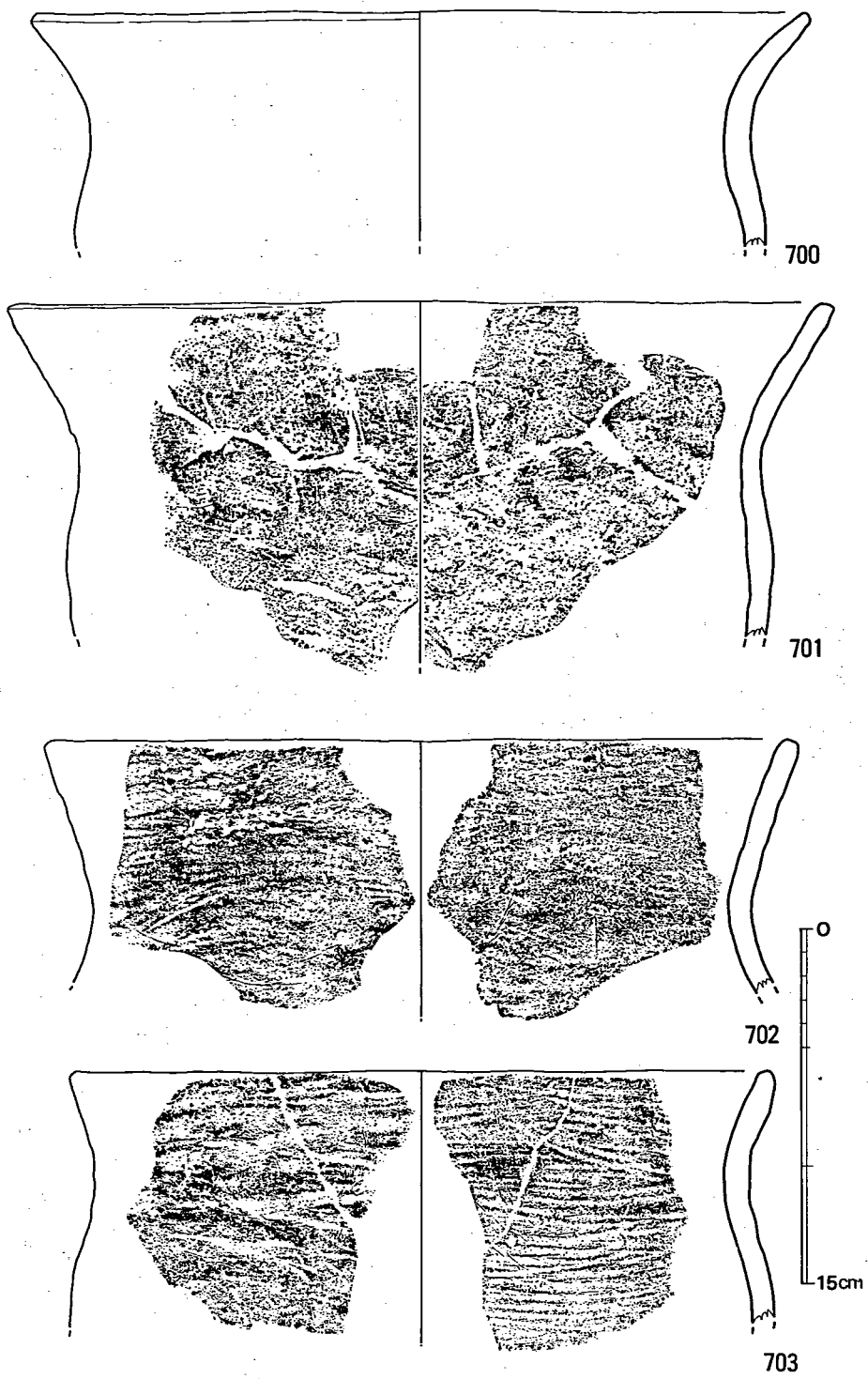
第115图 包含层出土土器拓影6 (1/3)



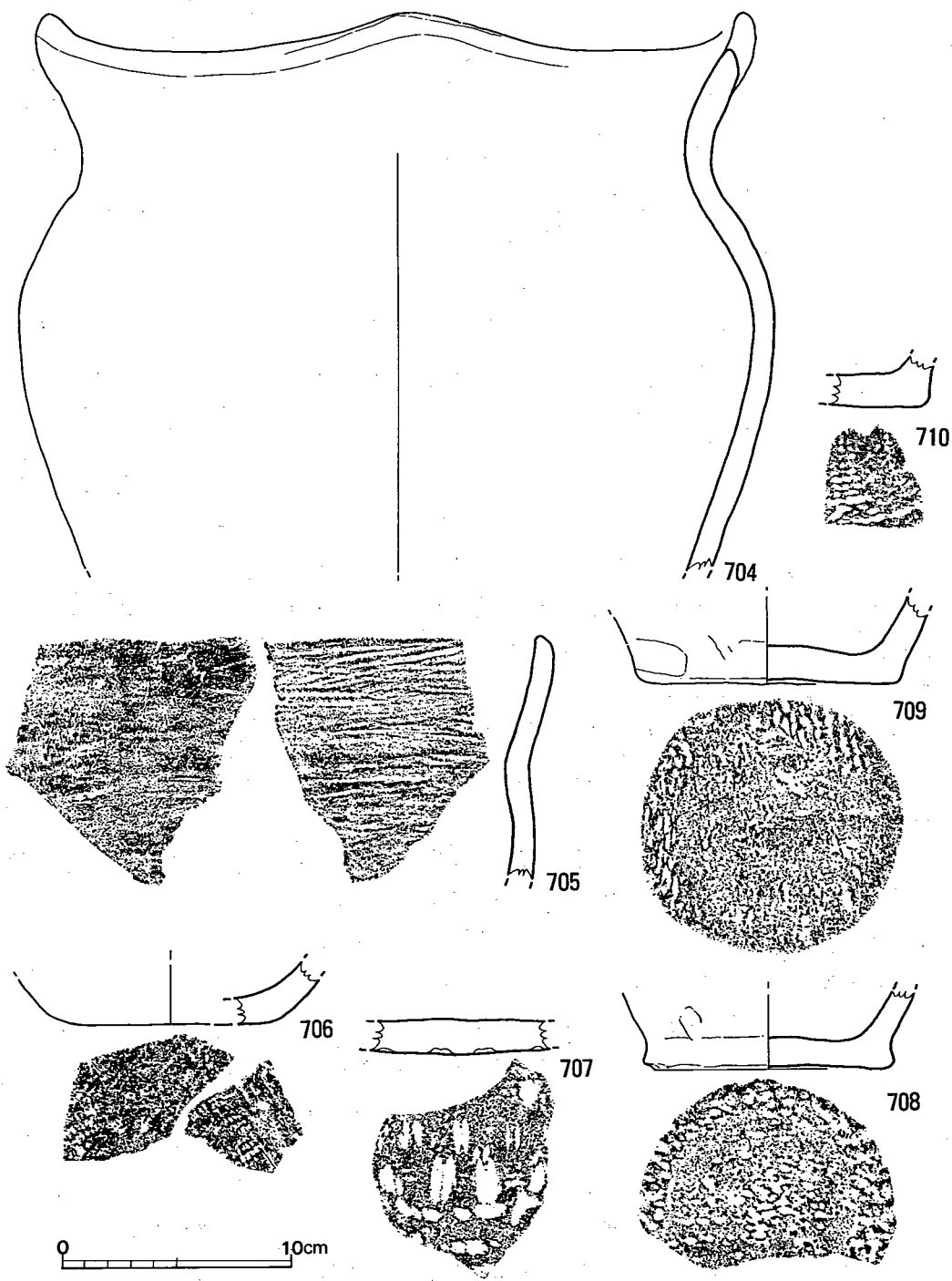
第 116 图 包含層出土土器拓影 7 (1/3)



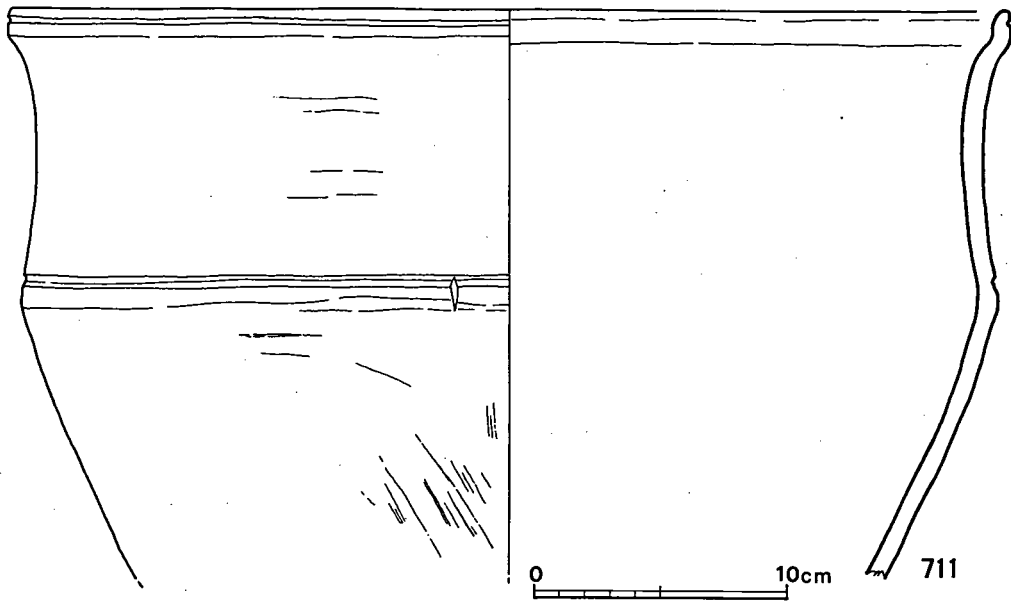
第117图 包含层出土土器拓影 8 (1/3)



第 118 图 包含層出土土器拓影 9 (1/3)



第119图 包含層出土土器拓影10 (1/3)



第120図 包含層出土土器拓影11 (1/3)

的に開く鉢, 699は直線的に開き口縁端部で内彎する鉢, 700~702は口縁部が外反する鉢, 703~705は口縁部が外反して端部で内彎気味の鉢である。条痕の後にナデ調整の加わるものも多くあり, 702~705には少し条痕が残る。

12類 (691・692・694~696) 691・692は緩やかに外反して口縁端部が幅広に肥厚する鉢で, アナグラ条痕がみられる。694~696は直線的に開く鉢。外面にヘナタリ条痕, 内面はナデ調整されている。

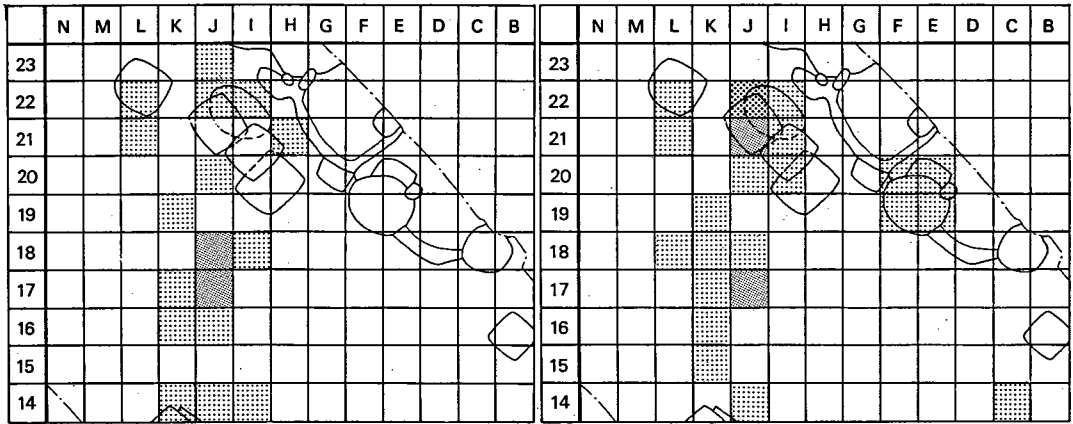
13類 (706~710) 圧痕のある底部。706は外底面に織物のような細かな組織痕跡がつく。707は2本単位の網代圧痕, 708~710はもじり網圧痕がみられる。

包含層出土石器 (図版47・48, 第122図)

包含層からは多量の石器類が出土している。

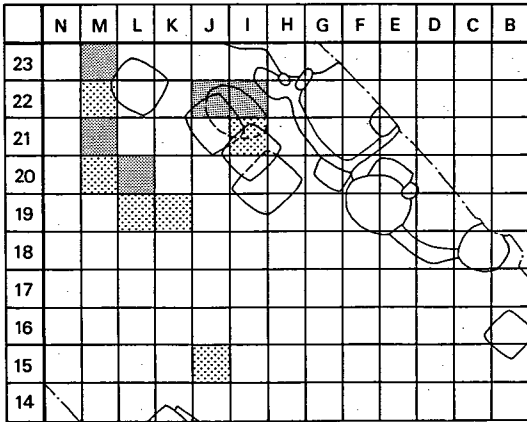
出土分布は煩雑になるので, 石鏃と打製石斧に限って層別出土分布状況を第121図に示した。包含層は5m方眼の区割りによるが, 遺構内出土点数は遺構面積と5m方眼の面積比で配分した。たとえば2号住居跡は5m方眼の約2倍で点数は1/2になるが, 3号住居跡は面積が約半分で点数は2倍に数えて図に表している。

これによる分布の片寄りは, 地区別の包含層の残存状況や調査精度の跛行による影響も考えられるが, 包含層の黒色土では, 下部の遺構が存在する地区のみならず広い範囲に分布する。黒色土下層や茶褐色土では住居跡などの存在する区域に集約される傾向がみられる。そして他

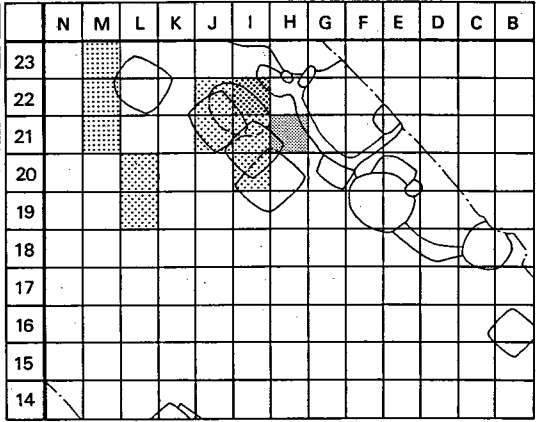


黑色土の石鏃分布

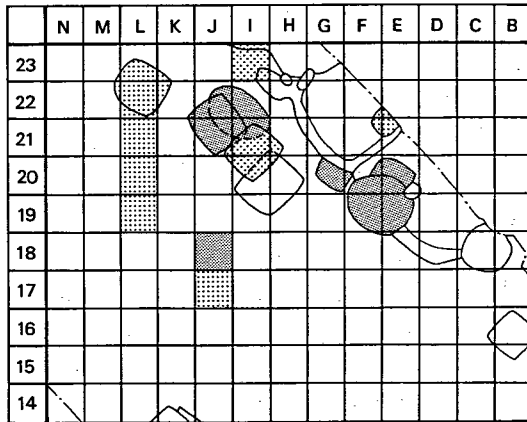
黑色土の打製石斧分布



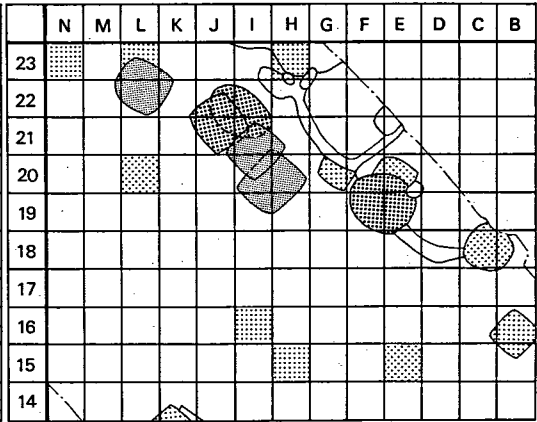
黑色土下層の石鏃分布



黑色土下層の打製石斧分布



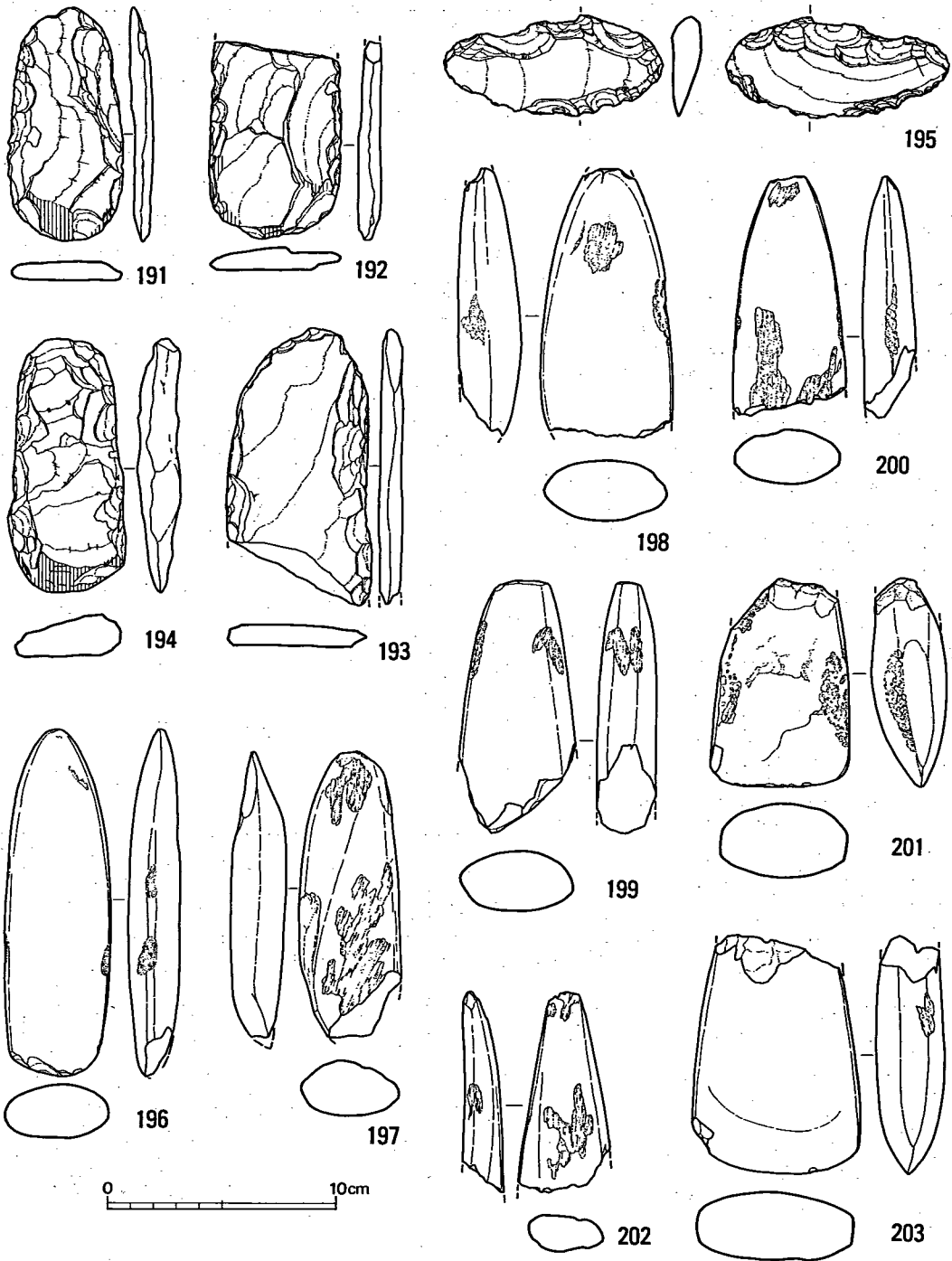
茶褐色土、遺構内の石鏃分布



茶褐色土、遺構内の打製石斧分布

1~4点
 5~9点
 10~14点

第121図 包含層出土石器の層別分布



第 122 图 包含層出土石器实测图 (1/3)

の石器でも概ねこの傾向は変わらない。

包含層出土の石器については一部を図示するにとどめた。

打製石斧 (191~194) 扁平打製石斧で、191~193は6号住居跡と重複する古墳時代の16・19号住居跡から出土し、194は2号住居跡のあるF19区の黒色土から出土した。緑泥片岩などの石材を用いて、191~193は厚さが1cm前後だが、194は厚さが2cm弱と厚みがある。

削器 (195) K19区黒色土下層出土の安山岩製で、横長剥片の打瘤部の厚みを減じる調整と、一部先端側の調整剥離を加えている。

磨製石斧 (196~203) このうち198・201~203は7号住居跡付近、196・197は古墳時代以降の9号住居跡・19号住居跡からそれぞれ出土した。

196・197は幅4.5cm前後、厚み2.5cm以下の細身の磨製石斧で、刃部を一部欠損しているが、頭部も尖る。196の側縁にみられる柄擦れの痕跡は体部の中ほどに相当する。

198~203は頭部側が細く刃部側が幅広になる磨製石斧で、200~203は側縁に平坦面をもつ定角式タイプの例である。201は体部中ほどの折損面を敲打調整して頭部としているが、刃部の刃こぼれも著しい。

表2 山崎遺跡出土土器観察表1

No.	出土位置	文様の特徴と器面調整			胎土				備考 登録No.	
		外面	色調	内面	砂角	金	褐	英長		
1	1号住	覆土	研磨→沈線	淡褐色	研磨	○	○			1-1
2		覆土	研磨→沈線	茶褐色	研磨	○	○			1-30
3		覆土	ナデ→沈線	灰黄褐色	条痕→ナデ	○	○			1-36
4		Pit	研磨→沈線	灰黄褐色	研磨	○	○			1-11
5		覆土	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○			1-28
6		覆土	研磨→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		1-27
7		覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	条痕→ナデ	○	○	○		1-3
8		覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○			1-34
9		覆土	縄文RL→沈線→研磨	黒褐色	ナデ	○	○		赤	1-6
10		覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗黄褐色	ナデ	○	○			1-40
11		覆土	ア条痕	淡茶褐色	ア条痕	○	○			
12		覆土	ナデ→沈線	暗黄褐色	ア条痕→ナデ	○	○			1-4
13		覆土	ナデ→沈線	茶褐色	ナデ	○	○			1-31
14		覆土	研磨→沈線	淡茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○			1-37
15		Pit	ナデ→沈線	茶褐色	ナデ	○	○			1-9
16		覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○			1-29
17		覆土	研磨→沈線	暗黄褐色	研磨	○	○	○		1-38
18		覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○			1-35
19		覆土	研磨→沈線	暗茶褐色	研磨	○	○			1-5
20		覆土	ナデ→沈線	暗茶灰褐色	ナデ	○	○			1-12
21		覆土	ナデ→沈線	暗黄褐色	へ条痕→ナデ	○	○			1-14
22		覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○			1-32
23		覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗茶褐色	ナデ	○	○			1-7
24		覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	茶褐色	研磨・ナデ	○	○			1-8
25		覆土	へ条痕	茶褐色	ナデ	○	○			1-44
26		覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		1-48
27		覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○			1-47
28		Pit	へ条痕	暗黄褐色	へ条痕	○	○			
29		覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○			
30		覆土	ナデ・研磨	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		1-2
31		覆土	ア条痕→ナデ、組織痕	暗黄褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○		1-10
32		覆土	へ条痕	淡茶褐色	ナデ	○	○			1-50
33	2号住	Pit	ナデ	茶褐色	ナデ	○	○			2-1011

表3 山崎遺跡出土土器観察表2

No.	出土位置	文様の特徴と器面調整			胎土				備考
		外面	色調	内面	砂	角	金	褐	
34	2号住 Pit	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○			2-1012
35	Pit	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○			2-1013
36	床面	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○			2-874
37	床面	研磨	茶褐色	研磨	○	○			2-900
38	床面	研磨	暗黄褐色	研磨?	○	○			
39	覆土	縄文RL→沈線→研磨	灰黄褐色	研磨	○	○			2-211
40	覆土	縄文RL→沈線・列点→研磨	灰黄褐色	縄文→沈線→研磨	○	○			2-41
41	覆土	研磨→沈線	灰茶褐色	研磨	○	○			2-151
42	覆土	研磨→沈線	茶褐色	ナデ	○	○			2-141
43	覆土	研磨?→沈線	暗黄褐色	研磨?	○	○			2-249
44	覆土	研磨→沈線	淡褐色	条痕→ナデ	○	○			2-48
45	覆土	ナデ→沈線	淡茶褐色	条痕→ナデ	○	○			2-160
46	覆土	ナデ→沈線	茶褐色	ナデ・列点	○	○			2-265
47	覆土	ナデ?→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○			2-258
48	覆土	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ→沈線	○	○			2-38
49	覆土	研磨→沈線	暗黄褐色	ナデ→列点	○	○			2-262
50	覆土	研磨→沈線	淡褐色	研磨	○	○			2-290
51	覆土	研磨→沈線	暗灰色	研磨	○	○			2-253
52	覆土	研磨?→沈線	淡赤褐色	研磨?	○	○			2-111
53	覆土	研磨?→沈線	暗茶褐色	研磨?	○	○			2-108
54	覆土	研磨→沈線→刺突	淡褐色	へ条痕→ナデ	○	○			2-700
55	覆土	ナデ、口唇に刻み目	暗黄褐色	ナデ→沈線	○	○			2-39
56	覆土	研磨→沈線、波頂に刻み目	淡赤褐色	研磨	○	○			2-60
57	覆土	ナデ→沈線	淡茶褐色	ナデ	○	○			2-192
58	覆土	研磨→沈線	暗黄褐色	へ条痕・ナデ	○	○			2-501
59	覆土	へ条痕→沈線	茶褐色	ナデ	○	○			2-89
60	覆土	へ条痕→ナデ→沈線→刺突	淡茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○			2-1
61	覆土	ア条痕→研磨→沈線	黄褐色	ナデ	○	○			2-255
62	覆土	縄文RL→沈線→研磨	淡茶褐色	研磨	○	○			2-281
63	覆土	縄文RL→沈線→研磨→列点	暗黄褐色	ア条痕→研磨	○	○			2-3
64	覆土	縄文RL→沈線→研磨→列点	暗黄褐色	ナデ	○	○			2-766
65	覆土	縄文RL→沈線→研磨→列点	暗黄褐色	研磨	○	○			2-492
66	覆土	縄文・研磨	暗黄褐色	研磨	○	○			2-198
67	覆土	縄文LR→沈線→研磨	黄褐色	研磨	○	○			2-146
68	覆土	縄文RL・研磨→沈線	淡褐色	ナデ	○	○			2-611
69	覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○			2-12
70	覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○			2-423
71	覆土	縄文・研磨	暗茶褐色	研磨	○	○			2-35
72	覆土	縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○	○			2-18
73	覆土	縄文RL→沈線→研磨→列点	暗黄褐色	研磨	○	○			2-510
74	覆土	縄文RL→沈線→研磨→列点	暗黄褐色	研磨	○	○			2-21
75	覆土	縄文L・ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○			2-661
76	覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗茶褐色	ナデ・研磨	○	○			2-86
77	覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗黄褐色	条痕	○	○			2-799
78	覆土	縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	条痕→研磨	○	○			2-11
79	覆土	縄文・研磨	茶褐色	ナデ	○	○			2-237
80	覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗黄褐色	ナデ	○	○			2-981
81	覆土	縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○	○			2-27
82	覆土	研磨・縄文	茶褐色	ナデ	○	○			2-139
83	覆土	研磨・縄文	灰黄褐色	研磨	○	○			2-22
84	覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	茶褐色	研磨	○	○			2-165
85	覆土	研磨→ア疑縄文	暗茶褐色	研磨	○	○			2-350
86	覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	茶褐色	ナデ	○	○			2-70
87	覆土	沈線→ア疑縄文→研磨	淡茶褐色	研磨	○	○			2-23
88	覆土	ア疑縄文→沈線→研磨	淡茶褐色	ナデ・研磨	○	○			2-43
89	覆土	ナデ→沈線・列点→ア疑縄文?	灰茶褐色	ナデ	○	○			2-499
90	覆土	研磨→ア疑縄文・列点	暗茶褐色	研磨	○	○			2-144
91	覆土	研磨→ア疑縄文→沈線	暗茶褐色	条痕→研磨	○	○			2-316
92	覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	黒褐色	研磨・ナデ	○	○			2-421
93	覆土	研磨→列点・ア疑縄文	褐色	ナデ	○	○			2-491
94	覆土	ナデ→沈線→ア疑縄文	褐色	ナデ?	○	○			2-32
95	覆土	研磨→ア疑縄文→列点	茶褐色	研磨	○	○			2-34

表4 山崎遺跡出土土器観察表3

No.	出土位置	文様の特徴と器面調整			胎土				備考 登録No		
		外面	色調	内面	砂	角	金	褐		英	長
96	2号住	覆土	ナデ→列点	暗黄褐色	ナデ	○	○				2-52
97		覆土	研磨→列点→ア条痕	暗黄褐色	研磨?	○	○				2-140
98		覆土	研磨→沈線→ア条痕	暗黄褐色	ナデ	○	○				2-142
99		覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○	○				2-25
100		覆土	へ疑縄文→沈線→ナデ	暗褐色	ナデ	○	○				2-703
101		覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○				2-686
102		覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	暗黄褐色	研磨	○	○				2-674
103		覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	暗黄褐色	研磨	○	○				2-677
104		覆土	へ疑縄文→研磨→列点	茶褐色	研磨・ナデ	○	○				2-982
105		覆土	研磨→へ疑縄文→沈線	暗茶褐色	研磨	○	○				2-31
106		覆土	研磨→へ疑縄文→沈線	黄褐色	研磨→沈線	○	○				2-30
107		覆土	へ疑縄文・研磨	暗茶褐色	研磨	○	○				2-42
108		覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	灰黄褐色	研磨	○	○				2-433
109		覆土	研磨→へ疑縄文→沈線・列点	暗黄褐色	ナデ	○	○				2-697
110		覆土	研磨→沈線→へ疑縄文	暗黄褐色	研磨	○	○				2-698
111		覆土	研磨→沈線→へ疑縄文	黄茶褐色	ナデ	○	○				2-476
112		覆土	ナデ→へ疑縄文→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○				2-691
113		覆土	ナデ→沈線→へ疑縄文	茶褐色	ナデ	○	○				2-37
114		覆土	ナデ→沈線→へ疑縄文	暗黄褐色	ナデ	○	○				2-168
115		覆土	条痕→研磨→へ疑縄文→沈線	茶褐色	ナデ	○	○				2-51
116		覆土	ナデ→へ疑縄文	茶褐色	ナデ	○	○				2-333
117		覆土	ナデ→へ疑縄文→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○				2-243
118		覆土	研磨→沈線→へ疑縄文	暗茶褐色	ナデ	○	○				2-33
119		覆土	ナデ→へ疑縄文	暗黄褐色	ナデ	○	○				2-222
120		覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	黒灰色	研磨	○	○				2-72
121		覆土	研磨→沈線→へ疑縄文	暗茶灰褐色	研磨	○	○				2-847
122		覆土	へ条痕	暗黄褐色	へ疑縄文→沈線	○	○				2-815
123		覆土	縄文→沈線→研磨	淡茶褐色	研磨	○	○				2-145
124		覆土	ナデ→疑縄文?	淡黄灰褐色	ナデ	○	○				2-125
125		覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○				2-254
126		覆土	ナデ	茶褐色	ナデ	○	○				2-143
127		覆土	研磨→沈線	暗茶褐色	研磨	○	○				2-24
128		覆土	沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○				2-466
129		覆土	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○				2-503
130		覆土	へ条痕→研磨→短沈線	褐色	へ条痕	○	○				2-28
131		覆土	ナデ→刺突、口唇に刻み目	暗茶褐色	ナデ	○	○				2-251
132		覆土	ナデ	淡茶褐色	ナデ	○	○				2-46
133		覆土	ナデ→沈線・刻み目	暗黄褐色	ナデ	○	○				2-238
134		覆土	研磨→沈線	茶褐色	研磨	○	○				2-701
135		覆土	ア条痕→研磨	暗茶褐色	研磨→沈線	○	○				2-346
136		覆土	研磨→刻み目	灰黄褐色	研磨	○	○				2-247
137		覆土	ナデ→刻み目	茶褐色	ナデ	○	○				2-235
138		覆土	研磨→列点	茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○				2-204
139		覆土	研磨、波頂に刻み目	茶褐色	研磨	○	○				2-29
140		覆土	ナデ	淡黄灰色	ナデ	○	○				2-119
141		覆土	ナデ、口唇に刻み目	灰茶褐色	ナデ	○	○				2-189
142		覆土	ナデ、口唇に刻み目	暗黄褐色	ナデ	○	○				2-665
143		覆土	へ条痕、口唇に刻み目	暗茶褐色	ナデ	○	○				2-101
144		覆土	ナデ、口唇に刻み目	暗黄褐色	ナデ	○	○				2-150
145		覆土	へ条痕、口唇に刻み目	暗黄褐色	へ条痕	○	○				2-182
146		覆土	ア条痕、波頂に短沈線	暗茶褐色	ア条痕	○	○				2-515
147		覆土	ナデ、口唇に刻み目	暗黄褐色	ナデ→沈線	○	○				2-638
148		覆土	へ条痕→ナデ	茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○				2-259
149		覆土	ナデ、口唇に刻み目	茶褐色	ナデ	○	○				2-5
150		覆土	ナデ、波頂に刻み目	茶褐色	ナデ	○	○				2-6
151		覆土	ア条痕→ナデ	暗茶褐色	ナデ→短沈線	○	○				2-260
152		覆土	研磨	茶褐色	研磨	○	○				2-93
153		覆土	研磨	褐色	研磨	○	○				2-100
154		覆土	研磨	淡黒褐色	研磨	○	○				2-387
155		覆土	研磨	茶褐色	研磨	○	○				2-102
156		覆土	研磨	暗黄褐色	研磨	○	○				2-392
157		覆土	研磨	暗茶褐色	研磨	○	○				2-334

表5 山崎遺跡出土土器観察表4

No.	出土位置	文様の特徴と器面調整			胎土				備考 登録No	
		外 面	色 調	内 面	砂	角	金	褐		英
158	2号住	覆土 研磨	黄褐色	研磨?	○	○	○			2-335
159		覆土 研磨	灰黄褐色	研磨	○	○	○			2-391
160		覆土 ア条痕→ナデ	暗黄褐色	研磨	○	○	○			2-295
161		覆土 研磨	茶褐色	ナデ	○	○	○			2-8
162		覆土 ナデ	茶褐色	ナデ	○	○	○			2-14
163		覆土 ナデ	暗黄褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○			2-344
164		覆土 ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			2-347
165		覆土 ア条痕→ナデ	茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○			2-269
166		覆土 ナデ	暗灰茶褐色	条痕→ナデ	○	○	○			2-394
167		覆土 ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			2-296
168		覆土 ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			2-342
169		覆土 へ条痕→ナデ	暗茶褐色	へ条痕	○	○	○			2-399
170		覆土 ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			2-298
171		覆土 ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			2-343
172		覆土 ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			2-302
173		覆土 ナデ	淡褐色	ナデ	○	○	○			2-94
174		覆土 条痕→ナデ	暗茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○			2-20
175		覆土 ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			2-16
176		覆土 ナデ	茶褐色	ナデ	○	○	○			2-328
177		覆土 ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			2-180
178		覆土 ナデ	暗灰茶褐色	ナデ	○	○	○			2-383
179		覆土 ア条痕→ナデ	茶褐色	ア条痕	○	○	○			2-337
180		覆土 ア条痕→ナデ	灰茶褐色	ア条痕	○	○	○			2-405
181		覆土 ア条痕→ナデ	暗茶褐色	ア条痕	○	○	○			2-304
182		覆土 ア条痕	暗茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○			2-13
183		覆土 ア条痕→ナデ	暗黄褐色	ア条痕	○	○	○			2-301
184		覆土 へ条痕→ナデ	茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○			2-1010
185		覆土 へ条痕→ナデ	茶褐色	へ条痕	○	○	○			2-1009
186		覆土 へ条痕→ナデ	暗黄褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○			2-670
187		覆土 へ条痕→ナデ	茶褐色	ナデ	○	○	○			2-321
188		覆土 へ条痕	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			2-312
189		覆土 へ条痕	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			2-283
190		覆土 へ条痕	暗茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○			2-345
191		覆土 へ条痕	暗黄褐色	へ条痕	○	○	○			2-9
192		覆土 へ条痕	暗黄褐色	へ条痕	○	○	○			2-2
193		覆土 へ条痕	茶褐色	へ条痕	○	○	○			2-402
194		覆土 細密条痕	暗茶灰褐色	ナデ	○	○	○			2-371
195		覆土 研磨	褐色	研磨	○	○	○			2-871
196		覆土 ナデ	暗褐色	ナデ	○	○	○			2-828
197		覆土 研磨	暗黄褐色	研磨	○	○	○			2-830
198		覆土 研磨	黄褐色	研磨	○	○	○			2-823
199		覆土 研磨	黄褐色	研磨	○	○	○			2-836
200		覆土 ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			2-834
201		覆土 ナデ	淡茶褐色	ナデ	○	○	○			2-833
202		覆土 ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			2-862
203		覆土 ナデ	淡褐色	ナデ	○	○	○			2-838
204		覆土 ナデ	淡褐色	へ条痕	○	○	○			2-866
205		覆土 ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			2-1000
206		覆土 ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			2-813
207		覆土 ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			2-808
208		覆土 ナデ	淡茶褐色	ナデ	○	○	○			2-65
209		覆土 研磨→沈線	茶褐色	ナデ	○	○	○			2-63
210		覆土 ナデ→短沈線	黄褐色	ナデ	○	○	○			2-230
211	3号住	炉跡	暗茶褐色	ア条痕	○	○	○			3-26
212		床面	茶褐色	条痕→ナデ	○	○	○			3-2
213		覆土 ナデ・縄文→沈線	暗黄褐色	条痕→ナデ	○	○	○			3-34
214		覆土 ナデ・縄文→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			3-86
215		覆土 縄文RL→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○	○			3-53
216		床面 ナデ?・沈線	暗黄褐色	ナデ?	○	○	○			3-22
217		覆土 ナデ・沈線	淡茶褐色	ナデ	○	○	○			3-45
218		床面 研磨→沈線	茶褐色	ナデ	○	○	○			3-16
219		覆土 条痕→ナデ→沈線	暗茶褐色	条痕→ナデ	○	○	○			3-33

表6 山崎遺跡出土土器観察表5

No.	出土位置	文様の特徴と器面調整			胎土				備考
		外面	色調	内面	砂角	金	褐	英長	
220	3号住	覆土 縄文RL→沈線→研磨	暗黄褐色	研磨	○	○	○		3-54
221		覆土 ナデ・沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		3-85
222		覆土 ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		3-87
223		覆土 縄文?→沈線→研磨	淡茶暗褐色	研磨	○	○	○		3-38
224		覆土 研磨→沈線	茶褐色	研磨	○	○	○		3-42
225		覆土 ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		3-32
226		覆土 ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○	○	○	3-40
227		覆土 研磨→沈線	暗黄褐色	研磨	○	○	○	○	3-96
228		覆土 ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		3-47
229		覆土 ナデ?→沈線	暗茶褐色	ナデ?	○	○	○		3-43
230		覆土 ナデ→沈線	淡褐色	ナデ	○	○	○		3-46
231		覆土 ナデ→沈線	淡褐色	ナデ	○	○	○		3-35
232		覆土 ナデ→沈線	暗黄褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○		3-94
233		覆土 ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		3-98
234		覆土 研磨→沈線	暗茶褐色	研磨	○	○	○		3-56
235		覆土 研磨→沈線	淡明褐色	研磨	○	○	○		3-76
236		覆土 研磨→沈線	暗黄褐色	研磨	○	○	○		3-29
237		覆土 条痕→ナデ→沈線	淡褐色	ナデ	○	○	○		3-28
238		覆土 ナデ→沈線	淡褐色	ナデ→沈線	○	○	○		3-41
239		覆土 研磨→沈線	暗黄褐色	研磨	○	○	○		3-39
240		覆土 研磨→沈線	茶褐色	条痕→研磨	○	○	○	○	3-30
241		覆土 研磨→沈線	暗茶褐色	研磨	○	○	○		3-100
242		覆土 研磨→沈線	暗茶褐色	条痕→研磨	○	○	○		3-11
243		覆土 研磨→沈線	茶褐色	ナデ	○	○	○	○	3-31
244		覆土 ナデ→沈線	淡茶褐色	ナデ	○	○	○		3-88
245		覆土 条痕→研磨→沈線	暗茶褐色	へ条痕	○	○	○		3-1
246		覆土 縄文→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○	○	○		3-18
247		覆土 ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		3-36
248		覆土 ナデ→刺突	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		3-49
249	覆土 へ条痕、波頂に刻み目	茶褐色	へ条痕	○	○	○		3-48	
250	覆土 へ条痕→ナデ	淡茶褐色	へ条痕・ナデ	○	○	○		3-5	
251	覆土 へ条痕→ナデ、波頂に刻み目	淡茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○		3-9	
252	覆土 へ条痕→ナデ	茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○		3-21	
253	覆土 ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		3-89	
254	覆土 ア条痕	茶褐色	ナデ	○	○	○	○	3-24	
255	覆土 ア条痕→ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		3-25	
256	覆土 へ条痕	暗茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○		3-20	
257	覆土 ナデ	褐色	ナデ	○	○	○		3-52	
258	覆土 ナデ	暗茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○		3-23	
259	覆土 ナデ	茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○		3-19	
260	覆土 ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		3-102	
261	覆土 ナデ	暗赤褐色	ナデ	○	○	○		3-4	
262	覆土 ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		3-14	
263	覆土 ナデ	茶褐色	ナデ	○	○	○		3-117	
264	覆土 ナデ	淡灰黄褐色	ナデ	○	○	○		3-7	
265	覆土 条痕→ナデ	灰茶褐色	ナデ	○	○	○		3-101	
266	覆土 ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		3-15	
267	覆土 条痕→ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		3-13	
268	覆土 条痕→ナデ	茶褐色	ナデ	○	○	○		3-3	
269	覆土 ナデ	褐色	ナデ	○	○	○		3-90	
270	4号住	床面 ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		2-17
271		床面 ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		2-549
272		床面 ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		2-543
273		床面 研磨→沈線	暗黄褐色	研磨	○	○	○		2-545
274		Pit 研磨→沈線	暗黄褐色	研磨	○	○	○		4-3
275		Pit ナデ→沈線	灰黄褐色	ナデ	○	○	○		4-1
276		覆土 ナデ→沈線・列点	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		2-56
277		覆土 ナデ→沈線・列点	暗灰色	ナデ	○	○	○		2-53
278		覆土 ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		2-545
279		覆土 縄文RL→沈線→研磨	灰褐色	研磨	○	○	○		2-137
280		覆土 ナデ・縄文RL→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		2-551
281	覆土 ナデ・縄文RL→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		2-561	

表7 山崎遺跡出土土器観察表6

No.	出土位置		文様の特徴と器面調整			胎土					備考 登録No.		
			外面	色調	内面	砂	角	金	褐	英		長	
282	4号住	覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗赤褐色	研磨	○	○					2-589	
283		覆土	へ条痕→ナデ→沈線	暗黄褐色	へ条痕→ナデ	○	○					2-518	
284		覆土	ナデ→沈線	茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○					2-546	
285		覆土	条痕→ナデ→沈線	暗黄褐色	条痕→ナデ	○	○					2-630	
286		覆土	ナデ、波頂に刻み目	暗黄褐色	ナデ	○	○					2-600	
287		覆土	研磨→沈線、波頂に刻み目	暗黄褐色	研磨	○	○			○		2-7	
288		覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	明褐色	研磨	○	○	○				2-26	
289		覆土	縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○	○					2-134	
290		覆土	縄文LR→沈線→研磨	暗茶褐色	ナデ	○	○					2-619	
291		覆土	縄文RL→沈線→研磨	灰褐色	研磨	○	○	○				2-539	
292													
293		覆土	条痕→ナデ	暗褐色	条痕→ナデ	○	○						2-759
294		覆土	条痕→ナデ	暗茶褐色	条痕→ナデ	○	○						2-4
295		覆土	へ条痕、口唇に刻み目	褐色	へ条痕	○	○						2-519
296		覆土	へ条痕→ナデ	黄褐色	へ条痕→ナデ	○	○						2-873
297		覆土	へ条痕	茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○						2-909
298		覆土	ナデ	暗黄褐色	ア条痕	○	○						2-897
299		覆土	ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○						2-586
300		覆土	へ条痕	茶褐色	へ条痕	○	○						2-10
301		覆土	ナデ	淡茶褐色	ナデ	○	○						2-588
302		覆土	ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○						2-135
303		覆土	へ条痕→ナデ	暗茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○						2-531
304		覆土	ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○						2-579
305		覆土	ナデ	暗褐色	ナデ・条痕	○	○						2-584
306		覆土	研磨	暗茶褐色	研磨	○	○						2-569
307		覆土	ナデ	灰黄褐色	ナデ	○	○						2-628
308		覆土	ナデ	暗黄灰色	ナデ	○	○						2-893
309		覆土	研磨	茶褐色	研磨	○	○						2-890
310		5号住	覆土	条痕→研磨→沈線→へ疑縄文	茶褐色	へ条痕→研磨	○	○					2570
311	覆土		条痕→ナデ→沈線	暗茶褐色	条痕→ナデ	○	○					1291	
312	覆土		へ条痕→ナデ→沈線	茶褐色	ナデ	○	○					1293	
313	覆土		ナデ→沈線	暗灰茶褐色	ナデ	○	○					1294	
314	覆土		ナデ→沈線	灰茶褐色	ナデ	○	○					1295	
315	覆土		ナデ、波頂に刻み目	暗黄褐色	ナデ	○	○					2551	
316	覆土		条痕→ナデ	暗黄褐色	ア条痕	○	○					2574	
317	覆土		ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○					1290	
318	覆土		ナデ	明褐色	へ条痕	○	○					1286	
319	覆土		条痕→ナデ	茶褐色	へ条痕	○	○					1272	
320	覆土		ナデ	淡灰褐色	ナデ	○	○					1289	
321	覆土		条痕→ナデ	暗茶褐色	条痕→ナデ	○	○					1287	
322	覆土		条痕・ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○					1292	
323	覆土		ナデ	茶褐色	ナデ	○	○					1283	
324	6号住	覆土	ナデ→沈線・列点	淡黄褐色	ナデ	○	○					275	
325		覆土	ナデ→沈線	黄灰色	ナデ	○	○					505	
326		覆土	ナデ→沈線	茶褐色	ナデ	○	○					528	
327		覆土	ナデ→沈線、波頂に刻み目	淡茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○					508	
328		覆土	ナデ→沈線、波頂に刻み目	黄灰褐色	ナデ→列点	○	○					270	
329		覆土	ナデ→沈線	暗灰茶褐色	ナデ	○	○					286	
330		覆土	ナデ→沈線、波頂に刻み目	暗黄褐色	ナデ	○	○					129	
331		覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	条痕→ナデ	○	○					250	
332		覆土	ナデ→沈線	灰茶褐色	ナデ	○	○					6-7	
333		覆土	ナデ→沈線	暗茶灰色	ナデ	○	○					2280	
334		覆土	ナデ→沈線、波頂に刻み目	灰黄褐色	ナデ	○	○					531	
335		覆土	研磨→沈線	淡茶褐色	ナデ	○	○					253	
336		覆土	条痕→ナデ→沈線	淡褐色	条痕→ナデ	○	○					277	
337		覆土	研磨→沈線	黄褐色	ナデ	○	○					148	
338		覆土	ナデ→沈線・刻み目	茶褐色	ナデ	○	○					281	
339		覆土	縄文RL→沈線→研磨	黄褐色	研磨	○	○					138	
340		覆土	縄文?→沈線→ナデ	茶褐色	ナデ	○	○					256	
341		覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○					287	
342		覆土	縄文RL→沈線→研磨	淡明褐色	研磨	○	○					297	
343		覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○					280	

表8 山崎遺跡出土土器観察表7

No.	出土位置	文様の特徴と器面調整			胎土				備考 登録No.	
		外面	色調	内面	砂角	金	褐	英長		
344	6号住	覆土	縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○				44
345		覆土	縄文RL→沈線→研磨	淡黄灰色	研磨	○				258
346		覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗黄褐色	研磨	○				56
347		覆土	縄文RL→沈線→研磨	褐色	研磨	○				291
348		覆土	縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○				556
349		覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗褐色	研磨	○				164
350		覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗黄褐色	研磨	○				130
351		覆土	縄文LR→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○				558
352		覆土	縄文RL・ナデ	淡褐色	研磨	○				6-81
353		覆土	ナデ→沈線→ア疑縄文	淡褐色	ナデ	○				252
354		覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	暗灰色	研磨	○				179
355		覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	淡褐色	研磨	○				49
356		覆土	ナデ→沈線→ア疑縄文	暗灰色	ナデ	○				60
357		覆土	ナデ→沈線→ア疑縄文?	暗黄褐色	条痕→ナデ	○				2269
358		覆土	～疑縄文→沈線→研磨	暗茶褐色	ナデ	○				533
359		覆土	～疑縄文→沈線→研磨	暗黄褐色	ナデ	○				139
360		覆土	～疑縄文→沈線→研磨	暗茶褐色	ナデ	○				516
361		覆土	～疑縄文→沈線	暗茶褐色	ナデ	○				265
362		覆土	～疑縄文→沈線→研磨	淡褐色	ナデ	○		○		183
363		覆土	～疑縄文→沈線	茶褐色	ナデ	○				566
364		覆土	～疑縄文・ナデ	淡明褐色	ナデ	○				507
365		覆土	～疑縄文	黄褐色	ナデ	○				6-1
366		覆土	～疑縄文	黄灰色	ナデ	○				6-2
367		覆土	～疑縄文	暗黄褐色	ナデ	○				156
368		覆土	～疑縄文・ナデ	淡褐色	ナデ	○				175
369		覆土	研磨→沈線・列点	淡褐色	研磨	○				79
370		覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○				447
371		覆土	研磨→沈線→羽状文	淡明褐色	研磨	○				2286
372		覆土	ナデ→沈線・羽状文	暗茶褐色	ナデ	○				2270
373		覆土	ナデ→沈線・羽状文	暗茶褐色	ナデ	○				518
374		覆土	研磨→沈線→羽状文	暗茶褐色	ナデ	○				2279
375		覆土	研磨→沈線→羽状文	淡黒褐色	研磨	○				2304
376		覆土	研磨→沈線→羽状文	暗灰色	研磨	○				402
377		覆土	研磨→沈線→羽状文	暗黄褐色	研磨	○				2292
378		覆土	研磨→沈線・波状文	灰茶褐色	研磨	○				2274
379		覆土	研磨→沈線・波状文	暗茶褐色	研磨	○				442
380		覆土	研磨→沈線・扇状庄痕	暗灰茶褐色	研磨	○				398
381		覆土	研磨→沈線	茶褐色	研磨	○				365
382		覆土	研磨→沈線	暗灰茶褐色	研磨	○				400
383		覆土	研磨	灰茶褐色	研磨	○				311
384		覆土	研磨	淡黒褐色	研磨	○				441
385		覆土	研磨→沈線	暗茶灰色	研磨	○				404
386		覆土	研磨→沈線	淡黒褐色	研磨	○				549
387		覆土	研磨→沈線→羽状文	灰黄褐色	研磨	○				48
388		覆土	研磨→沈線→羽状文・扇庄痕	暗黄灰色	研磨	○				399
389		覆土	研磨	暗灰茶褐色	研磨→沈線	○				18
390		覆土	研磨	暗茶褐色	研磨→沈線	○				310
391		覆土	～疑縄文	暗茶褐色	ナデ→列点	○				527
392		覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ→沈線→列点	○				6-48
393		覆土	条痕→ナデ	茶褐色	ナデ	○				6-47
394		覆土	ナデ	暗黄灰色	ナデ	○				27
395		覆土	研磨	褐色	研磨	○				2301
396		覆土	研磨	暗灰褐色	研磨	○				2302
397		覆土	ナデ	暗茶褐色	ナデ	○				475
398		覆土	研磨	黄褐色	研磨	○				460
399		覆土	研磨	暗黄褐色	研磨	○				451
400		覆土	ナデ	淡茶褐色	ナデ	○				2
401		覆土	ナデ	淡黄褐色	ナデ	○				2300
402		覆土	ナデ、波頂に刺突	茶褐色	ナデ	○				2285
403		覆土	ナデ	黄褐色	ナデ	○				211
404		覆土	ナデ→沈線	黄褐色	ナデ	○				267
405		覆土	ナデ	淡褐色	ナデ	○				89

表9 山崎遺跡出土土器観察表8

No	出土位置	文様の特徴と器面調整			胎土				備考 登録No
		外面	色調	内面	砂角	金	褐	英長	
406	6号住	覆土	ナデ	淡褐色	ナデ	○	○		922
407		覆土	研磨	黄褐色	ナデ	○	○		612
408		覆土	ナデ	暗茶褐色	条痕→ナデ	○	○		93
409		覆土	ナデ	黄褐色	ナデ	○	○		578
410		覆土	ナデ	黄褐色	ナデ	○	○		91
411		覆土	へ条痕→ナデ	茶褐色	へ条痕	○	○		498
412		覆土	ナデ	暗黄褐色	条痕→ナデ	○	○		501
413		覆土	ア条痕→ナデ	暗灰褐色	へ条痕	○	○		242
414		覆土	へ条痕→ナデ	灰茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○		453
415		覆土	へ条痕→ナデ、波頂に穿孔	暗茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○		59
416		覆土	ナデ	灰茶褐色	ナデ	○	○		209
417		覆土	ナデ	黄褐色	へ条痕→ナデ	○	○		234
418		覆土	へ条痕→ナデ	灰黄褐色	ナデ	○	○		490
419		覆土	条痕→ナデ、波頂に刻み目	茶褐色	条痕→ナデ	○	○		249
420		覆土	ナデ	暗黄褐色	条痕→ナデ	○	○		465
421		覆土	条痕→ナデ、波頂に穿孔	暗黄褐色	へ条痕→ナデ	○	○		429
422		覆土	ナデ	淡褐色	ナデ	○	○		26
423		覆土	ナデ	淡灰黄褐色	ナデ	○	○		114
424		覆土	へ疑縄文→沈線	暗茶灰色	ア条痕	○	○		494
425		覆土	ア条痕→ナデ	暗茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○		241
426		覆土	へ条痕→ナデ	暗茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○		217
427		覆土	条痕→ナデ	淡茶褐色	条痕→ナデ	○	○		229
428		覆土	へ条痕	黄褐色	へ条痕	○	○		40
429		覆土	ア条痕→ナデ	灰茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○		225
430		覆土	ア条痕→ナデ	淡黄灰色	ア条痕→ナデ	○	○		231
431		覆土	条痕→ナデ	明褐色	条痕→ナデ	○	○		503
432		覆土	条痕→ナデ	茶褐色	条痕→ナデ	○	○		6-21
433		覆土	条痕→ナデ	灰黄褐色	条痕→ナデ	○	○		446
434		覆土	ア条痕→ナデ	淡茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○		210
435		覆土	ア条痕	暗茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○		184
436		覆土	ナデ・組織痕	淡黄褐色	ナデ	○	○		6-46
437		覆土	ナデ・組織痕	黄褐色	ナデ	○	○		605
438		覆土	ナデ・組織痕	茶褐色	ナデ	○	○		6-45
439		覆土	へ条痕	褐色	へ条痕→ナデ	○	○		90
440		上層	ナデ→沈線・列点	黄褐色	ナデ	○	○		2287
441		上層	ナデ→列点	暗黄褐色	ナデ	○	○		843
442		上層	ナデ→沈線・列点	暗黄褐色	ナデ	○	○		2253
443		上層	ナデ→沈線・へ疑縄文	暗黄褐色	ナデ	○	○		1348
444		上層	縄文RL→沈線→ナデ	茶褐色	へ条痕	○	○		859
445		上層	縄文RL→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○		1772
446		上層	縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	ナデ	○	○		1122
447		上層	縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	ナデ	○	○		2297
448		上層	研磨→へ疑縄文	褐色	研磨	○	○		854
449		上層	ナデ→へ疑縄文・沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○		852
450		上層	研磨→沈線→羽状文	灰茶褐色	研磨	○	○		895
451		上層	研磨→沈線	暗黄褐色	研磨	○	○		871
452		上層	研磨→沈線	茶褐色	研磨	○	○		2288
453		上層	研磨→沈線→爪形文	淡黄褐色	研磨・ナデ	○	○		1071
454		上層	研磨→沈線	暗灰茶褐色	研磨	○	○		901
455		上層	研磨→沈線	淡茶褐色	研磨	○	○		861
456		上層	研磨→沈線	暗黄褐色	研磨→沈線	○	○		847
457		上層	研磨→押点	黄褐色	研磨	○	○		852
458		上層	研磨	暗茶褐色	研磨	○	○		938
459		上層	研磨→沈線→羽状文	暗茶褐色	研磨	○	○		2583
460		上層	研磨→沈線	暗黄褐色	研磨	○	○		2246
461		上層	研磨→沈線→波状文	暗黄褐色	研磨	○	○		2257
462		上層	研磨	暗灰褐色	研磨	○	○		875
463		上層	研磨	暗茶褐色	研磨	○	○		877
464		上層	研磨	暗茶褐色	研磨	○	○		2572
465		上層	研磨	暗茶褐色	研磨	○	○		945
466		上層	研磨	暗黄褐色	研磨	○	○		2582
467		上層	研磨	暗黄褐色	研磨	○	○		873

表10 山崎遺跡出土土器観察表 9

No.	出土位置		文様の特徴と器面調整			胎土					備考	
			外 面	色 調	内 面	砂	角	金	褐	英		長
468	6号住	上層	ナデ・へ条痕	暗茶灰色	ナデ	○						778
469		上層	ナデ	暗茶灰色	ナデ	○	○					455
470	7号住	炉跡	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○	○				7-250
471		床面	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○						7-264
472		ビット	へ条痕→ナデ→沈線	淡茶褐色	へ条痕→ナデ	○						7-141
473		ビット	ナデ→沈線	茶褐色	ナデ	○						7-140
474		ビット	ア条痕→ナデ	淡褐色	ア条痕→ナデ	○	○			○		7-145
475		覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ→沈線	○						7-89
476		覆土	へ条痕→ナデ→沈線	暗黄褐色	へ条痕→ナデ	○						7-84
477		覆土	へ条痕→ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○				○		7-17
478		覆土	ナデ→沈線	淡茶褐色	ナデ	○				○		7-67
479		覆土	研磨→沈線	暗茶褐色	ナデ	○						7-253
480		覆土	研磨→沈線	淡茶褐色	ナデ	○						2556
481		覆土	へ条痕→ナデ→沈線	茶褐色	へ条痕→ナデ	○						2565
482		覆土	へ条痕→ナデ→沈線	暗黄褐色	へ条痕→ナデ	○						7-91
483		覆土	研磨→沈線	暗灰黄褐色	研磨	○						2561
484		覆土	研磨→沈線	茶褐色	研磨	○						271
485		覆土	へ条痕→ナデ・研磨→沈線	暗茶褐色	へ条痕→ナデ	○						2585
486		覆土	へ条痕→ナデ→沈線	茶褐色	へ条痕→ナデ	○						246
487		覆土	研磨→沈線	茶褐色	ナデ	○						2566
488		覆土	ナデ→沈線	淡茶褐色	ナデ	○						7-261
489		覆土	研磨→沈線	茶褐色	研磨	○						2560
490		覆土	ナデ→沈線	淡灰黄褐色	へ条痕→ナデ	○						7-49
491		覆土	ナデ→沈線	淡茶褐色	ナデ	○						7-267
492		覆土	研磨→沈線	暗茶褐色	ナデ	○						2562
493		覆土	条痕→研磨→沈線	茶褐色	条痕→ナデ	○						7-244
494		覆土	研磨→沈線	暗黄褐色	条痕→ナデ	○						52
495		覆土	条痕→ナデ→沈線	黄褐色	条痕→ナデ	○				○		7-68
496		覆土	条痕→ナデ→沈線	茶褐色	条痕→ナデ	○				○		7-39
497		覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○						7-56
498		覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○						7-90
499		覆土	研磨→沈線	暗茶褐色	研磨	○						7-268
500		覆土	条痕→ナデ→沈線	暗茶褐色	条痕→ナデ	○						7-249
501		覆土	研磨→沈線	暗茶褐色	条痕→ナデ	○						7-257
502		覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○						7-58
503	覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○						2580	
504	覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○						7-98	
505	覆土	研磨→沈線	茶褐色	研磨	○						7-59	
506	覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○						7-88	
507	覆土	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○						7-63	
508	覆土	研磨→沈線	暗茶褐色	研磨	○						7-9	
509	覆土	条痕→ナデ→沈線	茶褐色	へ条痕→ナデ	○						7-266	
510	覆土	条痕→ナデ→沈線	暗黄褐色	条痕→ナデ	○						7-260	
511	覆土	ナデ→沈線	暗黄褐色	へ条痕→ナデ	○						7-72	
512	覆土	条痕→沈線	暗黄褐色	条痕	○						7-42	
513	覆土	ナデ→沈線	茶褐色	へ条痕→ナデ	○						7-281	
514	覆土	研磨→沈線	暗黄灰色	研磨	○						7-99	
515	覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ア条痕→ナデ	○						7-263	
516	覆土	ナデ→沈線	黄褐色	ナデ	○						7-50	
517	覆土	研磨→沈線	暗黄褐色	ナデ	○						7-75	
518	覆土	ナデ→沈線	暗黄褐色	へ条痕→ナデ	○						7-93	
519	覆土	研磨→沈線	暗茶褐色	ナデ	○						7-255	
520	覆土	研磨→沈線	茶褐色	ナデ	○						7-248	
521	覆土	研磨→沈線	暗褐色	研磨	○						7-73	
522	覆土	ナデ→沈線	灰茶褐色	ア条痕→ナデ	○						7-62	
523	覆土	条痕→ナデ→沈線	暗茶褐色	へ条痕→ナデ	○						2557	
524	覆土	条痕→研磨→沈線	茶褐色	へ条痕→ナデ	○						7-270	
525	覆土	ナデ→沈線	茶褐色	へ条痕→ナデ	○						2563	
526	覆土	条痕→ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○						2558	
527	覆土	条痕→ナデ→沈線	暗黄褐色	へ条痕→ナデ	○						7-64	
528	覆土	研磨→沈線、波頂に刻み目	茶褐色	ア頂痕→ナデ	○						2564	
529	覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○						7-54	

表11 山崎遺跡出土土器観察表10

No.	出土位置	文様の特徴と器面調整			胎土				備考			
		外面	色調	内面	砂	角	金	褐		英	長	
530	7号住	覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○					7-87
531		覆土	ナデ→沈線	淡褐色	ナデ	○	○					7-65
532		覆土	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○					7-60
533		覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○					7-279
534		覆土	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○					7-94
535		覆土	ナデ→沈線	淡褐色	ナデ	○	○					7-53
536		覆土	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○					7-159
537		覆土	へ条痕→ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○					7-33
538		覆土	ナデ→沈線	暗灰褐色	ナデ	○	○					7-31
539		覆土	ア条痕→ナデ→沈線	褐色	ナデ	○	○					7-262
540		覆土	研磨→沈線	灰褐色	ナデ	○	○					7-232
541		覆土	研磨→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○				赤	7-13
542		覆土	ナデ→沈線	褐色	ナデ	○	○					7-36
543		覆土	へ条痕→ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○					7-100
544		覆土	研磨→沈線→縄文RL	明茶褐色	研磨	○	○					7-30
545		覆土	研磨→沈線→縄文RL	茶褐色	研磨	○	○					7-8
546		覆土	研磨→沈線→へ疑縄文?	暗茶褐色	条痕→ナデ	○	○				赤	7-10
547		覆土	研磨・縄文RL	茶褐色	条痕→ナデ	○	○					7-35
548		覆土	研磨→沈線→縄文RL	淡茶褐色	ナデ	○	○					7-222
549		覆土	縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○	○					7-45
550		覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○					7-34
551		覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○					7-224
552		覆土	縄文RL→沈線→研磨	淡黄灰色	研磨	○	○					7-12
553		覆土	縄文?→沈線→研磨?	褐色	研磨	○	○					7-285
554		覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	暗茶褐色	ナデ	○	○					7-11
555		覆土	研磨→沈線	茶褐色	研磨	○	○					7-282
556		覆土	研磨→沈線→疑縄文?	淡黄灰色	ナデ	○	○					7-225
557		覆土	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○					7-80
558		覆土	ア条痕→ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○					7-41
559		覆土	研磨→沈線	淡褐色	研磨	○	○					7-161
560		覆土	研磨→沈線→列点	暗黄褐色	研磨	○	○					7-283
561		覆土	縄文RL→沈線・研磨	暗茶褐色	研磨	○	○				赤	7-102
562		覆土	研磨→沈線	淡明褐色	研磨	○	○					7-32
563		覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○					2579
564		覆土	へ条痕→ナデ	黄茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○					7-245
565		覆土	へ条痕→ナデ、波頂に刻み目	暗茶褐色	ナデ・研磨	○	○					7-259
566		覆土	へ条痕、波頂に刻み目	茶褐色	へ条痕	○	○					2550
567		覆土	へ条痕→ナデ	暗黄褐色	へ条痕→ナデ	○	○					7-569
568		覆土	ア条痕→ナデ	暗黄褐色	ア条痕→ナデ	○	○					7-127
569		覆土	へ条痕→ナデ	暗茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○					7-106
570		覆土	ナデ	暗灰褐色	ナデ	○	○					7-116
571		覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○					7-126
572		覆土	へ条痕→ナデ	暗茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○					7-272
573		覆土	ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○					7-125
574		覆土	ナデ	茶褐色	ナデ	○	○					7-123
575		覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○					7-118
576		覆土	ナデ	茶褐色	ナデ	○	○					2577
577		覆土	ナデ	明褐色	ナデ	○	○					7-113
578		覆土	ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○					7-117
579		覆土	ナデ	茶褐色	ナデ	○	○					7-103
580		覆土	ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○					7-258
581		覆土	ナデ、波頂に刻み目	茶褐色	ナデ	○	○					7-78
582		覆土	へ条痕、波頂に刻み目	暗茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○					7-120
583		覆土	へ条痕→ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○					7-254
584		覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○					7-107
585		覆土	ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○					7-128
586		覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○					7-110
587		覆土	ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○					7-43
588		覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○					7-105
589		覆土	へ条痕→ナデ	暗茶褐色	へ条痕	○	○					2559
590		覆土	ア条痕→ナデ、口唇に刻み目	暗黄褐色	ア条痕	○	○					7-86
591		覆土	ア条痕→ナデ	暗黄褐色	ア条痕→ナデ	○	○					7-276

表12 山崎遺跡出土土器観察表11

No.	出土位置	文様の特徴と器面調整			胎土				備考		
		外 面	色 調	内 面	砂	角	金	褐		英	長
592	7号住	覆土	ア条痕→ナデ	暗茶褐色	ア条痕→ナデ	○					7-101
593		覆土	へ条痕→ナデ、波頂に刻み目	暗黄褐色	へ条痕→ナデ	○		○	○		7-55
594		覆土	へ条痕	暗黄褐色	へ条痕	○			○		7-97
595		覆土	へ条痕→ナデ	茶褐色	へ条痕→ナデ	○		○			7-104
596		覆土	ナデ	暗黄灰褐色	ナデ	○					7-115
597		覆土	ナデ	明褐色	ナデ	○					7-121
598		覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○		○	○		7-124
599		覆土	へ条痕	赤褐色	へ条痕	○			○		2555
600		覆土	ア条痕→ナデ・ケズリ	淡褐色	ア条痕→ナデ	○			○		7-273
601		覆土	へ条痕→ナデ・ケズリ	褐色	ナデ	○					7-269
602		覆土	へ条痕→ナデ	淡明褐色	ナデ	○					7-190
603		覆土	ア条痕→ナデ・ケズリ	淡褐色	ア条痕→ナデ	○			○		7-247
604		覆土	へ条痕	茶褐色	へ条痕	○					7-177
605		覆土	ナデ	淡褐色	ナデ	○					7-200
606		覆土	ナデ	暗茶褐色	ナデ	○			○		2567
607		覆土	ナデ	暗灰色	ナデ	○					7-267
608		覆土	ナデ	淡褐色	ナデ	○					7-205
609		覆土	ナデ	淡褐色	ナデ	○					7-181
610		覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○					7-184
611		覆土	研磨	暗茶褐色	ナデ	○			○		7-275
612		覆土	研磨	淡茶褐色	ナデ	○					7-178
613		覆土	研磨	暗黄褐色	研磨	○					7-199
614		覆土	ナデ	淡灰褐色	ナデ	○					7-46
615		覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○					7-209
616		覆土	ナデ	淡褐色	ナデ	○					7-169
617		覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○			○		7-210
618		覆土	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○			○		
619	1号甕		条痕→ナデ・研磨	茶褐色	条痕→ナデ	○					
620	2号甕		へ条痕→ナデ→沈線	茶褐色	条痕→ナデ?	○			○		
621	3号甕		へ条痕→ナデ	暗茶褐色	条痕→ナデ	○			○		
622	17住		ナデ→楕円押型文	淡茶褐色	ナデ→楕円押型文	○					2310
623	I21区	茶	ナデ→沈線	淡茶灰褐色	ナデ→沈線	○					776
624	J18区	黒下	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○			○		1111
625	J18区	黒下	ア条痕→沈線→列点	茶褐色	ナデ	○			○		1127
626	J18区	黒下	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○					1109
627	J17区	茶	ナデ→沈線、波頂に刻み目	淡灰茶褐色	ナデ	○					49
628	L21区	黒下	ナデ→沈線	茶褐色	へ条痕→ナデ	○					894
629	J18区	黒下	へ条痕→短沈線	明褐色	へ条痕→ナデ	○			○		1134
630	K19区	黒下	へ条痕→列点	暗黄褐色	へ条痕	○					946
631	L20区	黒下	縄文?→沈線→研磨	黄灰褐色	ナデ	○					772
632	J23区	黒下	ナデ→沈線	暗黄褐色	条痕→ナデ	○			○		944
633	L21区	黒下	ナデ→沈線	暗茶褐色	条痕→ナデ	○					892
634	K19区	黒下	条痕→ナデ→沈線・列点	淡茶褐色	条痕→ナデ→沈線	○			○		949
635	J19区	黒下	ア条痕→ナデ→沈線・列点	灰黄褐色	ア条痕→沈線	○					1144
636	K18区	黒下	ナデ→沈線・列点	暗茶褐色	ナデ→沈線	○					1398
637	J23区	黒下	研磨→沈線	淡褐色	研磨	○					995
638	J22区	黒下	ナデ→沈線、波頂に刻み目	黄灰色	ナデ→沈線	○					992
639	J17区	茶	ナデ→沈線	茶褐色	ナデ	○					1341
640	J17区	茶	ナデ→列点	淡灰黄褐色	ナデ	○					1084
641			ナデ、波頂に刻み目		ナデ	○					
642	K18区	黒下	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○					921
643	J17区	茶	ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○					1336
644	J17区	茶	ナデ→沈線	淡明褐色	ナデ	○					1074
645	J17区	黒下	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○			○		1073
646	K23区	黒下	研磨→沈線、波頂に列点	淡黒褐色	ア条痕→ナデ	○					1446
647	I15区	黒下	ナデ→沈線	暗灰茶褐色	条痕→ナデ	○					604
648	J17区	茶	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○					1075
649	J17区	茶	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○			○		39
650	I14区	茶	研磨→沈線	暗茶灰褐色	ナデ	○					580
651	K18区	黒下	へ条痕→ナデ→沈線	暗茶褐色	へ痕→ナデ	○			○		934
652	J17区	黒下	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○					42
653	K23区	黒下	研磨→沈線	淡茶褐色	ナデ	○					1447

表13 山崎遺跡出土土器観察表12

No.	出土位置		文様の特徴と器面調整			胎土				備考 登録No.	
			外面	色調	内面	砂	角	金	褐		英
654	L21区	黒	ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			1360
655	J17区	茶	ナデ→沈線	茶褐色	ナデ	○	○	○			1085
656	J18区	黒下	へ条痕→ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			1135
657	L19区	黒下	ナデ→沈線	暗黄褐色	条痕→ナデ	○	○	○			1172
658	L24区	茶	ナデ→列点	暗黄褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○		○	912
659	L24区	黒	ナデ→沈線	淡茶褐色	ナデ	○	○	○			1385
660	J24区	黒	ナデ→列点、波頂に刻み目	淡明褐色	ナデ	○	○	○		○	1071
661	L21区	茶	ナデ→刻み目	淡明褐色	ナデ	○	○	○			1359
662	K19区	黒	研磨→縄文RL→沈線	暗黄褐色	研磨	○	○	○		○	947
663	J18区	黒	研磨→縄文RL→沈線	淡茶褐色	研磨→縄文RL	○	○	○		○	1105
664	K18区	黒	研磨→縄文RL→沈線	灰茶褐色	研磨→沈線	○	○	○			748
665	J18区	茶	ナデ→縄文RL→沈線	淡茶褐色	ナデ	○	○	○			733
666	L20区	茶	縄文RL→沈線→研磨	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			776
667	J20区	黒	縄文RL→沈線→研磨	黄褐色	ナデ	○	○	○			1074
668	J18区	黒下	縄文RL→沈線→研磨	暗黄褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○			740
669	K21区	黒下	縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○			1013
670	K18区	黒	縄文RL→沈線→研磨	灰茶褐色	ナデ	○	○	○			749
671	J17区	茶	縄文RL→沈線→研磨	暗黄褐色	研磨	○	○	○			729
672	J17区	茶	縄文RL→沈線→研磨	暗黄褐色	研磨	○	○	○			1339
673	L24区	茶	縄文RL→沈線→研磨	暗茶灰色	研磨	○	○	○			783
674	J18区	茶	縄文RL→沈線→研磨	暗灰茶褐色	条痕→ナデ	○	○	○			734
675	I15区	黒下	縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	ナデ	○	○	○			1041
676	P125		縄文RL→沈線→研磨	暗黄褐色	研磨	○	○	○			2568
677	P413		研磨→沈線→へ疑縄文・列点	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			2199
678	M20区	茶	ナデ・へ疑縄文→沈線	淡褐色	ナデ	○	○	○			1328
679	H22区	茶	ナデ・へ疑縄文→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		○	1034
680	L21区	茶	ナデ→沈線	淡茶褐色	ナデ	○	○	○			515
681	H15区	茶	へ条痕→ナデ→へ疑縄文	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			1315
682	E21区		縄文RL	茶褐色	研磨	○	○	○			1275
683	P413		研磨→沈線→ア疑縄文	茶褐色	研磨	○	○	○			2194
684	L19区	黒	研磨→沈線	淡茶褐色	研磨	○	○	○			843
685	L22区	茶	研磨	暗茶褐色	研磨	○	○	○			2589
686	K24区	黒下	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		○	425
687	L21区	茶	研磨	淡褐色	研磨	○	○	○			1358
688	K24区	黒	ナデ、突帯・口唇に刻み目	淡茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○			1478
689	K23区		ナデ、突帯に刻み目	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			1469
690	G18区		ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			1310
691	J22区	黒下	条痕→ナデ	暗茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○			1063
692	K19区	黒	条痕→ナデ	淡茶褐色	条痕→ナデ	○	○	○			948
693	J18区	茶	ナデ	淡褐色	ナデ	○	○	○			131
694	J20区	黒	条痕→ナデ	淡明褐色	ナデ	○	○	○			1008
695	J20区	黒	へ条痕→ナデ	淡茶褐色	ナデ	○	○	○			1009
696	I23区		へ条痕→ナデ	褐色	ナデ	○	○	○			1064
697	J23区	黒下	条痕→ナデ	灰褐色	ナデ	○	○	○			1171
698	M20区	茶	ナデ	暗茶褐色	条痕→ナデ	○	○	○			1325
699	K23区	黒下	ナデ	茶褐色	ナデ	○	○	○			2575
700	J23区	黒下	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			1148
701	L23区	黒	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			2590
702	L23区	黒下	ナデ	茶褐色	ナデ	○	○	○			1374
703	M20区	茶	ナデ	暗黄褐色	へ条痕	○	○	○			1324
704	J18区	黒下	ナデ	暗灰茶褐色	ナデ	○	○	○			1151
705	L21区	茶	ナデ	暗黄褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○			1352
706	L24区	黒	ナデ・組織痕	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			1388
707	J17区	茶	ナデ・組織痕	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			724
708	I16区	茶	ナデ・組織痕	暗灰茶褐色	ナデ	○	○	○			727
709	L20区	茶	ナデ・組織痕	灰茶褐色	ナデ	○	○	○			726
710	K19区	黒下	ナデ・組織痕	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		○	725
711	K24区	黒	条痕→ナデ→沈線	茶褐色	ナデ	○	○	○			1152

表中で、出土位置のうち黒は黒色土層、黒下は黒色土下層、茶は茶褐色土層を略し、調整のうち、ア疑縄文はアナグラ疑似縄文、へ疑縄文はへナタリ疑似縄文、ア条痕はアナグラ条痕、へ条痕はへナタリ条痕を略している。また胎土のうち、砂は砂粒、角は角閃石、金は金雲母、褐は褐色粒、英は石英、長は長石、赤は赤色顔料付着を略した。

表14 山崎遺跡住居跡出土石器一覧表1

(単位cm及びg、()を付したものは現存値を示す)

登録番号	出土位置	層位	遺存状況	形態	材質	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号
石A116	1号住	フク土	完	石鏃	安山岩	2.9	1.6	0.3	1.8	10
石G35	"	フク土上部	刃部欠	磨製石斧	蛇紋岩質	(11.5)	(4.4)	(2.9)	201	7
石H180	"	フク土上部	一部欠	打製石斧	緑糜片岩	9.6	6.2	1.2	97	1
石H181	"	フク土上部	一部欠	"	"	12.2	6.5	1.2	158	2
石K68	"	フク土上部	破片	"	緑泥片岩	5.5	8.8	0.8	61	
石L58	"	フク土	半欠	石皿	安山岩質	(20.5)	(16.95)	7.7	4,400	8
石L61	"	フク土	破片	"	"	(12.5)	(11.2)	7.8	2,100	9
石M24	"	フク土上部	破片	すり石	角閃玢岩	(6.6)	8.6	5.2	342	3
石M25	"	フク土上部	完	すり石	安山岩質	11.5	9.5	4.8	711	4
石M26	"	フク土上部	完	すり石	凝灰質	12.9	10.1	3.9	721	5
石M44	"	フク土	完	すり石	"	9.2	8.2	5.2	449	6
石O6	"	フク土	完	石錐	姫島産黒曜石	1.8	1.7	0.4	1.6	11
石Q3	"	フク土上部	破片	用途不明	粘板岩質	3.7	4.1	0.6	13	12
石A1	2号住	フク土	片脚欠	石鏃	黒色黒曜石	(1.4)	1.0	0.2	0.4	52
石A3	"	"	一部欠	"	"	1.8	1.4	0.3	0.9	55
石A4	"	"	先端欠	"	"	(1.3)	1.7	0.3	0.8	56
石A6	"	"	先端・片脚欠	"	"	(1.5)	(0.9)	0.3	0.4	
石A7	"	"	完	"	"	2.7	1.6	0.4	1.4	54
石A14	"	"	片脚欠	"	"	(1.2)	(1.2)	0.2	0.4	
石A17	"	"	"	"	"	(2.5)	(1.2)	0.2	0.8	49
石A18	"	"	破片	"	"	(2.0)	(0.9)	0.3	0.7	
石A20	"	"	一部欠	"	"	(2.5)	1.8	0.3	1.4	53
石A21	"	フク土下部	片脚欠	"	姫島産黒曜石	1.6	1.5	0.1	0.5	57
石A24	"	フク土	完	"	"	1.4	1.2	0.2	0.3	58
石A25	"	フク土下部	先端・片脚欠	"	黒色黒曜石	(1.6)	(1.6)	0.2	0.5	50
石A117	"	フク土	片脚欠	"	"	1.7	(1.0)	0.2	0.3	51
石B3	"	"	一部欠	縦長剥片	"	4.8	2.4	0.8	7.0	64
石B8	"	"	先端欠	"	"	3.2	1.8	0.6	3.5	63
石G22	"	"	刃部破片	磨製石斧	緑糜片岩?	(7.4)	(4.7)	(1.7)	83	71
石G23	"	"	基部片	"	緑泥片岩	(9.5)	5.0	1.8	180	74
石G26	"	"	破片	"	"?	(9.8)	(1.6)	(1.6)	15	75
石G30	"	"	"	"	蛇紋岩	(8.0)	(5.0)	(1.3)	76	
石G31	"	フク土下部	"	"	蛇紋岩質	(10.4)	(3.4)	(1.2)	57	72
石G32	"	フク土	刃部片	"	蛇紋岩質	(10.5)	3.8	1.4	96	73
石G67	"	フク土上部	"	"	緑泥片岩質	11.4	(5.9)	3.2	294	70
石H116	"	フク土	"	打製石斧	緑糜片岩	10.2	5.2	1.5	35	20
石H117	"	"	"	"	"	(8.2)	7.5	1.4	139	
石H118	"	"	一部欠	"	"	10.2	6.2	1.7	156	18
石H119	"	"	刃部片	"	"	(6.5)	(5.2)	0.8	150	
石H120	"	"	破片	"	"	(8.9)	6.5	1.0	68	
石H121	"	"	基部片	"	"	8.4	6.5	1.5	73	
石H133	"	"	ほぼ完	"	緑色片岩	11.8	4.8	1.5	31	29
石H134	"	"	破片	"	緑泥片岩	6.3	3.6	1.0	34	
石H135	"	"	"	"	"	(4.5)	4.9	0.3	14	
石H136	"	フク土	破片	打製石斧	緑色片岩	7.6	7.1	1.2	121	
石H137	"	"	"	"	"	(6.4)	4.3	0.8	34	
石H145	"	"	一部欠	"	緑糜片岩	12.3	8.7	1.9	248	35

表15 山崎遺跡住居跡出土石器一覧表 2

登録番号	出土位置	層位	遺存状況	形態	材質	長さ	幅	厚さ	重さ	押図番号
石H146	2号住	フク土	刃部片	打製石斧	緑糜片岩	11.7	10.2	1.3	248	34
石H147	"	"	一部欠	"	"	(10.1)	7.8	0.8	114	
石H148	"	"	刃部欠	"	"	(10.4)	7.2	1.6	92	
石H149	"	"	一部欠	"	"	10.5	6.5	1.4	195	32
石H150	"	"	"	"	"	10.5	6.9	2.2	271	
石H151	"	"	" ?	"	"	10.6	7.9	1.8	179	33
石H152	"	"	"	"	"	(12.5)	6.0	1.7	187	26
石H153	"	"	"	"	"	10.8	5.7	1.0	96	30
石H154	"	"	完	"	緑泥片岩	11.0	4.5	1.4	106	28
石H155	"	"	一部欠	"	"	(10.6)	5.7	0.9	53	
石H156	"	"	破片	"	"	(6.5)	(6.0)	0.3	29	
石H157	"	"	一部欠	"	"	(11.5)	(6.5)	1.7	165	
石H158	"	"	刃部欠	"	緑糜片岩	(10.9)	5.7	1.2	140	23
石H159	"	"	一部欠	"	"	(5.8)	4.2	1.5	42	
石H160	"	"	完	"	"	12.0	6.5	1.4	154	
石H161	"	フク土下部	刃部欠	"	"	(13.3)	6.6	2.5	285	20
石H162	"	"	"	"	緑色片岩	10.6	6.0	1.2	117	31
石H163	"	フク土	一部欠	"	"	11.9	4.7	1.4	135	
石H164	"	"	"	"	"	(5.3)	(4.9)	1.9	104	
石H165	"	"	"	"	"	9.5	8.0	1.0	125	
石H249	"	"	破片	"	"	7.4	6.0	0.7	40	
石I 2	"	"	完	打欠石錘	凝灰質砂岩	(5.7)	5.5	1.9	60	76
石I 3	"	"	"	"	鱗状片糜岩	(5.7)	5.3	1.1	37	77
石I 4	"	"	"	"	凝結溶岩質	(4.5)	(4.0)	1.3	30	79
石I 5	"	"	"	"	"	(6.0)	5.0	1.2	38	80
石I 6	"	"	"	"	"	(5.3)	4.7	1.2	39	78
石I 7	"	"	"	"	"	(4.7)	4.0	1.0	23	
石K 3	"	"	一部欠	削器	緑泥片岩	(7.6)	3.8	0.8	38	
石K 4	"	フク土	一部欠	削器	姫島産黒曜石	3.4	1.9	0.5	2.5	61
石K 5	"	"	"	"	"	2.8	1.2	0.3	1.6	60
石K 8	"	"	完	"	オパール質	10.4	4.8	1.4	56.6	69
石K 9	"	"	"	"	安山岩	5.9	2.6	0.9	7	67
石K15	"	"	"	"	"	7.4	4.2	1.2	42	66
石K16	"	"	半欠	"	"	6.0	6.0	1.2	47	68
石K18	"	フク土下部	一部欠	"	姫島産黒曜石	3.3	(2.0)	0.8	1	
石K19	"	"	"	"	"	4.3	1.8	1.2	7	
石K20	"	"	"	"	"	2.5	1.1	0.3	1.3	
石K21	"	"	"	"	"	3.6	2.0	1.9	5	
石K59	"	フク土	"	"	安山岩	(3.6)	4.5	0.6	12	
石K61	"	"	完	"	"	5.0	3.4	1.3	16	
石K62	"	"	半欠	石匙	"	(4.9)	(5.2)	0.7	22	65
石L 5	"	"	破片	石皿	安山岩質	(7.8)	(2.6)	(4.9)	156	
石L 6	"	"	"	"	"	(9.2)	(6.8)	2.6	121	
石L 8	"	"	"	"	"	(15.8)	11.4	4.8	1,900	
石L 9	"	"	"	"	輝石安山岩	(15.4)	(14.0)	(8.1)	3,300	42
石L11	"	"	"	"	"	(14.0)	(9.2)	6.6	1,191	
石L12	"	"	"	" 13~15と同一個体	"	(11.4)	(8.5)	7.8	1,258	

表16 山崎遺跡住居跡出土石器一覧表 3

登録番号	出土位置	層位	遺存状況	形態	材質	長さ	幅	厚さ	重さ	挿入番号
石L13	2号住	フク土	破片	石皿		(6.9)	(4.8)	5.5	365	
石L14	"	"	"	"	同一個体	(5.1)	(4.1)	(6.7)	325	
石L15	"	"	"	"		(11.4)	(7.2)	9.4	957	
石L16	"	"	"	"		(9.3)	(7.5)	(3.9)	412	
石L17	"	"	"	"	輝石安山岩	(20.3)	(17.4)	7.3	4,000	44
石L18	"	"	"	"	L12と同一個体か	(13.1)	(6.8)	6.6	966	
石L19	"	"	"	"		(16.2)	(8.8)	5.5	1,064	
石L22	"	"	"	"		(18.4)	(16.5)	7.8	2,900	46
石L23	"	"	"	"	L12と同一個体か	(19.2)	(8.2)	5.9	1,506	
石L24	"	"	"	"		(7.1)	(4.4)	(5.0)	128	
石L25	"	"	"	"		(29.5)	(17.7)	(5.0)	3,400	
石L26	"	"	"	"		(32.7)	(18.5)	9.1	7,600	
石L27	"	フク土	破片	石皿		(12.0)	(9.4)	(5.2)	1,032	
石L28	"	"	"	"		(25.8)	(17.5)	4.3	3,000	43
石L29	"	"	"	"		(15.8)	(22.5)	7.7	3,900	47
石L32	"	"	"	"	輝石安山岩	(25.6)	(23.2)	7.0	7,600	45
石L33	"	"	"	"		(14.0)	(8.2)	5.3	931	
石L34	"	"	"	"		(6.5)	(4.8)	4.8	267	
石L41	"	"	"	"		(15.2)	(15.4)	5.2	2,200	
石L56	"	"	"	"		22.1	18.4	7.4	5,100	48
石L57	"	"	"	"		(20.4)	(4.0)	(7.8)	1,100	
石M12	"	"		すり石		(6.8)	(2.8)	(2.3)	50	
石M13	"	"		"		(5.4)	(1.9)	(3.5)	31	
石M15	"	"	一部欠	"	石英珩岩	(10.0)	(10.8)	(5.7)	616	36
石M16	"	"		"	凝灰質砂岩	11.8	7.5	2.5	188	41
石M17	"	"		"		8.0	(4.8)	2.6	156	
石M18	"	"		"	凝灰質砂岩	9.3	5.0	1.3	92	40
石M19	"	"		"	輝石安山岩	10.5	8.8	2.9	394	38
石M20	"	"		"	花崗岩質砂石	(9.9)	5.1	2.0	93	39
石M22	"	"		"	石英斑岩	(10.5)	(9.0)	(3.3)	307	37
石O 3	"	"	完	石錐	黒色黒曜石	3.1	1.7	0.4	2.5	59
石P 1	"	"	"	つまみ形石器		2.2	1.7	0.6	2.2	62
石A15	3号住	フク土	完	石鏃C	黒色黒曜石	0.95	1.3	0.15	0.2	88
石A16	"	"	完	"	姫島産黒曜石	1.2	1.9	0.2	0.7	89
石A19	"	"	先端欠	"	"	1.8	1.7	0.4	1.4	90
石G57	"	"	刃部欠	磨製石斧	緑糜片石	(6.1)	2.3	0.95	25	91
石H138	"	"	一部欠	砥石?	緑色片岩	(18.2)	8.2	2.4	645	96
石K10	"	"	完	石匙	姫島産黒曜石	4.7	6.2	0.9	27	92
石K11	"	"	一部欠	削器	"	2.2	3.1	0.7	4.6	93
石K12	"	"	完	"	"	1.7	3.9	0.5	2.6	94
石K13	"	"	完	"	安山岩	4.8	6.0	0.7	28	95
石L 7	"	"	破片	石皿	輝石安山岩	(16.2)	(10.8)	4.5	1,151	97
石A 5	4号住	フク土	先端・片脚欠	石鏃C	姫島産黒曜石	(1.6)	(1.1)	0.2	0.4	103
石A22	"	"	破片	" C	"	(1.5)	(1.2)	0.2	0.3	104
石A23	"	"	一部欠	" B	チャート	(1.5)	2.4	0.4	1.4	105
石G28	"	"	刃部欠	磨製石斧	蛇紋岩	(11.0)	(5.5)	(3.2)	262	113
石H250	"	"	基部欠	打製石斧	緑色片岩	9.0	5.0	1.0	70	106

表17 山崎遺跡住居跡出土石器一覧表4

登録番号	出土位置	層位	遺存状況	形態	材質	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号
石H255	4号住	フク土	基部欠	打製石斧	緑色片岩	(6.6)	3.6	0.8	30	107
石K17	"	"	完	削器	大理石	3.5	5.9	1.5	44	112
石K59	"	"	破片	"	安山岩	(3.6)	(4.5)	(0.6)	12	111
石L26	"	"	一部欠	石皿	安山岩質	29.7	(18.8)	9.2	7,900	110
石M23	"	"	完	すり石	"	11.6	9.5	5.5	1,000	108
石M37	"	"	完	"	"	13.3	10.4	4.6	1,071	109
石A11	5号住	フク土	完	石鏃	黒色黒曜石	2.1	1.6	0.3	0.5	118
石A12	"	"	"	"	"	1.8	1.2	0.4	0.6	119
石A73	6号住	フク土	破片	打製石鏃	姫島産黒曜石	(1.4)	1.4	0.2	0.1	
石A74	"	"	"	"	"	1.7	(1.0)	0.2	0.3	
石A75	"	"	"	"	"	(1.4)	(1.0)	(0.1)	0.2	
石A94	"	"	片脚欠	"	黒色黒曜石	(1.5)	(1.3)	0.3	0.4	121
石A96	"	"	完	"	安山岩	1.7	1.4	0.2	0.5	124
石A97	"	"	"	"	姫島産黒曜石	1.8	1.4	0.2	0.4	123
石A98	"	"	片脚欠	"	黒色黒曜石	(1.1)	(1.0)	0.2	0.3	
石A118	"	"	ほぼ完	"	"	1.6	1.2	0.2	0.5	122
石A119	"	"	"	"	姫島産黒曜石	2.2	1.5	0.5	1.5	
石A142	"	"	片脚欠	"	安山岩	(2.5)	1.4	0.2	0.8	125
石A143	"	"	"	"	姫島産黒曜石	2.5	1.3	0.3	0.9	126
石A144	"	"	完	"	"	(2.5)	1.6	0.3	1.6	127
石A148	"	"	"	"	黒色黒曜石	1.5	1.5	0.2	0.4	120
石B7	"	"	先端欠	縦長剝片	姫島産黒曜石	(4.2)	1.6	0.5	1.2	128
石G37	"	"	刃部欠	磨製石斧		(11.0)	5.2	2.5	227	142
石G44	"	"	頭部片	"		(12.5)	5.5	3.0	332	143
石G49	"	"	刃部片	"		(5.9)	4.4	1.5	62	141
石G59	"	"	完	"		7.4	4.4	1.7	97	140
石G60	"	"	破片	"		(3.5)	3.0	0.8	9	
石H190	"	"	完	打製石斧		10.2	5.4	1.6	107	134
石H191	"	"	一部欠	"		7.8	4.4	1.2	72	136
石H192	"	"	破片	"		(9.6)	8.5	1.9	258	133
石H207	"	"	一部欠	"		12.4	7.5	1.5	200	132
石H215	"	"	刃部欠	"		(12.6)	6.0	1.6	193	
石H223	"	"	破片	"		(9.4)	5.3	1.3	69	
石H224	"	"	刃部片	"		(5.2)	5.3	1.2	46	
石H237	"	"	"	"		(10.0)	6.5	1.7	190	
石H248	"	"	"	"		8.2	5.0	0.8	51	138
石H253	"	"	"	"		8.6	4.8	0.9	58	
石H254	"	"	"	"		8.0	4.5	1.3	71	
石H263	"	"	ほぼ完	"		12.5	5.0	1.5	150	135
石H264	"	"	刃部片	打製石斧		(8.8)	(5.8)	0.8	61	139
石H265	"	"	破片	"		(4.0)	5.9	1.0	32	
石H266	"	"	"	"		(3.5)	4.9	1.0	29	
石H267	"	"	"	"		(6.9)	4.2	0.9	34	
石H268	"	"	ほぼ完	"		7.2	3.0	0.6	19	137
石H295	"	"	刃部片	"		(7.5)	6.5	1.5	130	
石J3	"	"	完	円盤状石製品	緑色片岩	5.5	5.5	0.8	39	152
石K41	"	"	"	"	安山岩	2.8	4.8	0.5	11	

表18 山崎遺跡住居跡出土石器一覧表5

登録番号	出土位置	層位	遺存状況	形態	材質	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号
石K42	6号住	フク土			姫島産黒曜石	1.7	3.0	0.4	4	
石K45	"	"			"	2.1	1.8	0.7	4	
石K56	"	"			"	2.5	(4.0)	0.5	7	146
石K57	"	"			"	3.7	0.5	1.4	40	144
石K63	"	"			"	3.6	5.5	0.8	17	145
石K65	"	"			"	(4.7)	(3.2)	1.1	7	
石L42	"	"		石皿		(12.1)	(9.2)	(4.5)	900	
石L45	"	"		"		(22.2)	(16.8)	9.4	5,300	150
石L46	"	"		"		24.1	(13.4)	8.9	4,200	
石L47	"	"		"		(8.1)	(7.1)	(5.0)	553	
石L48	"	"		"		(12.5)	(11.6)	(8.7)	2,700	
石L49	"	"		"		(26.8)	(20.3)	4.8	5,300	149
石L50	"	"		"		(20.7)	(22.6)	5.2	4,300	
石L63	"	"		"		(9.7)	(8.0)	7.6	1,000	
石L64	"	"		"		(6.4)	(7.2)	5.6	948	
石M29	"	"	破片	すり石		(4.5)	(3.3)	4.5	96	
石M30	"	"	"	"		(5.7)	7.5	(4.5)	312	147
石M33	"	"	完	"		12.9	5.4	4.6	375	148
石O4	"	"	"	石錐	姫島産黒曜石	4.0	2.0	0.9	9	
石O5	"	"	先端欠	"	"	3.3	1.0	0.7	3	130
石P3	"	"	完	つまみ形石器	黒色黒曜石	2.0	1.3	0.4	2.2	129
石Q2	"	"	"	異形石器	姫島産黒曜石	1.5	3.0	0.0	2.4	131
石Q4	"	"	破片	用途不明磨製石器		(5.0)	4.5	1.7	57	151
石A99	7号住	フク土	片脚欠	打製石鏃	黒色黒曜石	(2.2)	(1.3)	0.4	1	163
石A100	"	"	完	"	姫島産黒曜石	1.6	1.6	0.2	1.1	164
石A101	"	"	先端欠	"	"	(0.8)	1.2	0.15	1.5	165
石G52	"	"	刃部欠	磨製石斧	蛇紋岩	5.5	12.6	3.2	317	176
石G53	"	"	"	"	緑泥片岩	(13.0)	5.2	1.9	198	177
石G54	"	"	破片	"		(1.9)	(2.7)	0.6	7	
石H222	"	"	ほぼ完	打製石斧	緑廉片岩	(8.2)	(3.7)	0.8	38	166
石H232	"	"	一部欠	"	"	9.3	(4.6)	0.9	50	167
石H233	"	"	刃部片	"	緑色片岩	(6.9)	8.0	1.3	100	171
石H234	"	"	刃部欠	"	緑泥片岩	(7.2)	7.2	1.8	125	169
石H235	"	"	"	"	"	8.5	(3.6)	1.5	79	168
石H251	"	"	"	"	"	(7.4)	5.4	1.4	76	170
石H252	"	"	破片	"	"	(4.7)	6.2	1.2	51	
石K50	"	"	完	削器・搔器	安山岩	5.2	4.8	0.8	33	175
石K51	"	"	"	"	"	(4.1)	10.6	1.5	101	172
石K52	"	"	"	"	"	5.7	3.7	1.1	2.7	174
石K53	"	"	"	"	"	5.2	(6.3)	0.9	45	173
石M35	"	"	完	すり石	安山岩質	11.3	10.0	4.8	832	178
石M36	"	"	"	"	"	9.8	7.9	4.5	560	179
石M39	"	フク土	"	"	"	12.4	9.2	4.8	883	180
石M40	"	"	破片	"	溶岩質	(6.0)	10.0	1.4	152	181

表19 山崎遺跡住居跡出土土製円板一覧表1

(単位はcm及びg)

登録番号	出土位置	層位	遺存状況	形態	材質	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号
1-22	住1	フク土		B-2	無文	5.1	4.9	1.2	36	13
1-23	住1	フク土		B-2	無文	4.3	4.5	1.0	26	14
1-24	住1	フク土		B-2	無文	5.3	5.3	1.2	43	15
1-25	住1	フク土		B-2	無文	4.3	4.3	1.1	24	16
1-26	住1	フク土		B-2	無文	5.1	4.9	1.0	34	17
2-912	住2	フク土		B-1	有文	4.3	3.6	0.7	14	
2-913	住2	フク土		B-1	有文	5.5	4.2	0.9	23	
2-914	住2	フク土		B-1	無文	4.5	4.5	0.7	17	81
2-915	住2	フク土		B-1	有文	4.7	3.5	1.1	24	84
2-916	住2	フク土		B-1	有文	4.3	3.3	0.8	18	
2-917	住2	フク土		B-1	有文	4.9	3.8	0.8	18	
2-918	住2(東)	フク土		A-2	有文	3.4	2.9	0.7	5	
2-921	住2中央部	フク土		A-2	無文	3.8	4.0	0.7	15	
2-922	住2中央部	フク土		A-1	無文	5.1	4.9	0.9	23	
2-923	住2	フク土		A-1	無文	3.3	3.2	0.9	13	
2-929	住2	フク土		A-2	有文	4.6	4.0	0.6	16	85
2-930	住2	フク土		A-1	無文	4.4	4.1	0.7	18	82
2-931	住2	フク土		B-1	条痕	4.2	3.5	0.7	12	
2-932	住2	フク土		B-1	無文	3.6	3.0	0.8	9	
2-933	住2	フク土		B-1	条痕	4.1	3.8	0.6	11	
2-934	住2	フク土		A-1	無文	3.5	3.1	0.5	5	
2-935	住2	フク土		B-1	無文	4.1	4.0	0.7	19	
2-936	住2	フク土		B-2	条痕	5.8	5.7	0.8	34	
2-937	住2	フク土		B-2	無文	5.3	4.9	0.9	24	87
2-938	住2	フク土		B-2	無文	5.2	5.3	0.6	29	
2-939	住2	フク土		B-1	無文	4.0	4.0	0.8	18	
2-940	住2	フク土		B-2	条痕	6.4	6.4	1.0	54	
2-941	住2	フク土		A-2	無文	5.0	5.1	1.1	45	
2-942	住2	フク土		A-1	無文	5.1	4.3	1.1	32	
2-944	住2	フク土		B-1	無文	4.5	4.0	0.8	17	
2-946	住2	フク土		A-1	有文	4.5	4.1	0.8	21	
2-947	住2	フク土		B-1	無文	4.0	3.1	0.7	10	
2-948	住2	フク土		B-1	無文	4.3	4.3	0.7	14	
2-949	住2	フク土		A-1	無文	4.3	4.3	0.9	18	
2-950	住2	フク土		A-1	無文	4.4	3.0	0.7	9	
2-951	住2	フク土		B-2	条痕	4.0	3.0	1.1	15	
2-952	住2	フク土		B-2	無文	3.9	2.7	0.9	18	
2-953	住2	フク土		B-1	無文	3.6	3.2	0.6	7	
2-954	住2	フク土		B-2	条痕	5.1	5.2	1.0	35	
2-955	住2	フク土		A-2	無文	4.2	3.7	0.9	18	
2-956	住2	フク土		A-2	条痕	6.8	4.5	0.7	31	
2-957	住2	フク土		A-1	無文	4.7	4.2	1.3	28	
2-958	住2	フク土		B-1	無文	4.1	4.0	0.8	14	
2-959	住2	フク土		B-1	条痕	3.5	3.9	1.0	17	
2-960	住2	フク土		B-1	無文	4.6	3.8	0.8	17	
2-961	住2	フク土		A-1	条痕	4.5	3.9	0.7	15	
2-962	住2	フク土		A-2	条痕	4.8	4.5	0.6	18	

表20 山崎遺跡住居跡出土土製円板一覧表2

登録番号	出土位置	層位	遺存状況	形態	材質	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号
2-963	住2	フク土		A-1	無文	3.7	3.7	0.6	13	83
2-964	住2	フク土		B-1	無文	4.4	3.5	1.0	17	
2-965	住2	フク土		B-1	無文	6.5	5.0	1.2	54	
2-966	住2	フク土		A-1	無文	4.0	3.8	0.9	16	
2-967	住2	フク土		B-1	条痕	7.0	6.0	0.9	49	
2-968	住2	フク土		B-1	無文	5.5	4.8	0.6	21	
2-969	住2	フク土		B-2	無文	7.1	7.2	0.9	63	
2-970	住2	フク土		B-1	無文	4.0	3.6	0.9	16	
2-971	住2	フク土		B-1	無文	4.9	4.0	0.8	19	
2-972	住2	フク土		B-1	無文	4.0	3.5	0.7	11	
2-973	住2	フク土		B-1	無文	4.4	3.6	0.9	20	
2-974	住2	フク土		A-1	条痕	4.0	4.0	0.9	17	
2-975	住2	フク土		B-1	条痕	5.1	5.3	0.7	86	
2-976	住2	フク土		B-2	条痕	5.5	5.2	1.0	40	
2-977	住2	フク土		B-1	無文	3.5	3.3	0.9	12	
2-978	住2	フク土		A-1	条痕	4.4	3.6	1.1	26	
2-979	住2	フク土		B-1	無文	4.3	3.8	0.9	19	
2-980	住2	フク土		A-1	無文	3.7	3.7	0.8	12	
2-1006	住2	フク土		B-1	無文	5.5	5.4	0.6	23	
石D-1	住2	フク土		A-1	無文	4.3	4.5	1.2	33	
3-143	住3	フク土		B-1	無文	4.0	4.3	0.95	22	99
3-144	住3	フク土		B-2	無文	4.7	4.3	0.8	23	102
3-145	住3	フク土		A-1	無文	3.6	3.7	0.8	14	98
3-146	住3	フク土		B-2	無文	5.0	4.5	0.98	32	101
3-147	住3	フク土 伊勢の西北		B-2	無文	4.4	4.0	0.88	21	100
2-925	住4	フク土		A-1	無文	5.7	5.6	1.0	38	114
2-926	住4	フク土		B-2	条痕	5.2	4.5	0.9	24	116
2-928	住4	フク土		B-2	無文	5.6	5.1	0.9	28	117
2-919	住4	フク土		A-2	有文	4.0	4.0	0.8	19	115
6-49	住6	フク土		A-1	条痕	4.6	5.0	0.9	23	153
6-50	住6	フク土		B-1	無文	5.9	6.9	1.1	46	158
6-51	住6	フク土		B-1	無文	4.8	5.5	0.9	25	159
6-52	住6	フク土		A-1	無文	4.0	4.2	0.7	16	156
6-53	住6	フク土		A-1	無文	4.5	3.2	1.3	24	
6-54	住6	フク土		A-2	有文	4.5	3.8	1.0	21	
6-55	住6	フク土		B-1	無文	3.0	2.5	0.7	7	
6-56	住6	フク土		A-1	無文	4.3	4.2	0.8	15	
6-57	住6	フク土		A-1	無文	5.2	4.9	1.1	38	
6-58	住6	フク土		B-1	条痕	4.6	3.6	1.1	24	
6-59	住6	フク土		B-1	無文	4.4	4.4	0.7	17	
6-60	住6	フク土		B-1	無文	5.1	4.8	0.7	22	
6-61	住6	フク土		B-2	無文	4.4	4.0	1.1	27	
6-62	住6	フク土		B-1	条痕	5.1	4.8	0.8	23	157
6-63	住6	フク土		A-1	無文	7.3	5.8	1.3	76	
2331	住6	フク土上層		B-1	有文	5.0	4.5	0.7	26	
2332	住6	フク土上層		A-1	無文	3.7	3.5	0.8	11	
2333	住6	フク土上層		A-1	無文	6.0	5.5	1.0	48	

表21 山崎遺跡住居跡出土土製円板一覧表3

登録番号	出土位置	層位	遺存状況	形態	材質	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号
2334	住6	フク土		A-1	無文	4.5	4.0	0.7	9	
2335	住6	フク土		B-1	無文	3.2	3.0	0.8	7	
2336	住6	フク土		B-2	条痕	4.2	4.0	0.8	12	
2337	住6	土偶周辺		A-1	条痕	4.7	4.2	0.7	22	154
2338	住6	フク土		B-2	条痕	4.5	4.2	1.1	29	
2339	住6	フク土		B-2	無文	5.0	3.9	0.9	17	
2340	住6	フク土		B-2	無文	3.7	3.3	0.8	11	
2341	住6	フク土		B-2	無文	4.8	3.5	0.8	16	
2342	住6	フク土		B-1	無文	4.0	3.5	0.9	14	
2343	住6	フク土		B-1	無文	5.8	4.8	0.7	22	155
2344	住6	フク土		B-1	無文	3.8	3.3	0.8	8	
2345	住6	フク土		A-1	無文	3.0	2.8	0.5	2	
2346	住6	フク土		A-1	無文	4.4	4.0	1.0	20	
2347	住6	フク土		B-2	無文	3.5	2.8	0.7	4	
2348	住6	フク土		B-1	無文	4.5	4.2	1.0	25	
2349	住6	フク土		B-2	条痕	3.8	3.8	0.8	8	
2350	住6	フク土		B-2	条痕	4.0	3.6	0.6	11	
2351	住6	フク土		A-1	有文	4.1	3.6	0.5	10	
2352	住6	フク土		B-2	条痕	5.0	5.1	1.0	30	
2353	住6	フク土		B-2	条痕	4.5	3.5	0.8	19	
2354	住6	フク土		A-2	無文	3.3	3.0	0.8	6	
2355	住6	フク土		B-2	無文	4.1	4.0	0.9	16	
2356	住6	フク土		B-1	無文	4.5	4.0	0.9	18	
2357	住6	フク土		B-2	有文	4.5	3.7	0.7	11	
2358	住6	フク土		B-2	無文	4.5	4.0	0.7	13	
2359	住6	フク土		B-2	条痕	3.5	3.2	0.7	9	
2360	住6	フク土		A-1	無文	3.6	3.6	0.9	14	
2361	住6	フク土		B-2	無文	4.6	4.9	0.8	24	161
2362	住6	フク土		B-1	無文	5.9	4.8	0.7	27	
2363	住6	フク土 土偶周辺		B-2	無文	4.8	4.3	1.0	20	
2365	住6	フク土上層		A-1	無文	4.4	4.0	0.7	10	
2366	住6	フク土上層		B-2	無文	5.6	4.3	0.6	20	
2367	住6	フク土上層		A-2	無文	4.3	4.0	0.8	14	
2368	住6	フク土上層		B-1	無文	3.5	3.0	0.8	8	
2369	住6	フク土上層		B-2	無文	3.6	3.3	1.1	14	
2370	住6	フク土上層		B-2	条痕	4.5	3.8	0.8	17	
2371	住6	フク土上層		A-1	無文	3.9	3.9	0.6	10	
2374	住6	フク土上層		A-1	無文	3.5	3.2	0.8	9	
2375	住6	フク土上層		A-1	条痕	4.9	4.4	0.8	21	
2376	住6	フク土上層		A-2	無文	5.2	4.8	1.0	30	
2377	住6	フク土		A-2	無文	5.3	5.0	1.2	35	
2378	住6	フク土		A-1	無文	3.6	3.2	0.7	9	
2379	住6	フク土		B-2	無文	4.1	4.5	1.0	22	
2380	住6	フク土上層		A-2	無文	4.8	4.7	0.7	18	160
2381	住6	フク土		B-2	無文	4.1	3.6	0.7	8	
2389	住6	フク土上層		B-1	無文	4.0	3.8	1.1	21	
7-235	住7	フク土		A-1	無文	4.5	4.8	0.8	24	182

表22 山崎遺跡住居跡出土土製円板一覧表 4

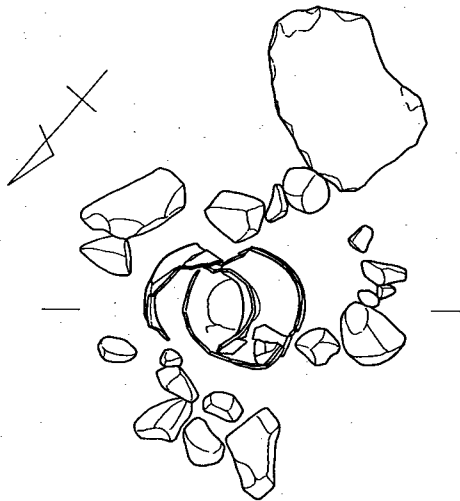
登録番号	出土位置	層位	遺存状況	形態	材質	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号
7-236	住7	フク土		B-2	無文	4.6	4.7	0.7	22	187
7-237	住7	フク土		A-1	無文	5.5	6.0	0.9	42	186
7-238	住7	フク土		A-2	無文	5.8	5.0	1.1	39	188
7-239	住7	フク土		A-1	条痕	4.6	3.9	0.9	21	185
7-240	住7	フク土		A-1 穿孔	条痕	4.1	3.9	0.8	15	190
7-241	住7	フク土		A-1	無文	3.5	3.9	0.9	15	184
7-242	住7	フク土		A-2	条痕	3.4	3.7	0.8	13	189
7-243	住7	フク土		B-1	有文	4.7	4.9	0.7	20	183
7-1	住7	フク土		B-1	条痕	4.8	4.0	0.9	28	
7-2	住7	フク土		A-1	無文	4.7	4.0	0.9	18	
7-3	住7	フク土		A-1	無文	3.9	3.3	0.9	14	
7-4	住7	フク土		A-1	条痕	5.0	4.5	0.7	23	
7-5	住7	フク土		B-1	無文	4.1	3.5	0.9	17	
7-6	住7	フク土		B-1	無文	4.0	4.0	1.0	20	
7-7	住7	フク土		A-2	条痕	3.0	2.5	0.6	6	
2312	住7	フク土		A-1	無文	4.1	3.8	0.9	18	
石D4	住7	フク土		A-1 穿孔	無文	4.7	4.6	0.9	22	
石D5	住7	フク土		A-1	条痕	3.7	3.5	0.7	8	
石D6	住7	フク土		B-2	無文	3.0	2.7	0.6	4	

4 石町遺跡の遺構と遺物

石町遺跡からは、縄文時代の遺構として、竪穴住居跡が4軒と、別に石囲炉が1基検出された。縄文土器片のみ出土する柱穴状ピットや不整形土壇もあるが、それらがどのように組み合わされるのかは不明である。

1号住居跡 (図版49-2, 第124図)

石町遺跡調査区南隅にあり、山崎遺跡1号住居跡の北北西に約6mに位置する。2号住居跡と重複し、2号住居跡を切っているが、古墳時代の6・7号住居跡とも重複している。不整円形プランを呈し、長径7.4m、短径6.5m、深さ1.16m、床面積19.6㎡の規模である。河原石の多い地山を掘り込んで、壁は約45°と緩やかで、南西側に長さ1.8m、幅0.8m広さのテラスがある。床面には柱穴が8穴あり、このうち周壁に沿うP1~7が主柱穴と考えられる。P1・3・5・7がやや大きく径50~60cm、深さ25~35cm前後である。床面中央部に土器炉があり、炉の南側に接して長さ45cm、幅40cm、厚さ10cm強の扁平石があり、上面が平坦ですれているので、作業台として使用されていたものと考えられる。



に接して長さ45cm、幅40cm、厚さ10cm強の扁平石があり、上面が平坦ですれているので、作業台として使用されていたものと考えられる。

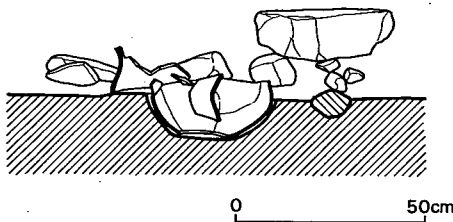
土器炉 (図版50-1, 第123図) 焼土と火熱を受けて赤変している石の範囲は直径70cm程で、その北東寄りに、口頸部と底部を打ち欠いた鉢形土器が床に10cm余り埋められている。赤変している石は土器の周囲にみられるが、地山から露出する石が多く、石囲炉ではないようだ。調査時に湧水が多く土器内部の堆積土などの精査を成し得ていない。

出土遺物

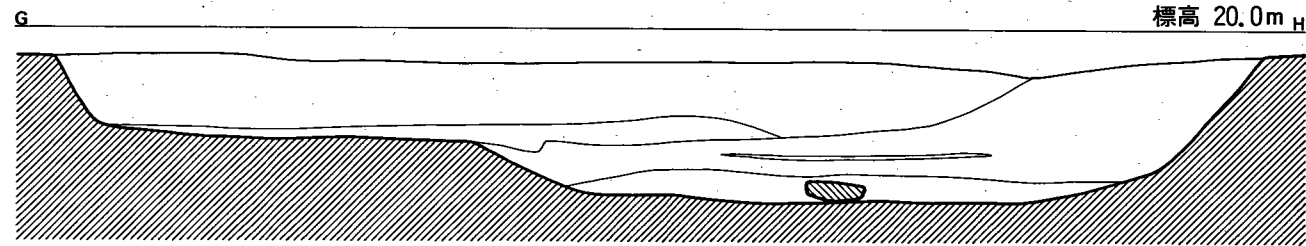
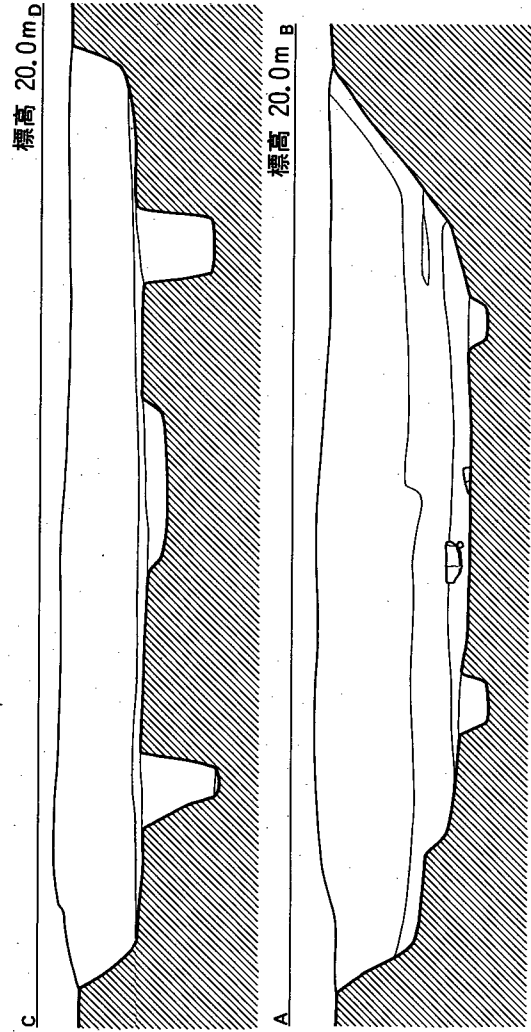
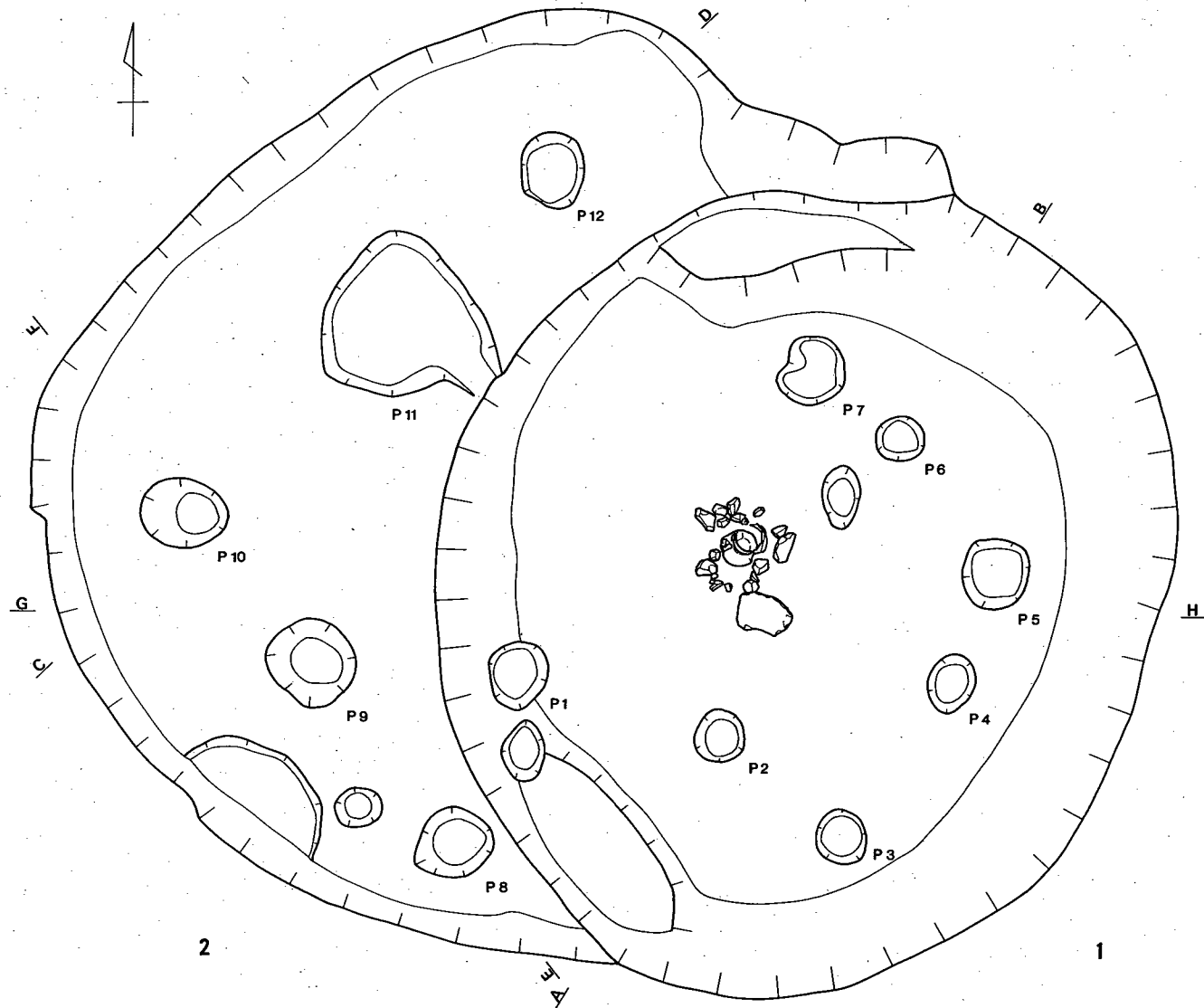
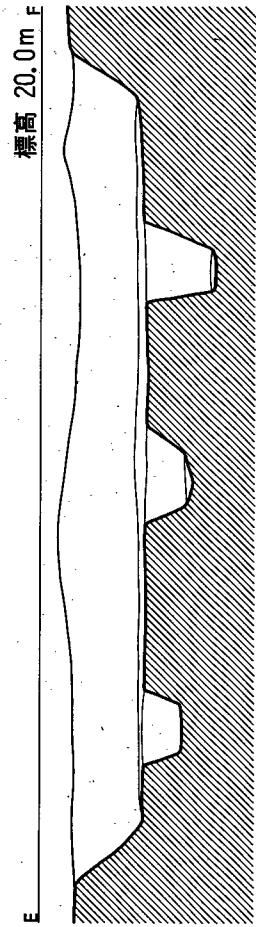
縄文土器片がパンコンテナに9箱、打製石斧・磨製石斧などの石器、土製円板が出土した。

縄文土器 (図版52・53, 第125~130図, 表23)

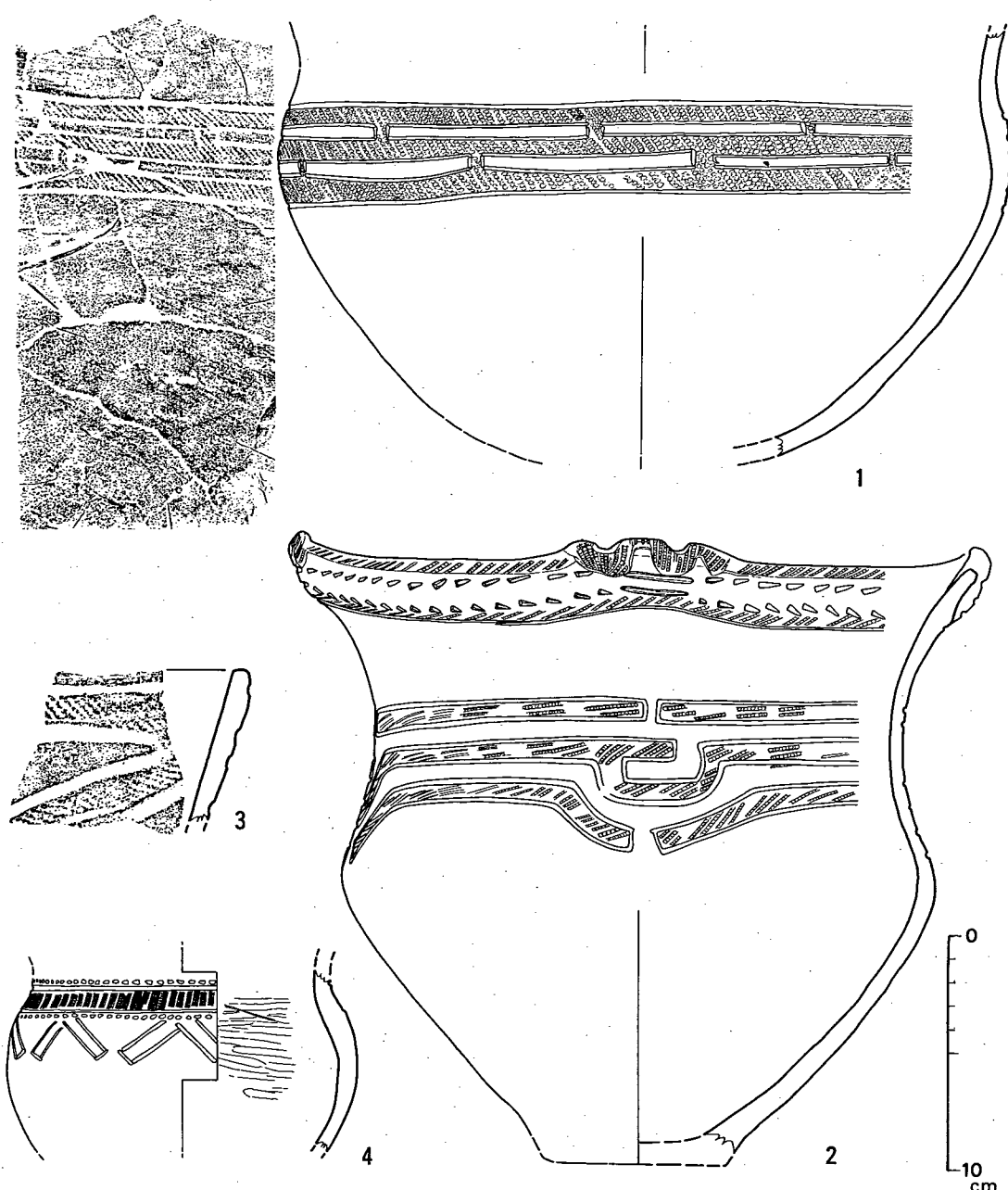
炉跡使用土器 (1) 口縁部と底部を打ち



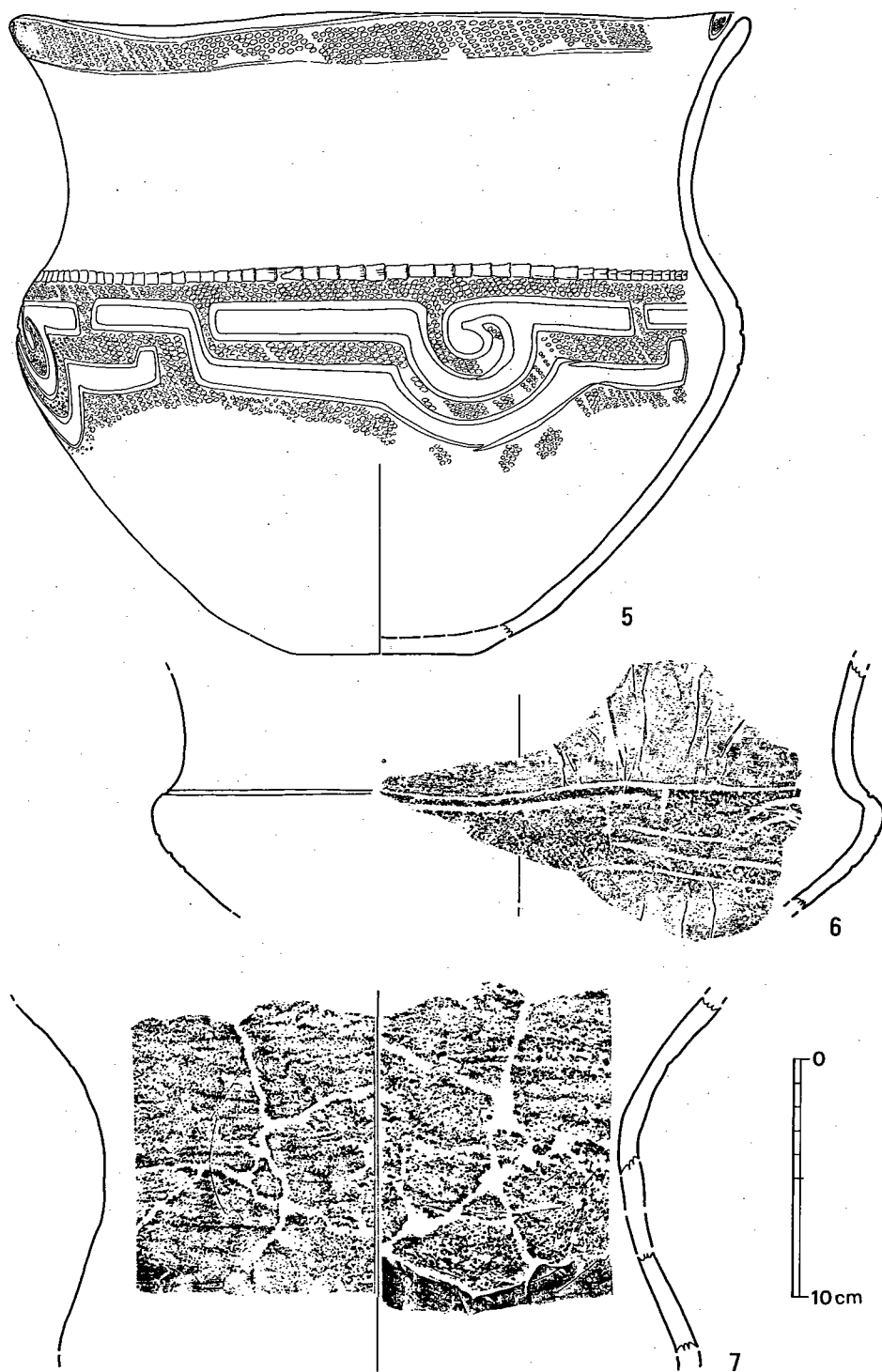
第123図 石町1号住居跡炉跡実測図 (1/20)



第124図 石町1・2号住居跡実測図 (1/60)



第 125 图 石町 1 号住居跡出土土器拓影 1 (1/3)



第 126 图 石町 1 号住居跡出土土器拓影 2 (1/3)

欠かれた鉢で、胴最大径31.4cm、現存器高18.0cmを測る。胴部に、上下を沈線で区画された縄文施文帯があり、中に平行沈線で区画した細い長方形部分をすり消している。

床面および炉跡直上出土土器（2～7）の土器は、概略報告書に炉跡使用土器として示された土器で、整理作業の進行に伴って誤りであることが判明した。完形に復原出来て器高26.7cm、復原口径29.5cm、胴最大径25.5cmの大きさ。口縁部文様帯に列点文・アナグラ疑似縄文が施文されて、波頂部にW字の貼り付けがある。また胴部には平行沈線で鈎手状文などが描かれて、沈線の区画内にアナグラ疑似縄文が充填されている。

3は緩く外反する口縁部に、太めの沈線で幅広の文様を描いた磨消縄文のもの。小池原上層式の土器である。4は平行沈線と列点文が肩部を巡り、充填へナタリ疑似縄文がみられる。

5は2号住居跡下層出土の土器片と接合するので、床面より壁際から出土したのであろうか。復原口径31.3cm、現存器高26.3cm、胴最大径30.7cmの大きさの鉢。緩く外反する口縁部が端部でやや肥厚し、低い波状口縁部をなす。口縁部外面には縄文が施文され、内面にみられるC字状区画は4箇所にあると思われる。胴部には渦文・鈎手文などが描かれ、磨消縄文手法をとるが、肩部に押し引き列点が巡る。6は胴部の縄文施文帯に細めの平行沈線がみられる。

7は炉跡直上から出土した土器で、くびれた頸部の内外面ともにナデ焼成されている。

1類（8～13）沈線で区画される文様があり、区画内に縄文が施文される土器。横走させた沈線で文様帯の上下を区画して、縄文を施文した後に、2本単位の平行沈線で直線的な鈎手文や山形文を描くが、なかには磨消を加えない例もある。9・10の深めの鉢とみられる口縁部文様帯はやや幅広であるが、8の浅い鉢ではやや肥厚気味に外反している。

2類（14～20）横走する平行沈線などで描かれた区画内に、アナグラ疑似縄文が充填施文される土器。深めの鉢らしい14の口縁部は文様帯がやや幅広で、波頂部にW字の貼り付けがある。浅い鉢の20などでは口縁部が外反して口唇部上面に施文されている。

3類（22～24）沈線で区画される文様があり、区画内にへナタリ疑似縄文が施文される土器。22・24では列点文を伴う。23は肥厚した口縁部文様帯の真ん中を凹ませた形をとり、波頂部に退化した橋状把手が付く。

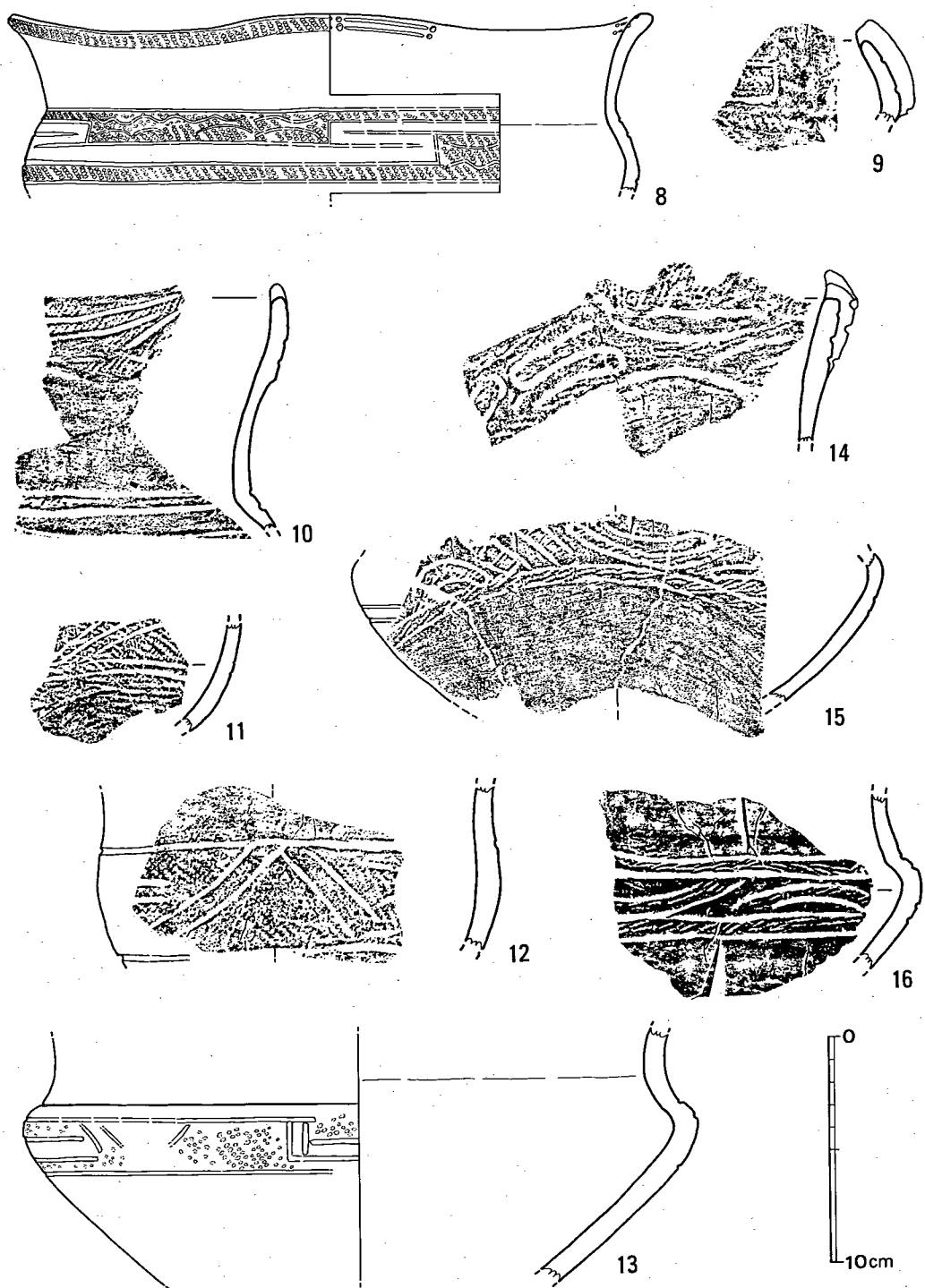
4類（26）沈線文などをもたずに、縄文が施文される土器。

5類（25）沈線文などをもたずに、へナタリ疑似縄文が施文される土器。

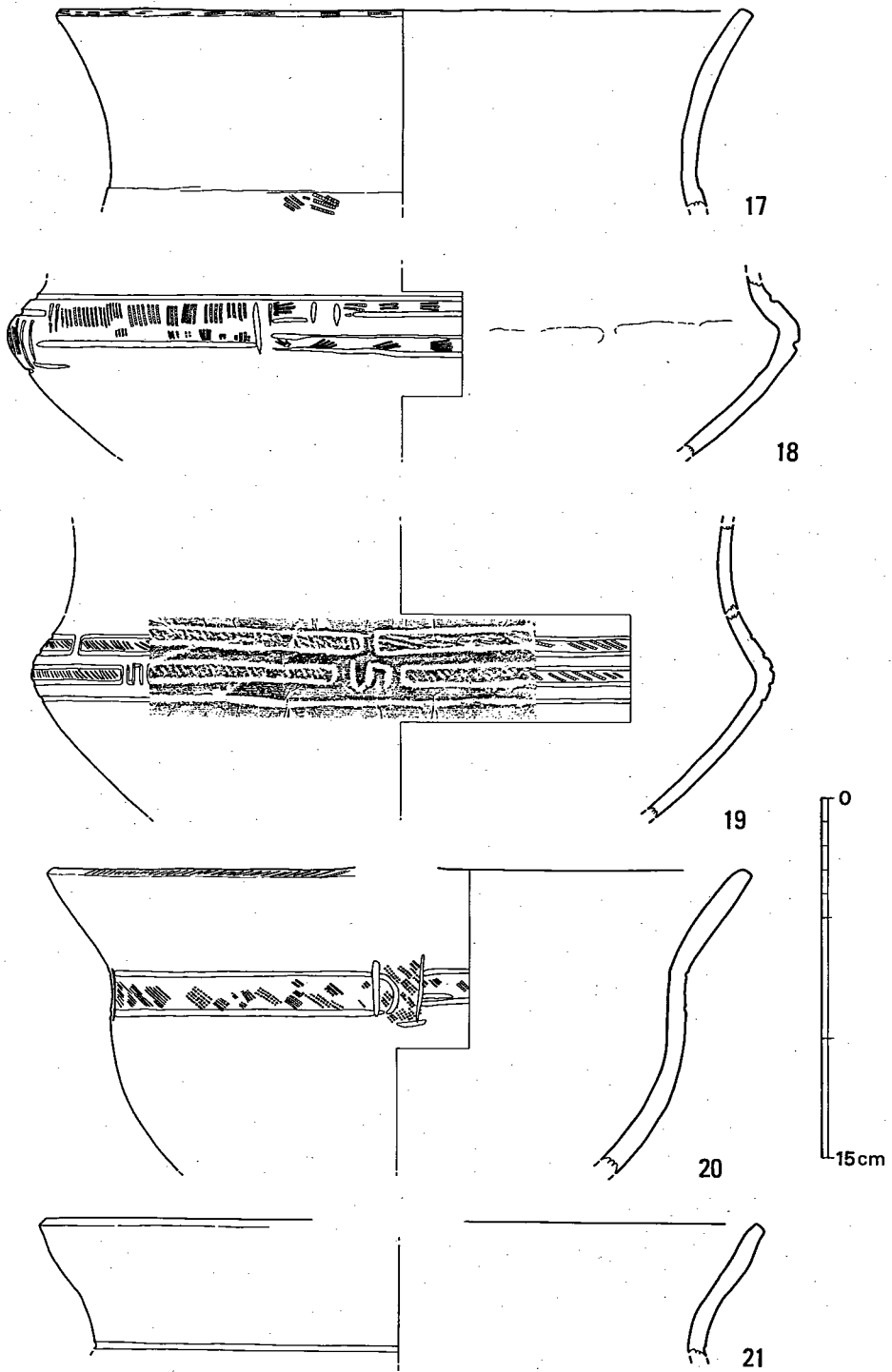
6類（21・27）沈線のみで文様が描かれる土器。21は他の類に包括される可能性もある。

7類（28・34）条痕およびナデで調整される、いわゆる条痕土器・無文土器。このうち28～30は細密条痕で調整される土器。31・34はへナタリ条痕で、33はへナタリ条痕の後ナデが加わる。32はナデ調整される土器で、口唇部に刻み目が付けられている。

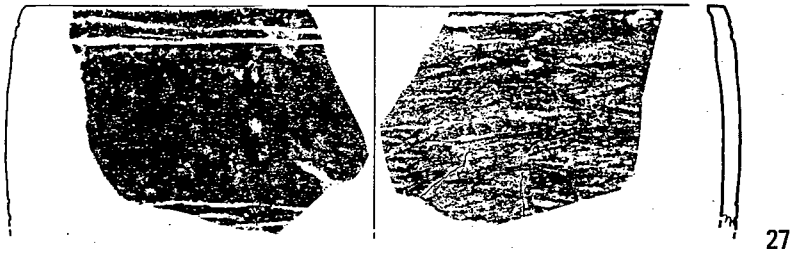
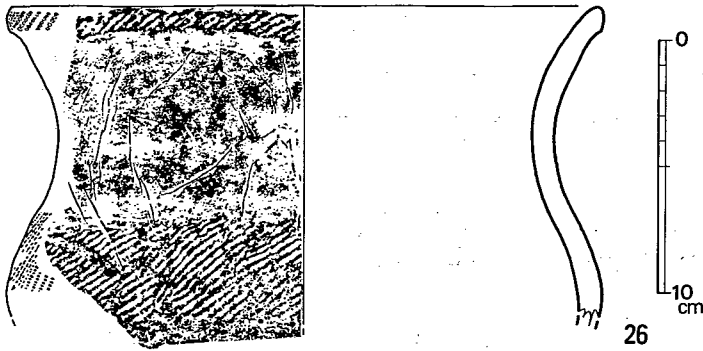
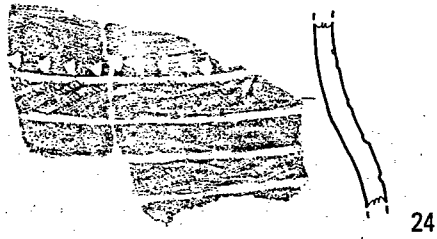
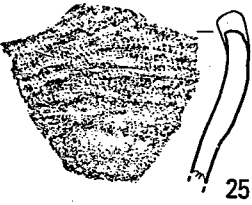
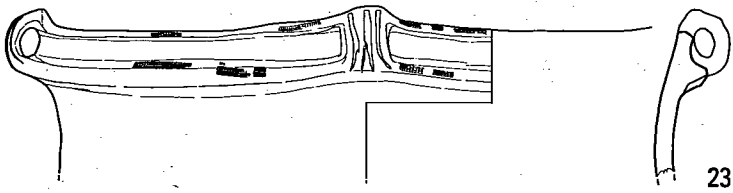
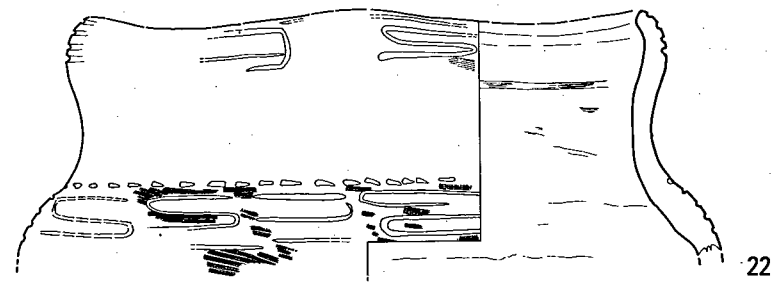
8類（35）底部及び脚台を一括する。



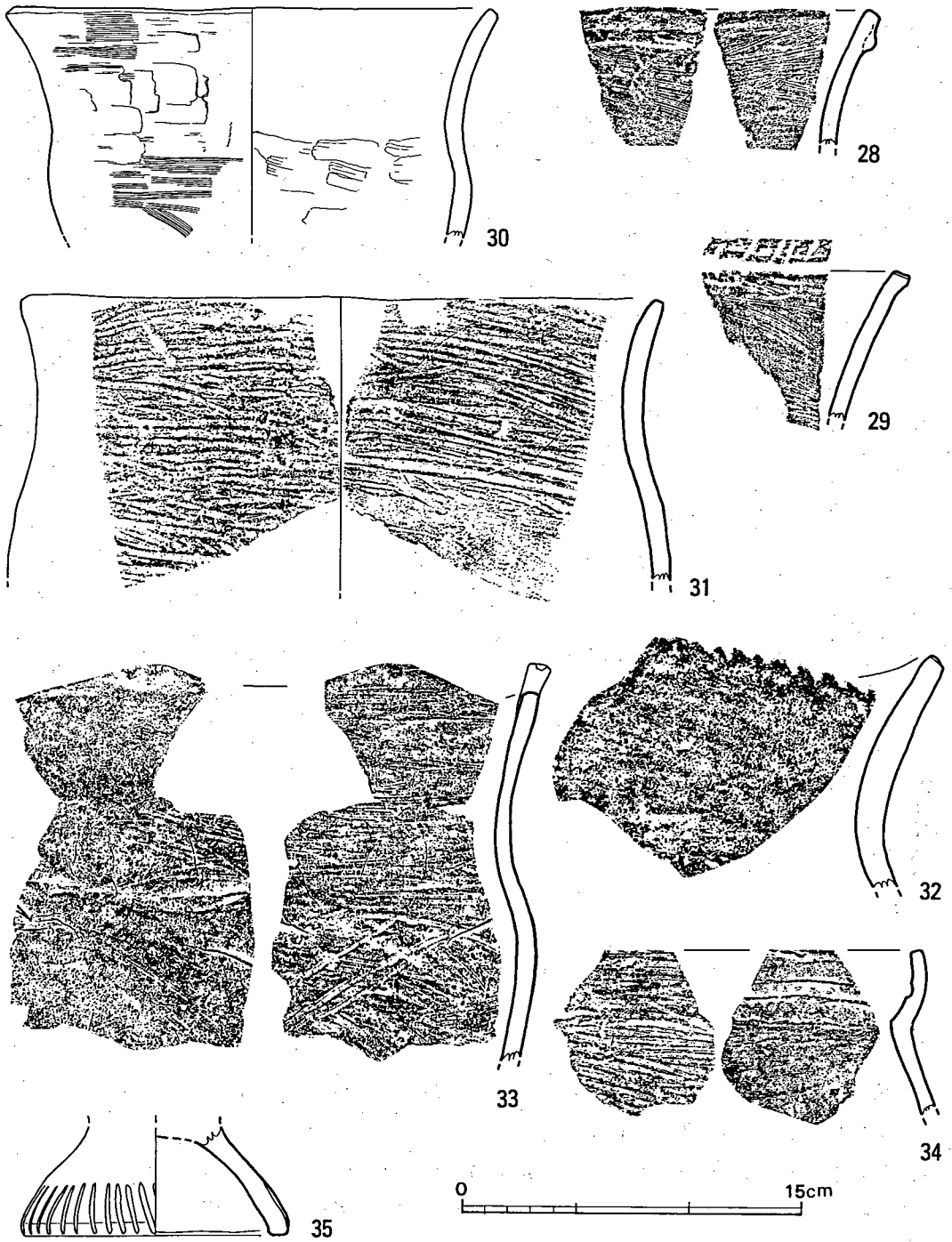
第127图 石町1号住居跡出土土器拓影3 (1/3)



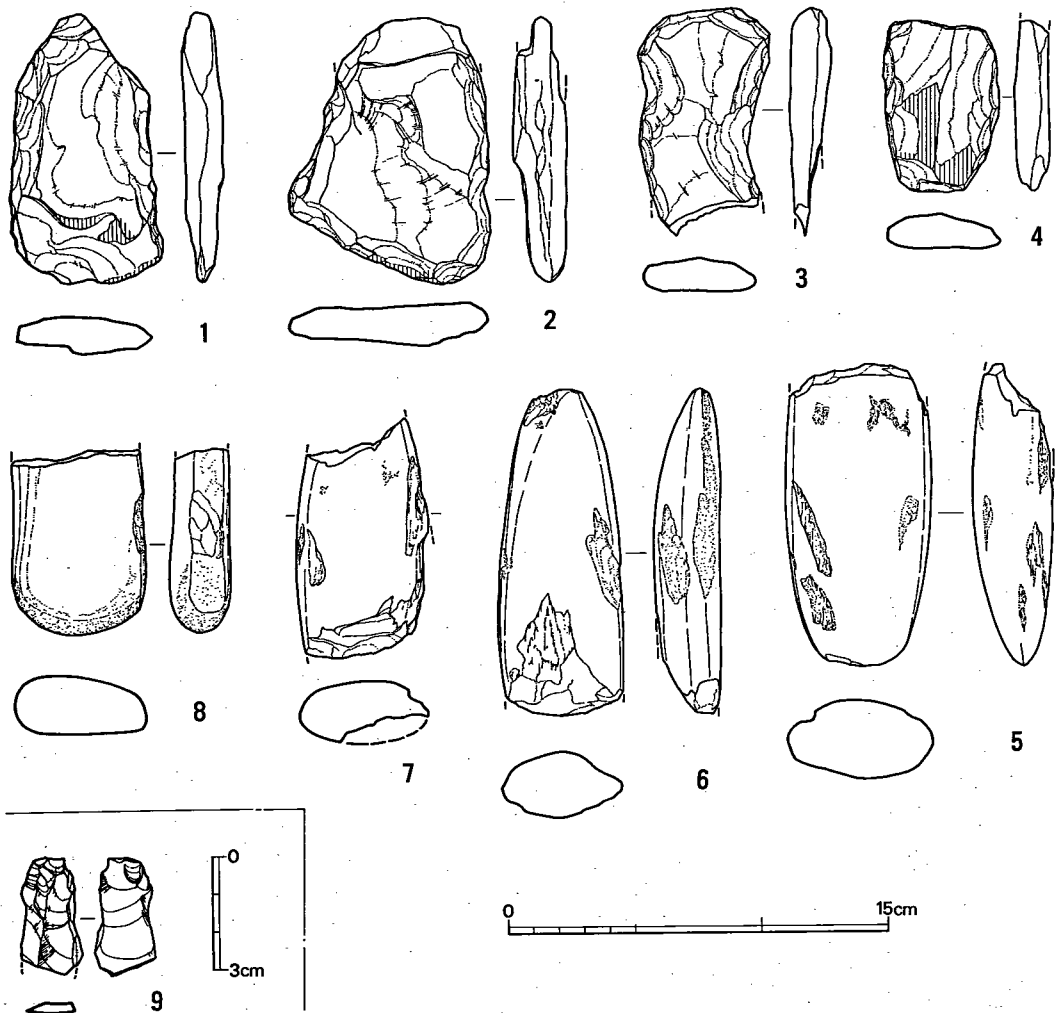
第128图 石町1号住居跡出土土器拓影4 (1/3)



第129图 石町1号住居跡出土土器拓影5 (1/3)



第130图 石町1号住居跡出土土器拓影6 (1/3)



第131図 石町1号住居跡出土石器実測図 (1/2・1/3)

石器 (図版67, 第131図, 表28)

打製石斧 (1~4) 6点出土したが, うち4点図示する。扁平打製石斧で, 厚さ約1.5~2.0 cm, 幅4.0~7.5cm程の大きさである。

磨製石斧 (5~7) 3点出土した。断面形が楕円形に近い, ややスマートな体部をもつ。

砥石 (8) 1点出土した。一端を欠くが, 扁平で細長い礫の平坦面が磨耗し, 形側縁に敲打痕が残る。すり石とするには平坦面が内反りなので, 砥石とした。

縦長剥片 (9) 1点出土した。姫島産黒曜石製で, 背側の剥離方向は上下両方にある。

土製品

土製円板が6点出土した。

植物遺体

床面から堅果類種子が約50粒出土した。第3節2で分析結果を報告する。

2号住居跡 (図版49-2, 第124図)

石町遺跡調査区南隅にあり、山崎遺跡1号住居跡の北北西約6mに位置する。1号住居跡と重複し、1号住居跡に切られるが、古墳時代の5・6号住居跡とも重複している。不整形円形プランを呈し、径約8.2m、深さ0.55~0.65m、残された床面の面積22.5㎡で、本来は35㎡前後の規模であったと思われる。河原石の多い地山を掘り込んで、壁は60°前後の傾斜がある。床面には柱穴が6穴あり、このうち周壁に沿うP8~12が支柱穴と考えられる。P9・10・12がやや大きく径60~80cm、深さ40~60cm前後だが、P11は1m以上の径で深さ20cm前後と浅い。床面中央部に相当する部分は1号住居跡によって失い、炉は残らない。

出土遺物

縄文土器片がパンコンテナに42箱、打製石斧・磨製石斧などの石器類、土製円板などが出土した。10月20日に1号住居跡が確認されたので、10月20日以降に出土した土器を下層出土土器とし、以前に出土した土器は中層出土土器、重複する古墳時代の5~7号住居跡床面に散在していた土器を1・2号住居跡上層出土土器と区分する。このうち中層出土と6号住居跡出土の土器は1・2号住居の土器が混在し、5号住居跡出土土器は2号住居跡の土器・7号住居跡出土土器は1号住居の土器であった可能性が高い。

縄文土器 (図版54~64, 第132~155図, 表23~26)

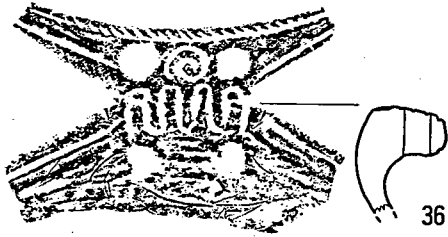
床面出土土器 (36~38)

36は口縁端部が外方に迫り出すように肥厚し、波頂部に双孔が穿たれている。渦文と蛇行文が描かれ、口唇部に縄文が施文される。37は口縁部が緩く外反して、上下を沈線で区画された内側に斜行沈線を並べ、菱形の空間に逆S字になる反転渦文を描いている。38は緩く外反する口縁部破片で、ヘナタリ条痕の残る器面に横走・斜行沈線を並べている。

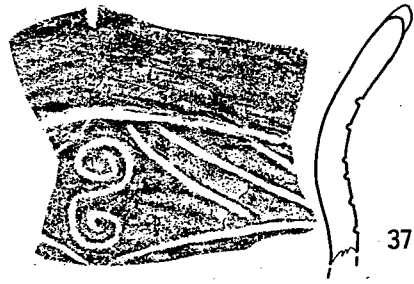
下層出土土器 (39~79)

1類 (39~43・57) 沈線で区画される文様があり、区画内に縄文が施文される土器。39~42は横走沈線で上下を区画された縄文施文帯の内側に、やや直線的な文様が描かれて、幅の狭い磨消部分を作っている。43は文様帯の内側に平行沈線の弧文を間隔をあけて反転させて、平行沈線間を磨消している。また57は口縁部が強く内彎する鉢で、やや幅広の平行沈線と渦文がみられる。

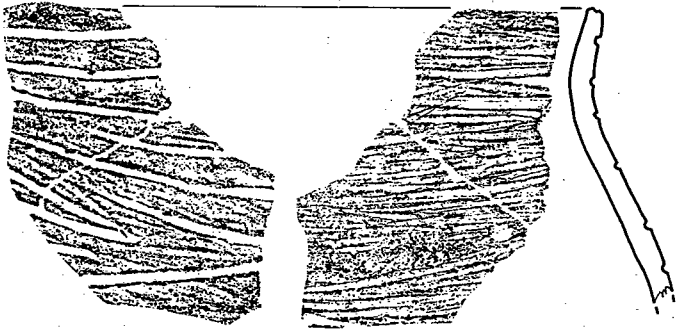
2類 (44・45・50・51) 沈線で区画される文様があり、区画内にアナグラ疑似縄文が施文さ



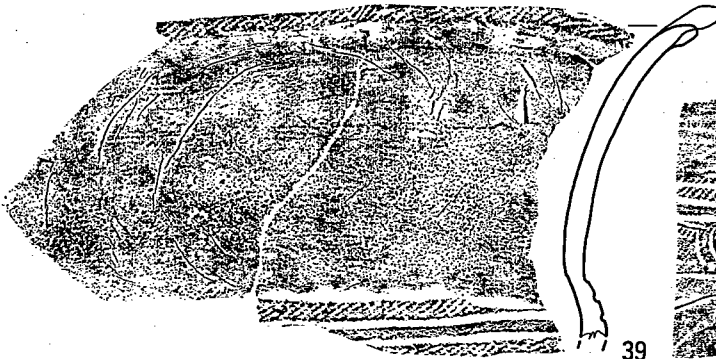
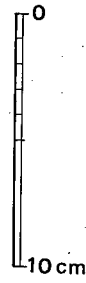
36



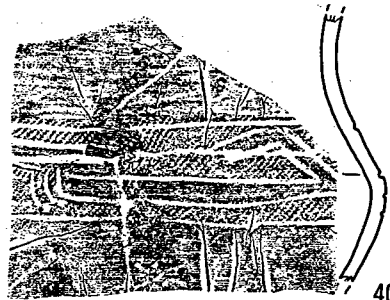
37



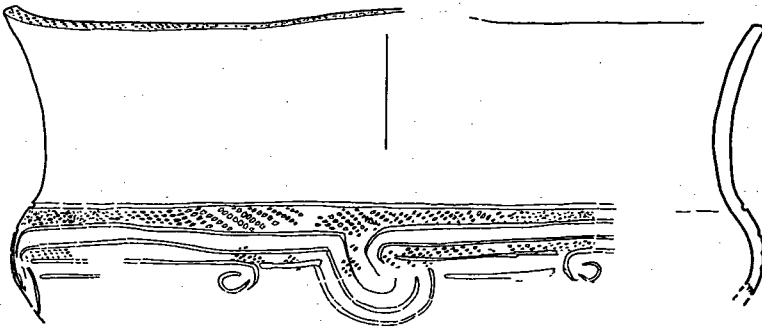
38



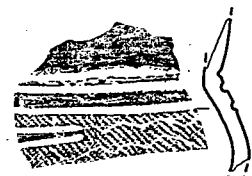
39



40



41



42

第 132 图 石町 2 号住居跡出土土器拓影 1 (1/3)

れる土器。鉢の44・45では緩く外反する口縁部が端部で僅かに肥厚し、口唇部にもアナグラ疑似縄文が施文される。胴部の文様はやや直線化している。また、50・51では口縁部にW字状・豚鼻状の貼り付けがあり、50の口縁部には突帯が巡って幅広の文様帯をつくり逆く字状の列点文が施されている。

3類 (46~49・52~56) 沈線で区画される文様があり、区画内にヘナタリ疑似縄文が施文される土器。鉢の口縁部には、46のように端部がほとんど肥厚しないで口唇上面にヘナタリ疑似縄文が施文されるものと、48のように僅かに肥厚気味にした口縁部外面や、49・53のように内彎する口縁部に幅広く疑似縄文を施文するものがある。文様の施文には、横走する沈線で挟まれた文様帯のなかに描いた区画に疑似縄文を充填するものと、疑似縄文を幅広く施文した文様帯のなかに平行沈線的な文様を描くものがあり、後者の場合には磨消を伴わないことが多い。なお、文様帯の区画に列点や、押し引きの沈線もみられる。また平行沈線は基本的に2本単位だが、55では3本が単位になって山形の文様が描かれている。

4類 (58) 沈線文などをもたずに、縄文が施文される土器。口縁部と胴部に施文される。

6類 (59~61・71・72) 沈線のみで文様が描かれる土器。平行沈線的に文様が描かれる。60は脚台付き鉢で、内面に渦文の退化した弧線文が反転して描かれている。

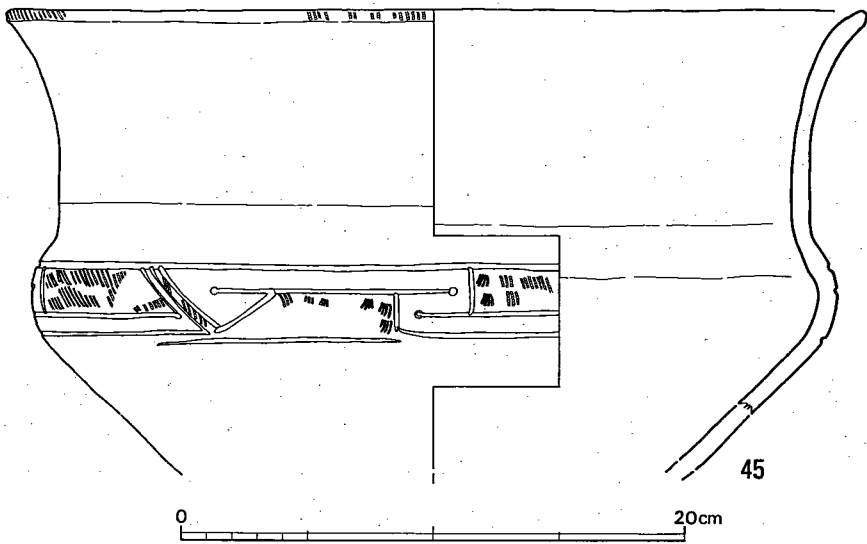
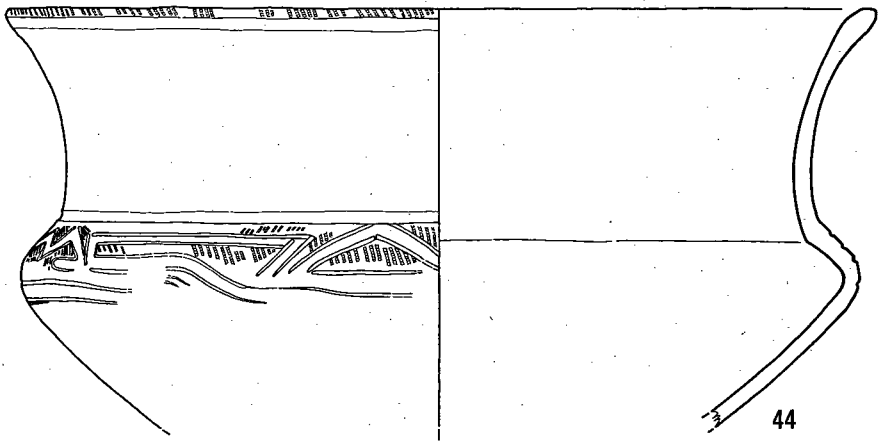
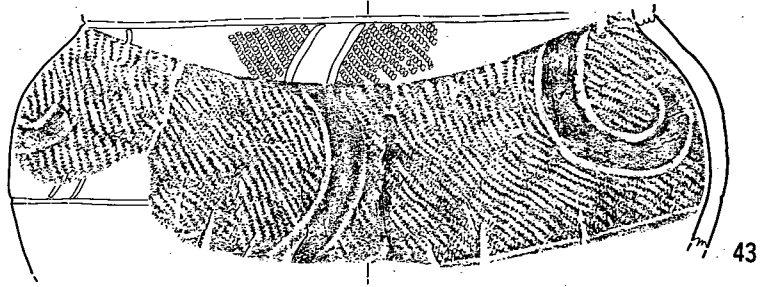
7類 (62~70・73~79) 条痕およびナデで調整される、いわゆる条痕土器・無文土器。このうち62~64はナデないし研磨調整される無文の小形鉢で、67はヘナタリ条痕で調整される脚台付き鉢、74~76はアナグラ条痕で調整される土器である。78は内外面をヘナタリ条痕で調整されるが、口唇部には刻み目が付けられている。79はアナグラ条痕で調整されるが口唇部にはアナグラ疑似縄文が付けられている。

中層出土土器 (80~199)

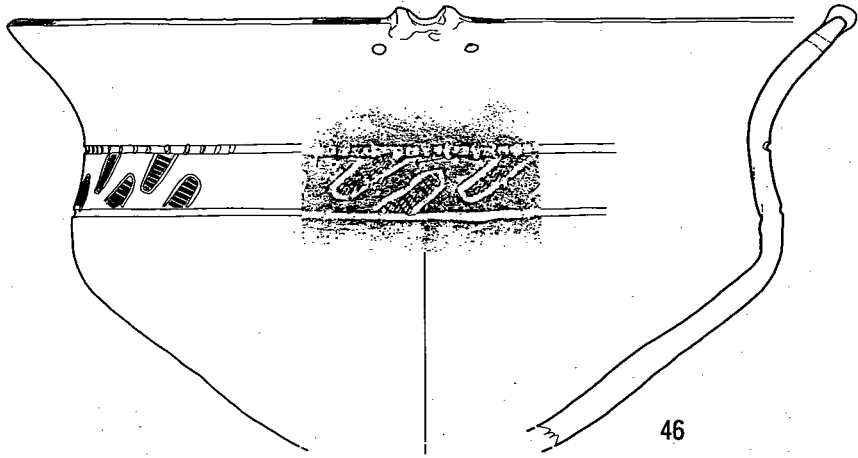
80は内外面ともに小粒の楕円押型文がみられる、稻荷山式土器。81は緩く外反する口縁部に太い沈線で文様が描かれ、縄文の施文される土器で、小池原上層式に含まれよう。83の口縁部は短く外反し肥厚するもので、82とともに渦文のやや退化した形態の同心円弧文と集線化した斜行沈線がみられる。鐘崎式の新しい段階の土器である。

1類 (96~98・101~105・107~113・166・168) 沈線で区画される文様があり、区画内に縄文が施文される土器。96~98・101・111は内彎する口縁部をもち、やや幅の広い文様帯に平行沈線状の文様が描かれる。96では渦文状の入組文がみられる。沈線で区画された部分を磨消縄文にするものと、しないもの、磨消しが中途半端なものがある。口縁部が外反して口唇部上面に縄文の施文される107~110では、胴部の文様帯に直線的な文様が描かれ、磨消手法がとられている。166は内彎する口縁部の椀形の土器で、沈線に挟まれた区画全体に縄文が施文されている。168は直立する口縁部で、注口土器であろうか。

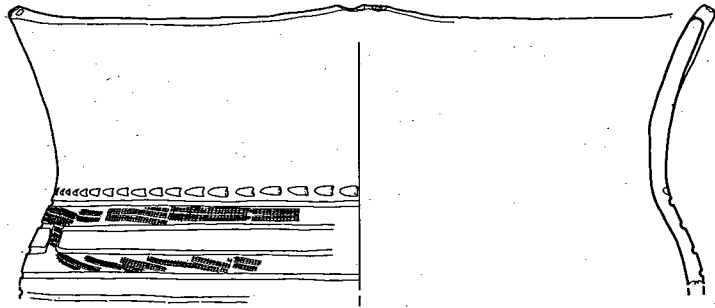
2類 (114~131) 沈線で区画される文様があり、区画内にアナグラ疑似縄文が施文される土



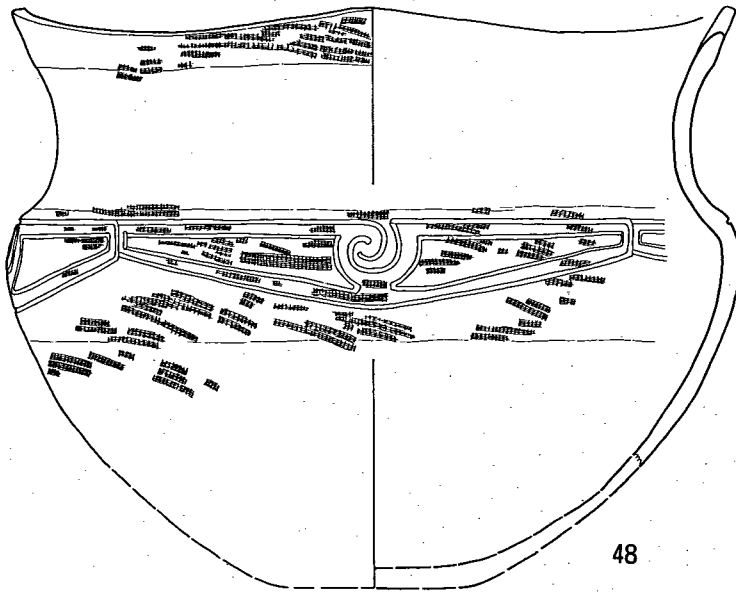
第 133 图 石町 2 号住居跡出土土器拓影 2 (1/3)



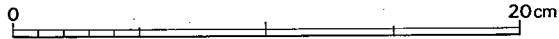
46



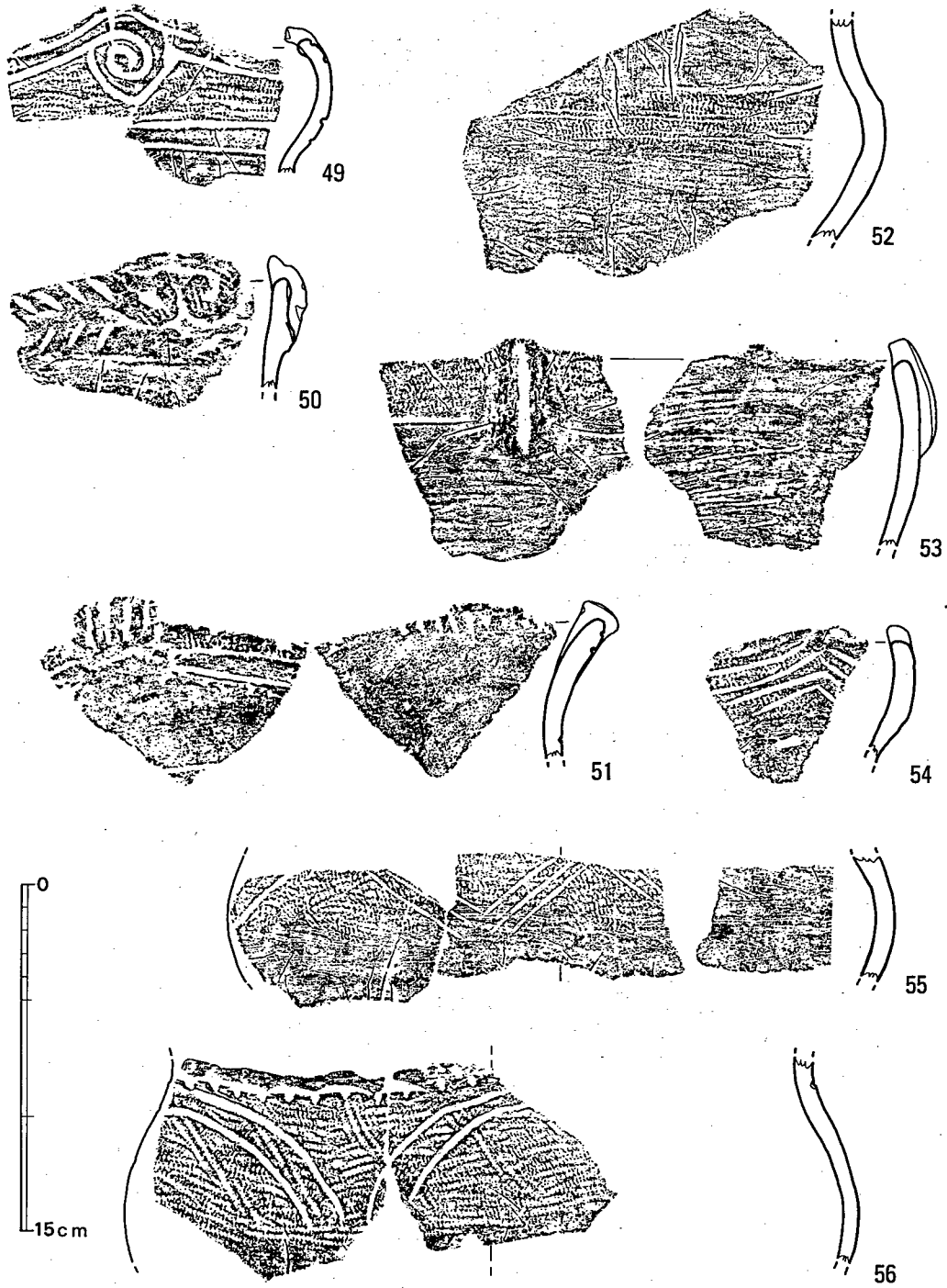
47



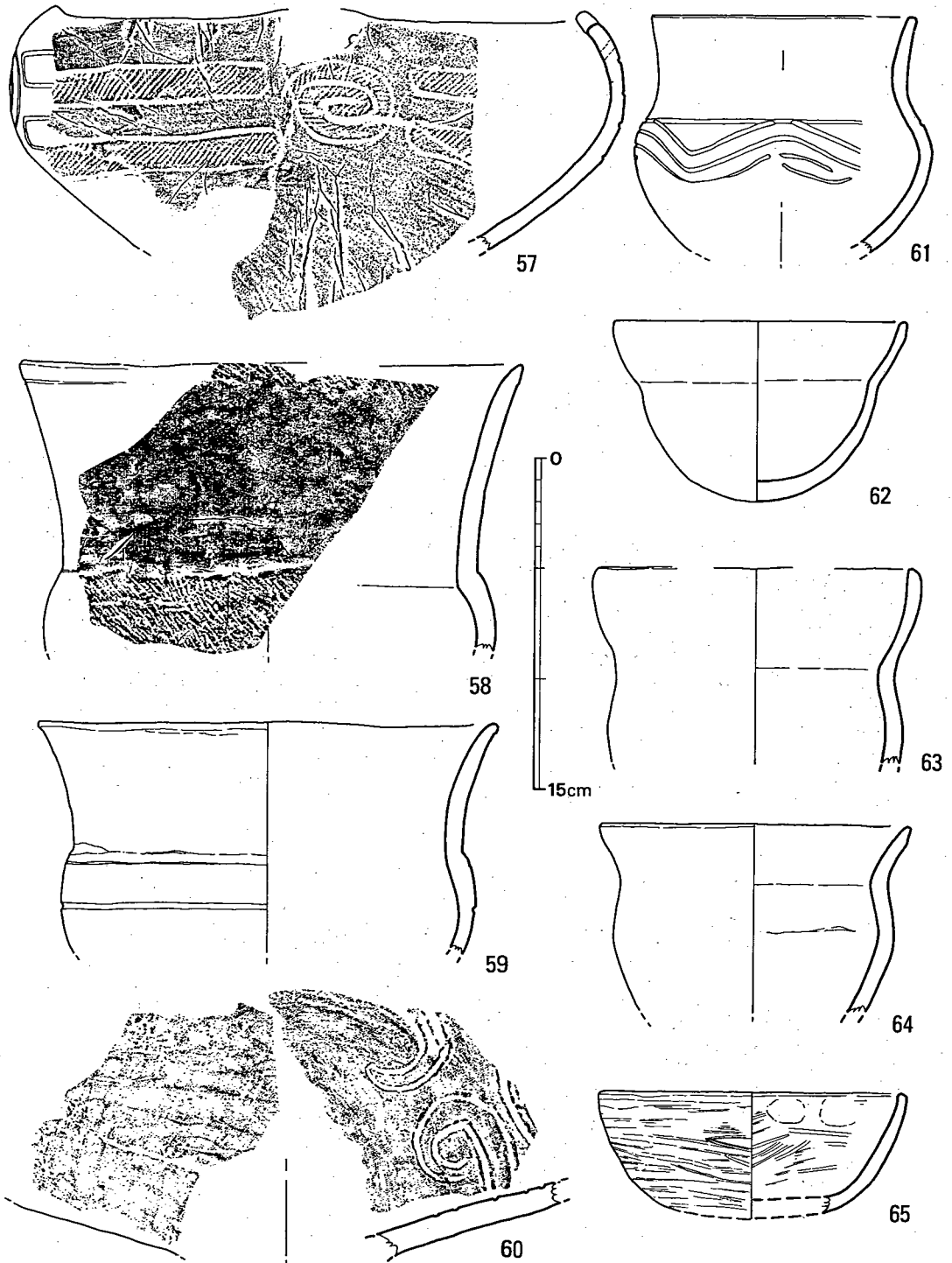
48



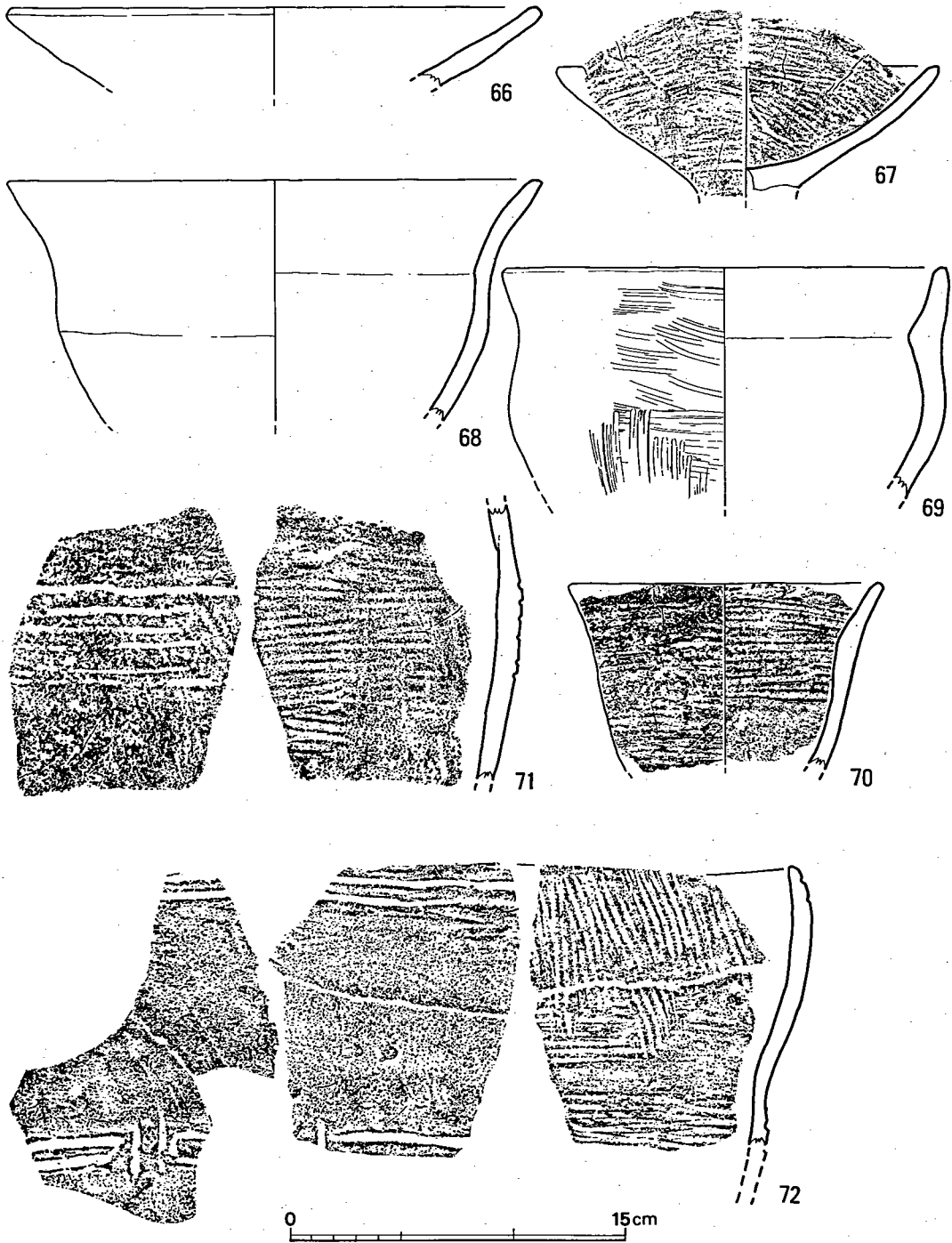
第134图 石町2号住居跡出土土器拓影3 (1/3)



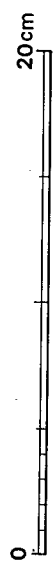
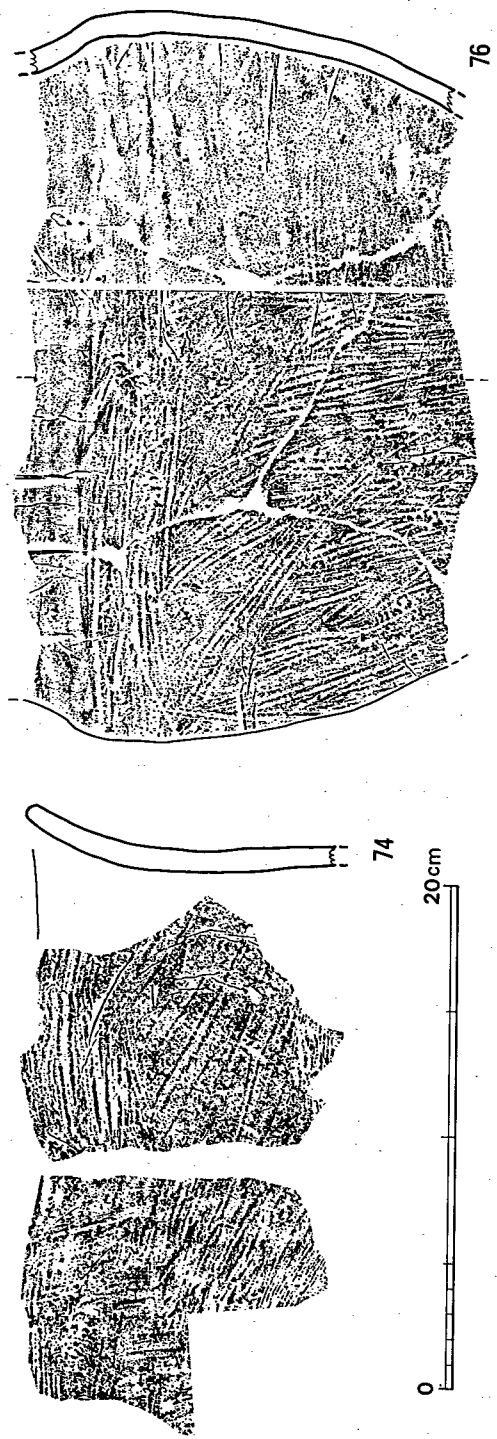
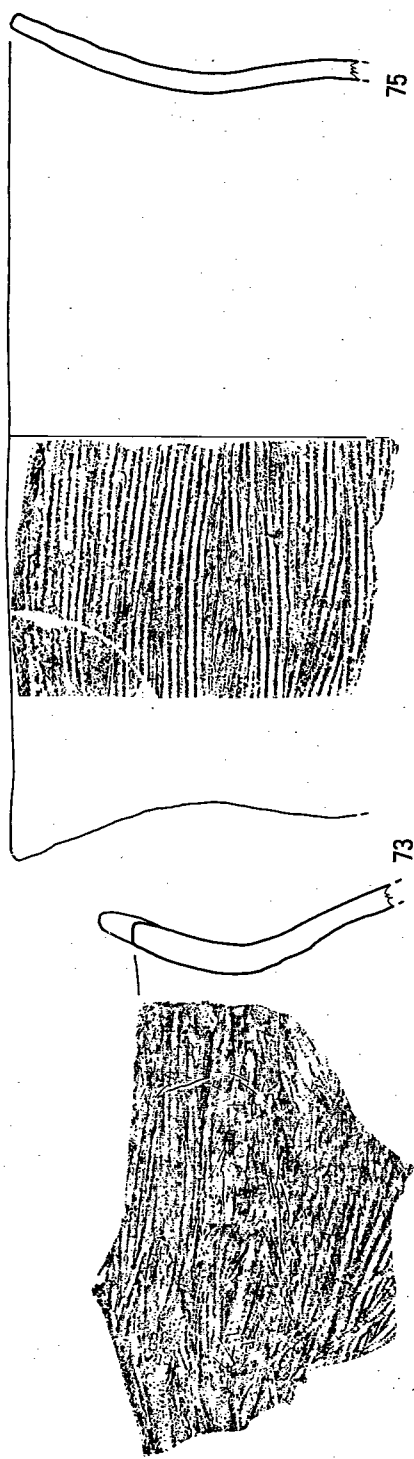
第 135 图 石町 2 号住居跡出土土器拓影 4 (1/3)



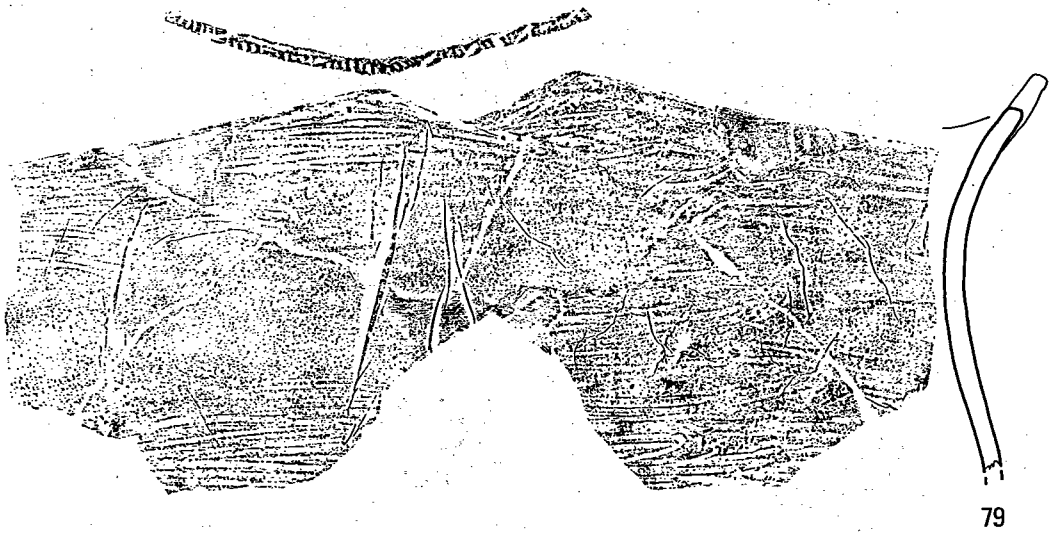
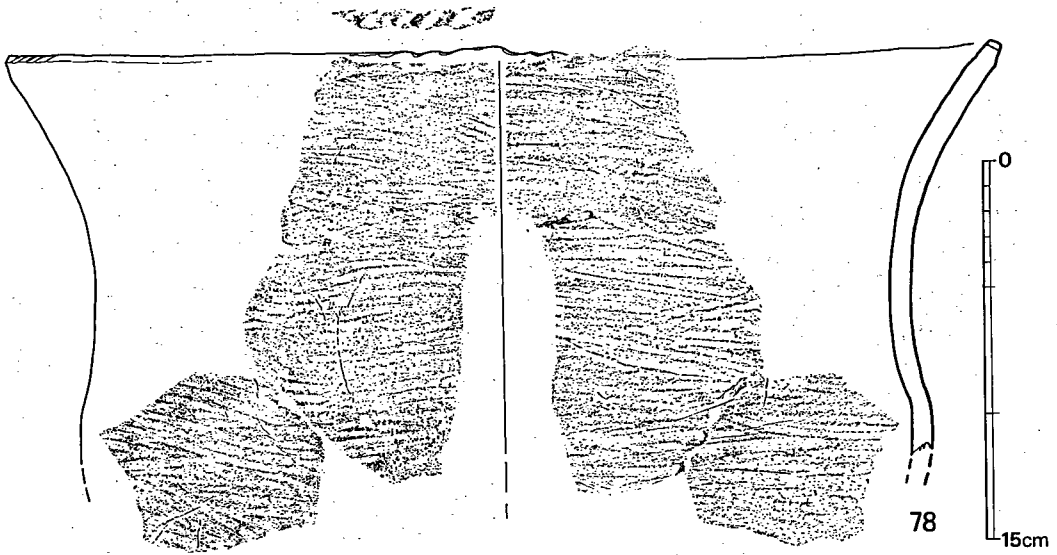
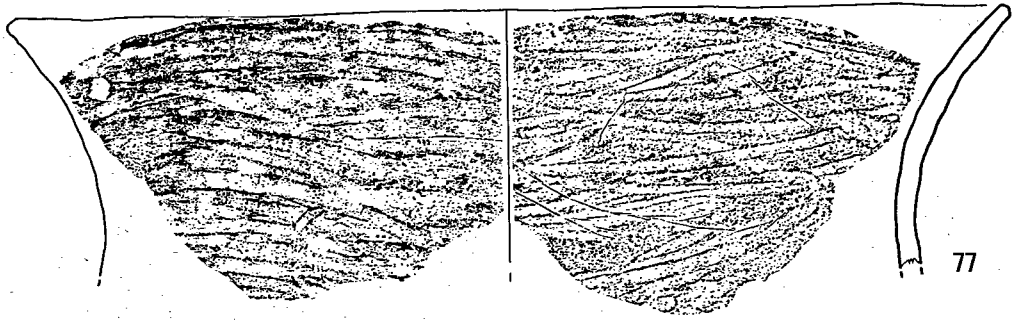
第136图 石町2号住居跡出土土器拓影5 (1/3)



第137图 石町2号住居跡出土土器拓影6 (1/3)



第 138 图 石町 2 号住居跡出土土器拓影 7 (1/3)



第 139 図 石町 2 号住居跡出土土器拓影 8 (1/3)

器。126・127のように、口縁部が内彎気味で幅の広い文様帯をもつものと、115・116・119・125のように、外反する口縁部が端部で僅かに肥厚気味になりやや幅の広い文様帯をもつもの、さらに122～124のように、口縁部が外反して端部が肥厚せず、なかには口唇上面に疑似縄文が施文されるものがある。

描かれる文様は平行沈線やこれに似た横走る文様が多く、沈線で区画された部分に疑似縄文を充填施文している。122・131では胴部上側の界線に沿った列点文がみられる。

また119・122の口縁部にはS字状・逆S字状の貼り付けがある。

なお、122は胴部に疑似縄文が無く7類に近い。128は胴部文様帯の上側界線以外には疑似縄文のみ施文されている。

3類 (84・132～136・139・143～148・150～161・169) 沈線で区画される文様があり、区画内にヘナタリ疑似縄文が施文される土器。136・143・145～147・160のように、口縁部が内彎気味で幅の広い文様帯をもつものと、132～135・144・148・161のように、外反する口縁部が端部で僅かに肥厚気味になりやや幅の広い文様帯をもつものがある。また84は外反する口縁部と肩部に疑似縄文が施文されて横走る沈線と渦文の退化した弧文がみられる。

描かれる文様は平行沈線やこれに似た横走る文様が多く、波頂部などに渦文の退化した入組文などもあるが、沈線で区画された部分に疑似縄文を充填する144・160・161のような例もあり、さきに疑似縄文を施文して区画内を磨消さないものが多い。169は内彎する口縁部をもつ椀ないしは浅い鉢であろう。

139は口縁部が外反して拡張された口唇部上面に疑似縄文が施文され、3本単位の平行沈線は口唇部から胴部に垂下する。

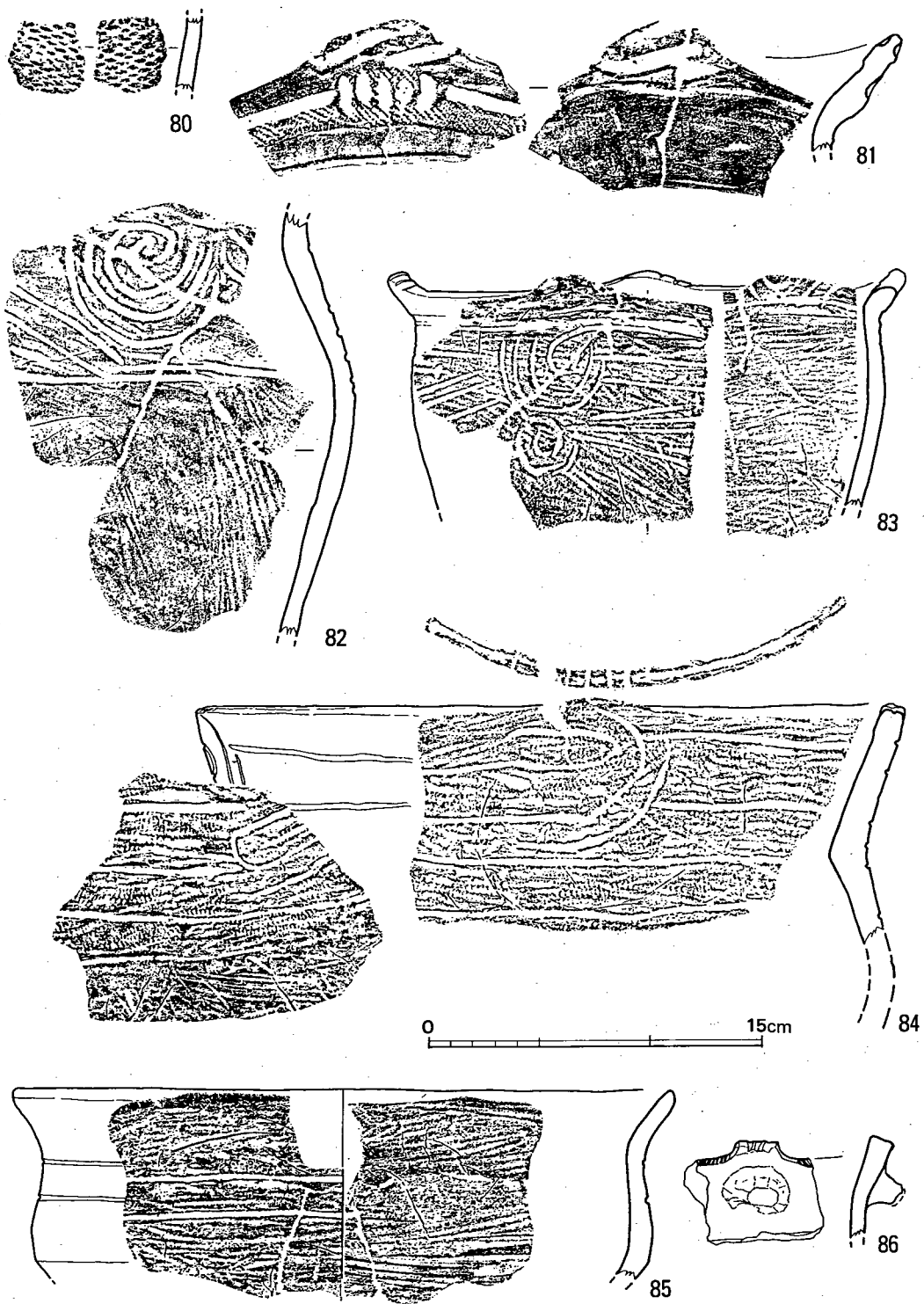
胴部の文様では直線的な文様もあるが、山形文、渦文の退化したJ字文や三角形空間の名残をとどめるものなどがみられる。

161の口縁部には渦文状の貼り付けがある。また160では胴部上側の界線に沿って、143は口縁部に沿って列点が施されている。

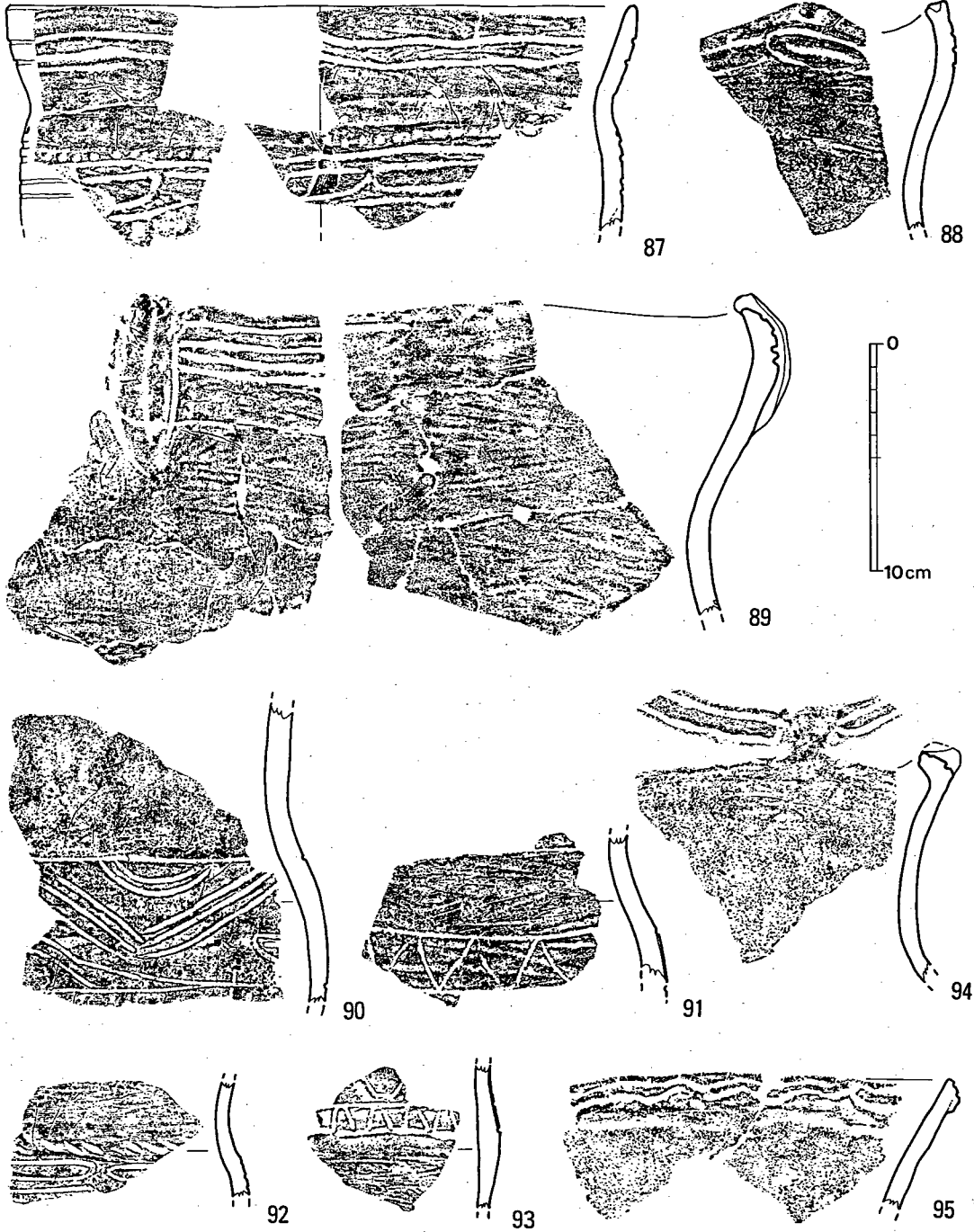
4類 (99・100・106) 沈線文などをもたずに、縄文が施文される土器。99・100は口縁部が内彎し、幅広に縄文が施文されている。106は口唇部上面に縄文が施文され、胴部文様帯の上側に列点がある。

5類 (137・138・140～142・149) 沈線文などをもたずに、ヘナタリ疑似縄文が施文される土器。3類と同じような口縁部の特徴がある。

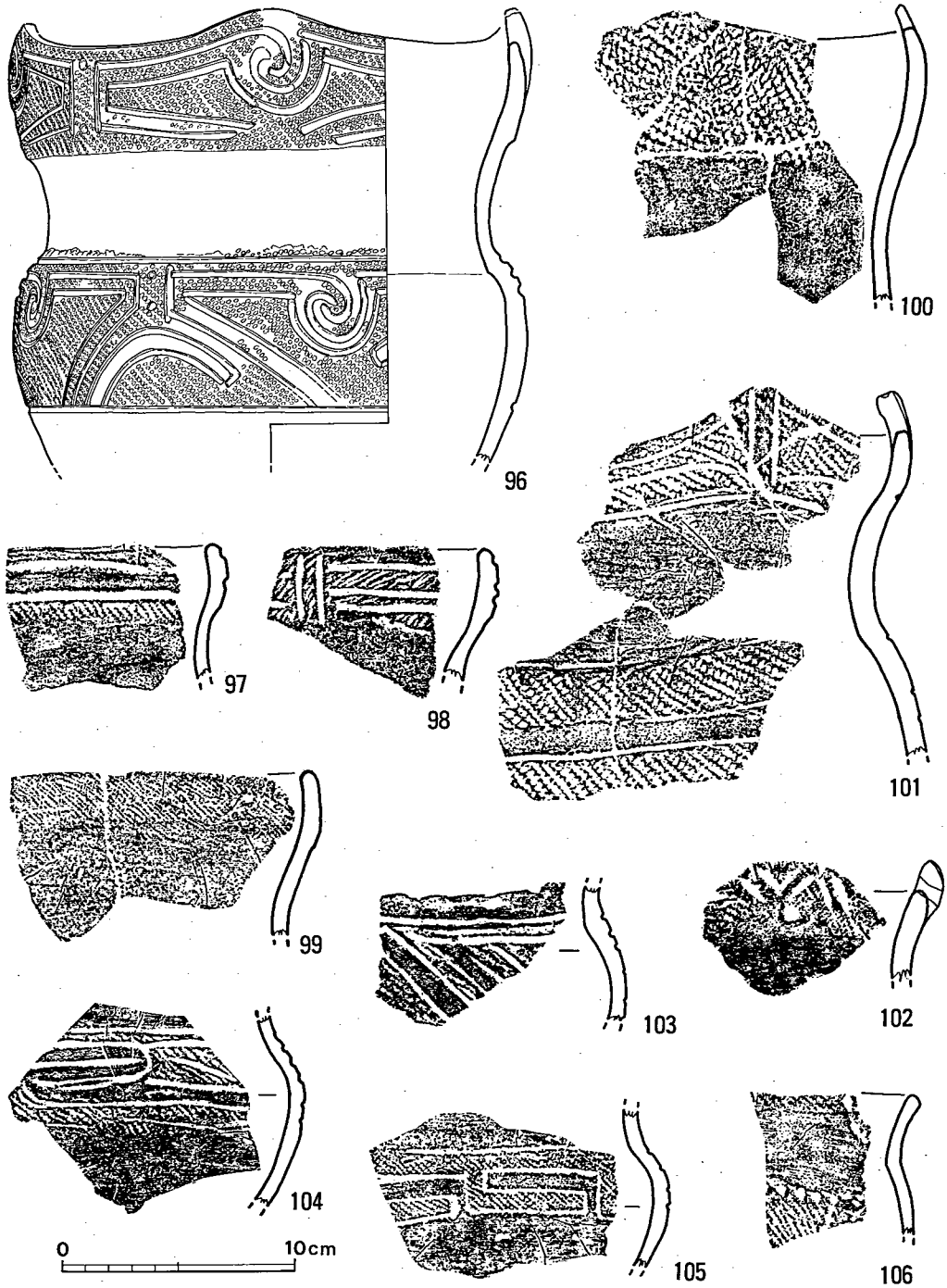
6類 (85～95・162～165) 沈線のみで文様が描かれる土器。基本的には1～3類にみる口縁部形態と文様の特徴が同じである。165は脚台付きの鉢で、台部分には4孔があり、界線に沈線と刺突列点がある。皿状の浅い鉢の内面に描かれる文様は、2条の平行沈線の間には2条単位の山形文を埋める文様である。



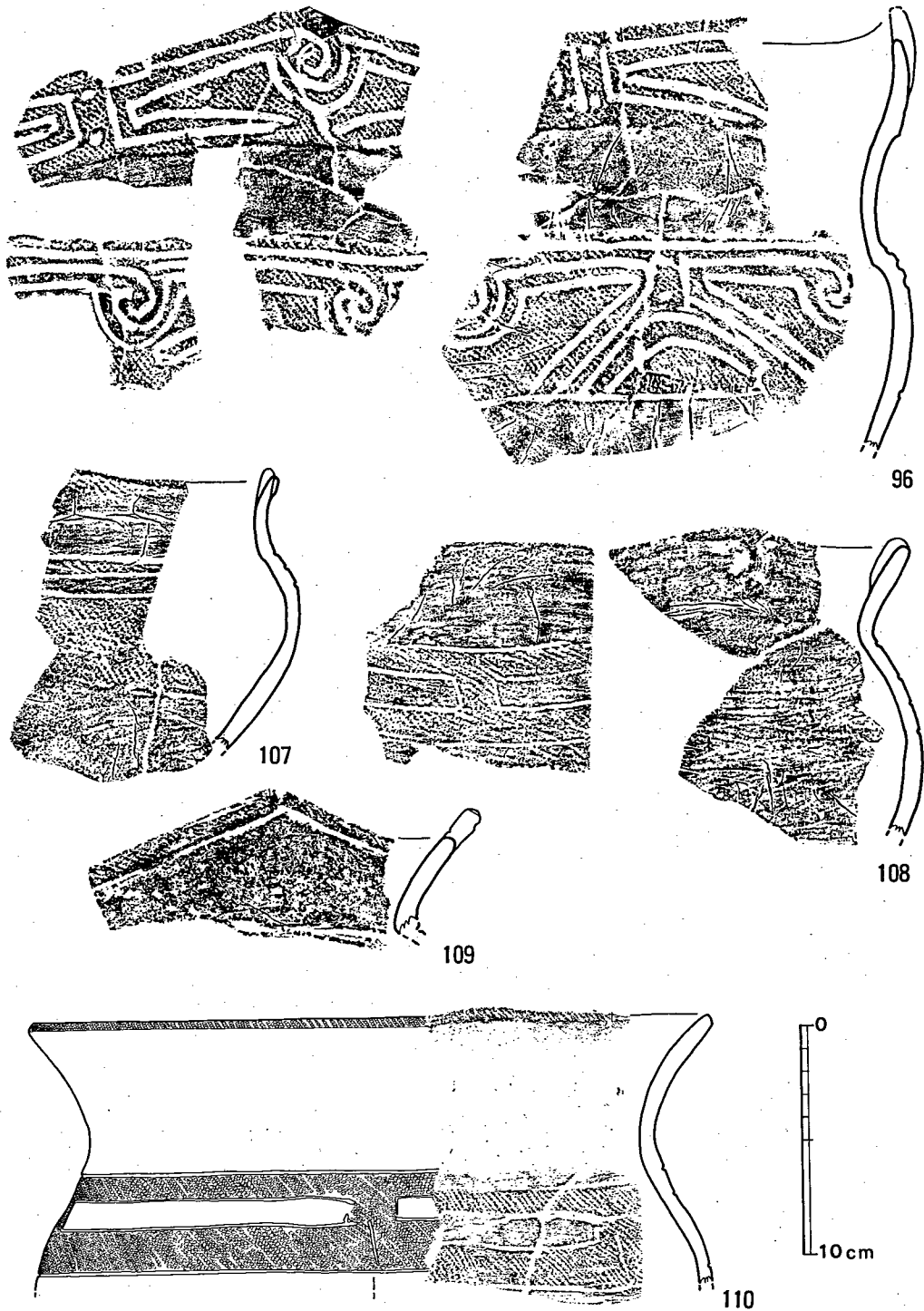
第140图 石町2号住居跡出土土器拓影9 (1/3)



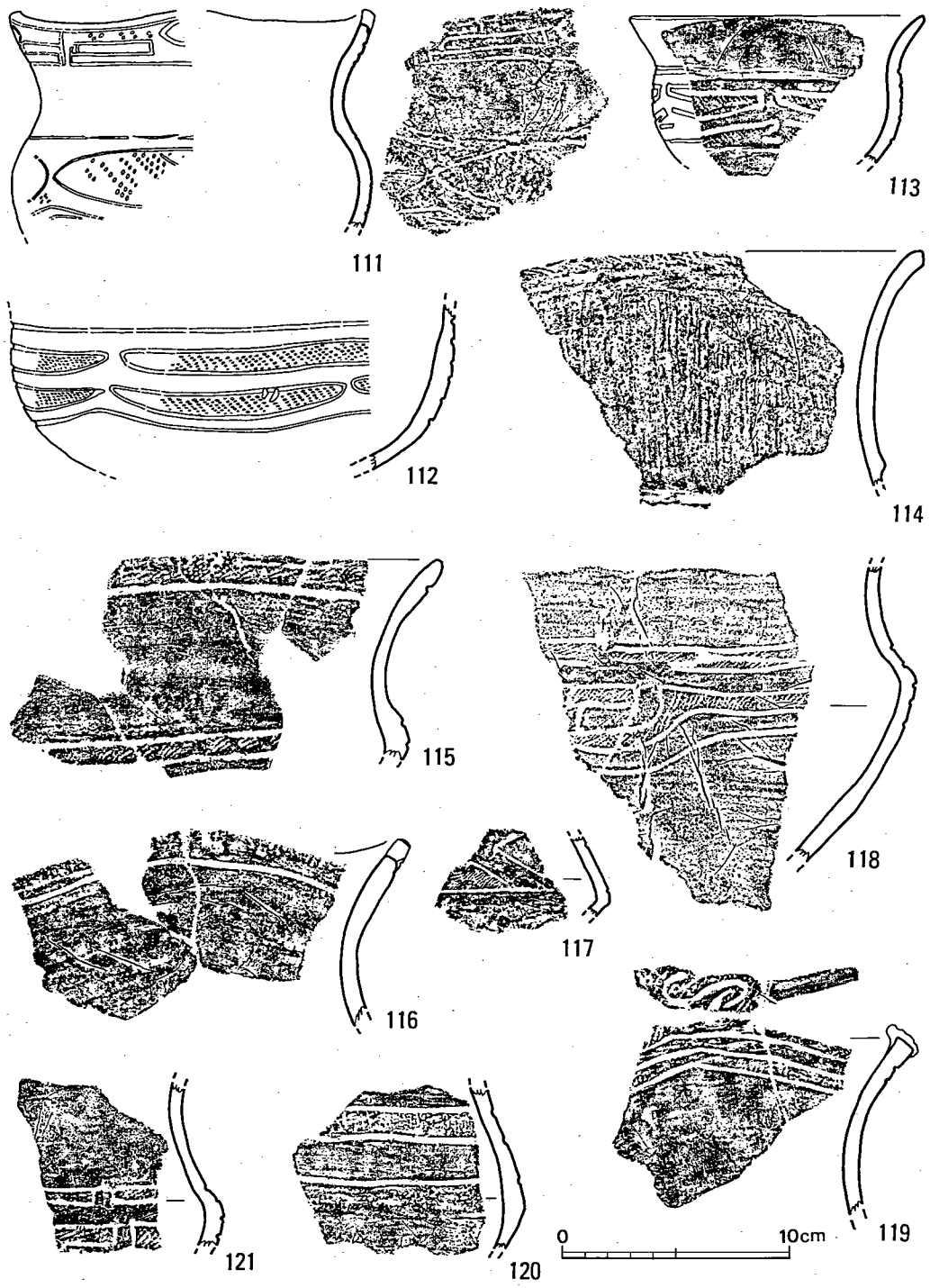
第141图 石町2号住居跡出土土器拓影10 (1/3)



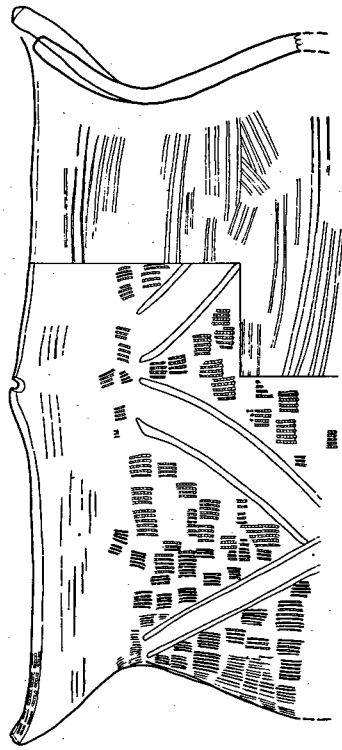
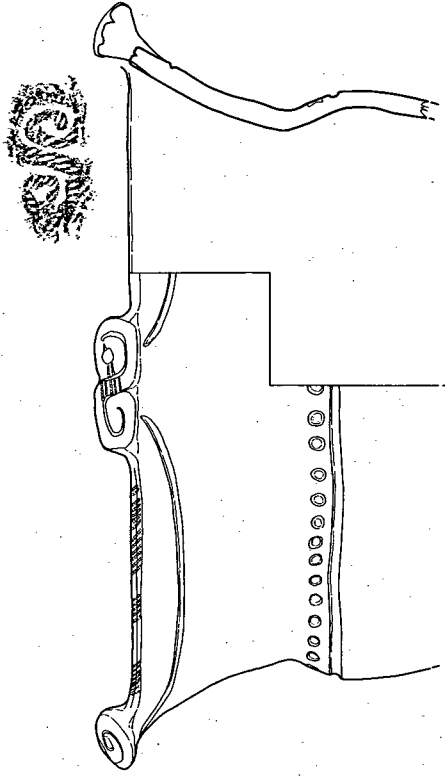
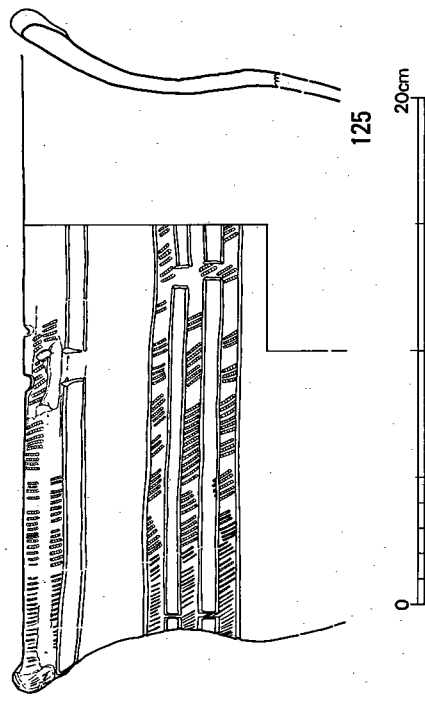
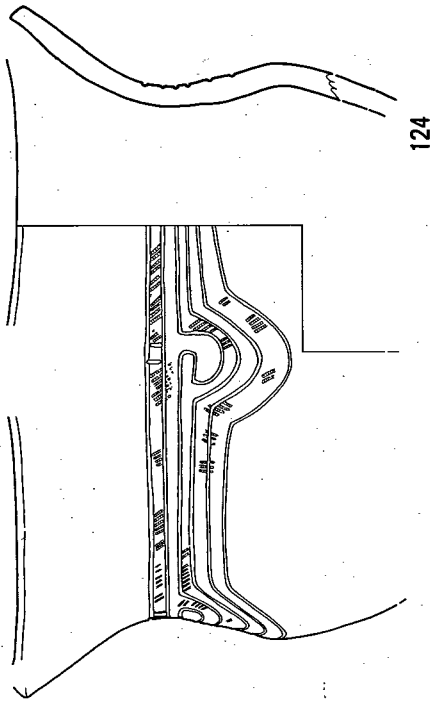
第 142 图 石町 2 号住居跡出土土器拓影 11 (1/3)



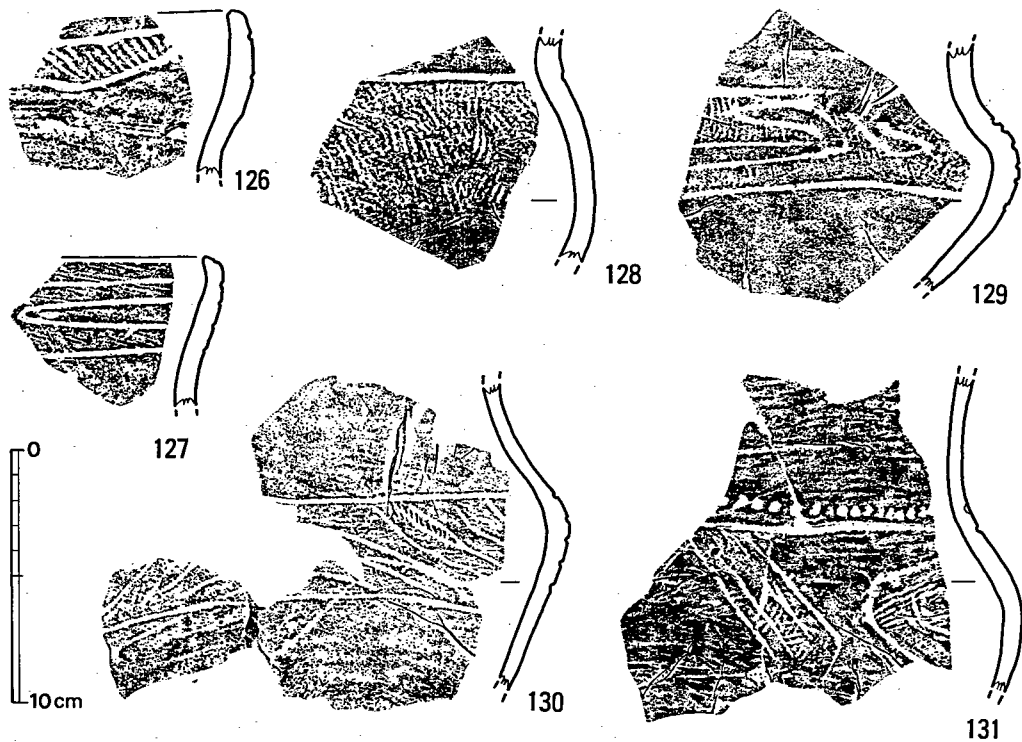
第 143 图 石町 2 号住居跡出土土器拓影 12 (1/3)



第 144 图 石町 2 号住居跡出土土器拓影 13 (1/3)



第145图 右町2号住居跡出土土器拓影14 (1/3)



第146図 石町2号住居跡出土土器拓影15 (1/3)

7類 (171・174~199) 条痕およびナデで調整される、いわゆる条痕土器・無文土器。このうち172~177は研磨調整される鉢と椀・皿形の小型の土器である。鉢の172・173は直線的に外に開く口縁部の端部内面に沈線の巡るもので、172では羽状文状の短沈線が並ぶ。174は口縁部が内傾して反る浅い鉢である。

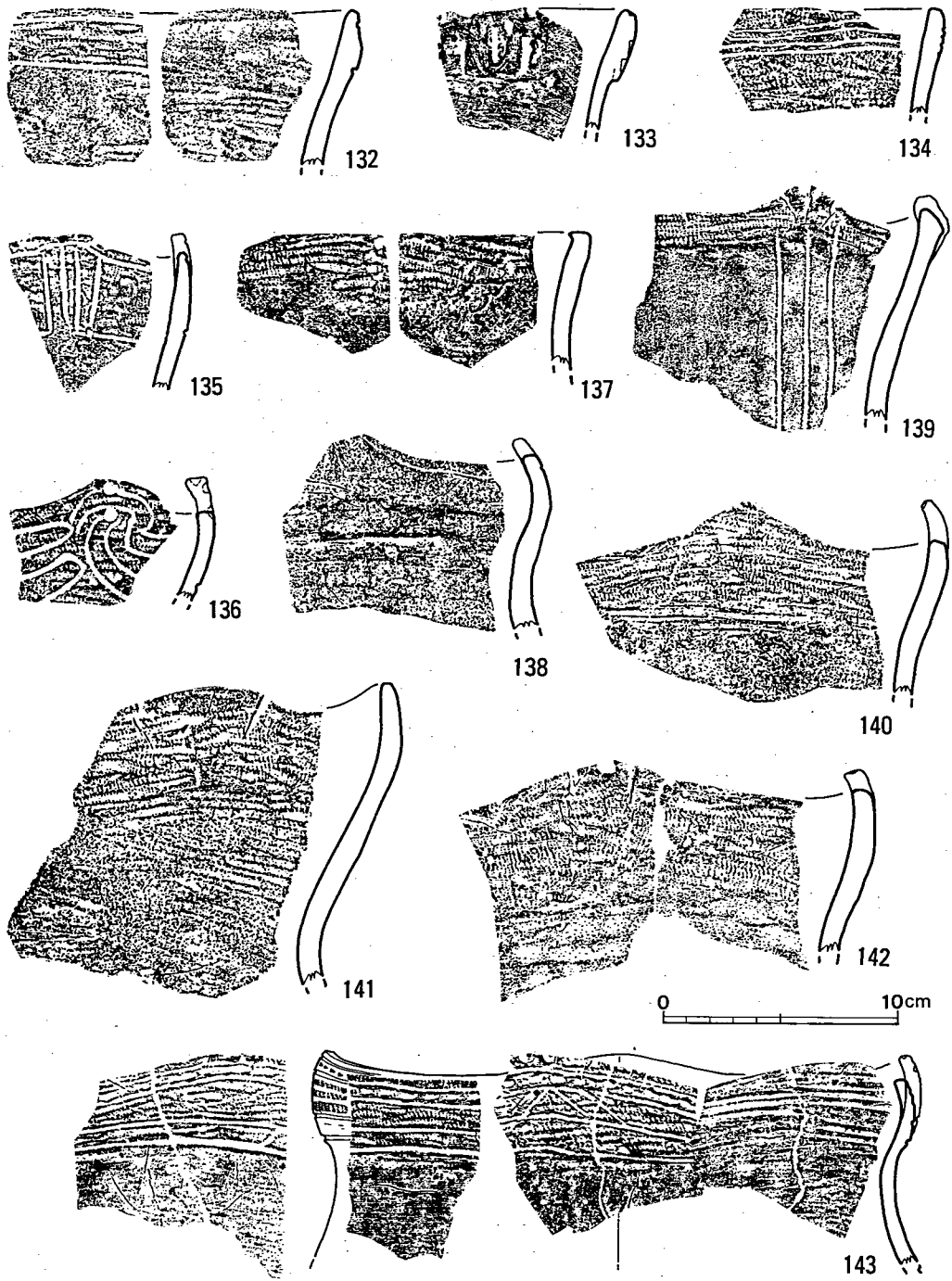
178~192は口縁部が外反する、194~196は口縁部が内彎する、197~199は外反する口縁部が内彎気味の口縁部形態の土器である。

調整手法では、180は細密条痕で調整される土器。178・181~184・195・196はヘナタリ条痕の後ナデが加わる。187は条痕がそのまま研磨調整の効果を生じているものである。185・186・188~193・197~199はナデ調整される土器で、うち190は研磨に近い。185・191・192・194は口唇部に刻み目が付けられ、193は口縁部下に巡る突帯に刻み目が付いている。

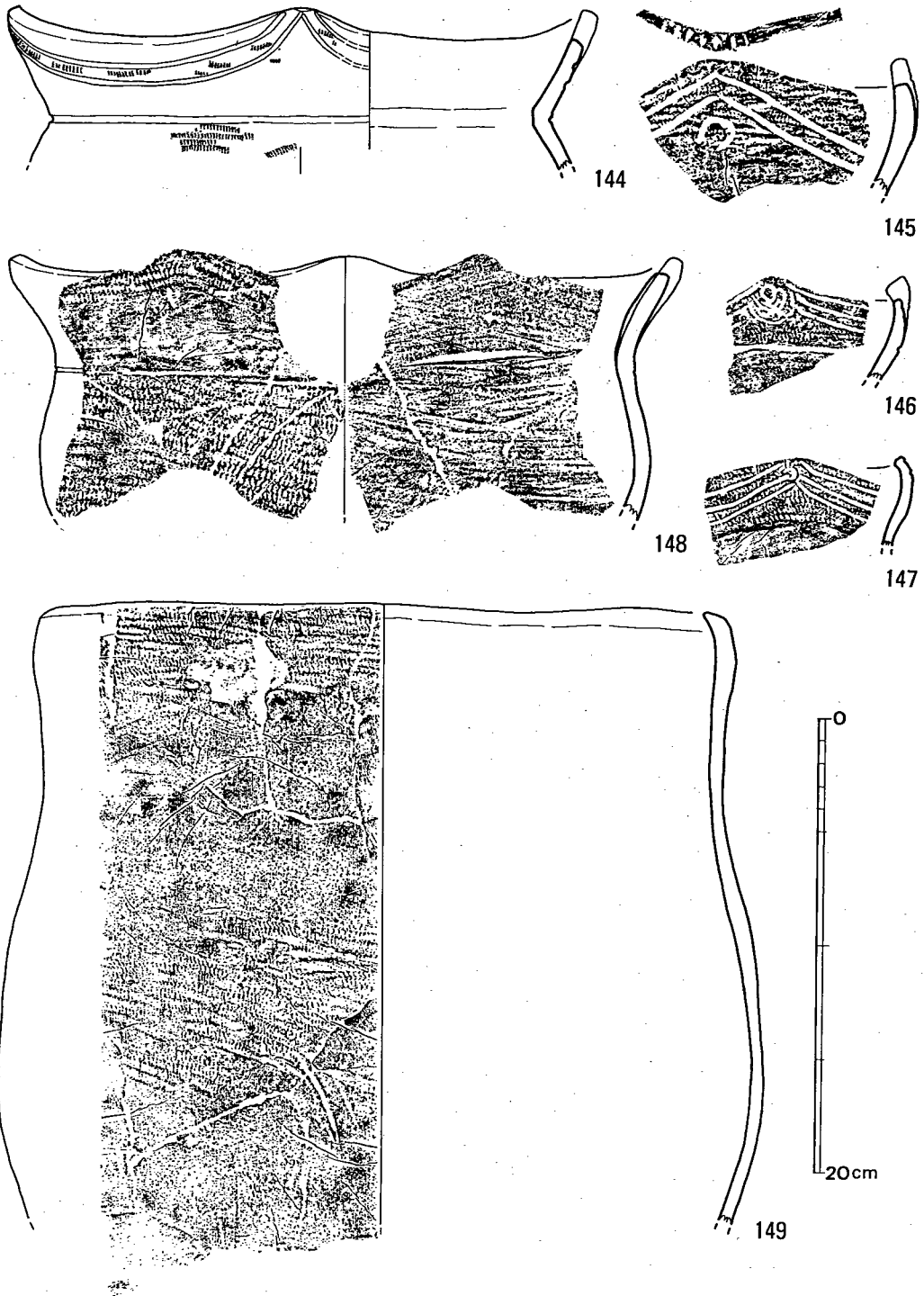
上層出土土器 (200~240)

200~206は7号住居跡床面出土、207~239は6号住居跡床面出土、240は5号住居跡床面出土の土器である。

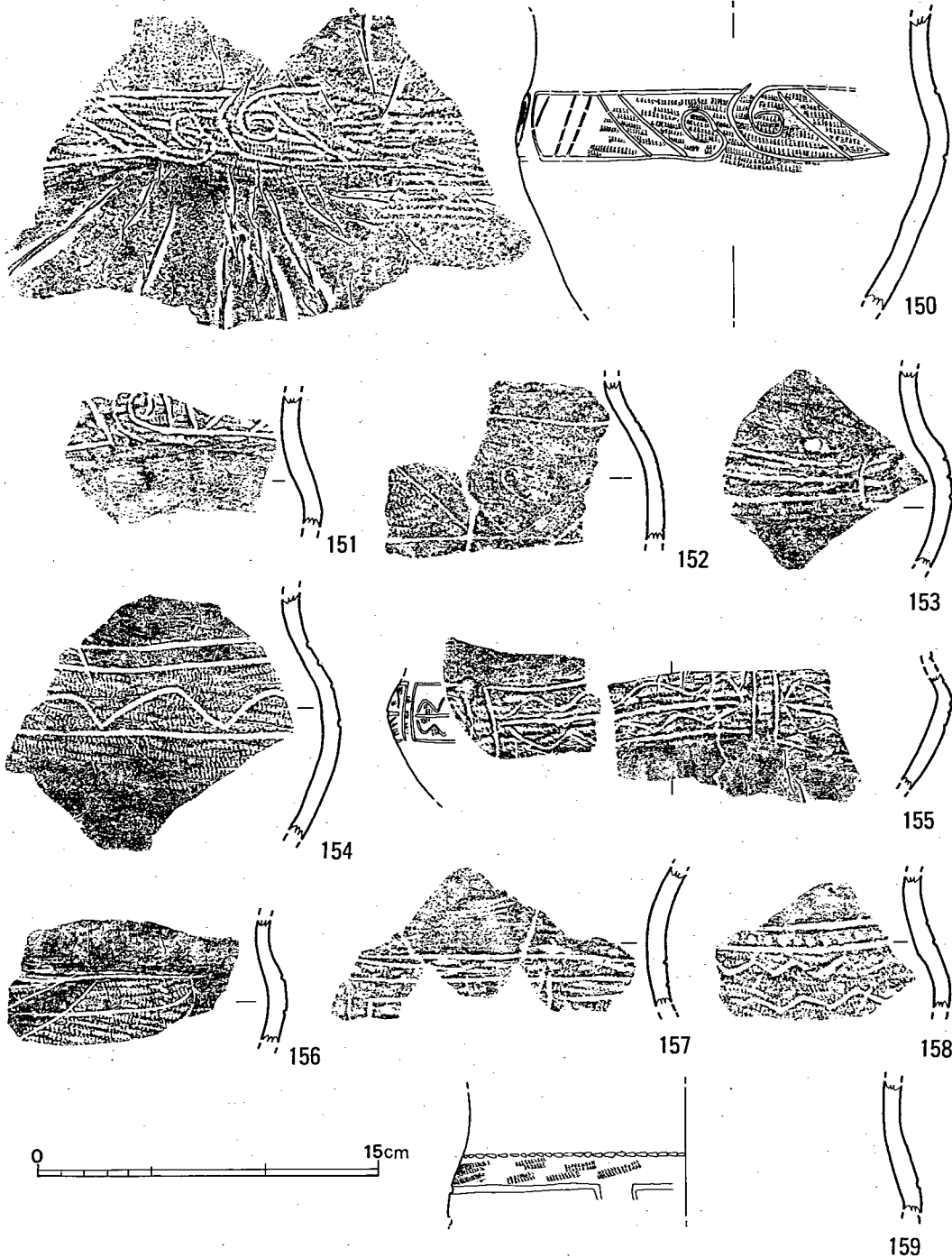
1類 (208~213) 沈線で区画される文様があり、区画内に縄文が施文される土器。208は内彎する口縁部をもち、やや幅の広い文様帯に平行沈線状の文様が描かれる。沈線で区画された部



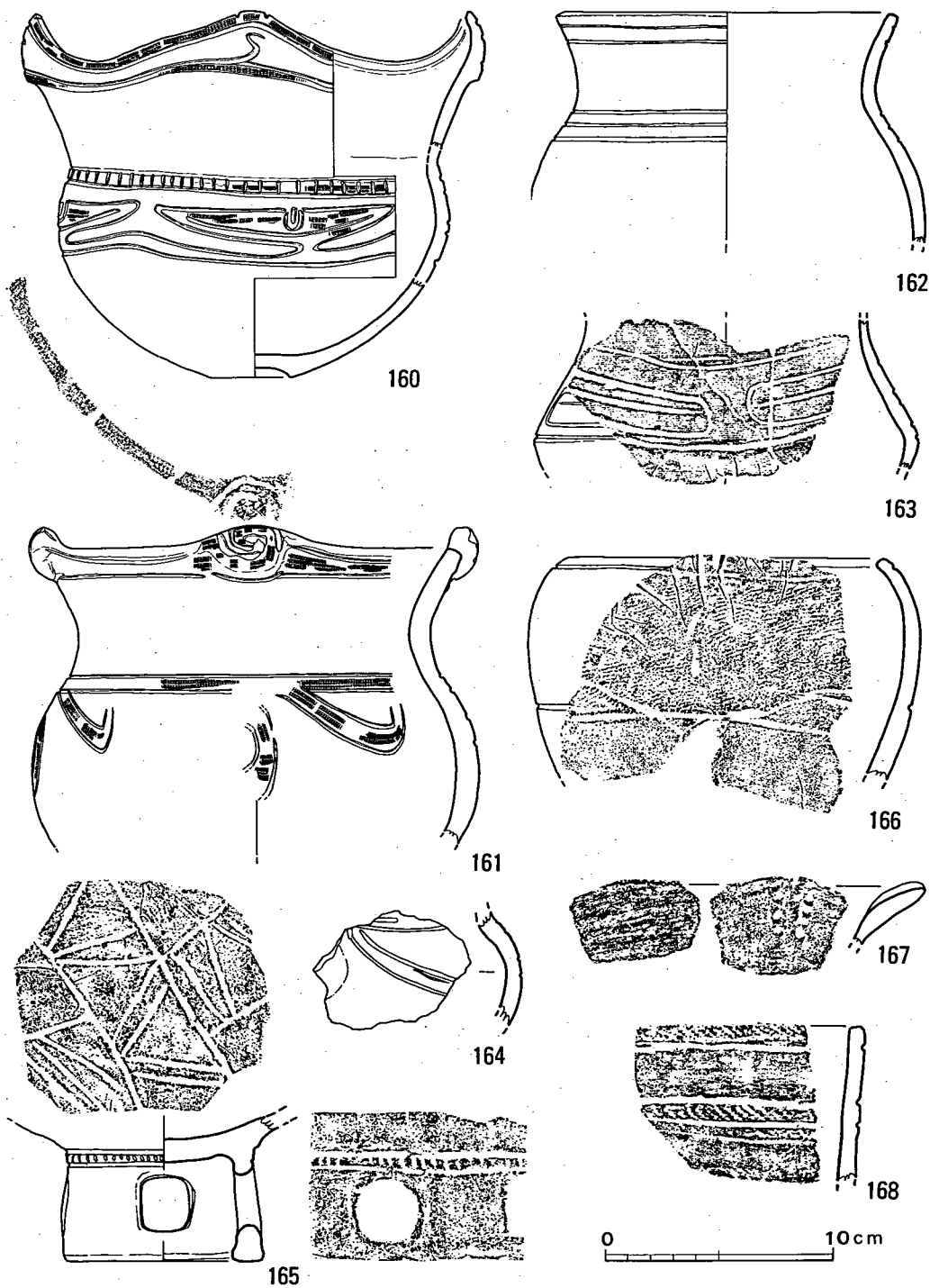
第147图 石町2号住居跡出土土器拓影16 (1/3)



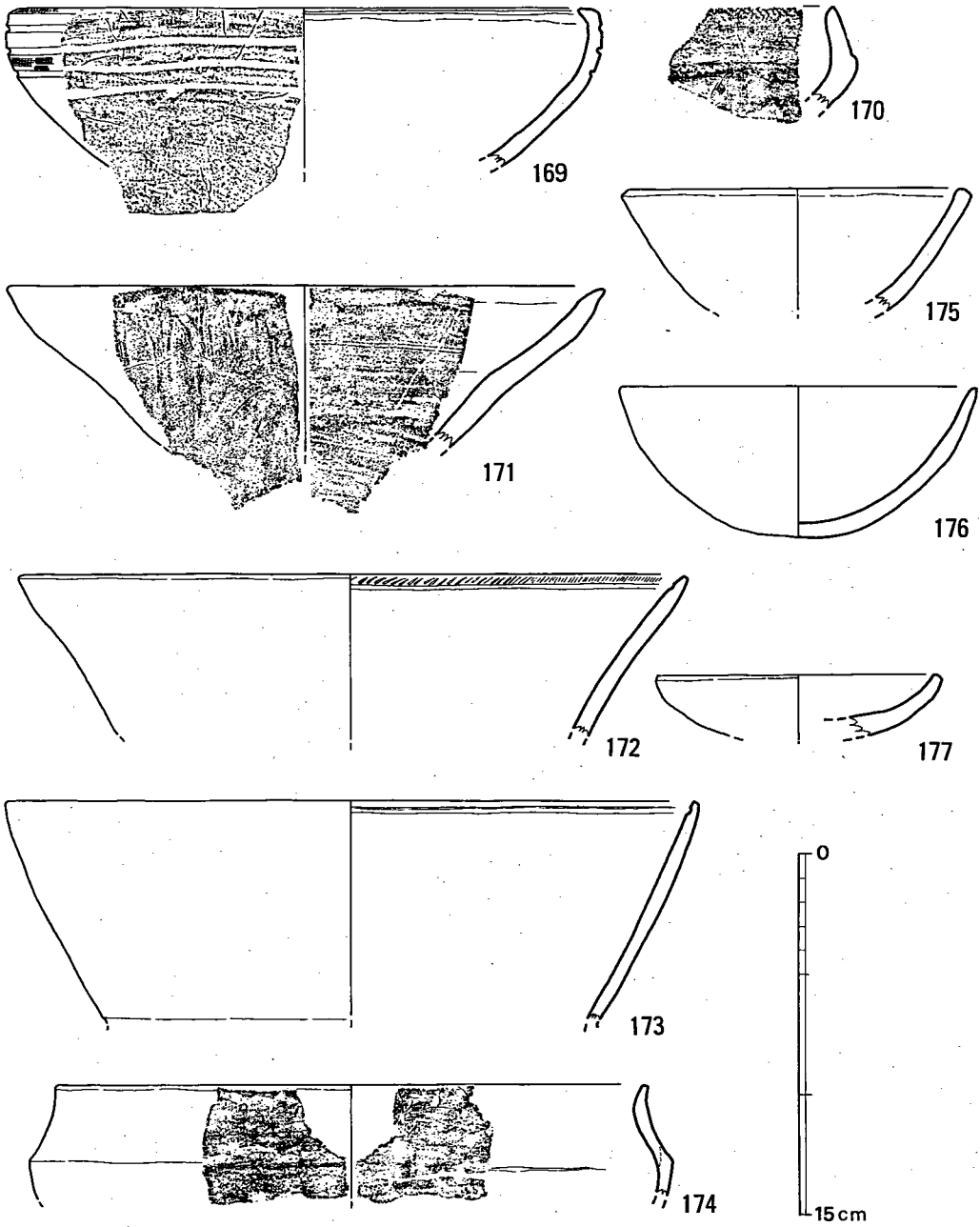
第148图 石町2号住居跡出土土器拓影17 (1/3)



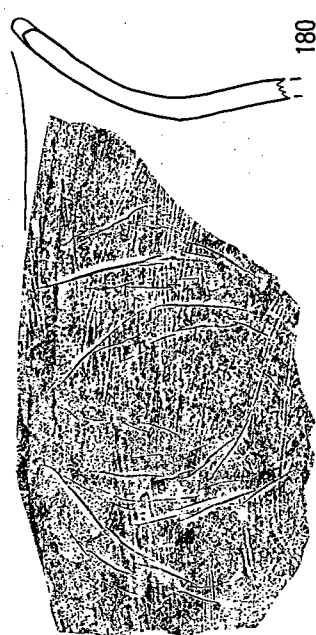
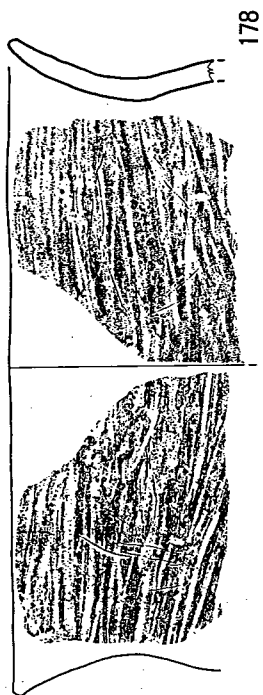
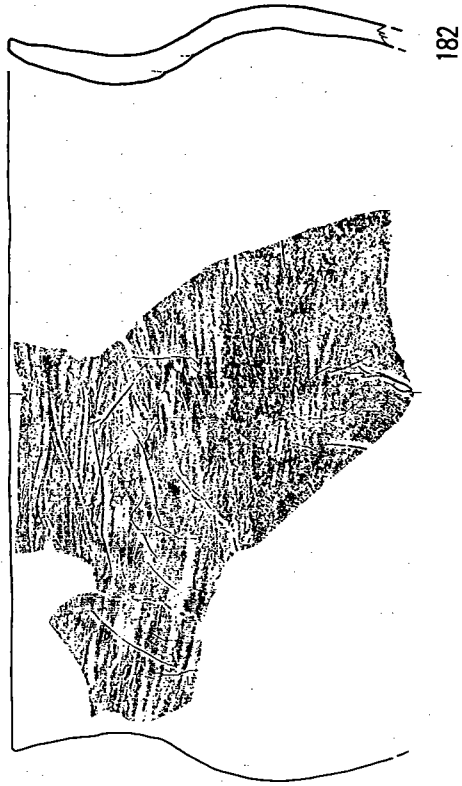
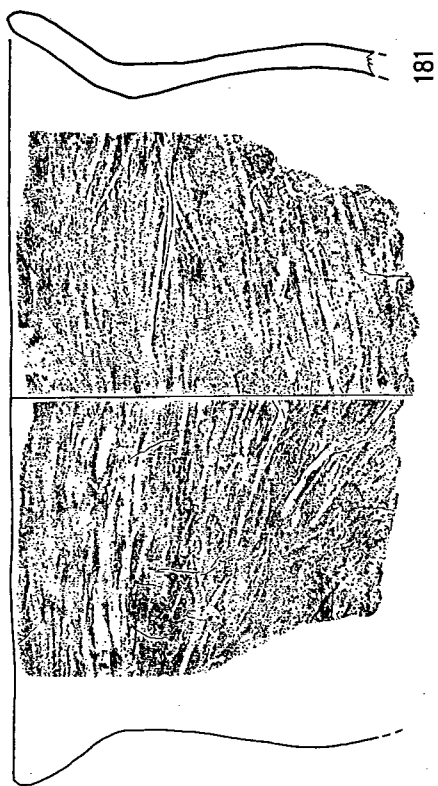
第 149 图 石町 2 号住居跡出土土器拓影 18 (1/3)



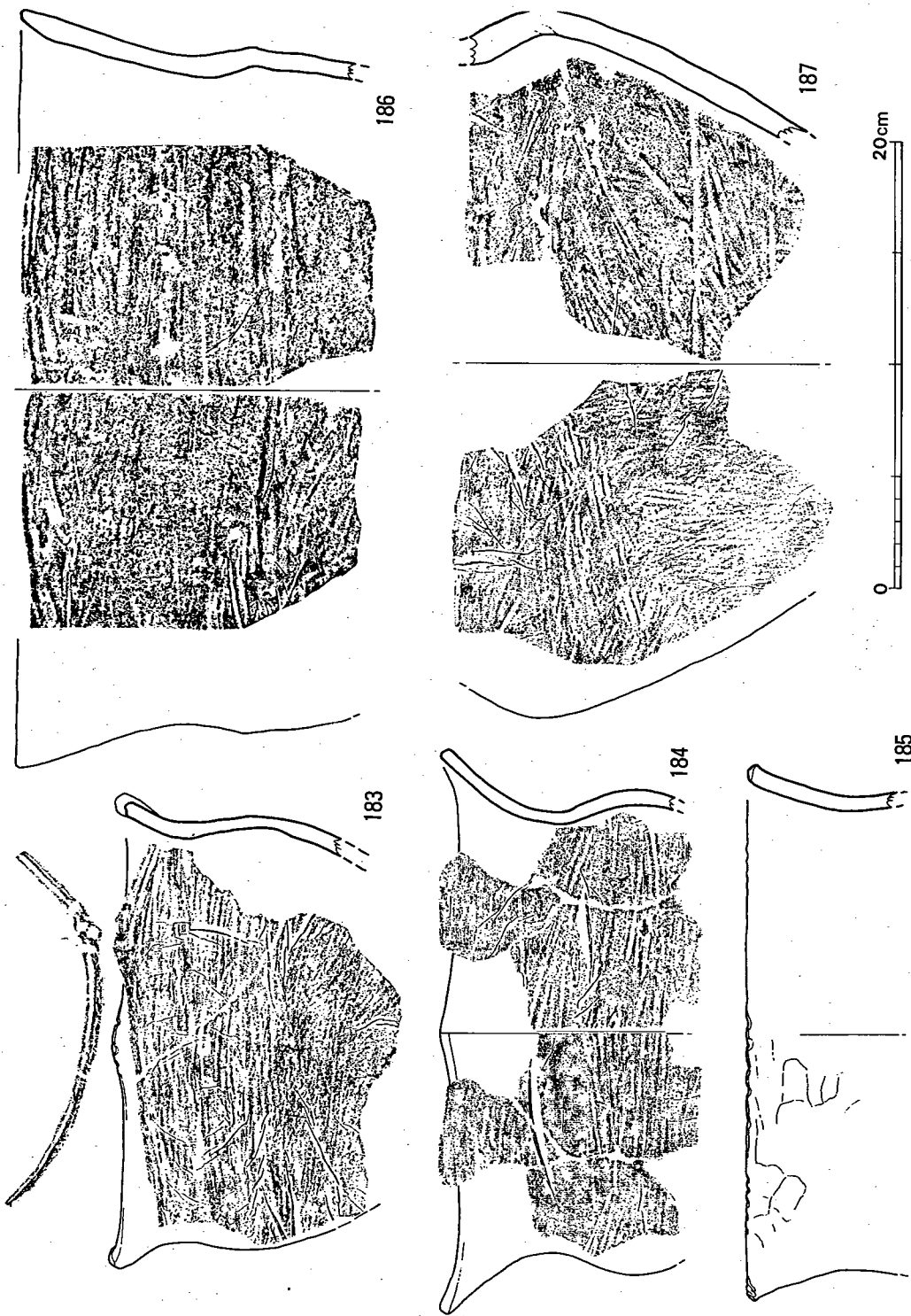
第 150 図 石町 2 号住居跡出土土器拓影 19 (1/3)



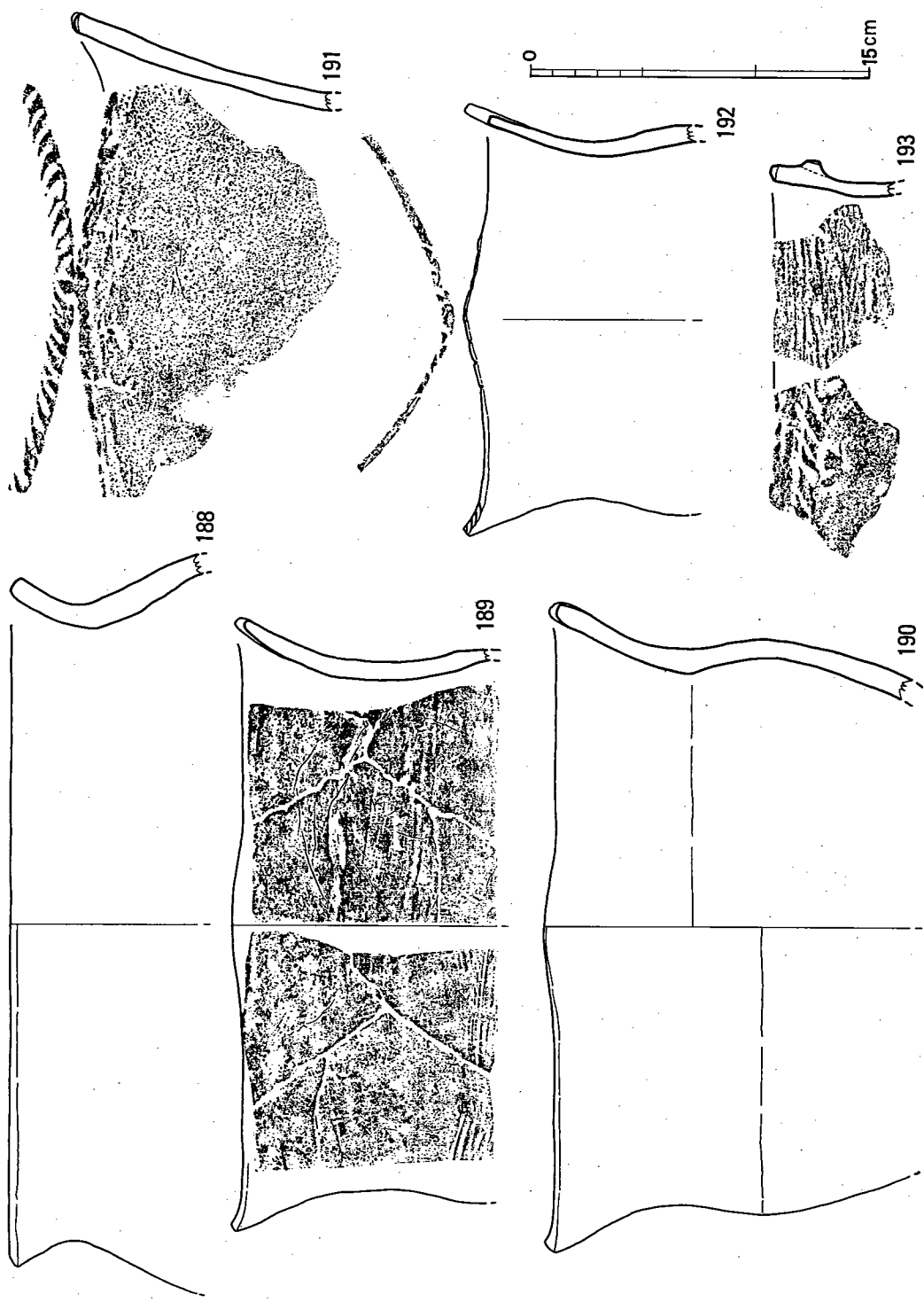
第151图 石町2号住居跡出土土器拓影20 (1/3)



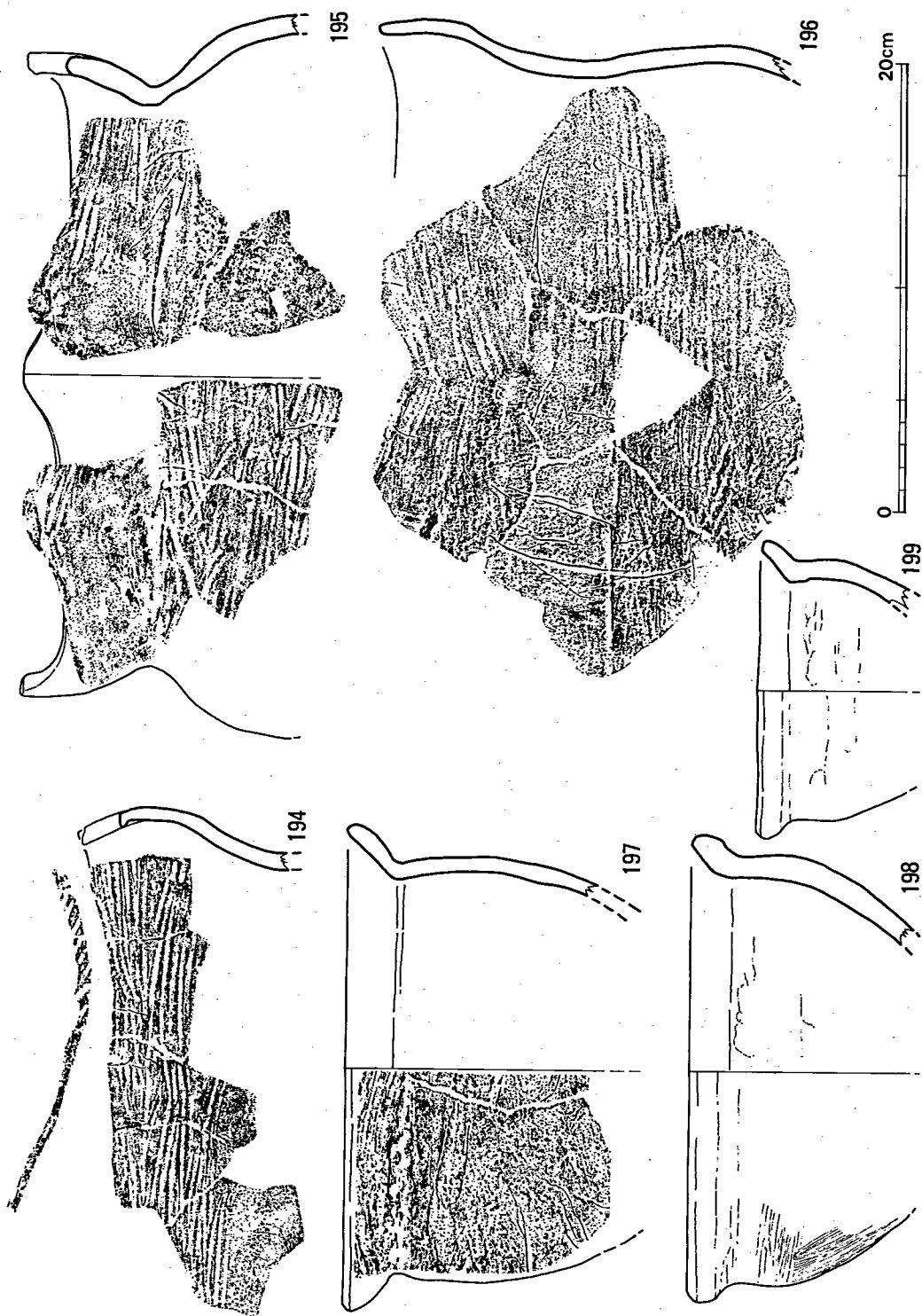
第152图 石町2号住居跡出土土器拓影21 (1/3)



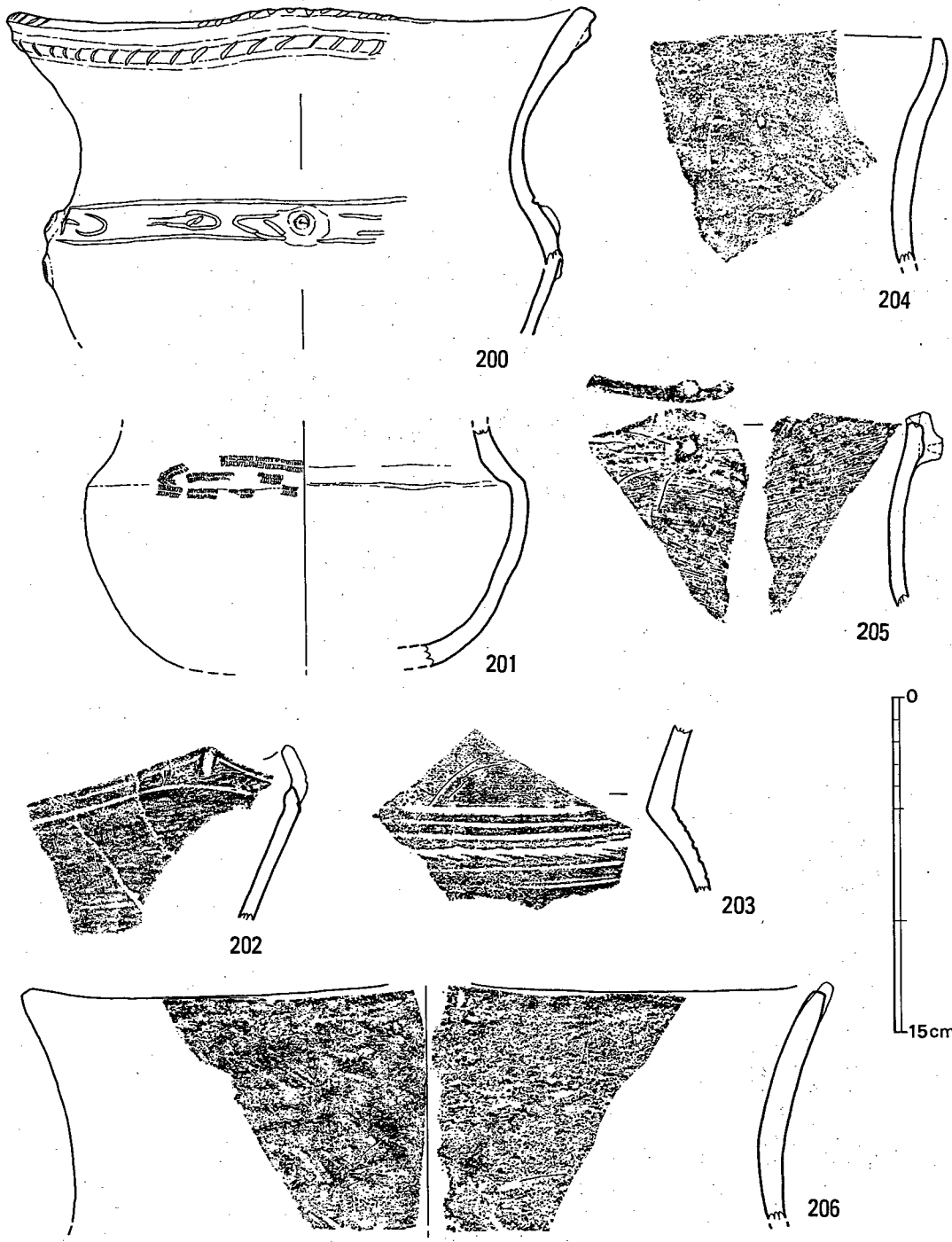
第 153 图 石町 2 号住居跡出土土器拓影 22 (1/3)



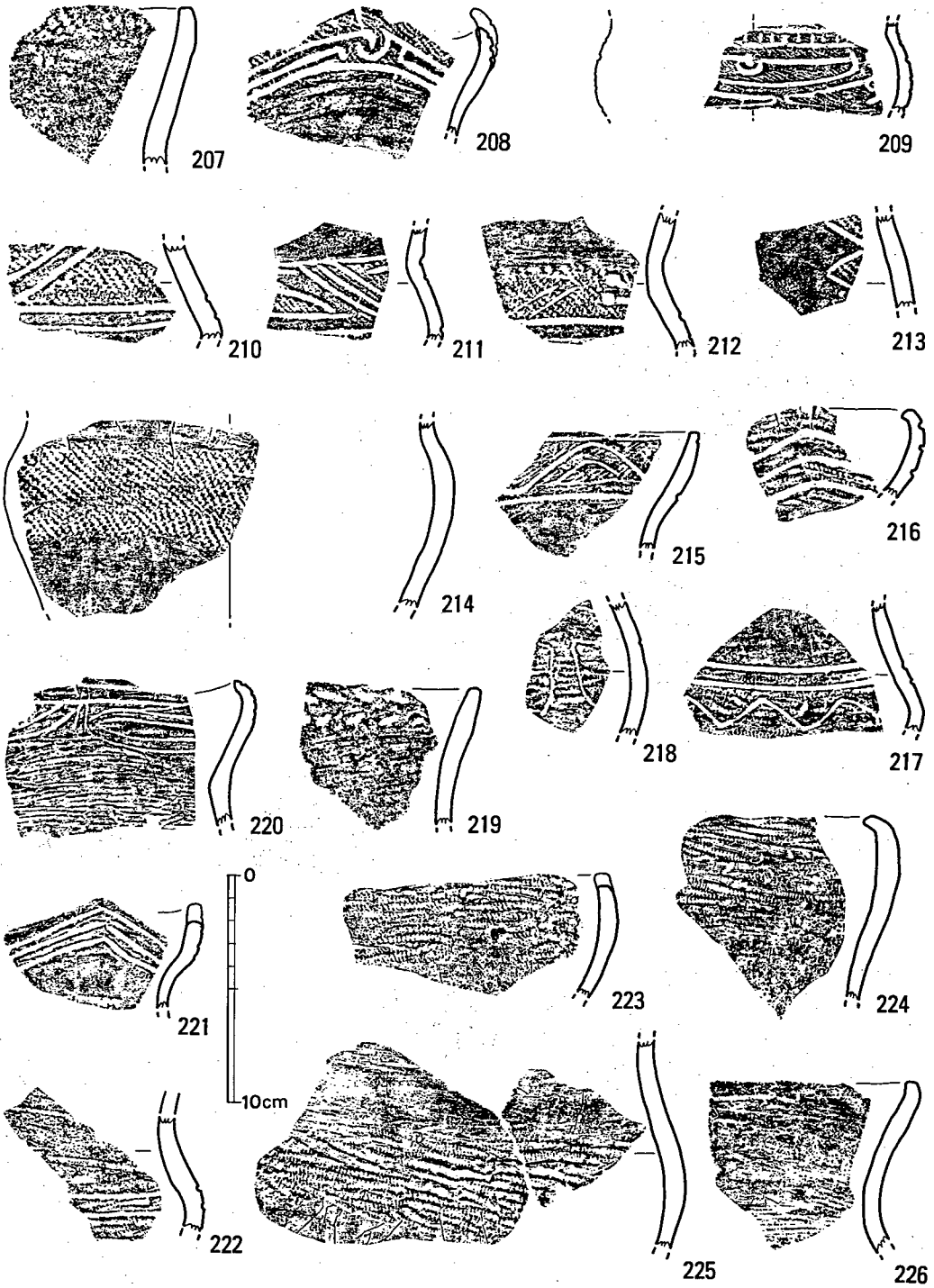
第 154 图 石町 2 号住居跡出土石器拓影 23 (1/3)



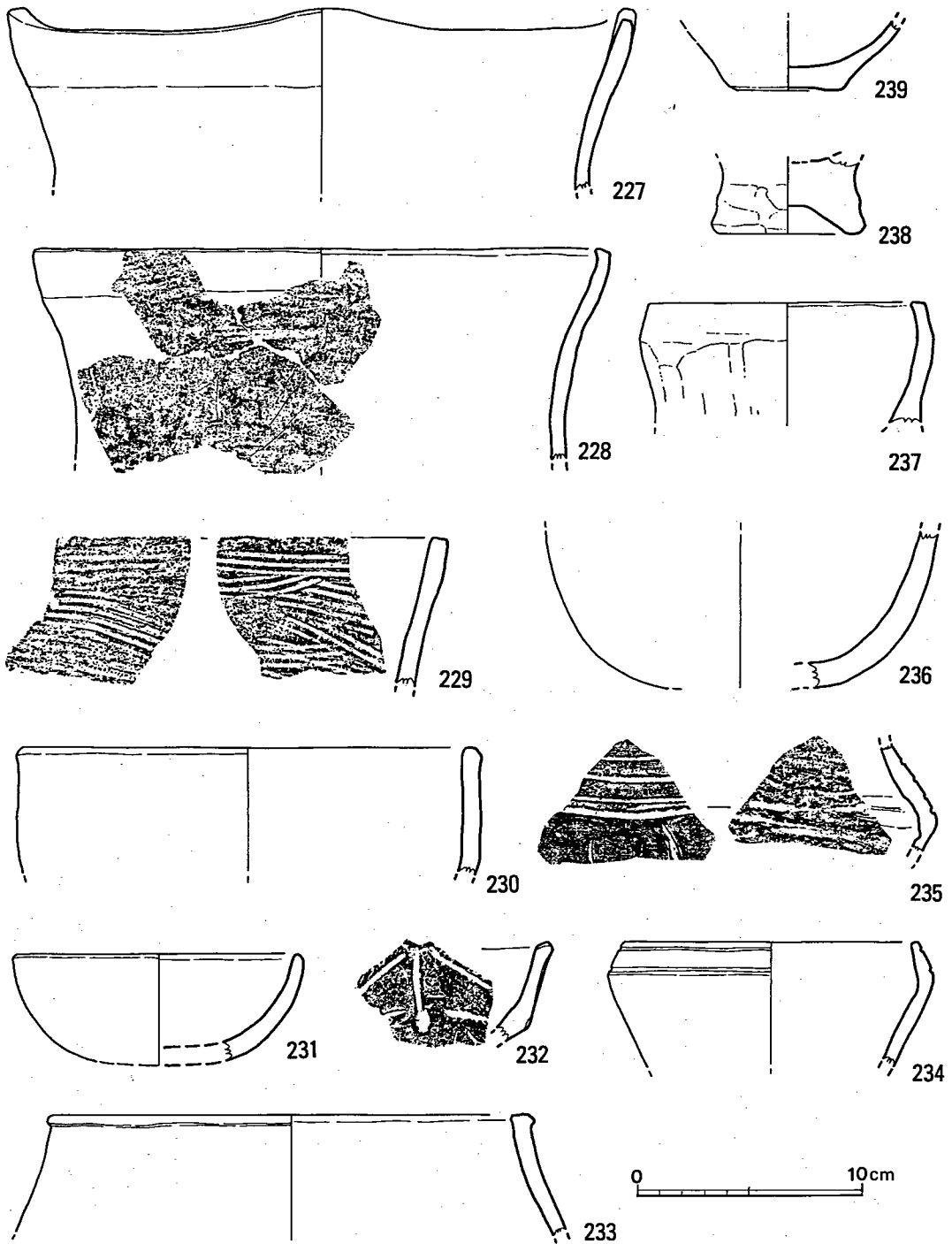
第155图 石町2号住居跡出土土器拓影24 (1/3)



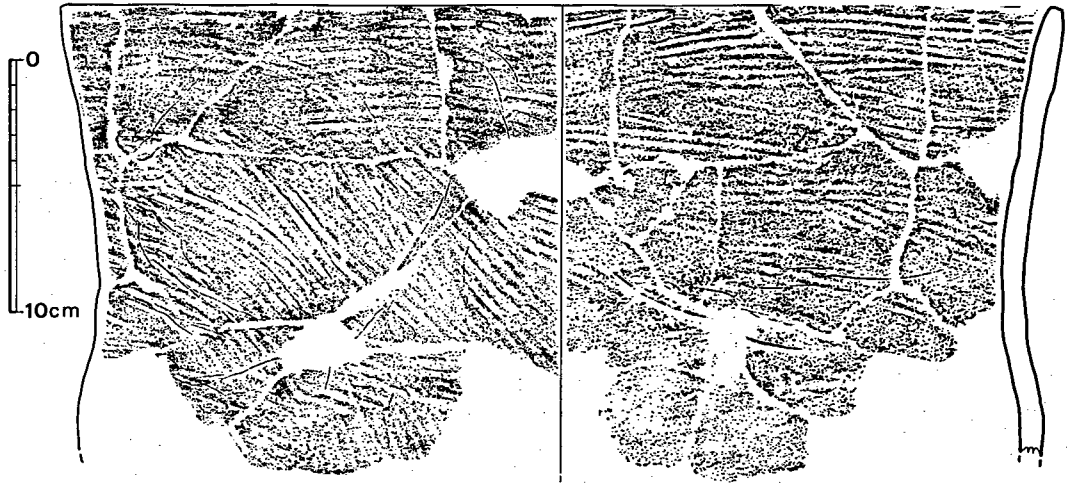
第156图 石町2号住居跡上層出土土器拓影1 (1/3)



第157图 石町2号住居跡上層出土土器拓影2 (1/3)



第 158 图 石町 2 号住居跡上層出土土器拓影 3 (1/3)



第159図 石町2号住居跡上層出土土器拓影4 (1/3)

分を磨消縄文にするものと、しないもの、磨消しが中途半端なものがある。

2類 (215) 沈線で区画される文様があり、区画内にアナグラ疑似縄文が施文される土器。口縁部が内彎気味で幅の広い文様帯をもつ。

3類 (216~218・220~222) 沈線で区画される文様があり、区画内にヘナタリ疑似縄文が施文される土器。216・220・221のように、口縁部は内彎気味で幅の広い文様帯をもつ。胴部では、横走る沈線と山形文がみられる。疑似縄文を施文して区画内を磨消させないものが多い。

4類 (207・214) 沈線文などをもたずに、縄文が施文される土器。

5類 (201・223~225) 沈線文などをもたずに、ヘナタリ疑似縄文が施文される土器。3類と同じような口縁部の特徴がある。

6類 (200・202・203・232・234・235) 沈線のみで文様が描かれる土器。基本的には1~3類にみる口縁部形態と文様の特徴が同じである。

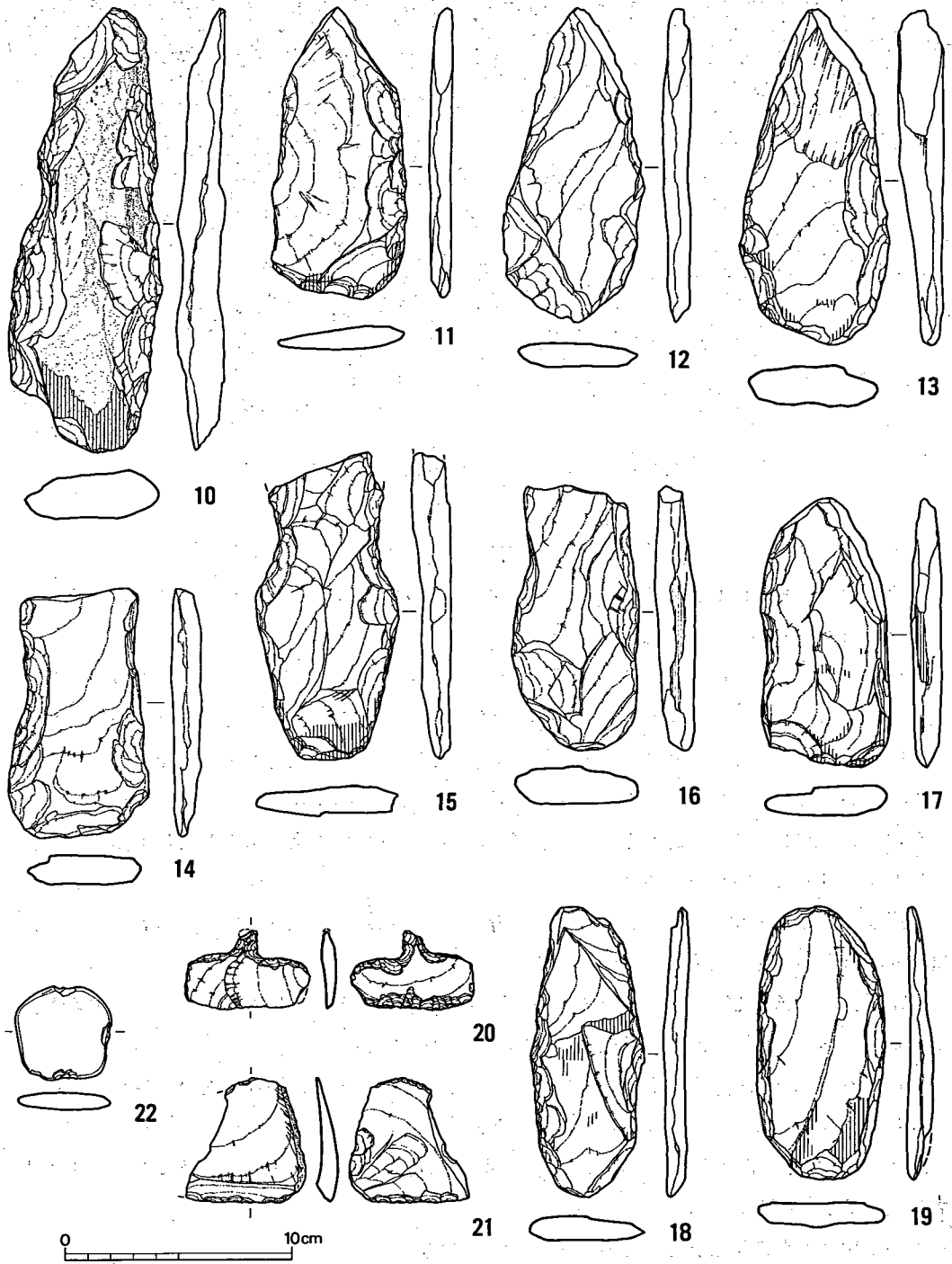
7類 (204~206・227~231・233・237・240) 条痕およびナデで調整される、いわゆる条痕土器・無文土器。このうち231は研磨調整される小形の椀である。

204・206・227・228・230・233・237はナデ調整される土器で、口縁部が内彎するもの、外反するもの、直に立つもの、内傾するものなどがある。

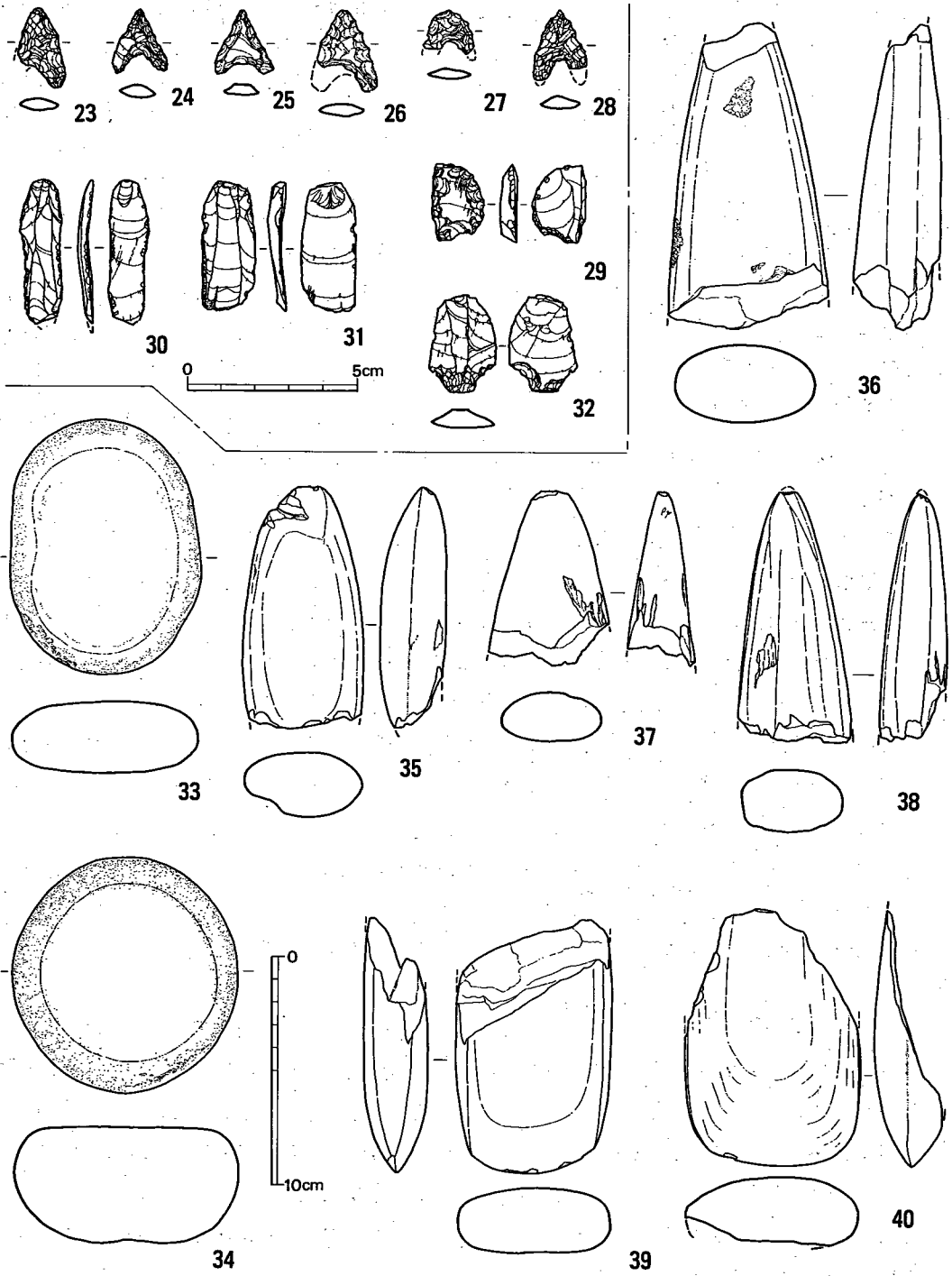
205は細密条痕で調整される土器で、低い突帯が口縁部に沿って巡り、波頂部は円形の貼り付けが付いて小さな刺突をもつ。

229・240はアナグラ条痕で内外面を調整する鉢である。

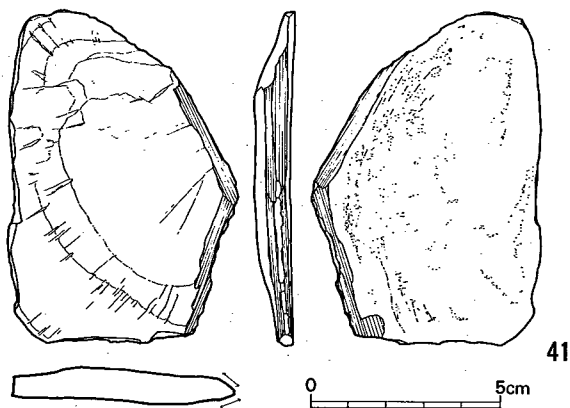
石器 (図版67・68, 第160~162図, 表28~30)



第160图 石町2号住居跡出土石器実測図1 (1/3)



第161图 石町2号住居跡出土石器实测图2 (1/2·1/3)



第162図 石町2号住居跡出土石器実測図3 (1/2)

うち6点を図示する。いずれも凹基式の、調整剥離の多い石鏃である。27は欠損した先端部を再調整している。

石 錘 (22) 1点出土した。扁平な河原石の両端に抉りのある、打欠石錘である。

削器類 (20・21・29) 8点出土したが、うち3点図示し、20は安山岩製の石匙である。

縦長剥片 (30・31) 6点と上層の5号住居跡床面で1点出土し、うち2点図示する。伊万里湾産と思われる黒色の黒曜石製で、背側の剥離方向は上下両方のものと、一方のものがある。

つまみ形石器 (32) 2点と上層の5号住居跡床面で1点出土したが、1点のみ図示する。

用途不明石器 (41) 安山岩の剥片の縁が、両面とも斜めに擦れて、約60°の角度に残る。擦れる部分は2方向あり、延べ12cm弱の長さにわたり、面がやや内反りになる部分もある。擦り切りに使用された石器であろうか。

なお、これらの外に石鏃らしい調整のある石器も1点出土している。

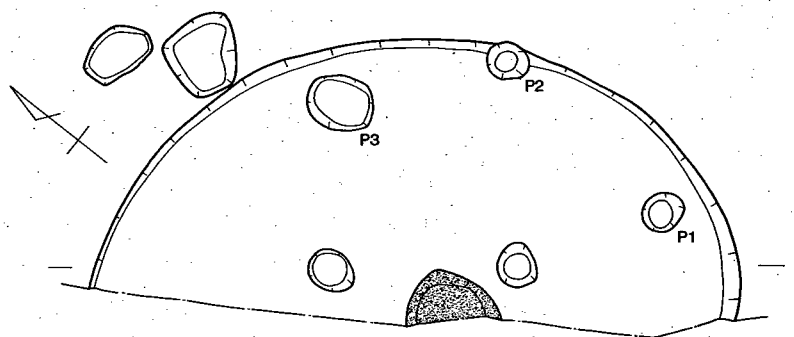
土製品

土製円板が61点出土した。

3号住居跡 (図版50-2, 第163図)

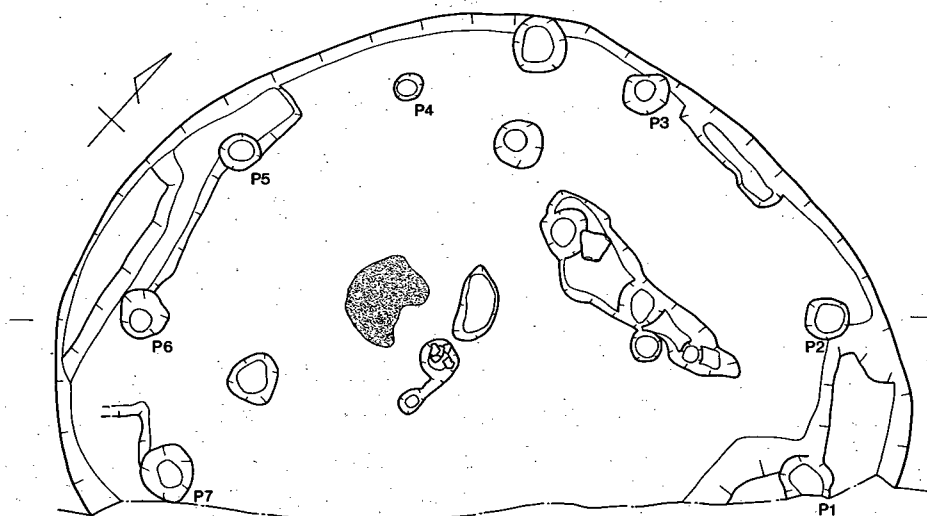
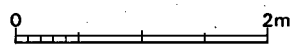
石町遺跡調査区南隅にあり、山崎遺跡4号住居跡の北西約6mに位置する。南西側半分は調査区域外に潜る。ほぼ半円形にプランが検出され、最大径約5.1m、深さ0.16m、調査区内の床面積は8.2㎡で、本来は23㎡前後の規模であったと思われる。河原石の多い地山を掘り込んで、壁は60°前後の傾斜がある。床面には柱穴状ピットが5穴あり、このうち周壁に沿うP1~3が主柱穴と考えられる。P1・2は径30cm、深さ20cm前後だが、P3はやや広くて浅めである。床面中央部に相当する部分に炉跡がある。

炉跡は、直径70cm前後の円形プランの穴らしく、調査区域内では半円形に検出された。焼土



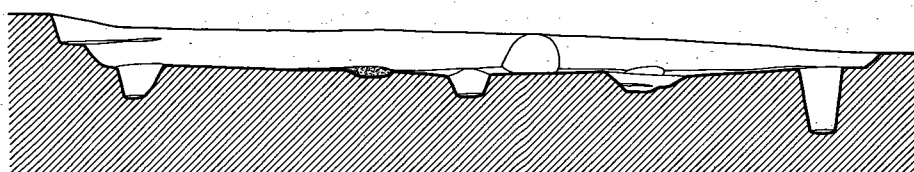
3

標高20.0m

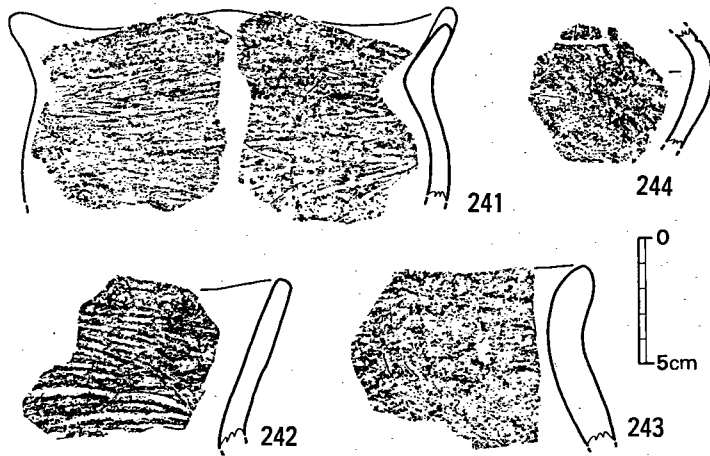


4

標高20.0m



第 163 図 石町 3・4 号住居跡実測図 (1/60)



第164図
石町3号住居跡出土土器拓影
(1/3)

があり、周囲の地山も僅かに焼けるが、石囲炉ではなく地床炉である。焼土を取り除いた穴は深さ15cm程のすり鉢状を呈する。

出土遺物

この住居跡からの出土遺物は、土器片がB5判大のポリ袋に収まる程に出土したのみである。縄文土器（図版66、第164図、表26）

6類（244）膨らむ胴部破片の上側に、沈線で区画されるような文様の一部が見える。

7類（241～243）241・242は内外面にヘナタリ条痕を施す鉢で、外反する口縁部は波状口縁をなす。243は短く外反する口縁部破片で風化するがナデ調整であろう。

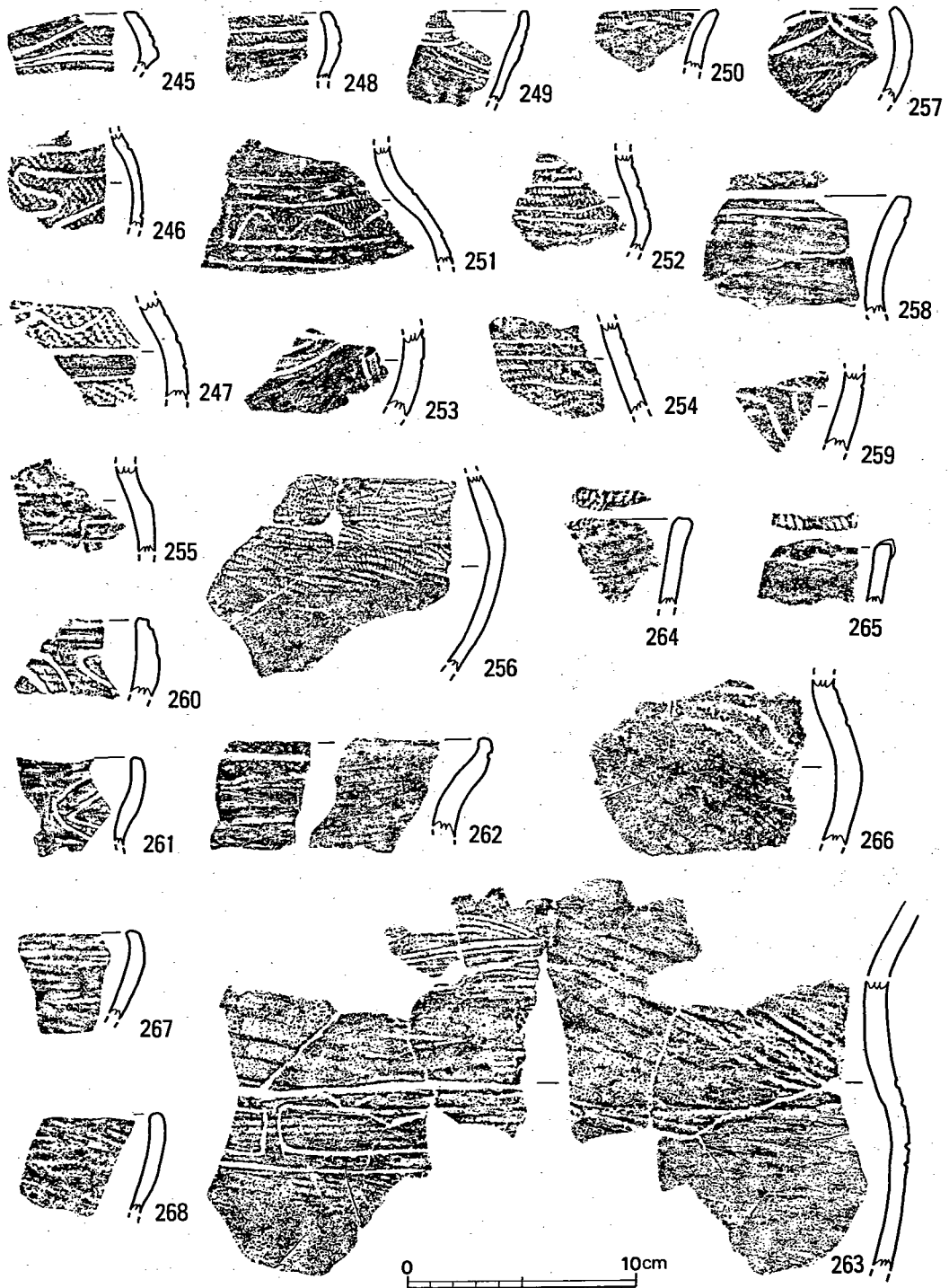
4号住居跡（図版、第163図）

石町遺跡調査区南部にあり、1号住居跡の東側に隣接する。南東側半分は調査区域外に潜る。ほぼ半円形にプランが検出され、検出面での最大径約6.7m、深さ0.15～0.34m、調査区内の床面面積は18.7㎡で、本来は32㎡前後の規模であったと思われる。河原石の多い地山を掘り込んで、壁は45°～60°程の傾斜があり、西側の壁に階段状の幅160cm、奥行き30cm程の平坦面がある。床面には柱穴状ピットが15穴あり、このうち周壁に沿うP1～7が支柱穴と考えられる。柱穴は径30～40cm、深さ25～50cm程の大きさで、P1～3はやや深めである。床面中央部の西寄りに相当する部分に炉跡がある。

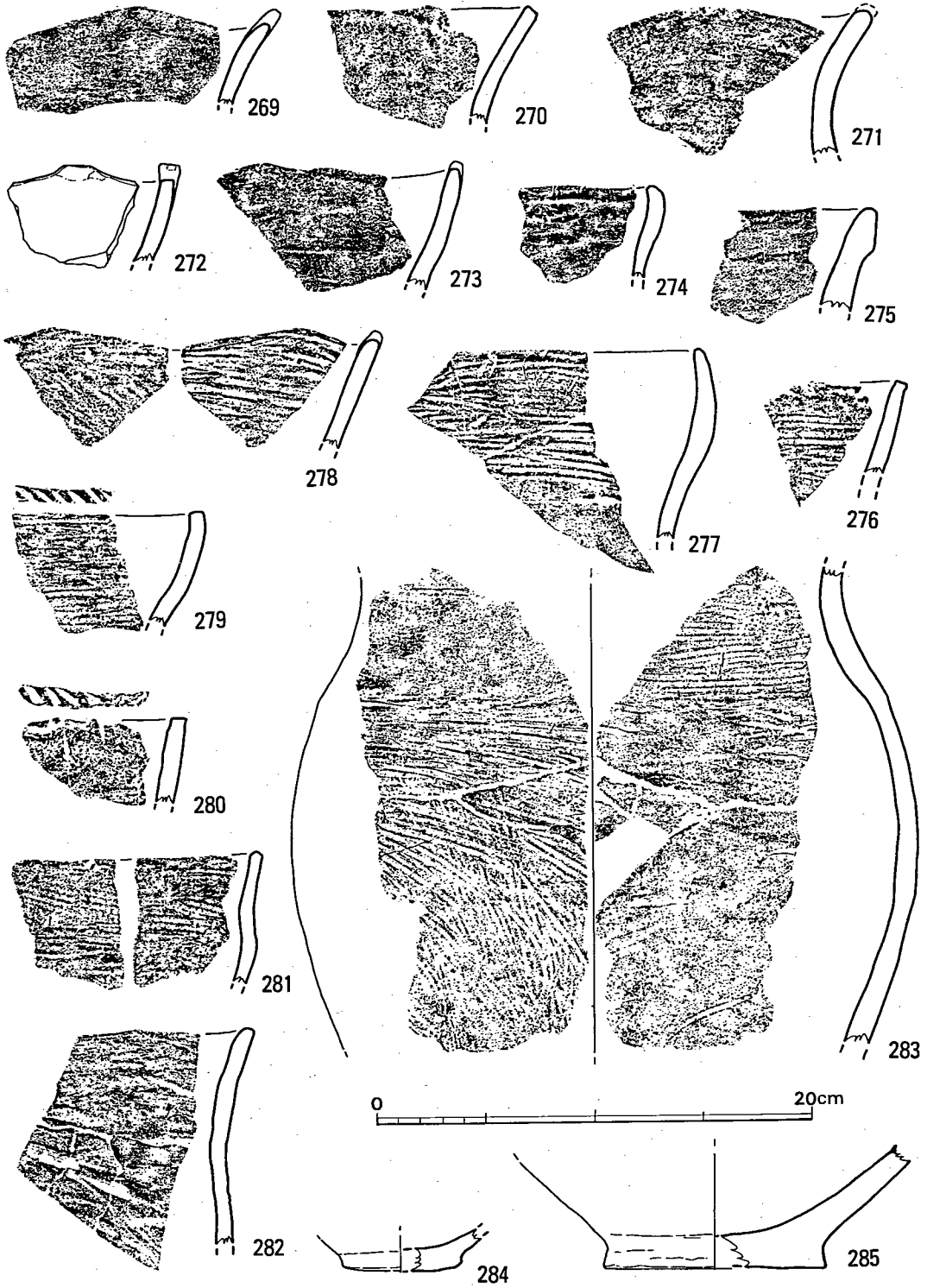
炉跡は、南北65cm、東西50cm程の範囲に焼土があり、周囲の地山の石も僅かに焼けるが、石囲いなどの施設のない地床炉である。

出土遺物

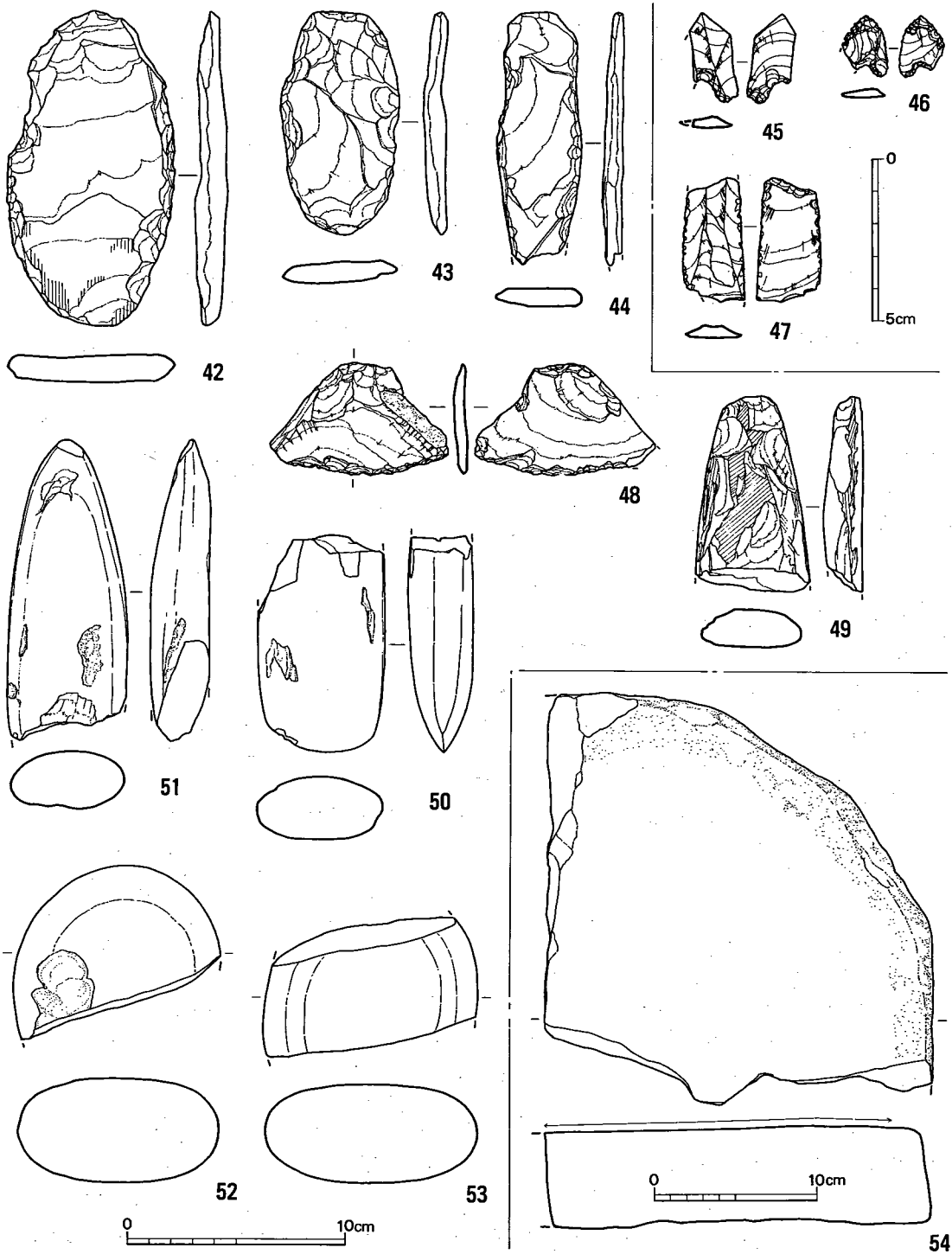
この住居跡からの出土遺物もあまり多くはない。縄文土器片がパンコンテナ1箱と、石鏃・打製石斧・磨製石斧・すり石などの石器・土製円板などが出土した。



第 165 图 石町 4 号住居跡出土土器拓影 1 (1/3)



第166图 石町4号住居跡出土土器拓影2 (1/3)



第 167 图 石町 4 号住居跡出土石器实测图 (1/2 · 1/3 · 1/4)

縄文土器 (図版65, 第165・166図, 表26・27)

1類 (245~247) 沈線で区画される文様があり, 区画内に縄文が施文される土器。横走させた沈線で文様帯の上下を区画して, 縄文を施文した後に, 沈線で蛇行文や山形文を描くが, なかには磨消を加えない例もある。245は口縁部が稜をもって屈折する。

2類 (257~259) 横走する平行沈線などで描かれた区画ないに, アナグラ疑似縄文が充填施文される土器。

3類 (248~255) 沈線で区画される文様があり, 区画内にヘナタリ疑似縄文が施文される土器。251では列点文を伴う。

5類 (256) 沈線文などをもち, ヘナタリ疑似縄文が施文される土器。

6類 (260~263) 沈線のみで文様が描かれる土器。

7類 (264~283) 条痕およびナデ調整される, いわゆる条痕土器・無文土器。このうち264・265はやや丁寧なナデで, 口唇部に疑似縄文のような圧痕がある。279・280は口唇部に刻み目が付けられている。

8類 (284・285) 内外面ともにナデ調整される底部破片である。

石器 (図版68, 第167図, 表30)

打製石斧 (42~44) 6点出土したが, うち3点を図示する。扁平打製石斧で, 44は幅が狭い。

磨製石斧 (49~51) 3点出土した。断面形が楕円形に近い, ややスマートな体部をもつ。

すり石 (52・53) 3点出土したが, うち2点を図示する。ややスマートな体部をもつ。

石皿 (54) 1点出土した。完形でない。使用面は, よくすれているものの, 平坦で凹まない。

石鏃 (45・46) 2点ともに, 伊万里湾周辺産の黒曜石製の剥片鏃で, 片脚部を欠く。

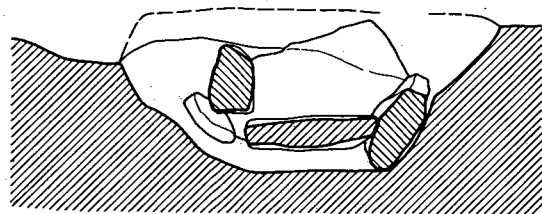
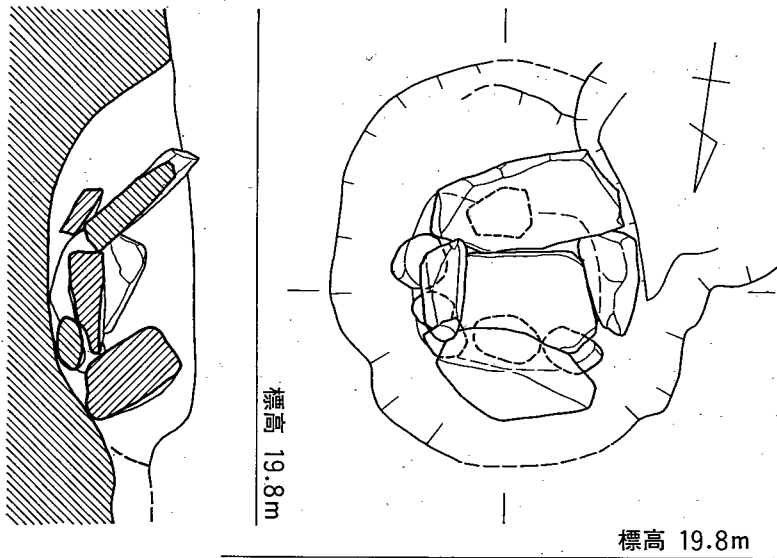
削器 (47・48) 2点出土したが, 47は伊万里湾産黒曜石の縦長剥片を素材とし, 48は安山岩横長剥片の打瘤部にも調整剥離を加えている。

その他の遺構と遺物

石囲炉 (図版51-2, 第168図)

住居跡のプランは確認し得なかったが, 4号住居跡の北に約3.5mの位置で, 住居跡内に設けられていたと思われる石囲炉を1基検出した。

南南西側は柱穴状ピットによって失うが, 直径約1.0m, 深さ0.4mの不整円形プランのすり鉢状土坑に据えられている。坑底にB4判大のやや平らな石を敷き, 南側にB3判大の扁平石を45°程の傾きに立てて据えるが, 北側は南側の石と底の石の中間位の大きさの石を, 東西は底石よりも小さな石を据えて, 少し西側の開く方形に囲んでいる。石を据える際に, 安定を保つために拳大寄りも一回り大きな円礫を裏込めに用いている。床の石や側石は火熱を受けて赤変し,



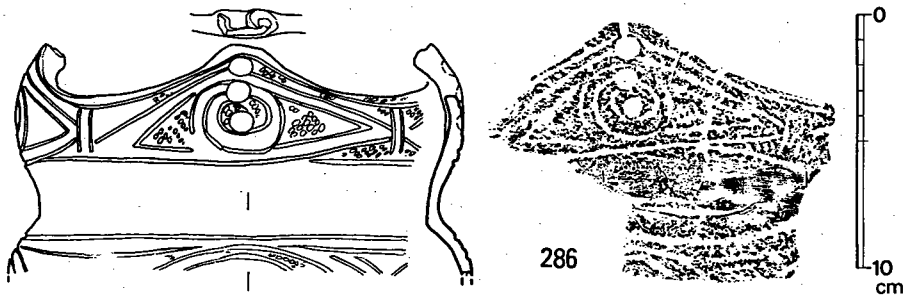
第168図 石町石罏実測図 (1/20)

ひびや割れを生じている。

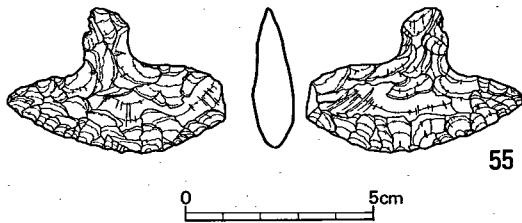
炉跡内からの出土遺物はない。また周辺の柱穴状ピットは多数あり、住居跡の柱穴がどれかの想定も困難であった。

その他の遺物 (図版66・68, 第169~171図)

前述した住居跡以外の、古墳時代以降の遺構出土、遺構検出面出土、表面採集の石器は、一



第169図 石町その他の土器拓影 (1/3)



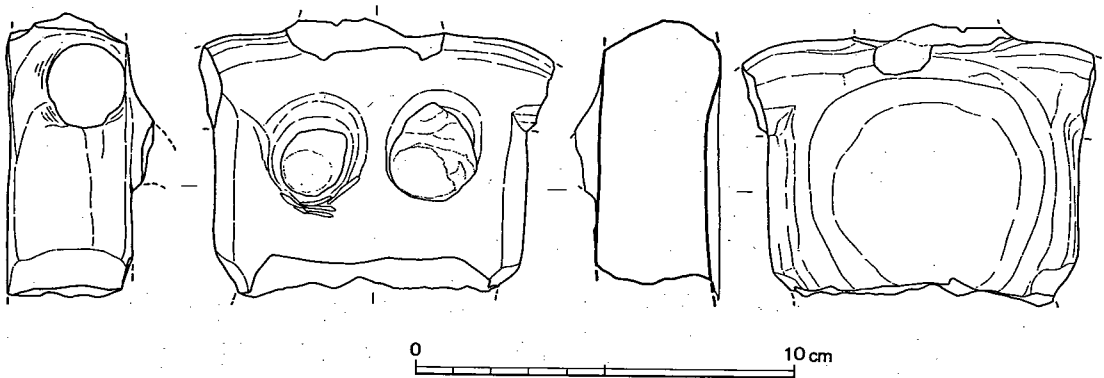
第170図 石町その他の石器実測図(1/2)

覧表に示すが、土器・石器・土製品のうち主なものについて触れる。

縄文土器 (286) 古墳時代の8号住居跡に混入していた土器で、頸部がくびれて口縁部が内彎する鉢。縄文が施文されて、渦文と三角形空間をつくる平行沈線状の文様が描かれて、波頂部下では渦文に重なる3つの円形凹点が縦に並ぶ。

石匙 (55) P57から出土した、安山岩製の石匙。横長剥片の先端部を刃部にし、基部の打瘤の厚みを減じるように、調整剥離を加えている。

土偶 (第171図) 4号土壌に混入していた(下巻第248図)。頭・両腕・胴下半を欠くが、現存値で幅9.3cm、高さ7.3cm、厚み3.7cmの大きさ。扁平な体部で、破片下端は両側ともくびれ、背中は上げ底状に凹む。両方の乳房ともに先端部が欠けており、5mm程の高さしか残らないが、幾分か垂れ気味の乳房であろう。腹面は風化が進んでいて、僅かに右乳房下にへら痕を観察するに留まるが、背面は全体に丁寧なナデ調整である。胎土に砂粒・角閃石を含み、淡赤褐色ないし暗茶褐色に焼成されている。



第171図 石町出土土偶実測図(1/2)

表23 石町遺跡出土土器観察表1

No.	出土位置	文様の特徴と器面調整			胎土				備考	
		外 面	色 調	内 面	砂角	金	褐	英		長
1	1号住 炉跡	研磨→沈線→縄文RL	黄褐色	研磨・ナデ	○	○	○			774
2	床面	研磨→沈線→ア疑縄文	暗茶褐色	研磨・ナデ	○	○	○			
3	床面	縄文RL→沈線→研磨	淡茶褐色	研磨	○	○	○			624
4	床面	研磨→沈線・刺突→ア疑縄文	暗茶褐色	研磨・へ条痕	○	○	○			742
5	床面	縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	研磨・ナデ	○	○	○			
6	床面	縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	研磨・ナデ	○	○	○			727
7	炉跡	ナデ	明褐色	ナデ	○	○	○			775
8	覆土	縄文RL→沈線→研磨	灰茶褐色	研磨	○	○	○			14
9	覆土	縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	ナデ	○	○	○			699
10	覆土	研磨→縄文LR→沈線	暗黄褐色	研磨	○	○	○			628
11	覆土	研磨→縄文RL→沈線	茶褐色	ナデ	○	○	○			740
12	覆土	研磨→縄文RL→沈線	暗黄褐色	研磨	○	○	○			728
13	覆土	縄文→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨・ナデ	○	○	○			773
14	覆土	ナデ・研磨→沈線→ア疑縄文	暗茶褐色	研磨・ナデ	○	○	○			634
15	覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	暗茶褐色	研磨	○	○	○			737
16	覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	暗茶褐色	研磨・ナデ	○	○	○			610
17	覆土	ナデ・研磨→ア疑縄文	暗茶褐色	研磨・ナデ	○	○	○			633
18	覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			224
19	覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	暗黄褐色	研磨	○	○	○			264
20	覆土	研磨→沈線→ア縄文	暗茶褐色	研磨	○	○	○			735
21	覆土	研磨→沈線	暗茶灰褐色	研磨	○	○	○			635
22	覆土	ア疑縄文→沈線→研磨	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			607
23	覆土	ア疑縄文→沈線・ナデ	灰茶褐色	ナデ	○	○	○			771
24	覆土	沈線→刺突→ア疑縄文→ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			768
25	覆土	ア疑縄文・ナデ	暗灰黄褐色	ナデ	○	○	○			625
26	覆土	ナデ・縄文LR	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			
27	覆土	ナデ・沈線	灰茶褐色	ナデ	○	○	○			
28	覆土	細密条痕	暗黄褐色	細密条痕	○	○	○			748
29	覆土	細密条痕・刻み目	淡茶褐色	細密条痕	○	○	○			743
30	覆土	へ条痕→ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			758
31	覆土	へ条痕	暗茶褐色	へ条痕・ナデ	○	○	○			609
32	覆土	ナデ?・刻み目	淡黄褐色	ナデ	○	○	○			
33	覆土	へ条痕→ナデ、波頂に双孔	暗茶褐色	へ条痕	○	○	○			
34	覆土	へ条痕	茶褐色	ナデ・沈線	○	○	○			746
35	覆土	ナデ→短沈線	淡明褐色	ナデ	○	○	○			442
36	2号住 覆土	縄文→沈線→研磨	暗褐色	研磨	○	○	○			352
37	覆土	研磨→沈線	淡茶灰褐色	研磨	○	○	○			343
38	覆土	へ条痕→ナデ→沈線	茶褐色	へ条痕	○	○	○			199
39	覆土	縄文LR→沈線→研磨	茶褐色	研磨・ナデ	○	○	○			2
40	覆土	縄文LR→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○	○			251
41	覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗黄褐色	研磨	○	○	○			25
42	覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗黄褐色	研磨	○	○	○			296
43	覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗黄褐色	研磨	○	○	○			460
44	覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	暗茶褐色	研磨	○	○	○			7
45	覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	暗茶褐色	研磨	○	○	○		赤	6
46	覆土	研磨→沈線→刺突・ア疑縄文	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			
47	覆土	ナデ→沈線→刺突・ア疑縄文	茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○			21
48	覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	暗茶褐色	研磨	○	○	○			459
49	覆土	ア疑縄文→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○	○			184
50	覆土	ナデ→刻み目・ア疑縄文	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			99
51	覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	茶褐色	研磨	○	○	○			40
52	覆土	研磨→ア疑縄文→沈線	茶褐色	研磨	○	○	○			291
53	覆土	へ条痕・ナデ→ア疑縄文	淡明褐色	へ縄文	○	○	○			96
54	覆土	ナデ→ア疑縄文→沈線	黒褐色	ナデ	○	○	○			132
55	覆土	ナデ→ア疑縄文→沈線	黒褐色	へ条痕	○	○	○			260
56	覆土	研磨→ア疑縄文→沈線・刺突	淡褐色	研磨	○	○	○		赤	232
57	覆土	研磨→沈線→縄文LR	淡茶褐色	研磨	○	○	○			1
58	覆土	研磨→縄文RL	淡茶褐色	研磨	○	○	○			339
59	覆土	研磨→沈線	茶褐色	研磨	○	○	○			208
60	覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ・沈線	○	○	○			511

表24 石町遺跡出土土器観察表 2

No.	出土位置	文様の特徴と器面調整			胎土				備考 登録番号	
		外 面	色 調	内 面	砂	角	金	褐		英
61	2号住	覆土 研磨・沈線	暗茶褐色	研磨	○	○	○			8
62		覆土 ナデ	淡茶褐色	ナデ	○	○	○			
63		覆土 研磨	茶褐色	研磨	○	○	○			344
64		覆土 ナデ	茶褐色	ナデ	○	○	○			295
65		覆土 へ条痕→研磨	茶褐色	へ条痕→研磨	○	○	○			347
66		覆土 研磨・ナデ	暗黄褐色	研磨・ナデ	○	○	○			397
67		覆土 へ条痕	暗黄褐色	へ条痕	○	○	○			12
68		覆土 研磨	暗茶褐色	研磨	○	○	○			211
69		覆土 へ条痕→ナデ	淡褐色	ナデ	○	○	○			471
70		覆土 ア条痕→ナデ	暗茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○			11
71		覆土 ア条痕・縄文?→ナデ→沈線	暗茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○			294
72		覆土 ナデ→沈線	暗茶褐色	へ条痕・ナデ	○	○	○			198
73		覆土 へ条痕→ナデ	暗茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○			207
74		覆土 ア条痕	暗茶褐色	ア条痕	○	○	○			354
75		覆土 ア条痕→一部ナデ	暗褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○			
76		覆土 ア条痕・ナデ	暗茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○			279
77		覆土 ナデ	茶褐色	ナデ	○	○	○			209
78		覆土 へ条痕・刻み目	黒褐色	へ条痕	○	○	○			203
79		覆土 ア条痕	暗褐色	ア条痕	○	○	○			9
80		覆土 楕円押型文	淡茶褐色	楕円押型文	○	○	○			791
81		覆土 研磨→沈線・列点→縄文RL	淡灰黄褐色	研磨→沈線	○	○	○			128
82		覆土 へ条痕→ナデ→沈線	茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○			278
83		覆土 へ条痕・ナデ→沈線	暗茶褐色	へ条痕→沈線	○	○	○			205
84		覆土 へ疑縄文・へ条痕→沈線	淡明褐色	へ条痕→沈線	○	○	○			365
85		覆土 へ条痕→ナデ→沈線	茶灰褐色	へ条痕	○	○	○			10
86		覆土 研磨・ナデ	茶褐色	研磨・ナデ	○	○	○			786
87		覆土 研磨→沈線・列点	暗茶褐色	研磨	○	○	○			218
88		覆土 沈線→研磨、波頂に刺突	暗茶褐色	研磨	○	○	○			92
89		覆土 ア条痕→ナデ→沈線	淡灰黄褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○			772
90		覆土 ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			250
91		覆土 条痕→ナデ→沈線	茶褐色	ナデ・研磨	○	○	○			226
92		覆土 条痕→ナデ→沈線・列点	茶褐色	条痕→ナデ	○	○	○			263
93		覆土 条痕→ナデ→沈線	暗黄褐色	条痕→ナデ	○	○	○			262
94		覆土 ナデ→沈線	茶褐色	ナデ	○	○	○			357
95		覆土 ナデ→沈線	茶褐色	ナデ	○	○	○			28
96		覆土 研磨→縄文RL→沈線	暗茶褐色	研磨	○	○	○			219
97		覆土 縄文RL→沈線→研磨	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			148
98		覆土 ナデ→縄文R→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			48
99		覆土 研磨→縄文RL	暗茶褐色	研磨	○	○	○			196
100		覆土 研磨→縄文RL	暗茶褐色	研磨	○	○	○			269
101		覆土 縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○	○	○			217
102		覆土 研磨→縄文RL→沈線	灰茶褐色	研磨	○	○	○			620
103		覆土 縄文RL→沈線→研磨	暗灰茶褐色	ナデ	○	○	○			235
104		覆土 縄文RL→沈線→研磨	暗灰茶褐色	ナデ	○	○	○			245
105		覆土 縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○	○	○			292
106		覆土 縄文RL→列点→研磨	茶褐色	ナデ	○	○	○			80
107		覆土 縄文RL→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○	○			3
108		覆土 縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○	○	○			190
109		覆土 縄文RL→沈線→研磨	淡灰褐色	研磨	○	○	○			124
110		覆土 縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	研磨・条痕	○	○	○			
111		覆土 縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○	○	○			34
112		覆土 縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	ナデ	○	○	○			13
113		覆土 縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○	○	○			621
114		覆土 ア疑縄文・沈線・研磨	暗茶褐色	研磨	○	○	○			63
115		覆土 沈線→ア疑縄文→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○	○			170
116		覆土 研磨→ア疑縄文・沈線	茶褐色	研磨	○	○	○			176
117		覆土 研磨→沈線→ア疑縄文	暗黄褐色	ナデ	○	○	○			134
118		覆土 研磨→沈線→ア疑縄文	暗黄褐色	研磨・ナデ	○	○	○			201
119		覆土 研磨→沈線→ア疑縄文	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			172
120		覆土 沈線→ア疑縄文→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○	○			242
121		覆土 研磨→沈線→ア疑縄文	黄褐色	ナデ	○	○	○			221
122		覆土 ナデ→沈線・列点→ア疑縄文	暗茶褐色	ナデ	○	○	○			

表25 石町遺跡出土土器観察表 3

No.	出土位置	文様の特徴と器面調整			胎土				備考 登録番号
		外 面	色 調	内 面	砂角	金	褐	英長	
123	2号住 覆土	ア疑縄文→沈線→ナデ	暗黄褐色	ア条痕	○	○	○		24
124	覆土	ナデ→沈線→ア疑縄文	茶褐色	ナデ	○	○	○		19
125	覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	暗灰褐色	研磨	○	○	○		18
126	覆土	ナデ→沈線→ア疑縄文	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		62
127	覆土	ア条痕→ナデ→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		47
128	覆土	ア疑縄文→沈線→研磨	暗灰茶褐色	研磨・ナデ	○	○	○		239
129	覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		267
130	覆土	研磨→沈線→ア疑縄文	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		246
131	覆土	ア条痕→研磨→沈線→ア疑縄文	暗茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○		249
132	覆土	ナデ→沈線→ア疑縄文	暗茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○		363
133	覆土	へ条痕→ア疑縄文→刺突	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		45
134	覆土	へ疑縄文→沈線	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		79
135	覆土	へ疑縄文→沈線、波頂に刺突	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		41
136	覆土	へ疑縄文→沈線、波頂に刺突	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		362
137	覆土	へ疑縄文・ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		202
138	覆土	へ疑縄文・ナデ→沈線	茶褐色	ナデ	○	○	○		94
139	覆土	へ疑縄文・研磨→沈線	暗黄褐色	研磨	○	○	○		77
140	覆土	へ疑縄文・ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		82
141	覆土	へ条痕・ナデ→へ疑縄文	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		32
142	覆土	へ疑縄文・ナデ、波頂に刺突	淡茶褐色	ナデ	○	○	○		177
143	覆土	へ疑縄文→沈線、波頂に刺突	茶褐色	研磨	○	○	○		26
144	覆土	ナデ→沈線→へ疑縄文	茶褐色	ナデ	○	○	○		166
145	覆土	へ疑縄文・ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		361
146	覆土	へ疑縄文→沈線、波頂に刺突	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		385
147	覆土	へ疑縄文→沈線、波頂に刺突	暗黄褐色	研磨	○	○	○		390
148	覆土	へ疑縄文・研磨→沈線	暗黄褐色	へ条痕→研磨	○	○	○		794
149	覆土	へ疑縄文・ナデ	茶褐色	ナデ	○	○	○		463
150	覆土	へ疑縄文・研磨→沈線	暗茶褐色	ア条痕・ナデ	○	○	○		338
151	覆土	へ疑縄文・研磨→沈線	暗茶褐色	ア条痕・ナデ	○	○	○		338
152	覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○	○	○		220
153	覆土	へ疑縄文・研磨→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		225
154	覆土	へ疑縄文・研磨→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		330
155	覆土	へ疑縄文・研磨→沈線	淡褐色	条痕→ナデ	○	○	○		281
156	覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		298
157	覆土	へ疑縄文・研磨→沈線	赤褐色	ナデ	○	○	○		228
158	覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○	○		337
159	覆土	へ疑縄文→沈線→ナデ	暗灰茶褐色	ナデ	○	○	○		164
160	覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	明褐色	研磨	○	○	○		
161	覆土	研磨→沈線→へ疑縄文	暗茶褐色	研磨	○	○	○	赤	4
162	覆土	研磨→沈線	茶褐色	ナデ	○	○	○		192
163	覆土	研磨→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		268
164	覆土	研磨→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○	○		792
165	覆土	ナデ→沈線・列点	暗茶褐色	ナデ→沈線	○	○	○		512
166	覆土	縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○	○	○		223
167	覆土	研磨	暗茶褐色	研磨・刺突	○	○	○		424
168	覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○	○		168
169	覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	明褐色	研磨	○	○	○		351
170	覆土	研磨・縄文RL	暗茶褐色	研磨	○	○	○		619
171	覆土	ナデ→研磨	茶褐色	ナデ	○	○	○		102
172	覆土	研磨	暗黄褐色	研磨・沈線・疑縄文	○	○	○		457
173	覆土	研磨	暗茶褐色	研磨・沈線	○	○	○		5
174	覆土	研磨	褐色	研磨・ナデ	○	○	○		68
175	覆土	研磨	茶褐色	研磨	○	○	○		389
176	覆土	研磨	茶褐色	研磨	○	○	○		
177	覆土	研磨	茶褐色	研磨	○	○	○		276
178	覆土	へ条痕→ナデ・研磨	暗茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○		133
179	覆土	ア条痕	暗黄褐色	ア条痕	○	○	○		17
180	覆土	ア条痕→ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		212
181	覆土	へ条痕→ナデ・研磨	茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○		23
182	覆土	へ条痕→ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○		188
183	覆土	へ条痕→ナデ・研磨	茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○		186
184	覆土	へ条痕・ナデ	茶褐色	へ条痕・ナデ	○	○	○		200

表26 石町遺跡出土土器観察表 4

No.	出土位置	文様の特徴と器面調整			胎土					備考 登録番号	
		外 面	色 調	内 面	砂	角	金	褐	英		長
185	2号住 覆土	ナデ、口唇に刻み目	暗黄褐色	ナデ	○	○	○				613
186	覆土	ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○	○				22
187	覆土	へ条痕→研磨	暗茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○				273
188	覆土	条痕→ナデ	灰黄褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○				366
189	覆土	ナデ・へ条痕	暗黄褐色	ナデ	○	○	○				15
190	覆土	ナデ・研磨	暗黄褐色	ナデ・研磨	○	○	○				206
191	覆土	ナデ、口唇に刻み目	暗灰黄褐色	ナデ	○	○	○				191
192	覆土	ナデ、口唇に刻み目	暗茶褐色	ナデ	○	○	○				158
193	覆土	ナデ、突帯・口唇に刻み目	暗黄褐色	へ条痕	○	○	○				387
194	覆土	へ条痕、波頂に刻み目	茶褐色	ナデ	○	○	○				213
195	覆土	へ条痕・ナデ、波頂に押点	暗黄褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○				182
196	覆土	ア条痕→ナデ	暗黄褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○				156
197	覆土	ナデ	黄褐色	ナデ	○	○	○				20
198	覆土	ナデ・へ条痕	灰黄褐色	ナデ	○	○	○				616
199	覆土	ナデ	淡茶褐色	ナデ	○	○	○				378
200	(7住) 上層	研磨・沈線、突帯・口唇に刻み目	暗茶褐色	研磨	○	○	○				
201	上層	研磨・へ疑縄文	暗黄褐色	研磨・ナデ	○	○	○				778
202	上層	研磨・沈線	暗灰黄褐色	研磨	○	○	○				781
203	上層	研磨・沈線	暗灰黄褐色	研磨	○	○	○				782
204	上層	ナデ	淡褐色	ナデ	○	○	○				4-2
205	上層	細密条痕・ナデ、波頂に刺突	暗黄灰色	細密条痕	○	○	○				4-3
206	上層	ナデ	暗茶灰色	ナデ	○	○	○				4-1
207	(6住) 上層	ナデ・縄文RL	暗茶褐色	研磨	○	○	○				3-5
208	上層	縄文RL→沈線→研磨	淡赤褐色	研磨	○	○	○				3-12
209	上層	縄文RL→沈線→研磨	褐色	研磨	○	○	○				3-18
210	上層	縄文RL→沈線→研磨	暗茶褐色	ナデ	○	○	○				3-21
211	上層	縄文RL→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○	○				3-26
212	上層	縄文RL→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○	○				3-24
213	上層	縄文RL→沈線→研磨	暗黄褐色	研磨	○	○	○				3-25
214	上層	縄文RL・研磨	暗茶褐色	研磨・ナデ	○	○	○				3-27
215	上層	疑縄文→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○	○	○				3-28
216	上層	へ疑縄文→沈線→研磨	褐色	研磨	○	○	○				3-11
217	上層	へ疑縄文・研磨→沈線	暗茶褐色	研磨・ナデ	○	○	○				3-19
218	上層	へ疑縄文・ナデ→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○	○				3-23
219	上層	研磨・刺突列点	暗黄褐色	研磨	○	○	○				3-6
220	上層	ア条痕→ナデ→沈線	褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○				3-10
221	上層	研磨→沈線	暗黄褐色	研磨	○	○	○				3-13
222	上層	へ疑縄文・研磨→沈線	黒褐色	ナデ	○	○	○				3-20
223	上層	へ疑縄文・ナデ	褐色	ナデ	○	○	○				3-7
224	上層	へ疑縄文・ナデ	灰茶褐色	ナデ	○	○	○				3-8
225	上層	へ疑縄文・研磨	茶褐色	ナデ	○	○	○				3-33
226	上層	へ条痕・ナデ	暗黄灰褐色	ナデ	○	○	○				3-2
227	上層	ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○	○				3-1
228	上層	条痕→ナデ	灰茶褐色	ナデ	○	○	○				3-31
229	上層	ア条痕	灰茶褐色	ア条痕	○	○	○				3-3
230	上層	ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○	○				3-4
231	上層	研磨	茶褐色	研磨	○	○	○				3-17
232	上層	研磨→沈線、波頂に押点	暗茶褐色	ナデ	○	○	○				3-14
233	上層	研磨	暗黄茶褐色	ア条痕→ナデ	○	○	○				3-9
234	上層	研磨→沈線	茶褐色	研磨	○	○	○				3-15
235	上層	研磨→沈線	暗茶褐色	ナデ	○	○	○				3-22
236	上層	研磨	淡明褐色	ナデ	○	○	○				3-32
237	上層	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○	○				3-16
238	上層	ナデ	茶褐色	ナデ	○	○	○				3-30
239	上層	研磨	暗褐色	研磨	○	○	○				3-29
240	(5住) 上層	ア条痕	淡褐色	ア条痕	○	○	○				777
241	3号住 覆土	へ条痕→ナデ	淡茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○				1-1
242	覆土	へ条痕	茶褐色	へ条痕→ナデ	○	○	○				1-2
243	覆土	ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○	○				1-3
244	覆土	研磨→沈線	暗褐色	ナデ	○	○	○				1-4
245	4号住 覆土	研磨縄文RL→沈線	暗黄褐色	研磨	○	○	○				6-35
246	覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗灰茶褐色	ナデ	○	○	○				6-16

表27 石町遺跡出土土器観察表 5

No.	出土位置	文様の特徴と器面調整			胎土					備考 登録番号	
		外面	色調	内面	砂	角	金	褐	英		長
247	4号住 覆土	縄文RL→沈線→研磨	暗茶褐色	ナデ	○	○					6-8
248	覆土	研磨→へ疑縄文→沈線	茶褐色	研磨	○	○					6-34
249	覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○					6-36
250	炉跡	へ疑縄文・ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○					6-2
251	覆土	へ疑縄文→沈線・列点→研磨	暗黄褐色	研磨	○	○					6-30
252	覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○					6-17
253	覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○					6-36
254	覆土	へ疑縄文→沈線→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○					6-18
255	覆土	へ疑縄文→沈線→ナデ	茶褐色	ナデ	○	○					6-31
256	炉跡	へ疑縄文・ナデ	暗茶褐色	ナデ	○	○					6-3
257	覆土	ア疑縄文→沈線→研磨	灰茶褐色	研磨	○	○					6-33
258	炉跡	研磨→沈線、口唇にア疑縄文	暗茶褐色	研磨	○	○					6-1
259	覆土	研磨→沈線→ア疑縄文?	褐色	ナデ	○	○					6-37
260	覆土	ナデ・へ疑縄文→沈線	茶褐色	ナデ	○	○					6-32
261	覆土	研磨→沈線	黒褐色	研磨	○	○					6-12
262	覆土	研磨→沈線	暗黄褐色	研磨	○	○					6-27
263	覆土	へ条痕→ナデ→沈線	暗褐色	へ条痕→ナデ	○	○			○		6-41
264	覆土	ナデ、口唇に刻み目	淡茶褐色	ナデ	○	○					6-14
265	覆土	ナデ、口唇に刻み目	淡黄褐色	ナデ	○	○					6-26
266	覆土	ナデ・沈線?	暗黄褐色	ナデ	○	○			○		6-29
267	覆土	研磨?	淡黒茶褐色	研磨?	○	○					6-11
268	覆土	へ条痕→研磨	暗茶褐色	研磨	○	○					6-25
269	覆土	研磨	淡褐色	研磨	○	○					6-19
270	覆土	研磨?	暗茶褐色	研磨?	○	○					6-4
271	覆土	ナデ	灰茶褐色	ナデ	○	○					6-28
272	覆土	研磨、波頂に刺突	淡褐色	研磨	○	○					6-7
273	覆土	ナデ	褐色	ナデ	○	○					6-20
274	覆土	ナデ	褐色	ナデ	○	○					6-24
275	覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○			○		6-15
276	覆土	へ条痕	暗茶褐色	ナデ	○	○					6-23
277	覆土	へ条痕・ナデ	茶褐色	ナデ	○	○					6-6
278	覆土	へ条痕	茶灰色	へ条痕	○	○					6-21
279	覆土	研磨、口唇に刻み目	暗茶褐色	研磨	○	○					6-5
280	覆土	ナデ、口唇に刻み目	暗灰褐色	ナデ	○	○					6-10
281	覆土	ア条痕	褐色	ア条痕	○	○					6-9
282	覆土	ナデ	暗黄褐色	ナデ	○	○					6-22
283	覆土	ア条痕・ナデ	茶褐色	ア条痕・ナデ	○	○					6-40
284	覆土	ナデ	暗茶灰色	ナデ	○	○					6-38
285	覆土	ナデ	茶褐色	ナデ	○	○					6-6
286	(8号住) 覆土	縄文RL→沈線→研磨	茶褐色	研磨	○	○					785

表28 石町遺跡出土石器観察表1

(単位cm及びg、()を付したものは現存値を示す)

登録番号	出土地	層位	遺存状況	形態	材質	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号
10-1	1号住	フク土	1部欠	打製石斧	緑泥片岩	10.7	5.98	1.3	132	1
10-2	"	"	"	"	緑色片岩	(9.8)	8.0	1.98	203	2
10-3	"	"	1/2破片	"	"	8.4	5.9	1.9	160	
10-4	"	"	一部欠	"	"	8.7	5.1	1.7	87	3
10-5	"	"	1/2破片	"	緑泥片岩	(6.5)	4.5	1.3	74	4
10-6	"	"	破片	"	"	(6.3)	5.0	1.05	46	
10-7	"	"	一部欠	磨製石斧	"	(11.7)	5.7	(2.9)	305	5
10-8	"	"	"	"	蛇紋岩	12.8	4.8	2.5	263	6
10-9	"	"	破片	"	"	(8.9)	5.1	(2.3)	52	7
10-10	"	"	1/2破片	砥石?	砂岩	(7.3)	5.2	2.4	63	8
10-11	"	"	一部欠	縦長剥片	姫島産黒曜石	3.05	1.55	0.3	1.8	9
5-1	2号住	フク土	一部欠	石鏃	黒色黒曜石	2.0	1.5	0.85	0.8	28
5-2	"	"	"	"	"	1.15	1.9	0.25	0.4	27
5-3	"	"	"	"	"	2.2	(1.2)	0.35	0.8	
5-4	"	"	"	"	姫島黒曜石	1.8	1.95	0.4	1.0	
5-5	"	"	"	"	"	2.3	(1.3)	0.3	0.8	23
5-6	"	"	完形	"	"	1.78	1.56	0.36	0.6	24
5-7	"	"	"	"	安山岩	1.8	1.6	0.2	0.8	25
5-8	"	"	一部欠	"	"	2.5	(1.7)	0.35	1.1	26
5-9	"	"	完形	つまみ形石器	黒色黒曜石	(2.8)	1.9	0.5	2.9	32
5-10	"	"	一部欠	縦長剥片	"	4.14	1.1	0.2	1.7	30
5-11	"	"	完形	"	"	3.8	1.55	0.2	2.4	31
5-12	"	"	破片	"	"	(2.44)	2.4	0.43	2.6	
5-13	"	"	一部欠	"	"	2.8	0.95	0.3	1.5	
5-14	"	"	破片	"	"	(2.88)	1.65	0.45	1.8	
5-15	"	"	完形?	削器	"	1.5	2.15	0.86	1.5	29
5-16	"	"	一部欠	石匙	緑色片岩	3.45	5.4	0.65	7	20
5-17	"	"	"	石匕	安山岩	5.6	(5.35)	0.95	26	21
5-18	"	"	完形?	"	"	5.4	5.6	0.9	36	
5-19	"	"	"	"	"	4.0	3.1	0.8	7	
5-20	"	"	一部欠	打製石斧	緑色片岩	(12.0)	6.7	1.7	204	
5-21	"	"	完形	"	緑泥片岩	14.4	6.4	1.8	228	13
5-22	"	"	一部欠	"	"	13.3	6.0	1.5	173	15
5-23	"	"	"	"	"	(19.5)	6.3	1.8	329	10
5-24	"	"	"	"	"	9.5	5.8	1.9	176	
5-25	"	"	一部欠	打製石斧	緑泥片岩	11.5	6.7	1.7	223	
5-26	"	"	"?	"	"	12.7	5.9	0.9	109	11
5-27	"	"	"	"	"	13.2	5.7	1.15	125	12
5-28	"	"	"	"	"	14.2	5.7	1.2	103	
5-29	"	"	"	"	"	(13.2)	6.4	1.05	121	
5-30	"	"	"	"	"	10.05	5.7	1.15	93	
5-31	"	"	"	"	"	11.4	6.1	1.3	140	
5-32	"	"	完形	"	"	11.7	6.7	1.4	172	
5-33	"	"	"	"	"	12.7	4.8	1.05	104	19
5-34	"	"	一部欠	"	"	(11.7)	5.7	1.6	172	16
5-35	"	"	"?	"	緑色片岩	(8.6)	5.1	0.8	51	
5-36	"	"	"?	"	緑泥片岩	9.4	4.9	1.2	93	

表29 石町遺跡出土石器一覧表2

登録番号	出土地	層位	遺存状況	形態	材質	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号
5-37	2号住	フク土	刃部破片	打製石斧	緑泥片岩	(7.4)	6.0	1.1	78	
5-38	"	"	一部欠	"	"	(10.8)	4.1	1.1	84	
5-39	"	"	"	"	緑色片岩	13.4	8.7	1.6	319	
5-40	"	"	"	"	緑泥片岩	(14.3)	6.7	1.05	128	
5-41	"	"	破片	"	"	7.3	5.95	1.4	68	
5-42	"	"	一部欠	"	"	15.5	5.1	2.0	242	
5-43	"	"	"	"	"	8.0	4.7	1.05	53	
5-44	"	"	完形	"	"	13.4	5.0	1.8	178	
5-45	"	"	"	"	"	11.8	5.4	1.3	139	17
5-46	"	"	"	"	"	12.0	5.4	1.05	108	18
5-47	"	"	ほぼ完形	"	"	11.3	5.5	0.8	89	
5-48	"	"	完形	"	"	8.6	3.8	1.4	67	
5-49	"	"	ほぼ完形	"	緑泥片岩	8.4	4.8	1.1	65	
5-50	"	"	"	"	"	11.2	4.9	1.3	131	
5-51	"	"	一部欠	"	"	11.8	6.3	1.3	159	
5-52	"	"	刃部破片	"	"	(7.7)	6.4	1.3	100	
5-53	"	"	破片	"	"	(8.9)	7.0	1.0	93	
5-54	"	"	"	"	"	(7.5)	4.5	1.1	48	
5-55	"	"	一部欠	"	"	10.9	6.9	1.1	122	
5-56	"	"	破片	"	"	(5.8)	6.9	1.05	60	
5-57	"	"	1/2破片	"	"	(9.8)	6.98	1.8	222	
5-58	"	"	破片	"	"	(7.7)	(4.7)	1.4	71	
5-59	"	"	"	"	"	(4.9)	7.7	1.0	52	
5-60	"	"	"	"	"	(6.8)	4.9	1.7	91	
5-61	"	"	一部欠	縦長剥片	黒色黒曜石	4.45	1.2	0.3	1.8	
5-62	"	"	完形	つまみ形石器	"	(1.6)	1.4	0.3	1.0	
5-63	"	"	"	削器	"	1.55	2.3	0.5	1.8	
5-64	"	"	"	"	"	1.5	(2.0)	0.8	1.0	
5-65	"	"	"?	"?	姫島黒曜石	2.6	(1.05)	0.6	2.1	
5-66	"	"	破片	石鏃	"	(1.75)	(1.1)	0.3	0.5	
5-67	"	"	"	"	"	(1.2)	1.15	1.0	0.5	
5-68	"	"	"	石鏃?	"	2.3	0.8	0.4	1.0	
5-69	"	"	完形	石錘	"	4.1	4.1	0.7	20	22
5-70	"	"	"	すり石	"	10.2	9.8	5.2	643	34
5-71	"	"	"	"	"	11.2	8.3	3.38	487	33
5-72	"	"	1/2破片	"	"	7.5	10.7	4.9	671	
5-73	"	"	破片	"	玢岩	(5.5)	(2.9)	(4.0)	98	
5-74	"	"	"	"	"	(6.7)	(5.2)	(5.6)	244	
5-75	"	"	"	"	"	(8.7)	(1.5)	(4.1)	54	
5-76	"	"	刃部破片	磨製石斧	蛇紋岩	(11.3)	(7.7)	(2.0)	255	40
5-77	"	"	胴部破片	"	緑泥片岩	(12.9)	7.05	(3.6)	481	36
5-78	"	"	基部破片	"	蛇紋岩	(10.9)	4.9	2.8	213	38
5-79	"	"	刃部破片	"	緑泥片岩	(11.0)	6.8	2.8	348	39
5-80	"	"	基部破片	"	蛇紋岩	(7.6)	(4.8)	2.85	126	37
5-81	"	"	"	"	緑泥片岩	(10.2)	5.3	2.7	248	35
5-82	"	"	一部欠	打製石斧	"	10.7	6.0	1.2	137	14
5-83	"	"	完形品	"	"	9.2	4.1	1.1	55	

表30 石町遺跡出土石器一覧表 3

登録番号	出土土地	層位	遺存状況	形態	材質	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号
5-84	2号住	フク土	完形	打製石斧	緑泥片岩	12.15	6.5	1.15	200	
5-85	"	"	"	石鏃	姫島産黒曜石	2.35	1.55	0.2	0.8	
5-86	"	"	"	すり切り石器		8.8	6.1	1.1	60	41
6-1	4号住	フク土	一部欠	剥片鏃	黒色黒曜石	(2.7)	1.2	0.3	0.9	45
6-2	"	"	"	"	"	1.86	(1.3)	0.2	0.6	46
6-3	"	"	完形	打製石斧	緑色片岩	14.2	7.6	1.4	245	42
6-4	"	"	"	"	緑泥片岩	10.15	5.2	1.0	83	43
6-5	"	"	ほぼ完形	"	"	12.45	6.35	1.15	115	
6-6	"	"	"	"	"	11.5	3.8	1.0	78	
6-7	"	"	"	"	"	9.36	5.1	1.2	88	44
6-8	"	"	1/2破片	"	"	(7.84)	6.2	1.46	99	
6-9	"	"	"	すり石	砂岩	(6.1)	9.6	4.8	460	52
6-10	"	"	破片	"	"	(4.5)	10.1	4.4	409	53
6-11	"	"	"	"	"	(4.5)	(3.7)	4.4	153	
6-12	"	"	完形	敲石	凝灰岩	9.4	8.6	3.85	400	
6-13	"	"	1/4破片?	石皿	砂岩	(17.8)	(15.7)	4.65	2,800	54
6-14	"	"	基部欠	磨製石斧	緑泥片岩	9.5	5.85	2.9	280	50
6-15	"	"	刃部欠	"	"	(8.7)	5.2	1.7	117	49
6-16	"	"	完形	削器	安山岩	5.0	7.95	0.5	24	48
6-17	"	"	一部欠	"	黒色黒曜石	3.8	1.85	0.4	3.2	47
6-18	"	"	刃部欠	磨製石斧	緑泥片岩	13.8	5.65	2.7	310	51
2-1	5号住	フク土	端部欠	つまみ形石器	黒色黒曜石	3.0	1.7	0.9	2.7	
2-2	"	"	完形	縦長剥片	灰色黒曜石	4.86	2.1	0.4	4.9	
3-1	6号住	フク土	一部欠	打製石斧	緑色片岩	15.95	6.7	1.8	269	
3-2	"	"	完形	"	緑泥片岩	12.3	5.8	1.0	138	
3-3	"	"	刃部片	"	"	(9.3)	5.85	1.1	97	
3-4	"	"	"	"	"	(4.5)	6.2	1.1	56	
3-5	"	"	破片	"	"	(7.2)	(5.2)	0.95	54	
4-1	7号住	フク土	刃部片	"	緑色片岩	(6.7)	8.1	1.3	126	
4-2	"	"	胴部片	"	玄武岩?	(7.2)	7.2	1.6	135	
4-3	"	"	破片	"	緑泥片岩	(4.0)	4.8	1.2	34	
4-4	"	"	"	"	"	9.7	5.7	1.1	95	
7-1	8号住	フク土	破片	石ヒ?	安山岩	(3.4)	4.3	1.25	19	
7-2	"	"	完形	石鏃	黒色黒曜石	1.87	1.8	0.32	0.6	
7-3	"	"	"	"	姫島産黒曜石	1.6	1.1	0.3	0.3	
8-1	9号住	フク土	基部欠	石鏃	"	(2.0)	1.5	0.3	1.0	
ソ-1	土壌2	フク土	一部欠	打製石斧	緑泥片岩	12.5	6.4	1.8	277	
ソ-2	土壌3	フク土	破片	"	"	(5.8)	7.4	0.9	61	
ソ-3	P-6	"	"	"	"	(8.2)	5.4	1.6	112	
ソ-4	P-17	"	一部欠	"	"	12.2	6.2	1.2	138	
ソ-5	"	"	"	"	"	(9.9)	6.2	0.8	81	
ソ-6	P-24	"	破片	"	"	(8.1)	(3.1)	1.3	45	
ソ-7	P-38	"	刃部欠	"(磨石斧転用)	緑色片岩	(12.2)	6.4	3.15	317	
ソ-8	"	"	一部欠	"	緑泥片岩	9.55	4.8	1.0	68	
ソ-9	P-41	"	完形?	"	緑色片岩	13.2	6.8	1.7	204	
ソ-10	P-66	"	破片	"	緑泥片岩	(9.8)	(5.4)	(0.7)	48	
ソ-11	P-65	"	完形	"	"	9.9	4.5	1.0	66	

表31 石町遺跡出土石器一覧表 4

登録番号	出土地	層位	遺存状況	形態	材質	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号
ソ-12	P-83		破片	打製石斧	緑泥片岩	(6.2)	7.0	0.7	51	
ソ-13	P-40		"	"	"	12.05	3.9	1.05	79	
ソ-14	P-157		一部欠	"	"	(13.7)	7.1	1.9	215	
ソ-15	P-163		完	"	"	11.7	5.85	1.6	161	
ソ-16	"		一部欠	"	"	(11.8)	4.6	1.0	84	
ソ-17	遺構面		刃部片	"	"	(7.8)	5.5	1.8	118	
ソ-18	P-163		"	"	"	9.2	6.8	1.9	170	
ソ-19	"		"	"	"	8.2	5.2	1.25	82	
ソ-20	"		一部欠	"	"	(4.4)	(4.6)	0.84	28	
ソ-21	"		刃部片	"	"	(6.95)	6.95	1.65	89	
ソ-22	"		ほぼ完	"	"	7.89	4.9	0.82	45	
ソ-23	P-94		一部欠	"	玄武岩	9.55	6.7	1.4	92	
ソ-24	"		刃部片	"	緑泥片岩	4.23	3.26	1.2	28	
ソ-25	P-20		1/4破片	すり石		(4.8)	10.4	5.9	391	
ソ-26	P-56		完形	"		8.18	7.79	3.7	411	
ソ-27	P-128		破片	磨製石斧	蛇紋岩	9.23	3.56	(1.78)	61	
ソ-28	P-40		一部欠	"	"	10.23	4.6	(1.54)	115	
ソ-29	P-33		完形	"	"	7.2	3.9	1.4	71	
ソ-30	P-161		"	石鏃	姫島産黒曜石	2.3	1.4	0.43	1	
ソ-31	P-163		"	"	安山岩	1.16	1.42	0.28	0.4	
ソ-32	P-164		先端欠	"	黒色黒曜石	(1.5)	1.72	0.2	0.4	
ソ-33	"		一部欠	縦長剥片	"	(3.14)	0.9	0.23	1.4	
ソ-34	P-94		破片	"	"	1.62	1.8	0.25	1.1	
ソ-35	P-40		完形?	石核	姫島産黒曜石	(5.85)	(6.15)	2.75	139	
ソ-36	P-163		ほぼ完形	打製石斧	緑泥片岩	9.7	4.7	1.35	84	
ソ-37	P-57		完形	石匙	安山岩	5.8	3.8	1.1	10	55
ソ-38	表採		"	石鏃	姫島産黒曜石	2.35	2.1	0.25	0.8	
ソ-39	"		"	"	"	2.15	1.62	0.38	0.9	
ソ-40	"		"	"	"	1.6	1.7	0.4	0.8	

表32 石町遺跡出土土製円板一覧表 1

(単位cm及びg)

登録番号	出土位置	層位	遺存状況	形態	材質	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号
10-1	1号住	フク土			有文	4.90	4.75	0.65	27.5	
10-2	"	"			無文	3.85	3.46	0.75	18.0	
10-3	"	"			"	4.65	3.35	0.64	19.8	
10-4	"	"			"	4.28	3.85	0.57	15.0	
10-5	"	"			"	4.65	4.30	0.90	31.1	
10-6	"	"			"	5.00	4.55	0.85	31.1	
5-1	2号住	フク土			条痕	4.30	3.55	0.65	16.9	
5-2	"	"			"	4.25	3.80	0.80	21.1	
5-3	"	"			"	4.35	4.15	0.85	28.3	
5-4	"	"			無文	4.05	3.75	0.85	21.2	
5-5	"	"			条痕	3.35	3.25	0.55	11.2	
5-6	"	"			"	4.10	3.85	0.65	17.8	
5-7	"	"			"	4.05	3.95	0.75	21.1	
5-8	"	"			"	4.15	4.05	0.90	25.7	
5-9	"	"			無文	4.25	3.85	1.12	26.1	
5-10	"	"			有文	4.15	3.87	0.35	11.1	

表33 石町遺跡出土土製円板一覧表2

(単位cm及びg)

登録番号	出土位置	層位	遺存状況	形態	材質	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号
5-11	2号住	フク土			条痕	4.41	3.55	0.45	14.9	
5-12	"	"			無文	4.15	3.94	0.80	24.8	
5-13	"	"			"	4.62	4.30	0.55	22.1	
5-14	"	"			条痕	4.25	4.12	0.75	24.8	
5-15	"	"			"	4.45	3.65	0.65	21.4	
5-16	"	"			無文	4.15	3.50	0.80	19.0	
5-17	"	"			条痕	3.90	3.85	1.01	25.7	
5-18	"	"			"	3.85	3.45	0.45	13.5	
5-19	"	"			無文	5.55	5.45	0.85	44.8	
5-20	"	"			条痕	5.05	4.45	1.15	38.0	
5-21	"	"			無文	4.50	4.15	1.15	35.3	
5-22	"	"			条痕	4.85	4.85	0.75	32.5	
5-23	"	"			無文	4.95	4.85	0.95	34.5	
5-24	"	"			条痕	4.70	4.55	0.75	27.0	
5-25	"	"			"	5.00	4.91	0.65	26.4	
5-26	"	"			"	5.45	4.70	0.85	29.6	
5-27	"	"			"	5.15	4.75	0.65	29.7	
5-28	"	"			有文	4.60	4.35	0.83	28.2	
5-29	"	"			有文	4.30	4.15	0.85	24.9	
5-30	"	"			条痕	4.75	4.60	0.80	26.4	
5-31	"	"			"	4.10	3.85	0.68	21.0	
5-32	"	"			無文	4.65	4.21	0.45	18.3	
5-33	"	"			"	3.85	3.65	0.55	14.6	
5-34	"	"			"	3.95	3.85	0.55	18.4	
5-35	"	"			条痕	4.02	4.02	0.65	22.1	
5-36	"	"			無文	4.65	4.35	0.67	22.6	
5-37	"	"			"	4.65	4.25	0.55	20.8	
5-38	"	"			"	4.88	4.50	0.62	23.9	
5-39	"	"			条痕	4.05	3.65	0.70	18.5	
5-40	"	"			"	4.31	3.95	0.85	24.7	
5-41	"	"			"	4.48	4.25	0.82	23.8	
5-42	"	"			有文	4.35	3.87	0.75	23.6	
5-43	"	"			無文	3.90	3.55	0.85	19.0	
5-44	"	"			条痕	3.35	2.85	0.95	14.6	
5-45	"	"			無文	3.84	3.55	0.48	13.8	
5-46	"	"			条痕	4.75	4.50	0.63	23.4	
5-47	"	"			無文	3.95	3.85	0.55	17.9	
5-48	"	"			条痕	4.20	4.15	0.65	16.9	
5-49	"	"			無文	5.05	4.15	0.62	22.7	
5-50	"	"			条痕	3.95	3.85	0.55	16.5	
5-51	"	"			無文	4.15	3.75	0.85	21.5	
5-52	"	"			"	4.65	4.33	0.60	18.9	
5-53	"	"			条痕	4.05	4.00	0.52	16.0	
5-54	"	"			無文	4.05	3.85	0.85	22.2	
5-55	"	"			"	4.25	3.75	1.00	23.9	
5-56	"	"			"	4.10	3.85	1.15	21.8	
5-57	"	"			条痕	4.55	3.93	0.85	26.5	
5-58	"	"			無文	4.55	4.15	0.75	22.1	
5-59	"	"			有文	3.95	3.85	0.75	19.4	
5-60	"	"			無文	4.70	4.15	0.65	22.1	
5-61	"	"			条痕	4.62	3.95	0.60	18.3	
6-1	4号住	フク土			無文	4.45	4.10	0.75	24.2	
6-2	"	"			"	4.35	3.54	0.70	17.5	
6-3	"	"			"	3.96	3.35	0.85	18.9	
6-4	"	"			"	3.60	3.10	0.55	11.5	

3 自然科学系の分析

1. 山崎遺跡出土試料の灰像分析および炭化材の樹種について。

東京大学総合研究資料館 松谷暁子

1 はじめに

遺跡から出土する灰を顕微鏡で観察すると、イネなど植物の表皮細胞を反映した組織像が見いだされることがあり、灰像と呼ばれているが、燃料その他に利用された植物を知る手がかりが与えられ、それによって当時の栽培植物の存在や植生の状態を知るのにも役立つ。

山崎遺跡からは、縄文時代の二軒の住居から炉の灰混じり土と炭化材の破片が、古墳時代の住居からはカマドの灰が採集され、顕微鏡での観察を行ったので報告する。

2 試料

試料は、縄文時代の住居二軒から出土した土器炉内試料3点と住居址覆土から採集された炭化材および古墳時代のカマド内試料1点である。

試料1. 縄文住2 フク土木炭約1.5cm角の炭化材破片多数。約120g。後期中葉。

試料2. 縄文住2 土器炉内北半下部。水分の多い土。約530g。後期中葉。

試料3. 縄文住2 土器炉内南半下部。約570g。後期中葉。

試料4. 縄文住3 石囲炉内。固い土の塊。約40g。後期前半。

試料5. 19号住カマド内。灰混じり土。約200g。6c末。

3 方法

炭化材(試料1)。20点を選び、実体顕微鏡で横断面を観察した後、SEMで径断面、接線断面を観察撮影した。

灰像試料（試料2-5）。

ビーカーに試料約50gを入れ、蒸留水を加えて覚伴した後、少しずつ時計皿に移し、手首で回転させる。上澄みと沈澱部に分けて、それぞれを蒸発皿に移し、乾燥器で乾燥させた後、スライドガラス上の封入剤中に分散させて、プレパラートを作成するという簡便な方法を用いた。なお、封入剤としては、オイキッとおよびマウントメディアを用いたが、後者の方がコントラストが大きくはっきりした像が得られた。

4 結果

炭化材（試料1） 実体顕微鏡で横断面を観察したところ、20点とも、年輪の前半部にやや大きい道管が数列配列し、年輪の後半部には多数の小道管が火炎状に存在しており、放射組織は単列とみられるので、ブナ科のクリまたはシイと推察された。SEM観察の結果は、道管はいずれも単穿孔を有し、放射組織は同性で単列であることが確認された（写真7a, 7b, 7c）。これらの特徴はやはりブナ科のクリとシイに認められるが、春材部の道管の大きさがクリにしては小さく、シイの材構造（写真8）と良く似ているように思われる。

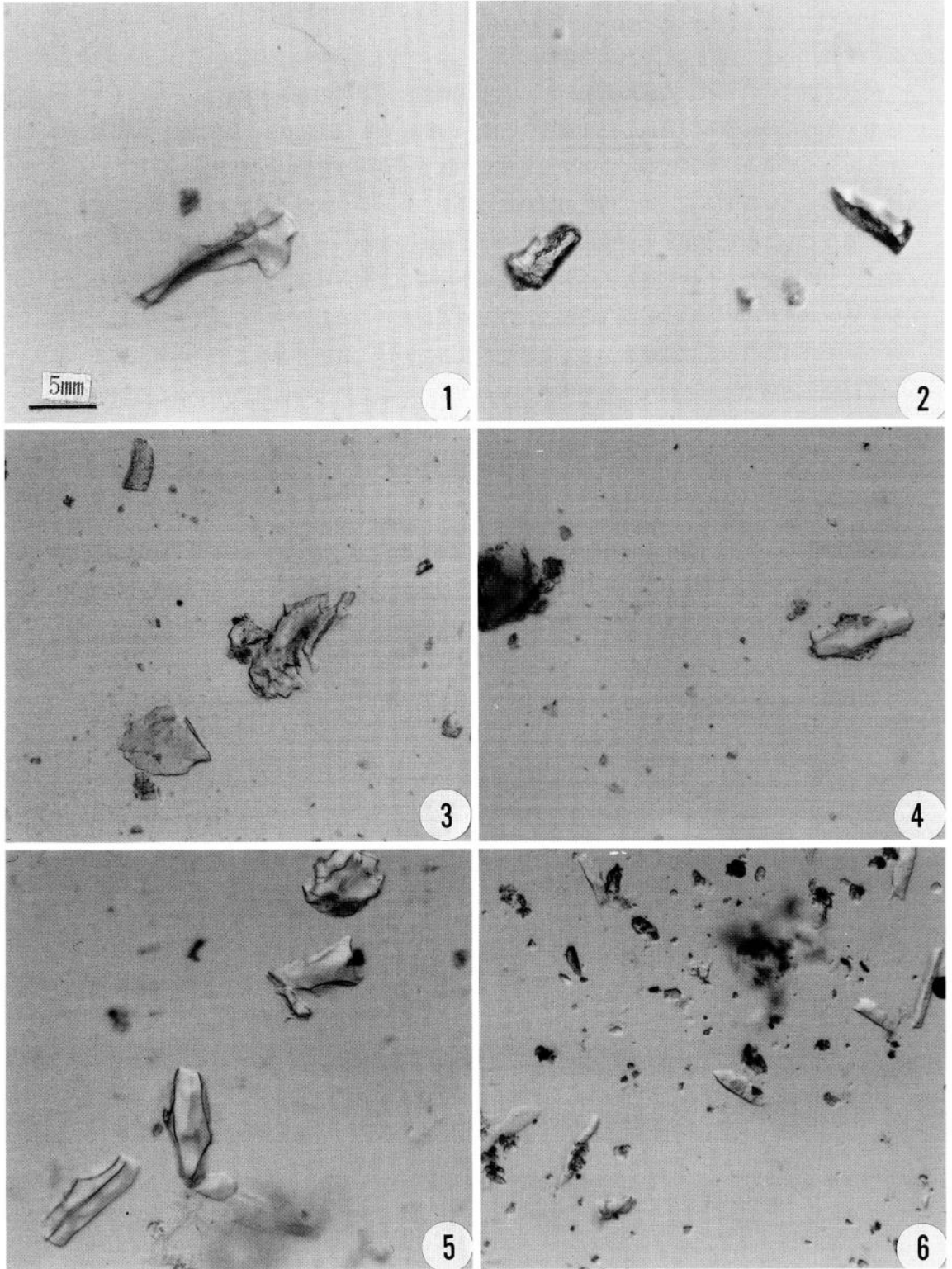
灰試料（試料2-5）のプレパラートを検鏡してみると、イネわらやイネ籾殻の灰像などが認められず、どの試料にも不定形の珪酸体が目だって認められる。4試料の内、2-4は縄文時代、5は古墳時代であるが、共通して不定形の珪酸体が認められる（写真1-4）。最近、樹木の葉に含まれている珪酸体が注目され、モクレン科、ブナ科、クスノキ科、ニレ科、クワ科などには特に多いことが報告されている（近藤・ピアスン 1981他）。山崎遺跡から観察された上記の珪酸体はイネ科ではなくブナ科の樹木葉起源の珪酸体の可能性が高いと考えられる。筆者は以前に様々な樹木の葉を炭化して、珪酸体を観察したことがあり、その時の試料と比較した限り、シイの葉を炭化したのち塩酸処理によってカルシウム分を除去して得られた珪酸体（写真5）がよく似ているように思われる。イチイガシの葉に認められる珪酸体はもっと小型で形態も異なり（写真6）、クリは珪酸体がほとんど認められなかった。ほかの樹木に由来するものでも同じ形態のものがあるかも知れないので断定はできないが、住居2の炭化材の破片がシイに類似していることも考慮に入れると、試料2-3の珪酸体はシイの葉に由来する珪酸体と考えることができる。そして炭化材は小さな破片ばかりであり、葉のついた小枝を燃やしたと考えられる。従って覆土中の炭化材も住居の構築材の遺残ではなく、土器炉で燃やした残りと考えられる。また縄文時代の別の住居3の石囲み炉や、古墳時代のカマドから検出された珪酸体も似ているので、やはりシイの葉を燃やしたと推察することができる。しかし、樹木葉由来の珪酸体の識別についてはまだ不十分であり、炭化材がクリの小枝という可能性も残るので、珪酸体もブナ科の樹木葉起源としておくのが妥当かもしれない。

5 考察

従来古墳時代のカマドの灰から見いだされる珪酸体は、筆者の経験では、ほとんどイネの籾殻やイネわらの珪酸体の連続した組織像(灰像)が多かった(松谷1981, 1990他)。山崎遺跡のようにシイに似たブナ科の葉に由来すると推定される不定形の珪酸体が顕著に見いだされたのは、初めての経験である。縄文時代の灰試料の場合、カルシウムが多い樹木に由来すると推定した場合でも、樹木の珪酸体が検出された例はこれまでなかった。樹木起源と考えられる珪酸体は火山灰土壌からも検出されているが、九州や沖縄など南方に多く北海道、東北、関東では全く見いだされないという指摘(近藤1976)と関係があるのであろう。今回ブナ科の樹木葉起源でシイの可能性のある珪酸体が多く見いだされることは、シイを含むブナ科の樹木が多く繁っており、遺跡で利用されたことを示唆してくれる。そして縄文時代ばかりでなく古墳時代にも同じ状況が続いていたことを示していると考えられる。

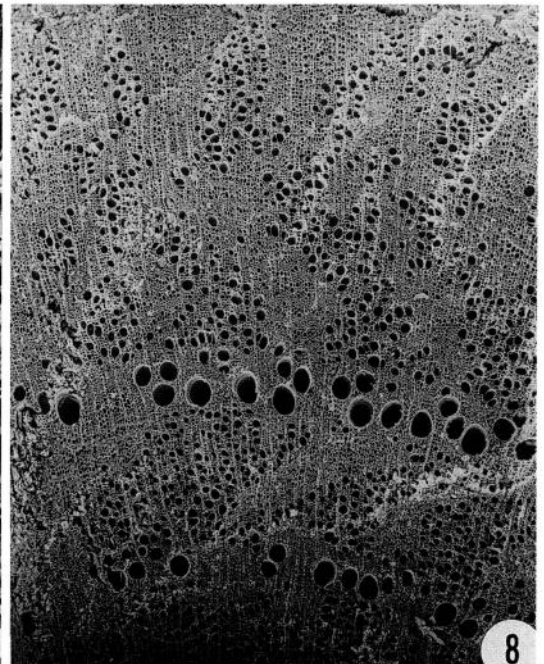
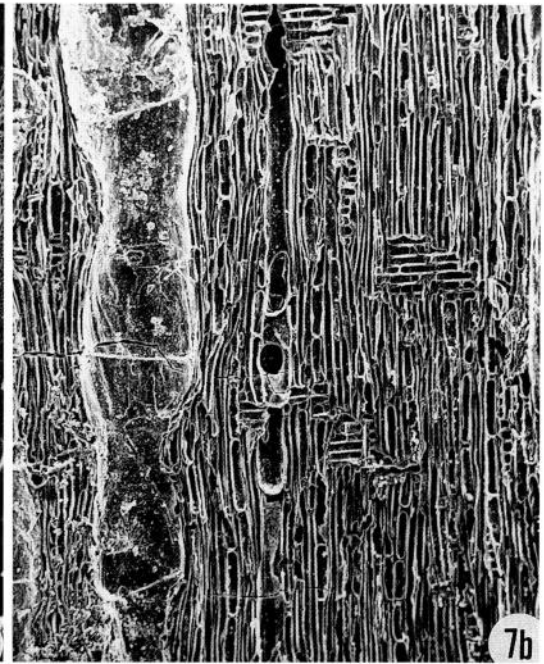
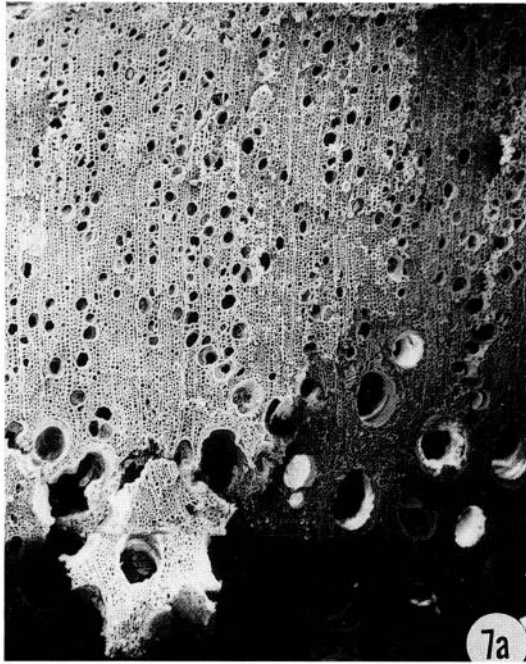
文献

- 近藤鍊三 1976 樹木起源の珪酸体について。ペドロジスト 20-2, 70-84。
近藤鍊三・ピアスン友子 1981 樹木葉のケイ酸体に関する研究(第2報)―双子葉被子植物樹木葉の植物ケイ酸体について。帯広畜産大学研究報告12, 59-71。
松谷暁子 1981 千葉市上ノ台遺跡の灰像分析。千葉市上ノ台遺跡付編, 45-47。
松谷暁子 1990 仙台市郡山遺跡(第84次調査)の灰像。仙台市文化財調査報告145, 101-106。



図版1 検出された灰像および比較用現生樹木葉二種の灰像の光学顕微鏡写真。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 試料2より検出された不定形の珪酸体。 | 4 試料5より検出された不定形の珪酸体。 |
| 2 試料3より検出された不定形の珪酸体。 | 5 シイの葉から検出された珪酸体。 |
| 3 試料4より検出された不定形の珪酸体。 | 6 イチイガシの葉から検出された珪酸体。 |



図版 2 炭化材の走査型電子顕微鏡写真。

7 a 炭化材（試料 1）の横断面。

7 b 同上 径断面。

7 c 同上 接線断面。

8 現生シイ材を炭化したものの横断面。

2. 大型植物遺体

名古屋大学文学部教授 渡辺 誠

このたび福岡県教育庁文化課より調査の機会を与えられた、同県築上郡椎田町石町遺跡出土の植物遺体は、縄文時代後期中葉北久根山式並行期の第1号住居炉跡南側床面より出土したものである。

それらはすべてブナ科コナラ属 (*Quercus* sp.) の種子であり、いわゆるドングリ類である。その内容は種皮と子葉で、遺存状態と数量は第1表、および写真1に示すとおりである。表中双としたのは完形品、半としたのは子葉が二つに別れた片側である。また双21点には種皮が若干付着している6点(写真1-b)と、剥落した15点(同a)とがあり、種皮破片(同c)も少量確認できる。したがってそれらは本来種皮が付着したままの状態であったと考えられ、炉辺における皮むき作業が推定される。また片側だけの半は41点あり、少なくとも21点以上の存在を知ることができる。また破片は19.07gあり、仮に半の平均値で算定すれば、少なくとも48点以上の存在を知ることができる。したがって全体では90点以上と推定される。

次に種が問題になるが、それらは子葉のみになると、特徴的な縦の溝のあるイチイガシを除いては識別が不可能である。しかしいずれも楕円形を呈しており、長さは1.11~1.59cmで平均1.35cm、幅は0.66~1.14cmで平均0.89cm、長幅比は1.17~1.91cmで平均1.50cmであり、やや膨らみの強い楕円形である(第2表、第1図)。筆者の分類のB・C類、すなわちなら類かカシ類と推定される。そしてそのなかにはイチイガシはまったく含まれておらず、アク抜きをしないと食用化することはできない種類のみである(第3表)。

カシ類は、西南日本の照葉樹林帯を代表する代表的な樹木である。これに対しナラ類は、東北日本の落葉広葉樹林帯を代表する代表的な樹木である。同じドングリ類の仲間であっても、その主要な分布域が異なるばかりでなく、その食用化のためのアク抜きの方法も異なっている。

アク抜きの方法は粒のままか、製粉してから行うかによっても異なるが、

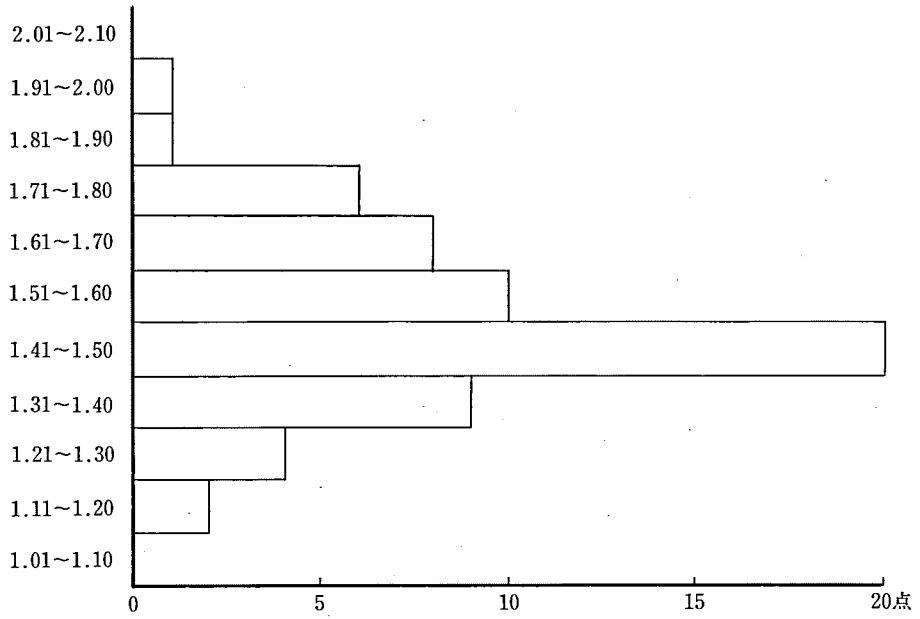
第1表 コナラ属の遺存状態と数量表

遺存状態	数量	写真1
子葉(双)種皮付き	6	b
子葉(双)種皮無し	15	a
子葉(半)	41	
子葉(破片)	19.07g	
種皮(破片)	0.43g	c

第2表 ドングリ類計測値一覧表 (単位: cm, g)

番号	残存状態	長さ	幅	長さ/幅	重量
1	双(種皮付き)	1.59	0.92	1.73	0.46
2	"	1.58	0.96	1.65	0.46
3	"	1.55	1.05	1.48	0.67
4	"	1.50	1.01	1.49	0.52
5	"	1.40	0.80	1.75	0.38
6	"	1.28	0.79	1.62	0.24
	平均	1.48	0.92	1.62	0.46
7	双(種皮無し)	1.50	0.97	1.55	0.49
8	"	1.48	0.84	1.76	0.35
9	"	1.48	0.83	1.78	0.38
10	"	1.47	1.02	1.44	0.42
11	"	1.43	0.75	1.91	0.27
12	"	1.39	0.87	1.60	0.35
13	"	1.33	0.82	1.62	0.31
14	"	1.31	0.95	1.38	0.28
15	"	1.29	0.88	1.47	0.31
16	"	1.27	1.01	1.26	0.44
17	"	1.27	0.69	1.84	0.19
18	"	1.19	0.84	1.42	0.23
19	"	1.16	0.99	1.17	0.41
20	"	1.14	0.91	1.25	0.26
21	"	1.13	0.66	1.71	0.16
	平均	1.32	0.87	1.54	0.32
22	半	1.59	1.14	1.39	0.29
23	"	1.57	0.99	1.59	0.27
24	"	1.57	0.99	1.59	0.24
25	"	1.55	0.99	1.57	0.28
26	"	1.55	0.94	1.65	0.17
27	"	1.54	1.08	1.43	0.30
28	"	1.54	1.06	1.45	0.26
29	"	1.49	1.00	1.49	0.22
30	"	1.49	0.98	1.52	0.29
31	"	1.47	0.93	1.58	0.19

32	"	1.46	1.00	1.46	0.25
33	"	1.45	1.08	1.34	0.25
34	"	1.45	0.92	1.58	0.25
35	"	1.43	1.00	1.43	0.26
36	"	1.42	1.01	1.41	0.28
37	"	1.42	1.01	1.41	0.25
38	"	1.42	0.98	1.45	0.25
39	"	1.39	1.06	1.31	0.24
40	"	1.38	0.83	1.66	0.16
41	"	1.35	0.77	1.75	0.17
42	"	1.32	0.82	1.61	0.14
43	"	1.28	0.77	1.66	0.12
44	"	1.27	0.86	1.48	0.17
45	"	1.27	0.86	1.48	0.14
46	"	1.26	0.83	1.52	0.11
47	"	1.25	0.94	1.33	0.18
48	"	1.24	0.85	1.46	0.16
49	"	1.23	0.83	1.48	0.13
50	"	1.23	0.78	1.58	0.11
51	"	1.23	0.76	1.62	0.11
52	"	1.22	0.97	1.26	0.20
53	"	1.21	0.91	1.33	0.20
54	"	1.21	0.82	1.48	0.13
55	"	1.21	0.79	1.53	0.13
56	"	1.20	0.86	1.40	0.17
57	"	1.19	0.87	1.37	0.17
58	"	1.17	0.98	1.19	0.27
59	"	1.16	0.85	1.36	0.15
60	"	1.14	0.78	1.46	0.11
61	"	1.13	0.82	1.38	0.12
62	"	1.11	0.91	1.22	0.20
	平均	1.34	0.89	1.47	0.20



第 1 図 長幅比分布図



写真1 コナラ属の種子 (a: 子葉, b: 種皮付き子葉, c: 種皮破片)

第3表 ドングリ類の分類

民俗分類	属		種 (出土例のみ)	森林帯
A. クヌギ類 製粉または加熱処理+水さらし	コナラ属	コナラ亜属	クヌギ	落葉広葉樹林帯 (東北日本) (韓国)
B. ナラ類 製粉または加熱処理+水さらし			カシワ	
C. カシ類 水さらしのみ		アカガシ亜属	ミズナラ	
			コナラ	
D. シイ類など	シイノキ属	アカガシ	照葉樹林帯 (西南日本) (韓国南海岸)	
	マテバシイ属	アラカシ		
			イチイガシ	
			ツブラジイ・スグジイ	
			マテバシイ	

カシ類はいずれにしても水さらしのみでよい。しかしナラ類の場合は、製粉すれば水さらしのみでよいが、粒のままの場合には丹念な煮沸と水さらしとの繰り返しが必要である(渡辺1987)。本遺跡の場合各種のカシ類とナラ類が含まれている可能性があるため、アク抜きも各種の方法が併用されていたと考えられる。関連して製粉具や布の検討が必要になってくるであろう。

参考文献

渡辺 誠, 1987: 縄文時代の植物質食料—ドングリ類。考古学ジャーナル, 279.24~27頁。東京。

謝 辞

最後に、調査の機会を与えられ種々ご教示下さった福岡県教育庁文化課の小池史哲氏に対し、衷心より謝意を表する次第である。

4. 小 結

山崎遺跡・石町遺跡で検出された縄文時代の遺構は、竪穴住居跡11軒、石囲炉1基、甕棺墓3基、遺物包含層であった。

住居跡の種類

11軒のうち、方形ないし隅丸方形プランの例は、山崎1・3・4・7号住居跡があり、1・3・7号住居跡では石囲炉が設けられている。7号住居跡の柱穴は南東辺で4穴並ぶが、他の三辺では3穴ずつ沿って並ぶ。

円形ないし円形に似たプランの住居跡は、山崎2・5号住居跡と石町1・3・4住居跡がある。山崎2号住居跡・石町1号住居跡には、地床炉の脇に土器が埋設される複式炉の形態をとる炉があり、石町3・4号住居跡には地床炉が設けられている。複式炉は東北地方南部や北陸地方で典型的な例をみれるが、燃焼部分の脇に灰あるいは火種を貯える土器の埋設されるもので、灰の活用が考えられる。山崎2号住居跡の炉は九州地方で初出であったが、最近の調査では豊前市小石原泉遺跡1号住居跡でも発見された(註1)。

土 器

出土した土器のうち、石町2号住居跡覆土に混入していた押型文土器が最も古く、早期稲荷山式に相当する。一方縄文時代で最も新しい土器は、山崎6号住居跡上層や包含層出土の晩期土器であった。この時期幅のなかで殆どを占めるのが、後期前葉の小池原上層式から、中葉の鐘崎式・北久根山式、そして後葉の三万田式にかかる時期の土器で、住居跡及び包含層から出土した。

豊前地域の後期前葉から後葉の土器については、出土例の多い大分県側などから、賀川光夫・坂本嘉弘らが編年を検討しており(註2)、田中良之・松永幸男や高橋信武らが細分している(註3)。また、北九州市下吉田遺跡・菊水町遺跡出土土器による検討などがある(註4)。

築上西高校社会部で採集された石町遺跡の遺物は、坂本嘉弘によって紹介された(註2b)が、鐘崎式から西平式で、鐘崎式が大半を占めるとされた。その後の石町遺跡の発掘調査概報では、後期前半でも新しい段階から中頃を中心とした時期の住居跡群としている(註5)。

各住居跡出土土器毎の分類は表に示す。時期別のⅠ期は小池原上層式、Ⅱ期は鐘崎Ⅱ式、Ⅲ期は鐘崎Ⅲ式、Ⅳ期は北久根山式、Ⅴ期は菊水町式、Ⅵ期は辛川式ないし松ノ木式(註6)、Ⅶ期は三万田式、Ⅷ期は晩期をあてている。主な土器による変遷図は付図2に示す。

山崎遺跡では、5号住居跡を除く各住居跡にⅠ期土器が含まれる。これには小池原上層式のほかに、大平村土佐井遺跡6号住居跡出土の第6類土器(註7)も含まれている。土佐井遺跡報

各住居跡出土土器分類と時期

	1号	2号	3号	4号	5号	6号下	6号上	7号	包含層	石1号	石2下	1・2中	1・2上	石4号
I期	1・3類	1類	1類	1・2類		1・2類	1・2類	1類	2類・6a類	○		○		
II期	2類	2・3類	2・4類	3類		3・4類		2類 3a・b類	3・4a・b類 6b・e類					
III期	4類	3類	3類	4類		3・4類		3b・d,e類	4c・d類			○		
IV期	5類	4・5類 6～9類		4類 5類	1類	4・5類	3・4類	3c・d,類 4・5類	4e・5類 6c・d,類	1～6類	1～3類 4類	1～6類	3・4類 5類	2・5類
V期		4・5類 8類			1・2類	4・5類	5類		7・8・9類		3・6類	1～6類	1～6類	1・3・6類
VI期						6類							6類	
VII期						6類	6類						6類	
VIII期							7類		K1・K2					

告書ではこの土器を小池原上層式の直前に位置づけているが、豊後高田市森貝塚(註8)、宇佐市立石貝塚(註9)、下毛郡三光村佐知遺跡16号遺構(註10)、北九州市下吉田遺跡(註2a)でも若干ながら類例がある。森貝塚では、磨消縄文のものと沈線のみで施文されるものがあり、この種の土器が小池原上層式に近いことを物語る。そして4号住居跡は小池原上層式段階の住居跡であろう。

II・III期の鐘崎式系土器は、おもに山崎1・3・7号住居跡で出土している。このなかでも、1・3号住居跡出土土器が形態的に古く、7号住居跡出土土器が微妙に新しい様相を呈している。たとえば入組文が同心円に変化しはじめ、横走沈線が集線化して、文様帯の範囲が狭まるとともに沈線が細くなっている。また、537～539・542・543のような内彎口縁の土器の存在が注意されよう。II・III期土器の器面調整は、基本的に貝殻条痕で、縄文をもたない。平城式をも含めた鐘崎式系土器は、北部九州・西瀬戸内地方に広く分布し、小池原上層式や女界灘に面した地域などの鐘崎式土器には、縄文施文例をみることができる。しかし、北九州市下吉田遺跡や、山国側下流域の佐知遺跡・上唐原遺跡(註11)などでも縄文施文例は殆どみられない。この時期の、豊前地域での地域性と言えよう。

IV期の土器は、おもに山崎2号住居跡から出土している。また、類似した土器は石町1・2号住居跡からも出土している。石町1・2号住居跡では、1号住居跡が2号住居跡を切って構築されたと報告されているが、2号住居跡掘り下げが進んだ後に1号住居跡が検出されて、上面で検出されなかったこともあって、出土土器に混乱がみられる。形態的な変化もあまり顕著でないが、中層および上層出土土器に新しい要素を傾向としてみることができる。

山崎2号住居跡では、鐘崎式の新しい段階の名残をもつ土器60・61、平行沈線と磨消縄文をもつ土器72・78のような例があり、アナグラ疑似縄文を充填する土器もみられる。石町1号住居跡出土土器では、鐘崎式系は顕著でないが、北久根山式的な土器を含んでいて山崎2号住居跡出土土器と似通う。石町1・2号住居跡上層出土土器では、アナグラ疑似縄文よりもヘナタ

り疑似縄文が多く、胴部文様帯の上側界線に押し引きの沈線や刺突列点を施した例がみられる。この特徴は、Ⅴ期に分類する菊水町式に相当する。

出土状況からして、Ⅳ期とⅤ期を明確に区分しがたい側面をもち、Ⅲ～Ⅴ期が極めて接近した時期幅の中に納まる可能性も高いが、この間を3期区分する必要があるだろう。

なお、Ⅳ期・Ⅴ期の土器は、文様帯が口縁部と胴部に分離する特徴がある。石町2号住居跡の98土器は京都府桑飼下遺跡出土土器(註12)に類似したものがあり、細密条痕で調整される土器もある。石町143土器など片粕式土器(註3c)に近い例が含まれ、元住吉山Ⅰ式(註13)に近い例もある。縄文RLと縄文LRの比率でも、圧倒的にRLが多いものの、LR施文土器に東日本的な要素がみられる。石町1号住居跡の2土器などでは、アナグラ疑似縄文施文や、波頂部のW字状貼り付けは北久根山式の特徴で、西北九州的ともみれるが、胴部文様は鐘崎式の名残をとどめ、118・120にもこの特徴がみられる。S字文様の存在なども考えれば、東九州的な北久根山式として分離する必要もあろう。Ⅳ期を代表する土器でもある。これに対しⅤ期は、瀬戸内西部に広くみられるヘナタリ疑似縄文施文、押し引き沈線や刺突列点を使用する土器をあてておきたい。石町2号住居跡の160土器は、胴部文様など辛川式に近い特徴をもつ。

Ⅵ期の資料は、石町1・2号住居跡上層や、4号住居跡にみられるが、殆ど小破片である。この時期の資料としては、築城町松丸遺跡群(註14)で発見された土器溜まりや、三光村佐知遺跡40号遺構にややまとまって出土しており、大平村原井三ツ江遺跡住居跡出土土器(註15)などが後続する。

Ⅶ期は、山崎6号住居跡などで出土しているが、小破片が多く、量的には少ない。細線羽状文や押点が施文されている。注口土器などもあるが全体の形は不明である。

Ⅷ期は、山崎6号住居跡の上層などで若干出土している。浅鉢の455・456や甕棺使用土器などは晩期初頭頃かと思われるが、浅鉢458などは晩期中頃であろう。

石器の組成

山崎・下吉田遺跡住居跡出土石器点数

	打製石斧	すり石	石 皿	磨製石斧	石 鎌	石 錘	削 器 類	つまみ形石器	そ の 他
4号住	2	2	1	1	3	—	—	—	—
1号住	2	3	2	1	1	—	—	—	2
3号住	—	—	1	1	2	—	4	—	1
7号住	7	4	—	3	3	—	4	—	—
2号住	33	9	25	7	13	6	13	—	1
6号住	18	3	7	5	13	—	7	1	5
包含層等	275	23	22	49	144	2	59	3	9
下吉田1号	1	1	3	3	1	—	1	—	1
下吉田2号	2	8	4	2	—	4	8	—	2

山崎遺跡住居跡出土石器を種類別にみると、7号住居跡の打製石斧が7点を数え、2号住居跡で打製石斧・石皿が突出する。打製石斧や石皿が破片も含めた数とはいえ、1・3・4号住居跡やこれらと同時期の下吉田遺跡住居跡と比較して、増加していることが明かである。この現象は6号住居跡の段階でもみられる。また2・6号住居跡では石鏃も多い。この中には剥片鏃も一定量含まれていることと、姫島産黒曜石のみならず伊万里湾周辺産とみられる黒色黒曜石を素材にしている点は注目されよう。また6号住居跡にはつまみ形石器もみられる。すなわち2号住居跡の段階に西北九州との交易が行われていたことを示すものである。

打製石斧は、緑色片岩などの石材を用いていて、節丸西遺跡(註16)・下吉田遺跡でも片岩類が多用されている。これに対して山国川流域の遺跡では安山岩の例が多い。打製石斧の大きさでは、長さ8~16cm、幅4~8cmに集中していて、その比率は2:1前後だが、時期の下降に従って長めになる傾向も看取される。

石皿は、破片資料が多いものの、使用面が平坦な例が大半を占める。この中でI期の4号住居跡出土石皿では使用面が中窪みであることに注目したい。これに対してすり石は、I期段階で扁球形だが、III期から扁平な円板状のすり石がみられるようになる。石皿とすり石の形態の変化は、流動物から固形物へ主な対象物が変化した可能性を示唆するものであろう。石皿・すり石の破損状況などからみて、敲く作業工程が介在していた可能性が高く、堅果類種子の破砕などが考えられる。そして流動物の処理は、むしろ土器にみられる器種の多様化と関連し、浅鉢使用に転嫁されたものと解釈したい。ただし、石皿は堅果類種子などからの製粉に用いられるだけでなく、万能的な作業台の役割を果たしていたことは勿論であろう。

包含層出土石器を併せた山崎遺跡出土石器のうち、住居跡出土石器の占める比率をみてみよう。狩猟具である石鏃、植物質食料採集具(土掘具)の打製石斧ともに、2割以下である。これに対し、再生産・加工具であるすり石・石皿・磨製石斧・削器類は高い出現率になる。これはそれぞれの使用場所からして当然の結果とも言えようが、漁労具の出土が稀少であることに注意しなければなるまい。石錘は全体で8点出土したものの打欠石錘で、切目石錘・有溝石錘・土器片錘はみられない。各住居跡から出土している土製円板が、大きさ・重量の集中範囲から、漁網錘であったと考えるのも可能であるが、紐ずれなどの使用痕が不明瞭のため、にわかには断定しがたい。とまれ、山崎遺跡では、植物質食料採集活動を中心に、狩猟活動も活発であったと推定されよう。

豊前地域の縄文時代集落

九州東北部で、縄文時代の住居跡がまとまって発見されたのは、山崎遺跡の調査が最初であった。九州地方に存在するとは予想もしなかった埋設土器を伴う複式炉が発見されたこと、河原石のごろごろした所に住居跡が掘り込まれていたのは、驚くばかりであった。

しかも、その後、豊前地域では次々と住居跡が発見されたのである。

大平村の原井三ツ江遺跡(後期後半, 1軒)(註15)・上唐原遺跡(後期中葉, 2軒)(註11)・土佐井遺跡(後期前半～後半, 6軒)(註7), 豊前市小石原泉遺跡(後期中葉, 1軒)(註1)・中村石丸遺跡(後期前半～後半, 10余軒)(註17), 豊津町節丸西遺跡(後期中葉～後半, 22軒)(註16), 大分県三光村佐知遺跡(後期前半～後半, 3軒)(註10), 宇佐市尾畑遺跡(後期中葉, 1軒)(註18), 安心院町飯田二反田遺跡(後期前半～中葉, 5軒)(註19)などで、山崎遺跡以前に調査されていた中津市棒垣遺跡(後期中葉, 1軒), 北九州市下吉田遺跡(後期中葉, 3軒)などを併せると、住居跡は70軒に近い数に達したのである。

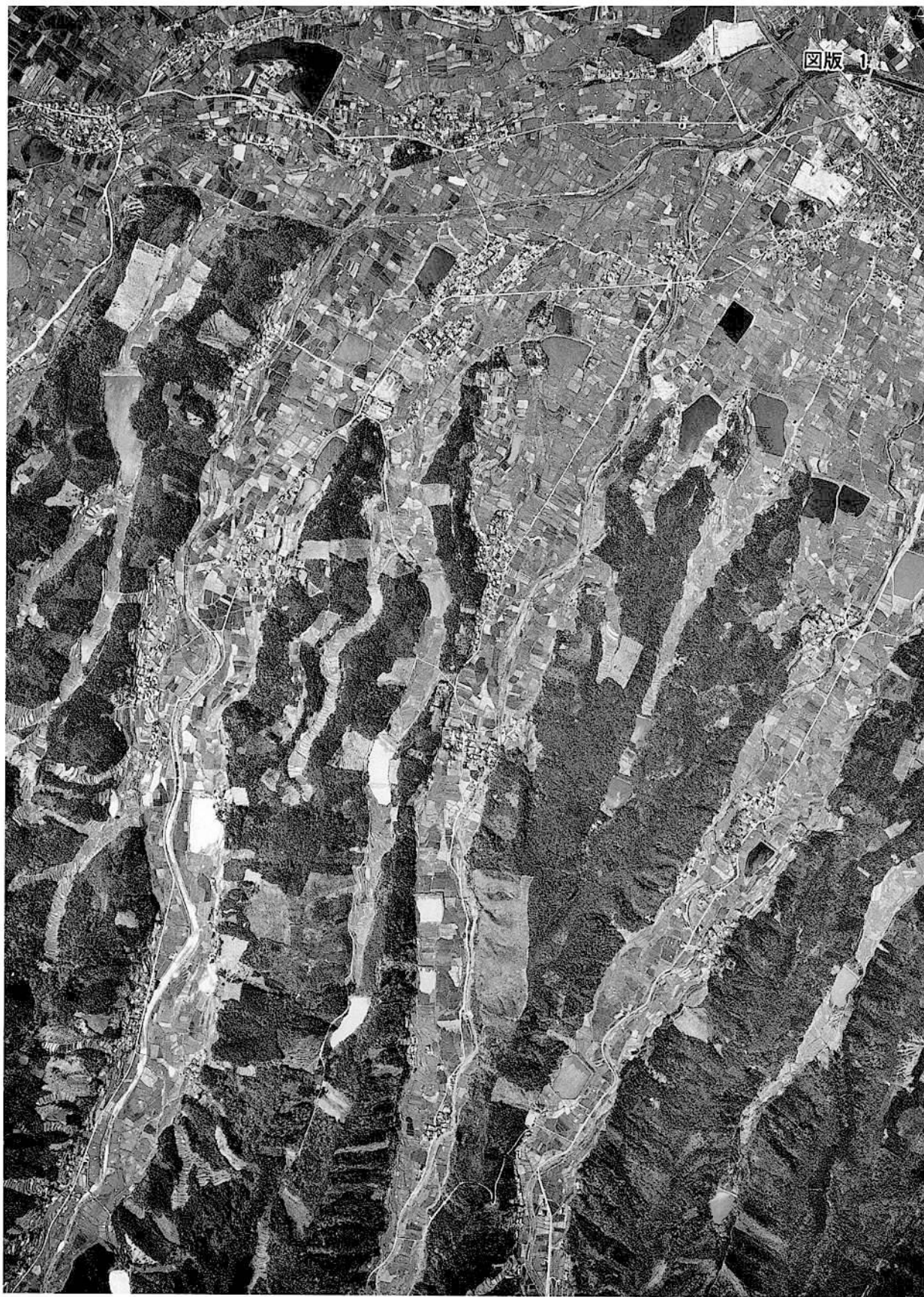
これらの遺跡は、いずれも山崎・石町遺跡と近接した時期に住居跡が造られていて、その盛衰も興味深い。調査内容未整理の遺跡もあるので、詳細な検討は今後に期したいが、とりあえず概略的に住居跡の形態をみてみよう。山崎・石町遺跡では、方形ないし隅丸方形プランで石囲炉を施設する住居跡がⅠ期からⅢ期の段階にみられ、Ⅳ期ないしⅤ期には円形プランで複式炉ないし地床炉が施設されている。他の遺跡ではどうだろうか。Ⅰ期では、佐知16号遺構はプランが不明瞭だか石囲炉、飯田二反田4号住居跡は方形で地床炉、土佐井6号住居跡は不整円形で石囲炉である。Ⅱ・Ⅲ期では、上唐原遺跡例に隅丸方形で石囲炉をもつ住居跡があり、棒垣遺跡の住居跡、飯田二反田1・2号住居跡、下吉田1・3号住居跡も方形で石囲炉であるが、下吉田2号住居跡は円形で東側に張り出しがあり、炉は不明瞭である。Ⅳ・Ⅴ期では、飯田二反田3号住居跡が不整不整円形で土器片埋設炉、小石原泉遺跡例が円形で土器埋設の複式炉をもっている。佐知4号遺構はⅤ期だが不整円形で地床炉である。Ⅵ期以降では、原井三ツ江遺跡例・土佐井5号住居跡とも円形ないし不整円形で地床炉である。したがって、山崎遺跡での形態変遷は豊前地域に普遍的であるとみてよいだろう。

遺跡立地をみれば、遺跡の標高は、8m前後の下吉田遺跡が最も低い位置にあり、20m前後の遺跡に、尾畑遺跡・上唐原遺跡・佐知遺跡・小石原泉遺跡・中村石丸遺跡・山崎・石町遺跡、40m以上に原井三ツ江遺跡・土佐井遺跡・節丸西遺跡・飯田二反田遺跡があり、飯田二反田遺跡は82m前後にある。この中で、山国川の自然堤防上に立地する上唐原遺跡・佐知遺跡や丘陵裾の下吉田遺跡では比較的掘り易い地山だが、中村石丸遺跡・節丸西遺跡や、山崎・石町遺跡では、礫が多く掘り難い地山に造られている。何故に、このような場所に住居跡を設けたのであろうか、これらの遺跡で共通することに、河川ないしは湧水が至近にある、谷底平野から扇状地地形に変化した辺りで、丘陵・山地に近い位置にあることを挙げられる。海に近い遺跡もあるものの、むしろ植物質食料を採集する・狩猟をする山地に近く、水を十分に確保できる平坦地を選んだのであろう。あく抜き加工技術の発展が、この選定に強く影響を与えた可能性も考えておきたい。

(小池)

- 註1 豊前市 1991 豊前市史 上巻
- 2 a 賀川光夫 1956 九州 日本考古学講座3 縄文時代
 b 坂本嘉弘ほか 1979 石原貝塚・西和田貝塚 宇佐市教育委員会・大分県教育委員会
- 3 a 田中良之・松永幸男 1984 広域土器分布圏の諸相—縄文時代後期西日本における類似様式の並立—
 古文化談叢 第14集
 b 高橋信武 1981 片粕式土器の細分に向けて 赤れんが 創刊号
- 4 a 北九州市教育文化事業団 1985 下吉田遺跡 北九州市埋蔵文化財調査報告 第39集
 b 北九州市教育文化事業団 1988 菊水町遺跡 (I区の調査) 北九州市埋蔵文化財調査報告 第68集
 c 山口信義 1989 周防灘・響灘沿岸地域における北久根山式併行期の土器 研究紀要 第3号 北九州市教育文化事業団
- 5 椎田町教育委員会 1988 石町遺跡 椎田町文化財調査報告書 第2集
- 6 a 富田紘一 1986 西山南麓の未紹介遺跡 戸坂遺跡発掘調査報告書 熊本市教育委員会
 b 3b前掲書
- 7 大平村教育委員会 1990 土佐井遺跡群 大平村文化財調査報告書 第6集
- 8 樋口清之 1931 大分縣西國東郡河内村森貝塚の研究 史前學雜誌 第3巻第1号
- 9 大分県教育委員会 1974 立石貝塚 大分県文化財調査報告 第31輯
- 10 大分県教育委員会 1989 佐知遺跡 大分県文化財調査報告 第81輯
- 11 福岡県教育委員会が1987・1988年度に発掘調査, 現在整理中。
- 12 舞鶴市教育委員会 1975 桑飼下遺跡発掘調査報告
- 13 岡田茂弘 1965 縄文文化の発展と地域性 近畿 日本の考古学II
- 14 築城町教育委員会が1990・1991年度に発掘調査, 現在整理中。
- 15 大平村教育委員会 1989 原井三ツ江遺跡 大平村文化財調査報告書 第5集
- 16 豊津町教育委員会 1990 豊前国府および節丸西遺跡 豊津町文化財調査報告書 第9集
- 17 福岡県教育委員会が1988年度に発掘調査, 現在整理中。
- 18 大分県教育委員会 1988 一般国道10号宇佐バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報I
- 19 大分県教育委員会 1990 一般国道10号宇佐別府道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報II

圖 版



山崎遺跡周辺航空写真（国土地理院提供）



1



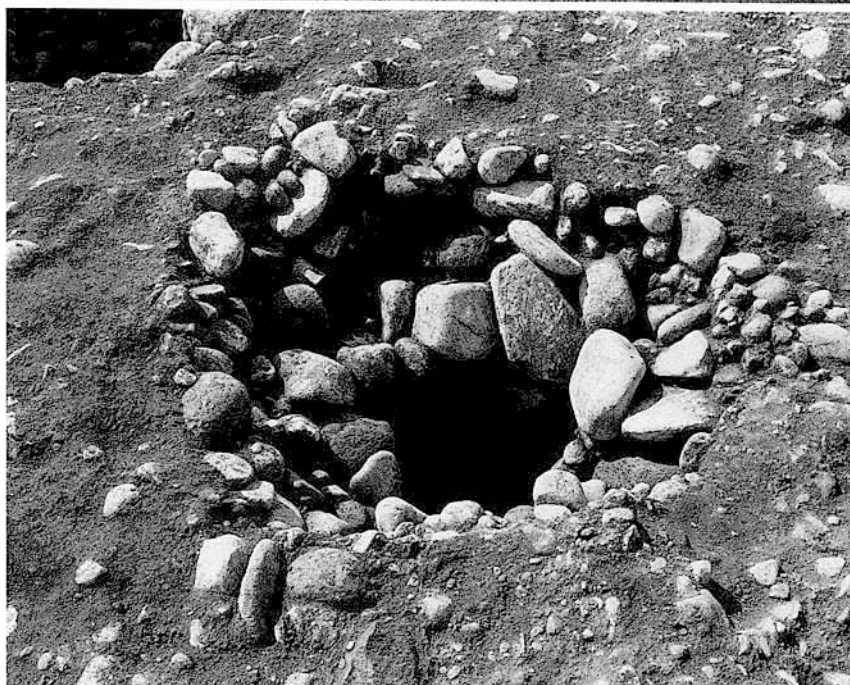
2

1 山崎遺跡と
岩丸川扇状地
(北から)

2 山崎遺跡
空中写真



1

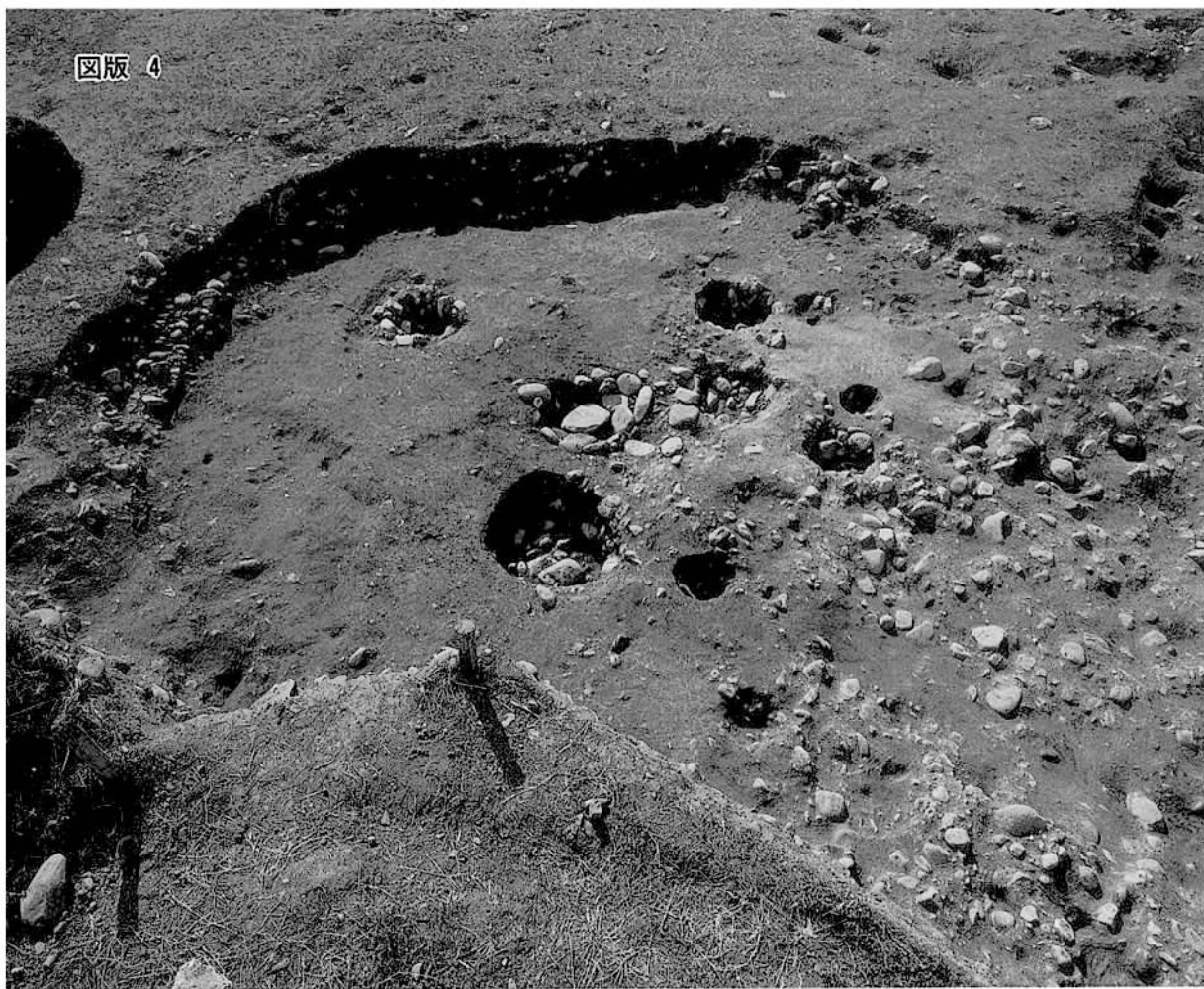


2



3

- 1 山崎遺跡北端調査区
(南西から、写真右上側が
石町遺跡)
- 2 北端調査区柱穴状ピット
- 3 調査区北部の遺構検出

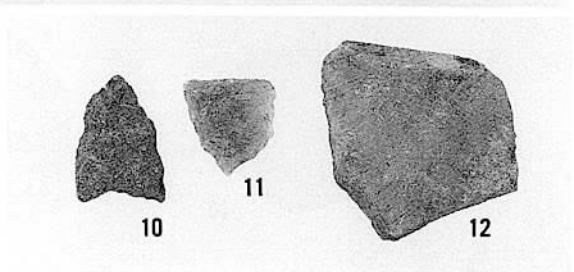
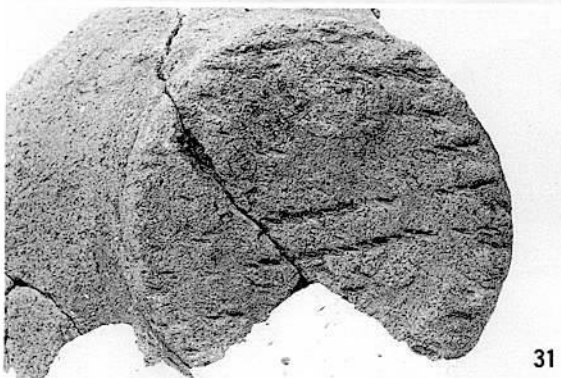
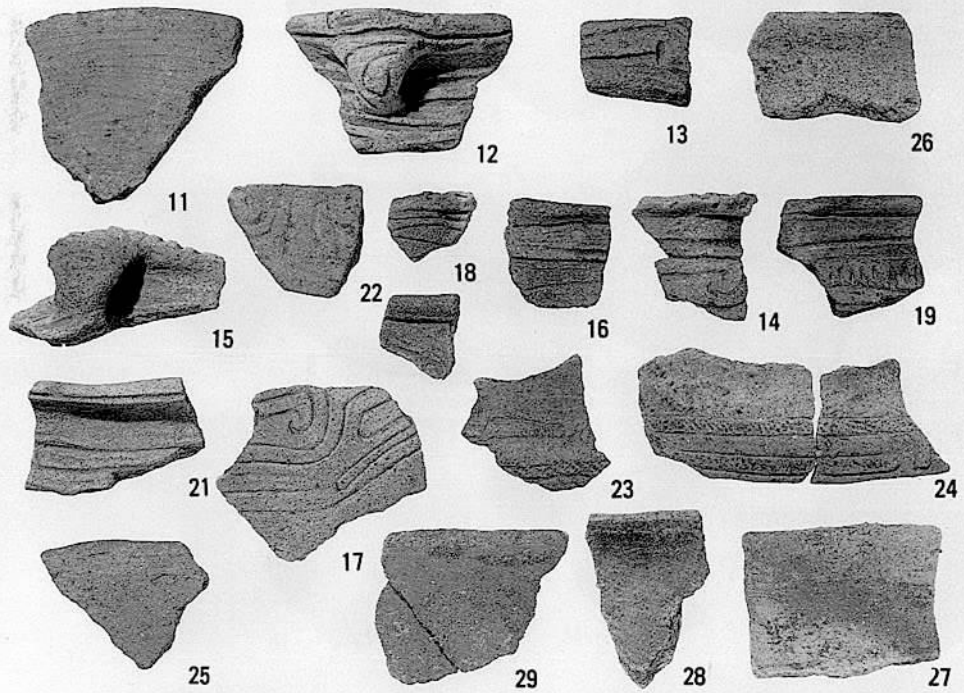
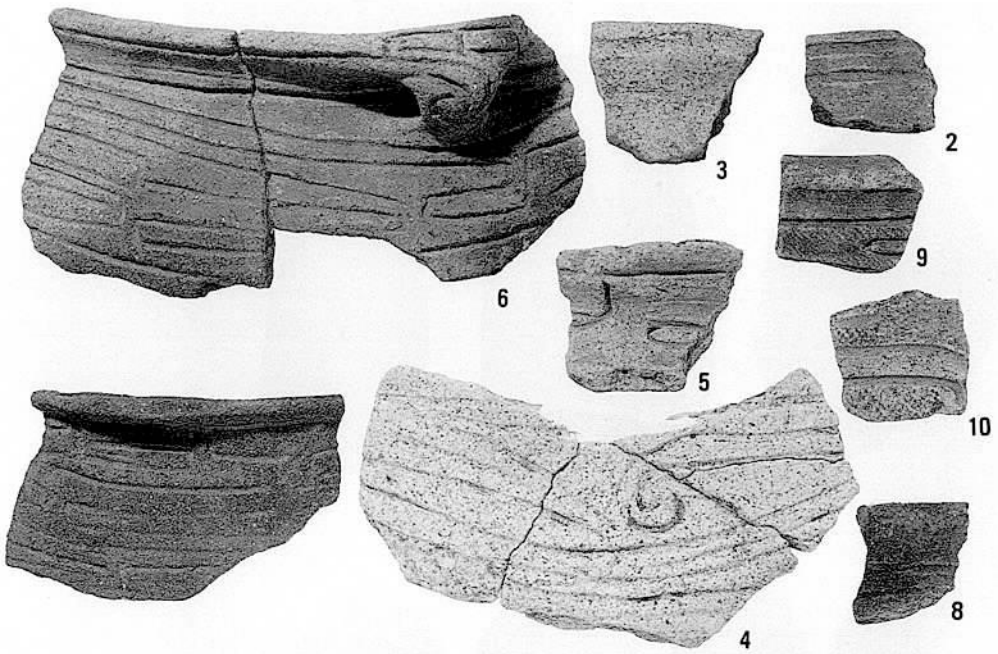


1

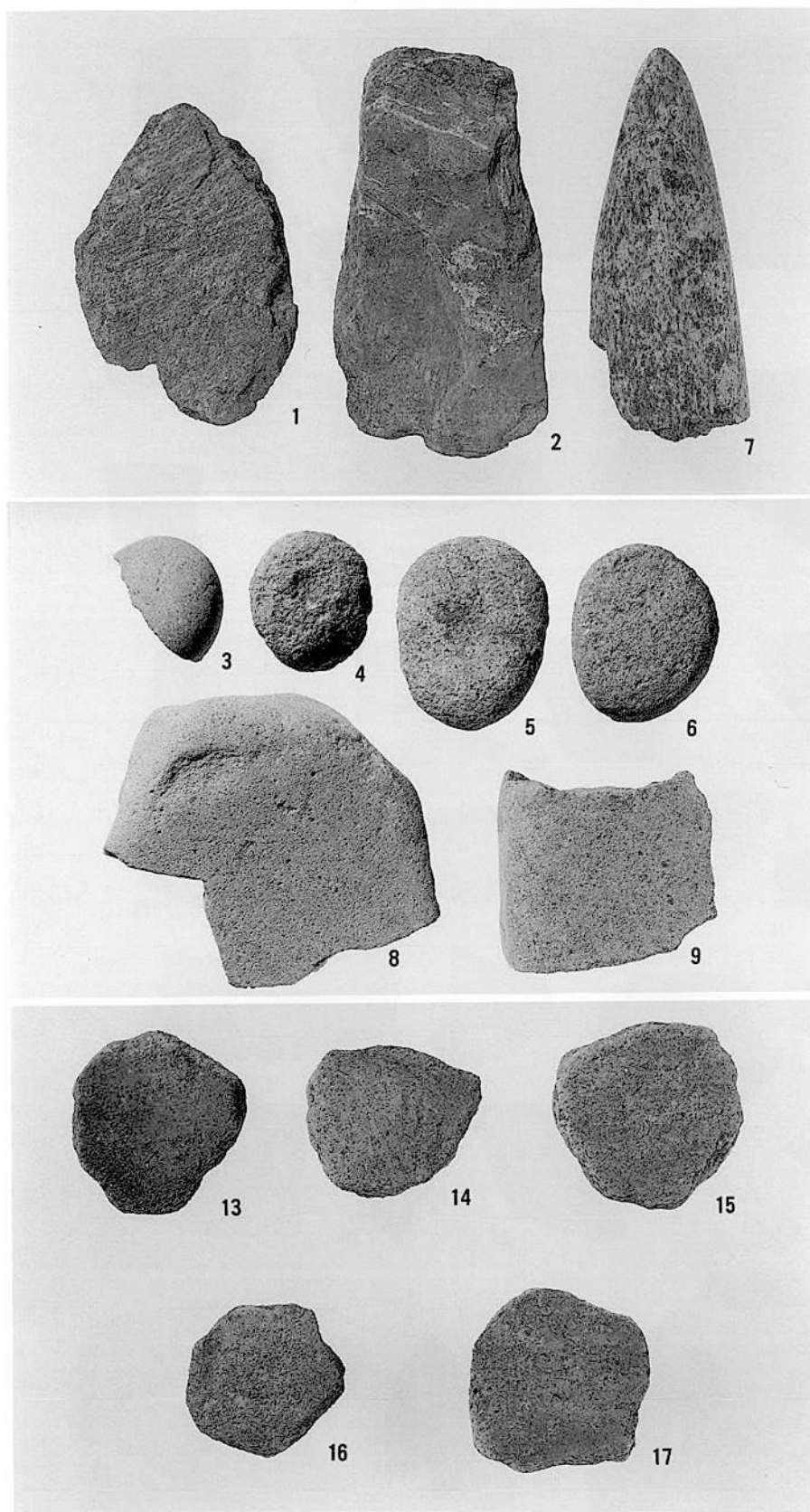


2

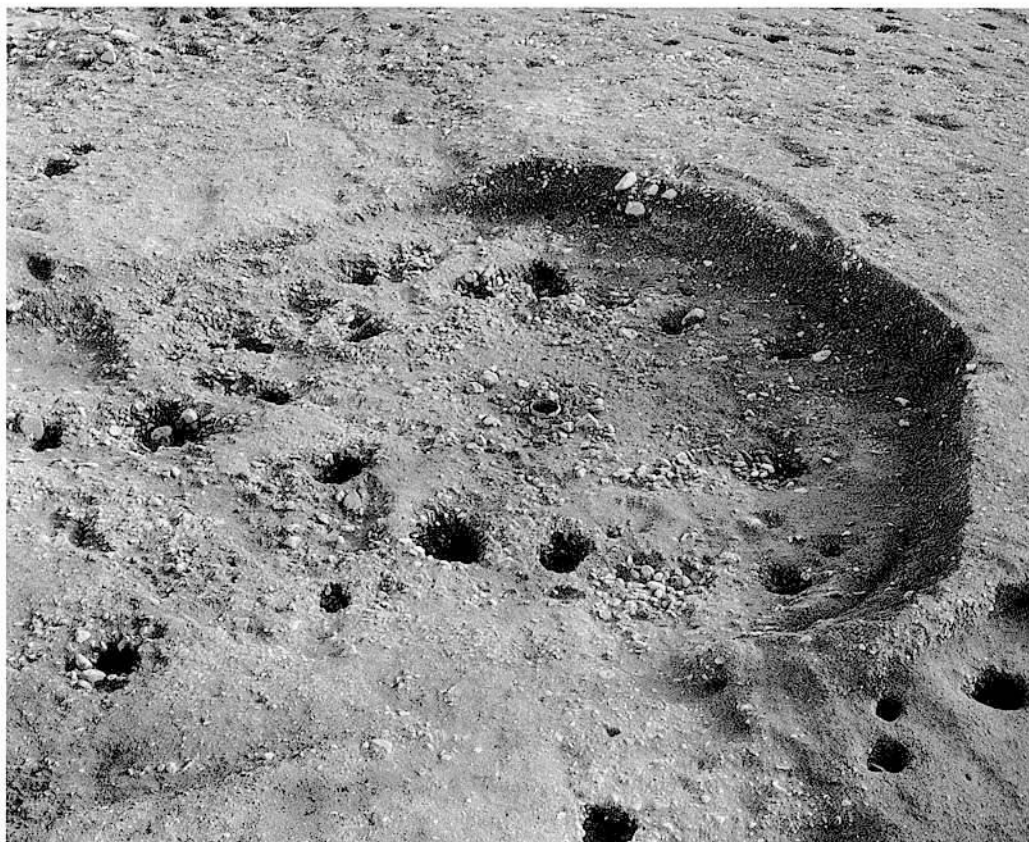
1 1号住居跡(北から) 2 1号住居跡石囲炉(東から)



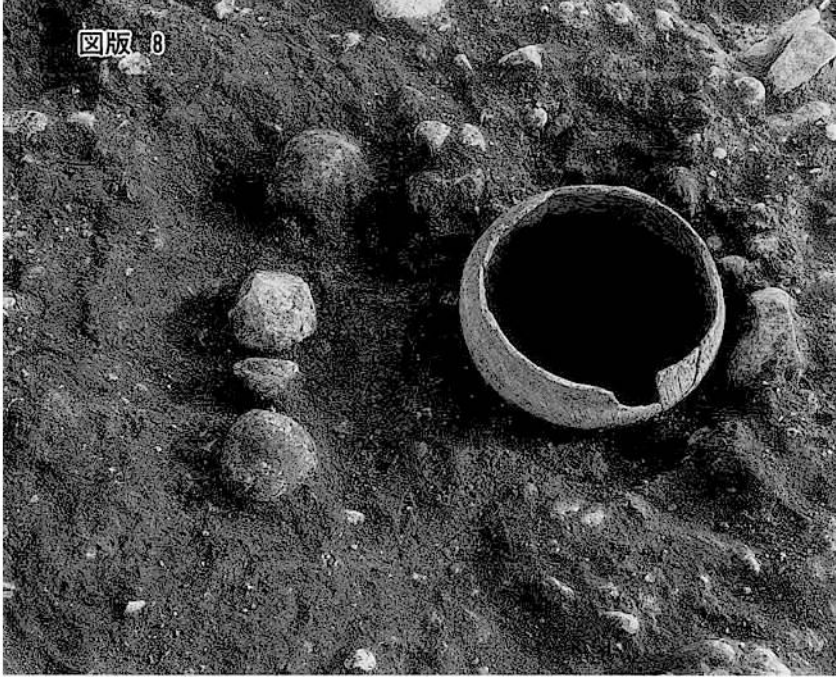
1号住居跡出土土器・石器



1号住居跡出土石器・土製品



- 1 2～5号
住居跡
- 2 2号住居跡
(北から)



1

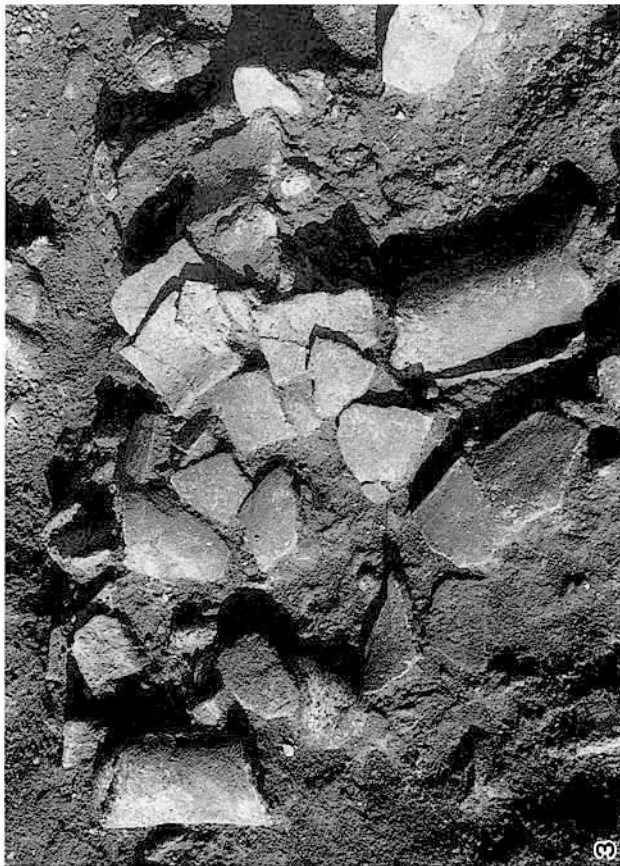


2

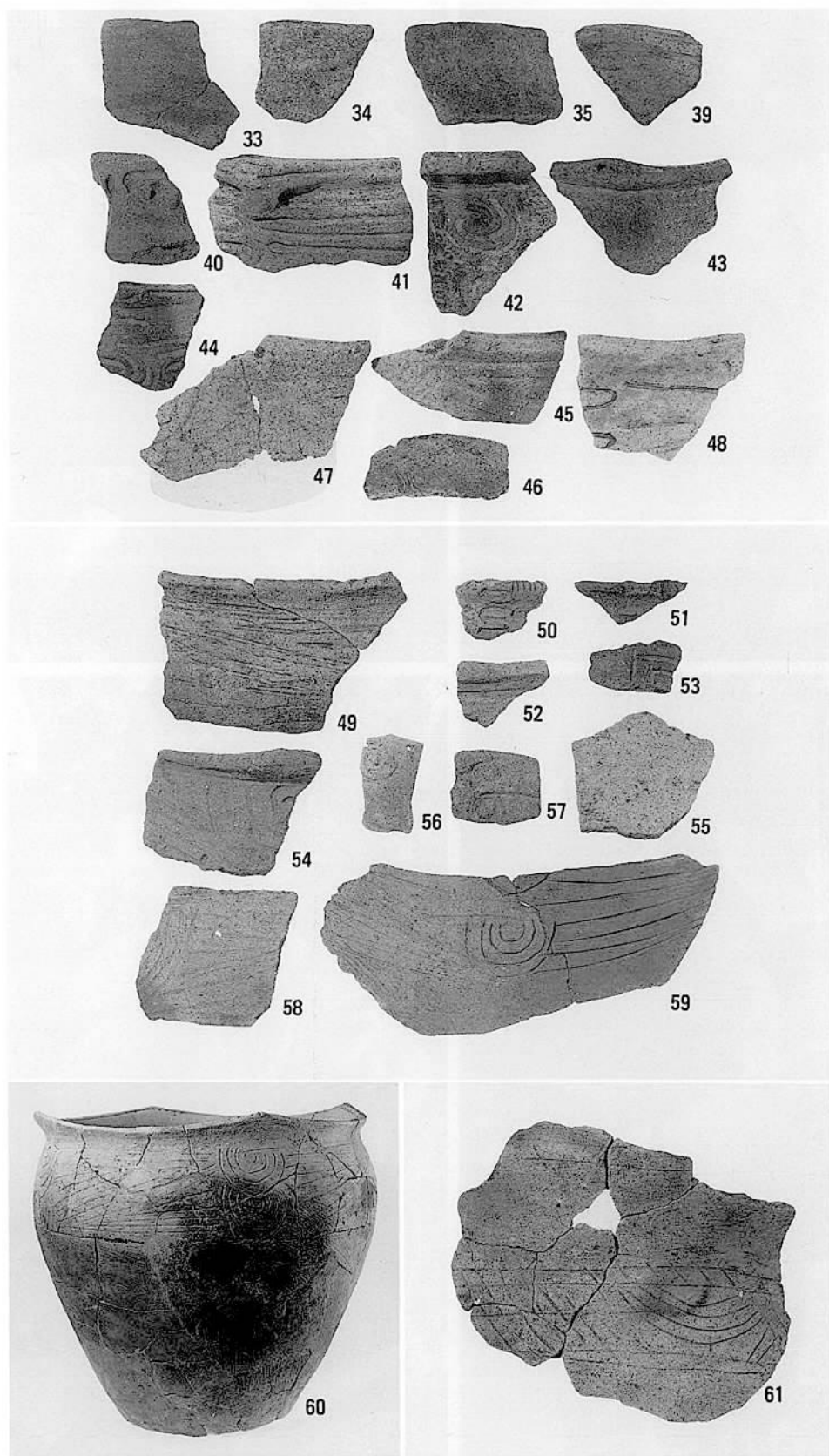


3

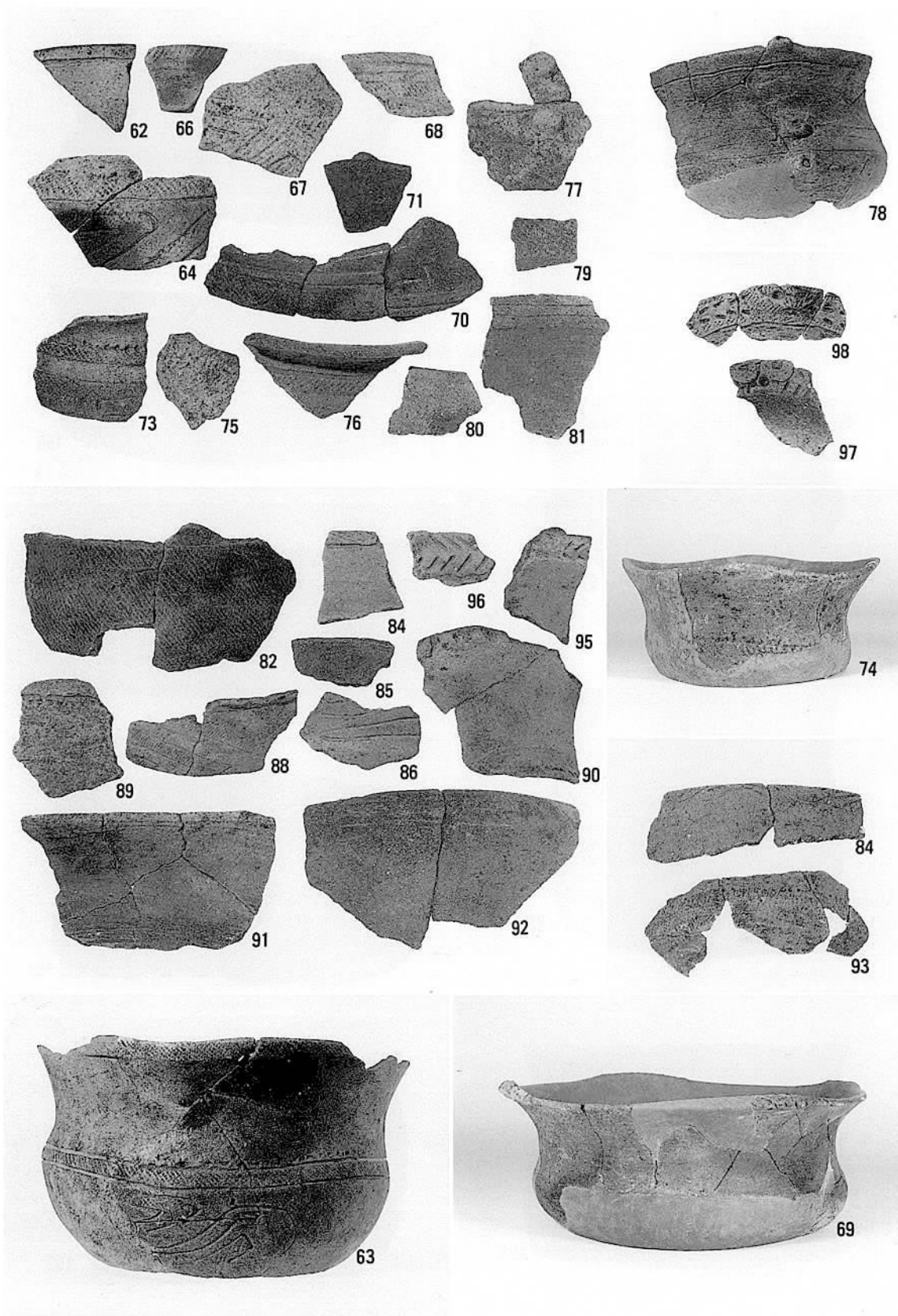
- 1 2号住居跡土器炉(北から)
- 2 2号住居跡炉埋設土器
- 3 2号住居跡遺物出土状況1



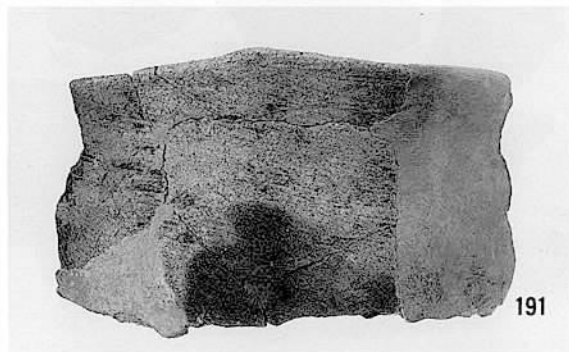
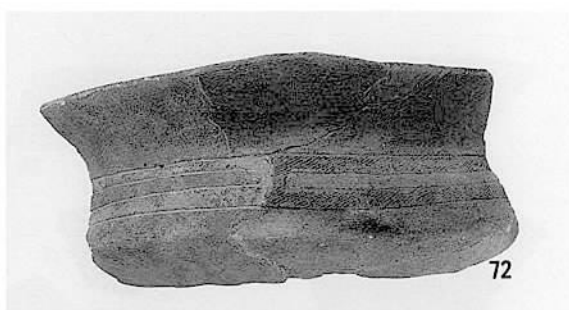
2号住居跡遺物出土状況

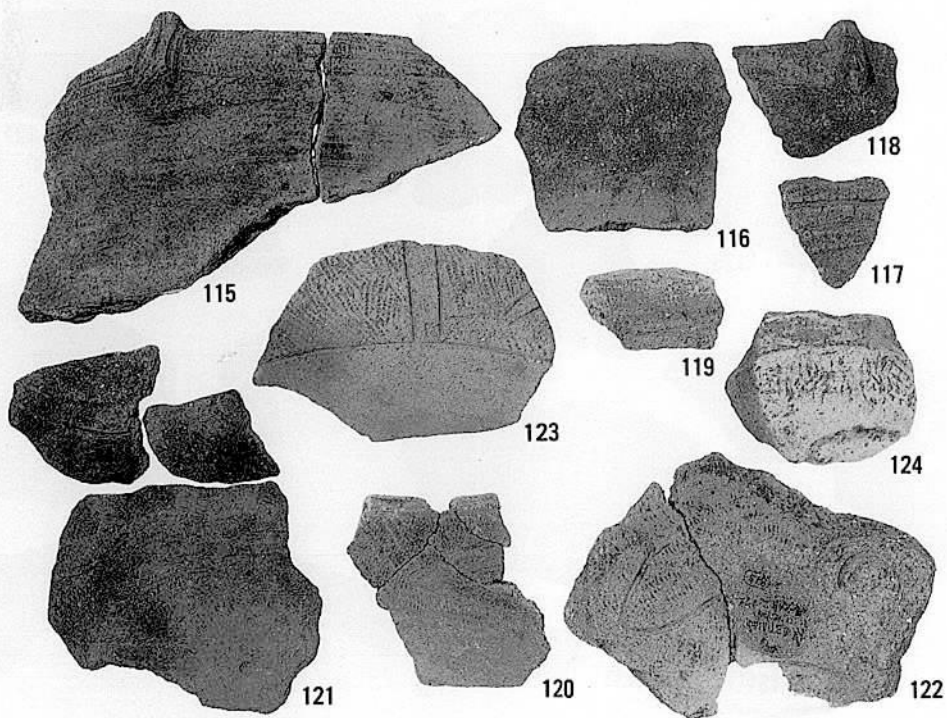
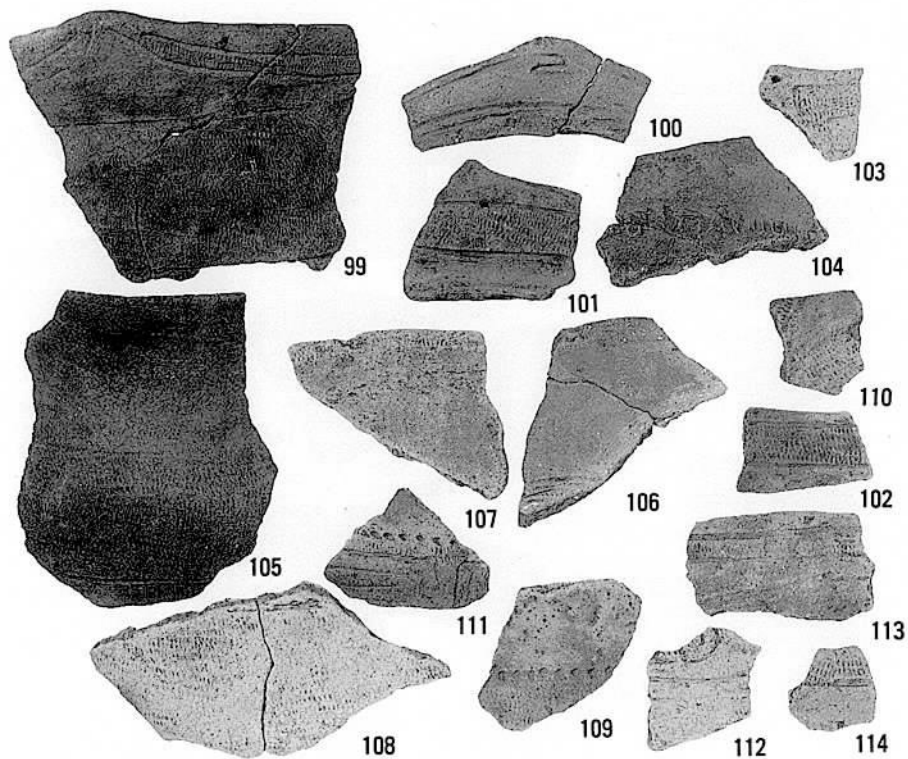


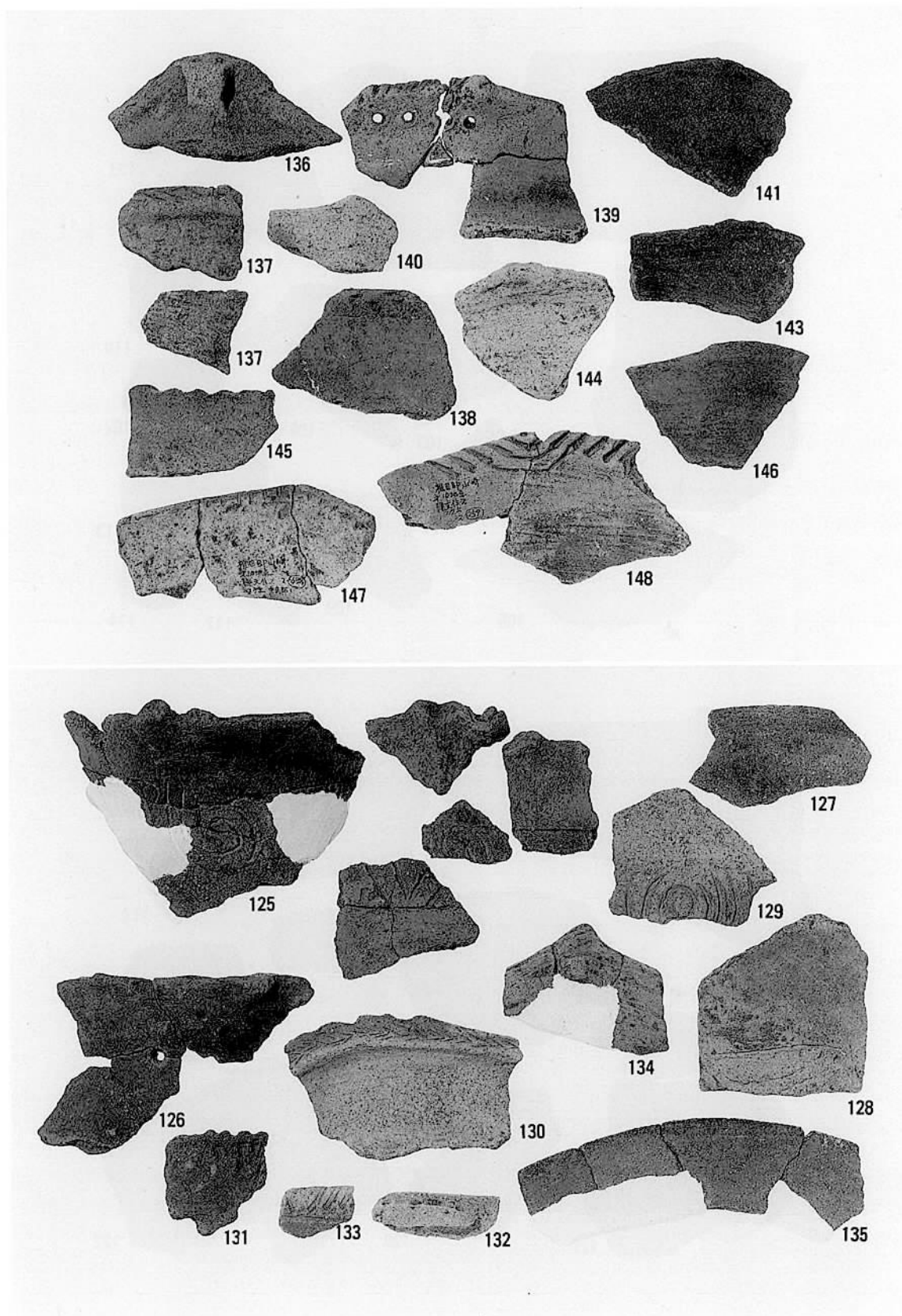
2号住居跡出土土器 1



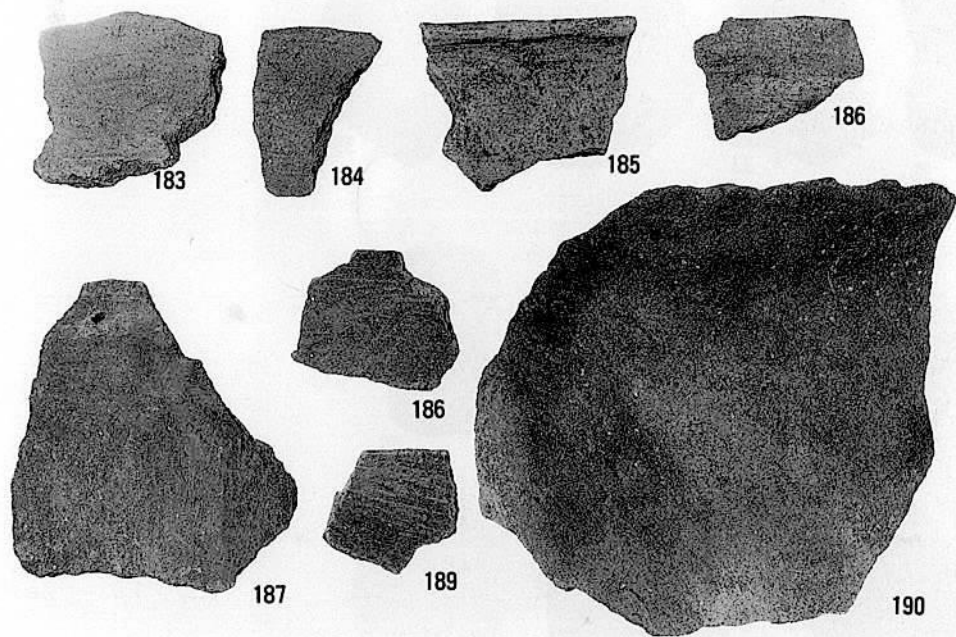
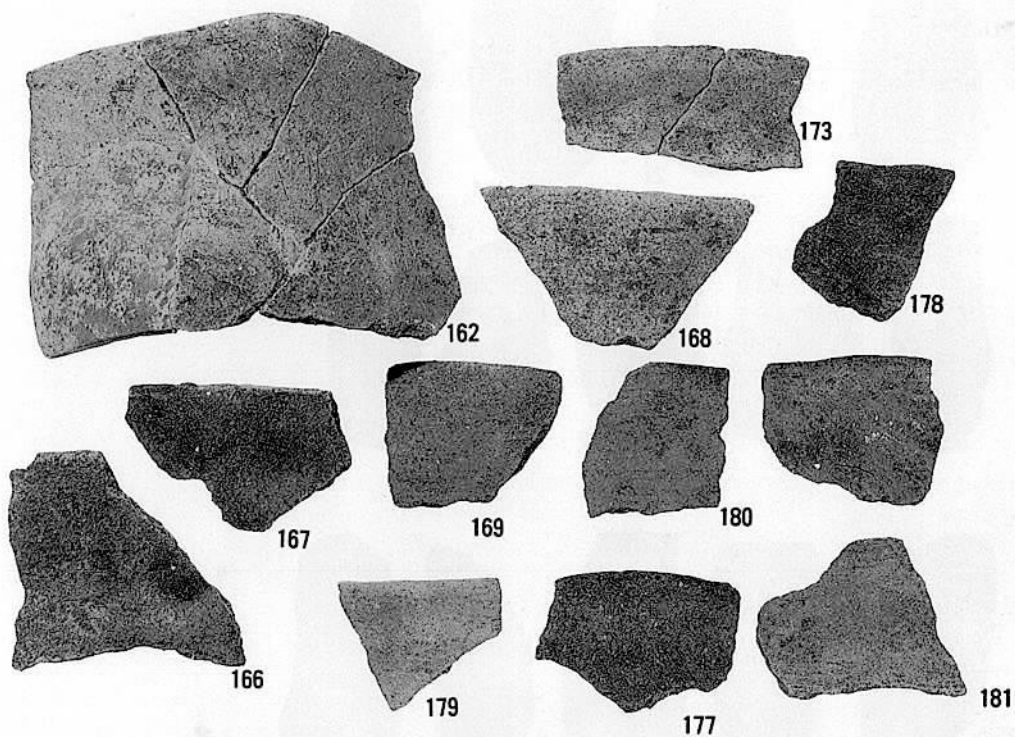
2号住居跡出土土器2

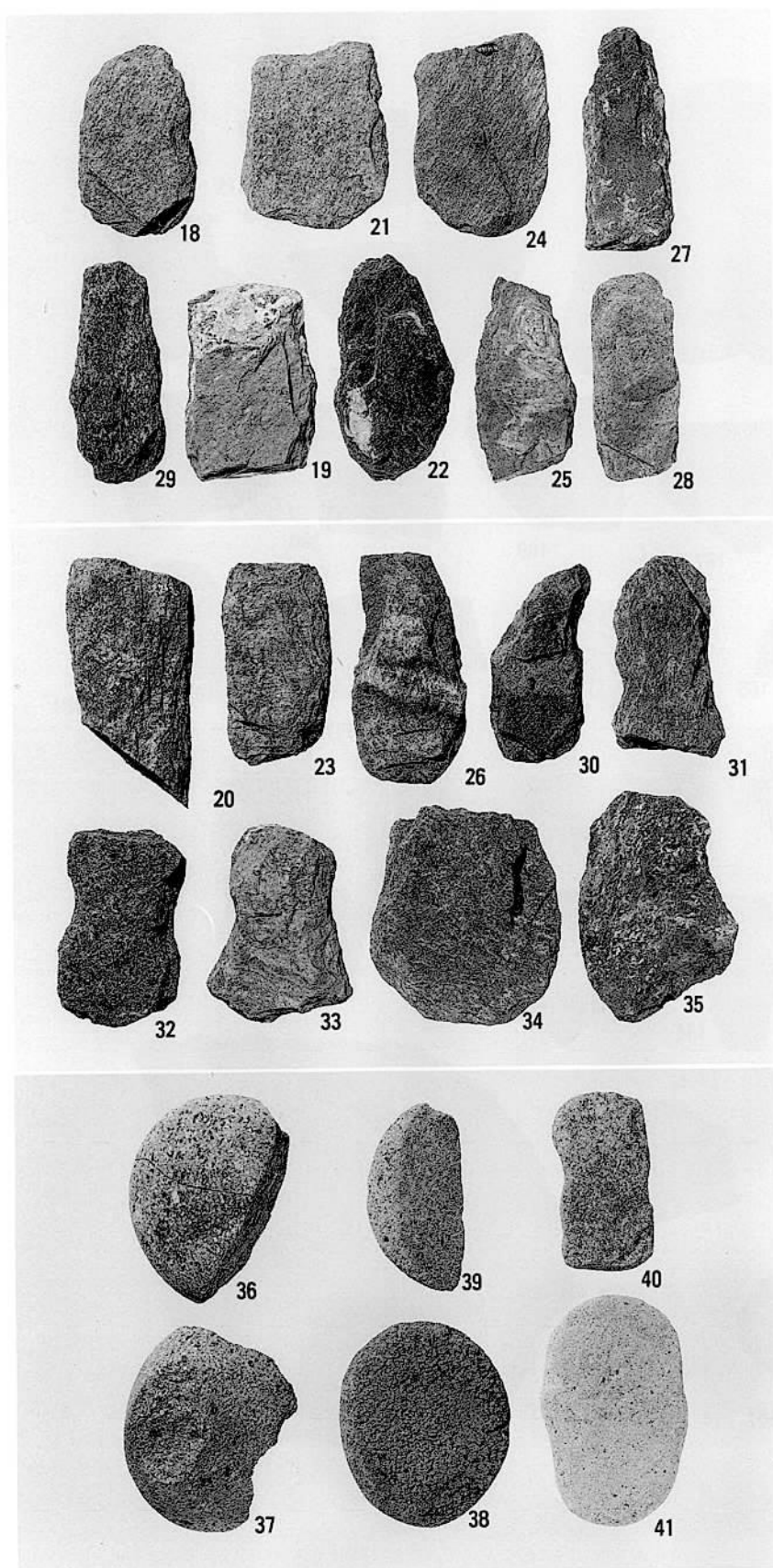




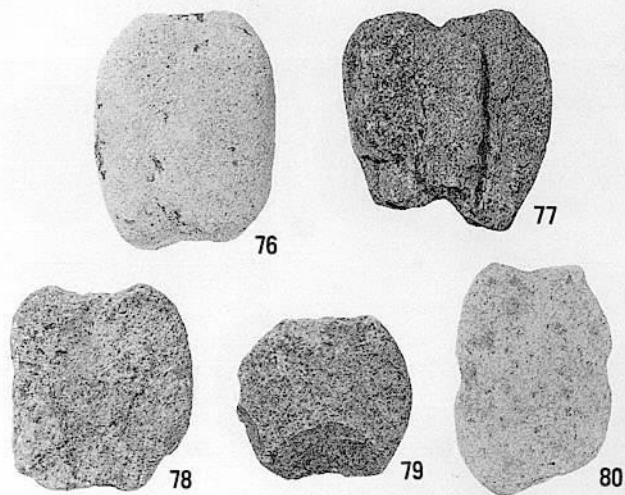
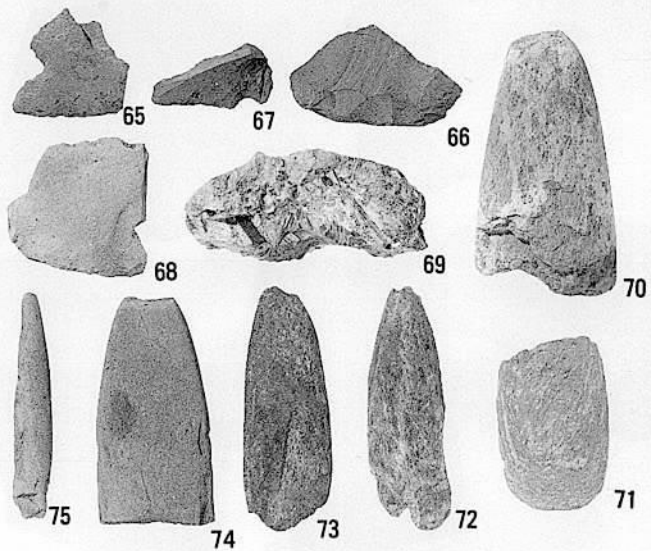
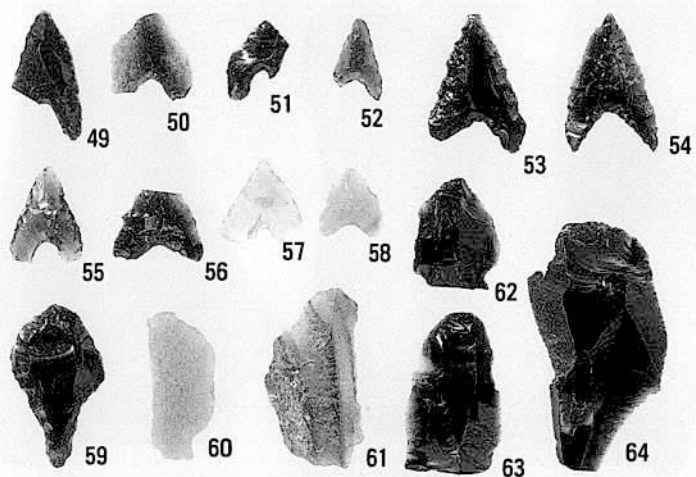


2号住居跡出土土器 5

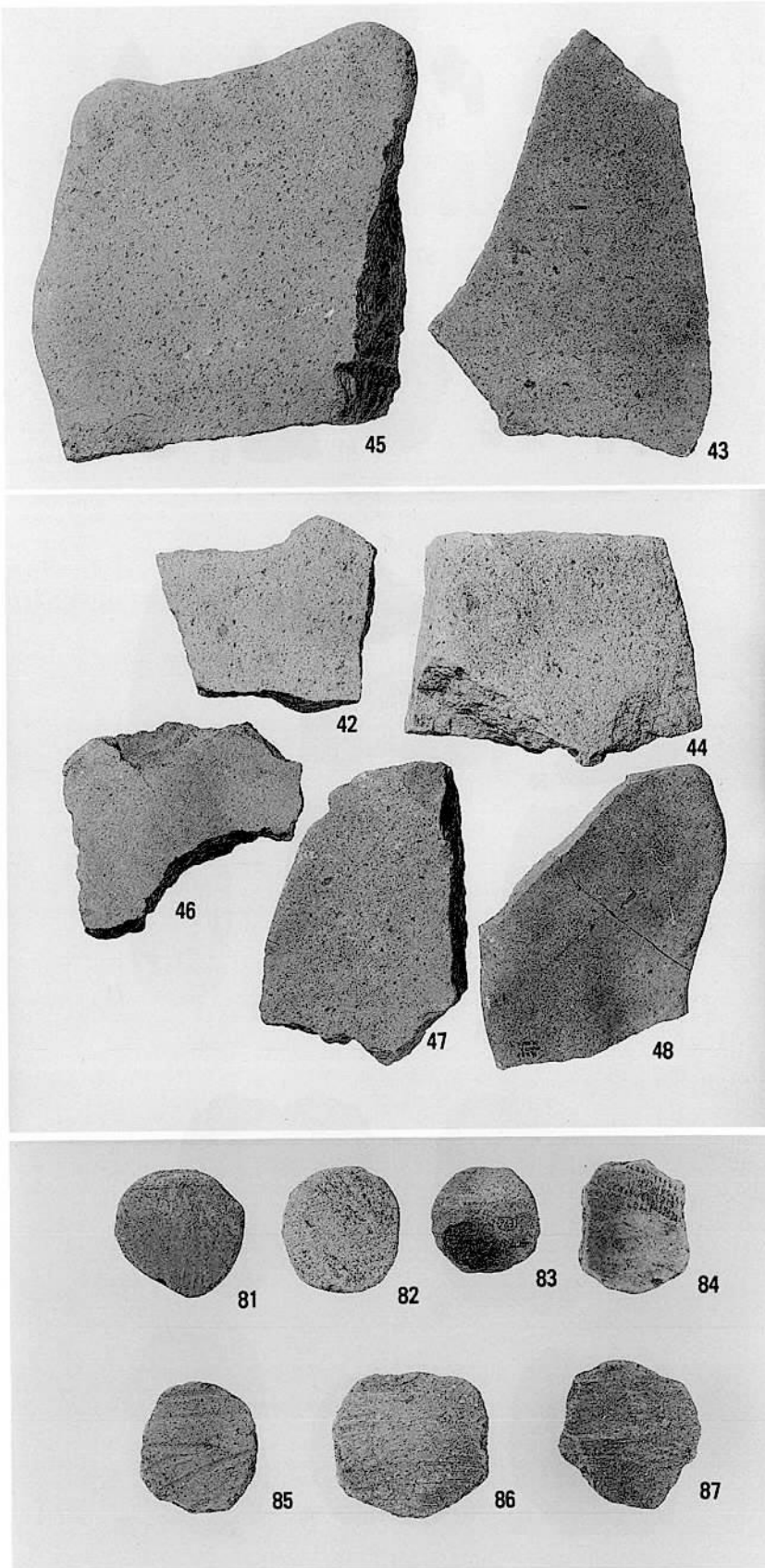




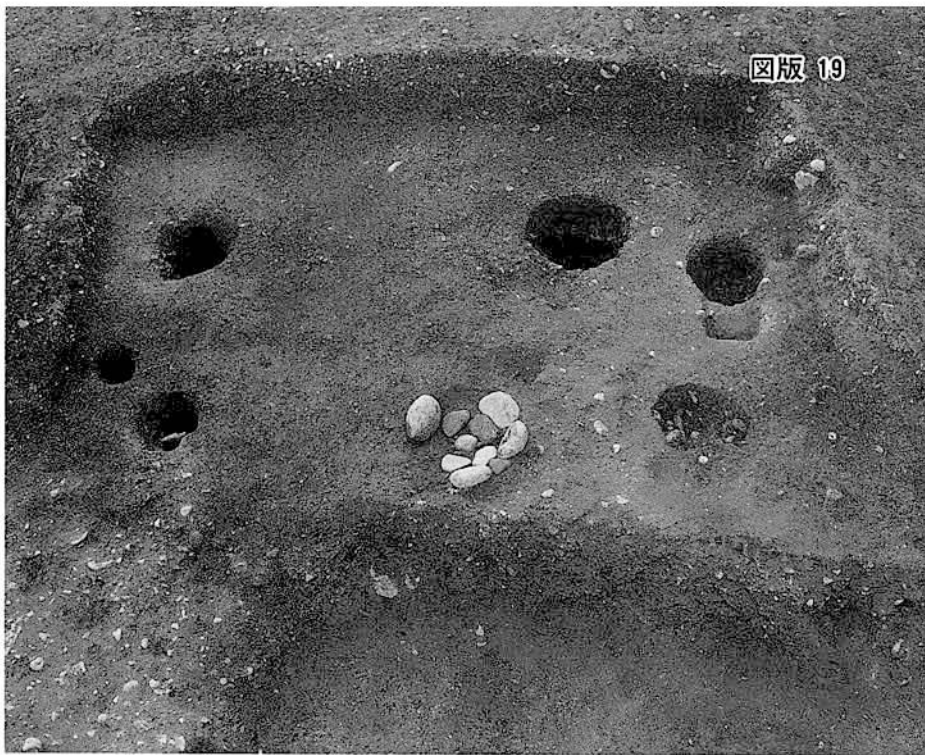
2号住居跡出土石器1



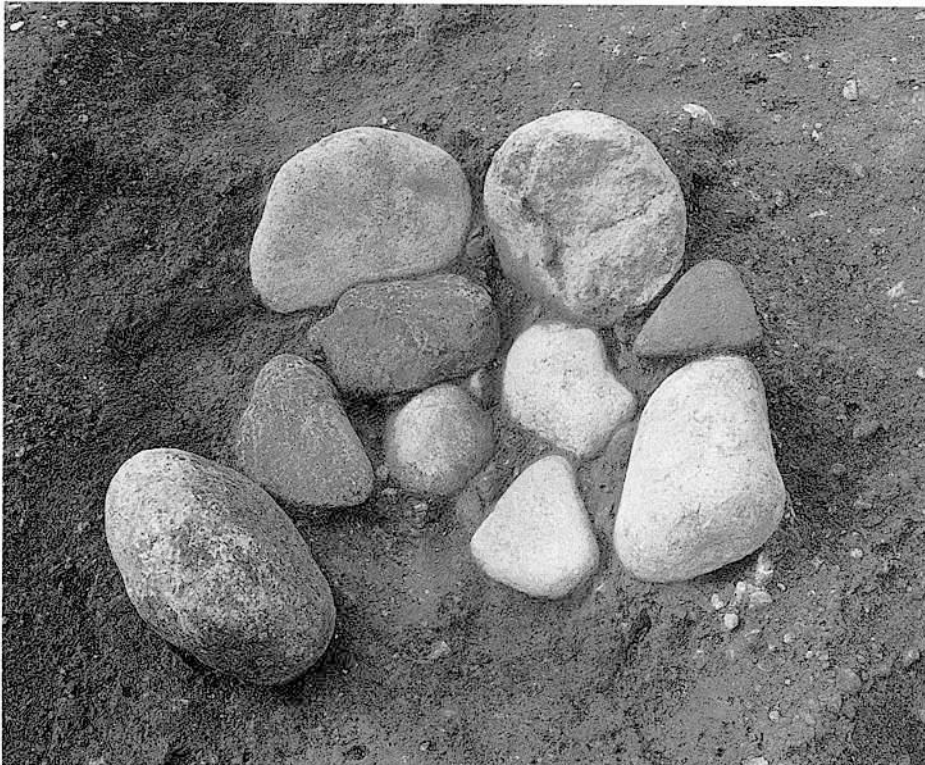
2号住居跡出土石器 2



1



2



- 1 3号住居跡 (北東から)
- 2 3号住居跡石囲炉 (南東から)
- 3 3号住居跡遺物出土状況

3





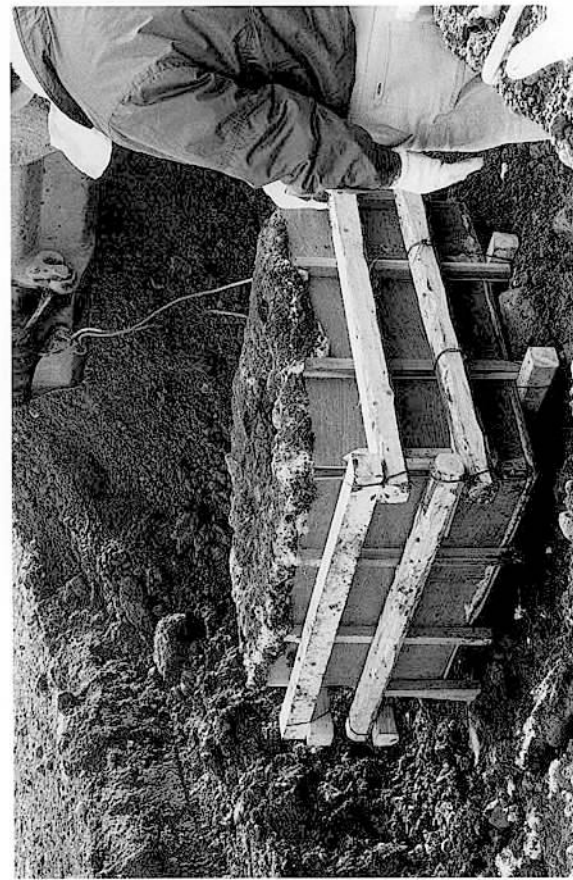
a 炉跡周囲を掘り下げる



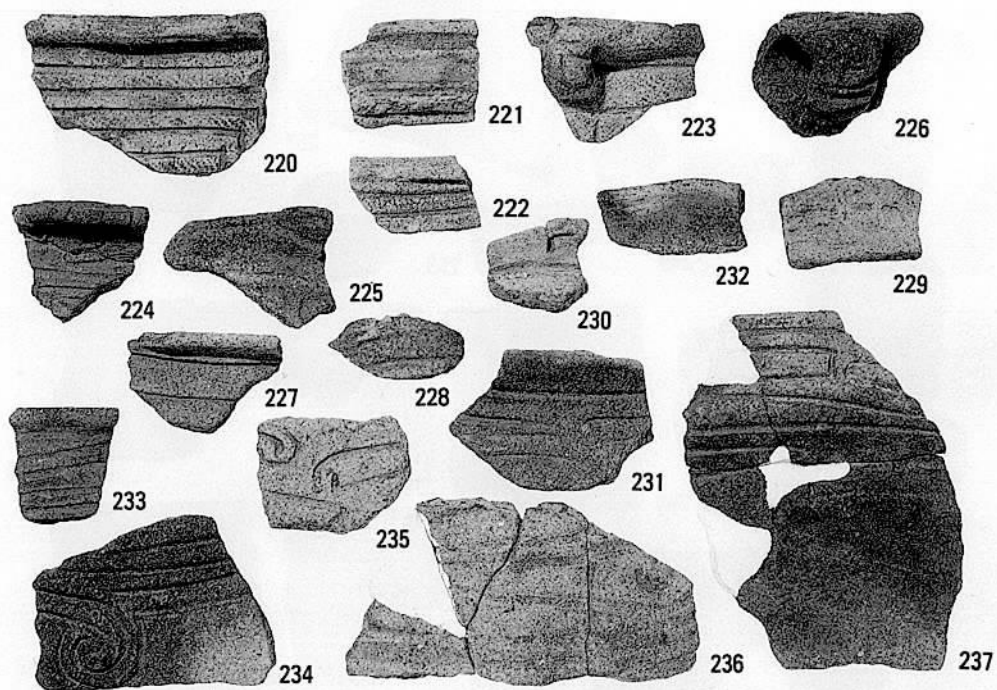
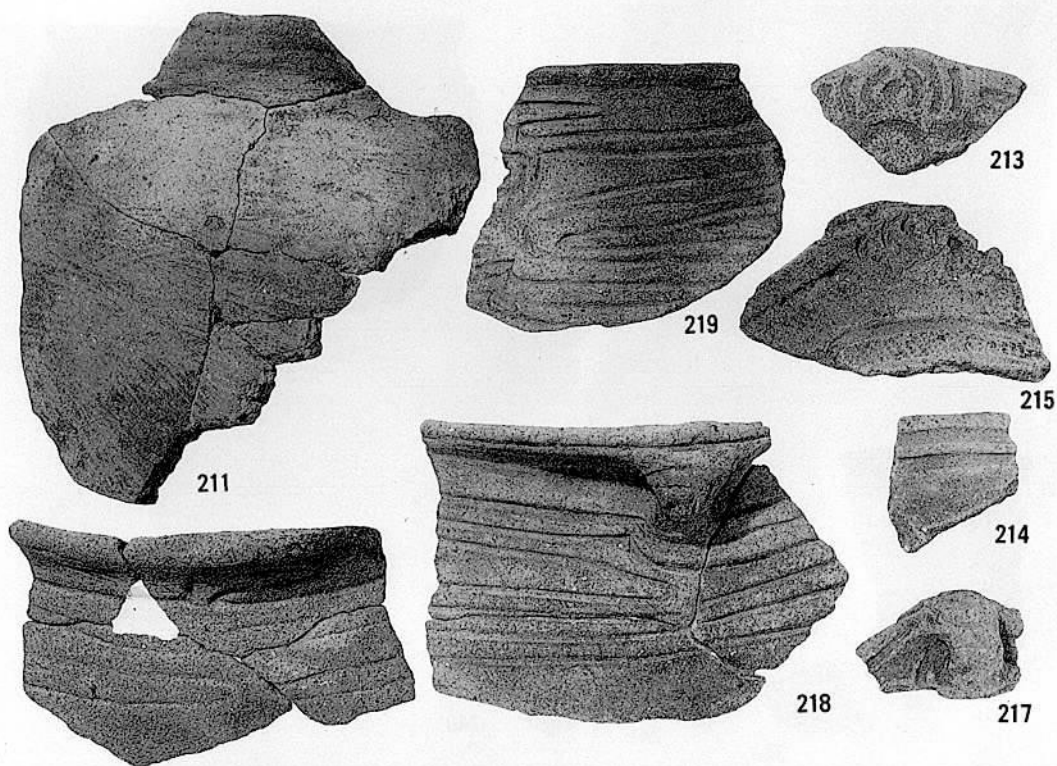
b 型枠作り

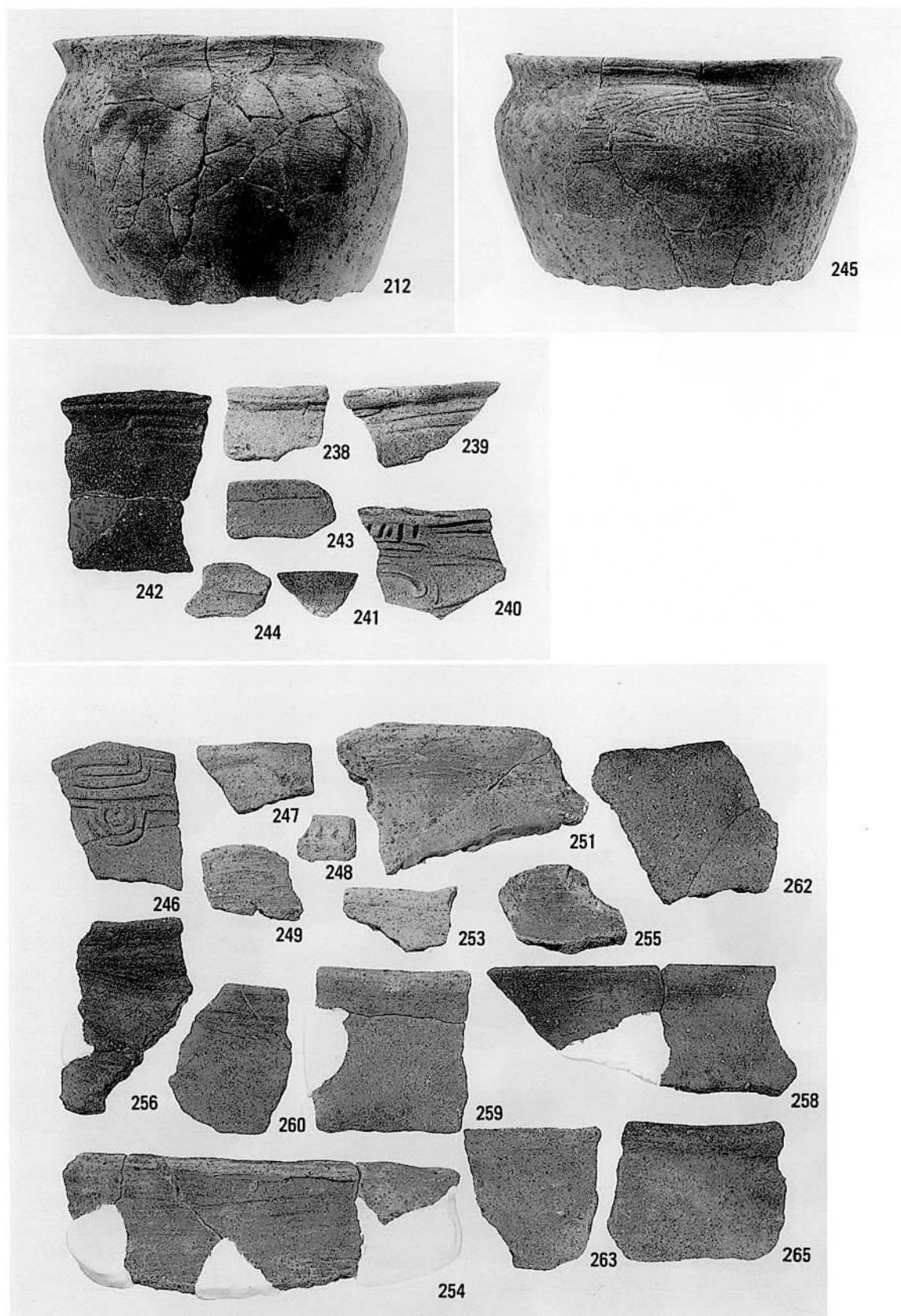


c カーゼを貼り付けて、発泡ウレタンを流し込む

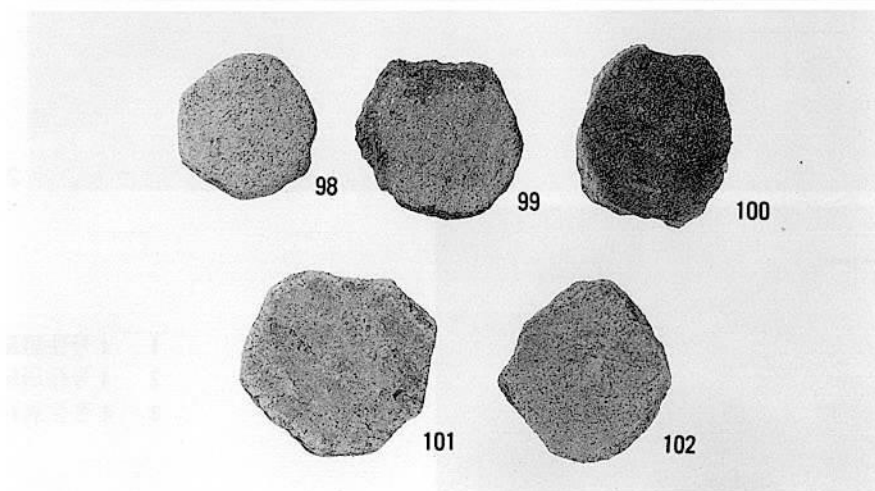
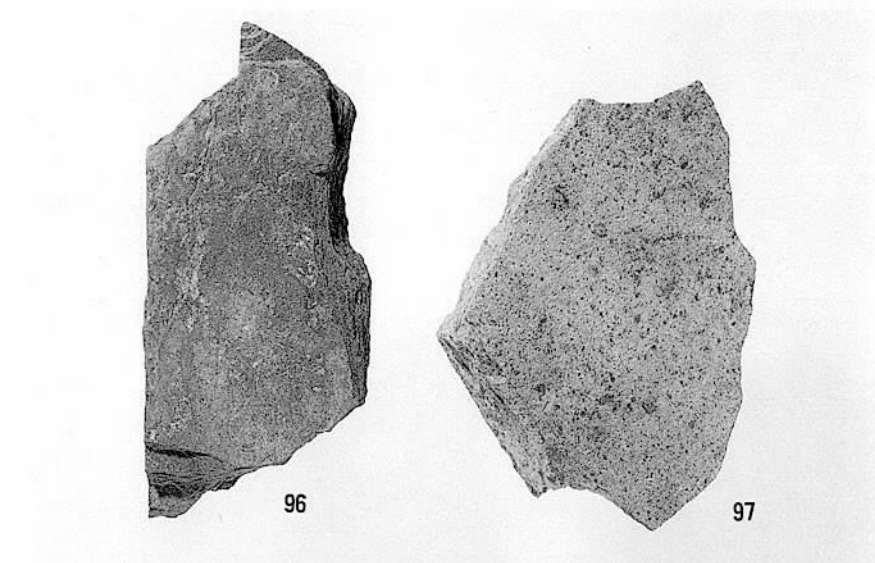
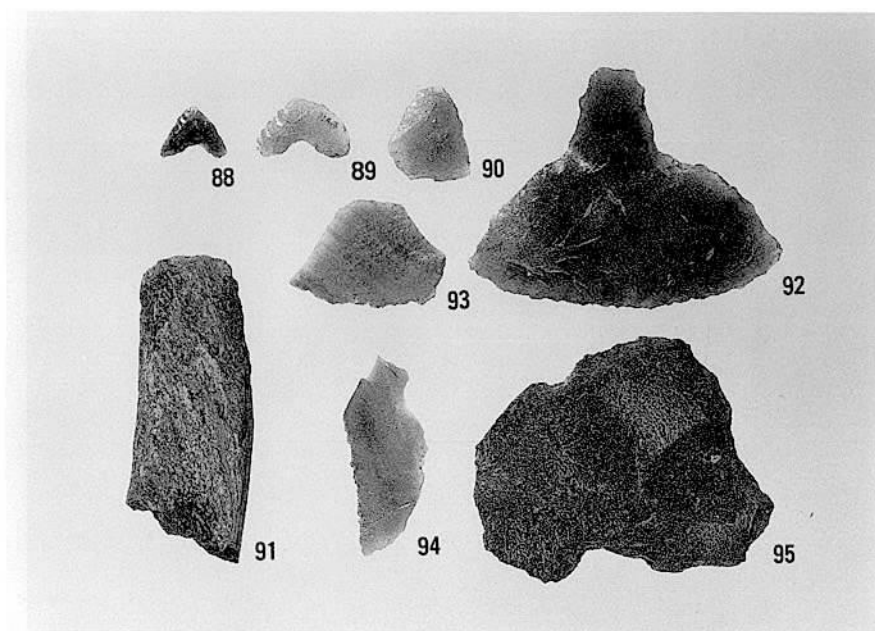


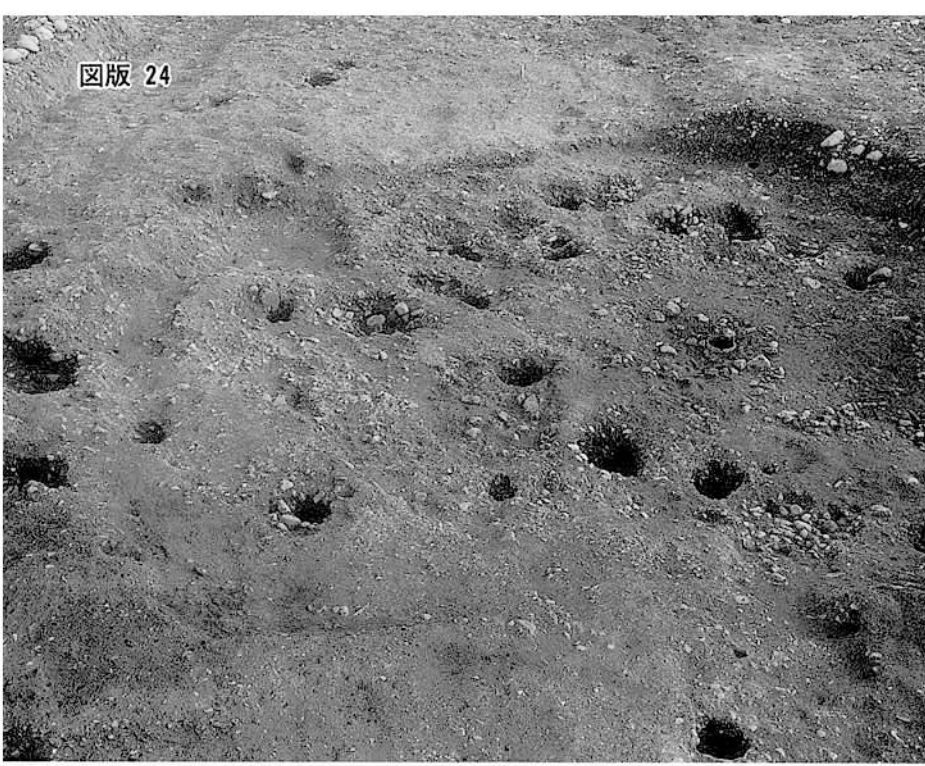
d 蓋も型枠に固定し、周囲を広く掘削して、吊り上げ、反転させる



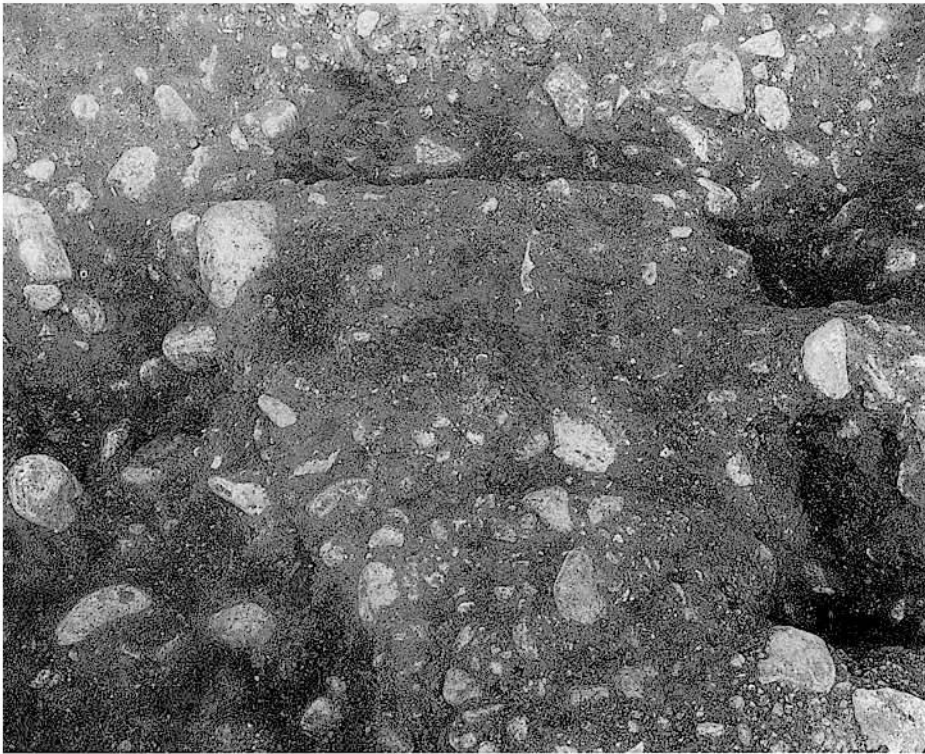


3号住居跡出土土器 2





1



2

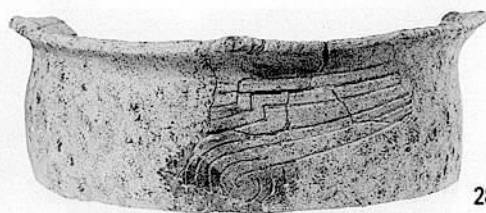


3

- 1 4号住居跡(北西から)
- 2 4号住居跡炉抜き跡
- 3 4号住居跡遺物出土状況



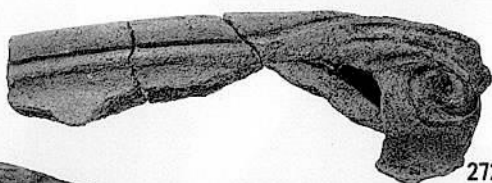
270



287



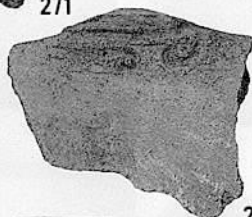
271



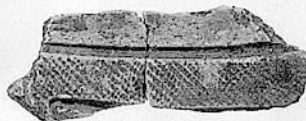
272



278



273



279



276



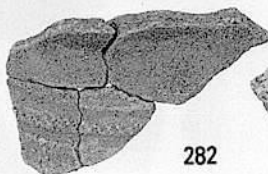
280



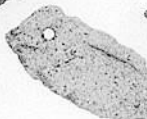
281



277



282



275



274



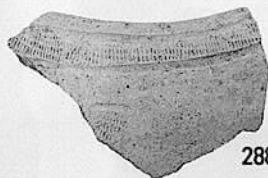
283



285



286



288



290



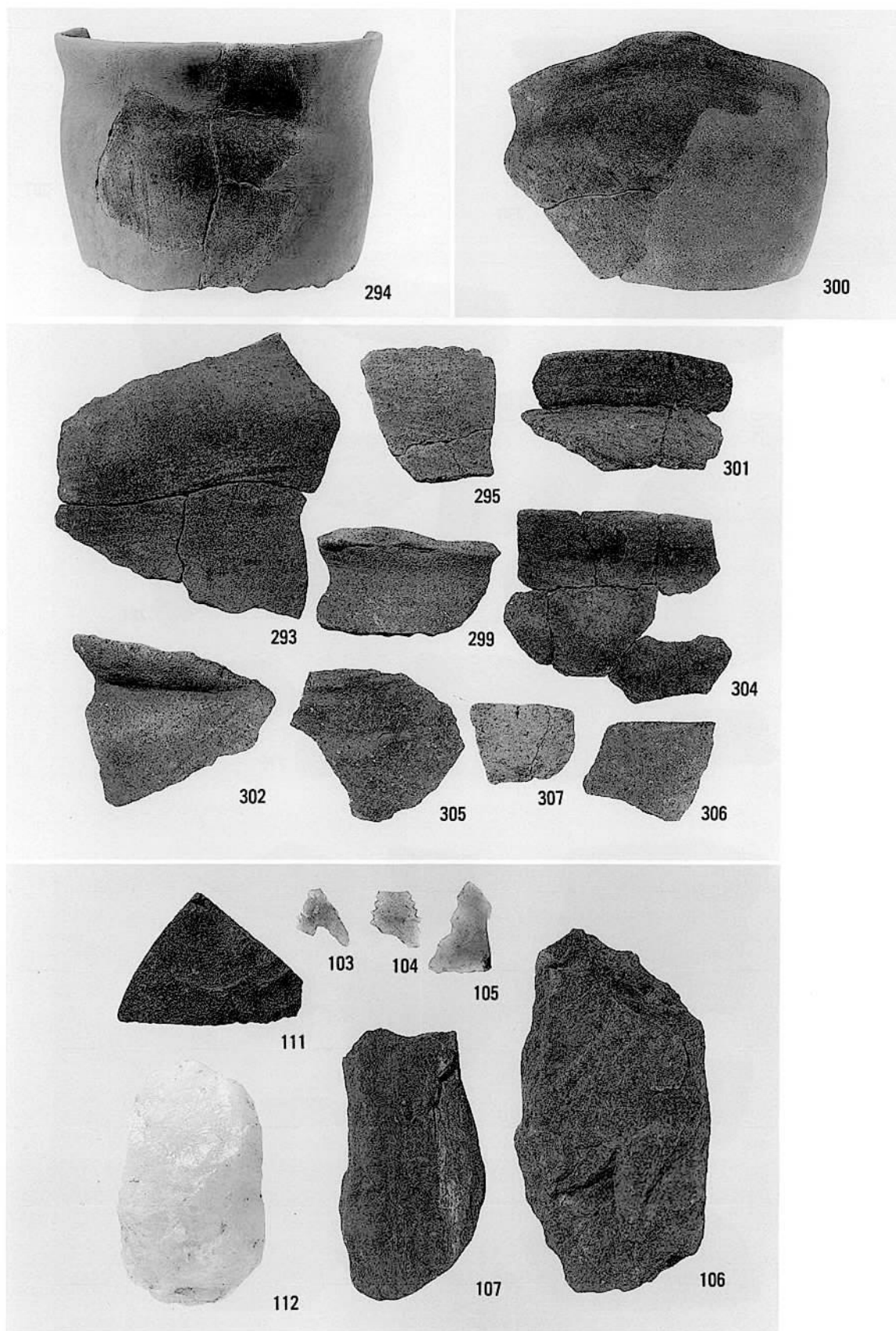
284



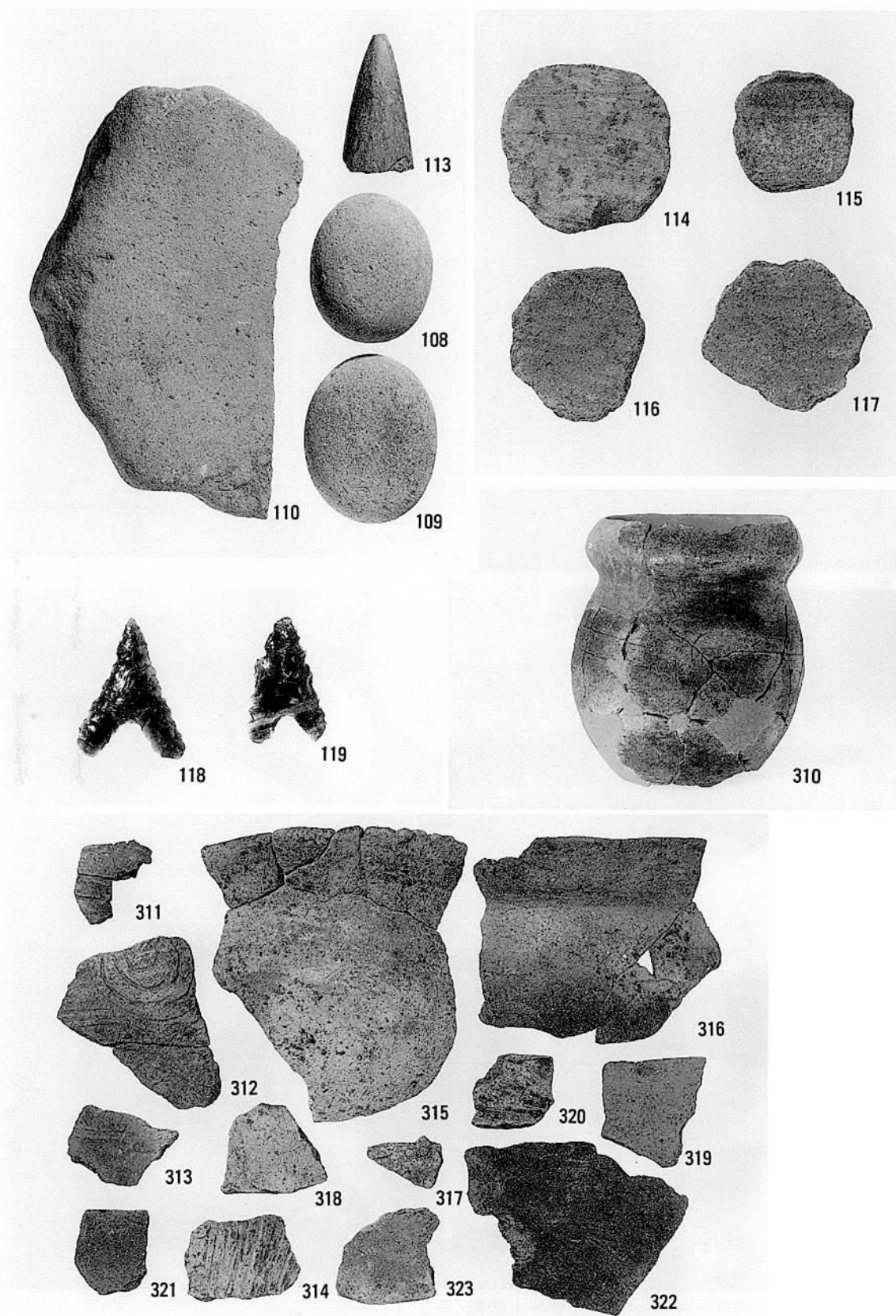
289



291



4号住居跡出土土器2・石器



2

1 4号住居跡出土石器・土製品

2 5号住居跡出土土器・石器

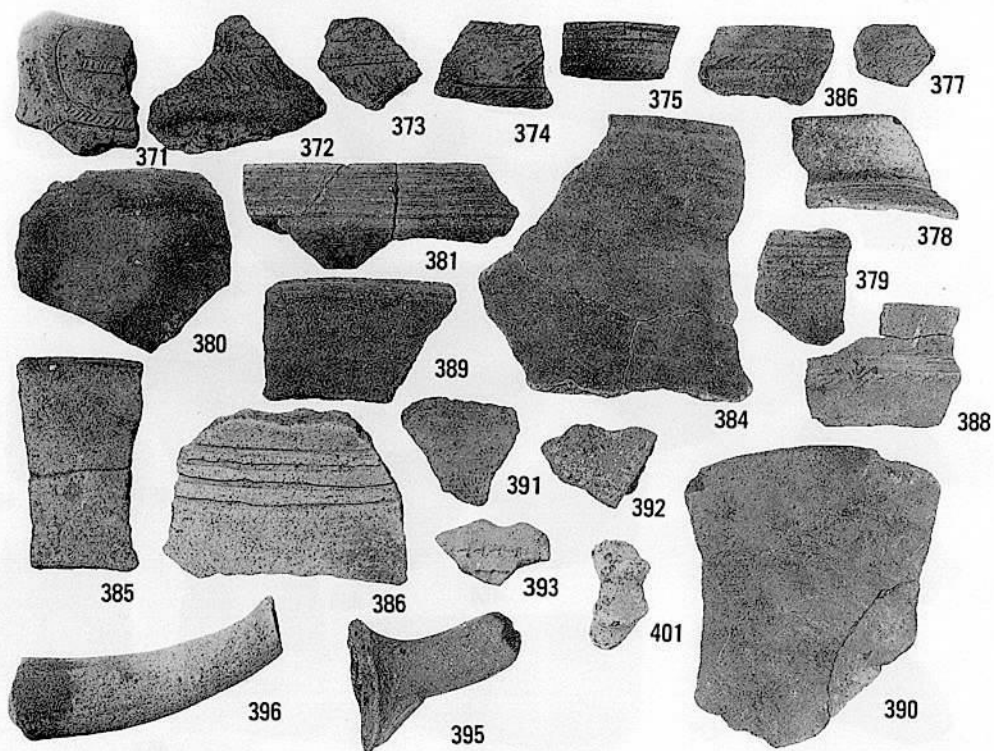
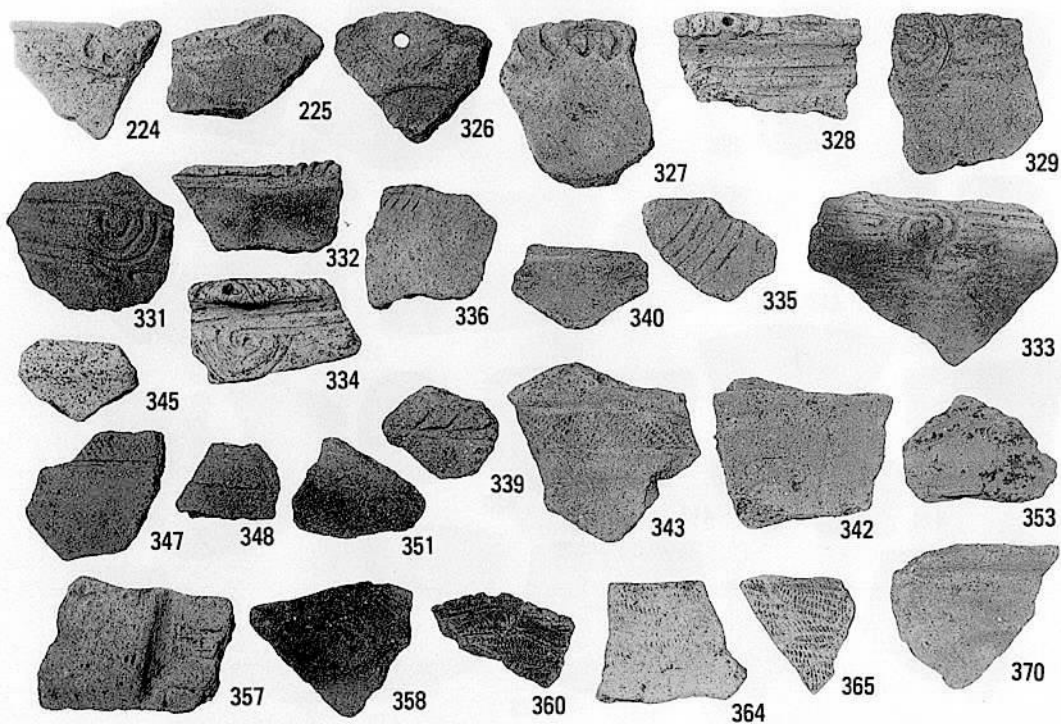


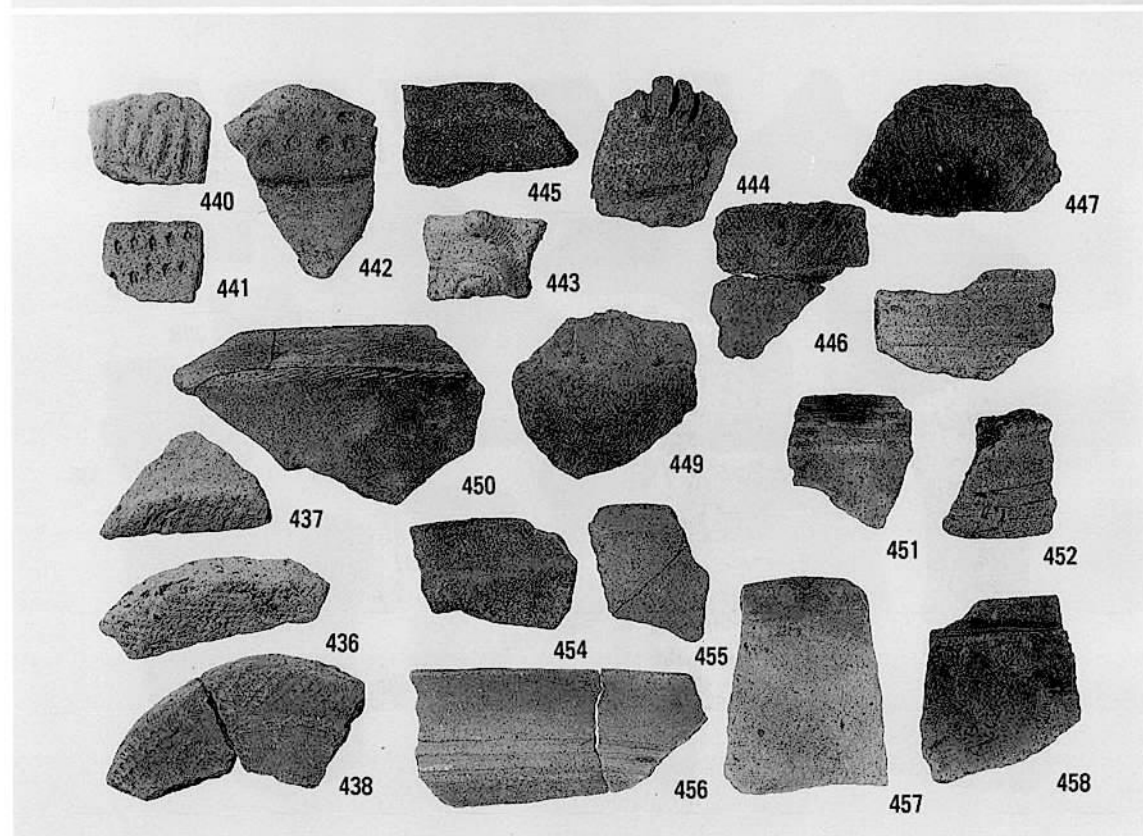
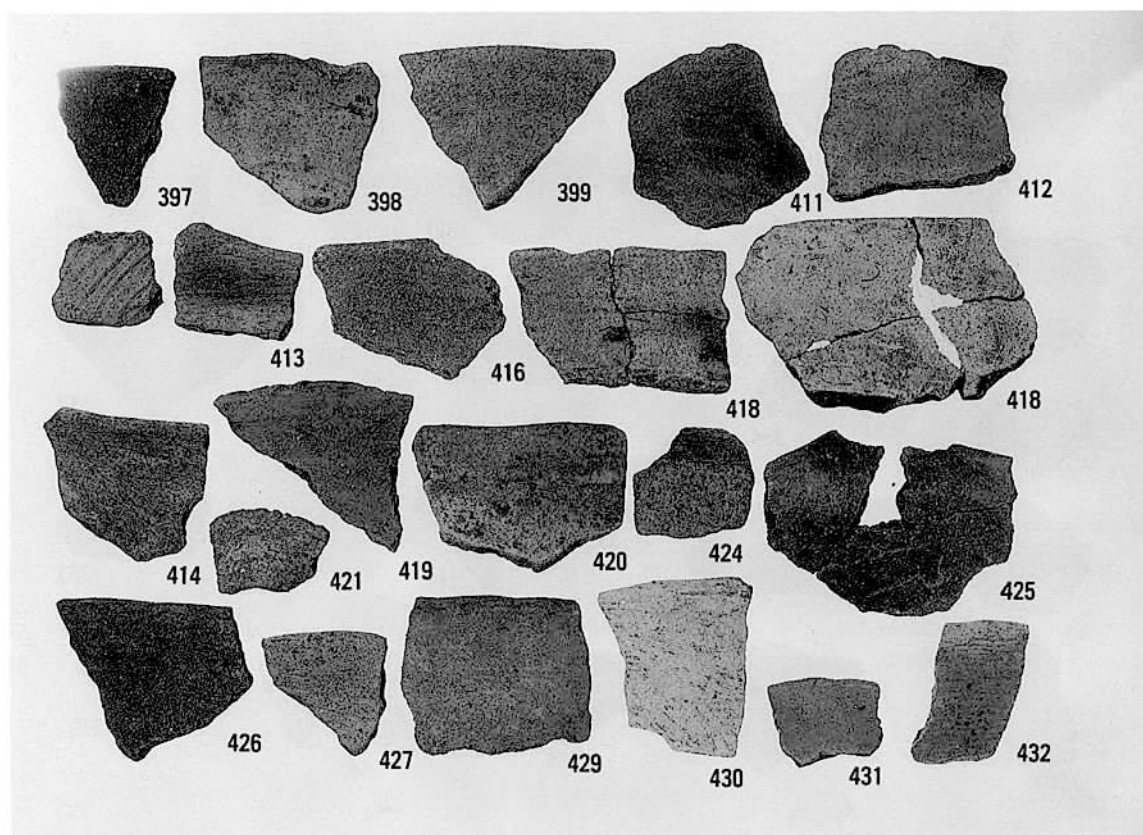
1



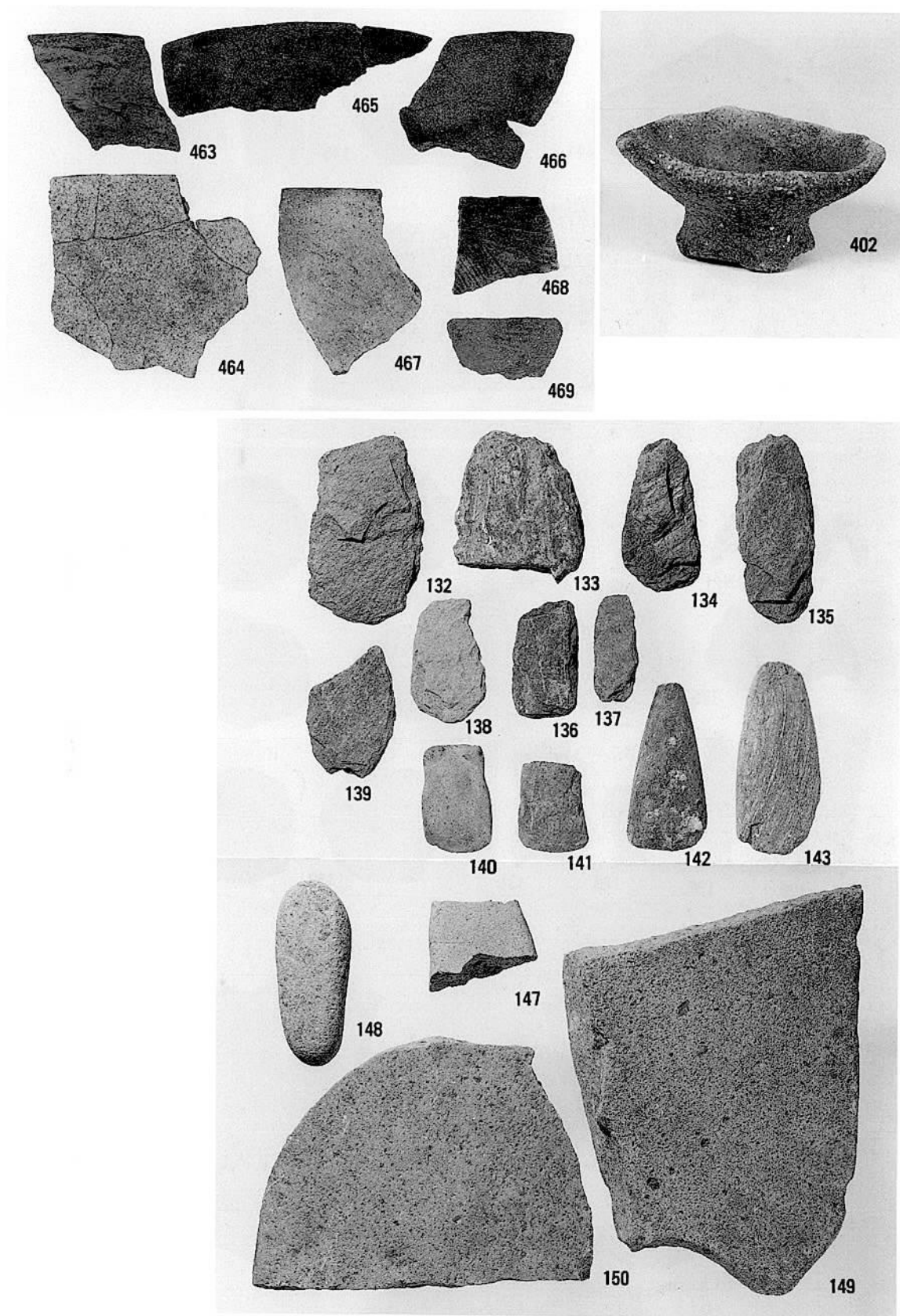
2

1 6号住居跡(北東から) 2 土偶出土状況

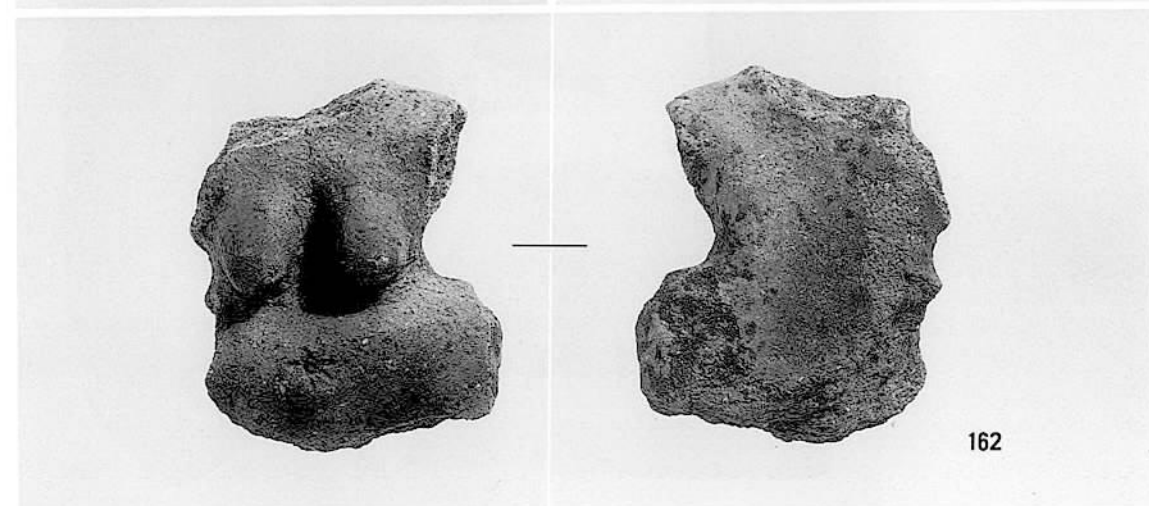
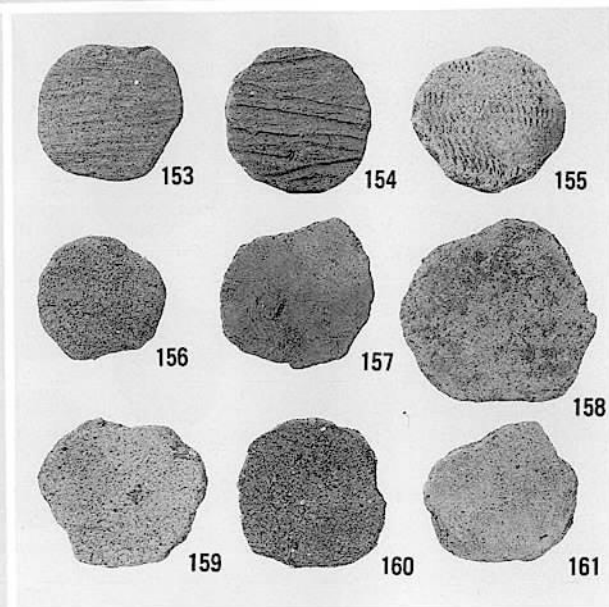
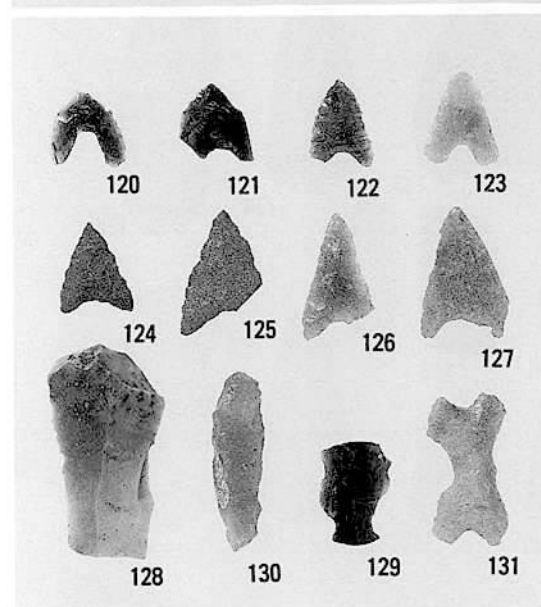
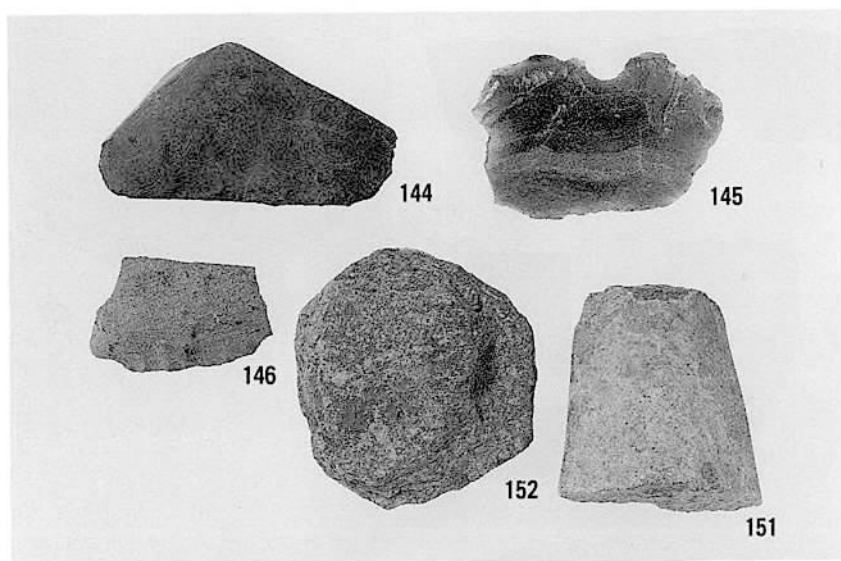




6号住居跡出土土器 2



6号住居跡出土土器3・石器



6号住居跡出土石器・土製品



1

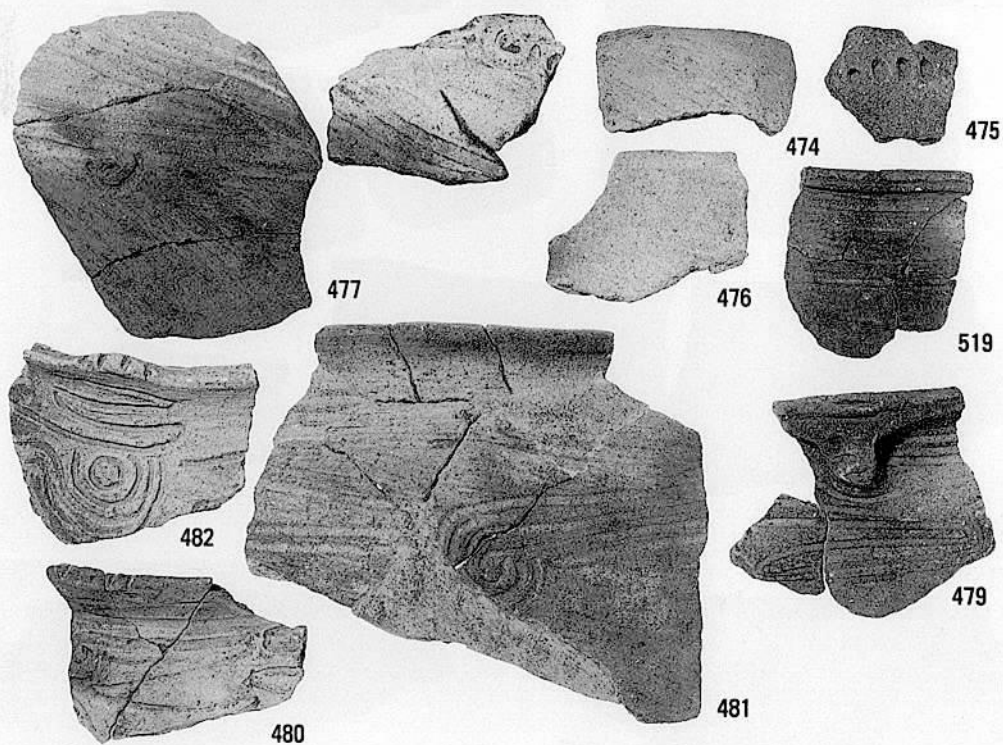
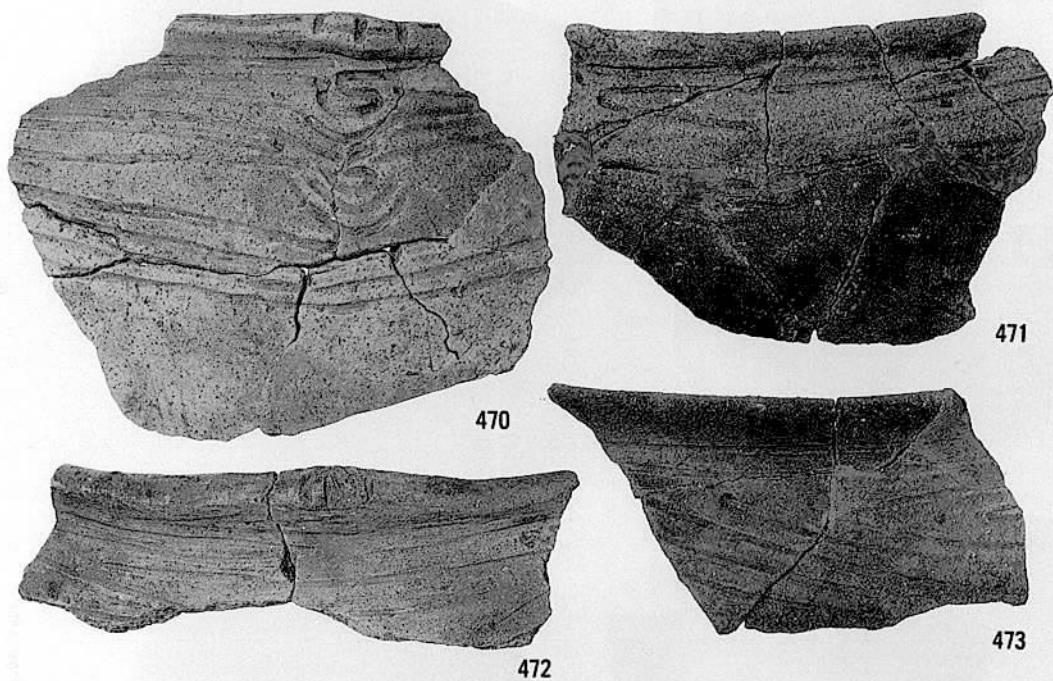


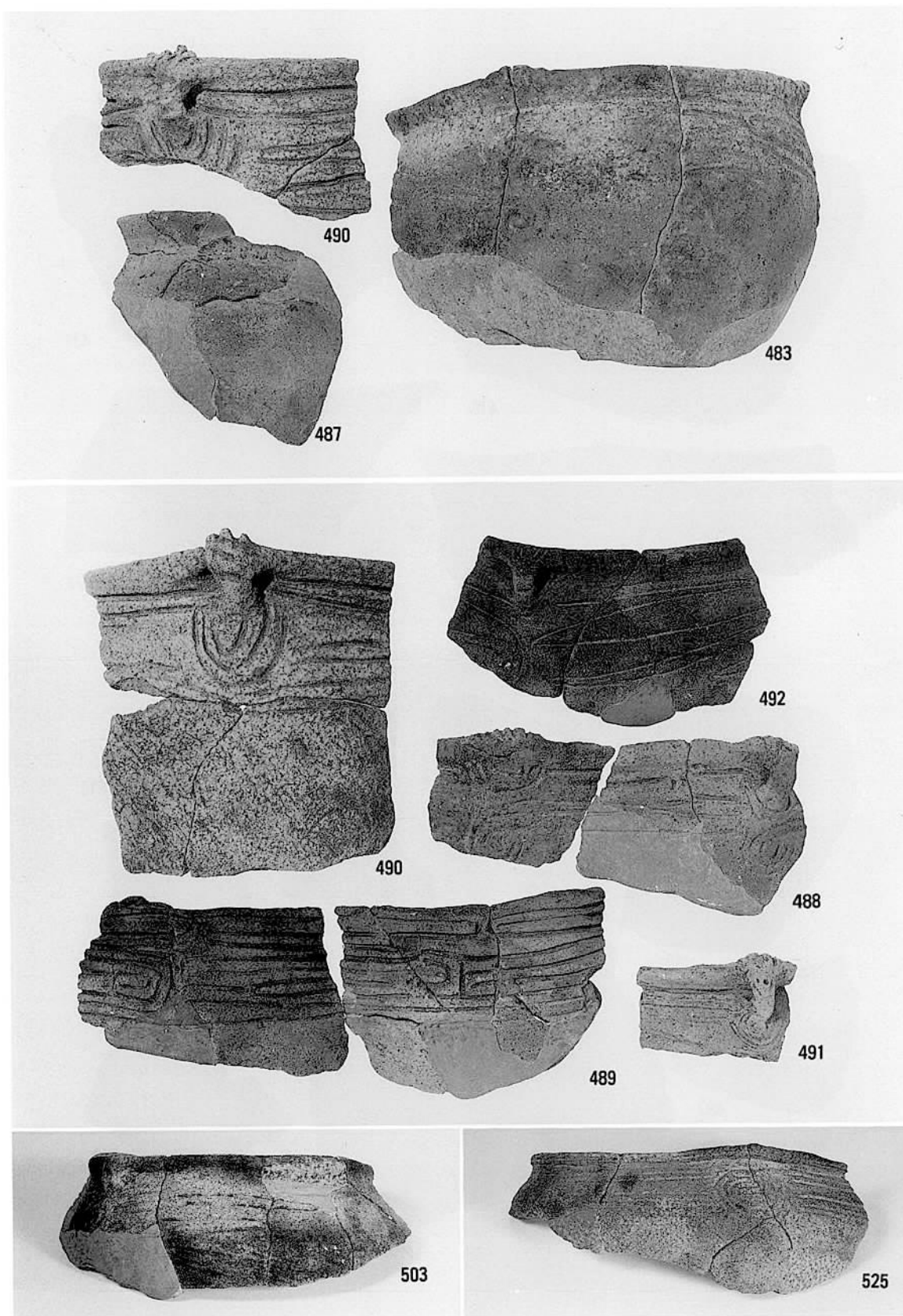
2

1 7号住居跡(北西から) 2 7号住居跡石囲炉(北東から)

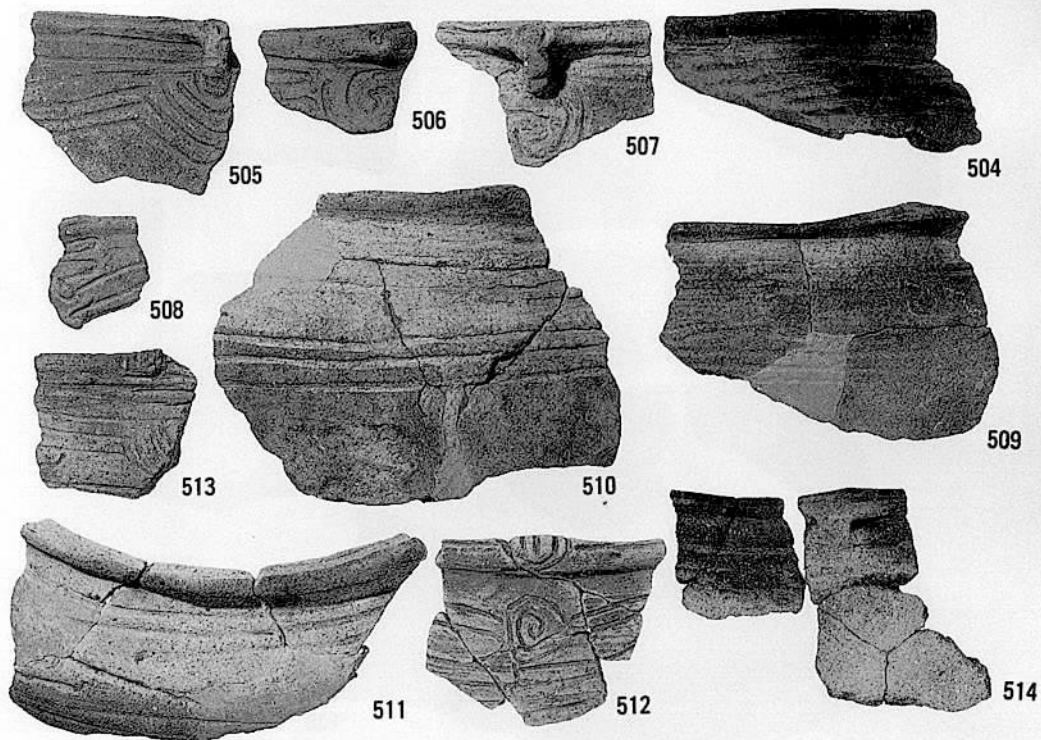
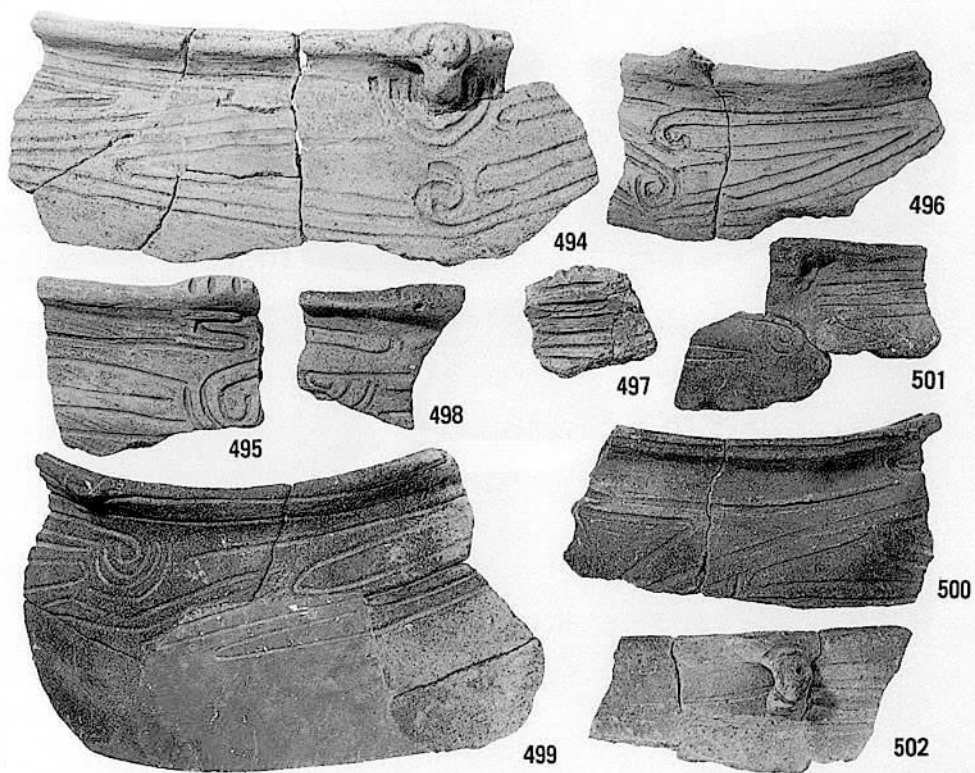


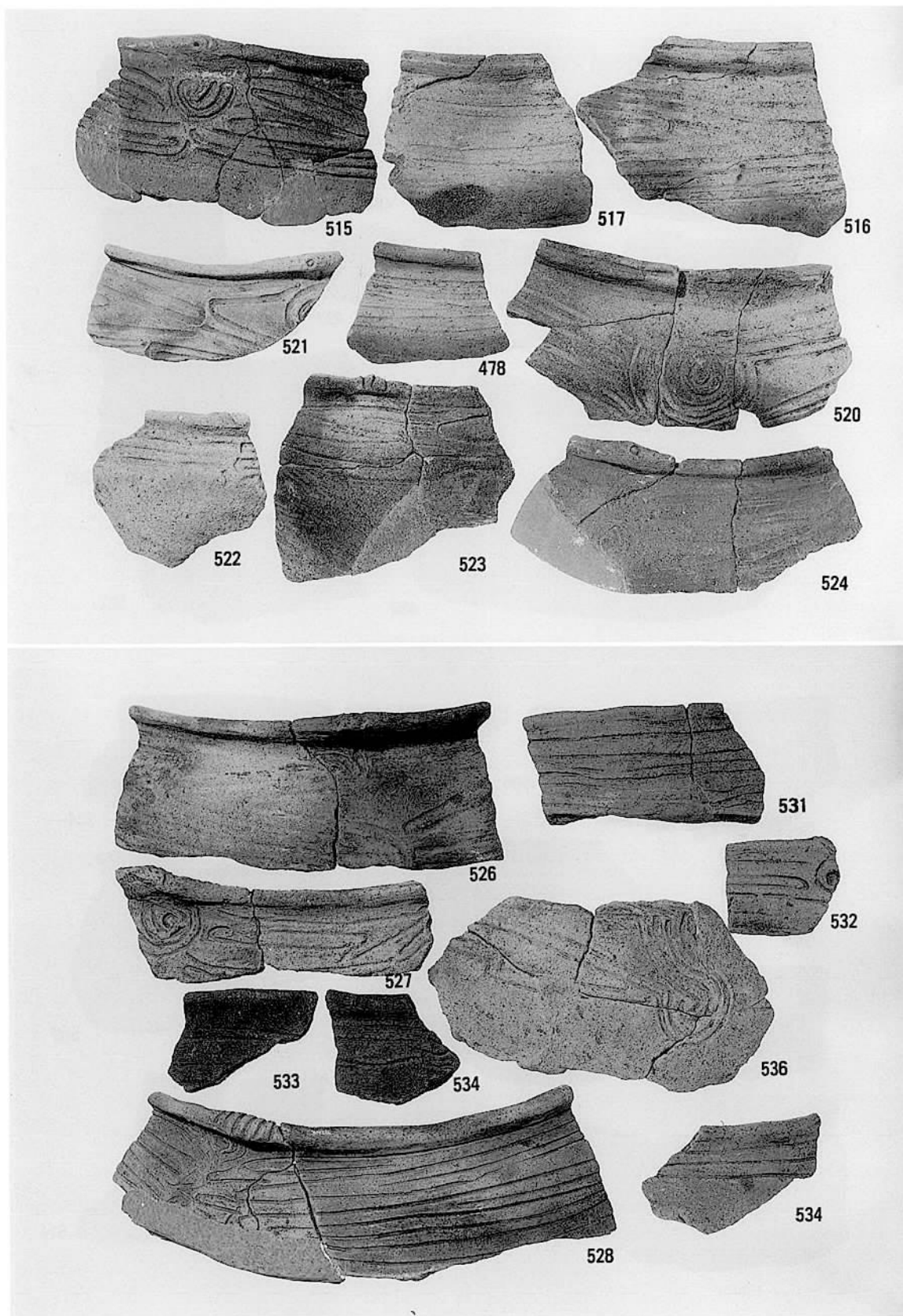
7号住居跡出土土器 1



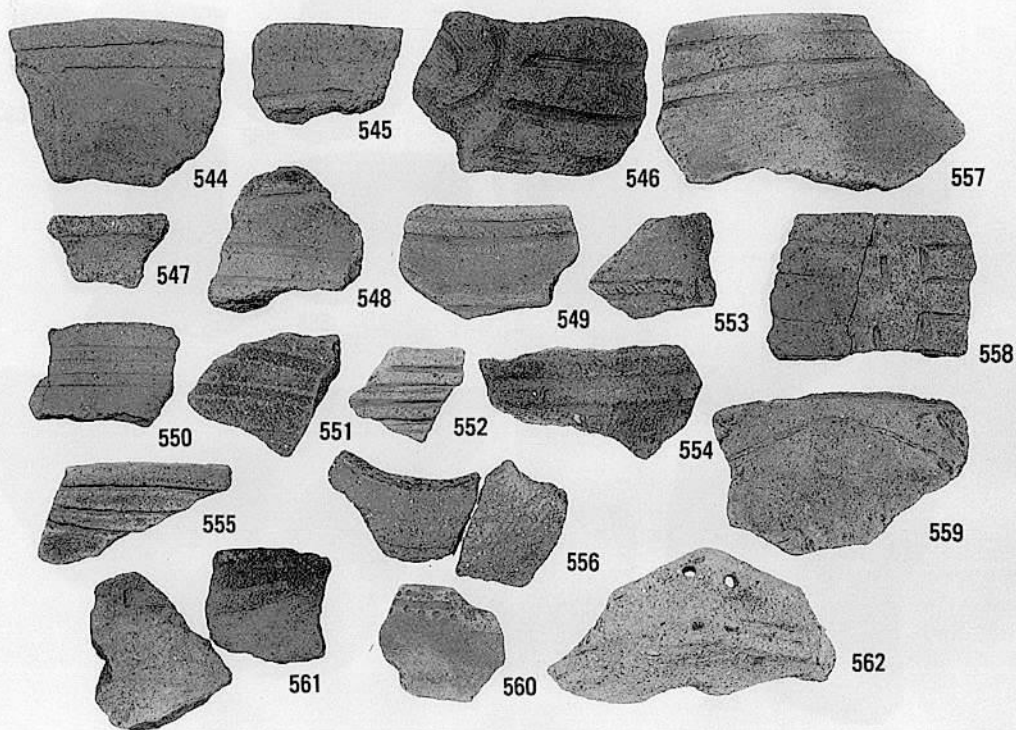
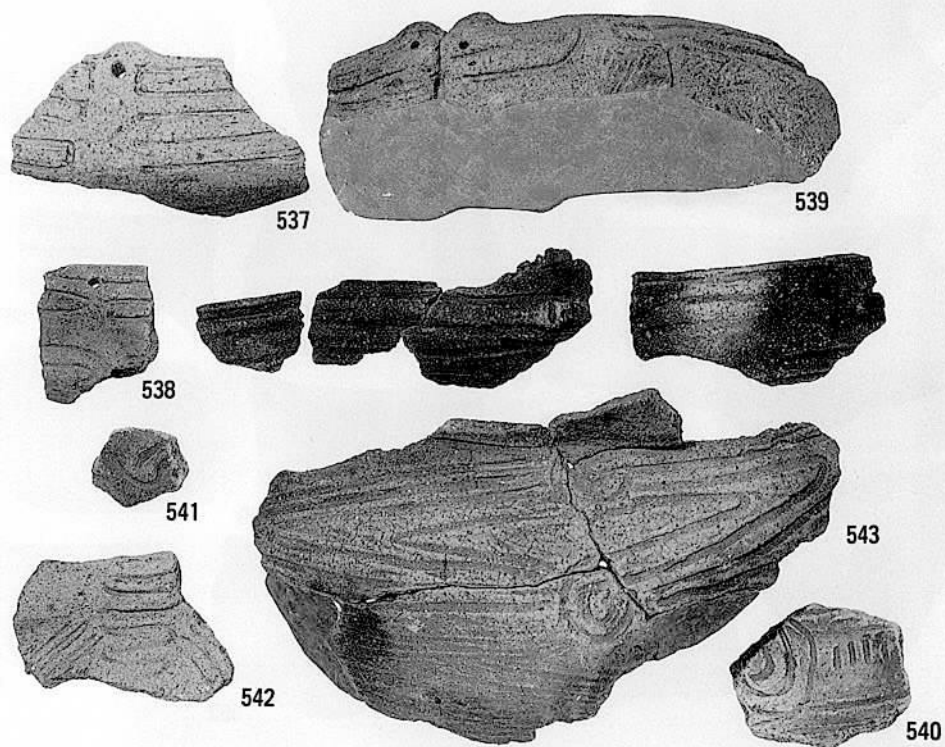


7号住居跡出土土器 3

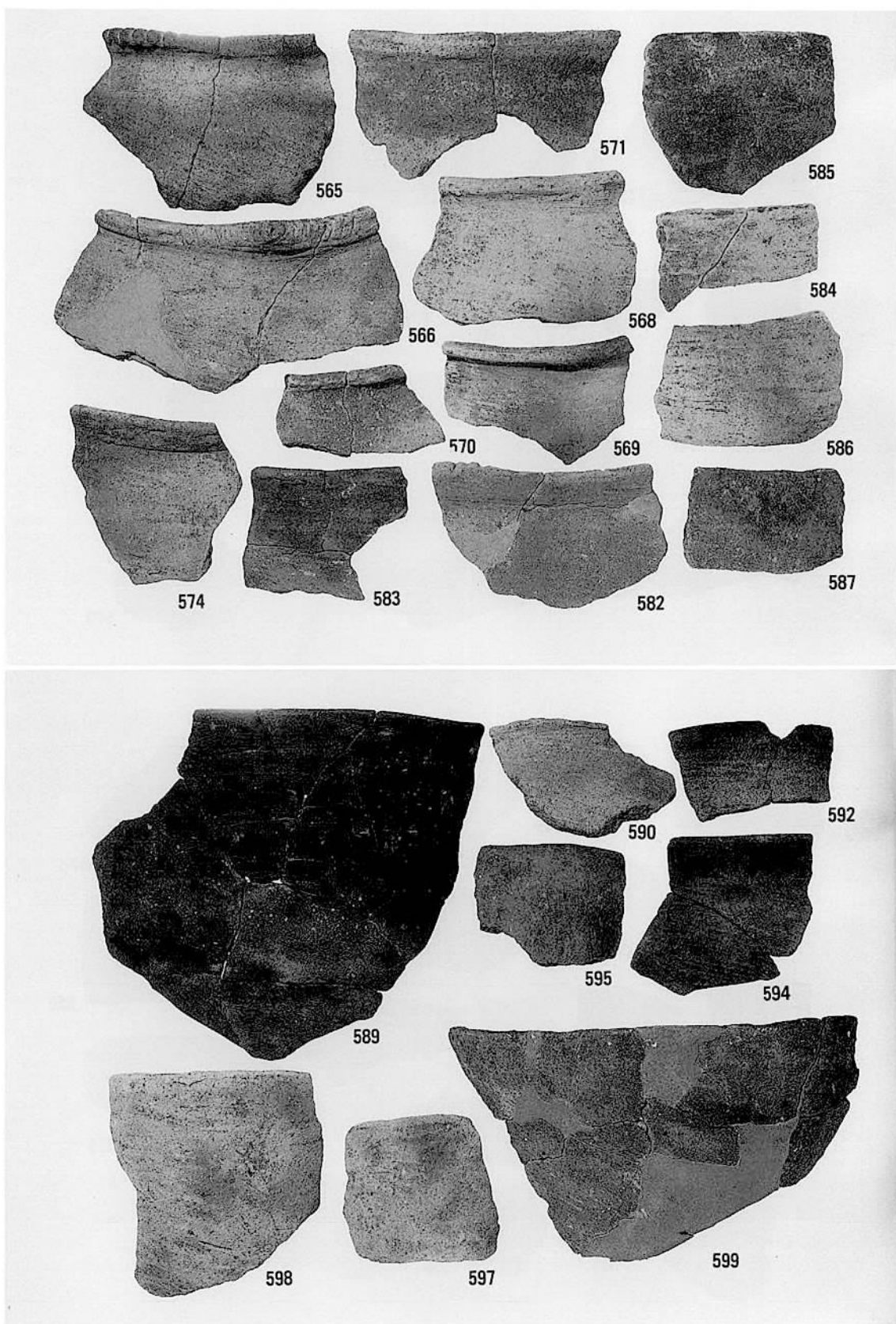




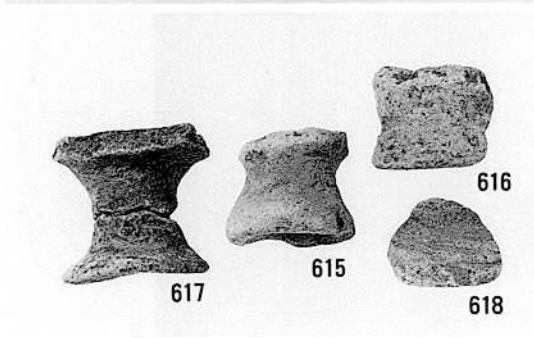
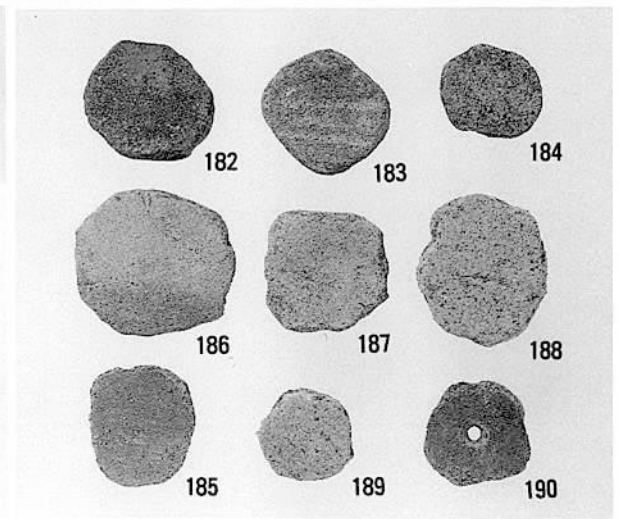
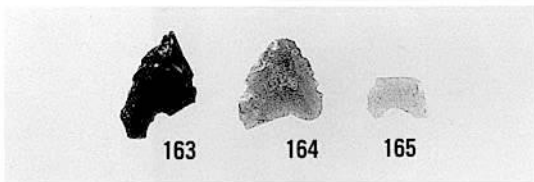
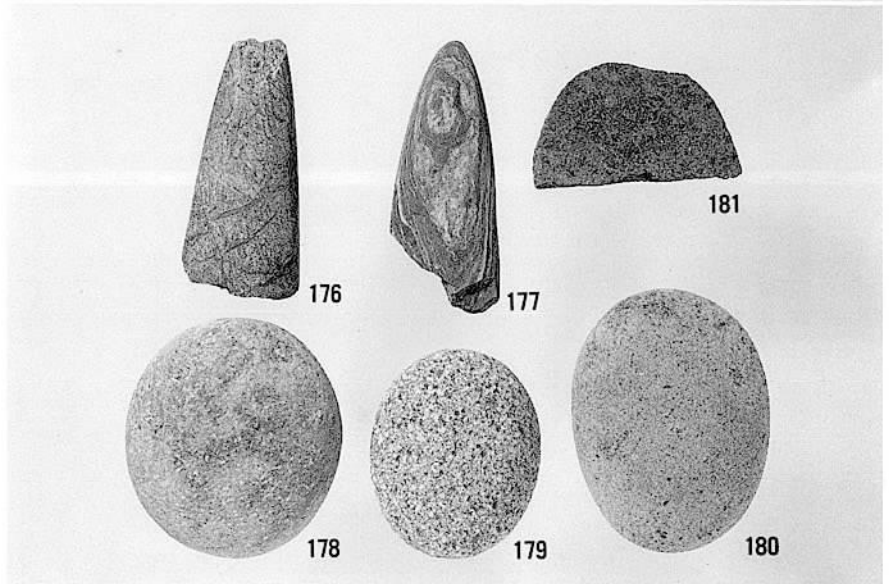
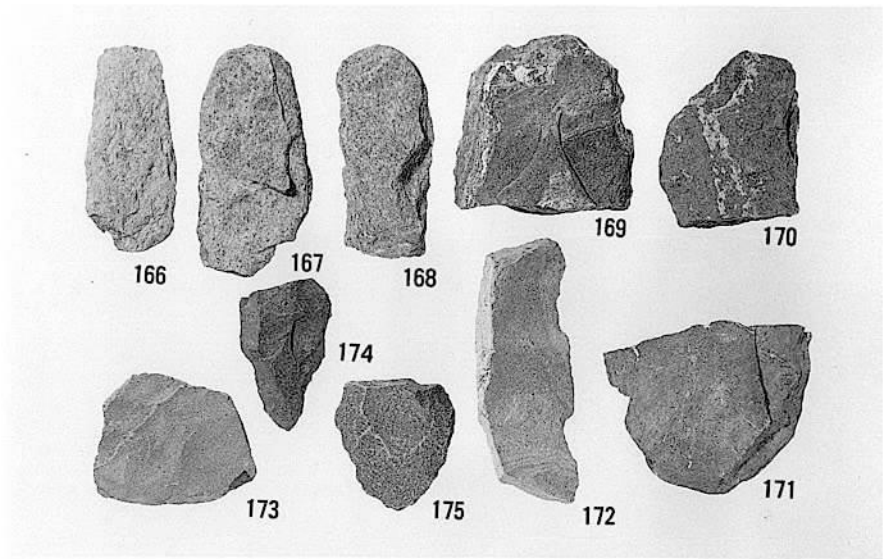
7号住居跡出土土器 5



7号住居跡出土土器 6



7号住居跡出土土器 7



7号住居跡出土土器・石器・土製品



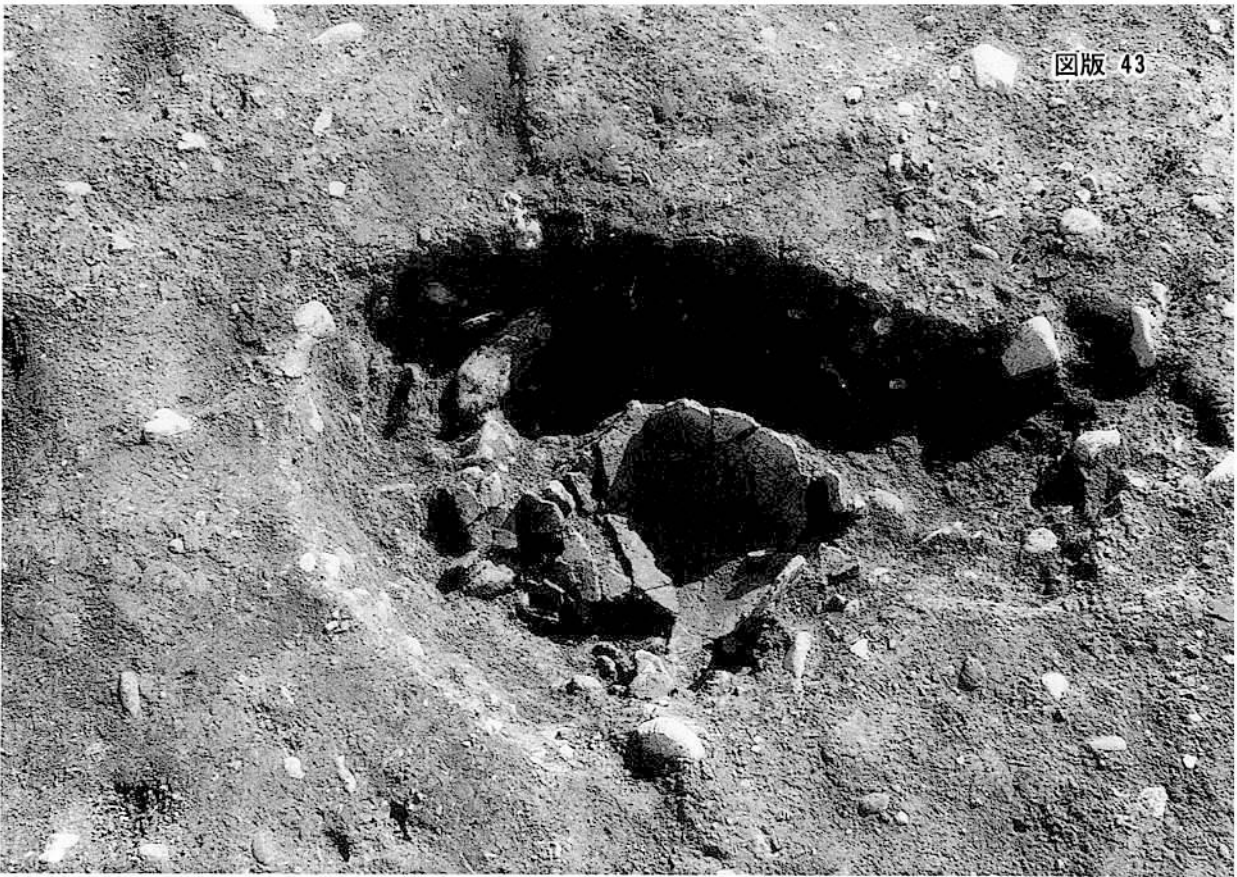
1



2

1 1号甕棺墓 2 2号甕棺墓

1



619 (1号)



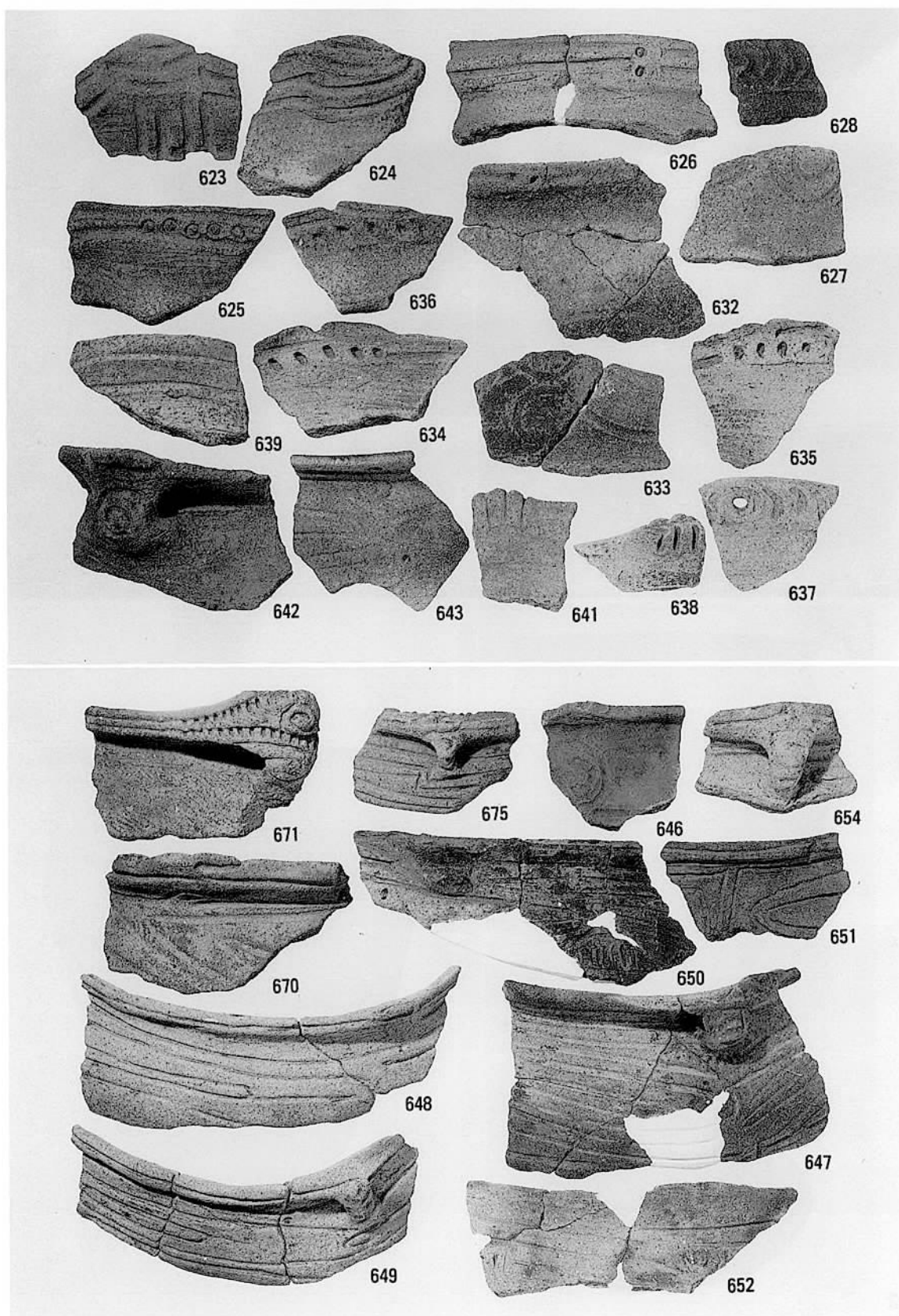
620 (2号)



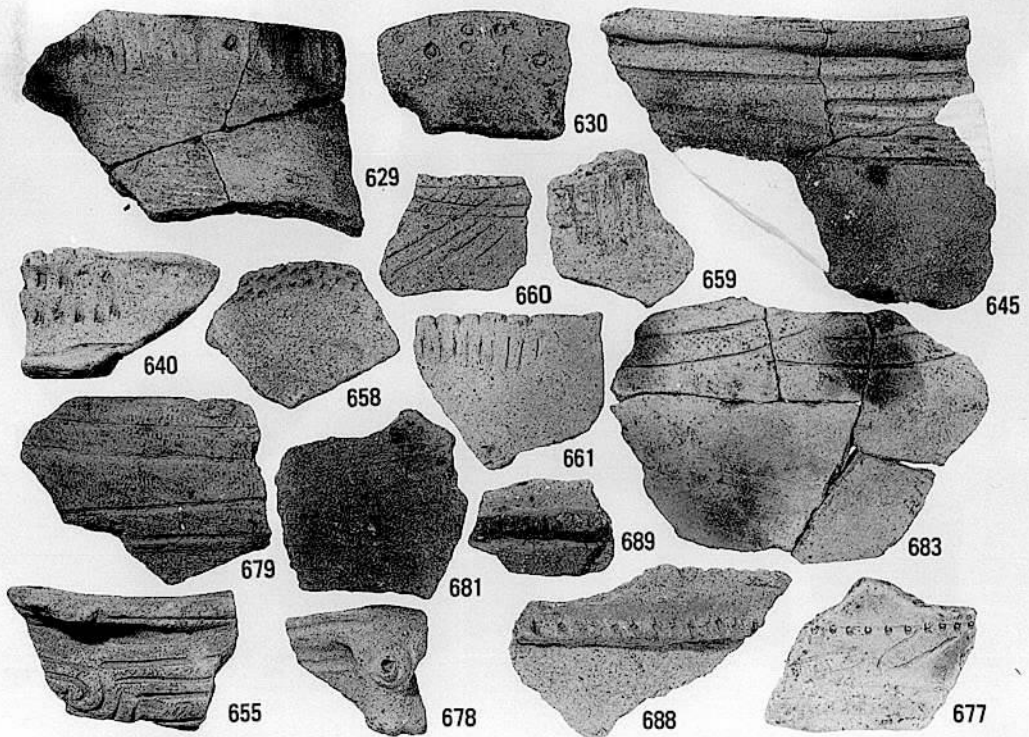
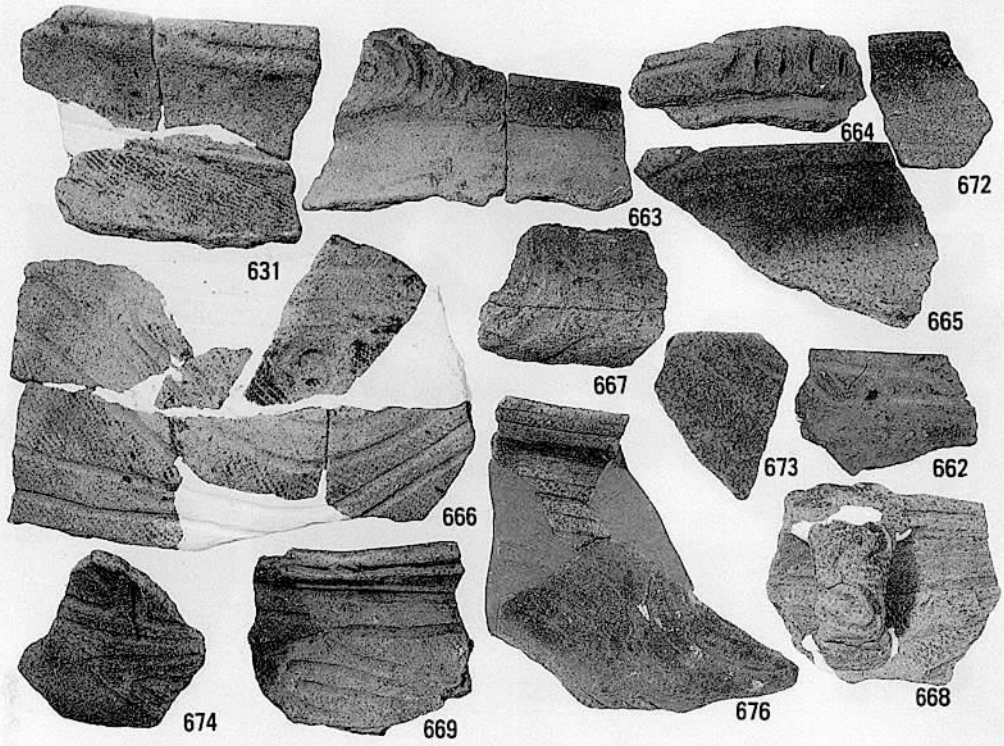
621 (3号)

2

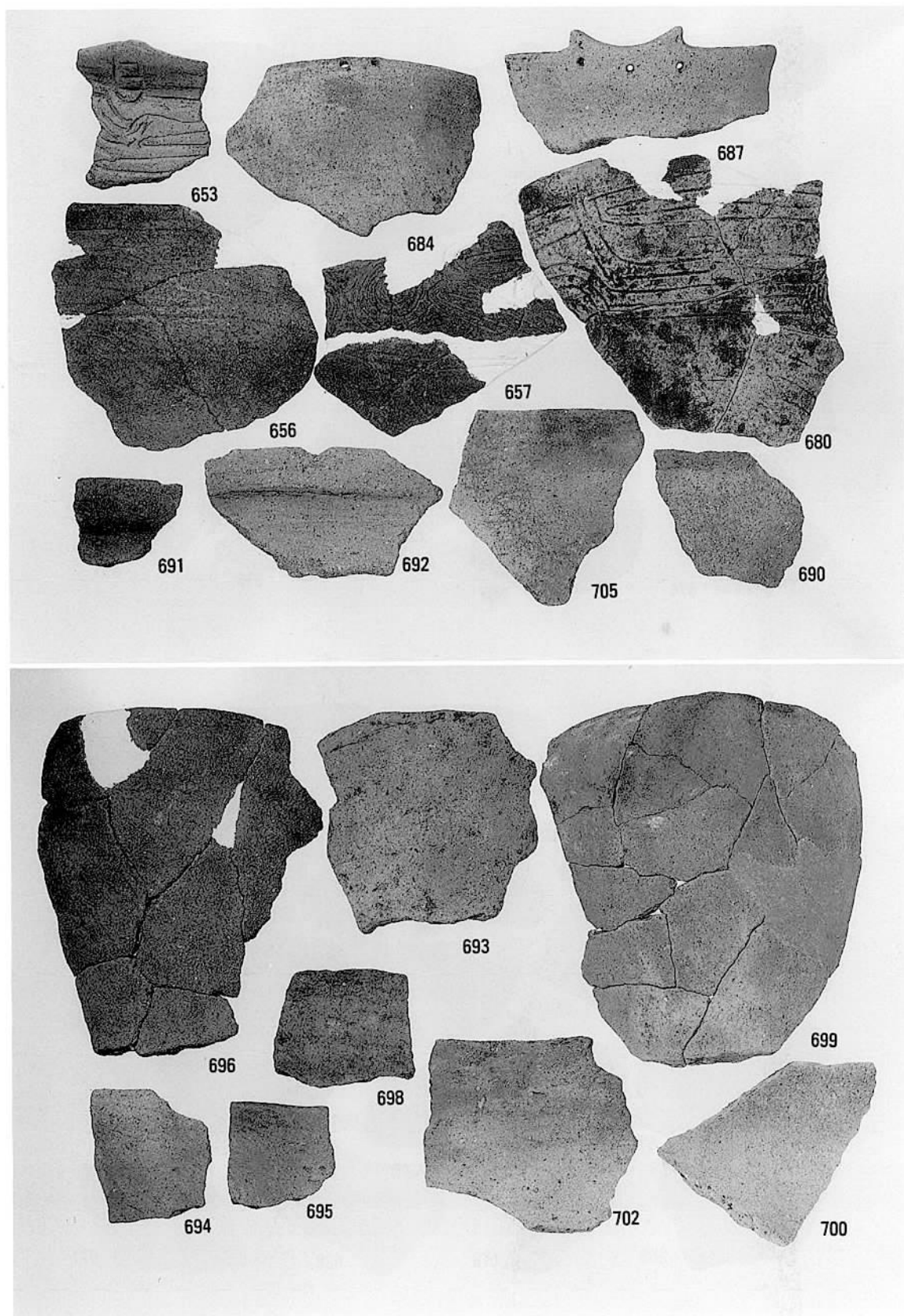
1 3号甕棺墓 2 1~3号甕棺使用土器



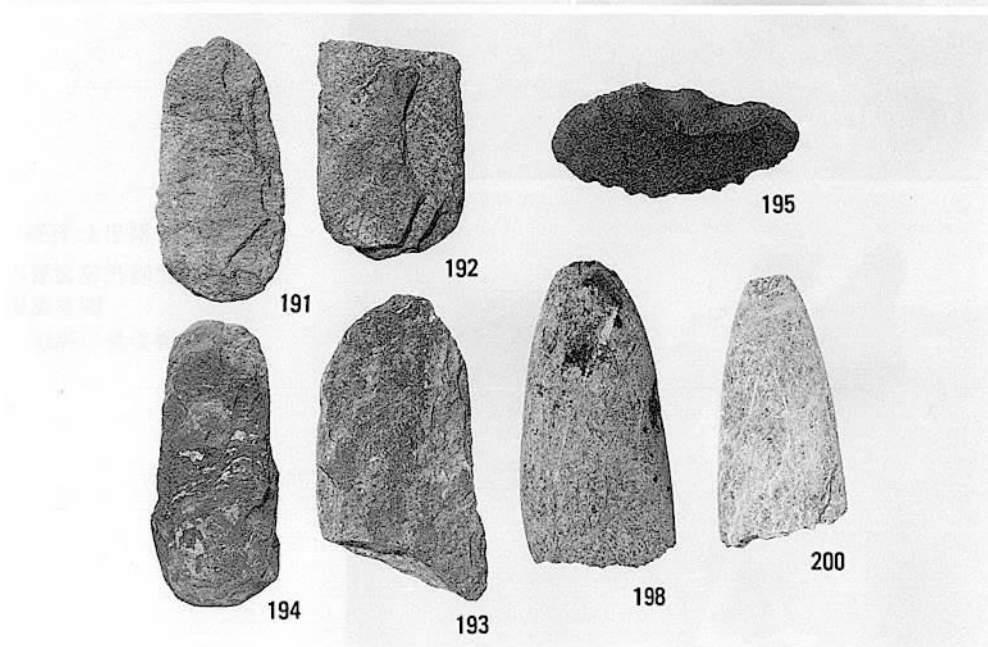
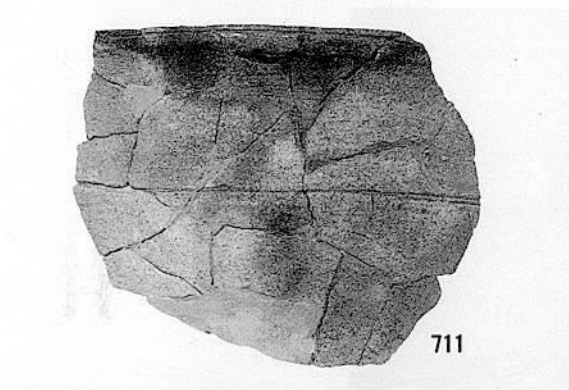
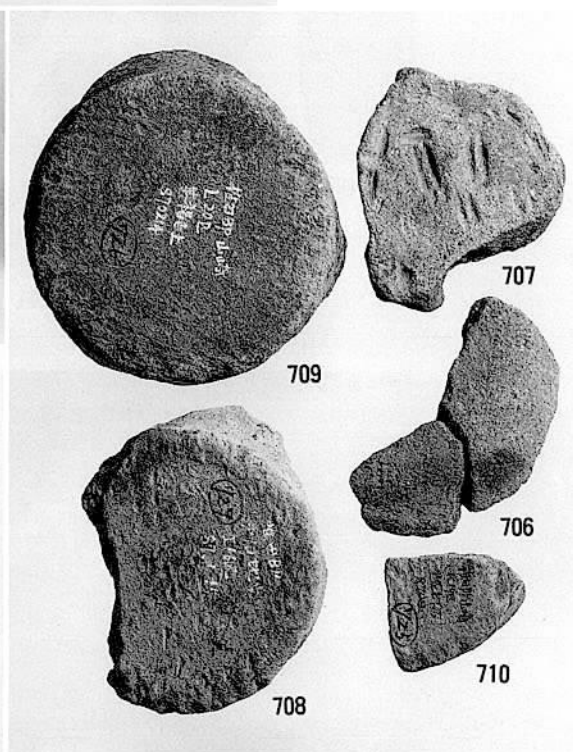
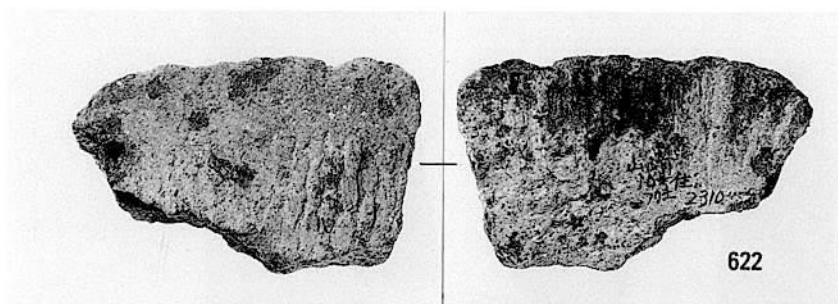
包含層出土土器 1

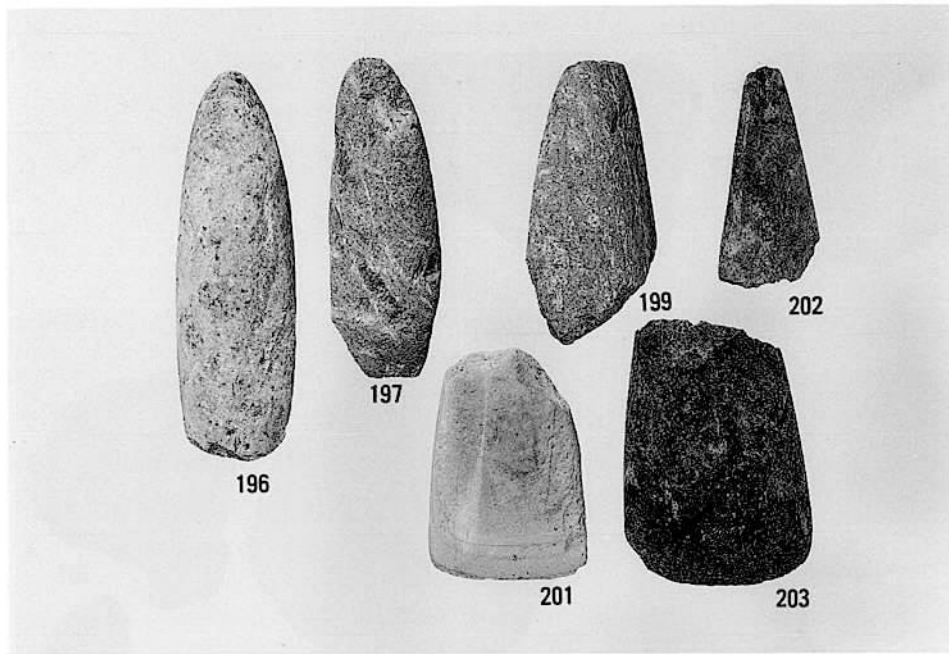


包含層出土土器 2



包含層出土土器 3





1



2

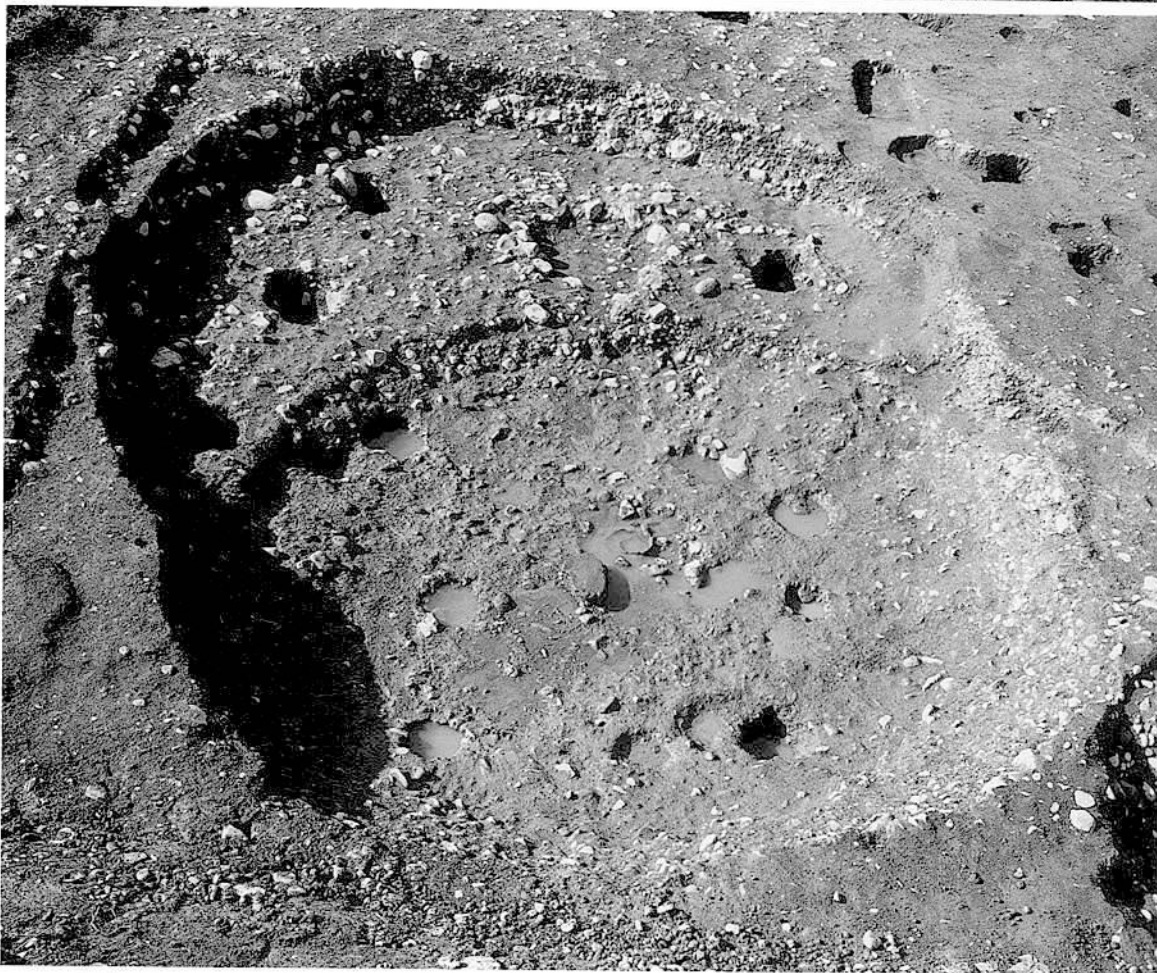


3

- 1 包含層出土石器
- 2 縄文時代包含層の調査風景
- 3 指導委員の視察



1



2

1 石町遺跡調査区全景(南西から) 2 石町1・2号住居跡(南東から)



1



2

1 石町1号住居跡土器炉(北西から)

2 石町3号住居跡(北東から)

1



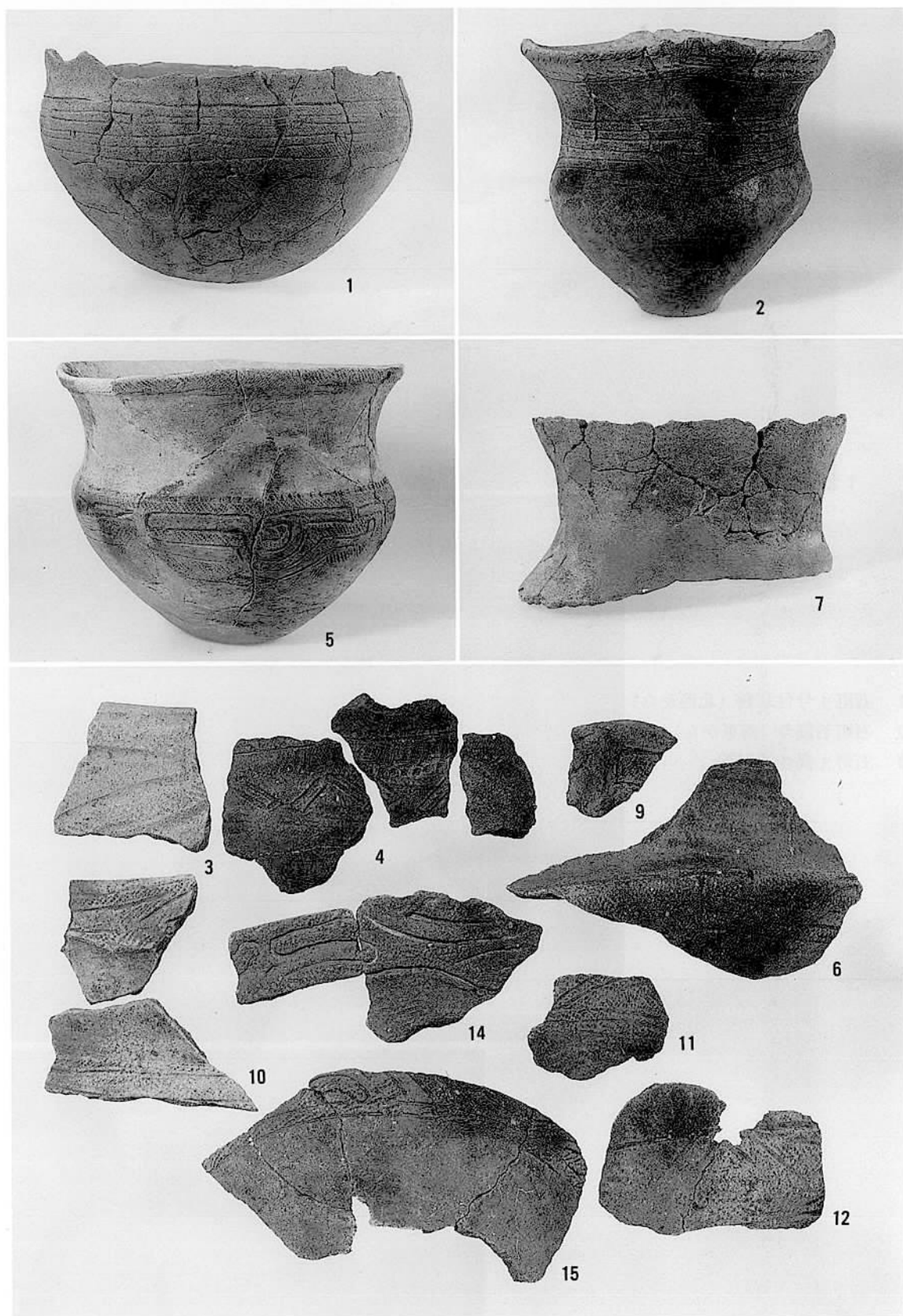
- 1 石町4号住居跡 (北西から)
- 2 石町石囲炉 (南東から)
- 3 石町土偶出土状況

2

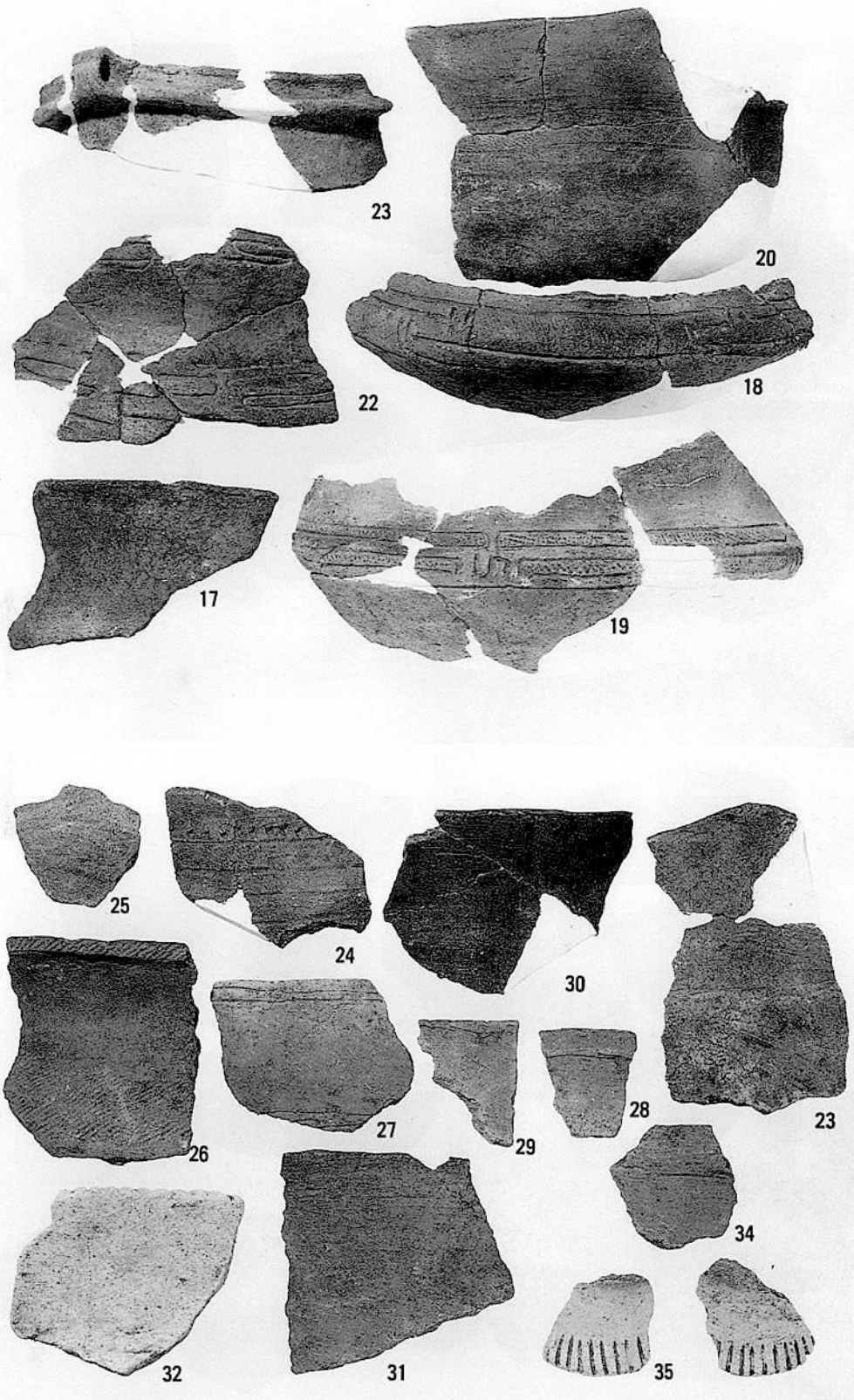


3

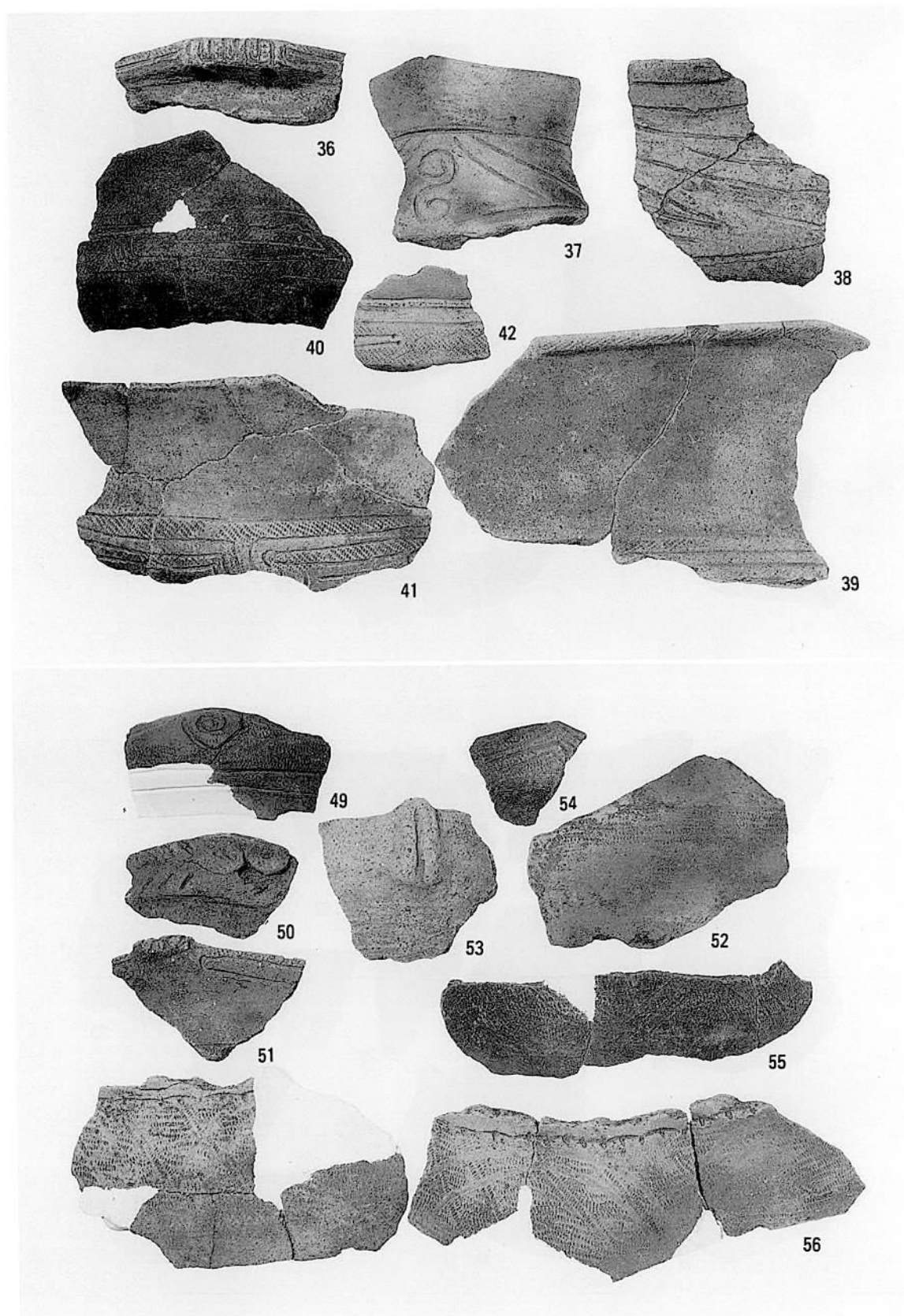




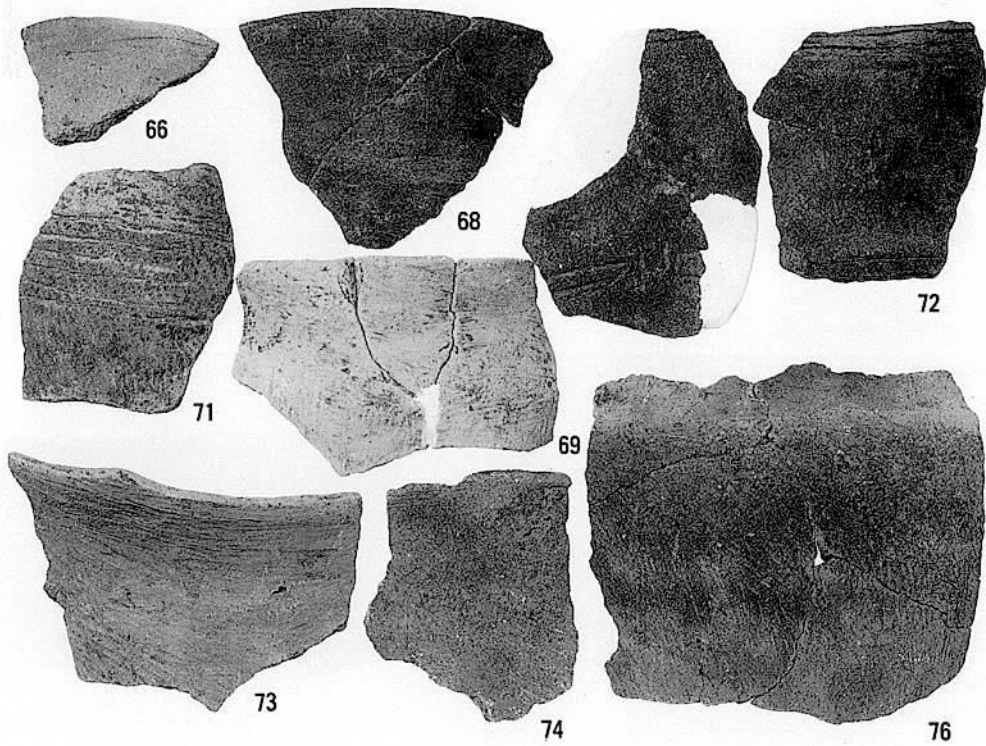
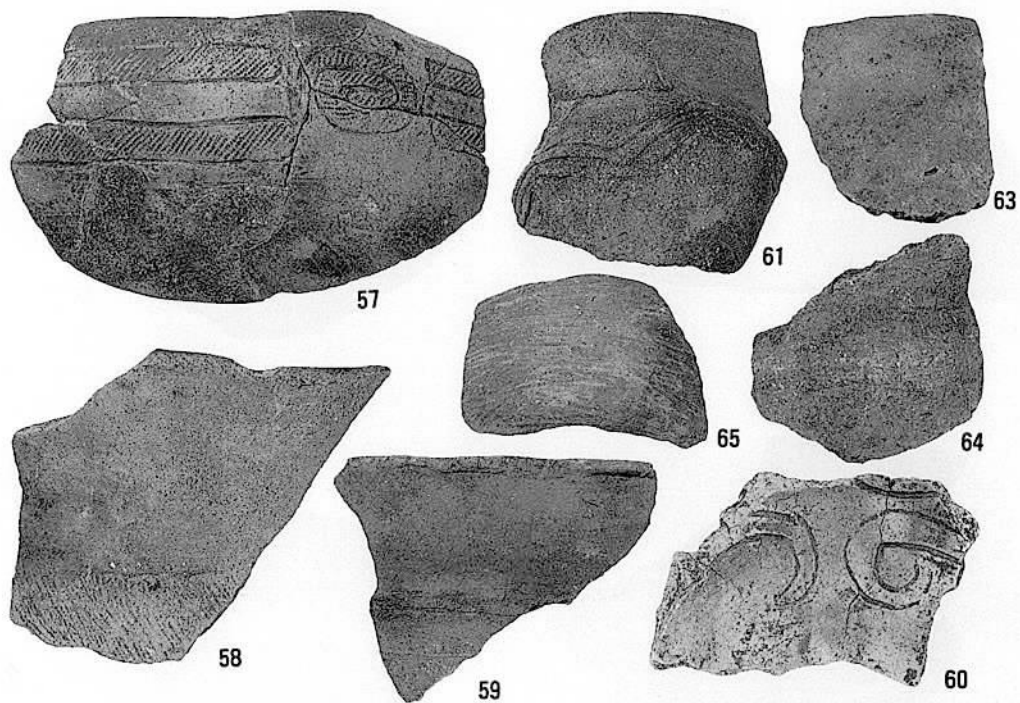
石町 1 号住居跡出土土器 1

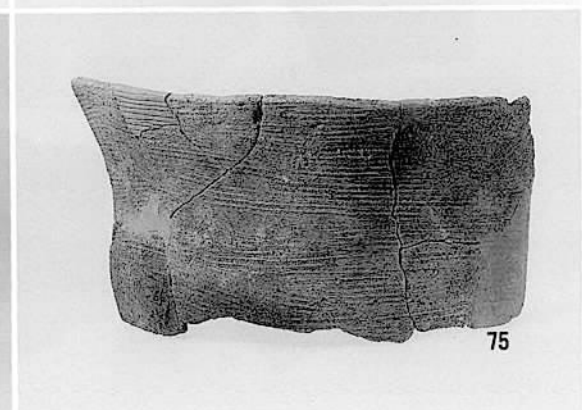
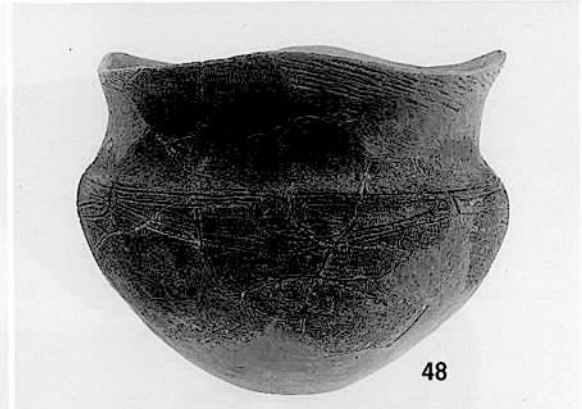
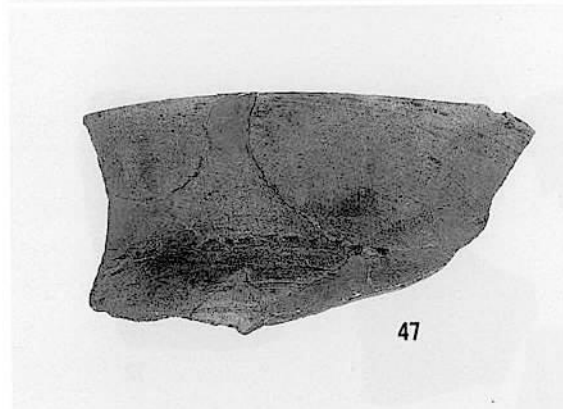
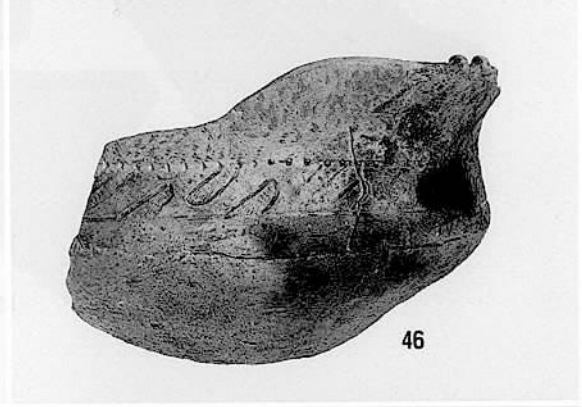
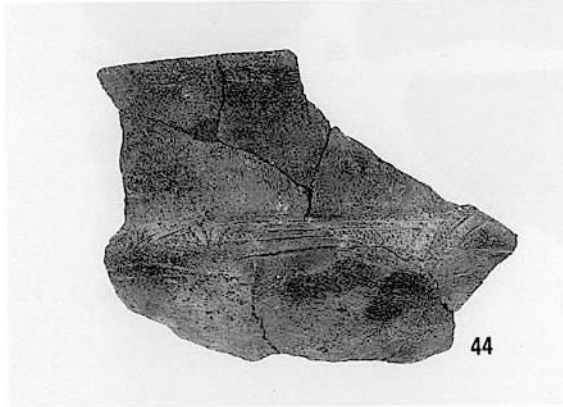


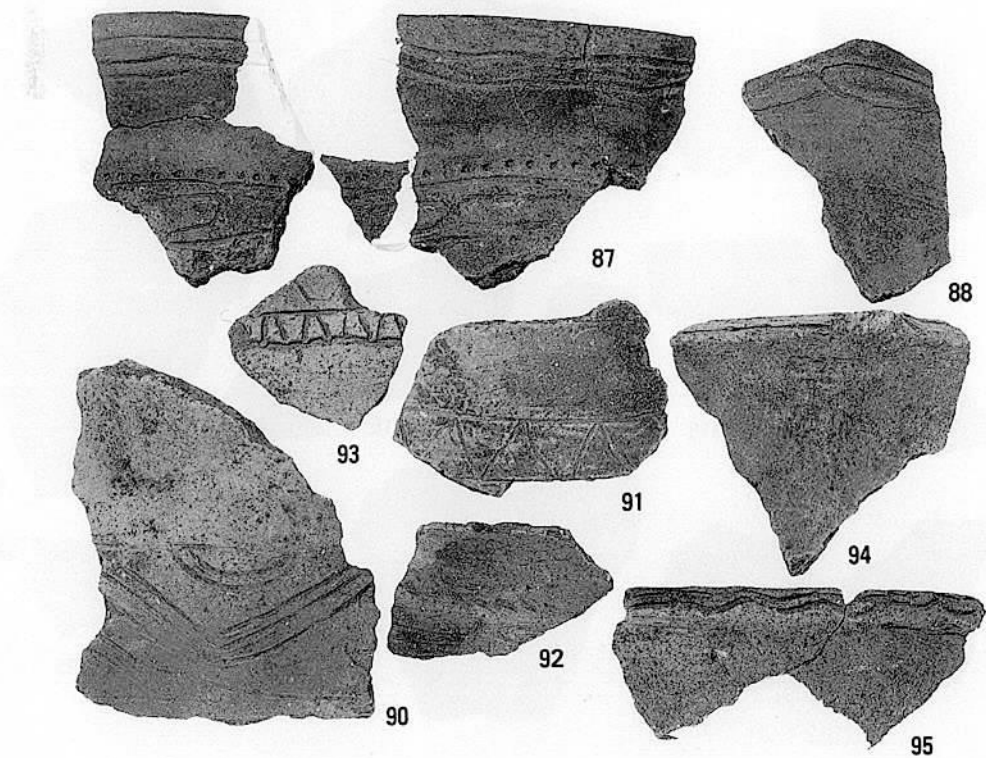
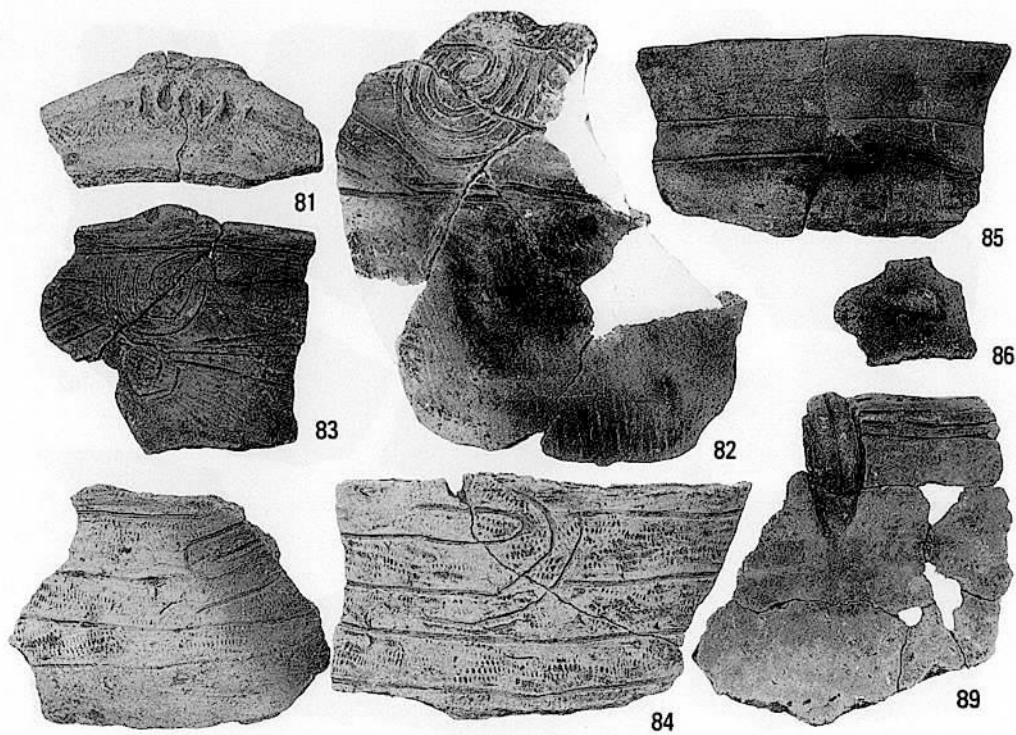
石町1号住居跡出土土器 2

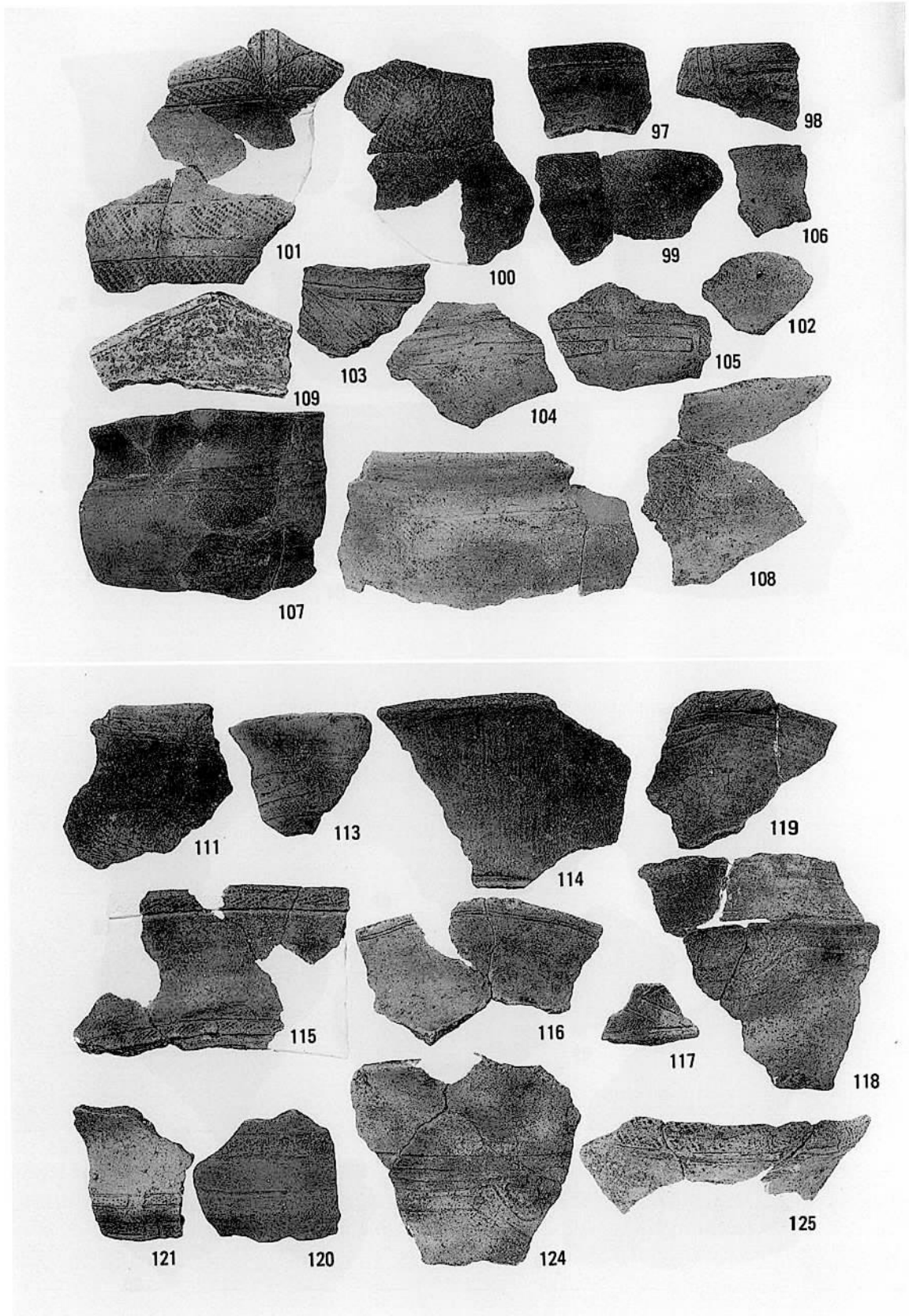


石町 2 号住居跡出土土器 1

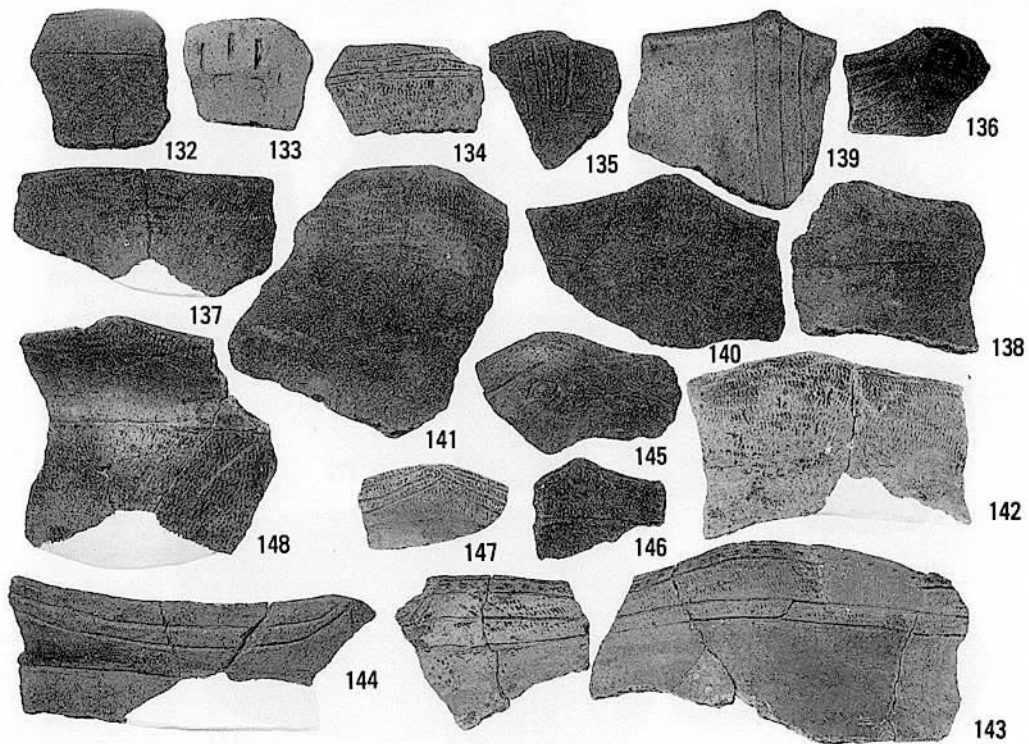
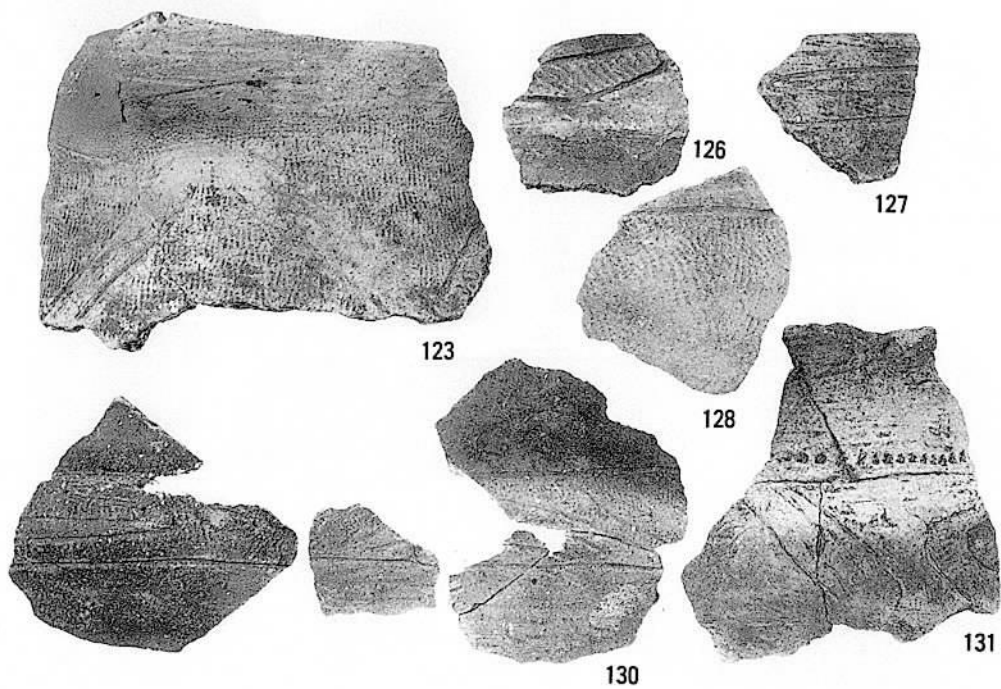




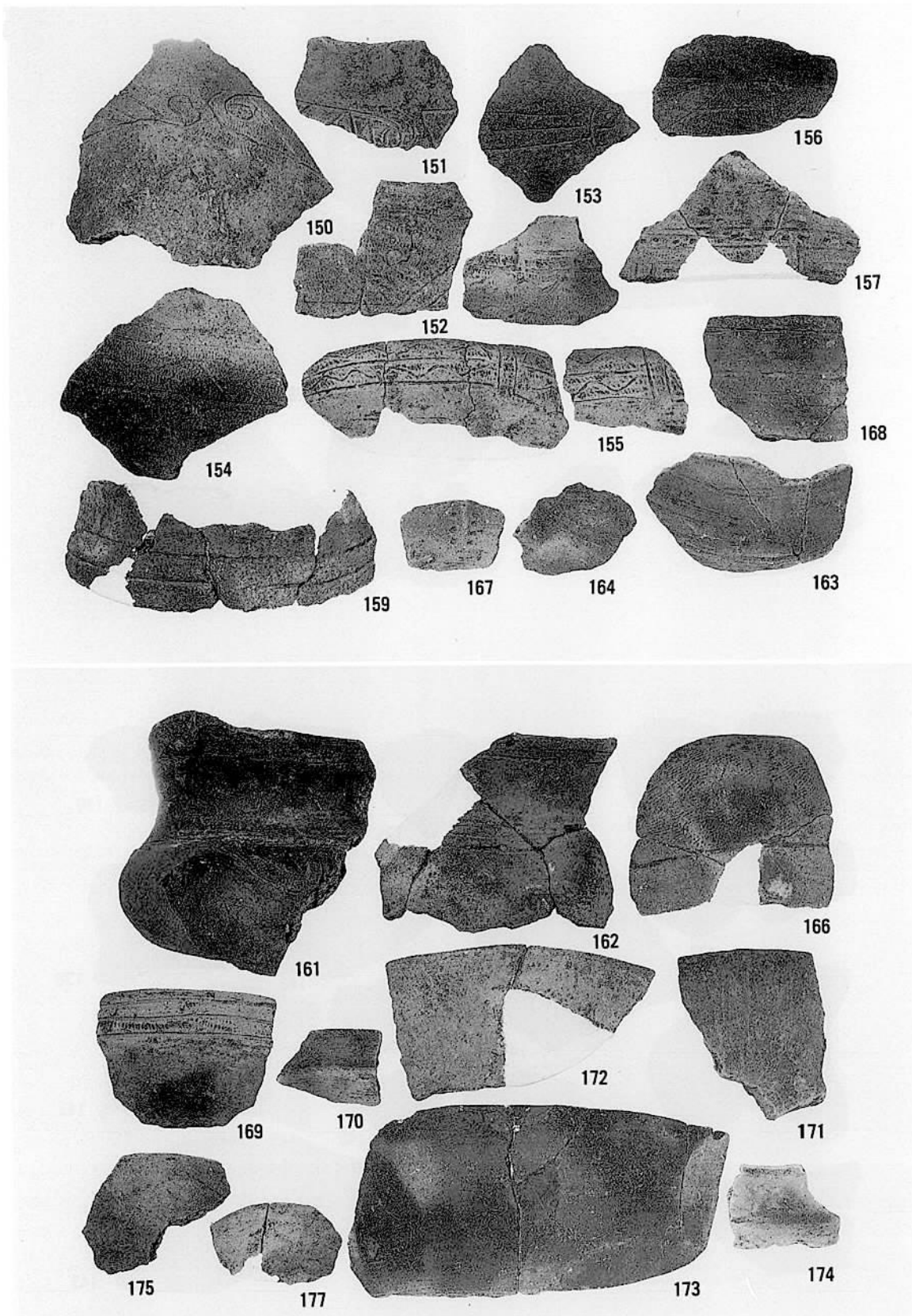




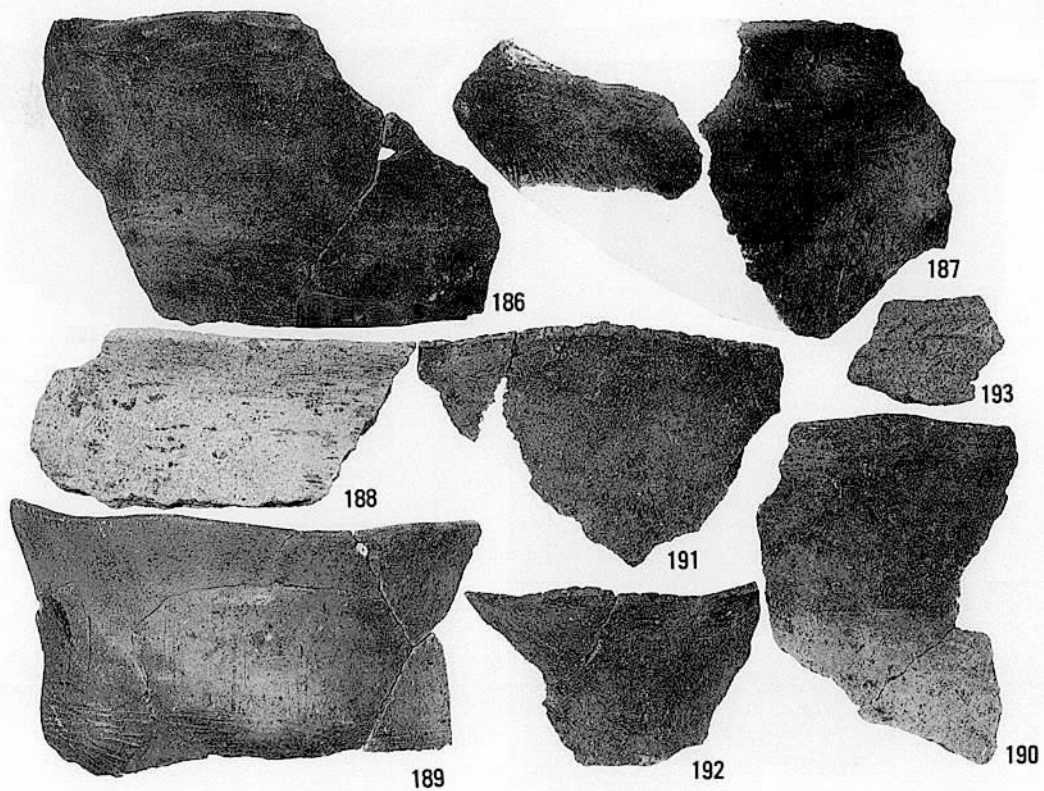
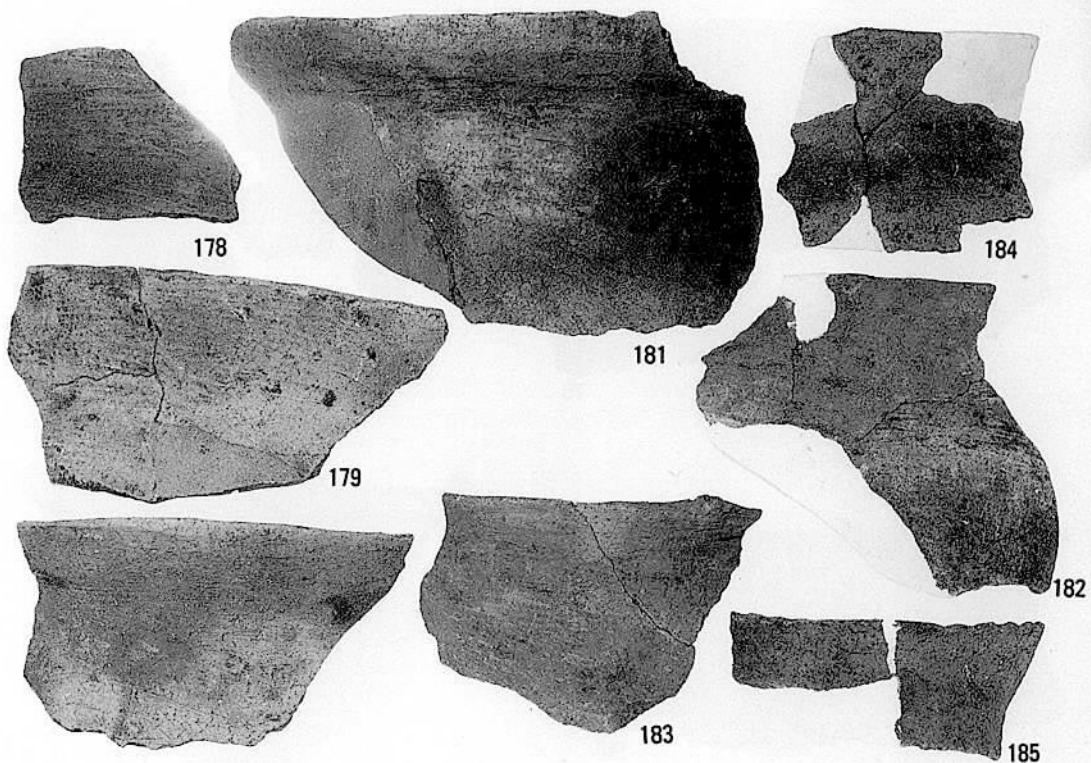
石町 2 号住居跡出土土器 5



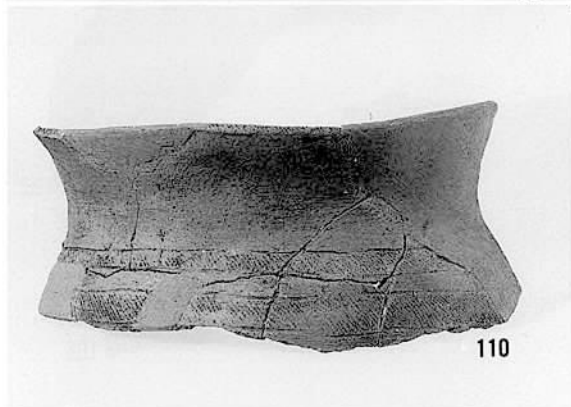
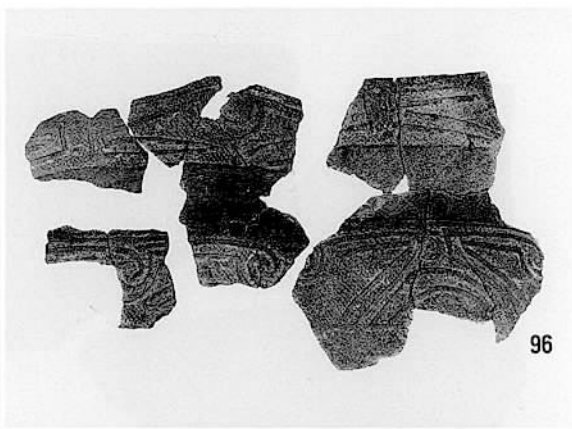
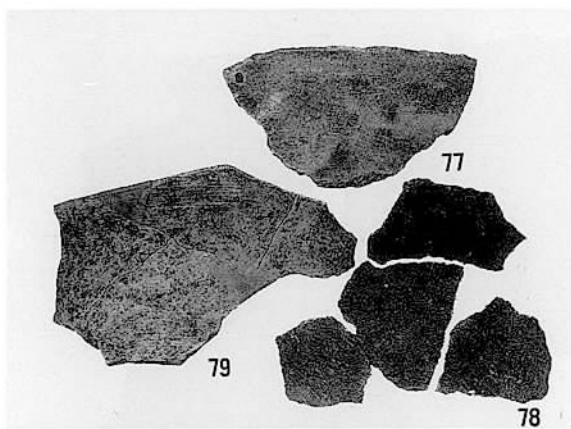
石町 2 号住居跡出土土器 6



石町 2 号住居跡出土土器 7



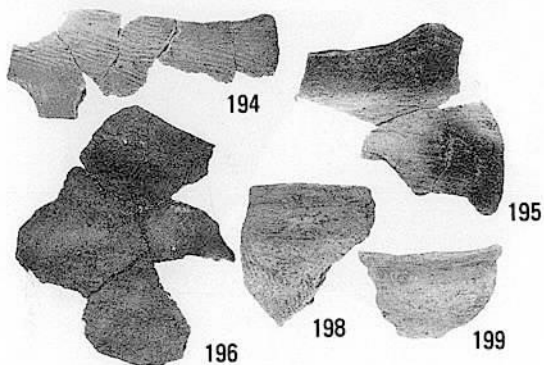
石町2号住居跡出土土器 8



石町 2 号住居跡出土土器 9



149



194

195

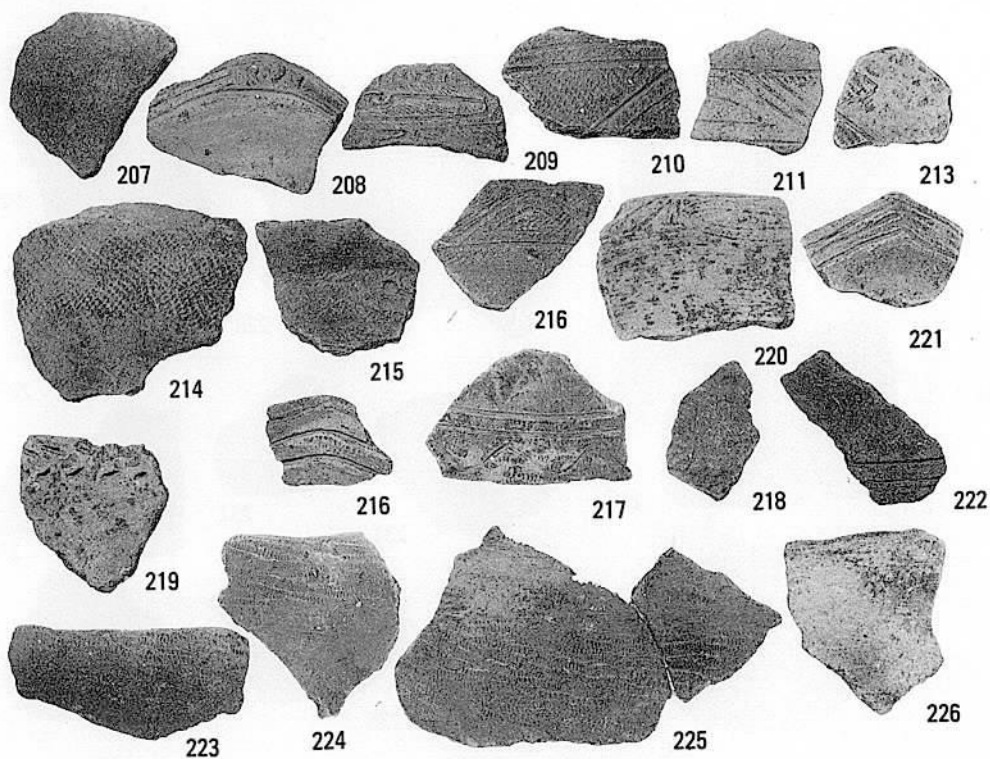
196

198

199



165



207

208

209

210

211

213



214



215



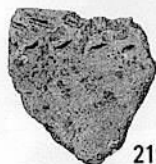
216



220



221



219



216



217



218



222



223



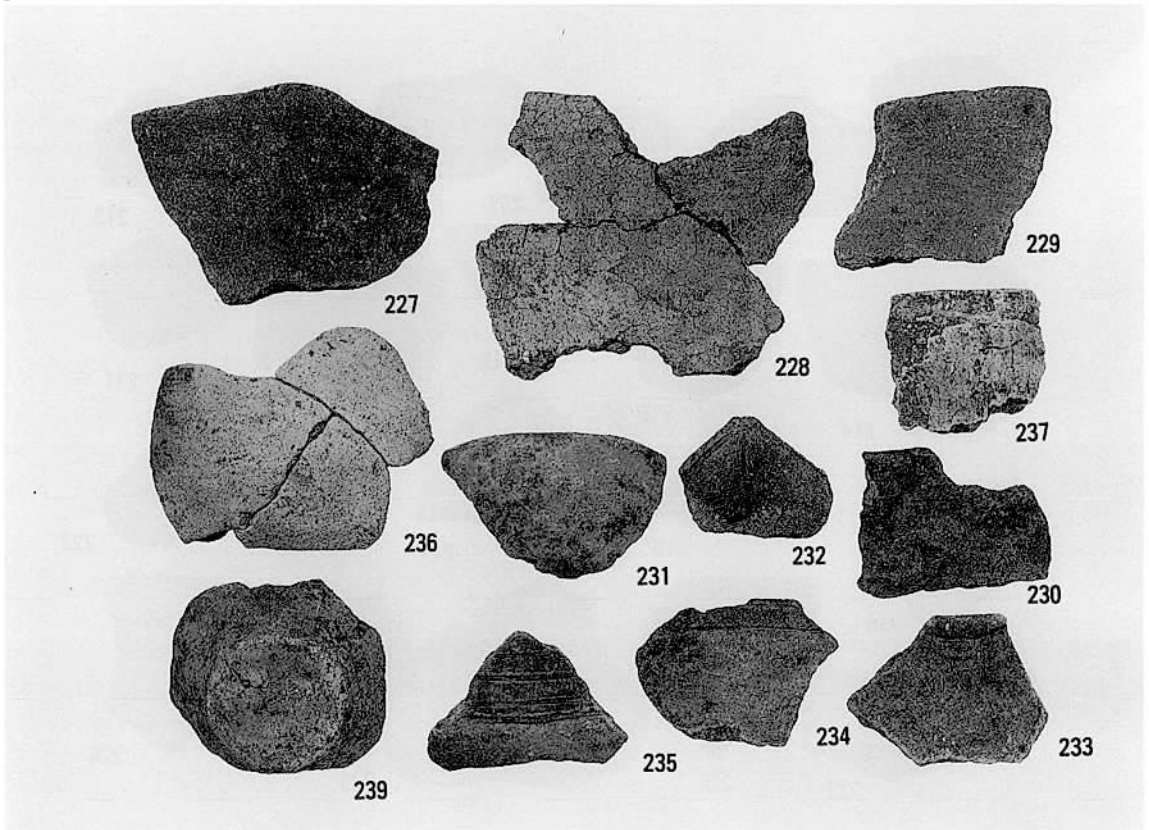
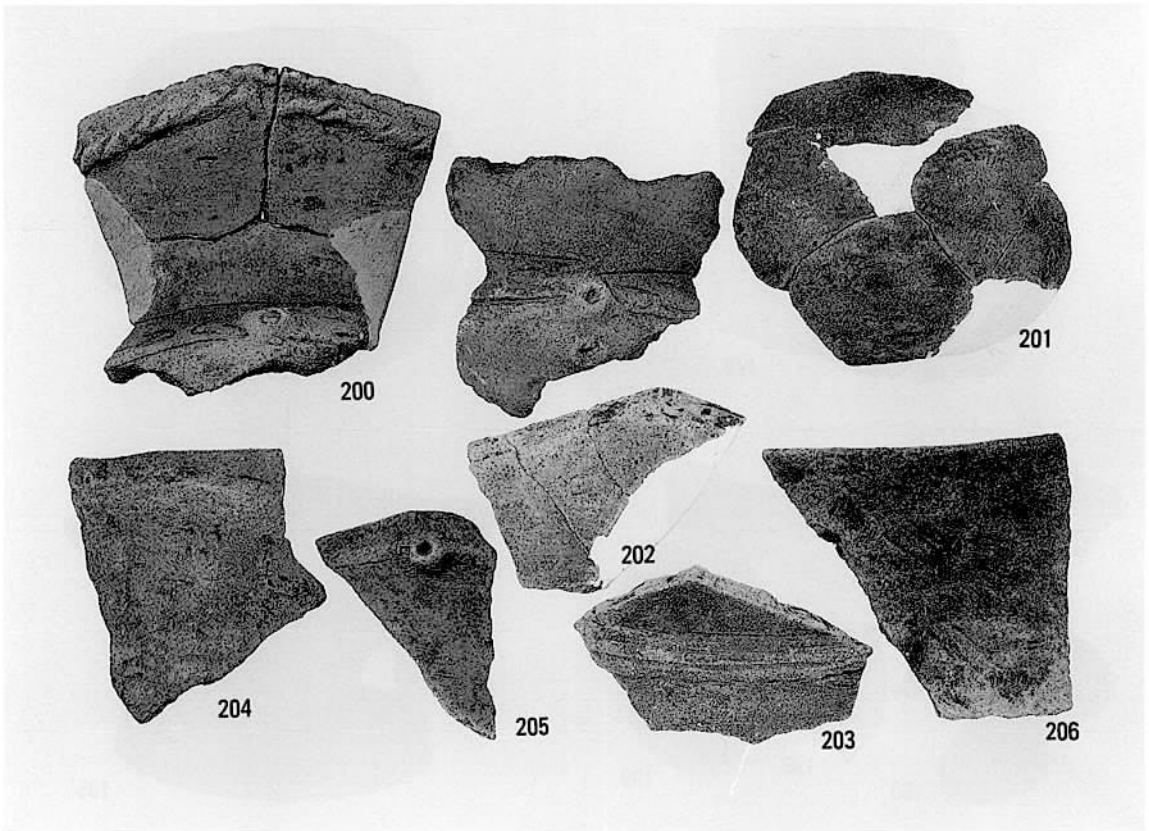
224



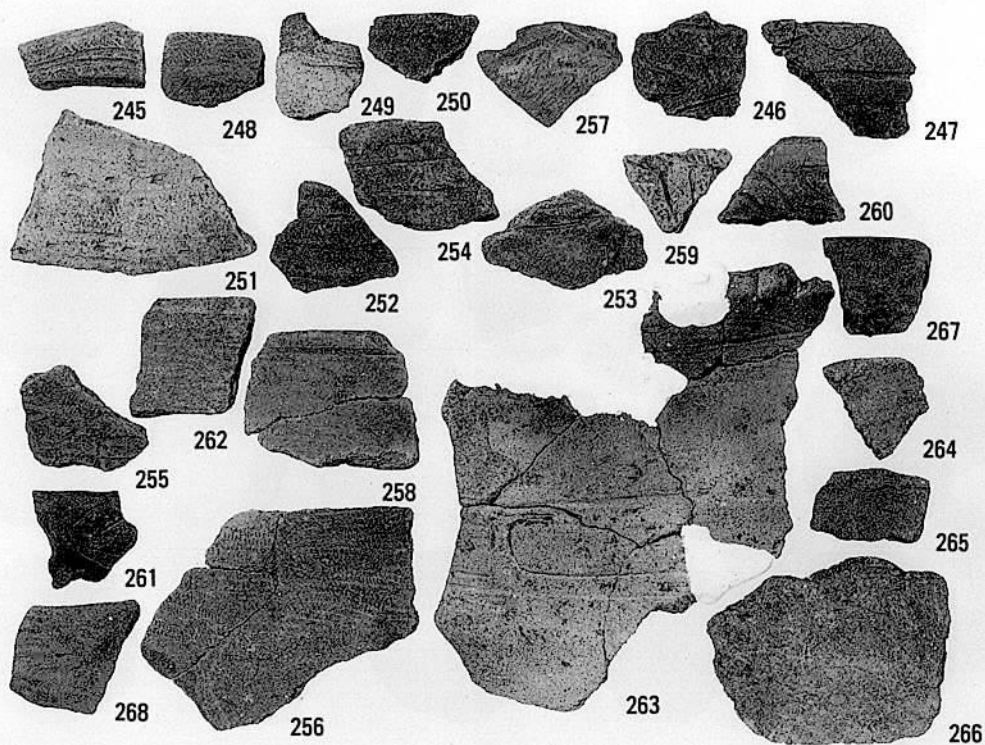
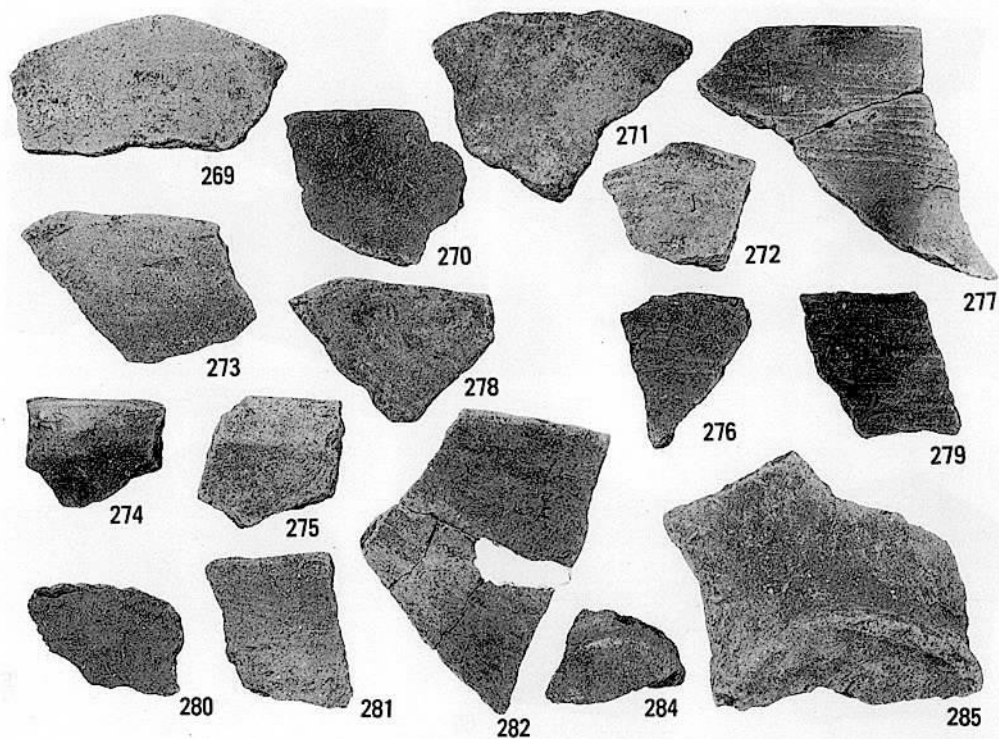
225



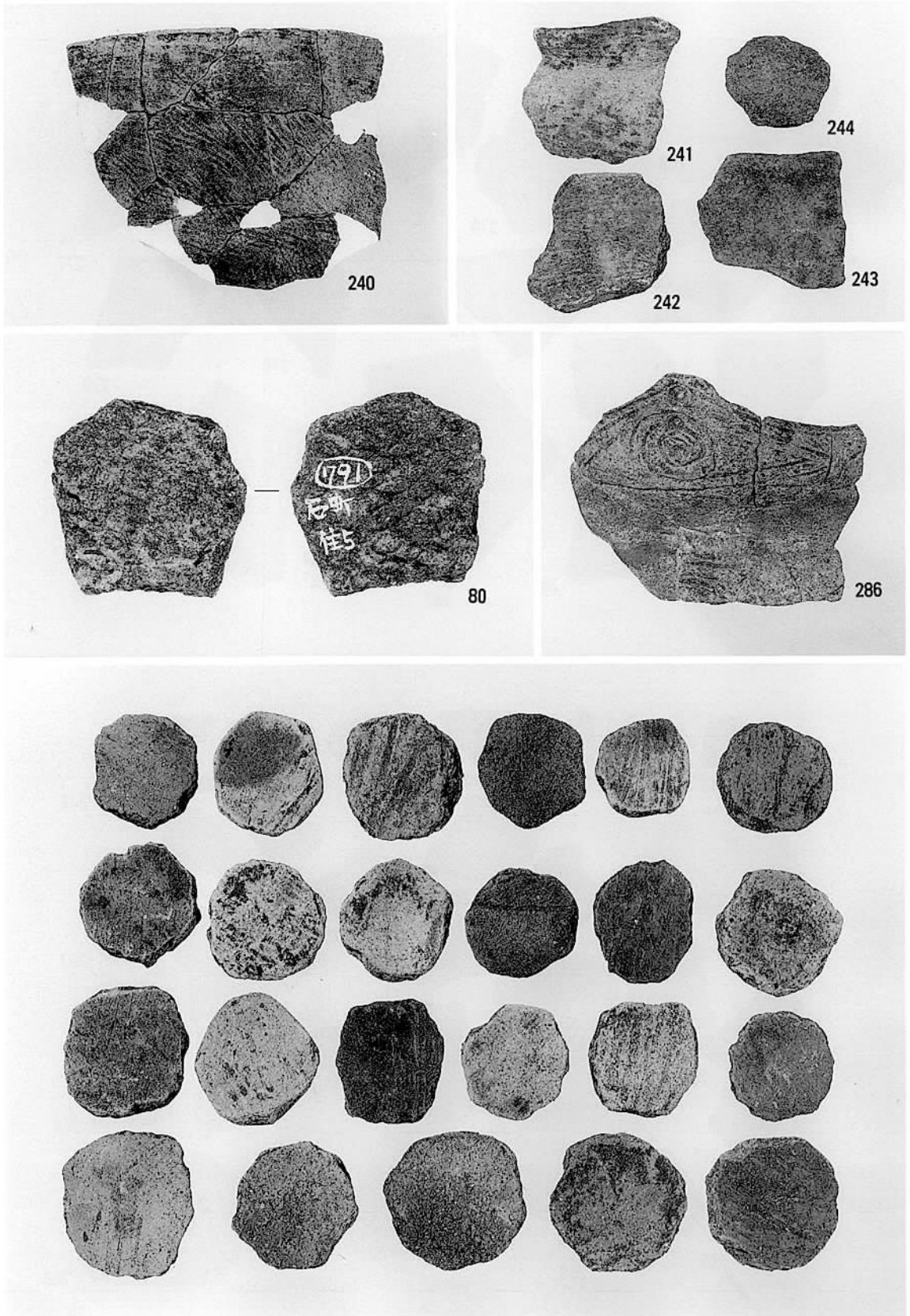
226



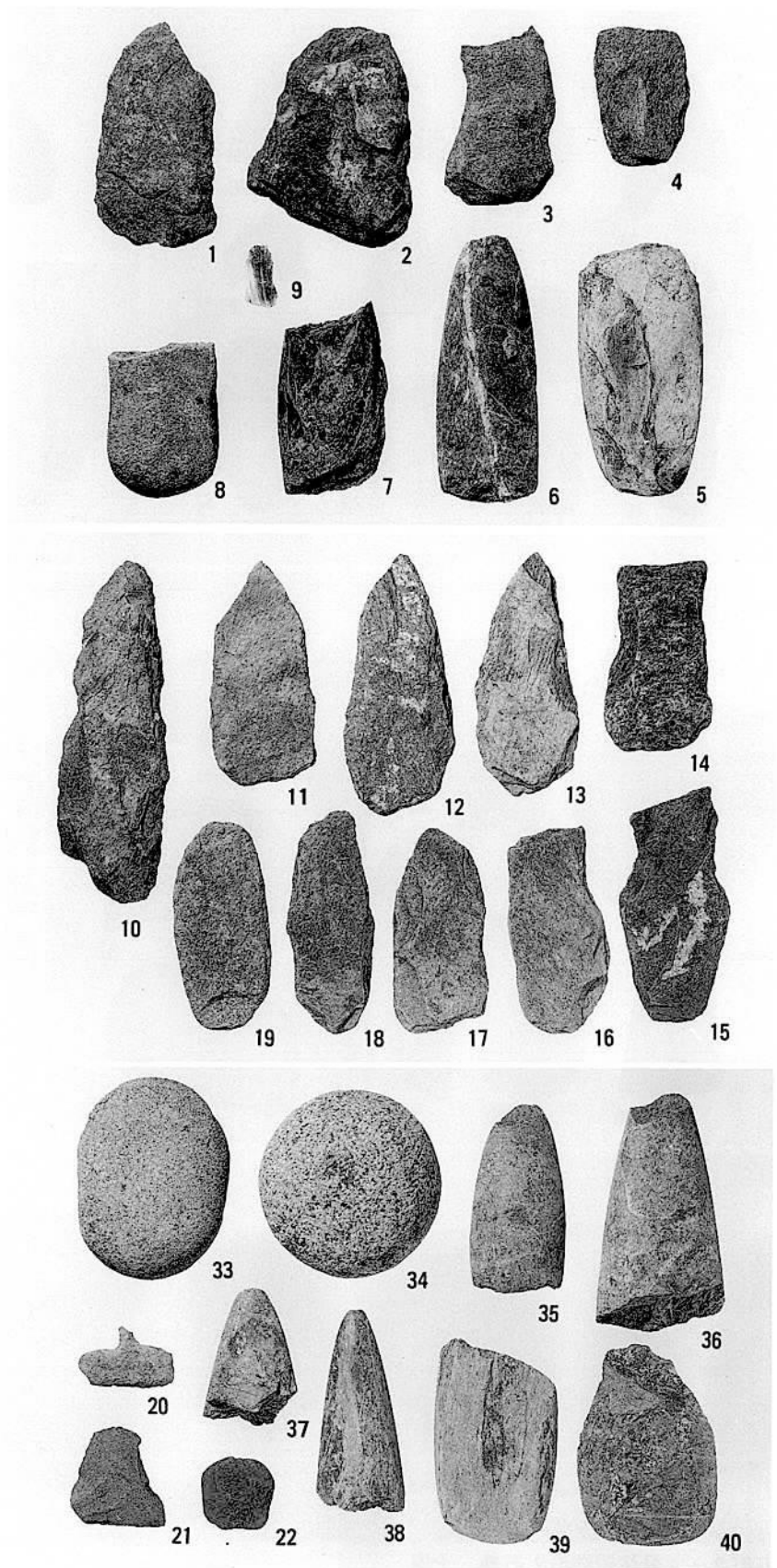
石町 2 号住居跡上層出土土器 2



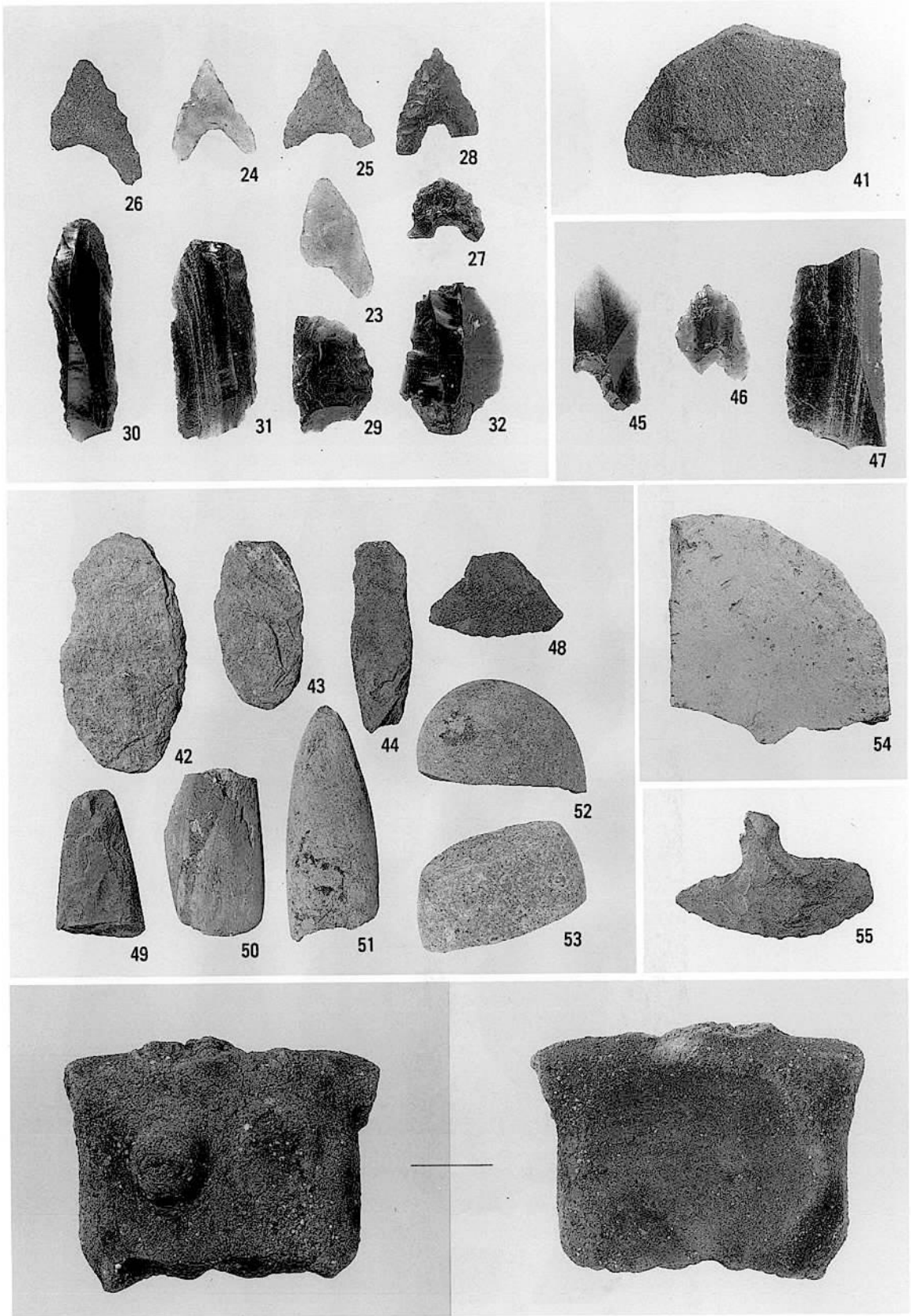
石町 4 号住居跡出土土器



石町2・3号住居跡出土土器，土製円板



石町1・2号住居跡出土石器



石町 2・4 号住居跡出土石器，土偶

福岡県行政資料	
分類番号 JH	所属コード 2 1 3 3 0 5 1
登録年度 H3	登録番号 7

椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告－7－
上巻

平成4年 3 月 31 日

発行 福岡県教育委員会

福岡市博多区東公園7番7号

印刷 株式会社西日本新聞印刷

福岡市中央区天神1丁目4番1号

椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告－7－ 正誤表

(上巻)	誤	正
P.25 17行	これを繫ように斜線・	これを繫ぐように斜線・
P.46 29行	やや硬盾で扁平な円礫	やや硬質で扁平な円礫
P.86 第79図	土製品実測図2 <u>(1/3)</u>	土製品実測図2 <u>(1/2)</u>
P.128 8行	～710は <u>もじり網圧痕</u> が	～710は <u>もじり編圧痕</u> が
(下巻)	誤	正
P.2 14行	中央部東寄りのZ8・Z9に	中央部東寄りのZ8・Z9区に
P.23 第205図	<u>土製品実測図 (1/2)</u>	<u>石製品実測図 (1/2)</u>
P.25 1行	ケズりされ <u>円い</u> 。	ケズりされ、 <u>丸い</u> 。
P.42 26行	<u>竜泉窯系青磁椀</u>	<u>龍泉窯系青磁椀</u>
P.43 11行	<u>竜泉窯系青磁椀</u>	<u>龍泉窯系青磁椀</u>
P.47 1行	<u>竜泉窯系青磁</u>	<u>龍泉窯系青磁</u>
P.53 1行	<u>竜泉窯系青磁椀</u>	<u>龍泉窯系青磁椀</u>
P.55 26行	<u>摩滅が進み</u>	<u>磨滅が進み</u>
P.63 30行	指圧痕 <u>かめだつもの</u> の	指圧痕 <u>がめだつもの</u> の
P.69 1行	あまり <u>検緻</u> な	あまり <u>堅緻</u> な
P.74 第1図	県道 <u>求菩提</u> ・椎田線	県道 <u>求菩提</u> ・椎田線
P.80 1行	多数の小さな <u>亀列</u> を	多数の小さな <u>亀裂</u> を
P.81 6行	短脚であること <u>意外</u> に	短脚であること <u>以外</u> に
P.82 14行	<u>ぶらしき焼けた粘土塊</u>	<u>部らしき焼けた粘土塊</u>

椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告-7 - 正誤表

(上巻)

誤

正

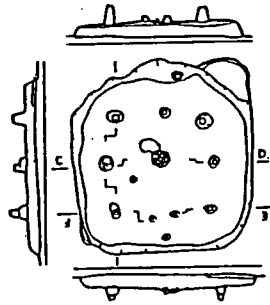
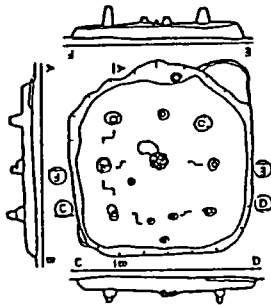
挿図目次 第 79 図 実測図 2 (1/3)

実測図 2 (1/2)

挿図目次 第 205 図 土製品実測図

石製品実測図

p. 87 第 81 図 7号住居跡実測図 (1/60)



(下巻)

挿図目次 第 79 図 実測図 2 (1/3)

実測図 2 (1/2)

挿図目次 第 205 図 土製品実測図

石製品実測

p. 45 3行 竜泉窯系青磁椀

龍泉窯系青磁椀